

設計施工資料集 2024

金属製外壁材・屋根材 標準施工編

専門業者様向け

センターサイディング
標準施工法

センターサイディング
基本納まり図

本体・付属部材
詳細図

付属部材加工図

センターサイディング
木造編

センターサイディング
鉄骨造 金属胴縁編

センターサイディング
鉄骨造 直張り編

センター化粧幕板
標準施工法

センタールーフ
標準施工法

センタールーフ
納まり詳細図

参考資料

はじめに

良質なストックとしての住宅を構成する金属製外壁材・屋根材が持つ性能や機能の向上に努めると共に、新築住宅・既存住宅の両者に対しても、施工方法などの見直しや簡素化、また施工品質の更なる向上を目指して、今回「NICHHA 設計施工資料集 金属製外壁材・屋根材 標準施工編」の改訂を行いました。

本資料集で紹介する標準施工法が、センターサイディングおよびセンタールーフを施工される皆様に少しでもお役に立ちたいと願い、作成しました。

なお、本資料集に記載する「納まり詳細図」などは、あくまで基本的な施工一例を示したものです。(最新の知見や検証結果に基づき、予告なく資料集の記載内容が変更となる場合があります。)また、防耐火大臣認定が必要となる場合は、あらかじめ大臣認定別添の記載事項をご確認ください。本資料集に記載されている基本事項をご理解いただき、実際の現場に即した、安全で確実な施工を行っていただきますよう、お願い申し上げます。

記載事項のご不明な点につきましては、弊社営業所またはお客さま相談室までお問合せください。

設計施工資料集はニチハ株式会社ホームページで随時更新しております。

ニチハ 設計施工資料集



防耐火認定番号または材料認定番号につきましては、最新のニチハ金属製外壁材・屋根材総合カタログまたはニチハ株式会社ホームページでご確認ください。

ニチハ 総合カタログ



目次

改訂のポイント	3
危害や損害の表示区分	3
用語について	3

1 センターサイディング標準施工法

1-1 標準施工法の目的	5
1-2 センターサイディングの使用範囲	5
1-3 標準施工法の条件	5
1-4 耐風圧性能	6
1-5 耐風圧性能 補強工法	7~8
1-6 設計施工上の主な禁止事項	9~11
1-7 センターサイディング施工上の注意事項	11~13
1-8 センターサイディング施工時の安全配慮	14~15
1-9 センターサイディングの施工用工具例	16
1-10 標準施工手順	17
1-11 外壁通気構法	18~20
1-12 雨漏りが発生しやすい部位	20
1-13 防水紙張り	21~29
1-14 胴縁下地組み	30~33
1-15 胴縁下地組み(鉄骨下地組み)	34
1-16 センターサイディング・付属部材の 留付方法	35
1-17 シーリング工事の手順とポイント	36
1-18 補修塗装	37
1-19 施工完了後の注意事項	37
1-20 保管・取り扱い・運搬上の注意事項	38

2 センターサイディング標準施工法

<各部の基本納まり図>

2-1 土台部	40~41
2-2 上下接合部	42~43
2-3 左右接合部	43~45
2-4 入隅部	46~47
2-5 出隅部	48~50
2-6 開口部	50~74
2-7 オーバーハング部	75
2-8 軒天部	76
2-9 軒天部(軒・けらばの出寸法がない場合)	77~79
2-10 笠木部	80~82
2-11 下屋根部	83~84
2-12 センターサイディングと モエンスाइディングの張り分け	85~90

3 本体・付属部材詳細図

3-1 センターサイディングの詳細図	92
3-2 付属部材一覧表	93~98

4 付属部材加工図

4-1 鋼板製付属部材の接合および加工方法	100
4-2 通気土台水切(防鼠あり)の加工方法	101
4-3 通気土台水切(防鼠なし)の加工方法	102
4-4 水切(水切34、中間水切18)の加工方法	103
4-5 先付け付属部材の接合方法	104
4-6 端部カバー、見切縁の加工方法	105

5 センターサイディング標準施工法

<納まり図 木造編>

5-1 納まり詳細図:木造軸組下地 NS型 横張り	109~120
5-2 納まり詳細図:木造軸組下地 NS型 縦張り	122~135
5-3 納まり図:木造軸組下地 その他の型 横張り	137~140
5-4 納まり図:木造軸組下地 その他の型 縦張り	142~145

6 センターサイディング標準施工法

<納まり図 鉄骨造 金属胴縁編>

6-1 施工手順	147~149
6-2 納まり詳細図:鉄骨下地横組 金属胴縁縦組 サイディング横張り	151~159
6-3 納まり詳細図:鉄骨下地縦組 金属胴縁縦組 サイディング横張り	161~169
6-4 納まり詳細図:鉄骨下地横組 金属胴縁横組 サイディング縦張り	171~181
6-5 納まり詳細図:鉄骨下地縦組 金属胴縁横組 サイディング縦張り	183~193

7 センターサイディング標準施工法 ＜納まり図 鉄骨造 直張り編＞

7- 1 納まり図:鉄骨下地 NS型 横張り	196
7- 2 納まり図:鉄骨下地 NS型 縦張り	197
7- 3 納まり図:鉄骨下地 M型 横張り	198
7- 4 納まり図:鉄骨下地 M型 縦張り	199
7- 5 納まり図:鉄骨下地 FN型 横張り	200
7- 6 納まり図:鉄骨下地 FN型 縦張り	201

8 センター化粧幕板 標準施工法

8- 1 製品一覧	203
8- 2 施工を始める前のポイント	204
8- 3 施工上の注意事項	204～205
8- 4 施工手順	205
8- 5 施工のポイント	206～208

9 センタールーフ標準施工法

9- 1 安全にご使用いただくために	210
9- 2 運搬・保管時の注意事項	210
9- 3 設計施工基準	211
9- 4 本体施工時の注意事項	211
9- 5 下地の確認	211
9- 6 施工手順	212
9- 7 補修塗装	212
9- 8 下葺材の施工(一般施工仕様)	213
9- 9 下葺材の施工(防水強化仕様)	214
9-10 本体・付属部材の留め付け	215
9-11 雪止め金具の設置について	216
9-12 施工後の注意事項	217
9-13 太陽光発電パネル設置をご検討の お客様へ	217

10 センタールーフ標準施工法＜納まり詳細図＞

10- 1 納まり詳細図: センタールーフ共通事項	220～236
10- 2 納まり詳細図:横暖ルーフα	238～255
10- 3 納まり詳細図:横暖ルーフ	257～273

11 参考資料

11- 1 施工を始める前に	275～277
11- 2 工事記録のまとめ方	278
11- 3 「建築基準法」の防耐火性能に関わる 規定	279～284
11- 4 「住宅品質確保の促進等に関する法律」 の概要	285～286
11- 5 「特定住宅瑕疵担保責任の履行の 確保等に関する法律」の概要	287～289
11- 6 センターサイディングの補修方法	290

防耐火認定番号または材料認定番号につきましては、
最新のニチハ金属製外壁材・屋根材総合
カタログまたはニチハ株式会社ホームページ
でご確認ください。

ニチハ 総合カタログ



2024設計施工資料集 金属製外壁材・屋根材 標準施工編 改訂のポイント

本設計施工資料集は、センターサイディング、センタールーフ全般における施工法について掲載し、2021・2023設計施工資料集発行後に発売された商品および変更となった施工法を中心に改訂しております。

改訂のポイント

1) 納まり詳細図について

●センターサイディング

- ・禁止事項から「内付けサッシへの使用」を削除、「曲面施工」の追加。
- ・開口部周囲の納まりに鉄骨造直張り廻り縁納めを追加。
- ・商品のラインナップにあわせて耐風圧性能を追加・削除。
- ・商品のラインナップにあわせて納まり図を追加(M型)、削除(CS型・N型)。
- ・タテ用スターターを追加。
- ・NS型段付バッカー材、NS段目地の形状を変更。
- ・下屋根部の隙間を10～15mmに変更。

●センタールーフ

- ・部材の留め付けに樹脂栈木を追加。
- ・片流れ用棟包み、片流れ用換気棟を追加。
- ・棟巴210から棟巴210Lへ形状を変更。
- ・共板の幅を追加。
- ・太陽光パネルのメーカー追加。
- ・谷樋に上下識別マークの追加。

2) その他

- ・防耐火構造認定仕様構成概要図を削除。

危害や損害の表示区分

表示内容に従わなかった場合に生じる危害や損害を次の表示で区分しています。
商品のお取り扱いの際は十分にご留意ください。



警告 警告: 取り扱いを誤った場合に、死亡または重傷、傷害を負う可能性が想定される場合の表示です。



注意 注意: 取り扱いを誤った場合に、物的損傷の発生が想定される場合の表示です。



禁止 禁止: 行ってはいけない禁止内容の表示です。

用語について

本設計施工資料集では、製品を下記のように定義して使用しています。

弊社品番設定のある釘・ビス	→	専用釘・専用ビス
現場で調達していただく釘・ビス	→	留付釘・留付ビス

※表記に関するお断り

●「ビス」・「ねじ」の表記について

本設計施工資料集上では、「ビス」と「ねじ」は同義語です。「ビス」＝「ねじ」「ビス留め」＝「ねじ留め」
JIS(日本産業規格)上は「ねじ」が正式名称です。「ビス」は「ねじ」の一般名称として広まっている言葉で、建築業界では主に「ビス」と呼ばれています。本設計施工資料集では、商品名をそのまま掲載しているため「ビス」と「ねじ」が混在しております。文章では「ビス留め」と表現しておりますのであらかじめご了承ください。

●「透湿防水シート」の表記について

本設計施工資料集では、透湿性能のある透湿防水シートを「防水紙」と表現しております。

●寸法値について

本設計施工資料集で記載している寸法値は、公称値です。また、記載のない単位は「mm(ミリメートル)」です。

1 センターサイディング標準施工法

1- 1	標準施工法の目的
1- 2	センターサイディングの使用範囲
1- 3	標準施工法の条件
1- 4	耐風圧性能
1- 5	耐風圧性能 補強工法
1- 6	設計施工上の主な禁止事項
1- 7	センターサイディング施工上の注意事項
1- 8	センターサイディング施工時の安全配慮
1- 9	センターサイディングの施工用工具例
1-10	標準施工手順
1-11	外壁通気構法
1-12	雨漏りが発生しやすい部位
1-13	防水紙張り
1-14	胴縁下地組み
1-15	胴縁下地組み(鉄骨下地組み)
1-16	センターサイディング・付属部材の留付方法
1-17	シーリング工事の手順とポイント
1-18	補修塗装
1-19	施工完了後の注意事項
1-20	保管・取り扱い・運搬上の注意事項

1 センターサイディング標準施工法

1-1 標準施工法の目的

設計施工資料集(本書)に基づくセンターサイディング標準施工法には、次の目的があります。

- ①センターサイディングの性能を末永く維持させる
- ②外壁に求められる機能を発揮させる
- ③住宅性能表示などによる諸性能の達成
- ④品質保証の必要条件
- ⑤注意事項・禁止事項の周知



※センターサイディング標準施工法は、建築関連法規に適合する建築物の外壁にセンターサイディングを施工する場合に適用されますが、特定の住宅会社様や工事店様などと別途定めた施工仕様(施工マニュアルなど)につきましては、ここに定める限りではありません。

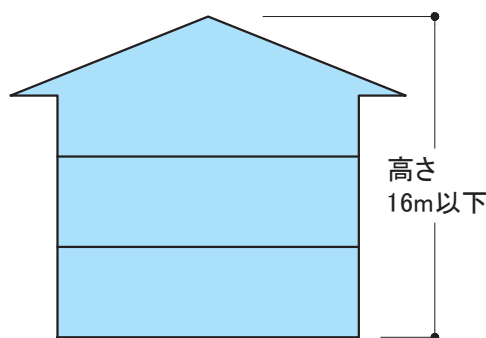
※国土交通大臣認定の防耐火構造とする場合は、各認定書別添の内容もご確認ください。

※最新の建築基準法、建築基準法施行令、告示をご確認ください。

1-2 センターサイディングの使用範囲

センターサイディングの外壁としての使用可能範囲は、原則として高さ16m以下です。

ただし、センターサイディングの耐風圧性能についてはP6~8で安全性をご確認ください。



1-3 標準施工法の条件

センターサイディング標準施工法は次の条件を遵守してください。

- センターサイディングを木造に施工する場合は、胴縁を使用する外壁通気構法で施工します。
- センターサイディングならびに防水紙・防水テープによる二重防水構造とします。
- P9~11に定める設計施工上の主な禁止事項を遵守してください。
- 各部基本納まり例については、P39~90を参照してください。
- センターサイディング標準施工法は、原則としてニチハ純正付属部材を使用してください。

1 センターサイディング標準施工法

1-4 耐風圧性能

センターサイディングを木下地、鉄骨下地に施工した際の外壁の耐風圧性能について、動風圧試験で下記のとおり確認しています。下表耐風圧性能から、各建築地の基準風速および建物高さなどより、安全性をご確認ください。

- 下表の値は測定値(破壊:負圧)です。施工状況で変わることがありますので、設計に際しては適切な安全率を見込んでください。推奨安全率=1.6以上(平成19年国土交通省告示第834号より)
必要耐風圧性能が不足する場合は補強工法での施工となります。補強工法はP7~8をご確認ください。

破壊:負圧、単位:Pa

芯材	働き幅	厚み	型名	製品名	木下地 (@500)	鉄骨下地(直張り) (@610)
イソシアヌレートフォーム	300	18	M型	スマートフラット 光	2500	3800
				スマートフラットプレミアム		
				スマートフラットPH		
				スマートフラット侘寂(WABISABI)		
	385		NS型	ネオスパン 光	2000	3400
				ネオスパンプレミアム		
				ネオスパンPH		
			FN型	デリカーブPH	1700	2400
				ダイヤシェイプ II 光	1900	2200
				ダイヤシェイプ II PH		
ダイヤシェイプBS II	2500	4700				
硬質ウレタンフォーム	300	—	シン・スマートフラットPU	1800	2200	
	385	—	シン・ネオスパンFU	1600	1500	
		ST型	センターストライプU	1900	2200	
		iシリーズ	ソフィアルブリック	1547(※1)	1800	
			ファインボーダー	1882(※1)	1200	
		FB型	コルモロック	1900	2100	
			ネオレリーフプレミアム	1500	1500	
			ネオレリーフ			
			レフィーナウォール	1600	1800	
			影光 II	1100	1100	
		F型	ブリック(北海道限定)	1750	—	
			塗り壁	1597(※1)	2000	
	368	D型	パーチェウッド	1300	1300	
ノースウッド			1200(※1)	2400		
241	A型	—	2450	2650		

※1 留付間隔は455mm

- 下表の値は補強工法での測定値(破壊:負圧)です。施工状況で変わることがありますので、設計に際しては適切な安全率を見込んでください。推奨安全率=2.0以上

破壊:負圧、単位:Pa

木下地(@500)	4250
鉄骨下地(直張り@610)	4600

1 センターサイディング標準施工法

1-5 耐風圧性能 補強工法

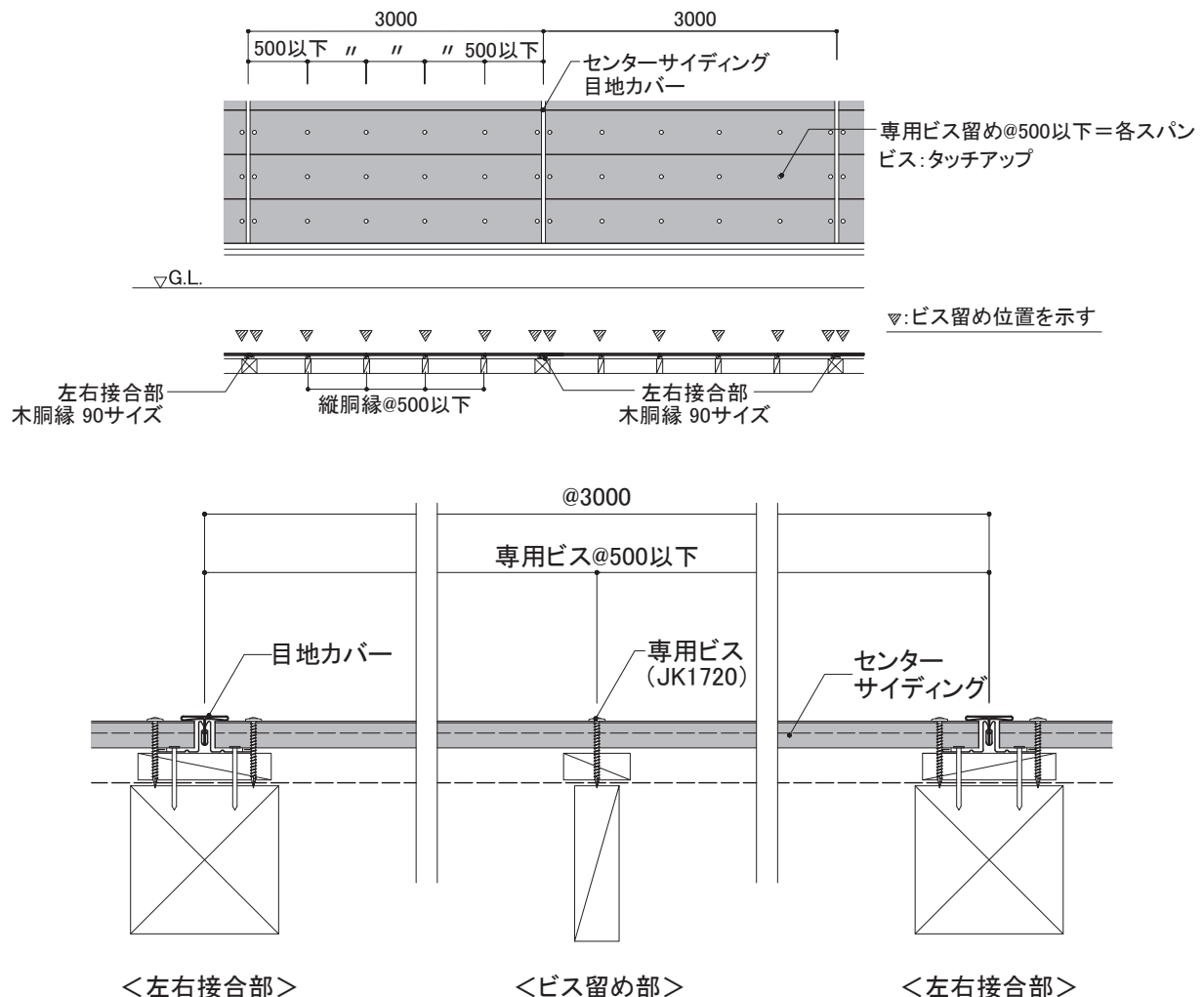
- 補強工法が必要な建物は、張り始めのセンターサイディング表面からビス留めによる補強を行ってください。
- 専用ビスを用い、下記の条件でセンターサイディング表面から留め付けてください。

	木造	鉄骨造
専用ビス (表面留め用)	JK1720 (ステンレスビス: φ4.1mm × 45mm)	金属胴縁15:JK1740 (ステンレスドリルビス: φ4.5mm × 27mm)
		直張り:JK1750 (ステンレスドリルビス: φ4.2mm × 27mm)
		せっこうボードなど表張りあり:JK1770 (ステンレスドリルビス: φ5.0mm × 60mm)
ビス留め間隔	500mm以下 (各スパンごと)	610mm以下 (各スパンごと)
ビス留め位置	パネル幅中央	

- ビス頭の補修は、専用補修塗料を必要最小限の範囲に塗布してください。

センターサイディング 長さ3000mm・木造・横張りの例

※鉄骨下地の留付条件は上表となります。

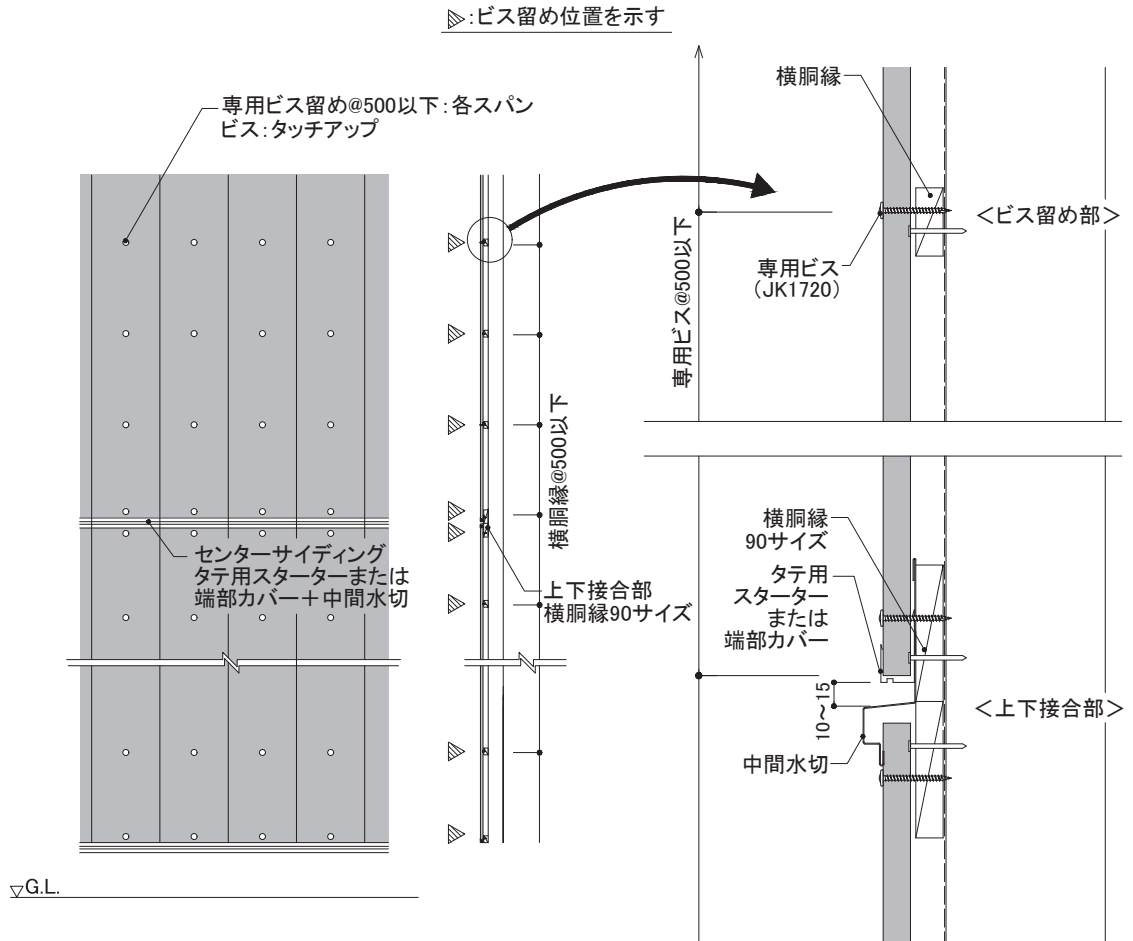


1 センターサイディング標準施工法

1-5 耐風圧性能 補強工法

センターサイディング 長さ3000mm・木造・縦張りの例

※鉄骨下地の留付条件は前項の表となります。



センターサイディング
標準施工法

センターサイディング
基本納まり図

本体・付属部材
詳細図

付属部材加工図

センターサイディング
木造編

センターサイディング
鉄骨造 金属胴縁編

センターサイディング
鉄骨造 直張り編

センター化粧幕板
標準施工法

センタールーフ
標準施工法

センタールーフ
納まり詳細図

参考資料

1 センターサイディング標準施工法

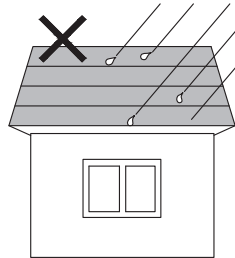


1-6 設計施工上の主な禁止事項

センターサイディングを、次のような部位や施工法で使用しないでください。
不具合をまねく原因となります。

1 外壁以外への使用

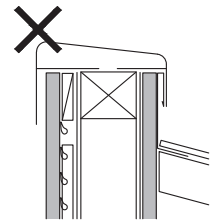
センターサイディングは外壁材として設計されています。外壁以外には使用しないでください。



6 排気口のないパラペットの笠木

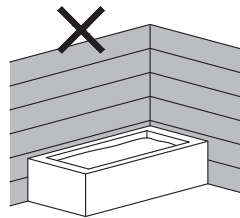
外壁通気構法とならないので、裏面および内部側の結露の原因になります。

➡ 防水型排気口をつけてください。



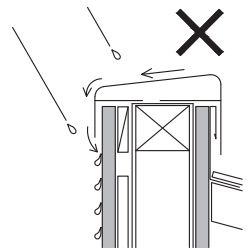
2 常時水のかかる風呂場などの壁

温度・湿度が高くなるうえ、水が直接かかるので、反り、強度低下、割れなどの原因になります。



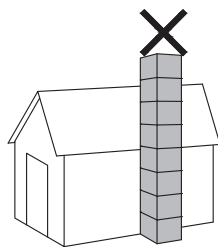
7 笠木の外勾配施工

笠木を水平または外勾配にすると、雨水がセンターサイディング表面を多量に流れ、汚れなどの原因になります。



3 煙突・暖炉など高温になる場所への施工

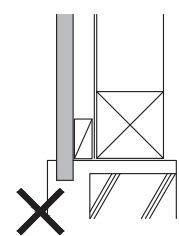
煙突など高温となる部位に使用しないでください。高温になる部分では、センターサイディングに伸縮や反りなどの変形が起きます。



8 基礎モルタルへの埋め込み施工

毛細管現象により吸水し、反りやふくれなどの原因になります。

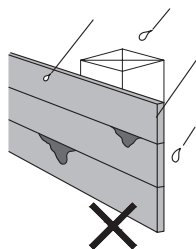
➡ 土台水切を取り付け、センターサイディングの下端と土台水切との間を10～15mmあけて施工してください。



4 裏面があらわれる片面壁の塀など

裏面からの吸水により、思わぬ不具合をまねくおそれがあります。

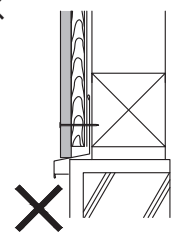
➡ 裏面も壁仕上げにして、上部には笠木を取り付けてください。



9 水切への突き付け施工

小口からの吸水により、反り・ふくれなどの原因になります。

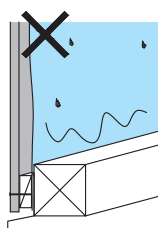
➡ センターサイディングの下端と土台水切の間を10～15mmあけて施工してください。



5 透湿性の少ない防水紙の施工

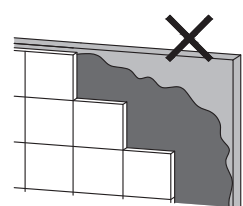
壁体内の湿度が逃げにくくなり、結露などの原因になります。

➡ 指定のモエン透湿防水シートなどを使用してください。



10 タイルなどのセンターサイディングへの直張り

タイルに割れや剥離を起こすおそれがあります。



1 センターサイディング標準施工法

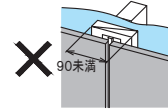


1-6 設計施工上の主な禁止事項

センターサイディングを、次のような部位や施工法で使用しないでください。
不具合をまねく原因となります。

11 下地幅90mm未満での接合部の施工

釘またはビスを留め付ける時に板端部からの距離が不足し、割れの原因になります。

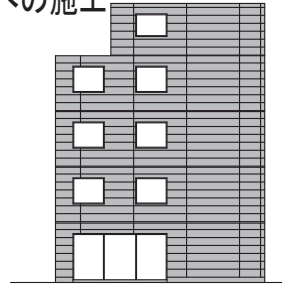


➡ 下地幅90mm以上の胴縁を使用してください。(段差が発生しないような調整を施す場合は、45mm幅の2本組も可とします。)



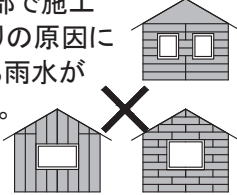
16 適用高さを超える物件への施工

高さ16m以下で耐風圧性能に応じて施工してください。



12 乱張り施工

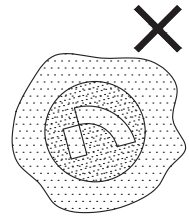
接合部材や水切のジョイントと、センターサイディングの取り合い部で施工不良をまねきやすく、雨漏りの原因になります。また、嵌合部から雨水が浸入するおそれがあります。



➡ 目地を通す割り付けとしてください。

17 釘頭の不適切な補修

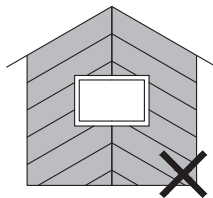
補修塗料を釘頭より広く塗り拡げたり、厚く塗布する、補修塗料の攪拌不足、シーリングの使用などがあると、経年変化などで補修部が目立つ原因となります。



➡ 補修は目立つ箇所のみとし、周辺に塗り拡げないよう最小限の塗布としてください。

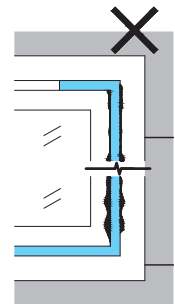
13 斜め張り施工

接合部材や水切のジョイントと、センターサイディングの取り合い部で施工不良をまねきやすく、雨漏りの原因になります。また、嵌合部から雨水が浸入するおそれがあります。



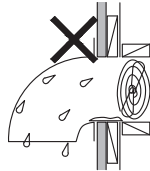
18 シーリングのはみ出し

シーリングがセンターサイディング表面などにはみ出した場合、変色による目立ちの原因となります。マスキングテープをセンターサイディング端部まで柄の凹凸にそってしっかり貼り、はみださないようにしてください。



14 センターサイディング施工後の換気口の施工

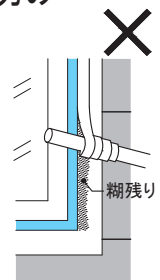
センターサイディング施工後に取り付けると、壁体内に湿気が入る構造となりやすく、結露、雨漏りの原因になります。



➡ 換気フードおよびダクトはセンターサイディング施工前に取り付け、防水紙との取り合いは、必ず防水テープで防水処理をしてください。
※吹出口は、センターサイディングから30mm以上出してください。

19 センターサイディング表面に粘着力の強いテープを貼り付ける

表面に粘着力の強いテープ(布テープや養生テープなど)を貼り付けると、センターサイディング表面の塗膜剥離や糊残りの原因になります。センターサイディング表面へのテープの貼り付けは、できるだけ避けてください。



15 先付け付属部材を固定せずに施工

先付け付属部材を固定しなかった場合、部材の脱落などの原因になります。

20 防水紙なしの外張り断熱工法施工

外張り断熱工法の場合にも、防水紙や防水テープの施工を必ず行ってください。雨漏りの原因になります。

1 センターサイディング標準施工法



1-6 設計施工上の主な禁止事項

センターサイディングを、次のような部位や施工法で使用しないでください。
不具合をまねく原因となります。

21 防水紙・胴縁施工後の放置

防水紙や胴縁を施工した状態のまま放置すると、防水紙が劣化する原因となります。

22 曲面施工

センターサイディングを曲げて施工すると、嵌合部からの漏水、脱落などの原因となります。

1-7 センターサイディング施工上の注意事項

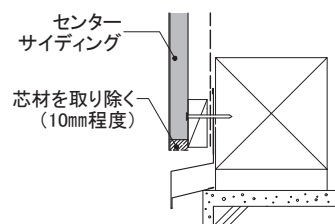
1) より良い仕上がりのために

- 使用面積に応じた製品の量を手配してください。追加製品ではロットの違いにより多少の色差が生じることがあります。
- 土台部出隅・入隅などで、付属部材(土台水切、受け、スターターなど)が複数重なって使用される部位や先付け付属部材の接合部分では、カバーの浮き上がり防止のため、先付け付属部材を十分押さえつけてください。
- カバーなどの後付け付属部材の差し込みが硬い場合は、当て木などをあて徐々に差し込んでください。直接たたくと変形や破損の原因となります。
- 不具合による手戻りを防止するため、施工途中での仕上がりチェックをお勧めします。

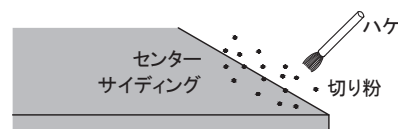
2) 切断加工について

- センターチップソー(FX125B、FX100B)を使用してください。
- 切断部が露出する場合は、芯材の吸水を防止するために、切断部の芯材を10mm程度切り取ってください。(表面材と芯材との間を切り込み過ぎると剥離が生じ、反りが発生しやすくなります。)
- 切断部のバリはやすりなどで取り除いてください。
- 切断時に発生した切り粉による錆び発生を防止するため、切断後、ハケなどで必ず切り粉を払ってください。
- 表面に傷がつかないように、表面を下側にして切断してください。また、バリ防止のため、ノコ刃の回転方向は図のようしてください。
- 実にパッキンが入っているセンターサイディングは、パッキン材の飛び出し防止のため、メス側(下実側)から切断します。
- 表面材に無理な力がかかることを防止するため、角を切り取る際は切断部分を正確に測って切断し、無理なはめ込みは避けてください。
- 付属部材端部は、ケガ防止のため板金加工を施してください。

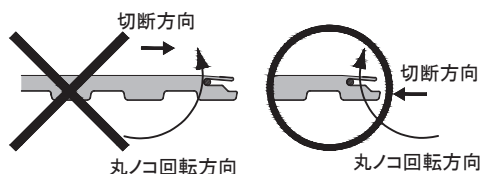
<切断部が露出する部位の例>



<切断時の切り粉>



<ノコ刃の方向>

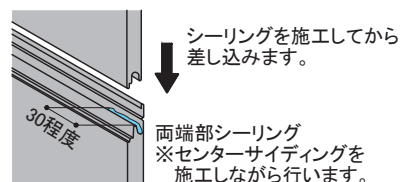


1 センターサイディング標準施工法

1-7 センターサイディング施工上の注意事項

3) センターサイディング施工時のシーリングについて

- センターサイディングを横張りで施工する場合は、雨水の横走り防止のため、本体左右端部から30mm程度の嵌合部差し込み溝内部に捨てシーリングを施工します。
- センターサイディングを縦張りで施工する場合は、下端部に水が滞留しないようにシーリングは施工しません。
- 受けなどの先付け付属部材は、指定の部位に捨てシーリングを施工します。この際、捨てシーリングが浸入した水の排出を妨げないように注意してください。
- 本体の芯材はシーリングと接着しません。シーリング工事の際は、表面の金属部を折り曲げ、シールポケットを作ります。

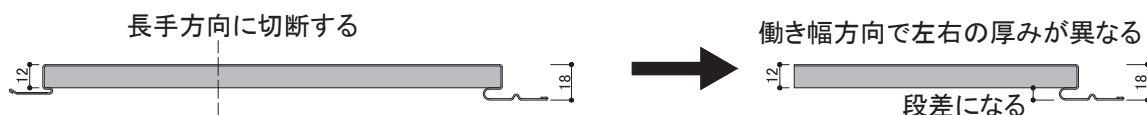


4) 錆防止について

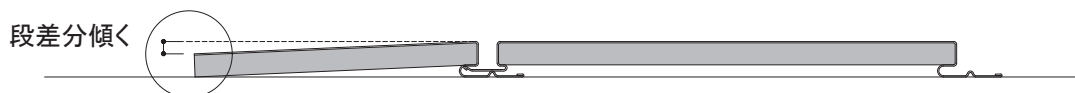
- 特に鉄骨造では、セルフドリリングビス留め付け時の切り粉による錆発生を防止するため、ビス留め後、切り粉を払ってください。

5) センターサイディングの留め付けについて

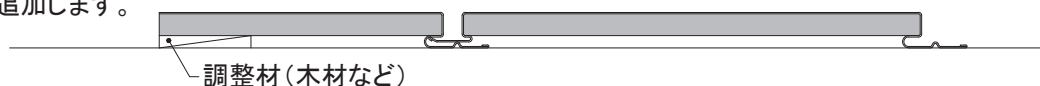
- 本体2枚ごとに働き幅と水平を確認してください。
- 打ち抜きを防止するため、釘打ち機は使用しないでください。
- 糸目地タイプのセンターサイディング(F型、FB型、FN型)では、変形防止のため、強く押しつけながら差し込まないでください。
- A型を施工する場合には、下記の点に注意して施工してください。
 - ①A型を長手方向に切断すると、実形状および芯材の厚みにより、働き幅方向の厚みが変わります。



- ②このまま施工すると、張り始めと張り終わりで本体が傾いてしまいます。(下図○部)

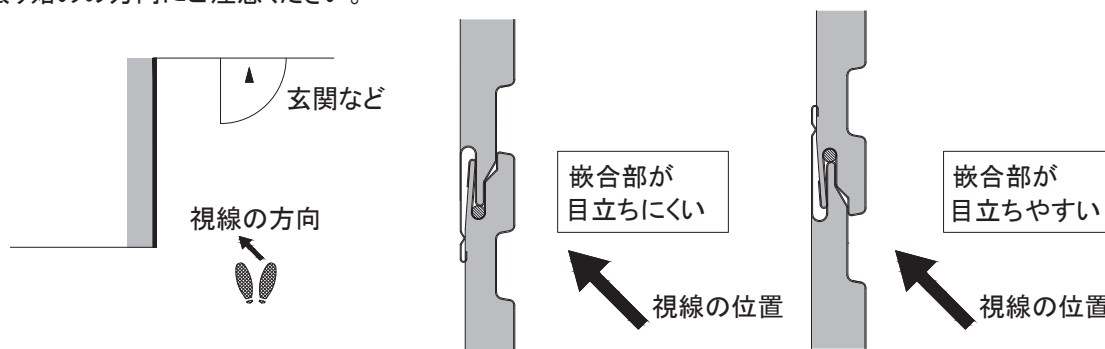


- ③②の状態では外観や付属部材との納まりが悪いので、面があうように調整材(合板などを小割にしたもの)を追加します。



- ④端部に付属部材を施工する場合には、付属部材(見切縁、受け材など)の厚みを考慮して調整材を選定してください。

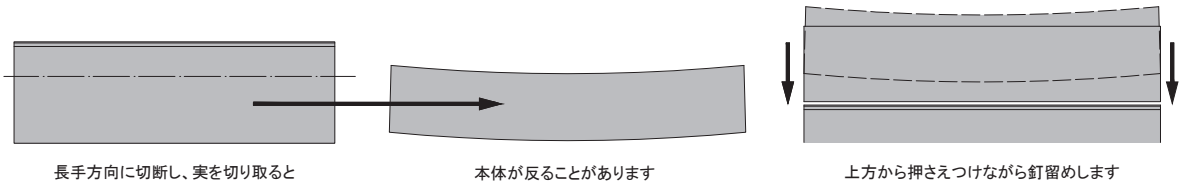
- NS型、ST型を縦張りする場合、柄と嵌合の特性上、見る方向によって目地部の目立ち方が異なります。張り始めの方向にご注意ください。



1 センターサイディング標準施工法

1-7 センターサイディング施工上の注意事項

- 横張り時、軒天部で最上段のセンターサイディングは軒天までの寸法にあわせて長手方向に切断し、一旦見切縁などの奥(軒天側)まで差し込んでから、下段の本体に嵌合させます。
- 横張り時の軒天部など、センターサイディングを長手方向に切断すると本体が反る場合があります。施工の際は、本体の上部から下部へと押さえつけながら、胴縁に表面から釘留めしてください。釘頭は補修塗料で補修してください。



- 縦張り時、張り始めと張り終わりで本体の倒れを防止するため、必要に応じて先付け付属部材と本体裏面との間に調整材(合板などの小割りにして現地加工したもの)を入れます。
- 縦張り時、張り始めと張り終わりは胴縁に表面から釘留めし、釘頭を補修塗料で補修してください。表面留めの釘はP35をご確認ください。

6)M型スマートフラットの施工上の注意事項

M型スマートフラットは表面が平滑な製品です。日光の当たり方や見る角度により、表面のゆがみ等が目立つ場合があります。

また、下記事項をご確認いただき、十分に注意してお取り扱いください。

- 本体の取り扱い時は、きれいな手袋を着用し汚れや傷がつかないようにしてください。
- 本体の運搬時は、傷がつかないように丁寧に取り扱いください。切り欠いた本体を運搬する際は、本体のゆがみや折れを防止するため合板や胴縁などで補強して運んでください。
- 本体を施工する前に、胴縁の不陸が施工基準通りか確認し調整してください。不陸部分が目立つなど外観の見栄えに影響します。不陸の基準は下記の通りです。
 - ・目通りずれ2mm以内(木造下地・鉄骨下地)
 - ・ジョイント部のずれ 1.5mm以内(木造下地・鉄骨下地)
- 事前に割り付けを行い施工してください。切り欠き加工の際は、切断部分を正確に測って切断し、無理なはめ込みは避けてください。表面材に無理な力がかかるとゆがみの原因となります。
- 本体の両側からの切り欠き加工は行わないでください。本体の強度が低下し変形するおそれがあります。
- 本体表面から釘留め・ビス留めする部分は、先孔を開けてから本体表面に負荷のかからないように留め付けてください。
- 開口部周囲は廻り縁仕様で納めます。廻り縁仕様の詳細は、P69～74をご確認ください。
- 補修の際は必要最小限の範囲で塗布してください。補修部分は目立つため、補修塗料を塗り広げずに最小限の範囲で丁寧に塗布してください。大きな傷の場合は補修塗料による補修は行わず本体の張り替えをお勧めします。

1 センターサイディング標準施工法

1-8 センターサイディング施工時の安全配慮

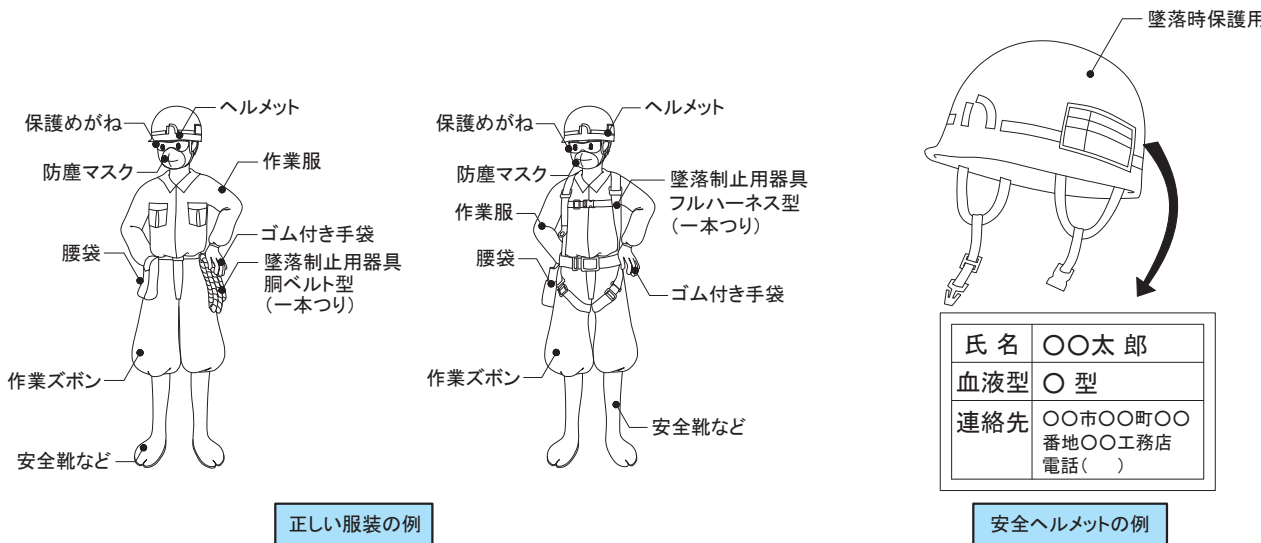
「安全はすべてに優先する」という言葉の通り、外壁材、屋根材の施工も安全を第一に考えた施工でなければなりません。施工にあたり災害発生を未然に防止し、安全でかつ快適な作業環境をつくるために、安全衛生心得、安全衛生規則を守ってください。また、電気配線や、ガス、水道配管などの撤去や復元および移設などの工事が必要な場合は必ず専門業者様に依頼してください。

1) 安全衛生心得

- 安全第一に徹してください。
- 作業服は上下とも正しく着用してください。
- 作業場の整理整頓を行ってください。
- 作業者相互の安全確認を十分行ってください。
- 健康状態を十分確認してください。
- 電動工具や空気圧工具の安全確認を行ってください。

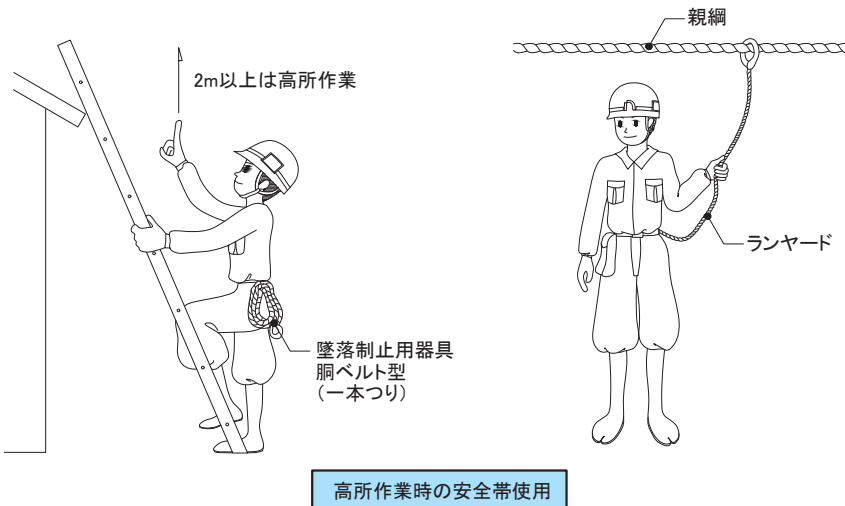
2) 作業に適した服装

- 安全ヘルメットは墜落時保護用を使用し、あご紐をしっかりと締めてください。
また、氏名・血液型・緊急連絡先を明記してください。
- 滑りやすい履物を使用しないでください。
- 作業高さが6.75mを超える場合は墜落制止用器具フルハーネス型をご使用ください。



正しい服装の例

安全ヘルメットの例



高所作業時の安全帯使用

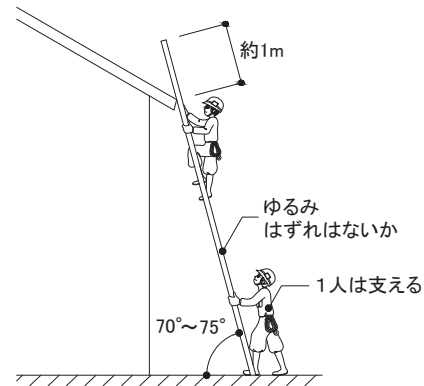
注 2024年2月時点の情報です。工事の際は、労働安全衛生法に従って施工してください。

1 センターサイディング標準施工法

1-8 センターサイディング施工時の安全配慮

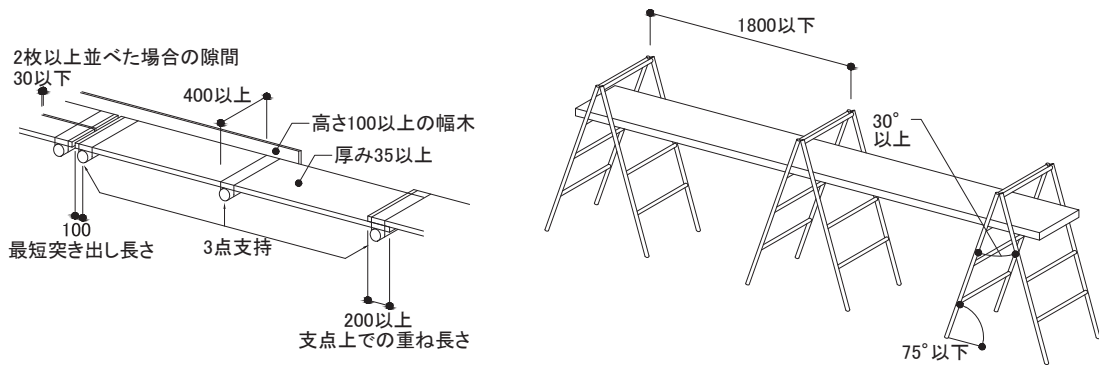
3) はしご・脚立での昇降安全作業基準

- 使用前に異常がないか確認してください。
- 転倒のおそれがない場所に固定してください。
- 2人で作業し、1人は支え役になってください。
- 立て掛ける角度は、70～75°とし、上部は支点より約1m伸ばしてください。
- 1階の屋根から2階の屋根へはしごを掛けるのは非常に危険なので、行わないでください。やむを得ない場合は棟をまたいで滑り止めのマットなどを敷き、その上にはしごを固定して支え役がしっかりと支えてください。
- センターサイディング、センタールーフにはしごや脚立などを直接立て掛けないでください。



4) 足場を使用する外壁工事の安全作業基準

- 事前に足場が規定どおりか、支持や固定が確実かを確認してください。
- 足場の支柱を伝って昇降しないでください。
- 足場での作業中は、安全帯の命綱を支柱などに固定してください。
- 足場の作業床でセンターサイディングを運搬・移動する場合は斜めかつぎをせず、作業床と水平になるようにしてください。
- 脚立足場の作業床の支持は3点支持とし、各々の間隔は1800mm以下としてください。また、一支点間に同時に2人以上乗らないようにし、幅200mm以上、厚み35mm以上の足場板を用いてください。
- 高さ100mm以上の幅木を取り付けてください。




5) 事故防止・衛生上の注意事項

- 高所作業中の落下物による事故防止のため、残材などを下に降ろす場合は慎重に行ってください。
 - 電気配線やガス・水道配管などは、事前確認の上、損傷などに十分注意して施工してください。
 - 切断作業時には保護めがねを着用してください。飛散した切り粉で目を傷つけるおそれがあります。工事関係者や見学者にも徹底してください。
 - 必ず軍手などを着用してください。小口や切断面のバリで怪我をするおそれがあります。また、切断面のバリや尖った角はやすりなどで除去し丸味をつけてください。なお、回転工具使用時には軍手を着用しないでください。
 - 風の強い日はセンターサイディングを持っているとあおられて落下するおそれがあるため、施工しないでください。
 - 溶接・溶断などの火の粉が飛ぶところには製品を置かないでください。
 - センターサイディング表面材は導電性です。被覆の破れた電気配線が触れないよう注意してください。併せて、高圧送電線が近くにある場合、事前に電力会社へ相談するなど、安全対策を講じてください。
 - 石綿含有成形板の改装・改修工事の際は関係法令に従ってください。
 - 各種補修塗料は、表示ラベルや安全データシート(SDS※)に沿って取り扱ってください。
- ※SDSの正式名: Safety Data Sheet(または安全データシート)

1 センターサイディング標準施工法

1-9 センターサイディングの施工用工具例

施工用工具	品番	仕様
チップソー 	FX125B	刃物外径:125mm 刃物内径:20mm
	FX100B	刃物外径:100mm 刃物内径:20mm

施工用工具	メーカー名	品番	仕様
集じん(防塵)丸のこ 	株式会社マキタ	KS5000FX(刃付) KS5000FXSP(刃無) KS514DRGX(充電式)18V KS513DRGX 18V (充電式ダストボックス仕様) KS001GRDX(充電式)40V KS002GRDX 40V (充電式ダストボックス仕様)	刃物外径:125mm 刃物内径:20mm
集じん機 	株式会社マキタ	VC2530 VC1530 VC0830 VC0840(ワイヤレスユニット式 連動集じん機) VC002GZ(充電式)40V VC004GZ(充電式)40V	連動式コンセント付ドライ専用型 VC2530:集じん容量25L VC1530:集じん容量15L VC0830:集じん容量 8L VC0840:集じん容量 8L VC002GZ(充電式) 8L VC004GZ(充電式) 15L

問い合わせ先

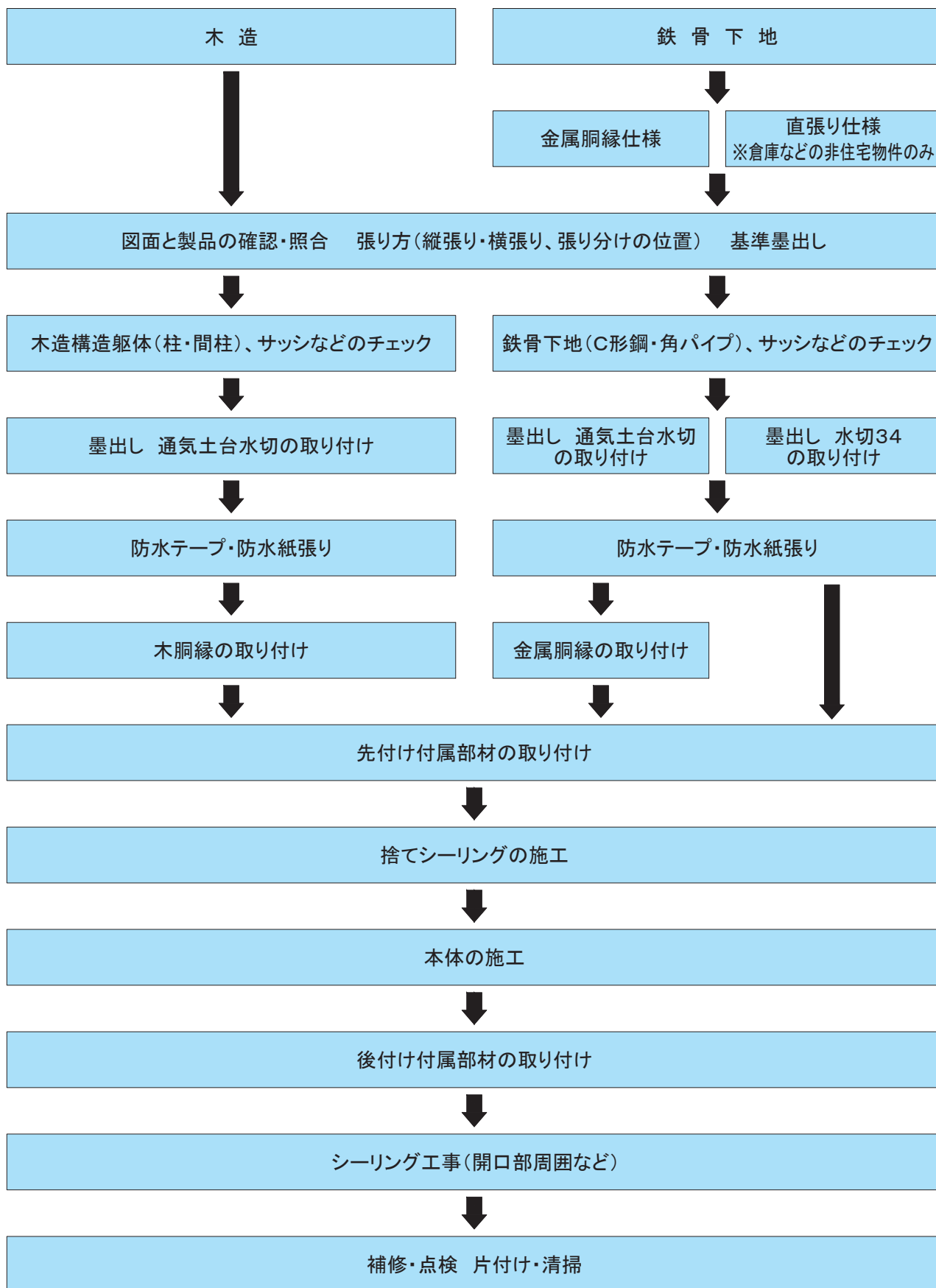
株式会社マキタ
 東京:03-3816-1141
 名古屋:052-419-0561
 大阪:06-6351-8771
 福岡:092-588-1200
 フリーダイヤル:0120-171-197



注意 工具の詳細は工具メーカー様へお問い合わせください。

1 センターサイディング標準施工法

1-10 標準施工手順



1 センターサイディング標準施工法

1-11 外壁通気構法

1) 外壁通気構法の必要性

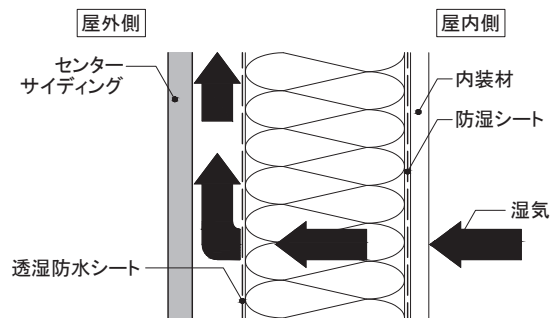
外壁通気構法は、壁体内の湿気など水分をスムーズに屋外へ放出し、住宅の耐久性を向上させることが目的です。「単にセンターサイディングを張るための下地」という感覚で施工されると、通気不良による不具合が起きる可能性が高まります。

センターサイディングの表面には外気の影響を受けにくくするために各種塗装が施されています。裏面にもアルミラミネート加工が施されていますが一時的な防水機能しか持っていないので、内部結露や接合部などから浸入した雨水などが多量に発生した場合には、吸水による不具合が発生する可能性があります。

■ 外壁通気構法の目的

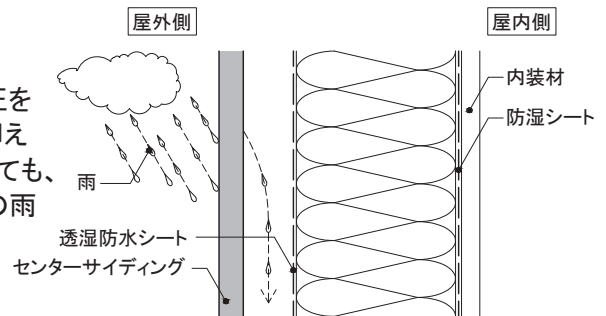
① 内部結露の抑制

湿気、すなわち水蒸気は雨水のおよそ250万分の1という小さな粒子です。そのため、室内の湿気は内装材を通して壁の中に浸入します。壁が密閉状態の場合ですと湿気に逃げ場がなく、壁体内で結露し、柱や断熱材などが吸水してしまいます。防水紙に透湿防水シートを使用して、外壁通気構法にすることで、室内から浸入した湿気を結露する前に通気層に通し、速やかに屋外に放出させ、内部結露を抑制します。



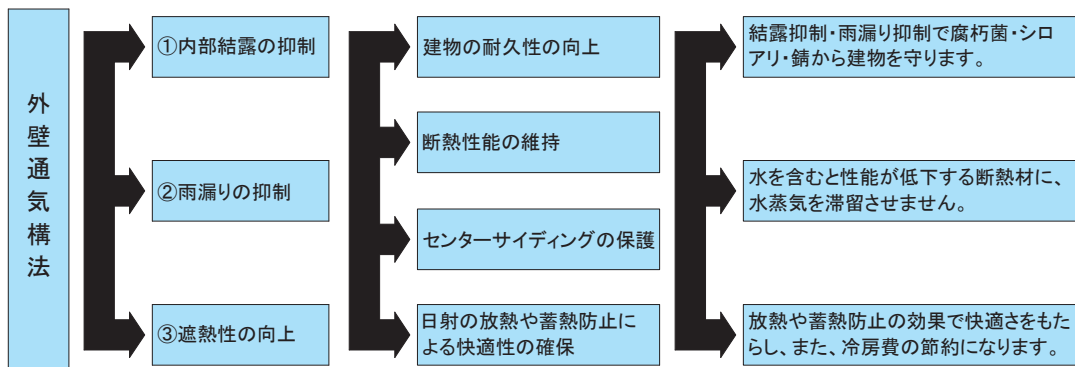
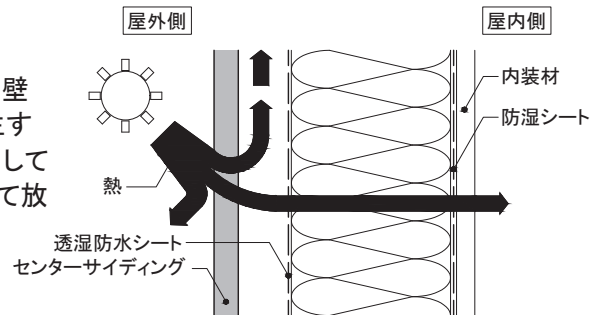
② 雨漏りの抑制

外壁通気構法とすることにより、通気層と外気との気圧を同じに保ち、暴風雨時における雨水浸入を最小限に抑えます。また、雨水がセンターサイディング裏面に浸入しても、雨水は通気層を通して屋外に排出され、建物の中への雨漏りを抑制します。



③ 遮熱性の向上

直射日光があたると、外壁はかなりの熱をうけます。外壁通気構法とした場合には、通気層内に上昇気流が発生するため、受けた熱の一部をこの上昇気流が屋外に放出してくれます。このため、外壁通気構法は、日射などに対して放熱や蓄熱防止の働きがあることが確認されています。

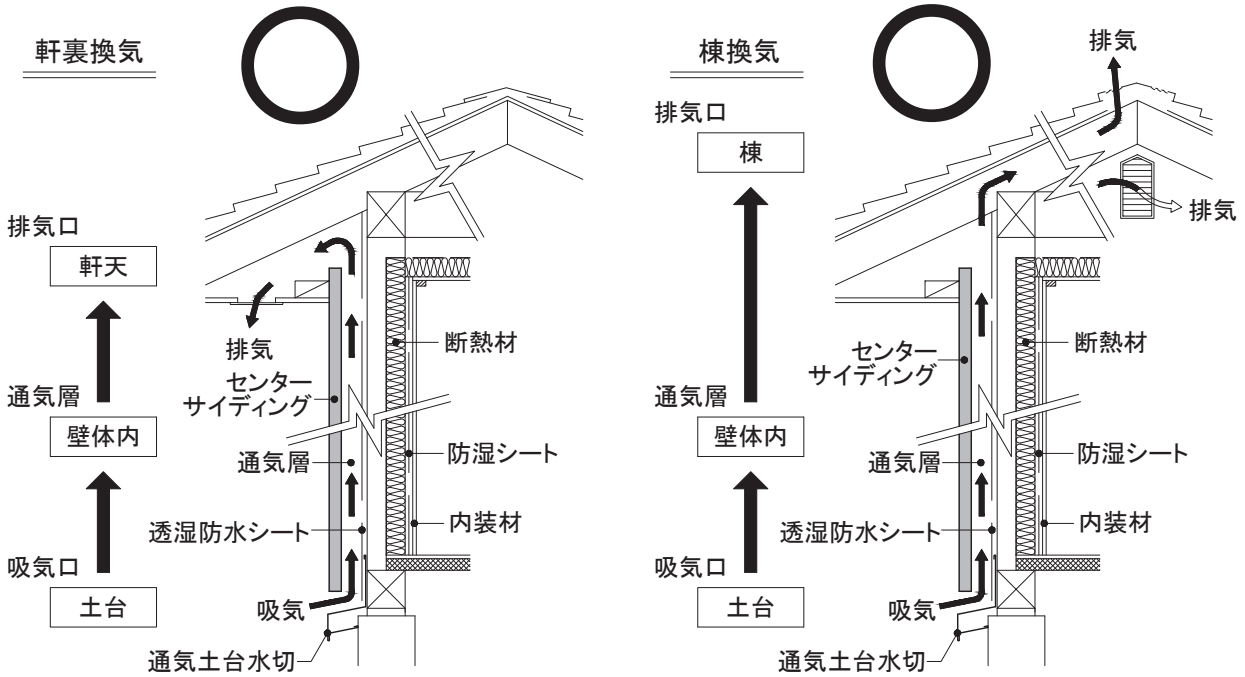


1 センターサイディング標準施工法

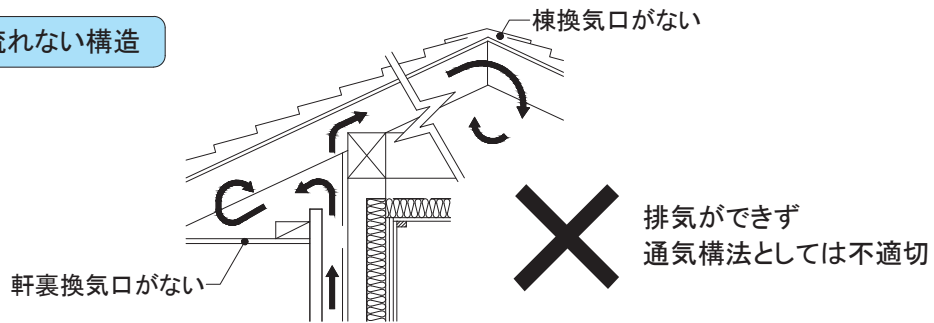
1-11 外壁通気構法

2) 通気構法の注意点

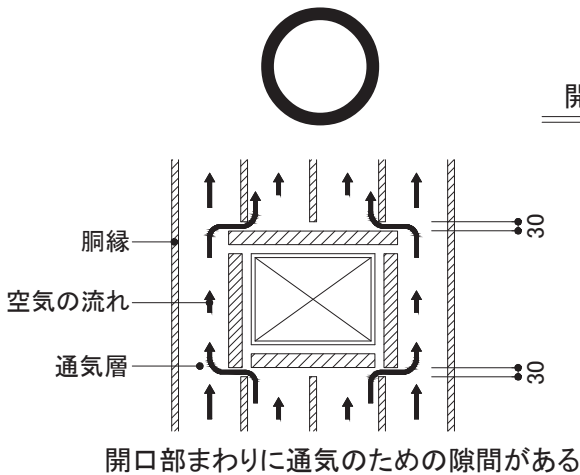
壁体内の空気が効果的に流れる構造



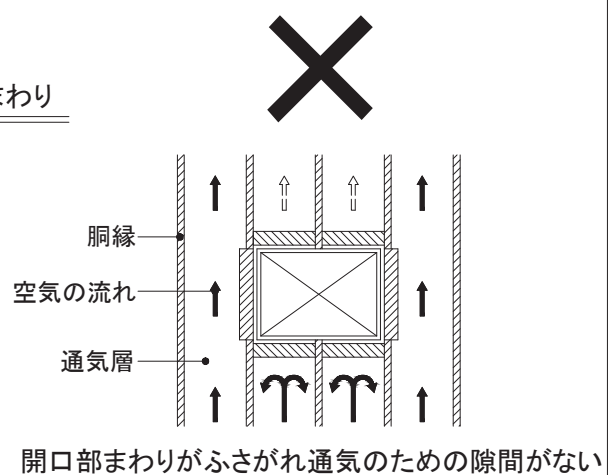
壁体内の空気が流れない構造



壁体内の空気が効果的に流れる構造



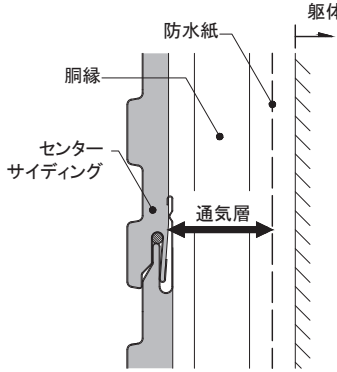
壁体内の空気が流れない構造



1 センターサイディング標準施工法

1-11 外壁通気構法

3) 通気層の確保と胴縁の種類・厚み



外壁通気構法における通気層の厚みは、12mm以上必要です

●通気層は7mmあれば空気は流れますが、梅雨期などにおける壁体内の結露水が多い場合に排出しきれないおそれがあり、12mm以上の厚みが必要です。

センターサイディングを留め付ける胴縁の厚みは、15mm以上必要です

●センターサイディングは釘・ビスで胴縁に留め付けます。胴縁の保持力の確保から、胴縁の厚みを15mm以上確保した木材を選定しご使用ください。

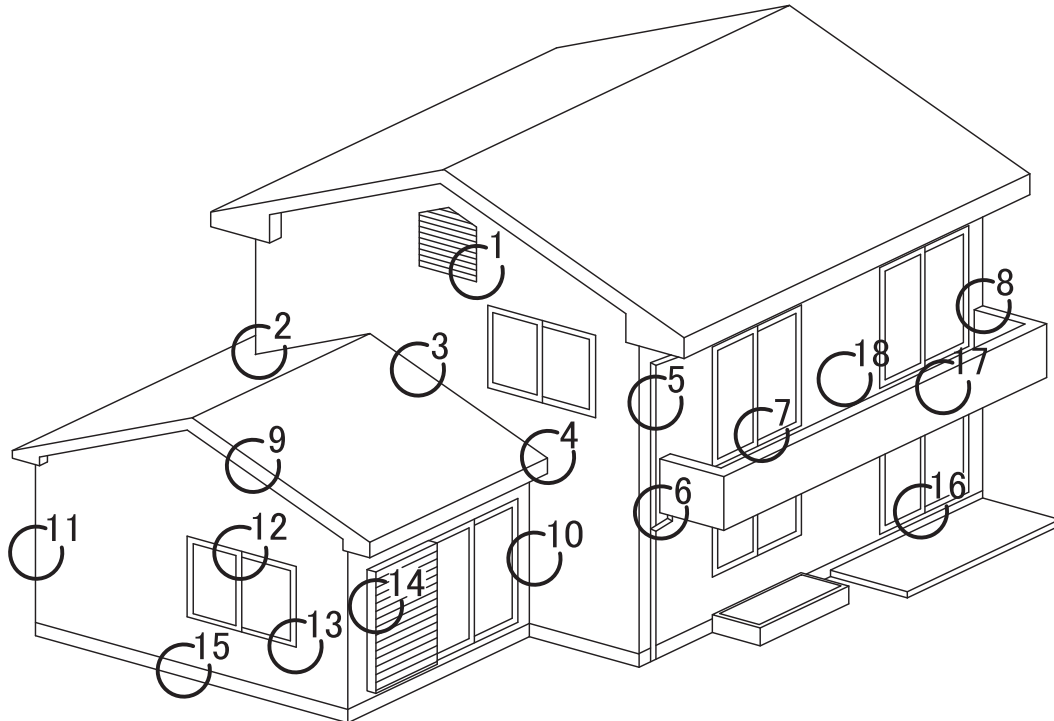
※樹種・胴縁の厚みについては、「1-14 胴縁下地組み」をご参照ください。

1-12 雨漏りが発生しやすい部位



下記に示す部分は雨漏りが発生しやすい部位です。

センターサイディングは一次防水の役割を持っていますが、強風時などは接合部などからセンターサイディング裏面に雨水が浸入します。施工の際には必ず防水紙張りの段階から施工納まりに万全を期してください。下記のような詳細部分においても、防水紙と防水テープおよびセンターサイディングによる二重防水の施工方法で施工することが非常に重要です。また、壁止まり部など通気層内に施工する水平部材との取り合い部で通気層内に雨水が滞留するおそれがある箇所は、雨水が適切に排出される施工を行ってください。



- | | | |
|-----------------------|-----------------|--------------------|
| 1. 矢切換気ガラの周囲 | 6. ベランダ取り付け部分 | 13. 開口部下側の端部 |
| 2. 外壁出隅と下屋根流れ側の取り合い部分 | 7. ベランダ出入口サッシ下端 | 14. 戸袋取り付け部分 |
| 3. 下屋根流れ側と壁の取り合い部分 | 8. ベランダ手摺取り付け部分 | 15. 壁の下部と基礎の取り合い部分 |
| 4. 壁止まり部 | 9. 壁と軒の取り合い部 | 16. サッシ下端部分 |
| 5. 縦樋つかみ金物埋め込み部分 | 10. 外壁の入隅部分 | 17. ベランダ笠木下端部分 |
| | 11. 外壁の出隅部分 | 18. FRP防水との取り合い部分 |
| | 12. 開口部上枠周辺部分 | |

1 センターサイディング標準施工法

1-13 防水紙張り

注意



防水紙の張り方を誤ると、雨漏りのおそれがあります。

1) 施工時の注意点

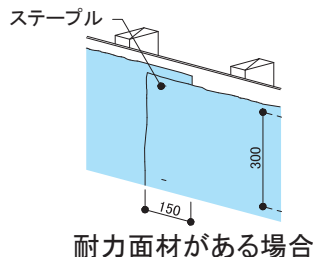
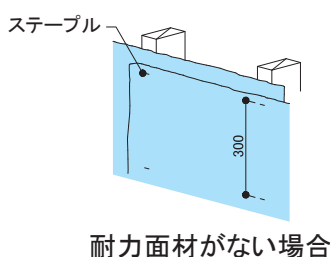
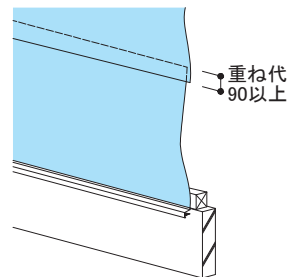
- 防水紙は横張りを原則とし、下から上へと張り上げます。
- 通気層をふさがないように、たるみや剥がれがないようにしてください。
- 防水紙を下地に留め付ける際は、ステープルや両面防水テープまたは透湿防水シート用スプレーのりを使用します。
- 防水紙を張る前あるいは張った後に雨などで濡れた場合は、十分に乾いてから施工を始めてください。



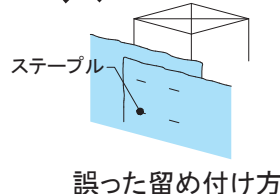
防水紙を張り終えた後は、すみやかにセンターサイディングを施工してください。

2) 一般部の防水紙の張り方

- 上下の重ね代は90mm以上です。
左右の重ね代は、耐力面材がない場合は、柱(間柱)と柱(間柱)の間隔(左右の重なり部は必ず柱・間柱があるところに留める。)とし、耐力面材がある場合は150mm以上です。
- ステープルで留め付ける場合は、縦@300mm以下、横は柱・間柱やスタッドの間隔ごとに留め付けます。
- 透湿防水シート用スプレーのりで留め付ける場合は、缶を20cm程度離して下地へ線状にスプレーし、60秒以内に貼り合わせて十分に圧着します。



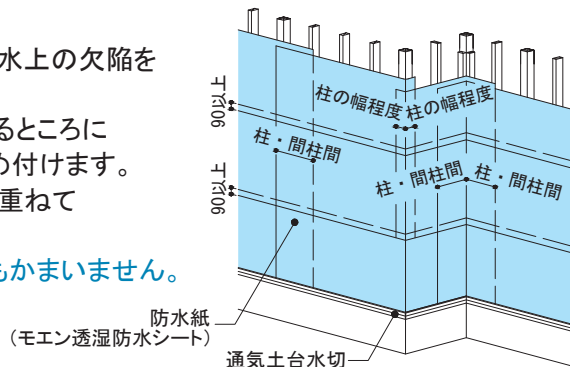
✕ 左右の重ね代不足



3) 出隅・入隅部の防水紙の張り方

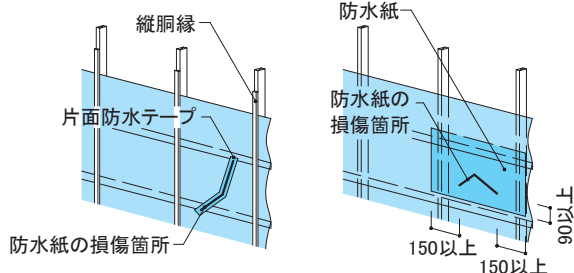
- 出隅・入隅などの隅角部は、特に隙間、破れなどの防水上の欠陥を生じさせないようにしてください。
- 耐力壁がない場合：入隅部では両隣の柱(間柱)があるところに留め付け、出隅部では両方向とも柱幅程度重ねて留め付けます。
- 耐力壁がある場合：出隅・入隅部とも両方向柱幅程度重ねて留め付けます。

※出隅部では耐力壁の有無にかかわらず通しで張ってもかまいません。



4) 防水紙の補修方法

- 防水紙が破れた場合は、張り直すかまたは補修をしてください。
- 胴縁が取り付けられている場合(左図)、損傷箇所に片面防水テープを貼って補修します。
- 胴縁取り付け前の場合(右図)、損傷部分に防水紙をあてがい、上部を上段の防水紙の重ね目に挿入し、下地に留め付けます。

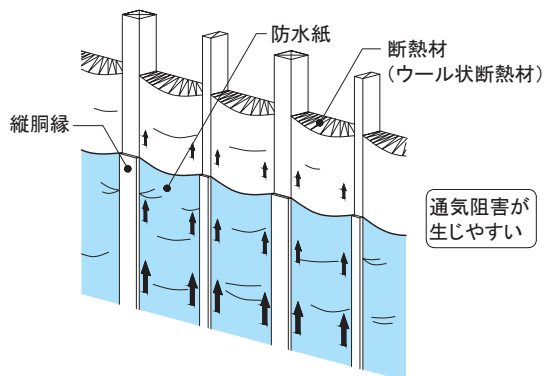


1 センターサイディング標準施工法

1-13 防水紙張り

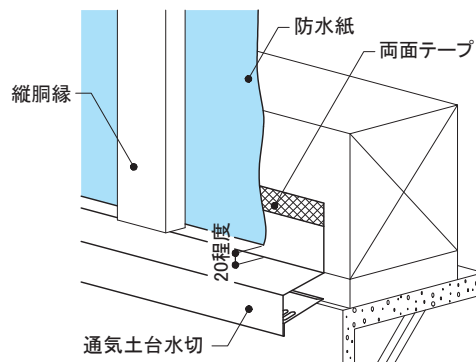
5) 充填型断熱工法の場合の注意点

●軸組でできる壁厚の間に断熱材(ウール状断熱材)を充填する断熱工法の外壁面に防水紙を張った場合、断熱材の長期にわたる断熱材復元圧力によって図のように防水紙が外部側にふくらんでしまう現象がおり、通気空間を狭めて外壁通気構法の効果を低減させてしまうおそれがあります。充填型断熱工法の場合には防水紙のふくらみを押さえるなど、通気空間を確実に確保する措置をとってください。



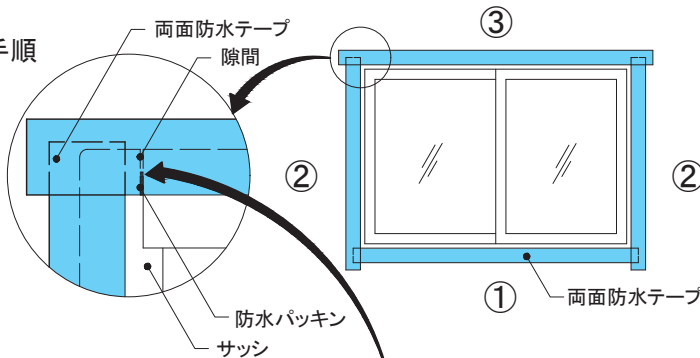
6) 土台部の防水紙の張り方

●防水紙は、通気土台水切に十分かぶせて施工します。
 ●風による防水紙のバタツキ(音鳴り)を防止する処置として通気土台水切の両面テープの剥離紙を剥がし、防水紙を貼り付けます。(水切立ち上がり下端から20mm程度の位置まで)
 アルミ通気土台水切やベランダ部の水切、下屋根の雨押え板金などにも両面防水テープを用い、同様の処置を行います。なお、横胴縁で防水紙を押さえて留め付ける場合は、両面防水テープは不要です。



7) 開口部まわりの両面防水テープの貼り方と手順

●開口部まわりの両面防水テープは、右図の順番に従い貼り付けます。
 ●両面防水テープの剥離紙は防水紙を張る直前に剥がし、隙間ができないよう圧着します。
 ●先張りシートがある場合は、その下に防水紙を十分に差し込んでから留め付けます。その際に、サッシフィンと先張りシートの上に片面防水テープを貼る必要はありません。

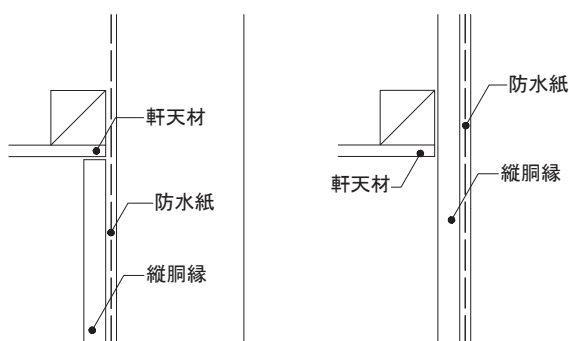


※透湿防水シート用スプレーのりで防水紙を施工する場合も、開口部など防水処理が必要な箇所には両面防水テープを使用してください。

注意 サッシ縦枠と横枠のジョイント部は段差があり防水テープ・防水紙の隙間ができやすい箇所です。防水パッキンはありませんが、一部分しかありません。隙間ができないよう特に注意して施工してください。

8) 軒天部の防水紙の張り方

●防水紙は軒天材の位置より上まで張り上げ、ステープルや両面防水テープなどで留め付けます。
 ●軒天先施工の場合は、軒天材まで張り上げ、ステープルや両面防水テープなどで留め付けます。
 ※軒天からの雨水の浸入が懸念される場合は、防水テープで防水紙と軒天材を接着します。



1 センターサイディング標準施工法

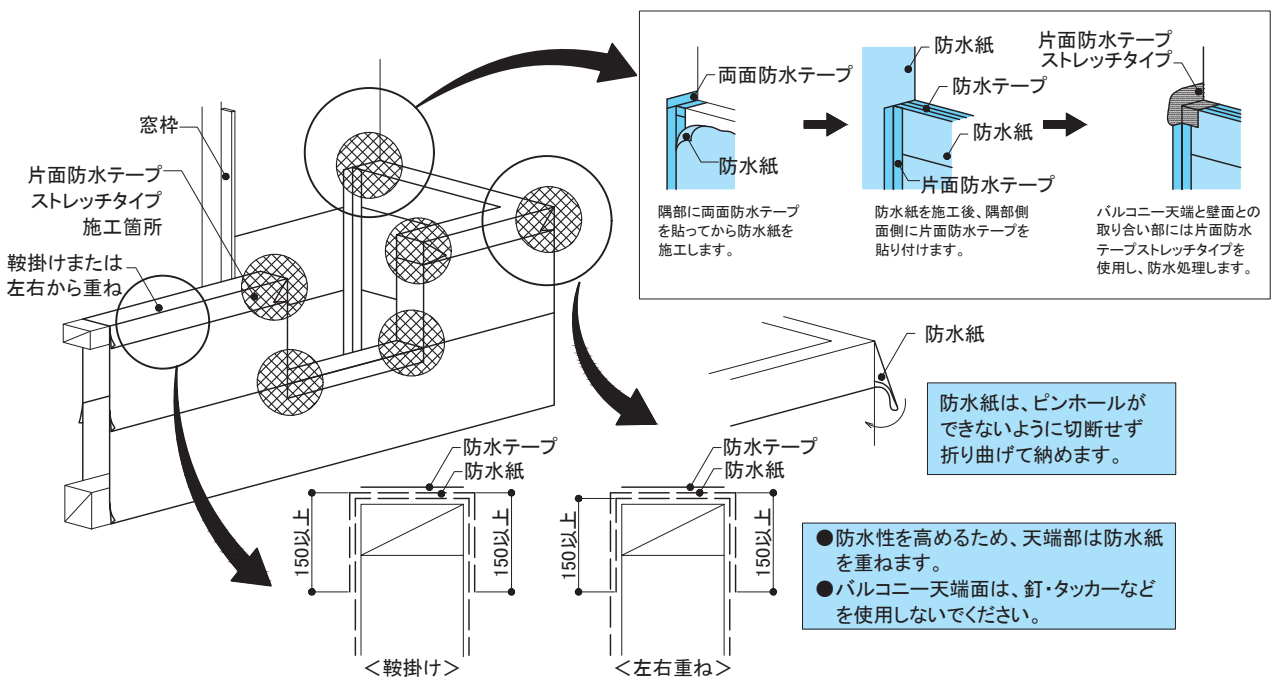
1-13 防水紙張り

9) バルコニー笠木部の防水紙の張り方

「防水テープ(両面防水・片面防水・片面防水ストレッチタイプ)」または「スポットガード」を使用し施工します。

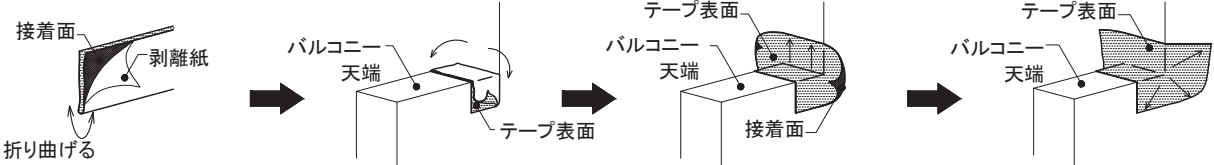
① 防水テープ(両面防水・片面防水・片面防水ストレッチタイプ)を使用する場合

- バルコニーの笠木部には、防水性を高めるため、天端部は防水紙を重ねます。(鞍掛けまたは左右重ね) また、重ね合わせは、150mm以上にします。
- 防水紙が張り上がった後、笠木ファスナーが取り付けられる位置に防水テープを増し貼りします。(笠木ファスナーの取付位置は、事前に笠木取り付け工事業者様または現場管理者に確認してください。)
- バルコニー隅部は、躯体と防水紙を両面防水テープで圧着した後、側面部には片面防水テープを貼り、天端部には片面防水テープストレッチタイプを貼り付けます。
- ビス孔などから漏水を防ぐため、笠木用留付金具と防水紙の間に両面防水テープを捨て貼りします。



注意 漏水を防ぐため、防水テープ部に釘、タッカーなどを留め付けないようご注意ください。

■ 片面防水テープストレッチタイプの貼り方



- 手順①**
- テープを必要長さに切り取り、剥離紙が外側になるよう幅方向に2つ折りしてください。その後、片側の剥離紙を取り除きます。
※カッターナイフでテープを切断する場合は、自背面(剥離紙面と反対面)を上にして切断します。
※バルコニー隅部は75mm幅を推奨します。
- 手順②**
- 右図のように入隅部にテープを密着させて貼り付けます。
※テープは伸ばしたりせず、無理なく貼り付けます。
- 手順③**
- 残りの剥離紙を取り除き、テープ中央部を押し広げながら壁面に貼り付けます。
- 手順④**
- コーナー部を指で押さえ、壁側面へシワが入らないように、押し広げながら貼り付けます。
※テープはテープ長さ方向とともに幅方向にも広げます。

注意 笠木と外壁の取り合い部(壁止まり部)では通気層内に浸入した雨水が滞留しないよう適切に施工してください。

1 センターサイディング標準施工法

1-13 防水紙張り

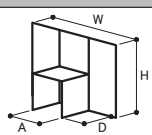
9) バルコニー笠木部の防水紙の張り方

② スポットガードを使用する場合

■ 製品仕様

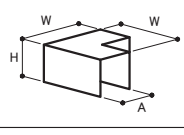
スポットガード バルコニー端部用

単位:mm

商品名	品番	サイズ(W×H×D)	対応笠木幅(A)	材質
端部用105	FSK3105		310×200×100	108
端部用120	FSK3120		325×200×100	123
端部用2×4	FSK3240		314×200×100	112

スポットガード バルコニー出入隅用

単位:mm

商品名	品番	サイズ(W×H)	対応笠木幅(A)	材質
出入隅用105	FSK4105		210×100	108
出入隅用120	FSK4120		225×100	123
出入隅用2×4	FSK4240		214×100	112

■ スポットガード バルコニー端部用・出入隅用の使用部位

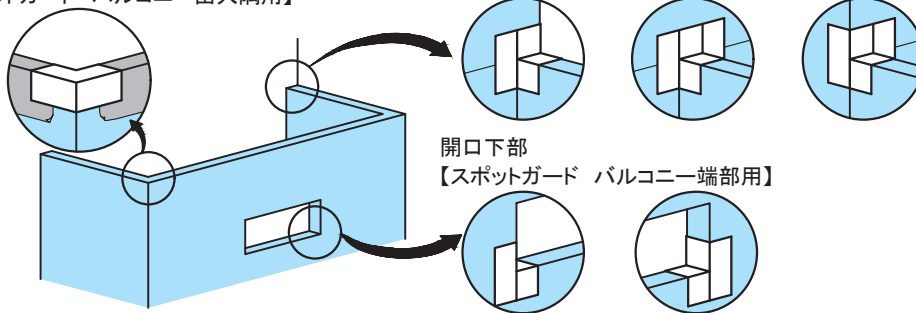
● スポットガードバルコニー用は、端部用と出入隅用を部位ごとに使い分けます。

笠木出入隅部

【スポットガード バルコニー出入隅用】

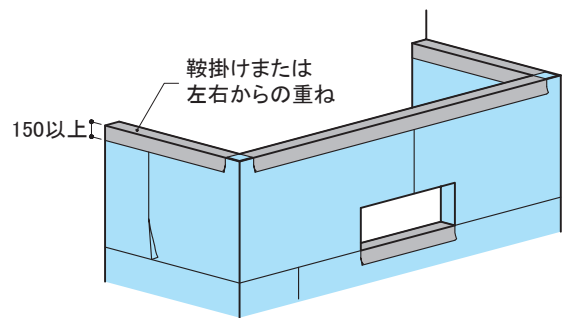
笠木、外壁接合部

【スポットガード バルコニー端部用】



■ バルコニー部の施工

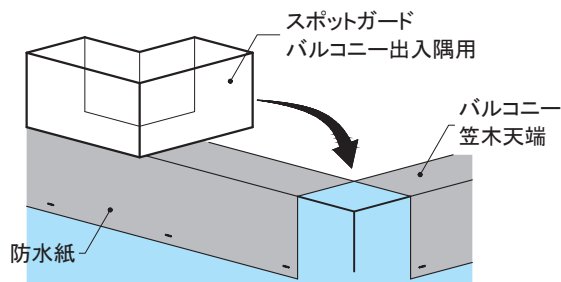
- 防水紙の施工後、スポットガードを取り付けます。
- バルコニーの笠木部には、防水性能を高めるため天端部は防水紙を鞍掛けまたは左右から重ねます。
- バルコニー笠木天端面は、釘・タッカーなどを使用しないでください。



■ スポットガード 出入隅用の施工手順

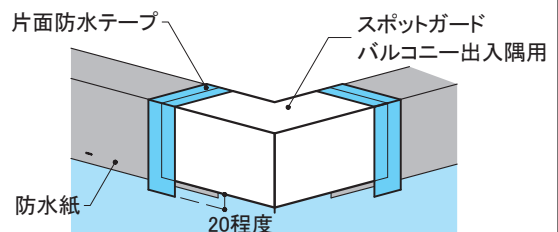
手順①

- スポットガード出入隅用を角部にかぶせます。



手順②

- 幅50mm以上の片面防水テープでスポットガードバルコニー出入隅用の両端部を固定します。

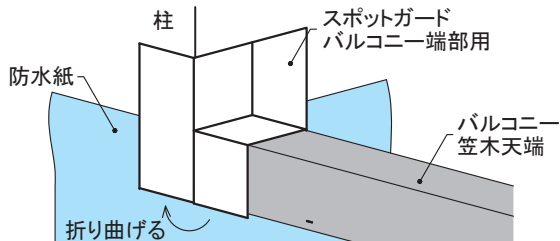
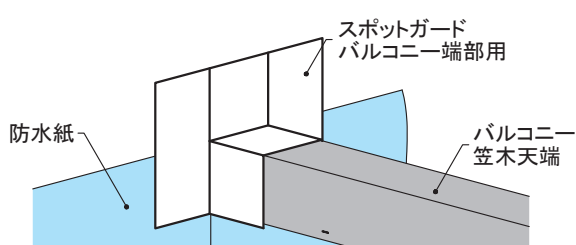


1 センターサイディング標準施工法

1-13 防水紙張り

■スポットガード バルコニー端部用の施工手順 手順①

●スポットガードバルコニー端部用を下图のように取り付けます。



＜バルコニーと外壁が同面でつながっている場合＞
スポットガードバルコニー端部用を溝に沿って折り曲げてから、かぶせてください。

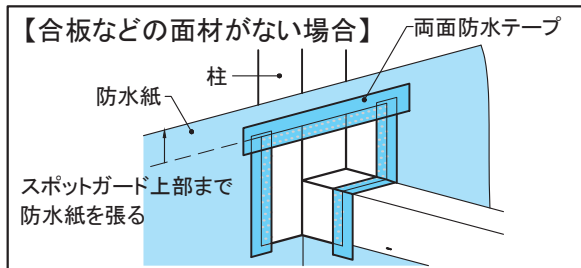
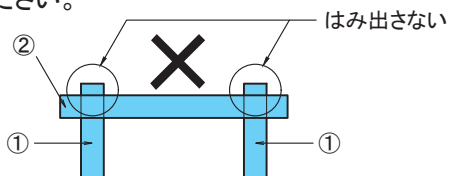
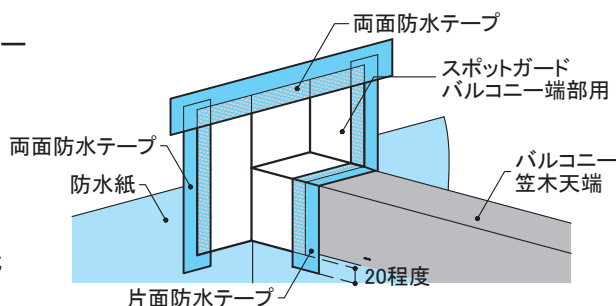
手順②

●幅50mm以上の防水テープでスポットガードバルコニー端部用を固定します。

●バルコニー笠木天端側は片面防水テープ、外壁側は両面防水テープを使用します。

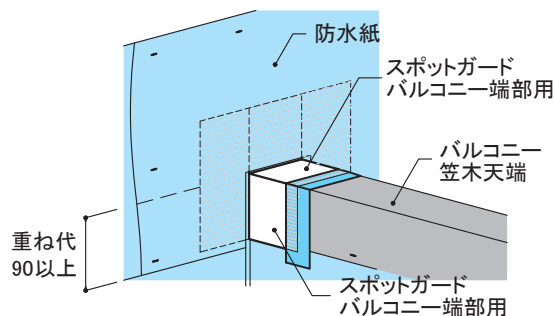
●外壁面に構造用合板などの面材がある場合は、面材に対して両面防水テープで固定し、面材がない場合は、防水紙をスポットガード上側まで張り、防水紙に対して両面防水テープで固定します。

●外壁面の両面防水テープは横、上の順番で施工し、縦貼りするテープの上端がはみ出ないように注意してください。



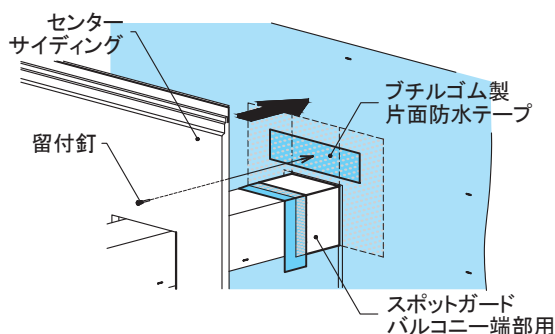
手順③

●両面防水テープの剥離紙を剥がし、スポットガードバルコニー端部用を覆うように防水紙を施工します。



施工上の注意事項

- タッカーや釘などで留め付けしないでください。
- 防水テープの施工は隙間ができないように、しっかりと圧着してください。
- センターサイディング施工時、留付釘、留付ビスでスポットガードを貫通しないようにしてください。やむを得ず貫通する場合は、当該箇所にブチルゴム製の片面防水テープを施工してください。



1 センターサイディング標準施工法

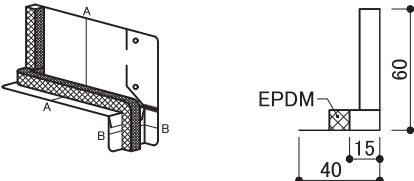
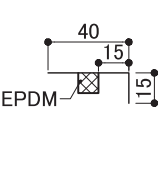
1-13 防水紙張り

9) バルコニー笠木部の防水紙の張り方

③ スポットルートを使用する場合

壁止まり部の防水措置として、1次防水(センターサイディング)と2次防水(防水紙)の間に浸入した雨水を拡散・滞留させることなく排出する「スポットルート」の使用をお勧めします。

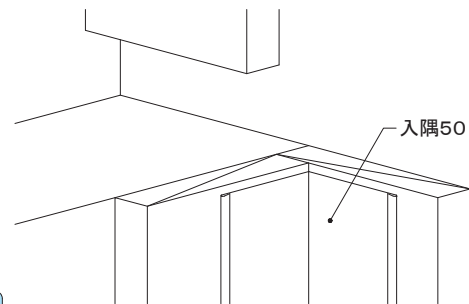
■ 製品仕様

品名	品番	断面図	
スポットルート 手すり壁 根巻き部材	FTN1000	A-A断面図	B-B断面図
			

■ 施工手順

手順① 入隅50の取り付け

- 入隅50を施工する前に外壁と手すり壁の取り合いが、防水紙と防水テープまたはスポットガートで十分に防水されていることを確認してください。
- 入隅50を取り付けます。



入隅50の取り付け

手順② スポットルートの取り付け

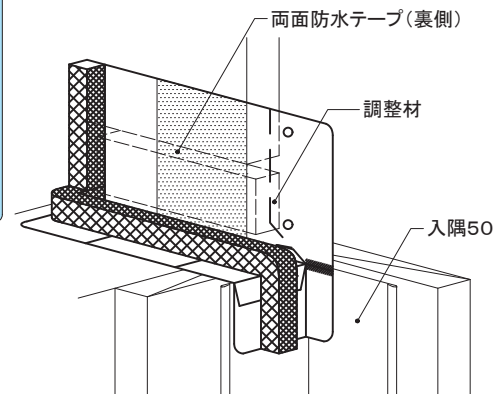
スポットルートの止水材は5mmに圧縮することで水密機能を発揮します。

以下の2点をご確認ください。

- センターサイディング裏面とスポットルートの隙間が5mm程度になっていることを確認してください。
- センターサイディング小口とスポットルートの隙間が3~5mmになっていることを確認してください。



注意

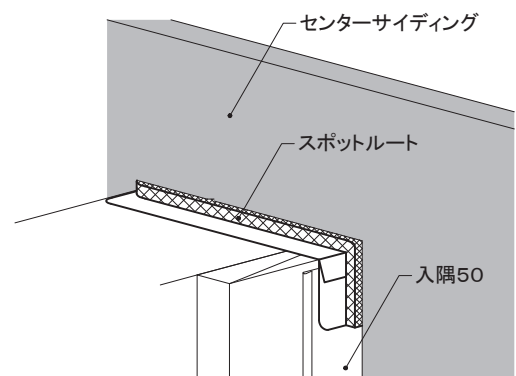


調整材とスポットルートの取り付け

- スポットルートの取り付け部分に合板やスペーサーなどの調整材を施工します。
- 両面防水テープを用いて防水層に孔をあけないように注意しながら、スポットルートを外壁側と手すり側に取り付けます。

手順③ 外壁側センターサイディングの施工

- スポットルートの止水材を5mmに圧縮するようにセンターサイディングを施工します。



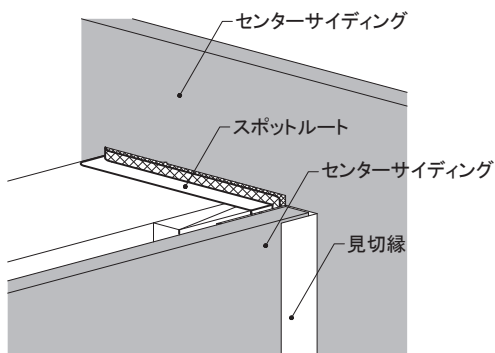
外壁側センターサイディングの施工

1 センターサイディング標準施工法

1-13 防水紙張り

手順④ 手すり壁側センターサイディングの施工

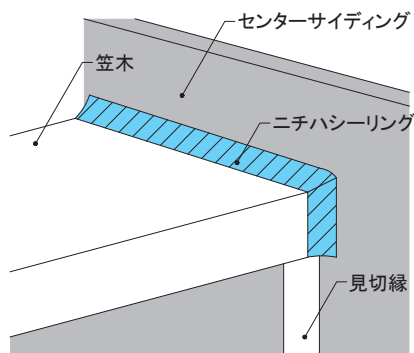
- 笠木の納まりに合わせてセンターサイディングを施工します。



手すり側センターサイディングの施工

手順⑤ 笠木の取り付け

- 外壁側センターサイディングと笠木の取り合いにニチハシーリングを施工します。

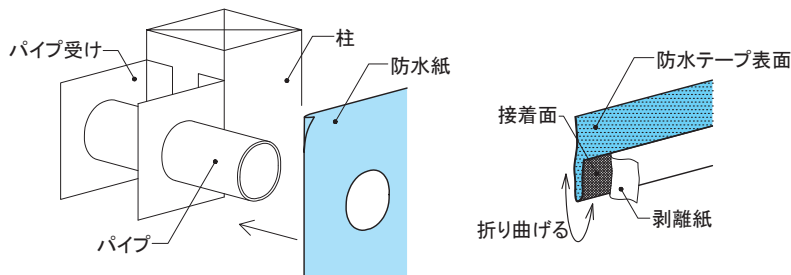


笠木の取り付け

10) 換気口まわりの防水紙の張り方

「防水テープ(片面ストレッチタイプ)」または「スポットガード」を使用し施工します。

① 防水テープ(片面ストレッチタイプ)を使用する場合

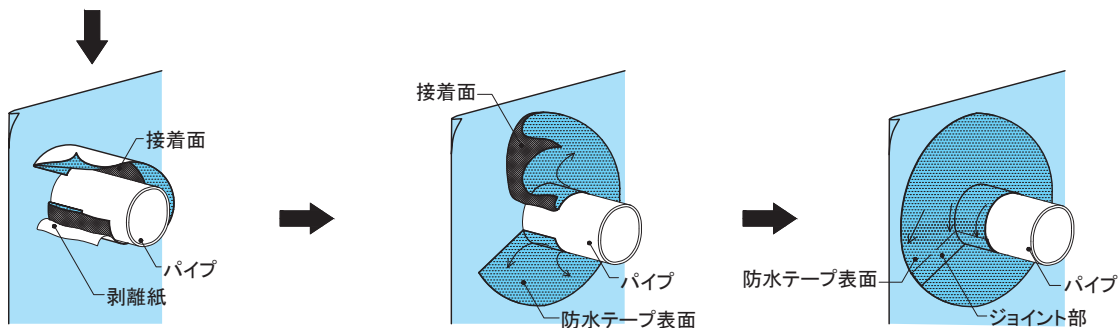


手順①

- 防水紙はパイプに干渉しないようパイプ周辺を切り取ってから施工します。
- 防水テープを必要長さ(パイプ周長+50mm程度)に切り取り、剥離紙が外側になるよう幅方向に折り曲げます。その後、片側の剥離紙(幅狭の剥離紙)を取り除いてください。

※カッターナイフで防水テープを切断する場合は、自背面(剥離紙面と反対面)を上にしてください。

※パイプまわりは45mm幅の片面防水テープ(ストレッチタイプ)が適当です。



手順②

- 折り返した防水テープのジョイント部を残し、パイプ面へ貼り付けます。

※パイプ入隅にテープが密着するように接着してください。

手順③

- もう一方の剥離紙を取り除き、シワが入らないように壁面へ貼り付けます。

※テープを伸ばす際は、幅方向とともに長さ方向にも追従させてください。

手順④

- 防水テープのジョイント部をしっかりと圧着し、水密性を確保してください。

※貼り終わりが上側のテープ勝ちとなるようにし、かつ4~8時の位置で終わるようにしてください。

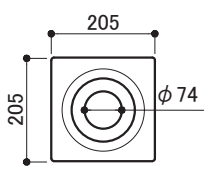
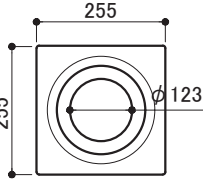
1 センターサイディング標準施工法

1-13 防水紙張り

② スポットガードを使用する場合

■ 製品仕様

スポットガード 配管用

商品名	配管用100	配管用150
品番	FSK2100	FSK21150
サイズ		
適応配管呼び径	φ 100mm	φ 150mm
配管外形寸法	φ 106~116mm	φ 152~166mm
材質	ポリエチレン+(中央部)特殊ゴム	



- スポットガード配管用に表裏はありません。
- 配管との間に隙間が発生するおそれや、製品の裂けなどが発生するおそれがあるため、適応呼び径以外の配管には使用しないでください。

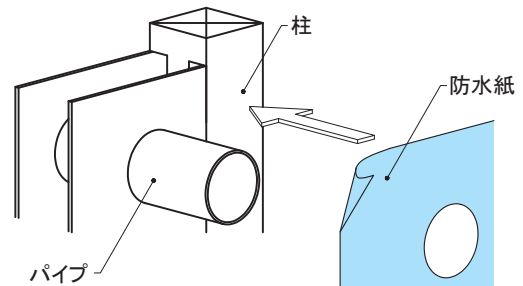
■ 施工手順(片面防水テープを使用する場合)

手順①

- 防水紙はパイプに干渉しないよう、パイプ周辺を切り取ってから施工します。



配管部防水紙の切り込みがスポットガード本体からはみ出る場合は防水テープで補修してください。

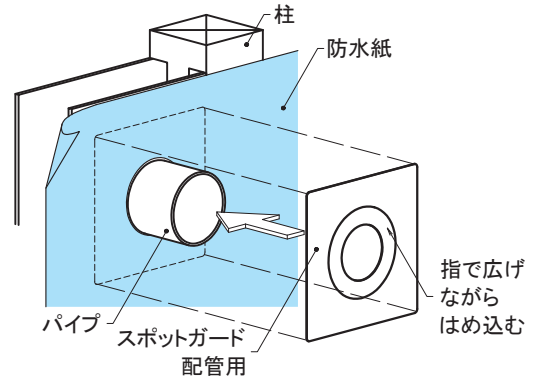


手順②

- スポットガード配管用本体の中心部を指で広げながら、適応サイズのパイプに奥まではめ込みます。

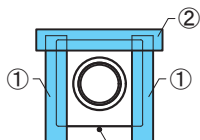


パイプ外周部に突起部がないか確認してください。突起がある場合は取り除いてからスポットガード配管用を施工してください。



手順③

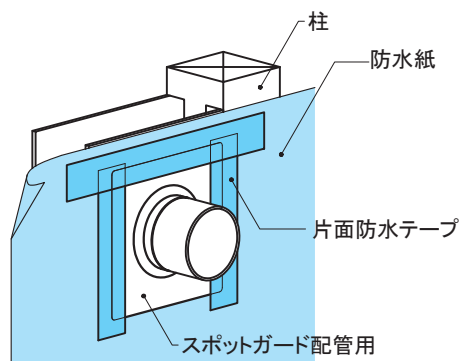
- パイプの奥まではめ込まれていることを確認後、スポットガードの周囲を片面防水テープで下図の順序に従い、貼り付けます。



製品下側は防水テープを施工しないでください。



縦貼りする防水テープの上端がはみ出さないように注意してください。



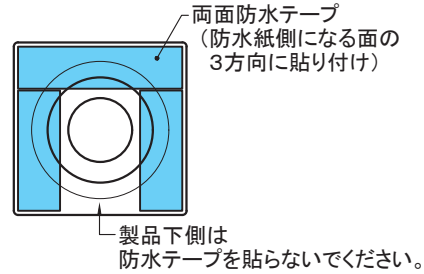
1 センターサイディング標準施工法

1-13 防水紙張り

■施工手順(両面防水テープを使用する場合)

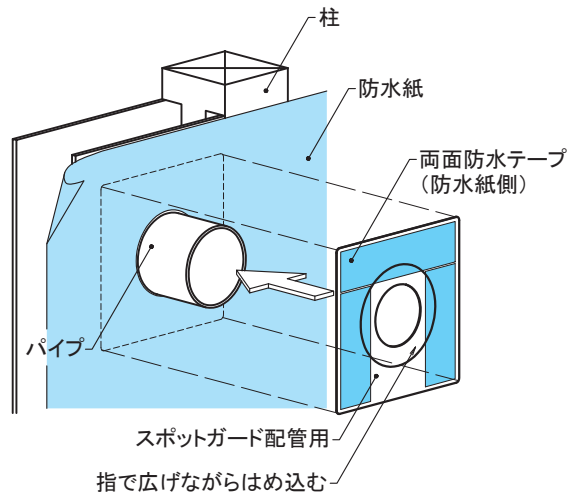
手順①

- スポットガード配管用の片側面に幅50mm以上の両面防水テープを左図のように3方向に貼り付けます。



手順②

- スポットガード配管用本体の中心部を指で広げながら、適応サイズのパイプに奥まではめ込みます。その後、両面防水テープの剥離紙を剥がし、防水紙にしっかり圧着してください。

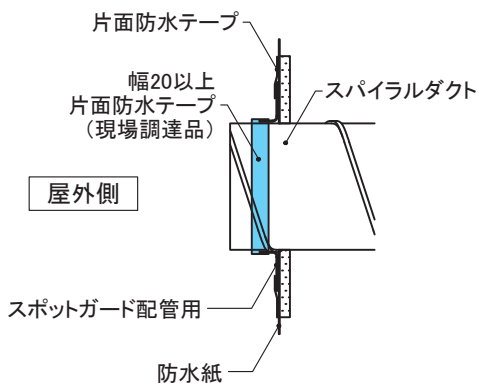


注意 パイプ外周部に突起部がないか確認してください。突起がある場合は取り除いてからスポットガード配管用を施工してください。

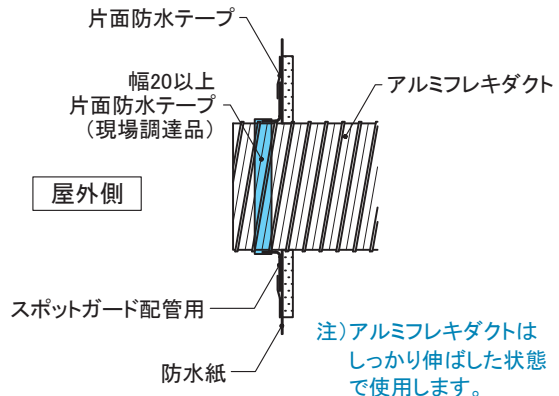
■使用するパイプがスパイラルダクトやアルミフレキダクトの場合

- スポットガード配管用を取り付ける対象のパイプがスパイラルダクトやアルミフレキダクトの場合は、スポットガード配管用の特殊ゴム部とダクトの周囲を幅20mm以上の片面防水テープにて処理します。

<スパイラルダクトの場合>



<アルミフレキダクトの場合>



注)アルミフレキダクトはしっかり伸ばした状態で使用します。



注意

- 一度差し込んだスポットガードは引き抜かないでください。
- 再度施工する場合は、新しいものに取り替えてください。
- タッカーや釘などで留め付けしないでください。
- 防水テープの施工は隙間ができないように、しっかりと圧着してください。

1 センターサイディング標準施工法

1-14 胴縁下地組み

1) 胴縁を使用する目的

- センターサイディングの留付下地(センターサイディングは原則として胴縁だけで保持する)。
- 通気空間の確保。
- 下地の不陸や段差の調整。
- 下地の動きとセンターサイディングの動きの違いを緩和し、釘打ち部分のひび割れを低減させる。
- 外壁面からの雨漏りを防止(等圧空間の確保によって雨水の吸引漏水を防止)。
- 躯体の沈み込みによる帯金物などの補強金物の変形や突き出しによる影響を防ぐ。

2) 胴縁の種類・寸法

※防耐火構造とする場合は、防耐火構造認定書の別添の通りとしてください。

- 胴縁の厚みは、18mm以上としてください。ただし、躯体(垂直に組まれている柱やスタッドなど)に沿わせて留め付ける場合は、15mm(ベイツガなど)でも可とします。

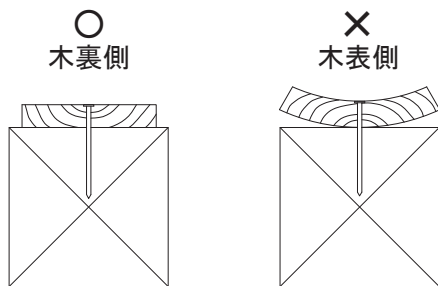
厚み18mm以上で使用可	スギ、エゾマツ
厚み15mm以上で使用可(※1、※2)	ベイツガ、アカマツ

※1 縦胴縁。 ※2 耐力面材がある場合の横胴縁。

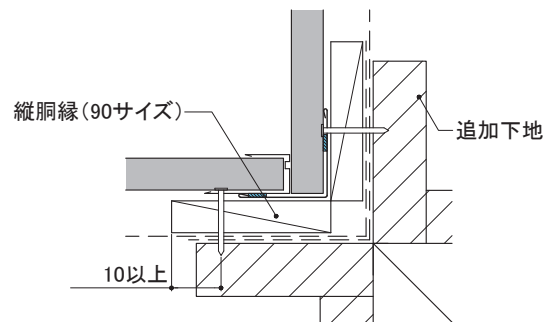
他の材質については、スギ18mm厚、ベイツガ15mm厚同等の保持力を確保した材とします。また、端部割れなどが生じやすい材は使用できません。

- 胴縁は曲がりのない乾燥材を使用します。曲がりがある場合は矯正し、釘を確実に躯体に留め付けます。
- 木胴縁の幅は45mm以上を標準とし、出入隅部や開口部まわりには倍幅の90mmを使用します。また、横張り施工の左右接合部、縦張り施工の場合の上下接合部も90mm幅の胴縁を使用します。ただし、段差が発生しないような調整を施す場合は45mm幅の2本組みを可とします。
- センターサイディングを留め付ける場合、胴縁の端あき距離は10mm以上とします。
- 縦胴縁90mm幅を留め付ける場合は、胴縁の木裏を外壁側に向けて、規定の釘またはビスで確実に留め付けます。

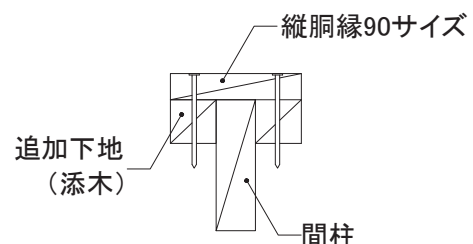
< 胴縁の反りについて >



木材は乾燥が進むと木表側に反る傾向があります。胴縁取り付け時は、木裏側から留め付けてください。

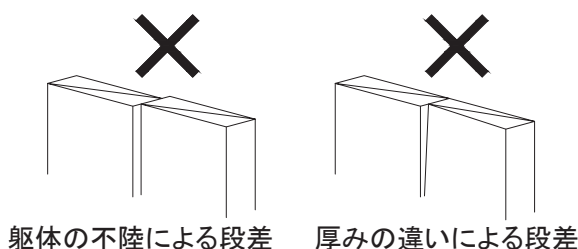


< 縦胴縁90サイズの添木 >



縦胴縁90サイズの割れ・反りが懸念される場合は、追加下地を設けてください。

< 45mm幅2本組みの場合の注意点 >



躯体の不陸による段差

厚みの違いによる段差

1 センターサイディング標準施工法

1-14 胴縁下地組み

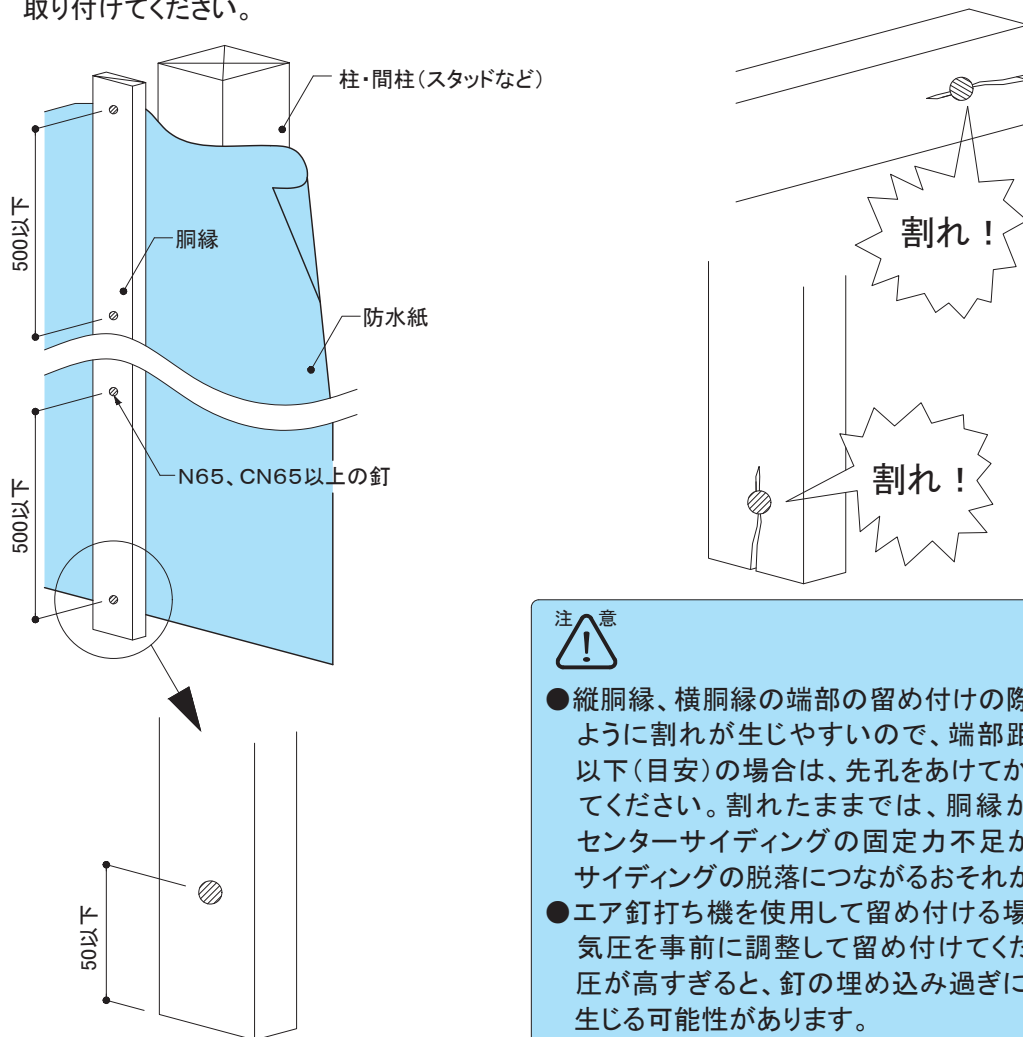
3) 胴縁の下地組みの施工(留め付け・間隔)

※防耐火構造とする場合は、防耐火構造認定書の別添の通りとしてください。

- 胴縁は、必ず防水紙を張った後に留め付け、センターサイディングの裏面が防水紙と密着しないようにします。
- 胴縁は、500mm以下の間隔で柱や間柱などの躯体に留め付けます。

胴縁間隔	500mm以下(躯体に留め付け)
留付釘・ビス	N65、CN65以上の釘・φ3.8mm×50mm以上の木ビス
留付間隔	500mm以下

- 胴縁端部への留め付けの際は、割れ防止のため、先孔をあけてから留め付けてください。
- 胴縁下地組みの仕上げ面は、目通りずれ2mm以下、不陸ずれ1.5mm以下となるように厚みを調整して取り付けてください。



注意



- 縦胴縁、横胴縁の端部の留め付けの際は、上図のように割れが生じやすいので、端部距離が50mm以下(目安)の場合は、先孔をあけてから留め付けてください。割れたままでは、胴縁が反ったり、センターサイディングの固定力不足からセンターサイディングの脱落につながるおそれがあります。
- エア釘打ち機を使用して留め付ける場合には、空気圧を事前に調整して留め付けてください。空気圧が高すぎると、釘の埋め込み過ぎによる割れが生じる可能性があります。



胴縁は必ず躯体(柱・間柱・スタッド)に留め付けてください。
耐力面材のみへの釘打ちやビス留めは行わないでください。
のちのセンターサイディングの脱落などの危険性があります。

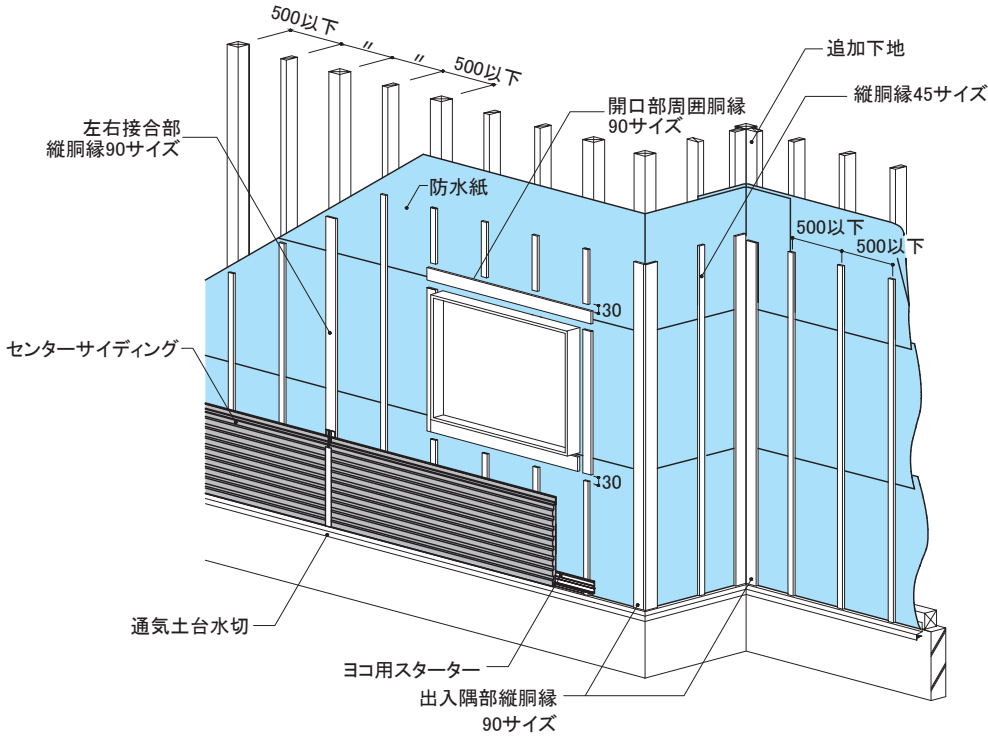
1 センターサイディング標準施工法

1-14 胴縁下地組み

4) 縦胴縁仕様

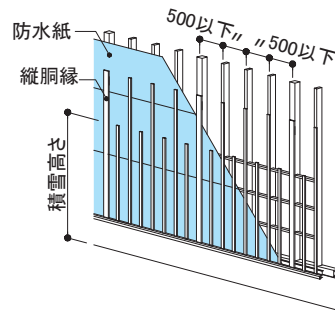
- 縦胴縁と開口部まわりの胴縁に30mm程度の隙間を設け、通気する構造とします。
- 入隅部や出隅部などで胴縁が躯体に留め付けられない場合は、追加下地を設け、必ず下地に留め付けます。

※防火構造とする場合は、防火構造認定書の別添の通りとしてください。

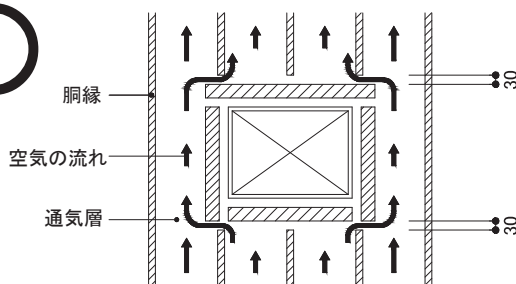


積雪地域での胴縁組み

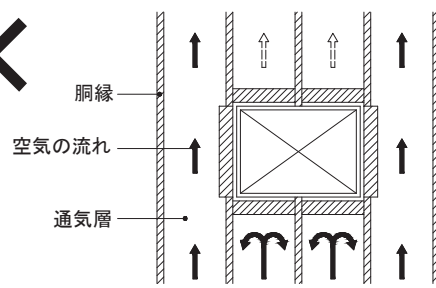
- 積雪地域では、雪の積もる高さまで、補強のための補強用胴縁を胴縁間に取り付けます。
- ※下屋根部分も同様の胴縁組みをしてください。



注意 開口部まわりの縦胴縁と横胴縁の取り合いは、30mm程度の隙間を設けて施工してください。通気がとれず不具合の原因となります。



開口部まわりに通気のための隙間がある



開口部まわりがふさがれ通気のための隙間がない

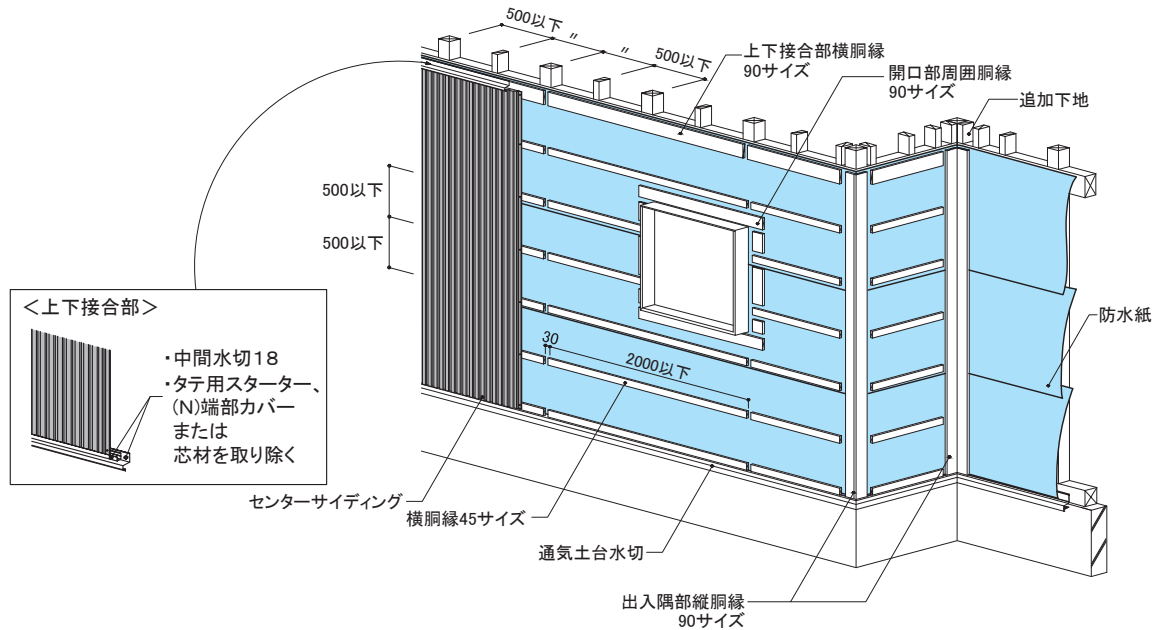
1 センターサイディング標準施工法

1-14 胸縁下地組み

5) 横胸縁仕様

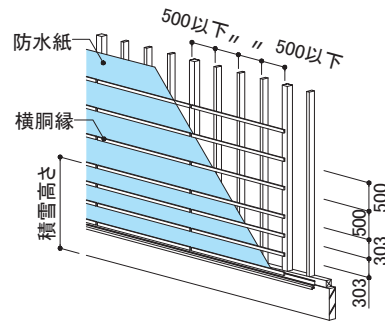
- 横胸縁は2000mm以下の間隔で30mm程度の隙間を設け、通気する構造とします。
- 横胸縁と出入隅部・開口部まわりの胸縁に、30mm程度の隙間を設け、通気する構造とします。
- 入隅部や出隅部などで胸縁が躯体に留め付けられない場合は、追加下地を設け、必ず下地に留め付けます。

※防火構造とする場合は、防火構造認定書の別添の通りとしてください。

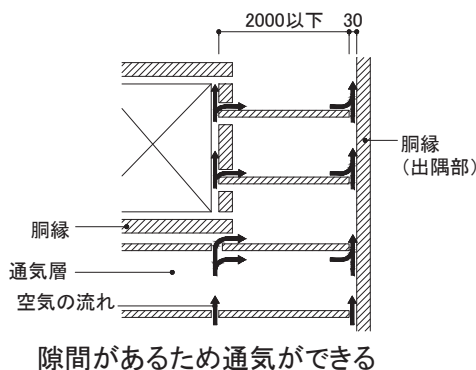


積雪地域での胸縁組み

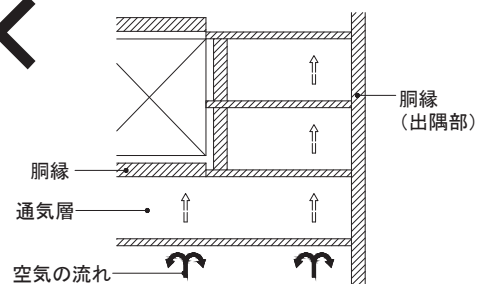
- 積雪地域では、雪の積もる高さまで補強のために横胸縁を303mm以下の間隔で留め付けます。
- ※下屋根部分も同様の胸縁組みをしてください。



注意 下図のように2000mm以下の間隔で30mm程度の隙間を設けて施工してください。通気ができないと不具合の原因となります。



隙間があるため通気ができる



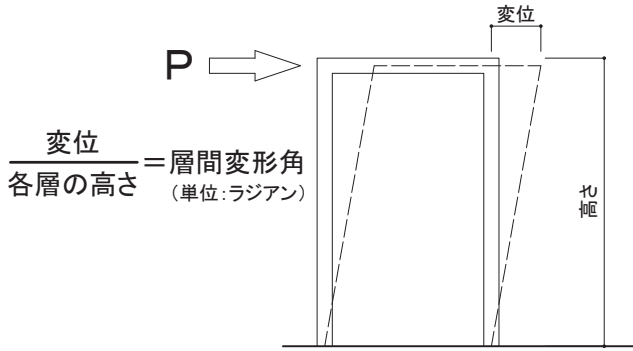
隙間がないため通気ができない

1 センターサイディング標準施工法

1-15 胴縁下地組み(鉄骨下地組み)

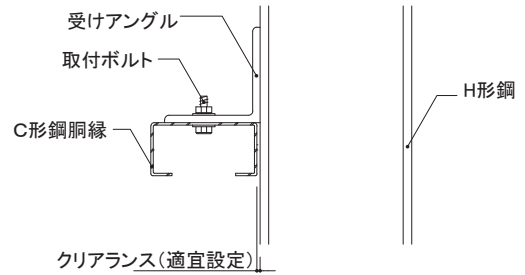
1) 基本事項

- 建物の層間変形角は1/120以下で設計してください。



2) 下地組みの寸法と精度

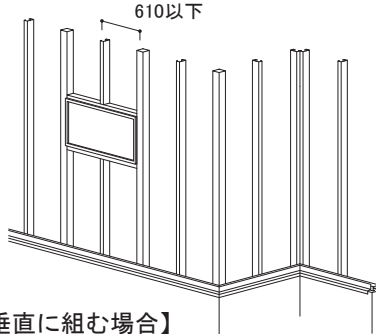
- 下地C形鋼は受けアングル(ねこ)を柱・梁に取り付け、受けアングルにボルト留めします。
(H形鋼などの柱や梁に直接溶接しないでください。)



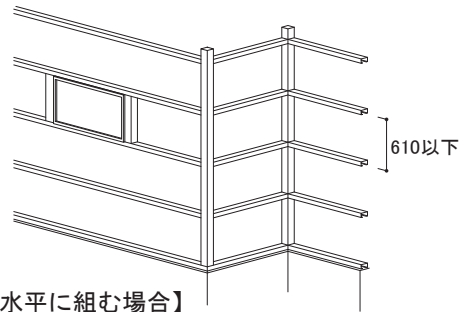
3) 鉄骨下地(C形鋼)の形状、寸法、間隔

- 下地C形鋼の厚みは、1.6~2.3mmのものを使用します。
(3.2mm厚以上になると、ビスの留め付けに手間がかかり、施工精度にも影響します。)
- 断面寸法はC-100×50×20mm以上を使用します。
- 下地C形鋼の間隔は610mm以下で取り付けます。
- 出隅部、入隅部、横張り時の左右接合部、縦張り時の中間水切部は□-100×100×2.3mm以上、またはC-100×50×20×1.6mm以上ダブル組みを使用します。

防耐火構造が必要な場合、認定によって構造が鉄骨下地の条件が異なります。認定書の別添でご確認ください。



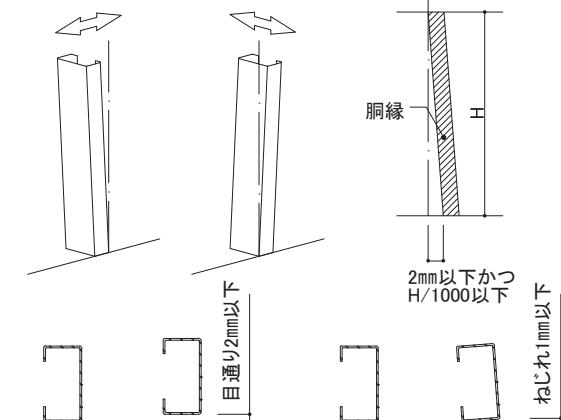
【鉄骨下地を垂直に組む場合】



【鉄骨下地を水平に組む場合】

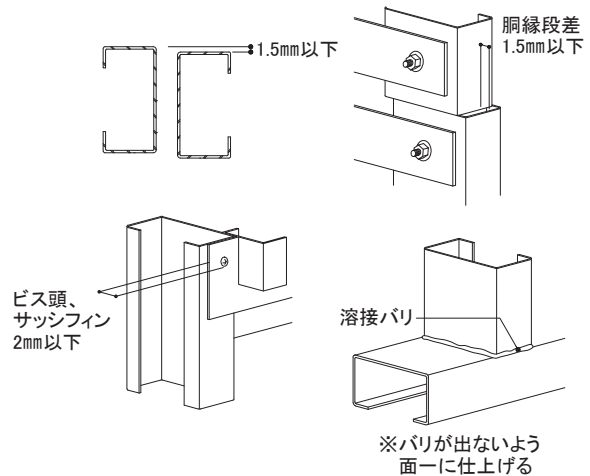
4) 下地C形鋼の立ち・目通り・ねじれ

- 下地C形鋼の立ちは2mm以下で、なおかつH/1000以下としてください。
- 下地C形鋼の通りのズレは、2mm以下としてください。
- 下地C形鋼のねじれは1mm以下としてください。



5) 不陸境界

- 下地ジョイント部のズレと、溶接部のバリ、ビス頭などによる不陸は下記の寸法範囲としてください。



1 センターサイディング標準施工法

1-16 センターサイディング・付属部材の留付方法

1) 先付け付属部材などの留め付け

- 受けなどの先付け付属部材は下表の専用釘、専用ビスで胴縁などに施工してください。

木造		JK440	φ2.3mm×38mm
鉄骨造	金属胴縁仕様	KN65	φ4.8mm×13mm
	直張り仕様		

2) センターサイディング本体の留め付け

- センターサイディング本体は下表の専用釘、専用ビスで胴縁などに施工してください。

<木造用>

釘	本体留付用	JKR640	φ2.5mm×43mm
	表面留め用(※1)	JKW840BまたはJKW840S	φ2.75mm×50mm
ビス	本体留付用(※2)	JK1150L	φ4.1mm×38mm
		JK1710	φ4.1mm×27mm
	補強用・表面留め用	JK1720	φ4.1mm×45mm

<鉄骨造用>

金属胴縁仕様	金属胴縁留付用	JK1140	φ4mm×19mm
	本体留付用	JK1510	φ4.5mm×10mm
	補強用	JK1740	φ4.5mm×27mm
直張り仕様	本体留付用	JK1140	φ4mm×19mm
	補強用・表面留め用(※1)	JK1750	φ4.2mm×27mm
	本体留付用 (せっこうボードなど表張りがある場合)	JK1760	φ4mm×45mm
	補強用 (せっこうボードなど表張りがある場合)	JK1770	φ5mm×60mm

※1 表面留め用は、実を切断し、表面から留め付ける場合にご使用ください。

例：縦張り時の張り始め・終わり、横張り時の軒天部など。

※2 防耐火認定が不要な場合はJK1710(φ4.1mm×27mm)をご使用ください。

防耐火認定が必要な場合は別添をご確認ください。

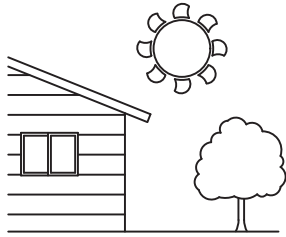
防耐火認定が必要な場合は防耐火構造認定書の別添をご確認ください。

1 センターサイディング標準施工法

1-17 シーリング工事の手順とポイント

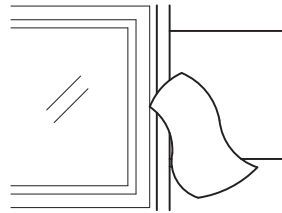
①天候確認

- シーリング工事は、施工時の気温が5℃以上の日に行ってください。
- 前日が雨天などの場合は、被着面が十分に乾燥している状態を確認のうえ、工事を行ってください。



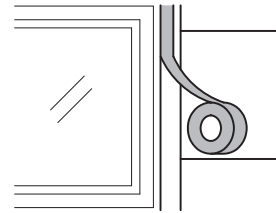
②被着面の清掃

- 被着面のゴミ・油分・水分は除去します。
- ※被着面のゴミ・油分・水分などはシーリングの接着不良をまねきます。



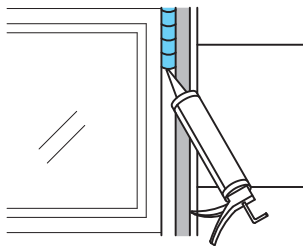
③マスキング養生

- 目地に沿ってマスキングテープを貼ってください。
- ※マスキングテープは、見切縁などの塗膜面をすべて覆うように、柄の凹凸に合わせ、端部ギリギリに貼ってください。(表面にシーリングを薄くのばして付着させると、短期間で白化する可能性があります。)



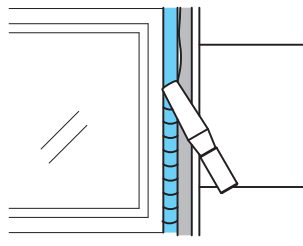
④シーリングの充填

- 目地幅にあわせたノズルで、気泡・打ち残り・隙間のないように、目地の隅々まで盛り上げながら、シーリングを十二分に充填してください。
- ※シーリングの充填不足は接着不良をまねきます。



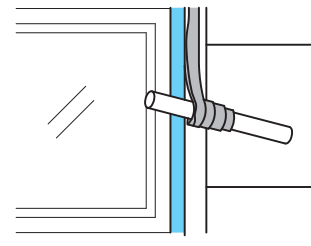
⑤ヘラ押し、ヘラ仕上げ

- ヘラ・ゴムなどを使用し、シーリングを押し込むようにして、表面を平滑にします。
- ※押し込みが不十分ですと、接着不良をまねきます。



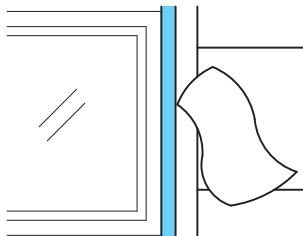
⑥マスキングテープの剥がし

- シーリングが硬化しない間に、マスキングテープを棒切れなどに巻き付けながら、丁寧に剥がしてください。



⑦清掃

- マスキングテープの糊や充填部分以外に付着したシーリングは、速やかにシーリングクリーナーを含ませた布で拭き取った後、乾いたウエスできれいに除去してください。
- ※清掃が不十分ですと、変色や汚れ付着の原因になります。



【マスキングテープ使用時の注意事項】

- 製品表面が乾燥している時に貼り付けてください。
- 貼り付け後は早期にシーリング作業を開始し、シーリング充てん後は直ぐにマスキングテープを剥がしてください。(貼り付け時間は長くとも2～3時間程度としてください。)マスキングテープを貼り付けたままで日をまたぐことは絶対に避けてください。
- マスキングテープが貼られた状態で、雨などで水に濡れると、糊残りを助長させますので、必ず天気の良い日に作業をしてください。
- マスキングテープが糊残りした場合は、お湯または水を含ませた布で、糊を膨潤させながら拭き取ってください。
- 推奨マスキングテープを使用された場合でも、多少の塗膜剥離が発生することがありますので、できるだけゆっくり丁寧に剥がしてください。



注意

- シーリング面に塗装した場合、塗膜にクラックが入ることがあります。
- シーリング用汚れ付着防止スプレーは、センターサイディング上に20cm程度の幅で霧状に飛散し、色艶むら、経年汚れ(親水性機能低下など)、経年変色などの不具合が発生する場合があります。特にニチハシーリングに対しては、密着性も悪いいため使用しないでください。
- メタルガード光シリーズのマスキングテープはカモイ製ミラクルミントをご使用ください。

1 センターサイディング標準施工法

1-18 補修塗装

1) 補修塗装手順

センターサイディングには専用の補修塗料を用意していますが、適切な補修がなされないと色違いなどの原因となるおそれがあります。使用に際しては下記に注意してください。

① 天候確認

- 補修の前日および当日が降雨・降雪の場合は補修塗装を行わないでください。
- 施工時の気温が5℃以上の時に行ってください。

② 色調の確認

- 色が均一になるまで十分に振った後、端材などに試し塗りをして色調を確認してください。

③ 補修面の処理

- 汚れ、埃、水分などを除去してください。

④ 補修塗装

- 補修塗料には攪拌球がセットされています。カチカチと音がするまでよく振ってからご使用ください。
- ※ 補修液の中には攪拌球が入っていないものもあります。よく振ってからご使用ください。
- 必要以上に塗り広げないように、かつ、厚く塗らないようにしてください。

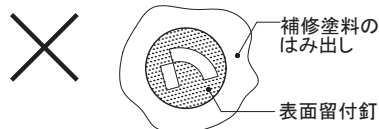
※ 補修塗料は色調をセンターサイディングに合わせてありますが、塗布量・塗布方法・艶などにより補修箇所が目立つ場合がありますので、塗布面積は必要最小限としてください。
塗布面積が大きくなると違和感が生じるおそれがあります。

補修塗料の蓋中央にある色見本と同色になるまで充分に振り、必ず端材などに試し塗りをしてください。
特に多色品は塗布する箇所に近い色を選定してください。



2) 釘頭の補修塗装

センターサイディング全ての釘頭・ビス頭の補修は、目立つ箇所のみとし、周辺に塗り広げないよう最小限に塗布します。

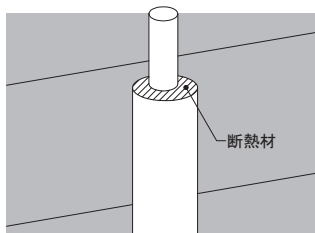


釘頭より広く塗り広げたり、厚く塗布しないでください。広げたり、塗布量が多くても、施工途中は足場やネットがあり暗いのでわかりにくい場合があります。足場などが外れると外観上かなり目立つ場合があります。丁寧に塗布してください！

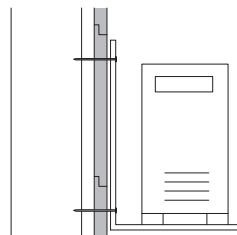
1-19 施工完了後の注意事項

- 施工後は必ず清掃して、施工中に付着した土砂・埃・鉄粉などを十分に除去してください。また、鋼板の切断面に生じたバリは取り除いてください。ケガをする可能性があります。
- 施工後に器具を取り付ける場合は、下記に注意してください。

ボイラーの熱風・温水配管など、センターサイディングに高熱がかかるおそれのある場所には、せっこうボード、断熱材で周囲を覆いセンターサイディングに熱が伝わらないようにしてください。



エアコンや給湯器などの後付け部材を外壁に取り付ける場合は、センターサイディングに直接固定することは避け、必ず躯体の柱・間柱に固定してください。



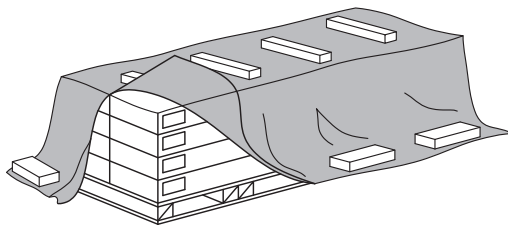
- バランス型風呂釜の排気口の上方60cm、下方および側方15cm以内には使用しないでください。
- センターサイディングに穴をあけた場合は、適切な防水処理をおこなってください。

1 センターサイディング標準施工法

1-20 保管・取り扱い・運搬上の注意事項

1) 保管

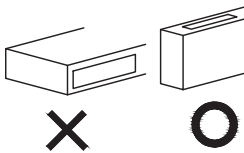
- センターサイディングの保管は原則として室内の水平な場所とし、必ずパレットまたは飼い木の上に置いてください。飼い木の間隔は1m以下としてください。立て掛け保管は危険であり、反りや変形の原因にもなります。
 - 水濡れの可能性のある施工現場などでは、必ず防水用のシートを掛けて保管してください。センターサイディングは地面に直接置かず、水に濡らさないように保管してください。濡れてしまうと、反りや変形、汚れの原因となります。
 - 強風時にセンターサイディングが風で飛ばされないように注意してください。
- ※センターサイディングは屋外で使用されることを前提に、風雨に十分耐えられる設計となっていますが、密閉された高温多湿などの特異条件下では塗膜のふくれや錆びが発生し、早期腐食の原因となります。乾燥した状態で保管し、水濡れしやすい場所や高温多湿の場所に保管しないでください。



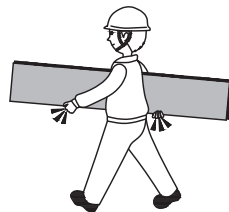
注意 センターサイディングは地面に直接置かず、水に濡らさないように保管してください。

2) 取り扱い

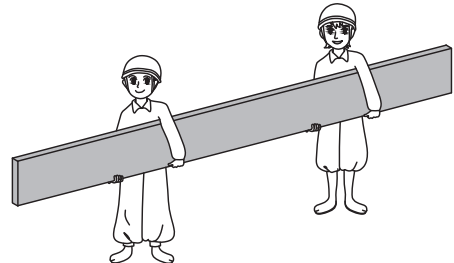
- センターサイディングは折れ曲がらないように丁寧に扱ってください。持ち運びは、1枚時もケース時も小端立てにして静かに運んでください。また、PPバンドを持たないようにしてください。特に4000mmを超えるサイズの場合は2人で小端立てにして運んでください。
- 強風時にセンターサイディングが風で飛ばされないように注意してください。
- 汚れた手で触らないようにしてください。
- 持ち運び時は周囲・足下などに注意してください。



注意 センターサイディングは小端立てて扱ってください。



注意 持ち運びの際に小端立てにしないと、センターサイディングが変形するおそれがあります。



注意 本体が4000mmを超える場合は、2人で小端立てにしないと変形するおそれがあります。

3) 運搬

- 積み下ろしの際にセンターサイディングの角や表面などを損傷しないように注意してください。
- 荷積みは平積みとし、汚れないように注意してください。
- 急ブレーキなどによる損傷を防ぐため、角に当て板などをした上でロープ・ワイヤーなどでしっかりと固定してください。
- 吊り上げる時は、ワイヤー掛けなどでセンターサイディングが損傷しないよう注意してください。

注意 保管・取り扱い方法を間違えると、不具合が発生するおそれがあります。その場合弊社では免責となりますので注意してください。

2 各部の基本納まり図

2- 1	土台部
2- 2	上下接合部
2- 3	左右接合部
2- 4	入隅部
2- 5	出隅部
2- 6	開口部 <ul style="list-style-type: none"> ①上側 ②下側 ③左右側 ④付属部材の加工例 N・S見切コーナー ⑤付属部材の加工例 留め加工 ⑥付属部材の加工例 中間水切18 ⑦インナーシール工法 ⑧廻り縁納め 鉄骨造直張り仕様
2- 7	オーバーハング部
2- 8	軒天部
2- 9	軒天部(軒・けらばの出寸法がない場合)
2-10	笠木部
2-11	下屋根部
2-12	センターサイディングとモエンサイディングの張り分け

※シン・ネオスパンはNS型と同じ本体形状です。
 ※シン・スマートフラットはM型と同じ本体形状です。

2 各部の基本納まり図

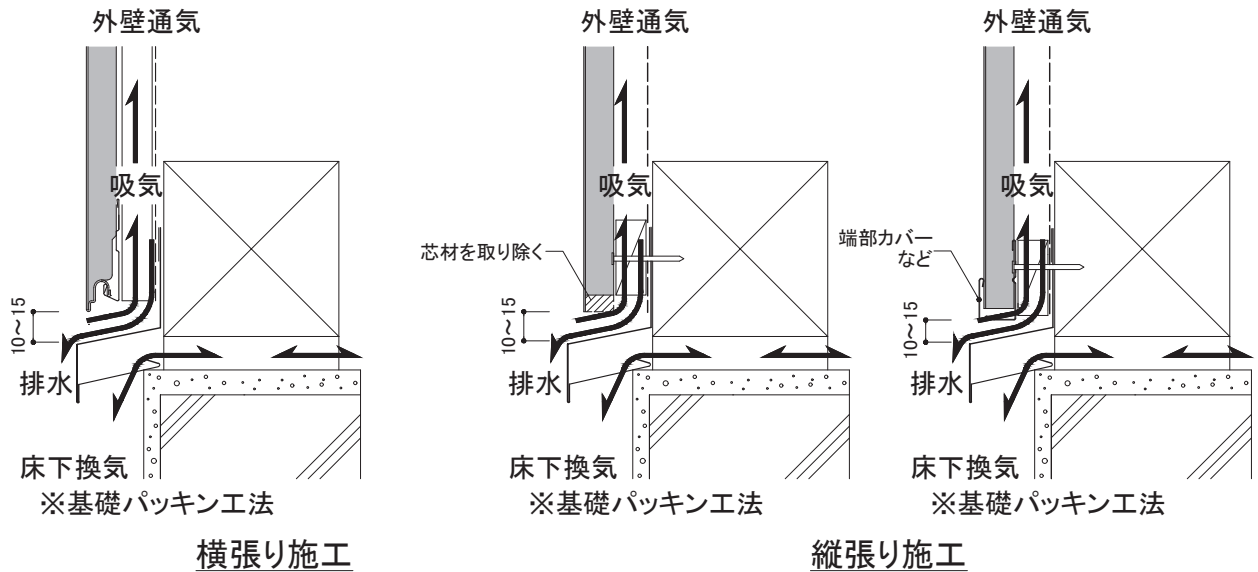
2-1 土台部

1) 基本納まり

土台部は外壁通気構法の「吸気」機能、浸入水や結露水などの「排水」機能を発揮するように施工してください。

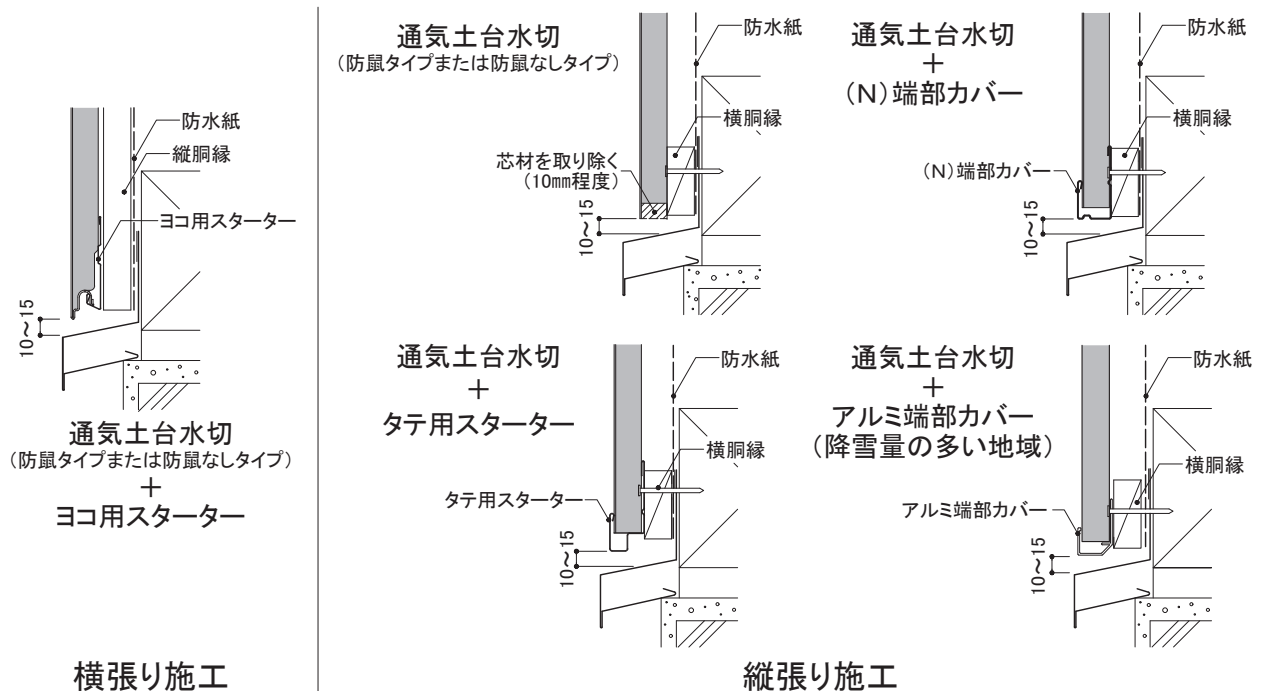
- 土台水切はセンターサイディングの目地ズレなどの不具合を防ぐため、必ず水平に取り付けます。
- センターサイディング下端と土台水切の隙間は必ず10～15mm確保し、シーリングなどでふさがらないでください。

注意 センターサイディング下端と土台水切の隙間をふさがらないでください。吸気・排水ができなくなります。



2) 土台部の付属部材

- 縦張りの場合、降雪量の多い地域で鋼板製の端部カバーなどを使用すると、積雪重量によりカバー部が変形するおそれがあります。降雪量の多い地域では鋼板製の(N)端部カバーや見切縁を使用せず、芯材を取り除くかアルミ端部カバーを使用してください。



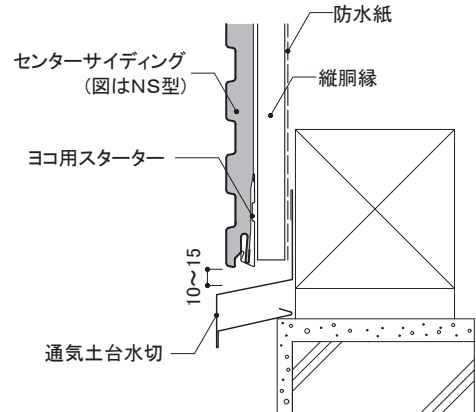
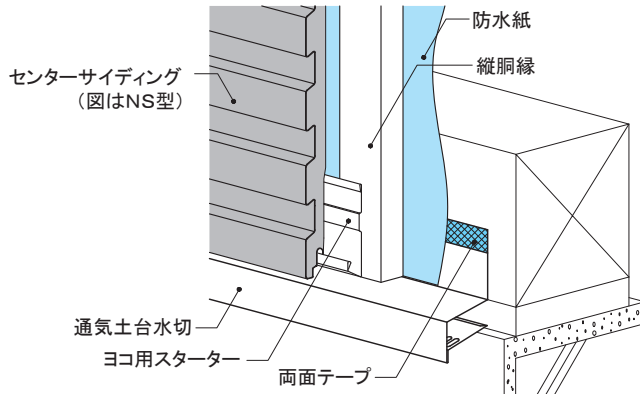
2 各部の基本納まり図

2-1 土台部

3) センターサイディングの留め付けについて

① 横張りの場合

- ヨコ用スターターは、水平に十分留意して木下地の場合は専用釘(φ2.3mm×38mm)を用いて500mm以下の間隔で、鉄骨下地の場合は専用ビス(P35)を用いて610mm以下の間隔で胴縁に留め付けます。

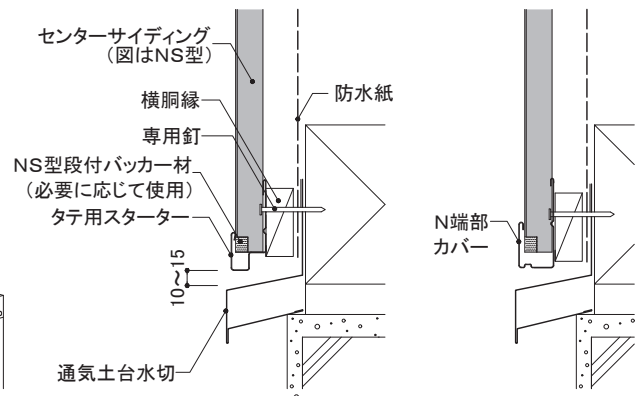
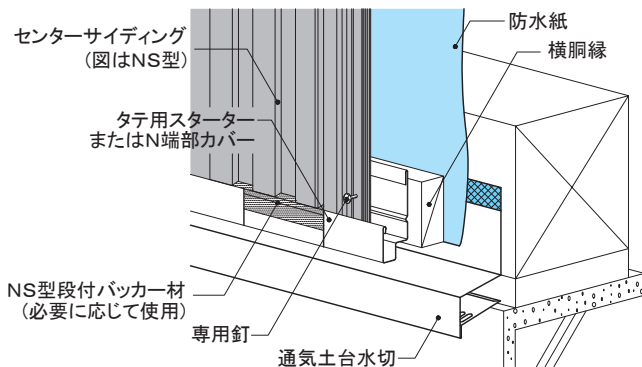


② 縦張りの場合

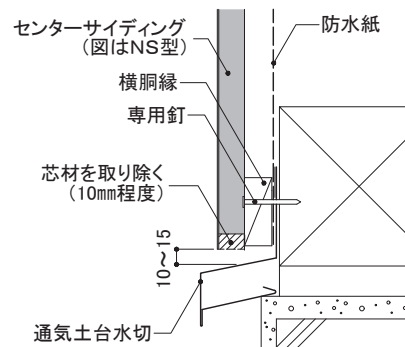
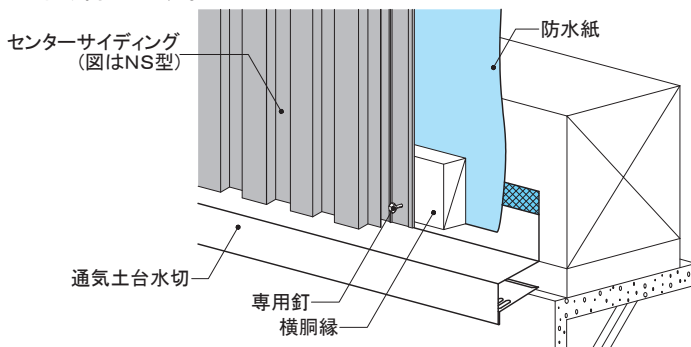
- 縦張りは本体のみで施工する仕様と、タテ用スターターや(N)端部カバーを使用して施工する仕様があります。
- 使用する(N)端部カバーや見切縁は型によって表のように異なります。見切縁を使用する場合は、見切縁底部に水抜き穴(φ10mm×300mm間隔)を現場加工します。
- 端部カバーなどは、水平に十分留意して、木下地の場合は専用釘(φ2.3mm×38mm)を用いて500mm以下の間隔で、鉄骨下地の場合は専用ビス(P35)を用いて610mm以下の間隔で胴縁に留め付けます。

表 部材の設定

M型、NS型、ST型、 F型、シリーズ、FB型、 FN型、A型、D型	(N)端部カバー
※(N)端部カバー以外の見切縁は、水抜き穴(φ10mm×300mm間隔)を現場加工します。	
M型、NS型、ST型、FN型	タテ用スターター



- 本体のみで施工する仕様は切断部が露出します。芯材の吸水防止のために、切断部の芯材を10mm程度取り除きます。



2 各部の基本納まり図

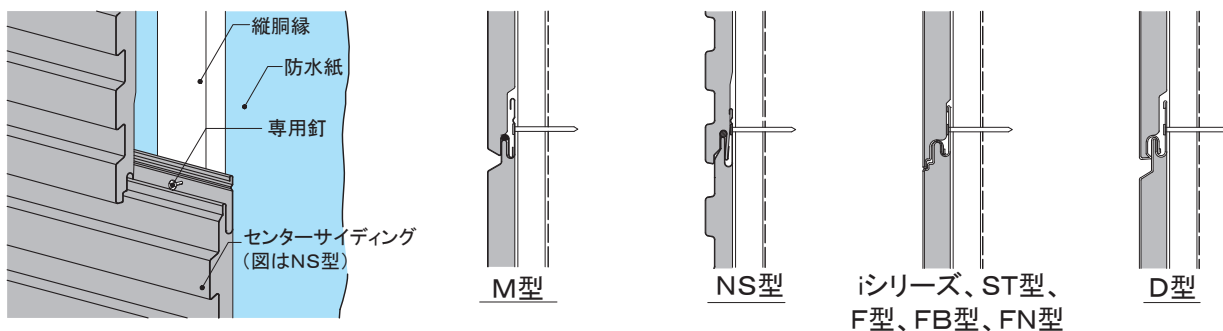
2-2 上下接合部

1) 基本納まり

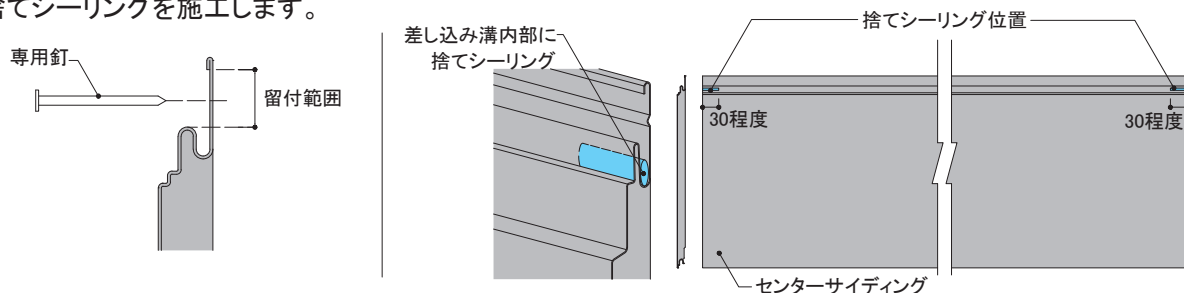
横張り施工は本体実による嵌合、縦張り施工は水切仕様が標準です。

① 横張りの場合

- センターサイディングは水平に十分留意し、実を確実に嵌合させ、木下地の場合は専用釘(φ2.5mm×43mm)で、鉄骨下地の場合は専用ビス(P35)で胴縁に留め付けます。

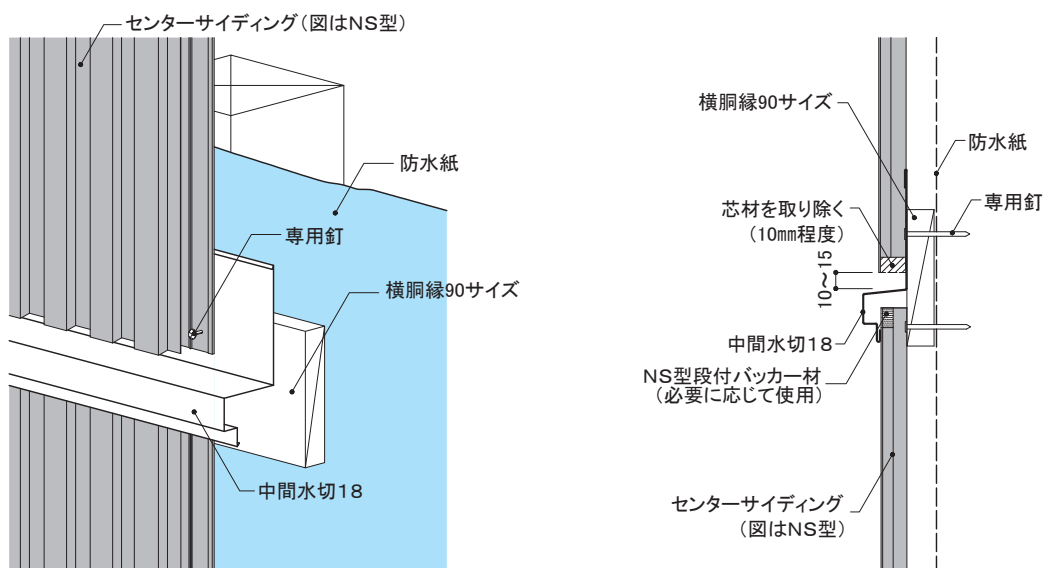


- 専用釘、専用ビスの留付位置は下図となります。
- センターサイディングの雨水の横走りを防止するため、下図のように本体左右端部の差し込み溝内部に捨てシーリングを施工します。



② 縦張りの場合

- 本体のみで施工する仕様は切断部が露出します。芯材の吸水防止のために切断部の芯材を10mm程度取り除きます。
- 中間水切は下側のセンターサイディング施工後に取り付けます。その際、中間水切と下側のセンターサイディングとの間に10mm程度の隙間を設けて施工します。



防耐火認定が必要な場合は、基本的に端部カバーなどを使用した納まりとしてください。

2 各部の基本納まり図

2-2 上下接合部

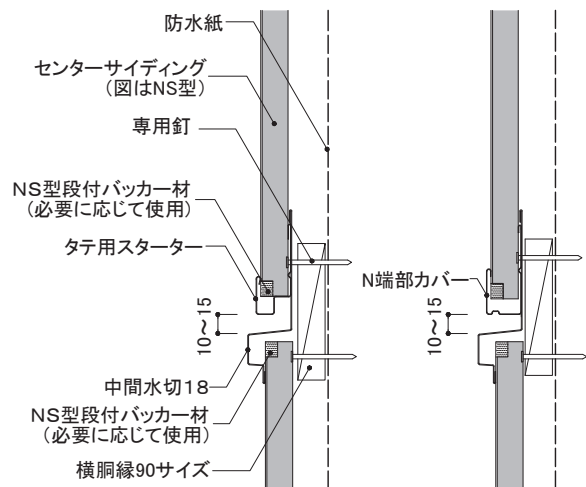
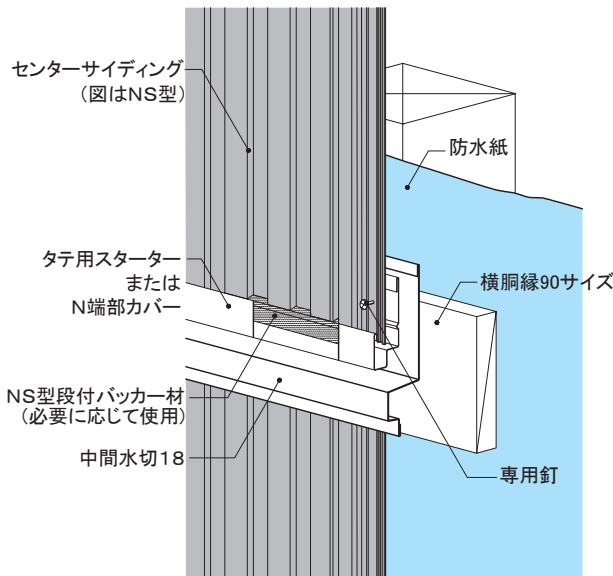
- 中間水切、タテ用スターター、(N) 端部カバー、見切縁は型によって表のように異なります。水平に十分留意して、木下地の場合は専用釘(φ2.3mm×38mm)を用いて500mm以下の間隔で、鉄骨下地の場合は専用ビス(P35)を用いて610mm以下の間隔で留め付けます。

表 部材の設定

M型、NS型、ST型、 F型、FN型、A型	中間水切18	(N)端部カバー
--------------------------	--------	----------

※N端部カバー・端部カバー以外の見切縁は、水抜き穴(φ10mm×300mm間隔)を現場加工します。

M型、NS型、ST型、FN型	中間水切18	タテ用スターター
----------------	--------	----------



アルミ端部カバーを使用すると耐火構造認定の対象外となるのでご注意ください。

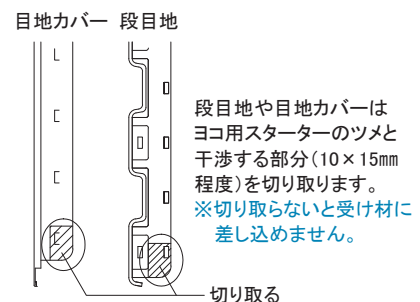
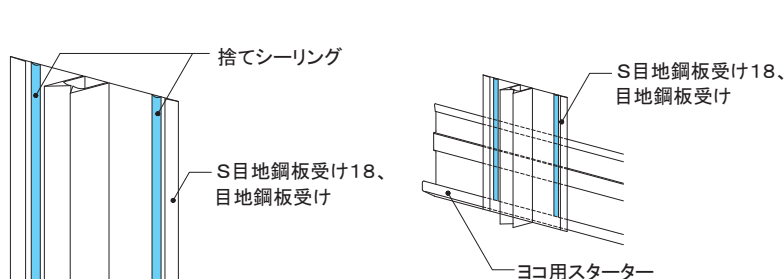
2-3 左右接合部

1) 基本納まり

横張り施工は目地受け材と目地カバーによる接合、縦張り施工は本体実による嵌合が標準です。

① 横張りの場合

- S目地鋼板受け18、目地鋼板受けを、木下地の場合は専用釘(φ2.3mm×38mm)で、鉄骨下地の場合は専用ビス(P35)で1m以下の間隔で胴縁に留め付けます。
- S目地鋼板受け18、目地鋼板受けの上下端部は継ぎ手加工部に差し込んで継ぎます。
- 本体施工後、目地カバーや段目地などを受け材に差し込みます。浮き上がり防止のため、十分に押さえて固定します。
- 土台部はヨコ用スターター勝ちとし、目地カバーの差し込み部のヨコ用スターターとぶつかる部分を10×15mm程度切り落として差し込みます。

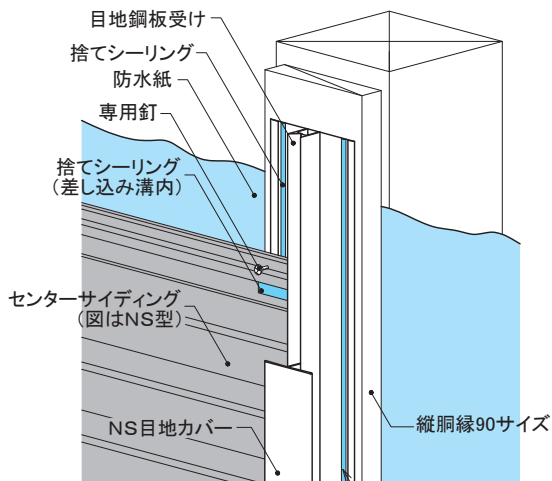


2 各部の基本納まり図

2-3 左右接合部

- センターサイディングの留め付けは縦胴縁の端空きを10mm以上確保します。また、センターサイディングと受け材のカバー差し込み部は突き付けとせず、3mm程度の隙間を設けます。

<目地受け+目地カバー>



捨てシーリングの施工位置

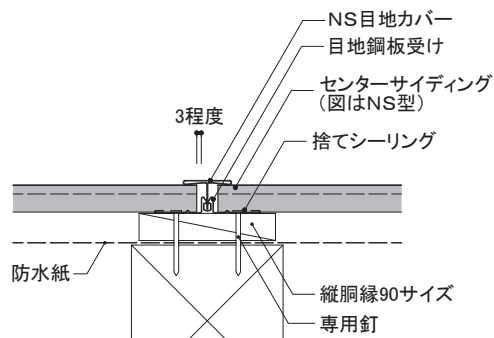
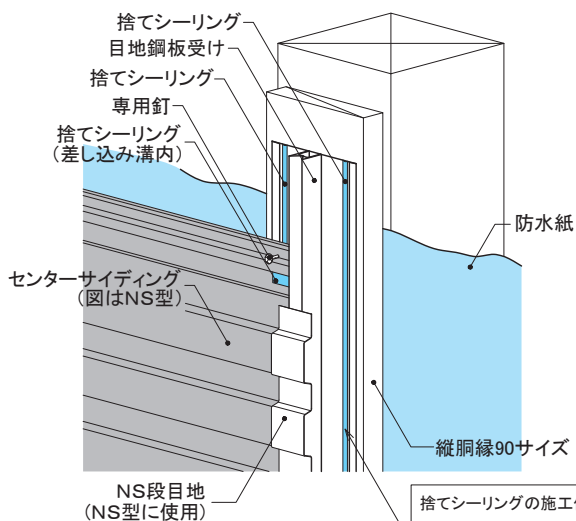


表 部材の設定

型	受け材	目地カバー
NS型	目地鋼板受け	NS目地カバー
M型、iシリーズ、ST型、F型、FB型、FN型、D型	S目地鋼板受け18	S目地カバー

<目地受け+段目地>



NS段目地 (NS型に使用)

捨てシーリングの施工位置

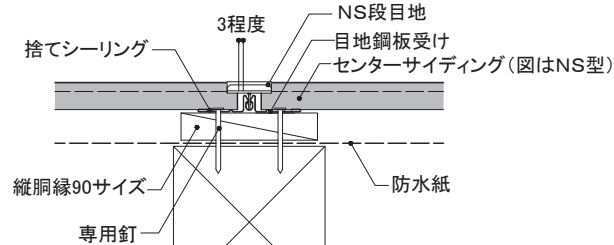


表 部材の設定

型	受け材	目地カバー
NS型	目地鋼板受け	NS段目地
iシリーズ、FB型設定品	S目地鋼板受け18	段目地

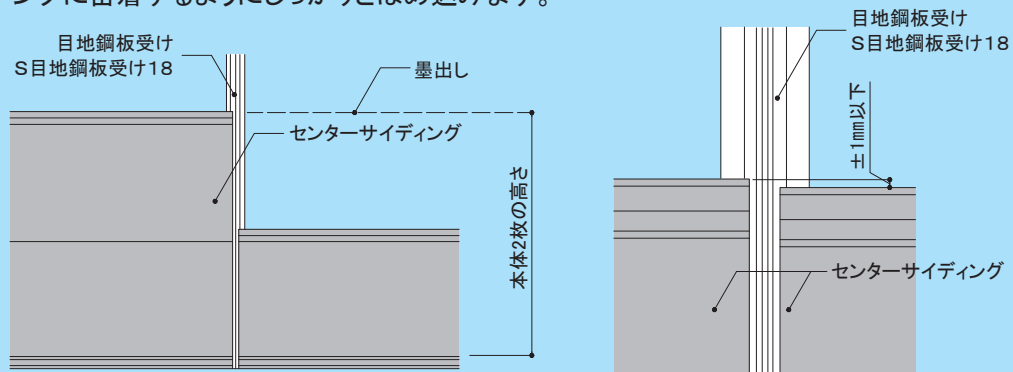
2 各部の基本納まり図

2-3 左右接合部

段目地は以下の点にご注意ください。

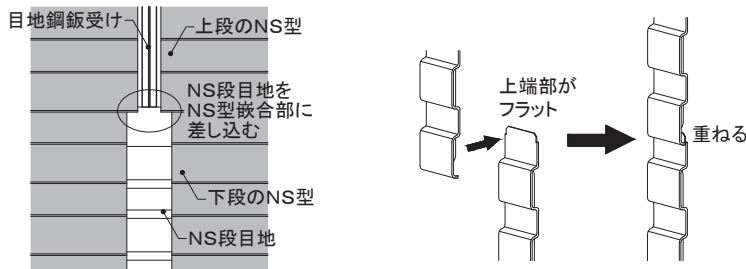


- ①不陸を調整し、胴縁を取り付けます。
- ②土台水切と垂直に墨出しを行い、その墨に従って受け材をまっすぐに留め付けます。
- ③センターサイディング2枚ごとの高さで墨出しを行い、センターサイディング左右の高さを合わせながら留め付けます。センターサイディング左右の段差は±1mm以下とします。
- ④捨てシーリングを施工し、段目地を下の段から取り付けます。段目地は一度差し込むと外せないで、事前に位置合わせを行ってから取り付けます。段目地は止水のため、センターサイディングに密着するようにしっかりとめ込みます。



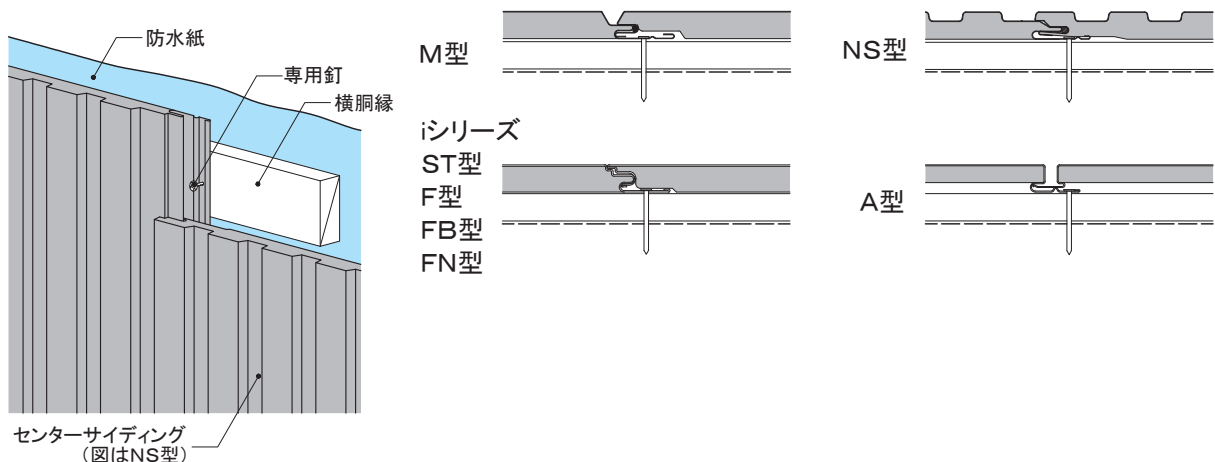
●NS段目地は必ず下から施工します。

NS型本体の嵌合部にNS段目地の上端を差し込み、上段のNS段目地を重ねて取り付けます。



②縦張りの場合

●実を確実に嵌合させ、木下地の場合は専用釘(φ2.5mm×43mm)で、鉄骨下地の場合は専用ビス(P35)で胴縁に留め付けます。



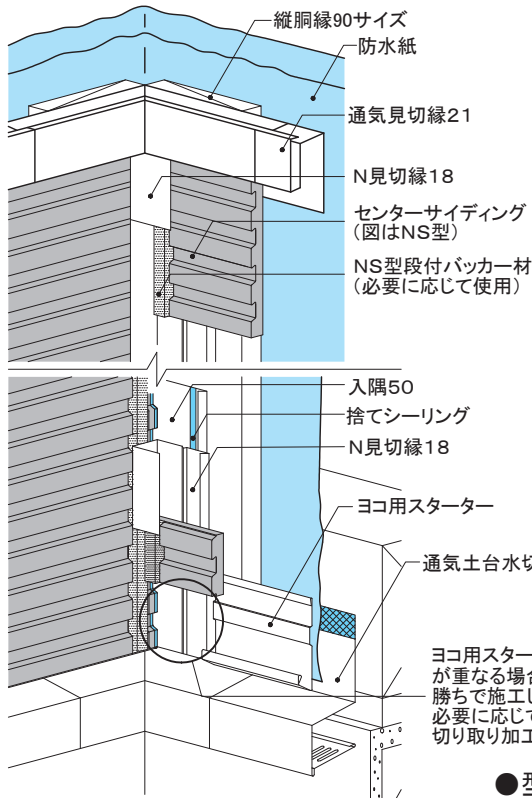
2 各部の基本納まり図

2-4 入隅部

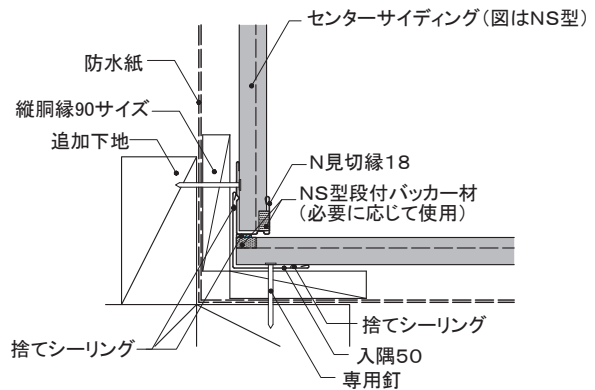
1) 基本納まり

- 横張り施工、縦張り施工ともに見切縁仕様が標準です。
- 胴縁の留付下地として必ず追加下地を入れます。
- 入隅部は多数の部材が施工される部位です。部材どうしは可能な限り重ならないように、部材を切り欠きながら施工します。
- 入隅50、見切縁は、木下地の場合は専用釘(φ2.3mm×38mm)で、鉄骨下地の場合は専用ビス(P35)で胴縁に留め付けます。入隅50は1m以下、見切縁は500mm以下で留め付けます。

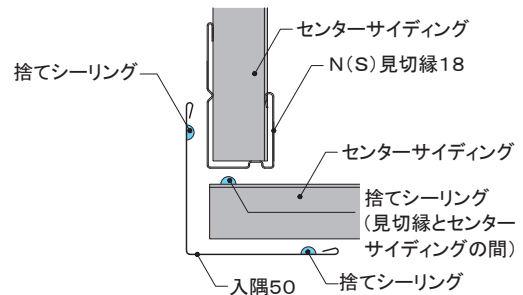
①横張りの場合



ヨコ用スターターと見切縁が重なる場合は、見切縁勝ちで施工します。必要に応じて見切縁を切り取り加工します。



●捨てシーリングを下図のように施工します。



●型によって使用する部材が異なります。(縦張り)

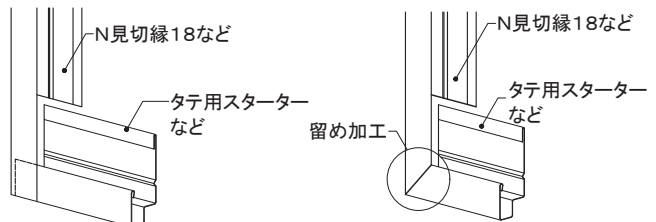
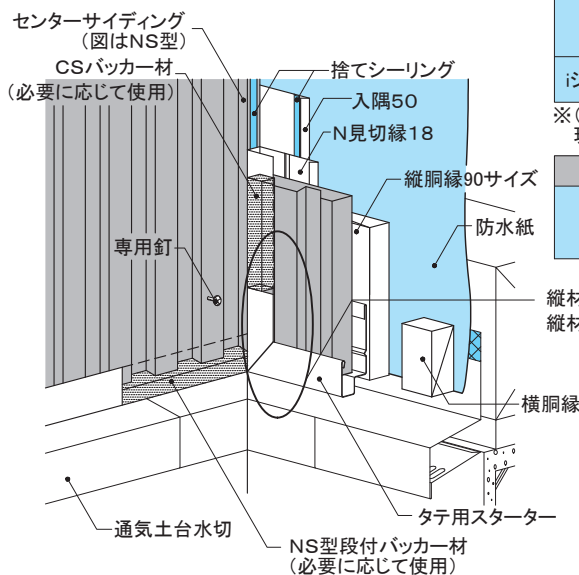
型	横方向の見切縁※	縦方向の見切縁
M型、NS型、ST型、FN型	N端部カバー	N見切縁18
いシリーズ、F型、FB型、A型	端部カバー	S見切縁18

※(N)端部カバー以外の横方向の見切縁は、水抜き穴(φ10×300mm間隔)を現場加工してください。

型	横方向の見切縁※	縦方向の見切縁
M型、NS型、ST型、FN型	タテ用スターター	N見切縁18

縦材の見切縁と横材の端部カバーが重なる場合は、縦材の見切縁勝ちを基本とします。

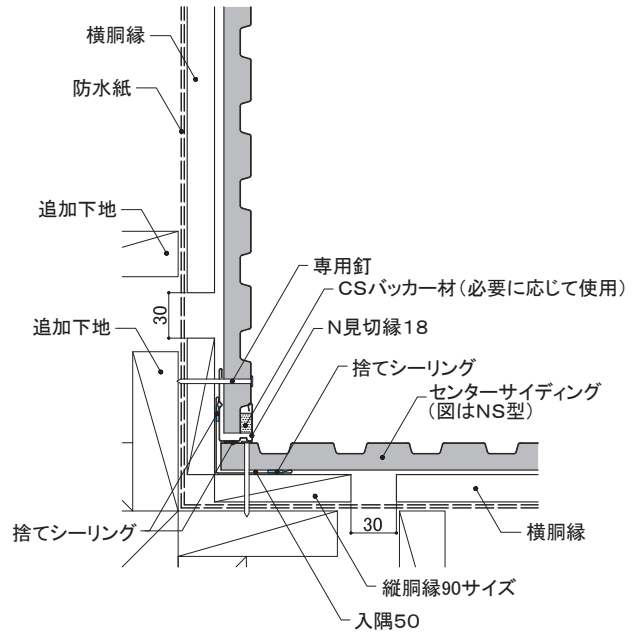
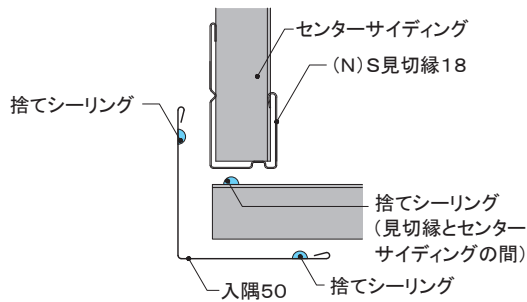
②縦張りの場合



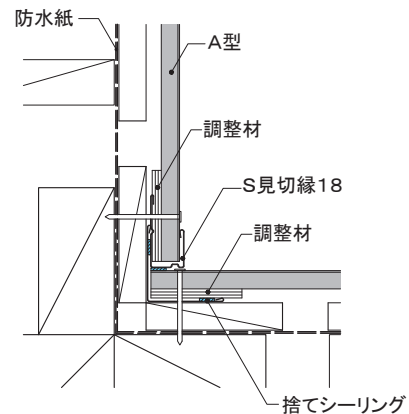
2 各部の基本納まり図

2-4 入隅部

- 横胴縁と縦胴縁は通気のため30mm程度の隙間を設けます。
- センターサイディングの張り始めや張り終わりでオス突を切断するなど、実部に留め付けられない場合は、表面から釘留めします。木下地の場合は専用釘(φ2.75mm×50mm)を用いて500mm以下の間隔で、鉄骨造の場合は専用ビス(P35)を用いて610mm以下の間隔で留め付けます。
- 捨てシーリングを下図のように施工します。



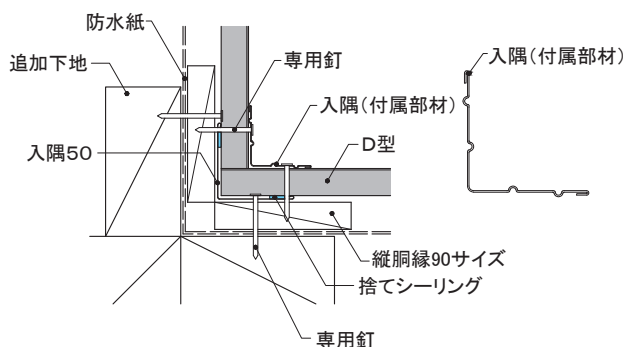
- A型は長手方向に切断すると、実形状および芯材の厚みにより働き幅方向の厚みが変わります。そのまま施工するとセンターサイディングが傾いてしまうため、あらかじめ木材などの調整材を施工します。



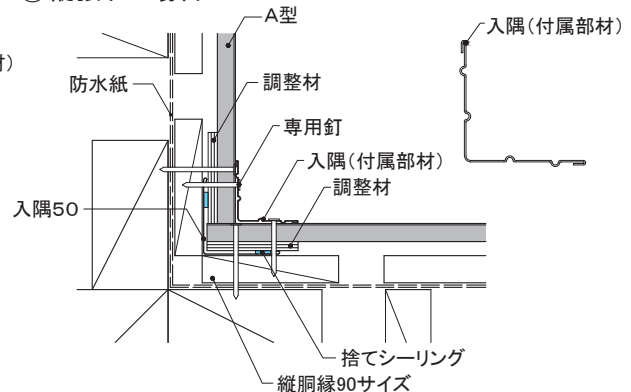
2) その他の部材

- 見切縁の他にD型、A型は入隅(付属部材)でも施工できます。
- 入隅(付属部材)は木下地の場合は専用釘(φ2.75mm×50mm)で、鉄骨下地の場合は専用ビス(P35)で500mm以下の間隔で留め付けます。

①横張りの場合



②縦張りの場合



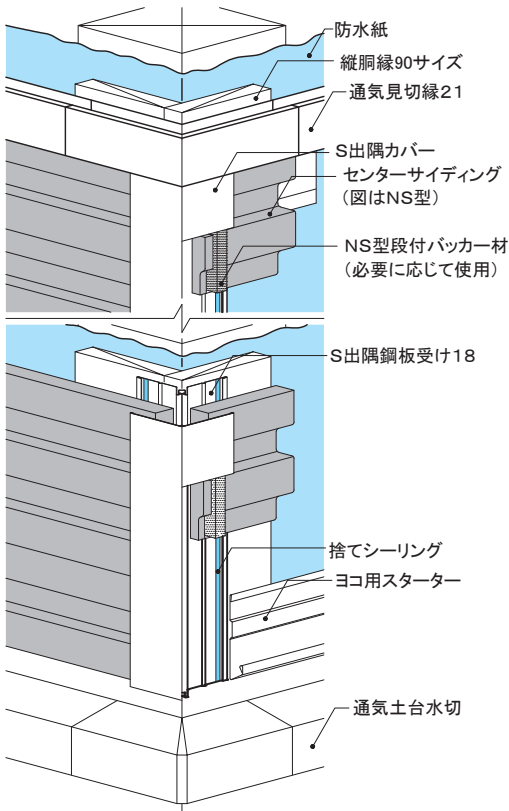
2 各部の基本納まり図

2-5 出隅部

1) 基本納まり

- 横張り施工、縦張り施工ともに出隅受け材と出隅カバー仕様が標準です。
- 躯体に胴縁が留め付けられない場合は、追加下地を入れます。
- 出隅部の縦胴縁90サイズは、追い回しで施工します。
- S出隅鋼板受け18は、木造の場合は専用釘(φ2.3mm×38mm)で、鉄骨造の場合は専用ビス(P35)で、1m以下の間隔で胴縁に留め付けます。
- S出隅鋼板受け18の上下端部は継ぎ手加工していますので、差し込んで継ぎます。
- 出隅カバーは出隅受け材に一度差し込むと外れないので、事前に位置合わせを行ってから取り付けます。出隅カバーや段出隅の浮き上がり防止のため、十分に押さえて固定します。

①横張りの場合

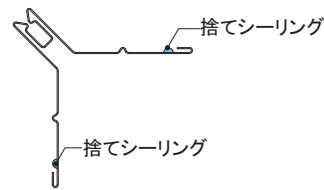


- 型によって使用する部材が異なります。

型	出隅受け材	出隅カバー
M型、NS型、ST型、 iシリーズ、F型、FB型、 FN型、D型	S出隅鋼板受け18	S出隅カバー
iシリーズ、 FB型設定品	S出隅鋼板受け18	段出隅

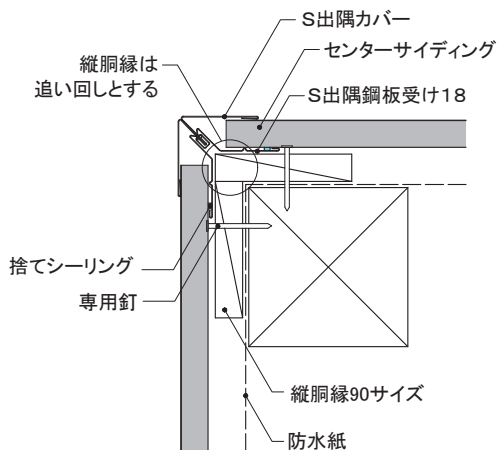
- 受け材は図の位置に捨てシーリングを施工します。

<S出隅鋼板受け18>

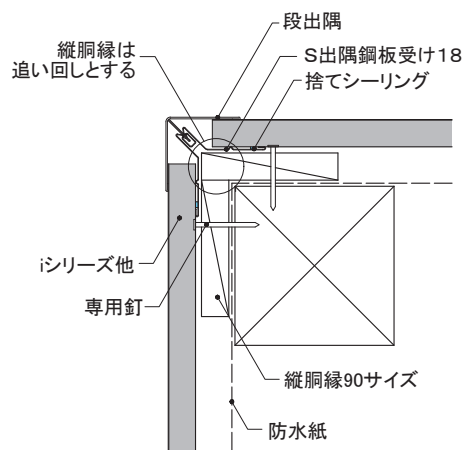


- 土台部での出隅受け材とヨコ用スターターの取り合いは、出隅受け材勝ちで施工します。
- 軒天部での出隅カバーは、通気見切縁に差し込むか突き付けで施工します。

<S出隅鋼板受け18+S出隅カバー>



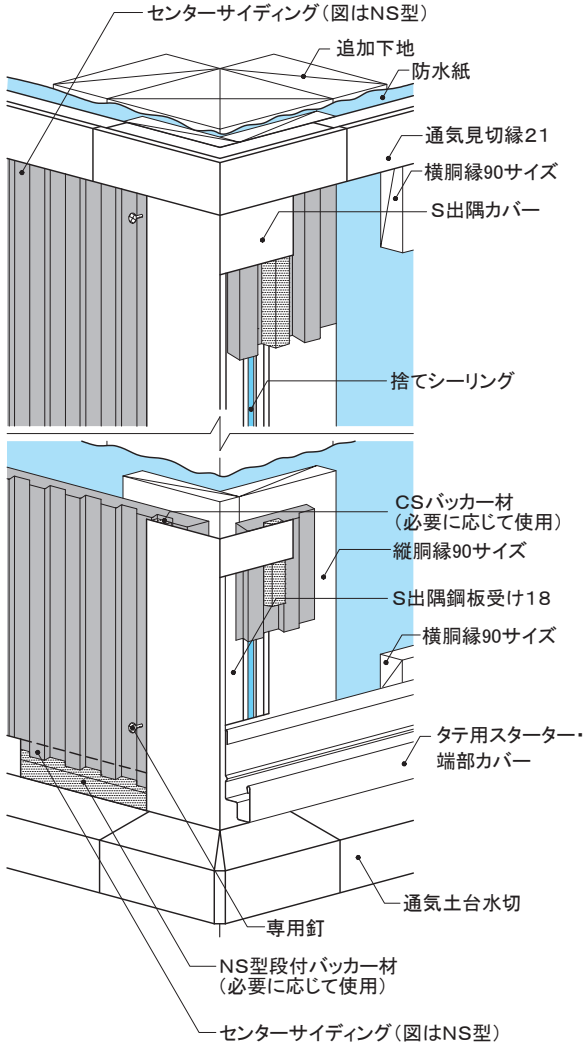
<iシリーズ他:S出隅鋼板受け18+段出隅>



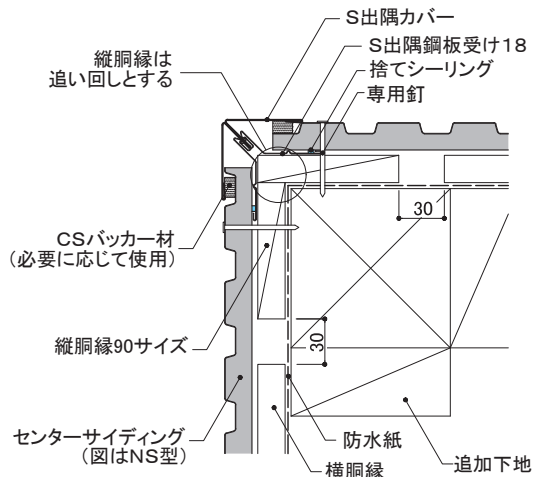
2 各部の基本納まり図

2-5 出隅部

②縦張りの場合



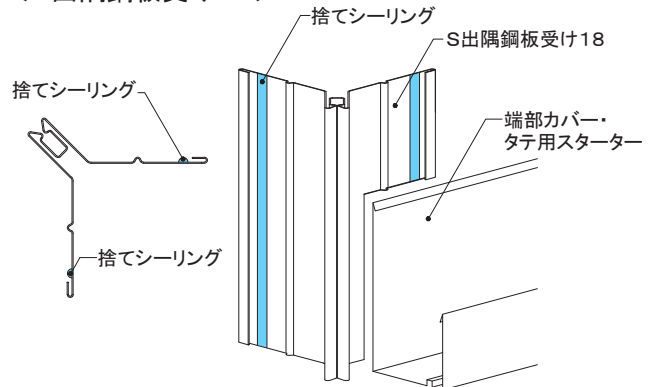
<S出隅鋼板受け18+S出隅カバー>



- 横胴縁と縦胴縁の間に通気のため30mmの隙間を設けます。
- 出隅部はS出隅鋼板受け18とS出隅カバーを使用します。
- S出隅鋼板受け18は図の位置に捨てシーリングを施工します。
- 土台部でセンターサイディング本体の施工に端部カバーなどを使用する場合、S出隅鋼板受け18勝ちにします。
- S出隅鋼板受け18とタテ用スターターや端部カバーが重なる際は、S出隅鋼板受け18を図のように適宜切り欠きます。

型	出隅受け材	出隅カバー
M型、NS型、ST型、 iシリーズ、F型、FB型、 FN型、A型	S出隅鋼板受け18	S出隅カバー

<S出隅鋼板受け18>



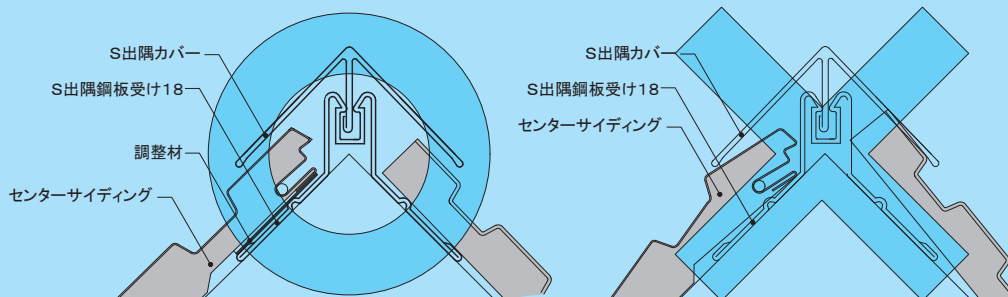
- センターサイディングの張り始め、張り終わりでオス実を切断するなど、実部に留め付けられない場合は、表面から釘留めします。木下地の場合は専用釘 (φ2.75mm×50mm) を用いて500mm以下の間隔で、鉄骨造の場合は専用ビス(P35)を用いて610mm以下の間隔で留め付けます。

2 各部の基本納まり図

2-5 出隅部



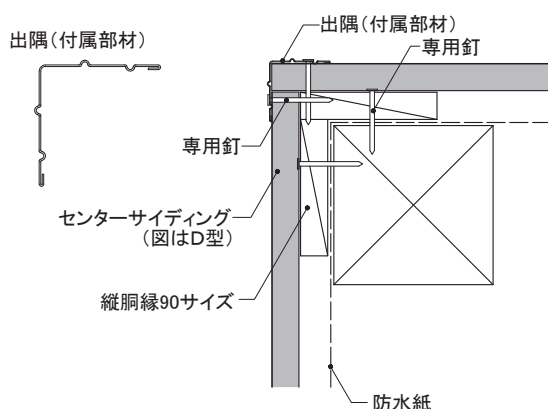
センターサイディングの受け材差し込み部への乗り上げは禁止です。また、A型で厚みが薄い部分が受け材に重なる場合はあらかじめ調整材を施工します。



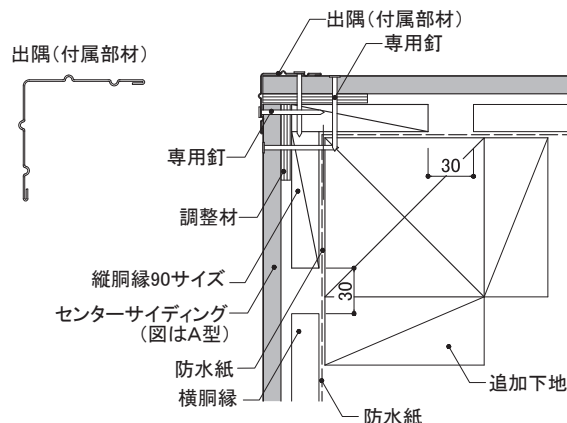
2) その他の部材

- 付属部材の出隅がある柄は、出隅(付属部材)でも施工できます。
- 出隅(付属部材)は木下地の場合は専用釘(φ2.75mm×50mm)で、鉄骨下地は専用ビス(P35)で500mmの間隔で留め付けます。

① 横張りの場合



② 縦張りの場合



2-6 開口部

- サッシは、センターサイディングの厚み、施工方法、胴縁の厚みを考慮し、基本的にセンターサイディング表面よりサッシ枠がでる外付けまたは半外付けタイプを使用します。内付けタイプを使用する場合は、額縁や見切縁などを取り付け防水上適切に施工してください。適切にされない場合、センターサイディングの裏側に水がまわりやすく、雨漏りなどの原因になります。

2 各部の基本納まり図

2-6 開口部

①上側(一般仕様^(注))

1) 開口部上側の基本納まり

- 開口部上側は2種類の納め方があり、使用する部材やシーリングの施工方法が異なります。
- 開口部周りには両面防水テープを必ず使用し、防水紙を施工します。
- 見切縁は型によって表のように異なります。

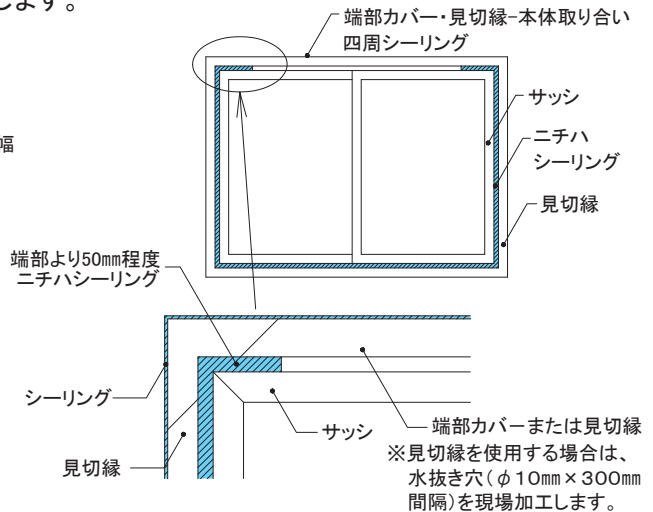
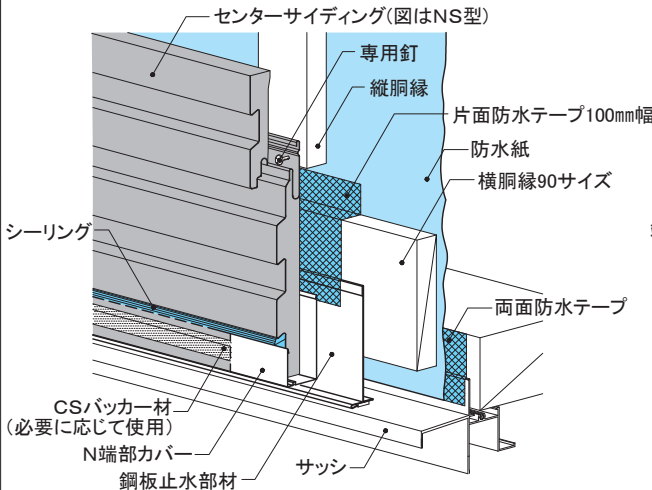
2) 一般仕様

- 開口部上側に鋼板止水部材を取り付け、片面防水テープ100mm幅を施工します。
- 水抜きのため端部カバーまたは見切縁(φ10mm×300mm間隔で水抜き穴現場加工)を使用します。
- (N)端部カバーなどとサッシとの取り合い部は10mm程度の隙間を設けます。
- 開口部上側のサッシには全長にわたりシーリングを充填せず、図のように端部から50mm程度とします。
- 端部カバーなどと本体の取り合い部をシーリングします。

表 部材の設定

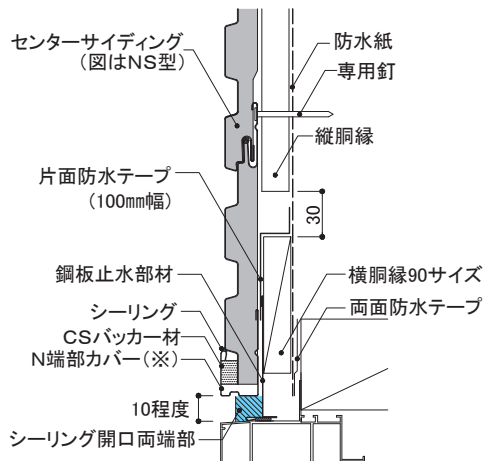
FN型、ST型、NS型	N端部カバー
iシリーズ、F型、FB型、D型、A型	端部カバー

※N端部カバー・端部カバー以外の見切縁は、水抜き穴(φ10mm×300mm間隔)を現場加工します。
 ※廻り縁納めについては、P69を参照してください。
 ※開口部に使用する端部カバー、見切縁18、見切コーナーは、以下のいずれかの組み合わせで施工してください。
 ①N端部カバー・N見切縁18・N見切コーナー
 ②端部カバー・S見切縁18・S見切コーナー



①横張りの場合

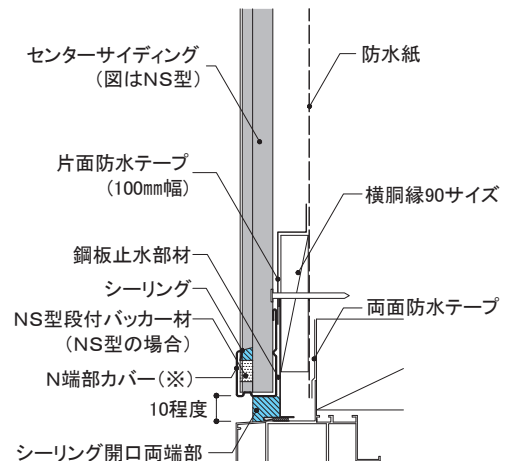
- 通気のため、横胴縁90サイズと縦胴縁の間に30mm程度の隙間を設けます。



NS型、iシリーズ、ST型、F型、FB型、FN型、D型

※見切縁を使用する場合は、水抜き穴(φ10mm×300mm間隔)を現場加工します。

②縦張りの場合



NS型、ST型、F型、FB型、FN型、A型

※見切縁を使用する場合は、水抜き穴(φ10mm×300mm間隔)を現場加工します。

(注) 本仕様は柄特性上、スマートフラットの施工はできません。

2 各部の基本納まり図

2-6 開口部

①上側(全長シーリング仕様^(注))

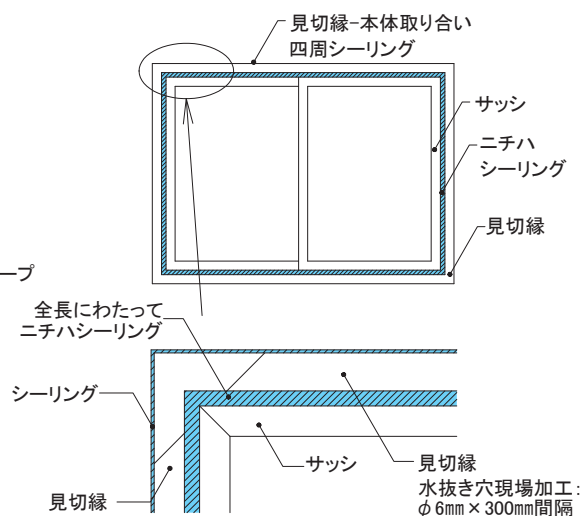
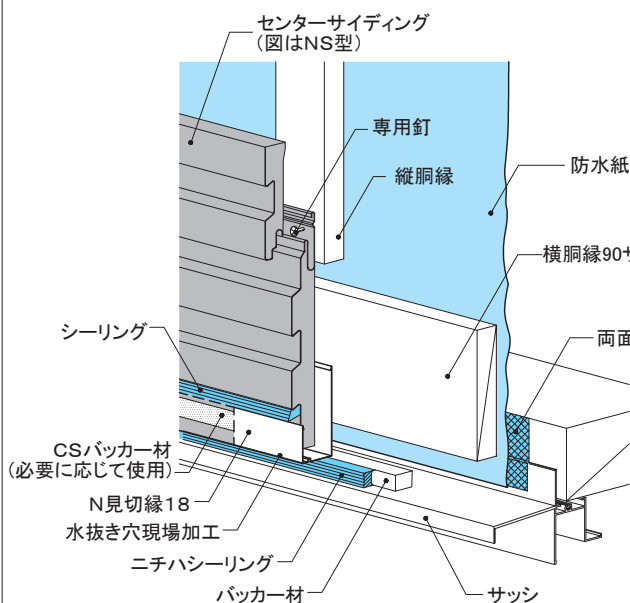
3)全長シーリングとする場合

- 見切縁(部材先端の方にφ6mm×300mm間隔で水抜き穴現場加工)を取り付けます。
- サッシまわりは、マスキングテープで養生後ニチハシーリングを全長にわたって充填します。
- 見切縁などと本体の取り合い部をシーリングします。

表 部材の設定

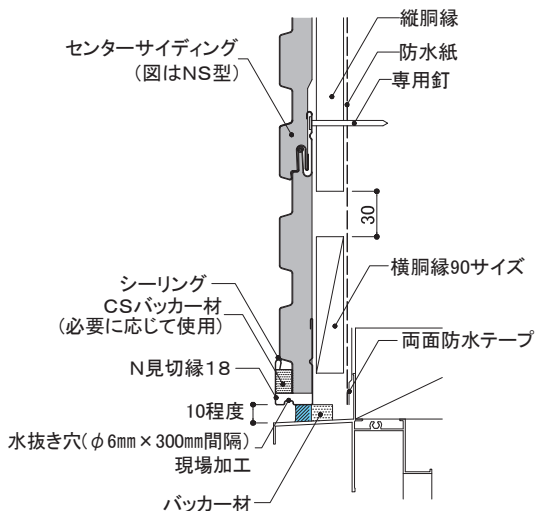
FN型、ST型、NS型	N見切縁18
いりーす、F型、FB型、D型、A型	S見切縁18

※ 廻り縁納めについては、P69を参照してください。
 ※ 開口部に使用する見切縁18、見切コーナーは、以下のいずれかの組み合わせで施工してください。
 ①N見切縁18・N見切コーナー
 ②S見切縁18・S見切コーナー



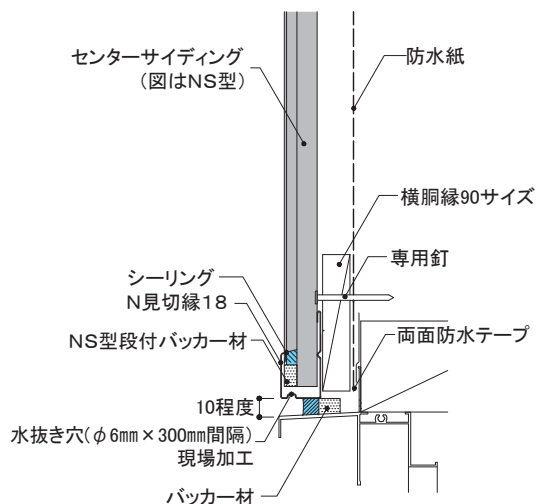
①横張りの場合

- 通気のため、横胴縁90サイズと縦胴縁の間に30mm程度の隙間を設けます。



NS型、いりーす、ST型、
F型、FB型、FN型、D型

②縦張りの場合



NS型、ST型、
F型、FB型、FN型、A型

(注)本仕様は柄特性上、スマートフラットの施工はできません。

2 各部の基本納まり図

2-6 開口部

②下側(注)

1) 開口部下側の基本納まり

- サッシと見切縁との取り合いは、10mm程度の隙間を設けシーリングを施工します。
- 型によって見切縁が表のように異なります。
- 見切縁と本体の取り合い部にシーリングを施工します。

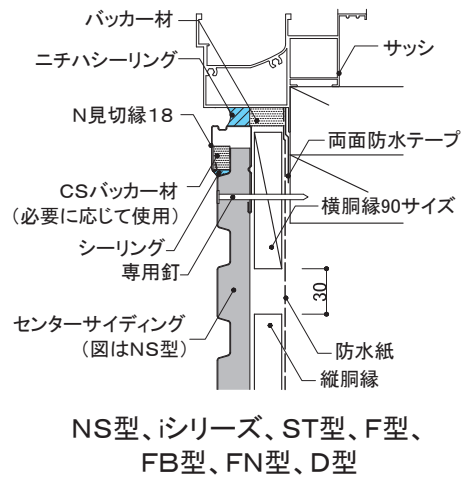
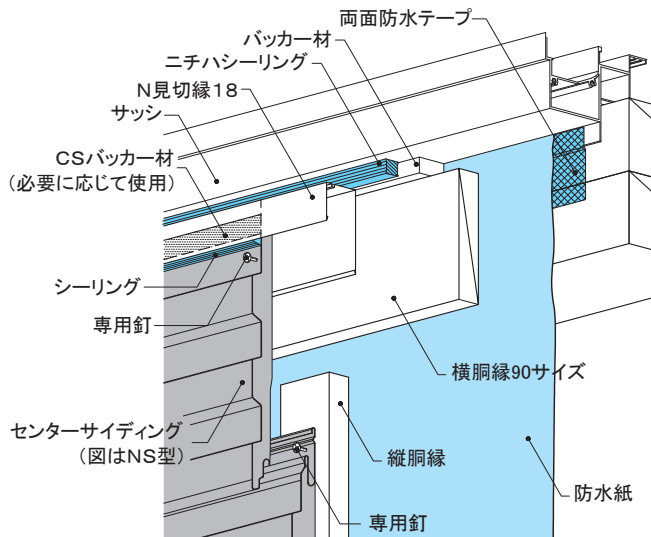
表 部材の設定

FN型、ST型、NS型	N見切縁18
iシリーズ、F型、FB型、D型、A型	S見切縁18

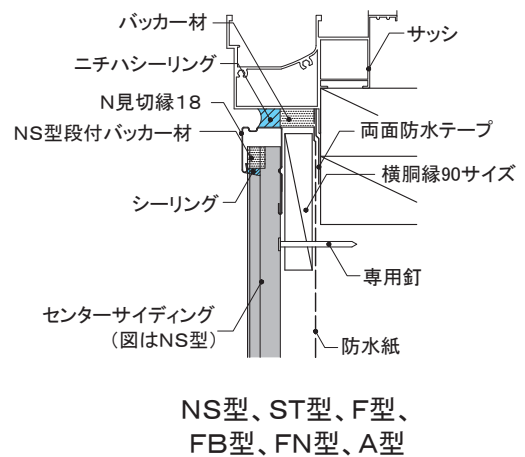
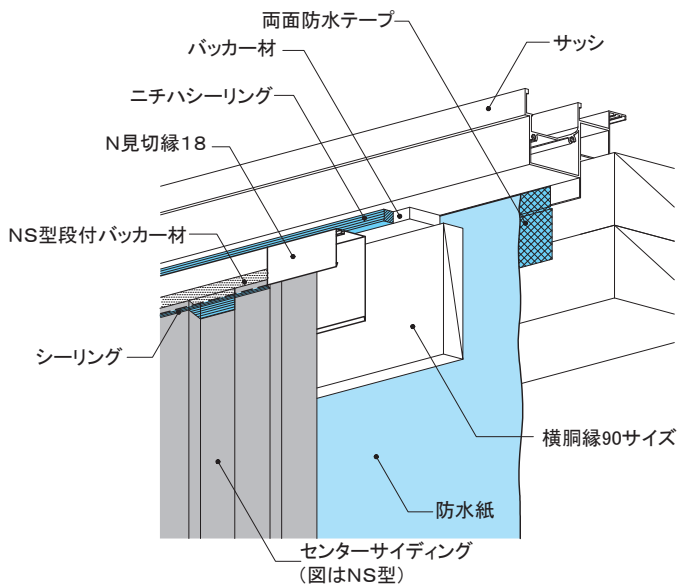
※ 廻り縁納めについては、P69を参照してください。
 ※ 開口部に使用する見切縁18、見切コーナーは、以下のいずれかの組み合わせで施工してください。
 ①N見切縁18・N見切コーナー
 ②S見切縁18・S見切コーナー

①横張りの場合

- 通気のため、横胴縁90サイズと縦胴縁の間に30mm程度の隙間を設けます。
- サッシ下のセンターサイディングは表面から釘留めします。木下地の場合は専用釘(φ2.75mm×50mm)で、鉄骨下地の場合は専用ビス(P35)で留め付けます。



②縦張りの場合



(注) 本仕様は柄特性上、スマートフラットの施工はできません。

2 各部の基本納まり図

2-6 開口部

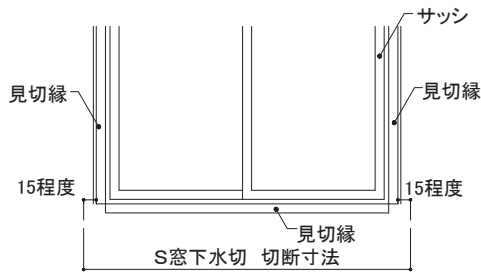
②下側(S窓下水切 北海道向け)

2) その他の部材(北海道向け)

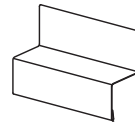
- S窓下水切、S窓下水切エンドキャップは以下のように施工します。

手順①

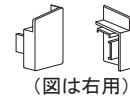
- S窓下水切は開口部左右の縦側の見切縁より15mm程度長く切断します。



S窓下水切

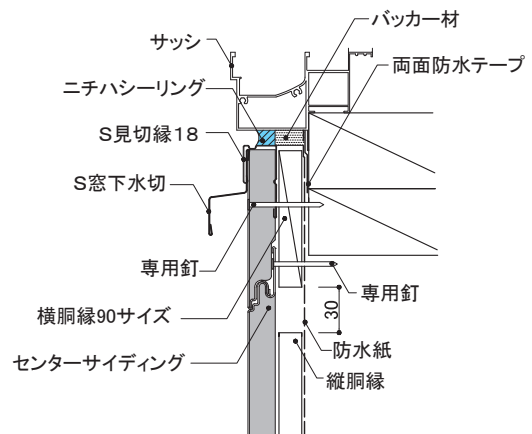
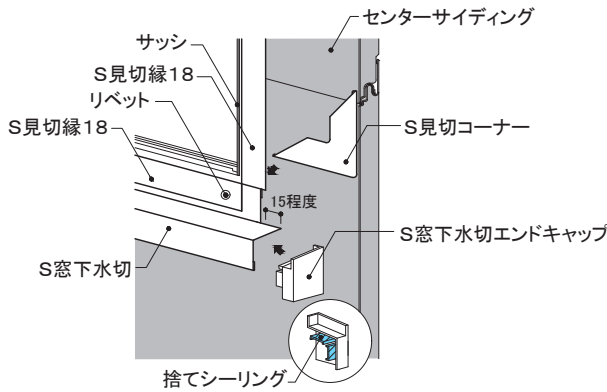


S窓下水切エンドキャップ左右



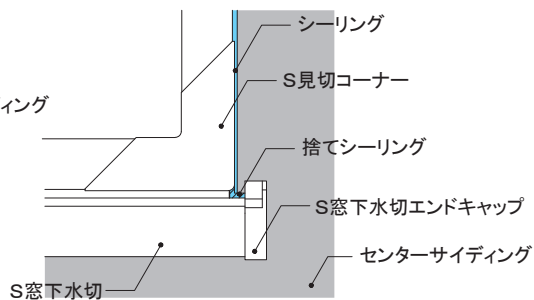
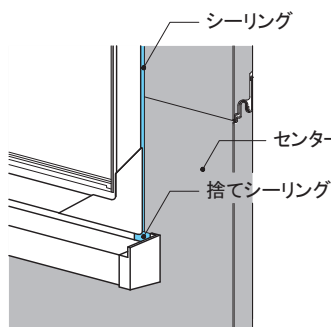
手順②

- S窓下水切をセンターサイディングと開口部下側の見切縁との間に差し込み、リベット(現場調達)で固定します。
- S窓下水切エンドキャップは、図のように捨てシーリングを施工してS窓下水切に取り付けます。



手順③

- S窓下水切エンドキャップを取り付けた後、エンドキャップと見切縁の間に捨てシーリングを施工します。



2 各部の基本納まり図

2-6 開口部

③左右側(注)

1) 開口部左右側の基本納まり

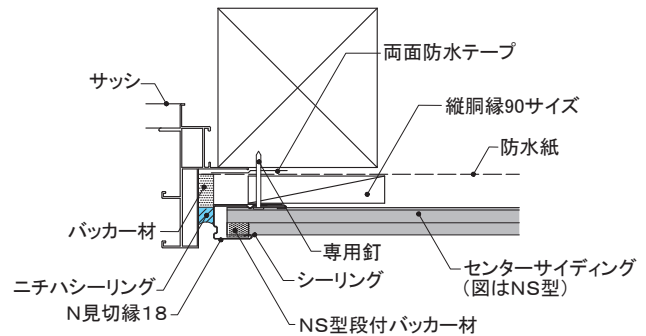
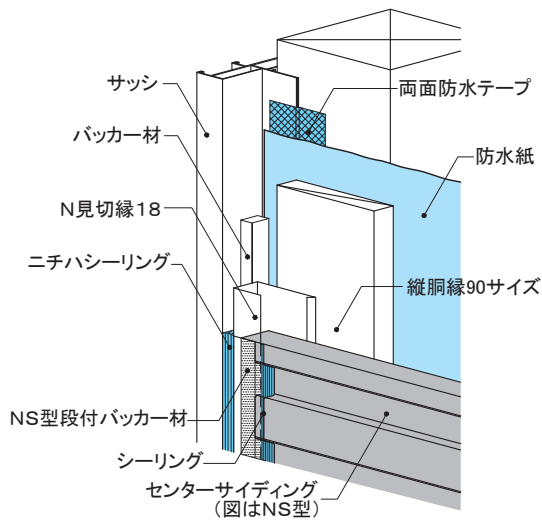
- サッシと見切縁との取り合いは、10mm程度の隙間を設けシーリングを施工します。
- 型によって見切縁が表のように異なります。
- 見切縁と本体の取り合い部にシーリングを施工します。

表 部材の設定

FN型、ST型、NS型	N見切縁18
iシリーズ、F型、FB型、D型、A型	S見切縁18

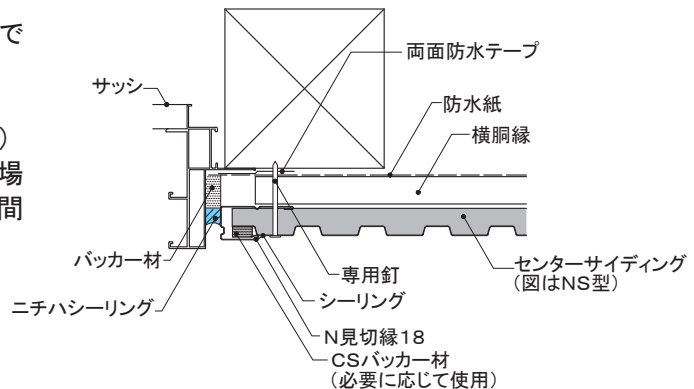
※ 廻り縁納めについては、P69を参照してください。
 ※ 開口部に使用する見切縁18、見切コーナーは、以下のいずれかの組み合わせで施工してください。
 ① N見切縁18・N見切コーナー
 ② S見切縁18・S見切コーナー

① 横張りの場合

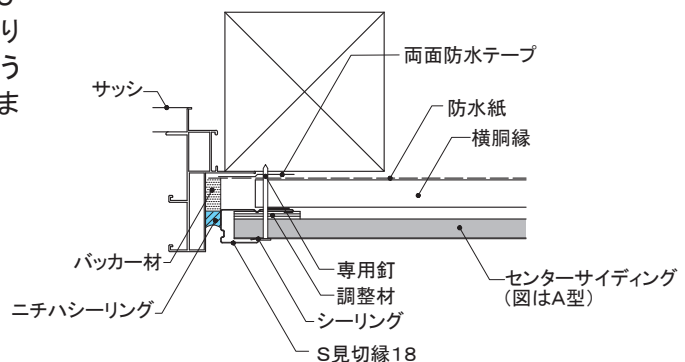


② 縦張りの場合

- センターサイディングの張り始め、張り終わりでオス実を切断するなど、実部に留め付けられない場合は、表面から釘留めします。木下地の場合は専用釘(φ2.75mm×50mm)を用いて500mm以下の間隔で、鉄骨下地の場合は専用ビス(P35)を用いて610mm以下の間隔で留め付けます。



- A型は長手方向に切断すると、実形状および芯材の厚みにより働き幅方向の厚みが変わります。そのまま施工すると本体が傾いてしまうため、あらかじめ木材などの調整材を施工します。



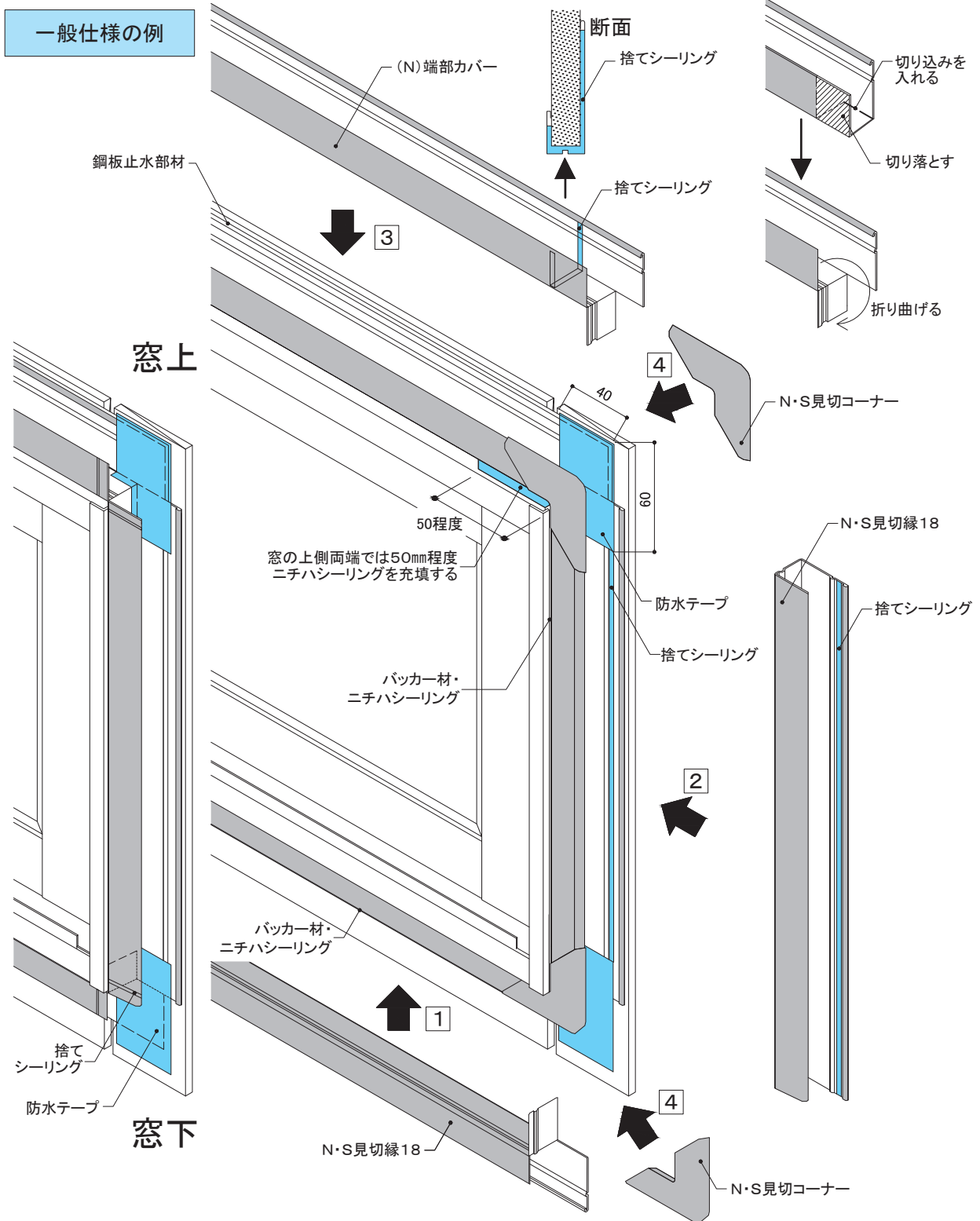
(注) 本仕様は柄特性上、スマートフラットの施工はできません。

2 各部の基本納まり図

2-6 開口部

④ 付属部材の加工例 見切コーナー

- 一般仕様の場合、開口部上側のサッシには全長にわたりニチハシーリングを充填せず、鋼板止水部材を取り付けた後、図のように端部から50mm程度充填します。全長シーリングとする場合は、見切縁(部材先端にφ10mm×300mm間隔で水孔き穴現場加工)を取り付けた後、全長にわたってシーリングを充填します。

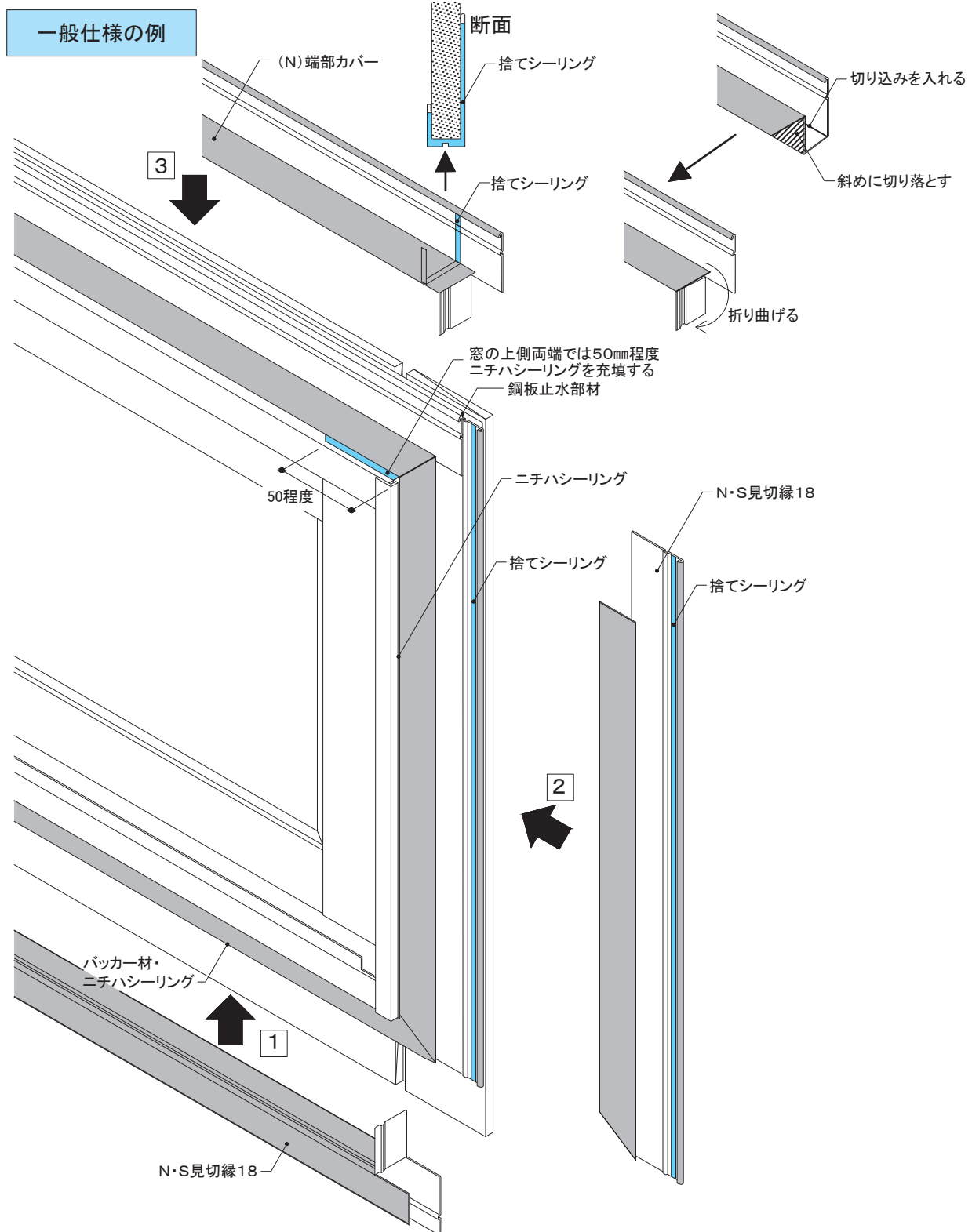


2 各部の基本納まり図

2-6 開口部

⑤ 付属部材の加工例 留め加工

- 一般仕様の場合、開口部上側のサッシには全長にわたりニチハシーリングを充填せず、鋼板止水部材を取り付けた後、図のように端部から50mm程度充填します。全長シーリングとする場合は、見切縁（部材先端にφ10mm×300mm間隔で水孔き穴現場加工）を取り付けた後、全長にわたってシーリングを充填します。

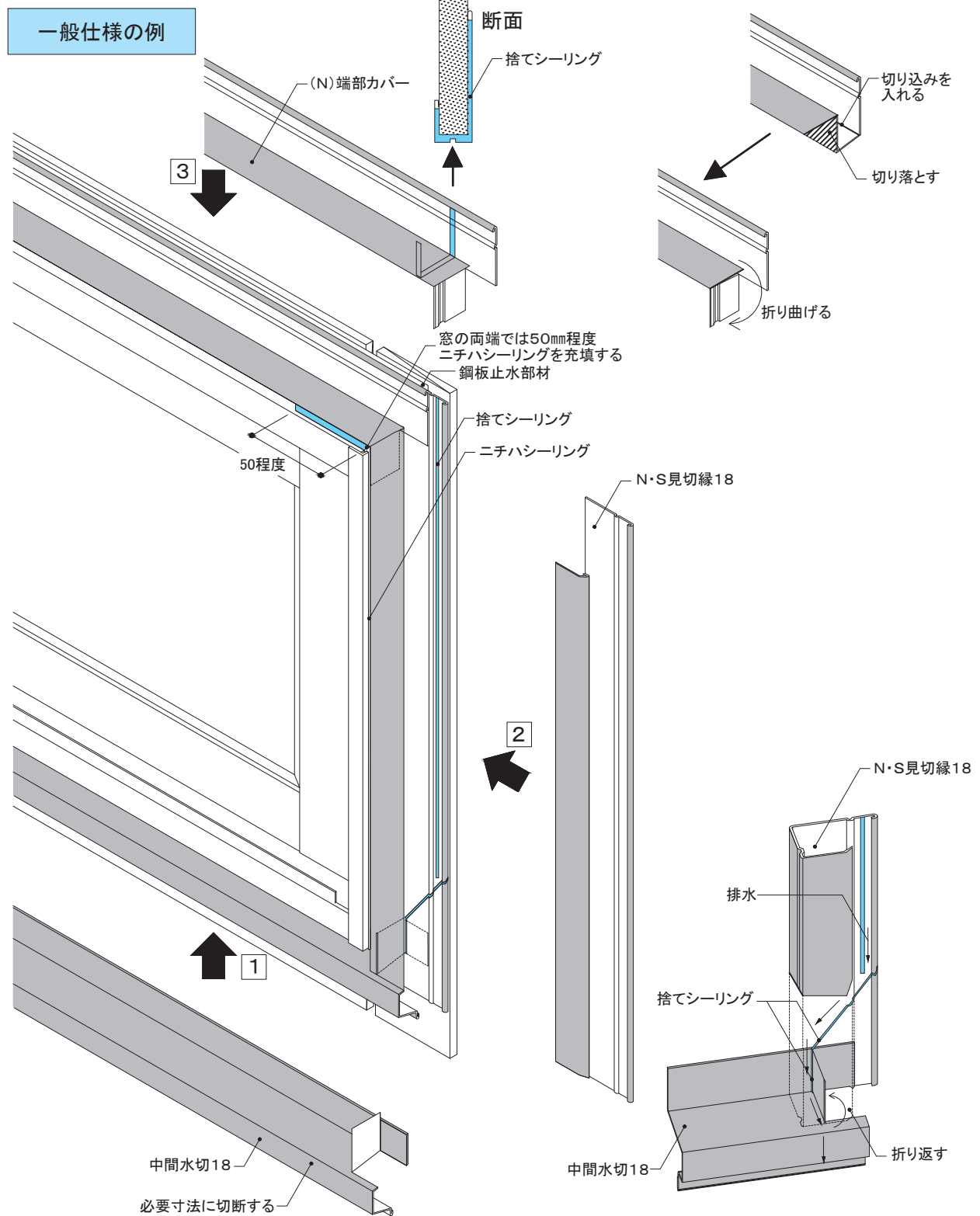


2 各部の基本納まり図

2-6 開口部

⑥付属部材の加工例 中間水切18

- 一般仕様の場合、開口部上側のサッシには全長にわたりニチハシーリングを充填せず、鋼板止水部材を取り付けた後、図のように端部から50mm程度充填します。全長シーリングとする場合は、見切縁(部材先端にφ10mm×300mm間隔で水孔き穴現場加工)を取り付けた後、全長にわたってシーリングを充填します。



2 各部の基本納まり図

2-6 開口部

⑦ インナーシール工法

1) 開口部 施工仕様一覧

	外観上の納まり	特徴	
開口部	端部カバー・見切縁 + シーリング納め (現行 標準施工)	センターサイディングを開口四周の見切縁などに差し込む見切縁等とサッシの取り合い部はハットジョイナー+シーリング	→P51~58
	開口部 インナーシール工法 化粧(三角)シーリング納め (開口上部は設計上の隙間あり)	センターサイディングとサッシの取り合い部を化粧(三角)シーリング(*)とすることができる施工法	→P59~68

※化粧(三角)シーリング：センターサイディングとサッシの取り合い部を、意匠的にシーリングで納めます。一般的に、三角シーリングはシーリング切れが生じやすくなります。シーリング切れが生じてもインナーシール工法では防水性能上問題ありませんが、化粧(三角)シーリング部の不具合に関しては対応しかねますので、美観上のメンテナンスなどは適宜行ってください。

2) 適用




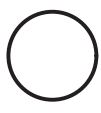
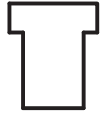
- 建築物：新築 木造軸組工法／木造枠組壁工法
- 施工仕様：木胴縁施工(横張り／縦張り)

3) サッシの確認

※サッシの形状・寸法・位置などにより、インナーシール工法が適用できない場合があります。事前に十分確認してください。

- 適応サッシ形状：外付けまたは半外付けサッシ

外周形状(シャッターボックス等も含めた形状)

				
○ 施工可	× 施工不可(例)			

- サッシ寸法：W2900mm以下
- サッシ釘打ちフィン寸法：およそ45mm以下
- サッシ外部枠形状：鋼板止水部材施工時のEPDM材の圧縮を阻害しないこと
鋼板止水部材を四周(角部含む)有効に施工できること

<施工不可の例>

サッシ(縦・横)枠の取り合いで片側の枠が1mmを越え突出しているもの、サッシ枠上の留付ビスにより、鋼板止水部材の取り付けが大きく阻害されるもの など
※サッシ上部の場合、正面から鋼板止水部材のEPDM部が若干見えることがあります。サッシ枠の取り合いにより見え掛けが大きくなる場合があります。

注意



- サッシの形状・寸法・位置などによりインナーシール工法が適用できない場合があります。
- 施工上、土台部・中間部・(軒部)に「(N)端部カバー、N・S見切縁18など」を使用しない納まりにすると、化粧(三角)シーリング部が綺麗に仕上がります。(N)端部カバー、N・S見切縁18を使用する場合(特に、縦張り時)、サッシ際に隙間が発生するため、サイディング本体を切断する際はできるだけ実寸法を正確に測って納めてください。またこの場合、化粧(三角)シーリングの幅を広く取っていただくことになります。
- 防耐火認定を使用する場合は、中間水切上部に端部カバーまたはタテ用スターターが必要です。

2 各部の基本納まり図

2-6 開口部

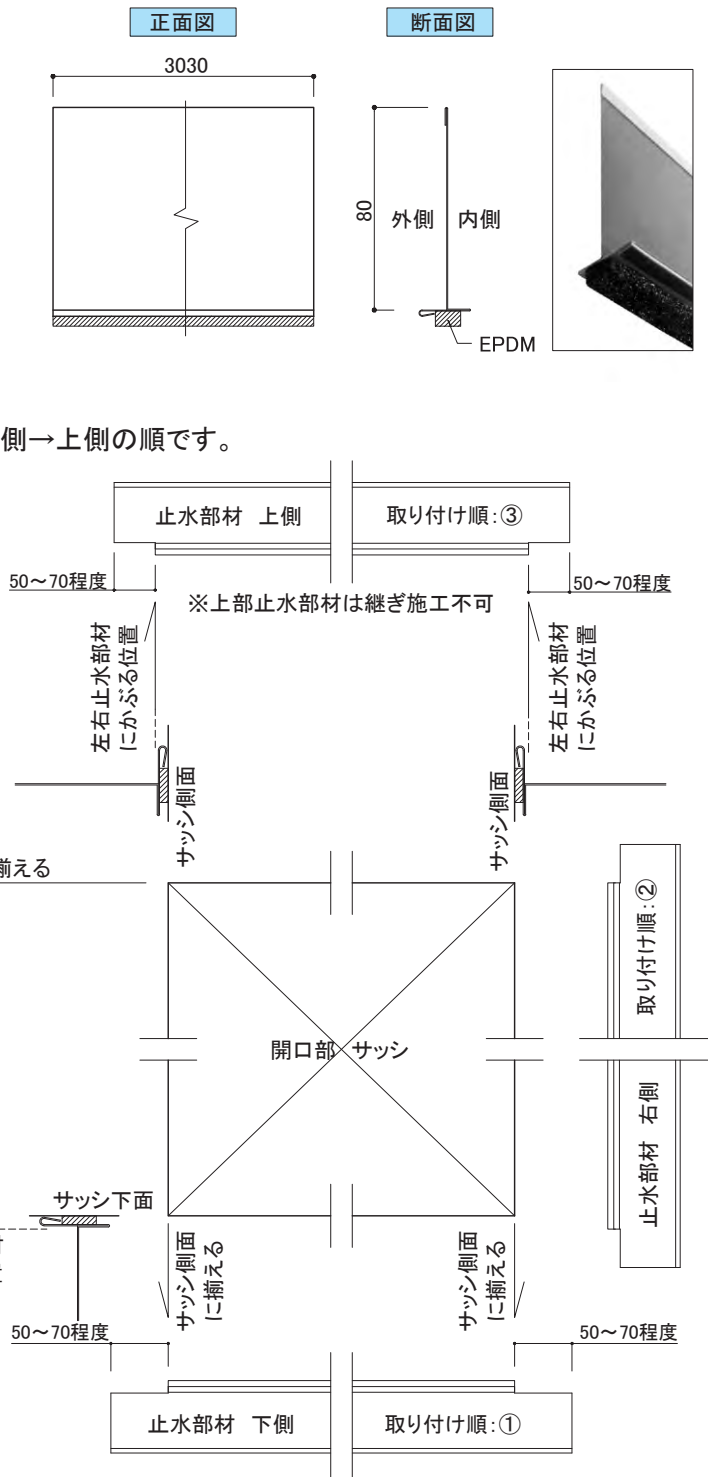
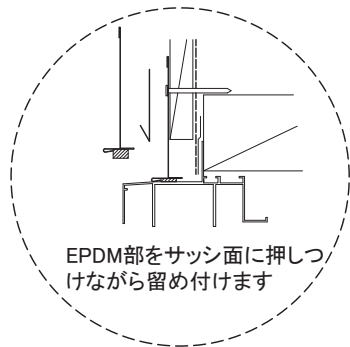
⑦ インナーシール工法

4) 主要使用部材

- 鋼板止水部材 (右図)
品番: KE5100
材質: 塗装高耐食GLめっき鋼板
10本入り/梱
- 片面防水テープ (l=20m w=100mm)
品番: JF1526
材質: アクリル
1巻/袋
- シーリング材

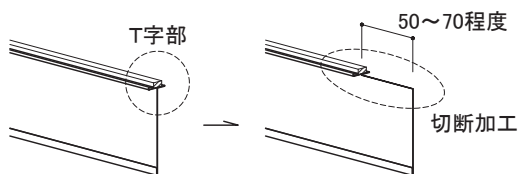
5) 鋼板止水部材 加工・取り付け寸法 概要

- 鋼板止水部材の取り付けは、下側→左右側→上側の順です。



< 鋼板止水部材の加工方法 >

鋼板止水部材の両側のT字部を指定位置で切断加工します。
(加工部の長さは50~70mm程度としてください)



やや斜めに切断すると加工しやすいですが
最小限にしてください。
取り合い部に隙間が生じやすくなります。

2 各部の基本納まり図

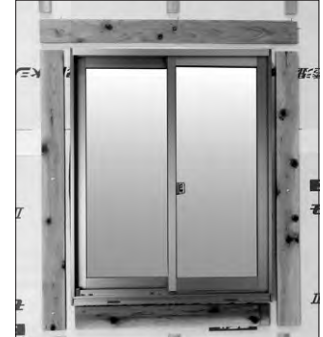
2-6 開口部

⑦ インナーシール工法

6) 施工手順 ※当手順は横張り施工例

手順① 防水紙・胴縁の施工

- 開口部まわりには、両面防水テープを必ず使用し、防水紙を施工します。
- 開口部まわりの胴縁は、幅90mmサイズを使用し、サッシフィンを避けて（サッシと胴縁が20～30mm程度離れている状態）施工します。

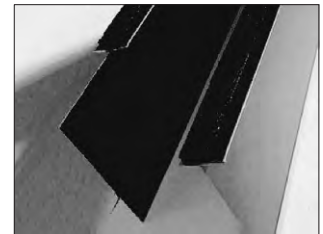


胴縁組み

手順② 鋼板止水部材(下側)の施工

- 開口下側に鋼板止水部材を取り付けます。
- サッシ横の面に合わせ、部材両端のT字部を切断加工します。
(鋼板止水部材の加工方法 P60)
- EPDM材が十分圧縮されるように、部材をサッシ面に押しつけながら胴縁に留め付けます。(鋼板止水部材の留め付け 下記)

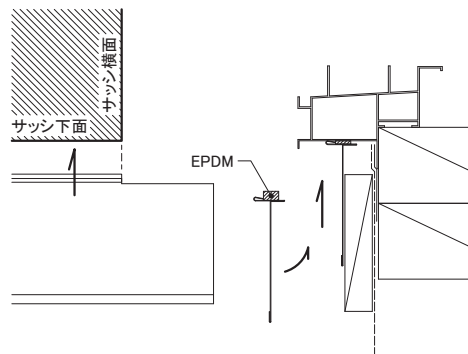
※サッシの横面から部材のT字部が飛び出ないように留め付けます。
※部材を継ぐ場合は(上側は禁止)、EPDM部が途切れないように突き付け、接合部に後述の捨てシーリングを施工します。



部材両端の切断加工



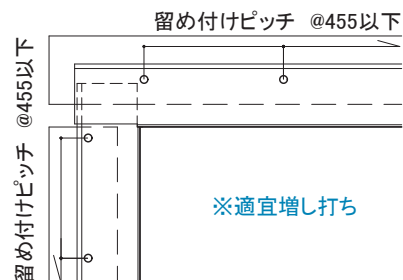
EPDMを十分圧縮する



開口下に鋼板下地部材の取り付け

<共通 鋼板止水部材の留め付け>

- EPDM材が十分圧縮されるように部材をサッシ面に押しつけながら、胴縁に留め付けます。
- 専用釘(ステンレスリング釘φ2.3mm×38mm)で455mm以下の間隔で留め付けます。EPDM部が浮く場合は適宜増し打ちしてください。



2 各部の基本納まり図

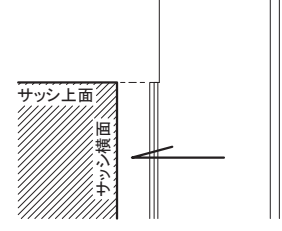
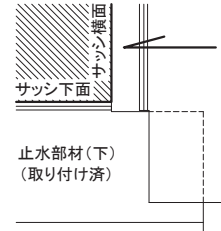
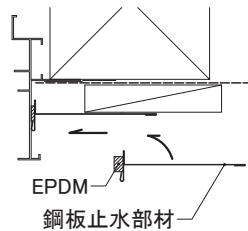
2-6 開口部

⑦ インナーシール工法

手順③ 鋼板止水部材(左右側)の施工

- 開口左右側に鋼板止水部材を取り付けます。
鋼板止水部材の上側T字部をサッシの上面に合わせ、下側T字部はサッシ下に取り付けた部材T字部に被さる位置で、切断加工します。
(P60鋼板止水部材の加工方法 参照)
- サッシ下側に取り付けた部材の上に重なるように施工します。
- EPDM材が十分圧縮されるように、部材をサッシ面に押しつけながら胴縁に取り付けます。
(P60鋼板止水部材の取り付け 参照)

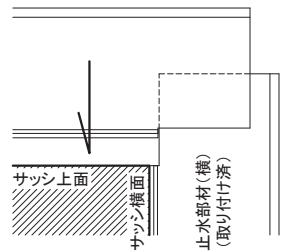
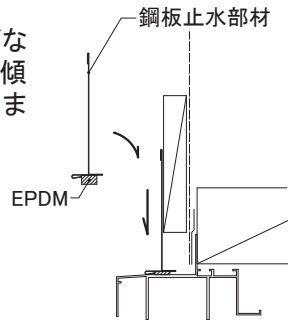
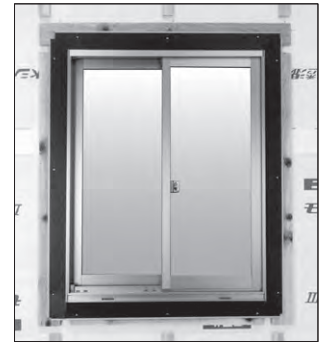
- ※ サッシの上面から部材のT字部が飛び出さないよう、またサッシ下側に取り付けた部材T字部にかぶるように取り付けます。
- ※ 部材の取り合い部など、EPDM部が圧縮されかつ途切れないようにすることが大切です。隙間ができてしまった場合は、後述の捨てシーリング施工時に、隙間部に十分に充填してください。
- ※ 部材を継ぐ場合は(上側は禁止)、EPDM部が途切れないように突き付け、接合部に捨てシーリングを施工します。



手順④ 鋼板止水部材(上側)の施工

- 開口上側に鋼板止水部材を取り付けます。
- 鋼板止水部材の両端T字部を、サッシ横に取り付けた部材T字部にかぶさる位置で切断加工します。(P60鋼板止水部材の加工方法 参照)
- EPDM材が十分圧縮されるように、部材をサッシ面に押しつけながら胴縁に留め付けます。(P61鋼板止水部材の留め付け 参照)
- サッシ左右側に取り付けた部材の上に重なるように施工します。
- 開口上側の鋼板止水部材は、EPDM部の見掛けがなるべく小さくなるよう留め付けます。(サッシ上面が傾斜している場合は、EPDM部の見え掛けが大きくなりますのでご了承ください)

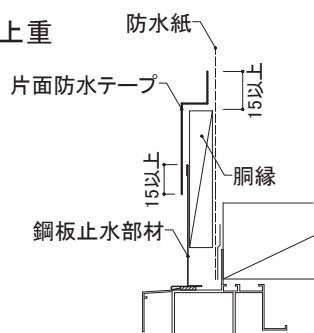
- ※ 開口上側の鋼板止水部材は、継ぎ施工をしないよう1本の部材で施工してください。
- ※ サッシ左右側に取り付けた部材T字部にかぶるように取り付けます。
- ※ 部材の取り合い部など、EPDM部が圧縮されかつ途切れないようにすることが大切です。隙間ができてしまった場合は、手順⑥ 捨てシーリング施工時に、隙間に十分に充填してください。



手順⑤ 片面防水テープの施工

- 開口上側の鋼板止水部材～胴縁～防水紙にかけて、片面防水テープ(100mm幅)を施工します。
- 片面防水テープは、止水部材・防水紙に15mm以上重なるように貼ります。

- ※ 隙間の出ないように十分に貼り付けてください。



2 各部の基本納まり図

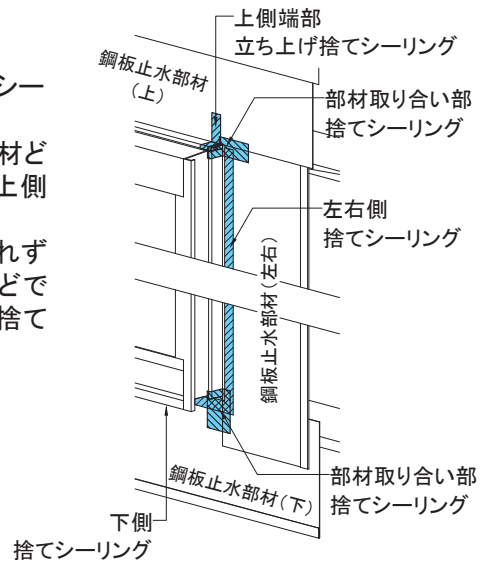
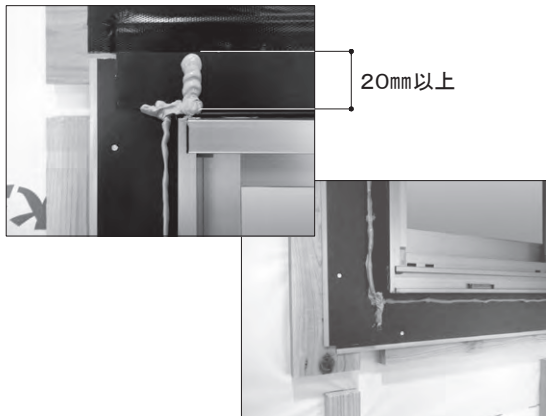
2-6 開口部

⑦ インナーシール工法

手順⑥ 捨てシーリングの施工

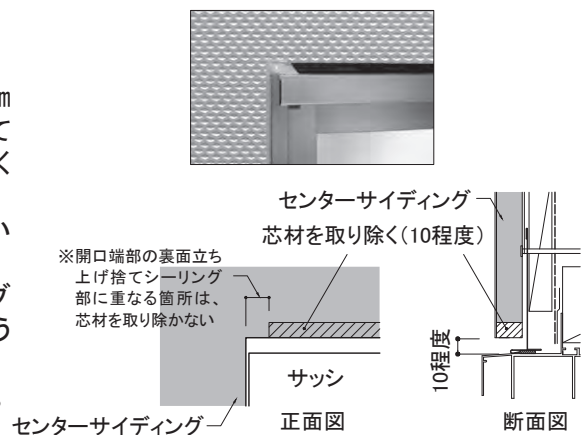
- センターサイディング施工の際に、鋼板止水部材上に捨てシーリングを施工します。
- 開口上側の両端部、開口左右側、開口下側、鋼板止水部材どうしの取り合い部に捨てシーリングを施工します。(開口上側の両端部は、20mm以上の立ち上げシーリングとします。)
- 止水部材の継ぎ部(上側を除く)、EPDM部が十分圧縮されず隙間が生じている箇所や鋼板止水部材の取り合い部などでEPDM部が連続せず途切れてしまった箇所などにも適宜捨てシーリングを施工します。

※センターサイディング裏面に密着する位置にシーリングを施工します。



手順⑦ センターサイディングの施工

- センターサイディングを施工します。
- 開口上側のセンターサイディング下端の芯材を、10mm程度取り除きます。(開口端部の裏面側立ち上げ捨てシーリング部に重なる箇所は、芯材を取り除かないでください。)
- 開口上側のサッシとセンターサイディングの取り合い部は、10mm程度の隙間を設けて施工します。
- 開口左右側・下側は、できるだけセンターサイディングと鋼板止水部材およびサッシとの隙間が小さくなるように施工します。
- センターサイディングを専用釘で実部に留め付けます。



2 各部の基本納まり図

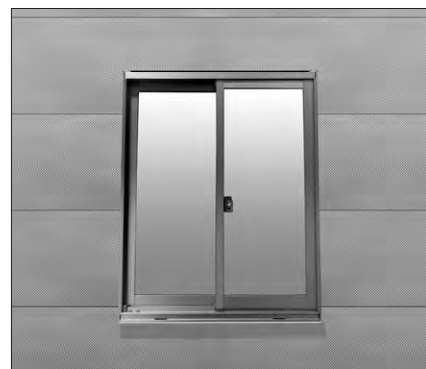
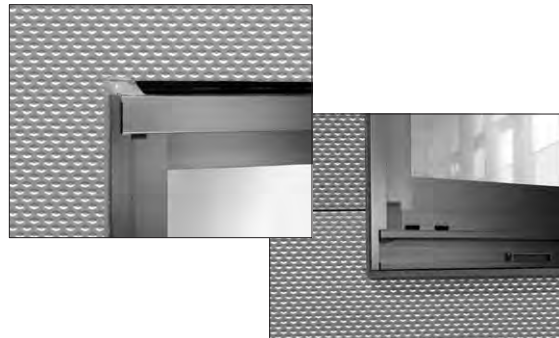
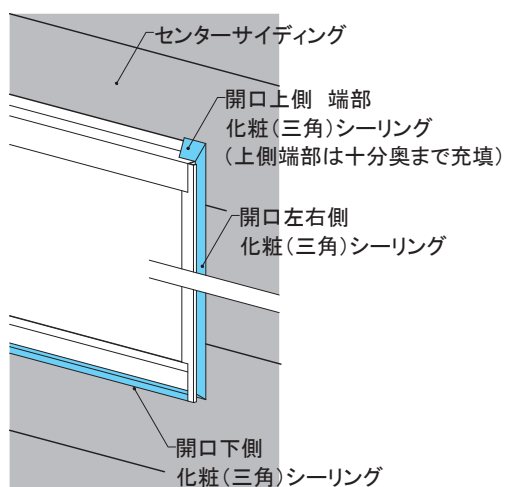
2-6 開口部

⑦ インナーシール工法

手順⑧ 化粧シーリングの施工

- センターサイディング施工後、サイディングとサッシの取り合い部に化粧(三角)シーリングを施工します。
- 開口上側は、両端部に施工します。センターサイディングと鋼板止水部材との隙間に、十分奥まで充填してください。開口左右・下側は、化粧(三角)シーリングを施工します。

※なお、化粧(三角)シーリング部に関しての不具合は対応いたしかねますのでご了承ください。美観上のメンテナンスを適宜おこなってください。



7) 縦張り時の注意事項

- 右方向へ施工する場合サッシ左際(左方向へ施工する場合サッシ右際)に、嵌合部のみ込み代分の隙間が発生します。
(例: NS型ネオスパン 約20mm)
この場合、シーリングまたはバック材とシーリングを十分に充填し、意匠性を確保してください。
- 土台部および中間部に端部カバーを使用する場合、サッシ下端に端部カバーへの、のみ込み代分の隙間が発生します。
(例: NS型ネオスパン 約15mm)
この場合も、シーリングまたはバック材とシーリングを十分に充填し、意匠性を確保してください。
- シーリング充填時は、センターサイディング表面の鋼板部に十分シーリングがかかるようにしてください。
※前述同様、取り合い部の化粧シーリングに関しての不具合は対応いたしかねますのでご了承ください。美観上のメンテナンスを適宜おこなってください。
※鋼板止水部材上への捨てシーリングは、センターサイディング裏面に密着する位置に施工します。



センターサイディング	下地	留付方法	張り方向	木胴縁組
	木造下地	釘	横	縦胴縁 @500mm以下

センターサイディング
標準施工法

センターサイディング
基本納まり図

本体・付属部材
詳細図

付属部材加工図

センターサイディング
木造編

センターサイディング
鉄骨造 金属胴縁編

センターサイディング
鉄骨造 直張り編

センター化粧幕板
標準施工法

センタールーフ
標準施工法

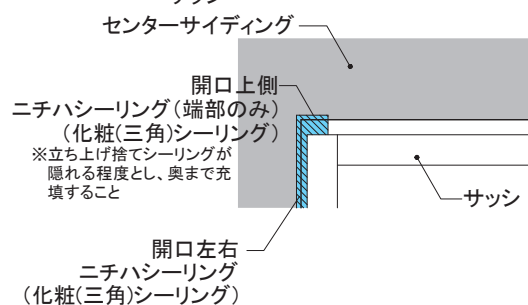
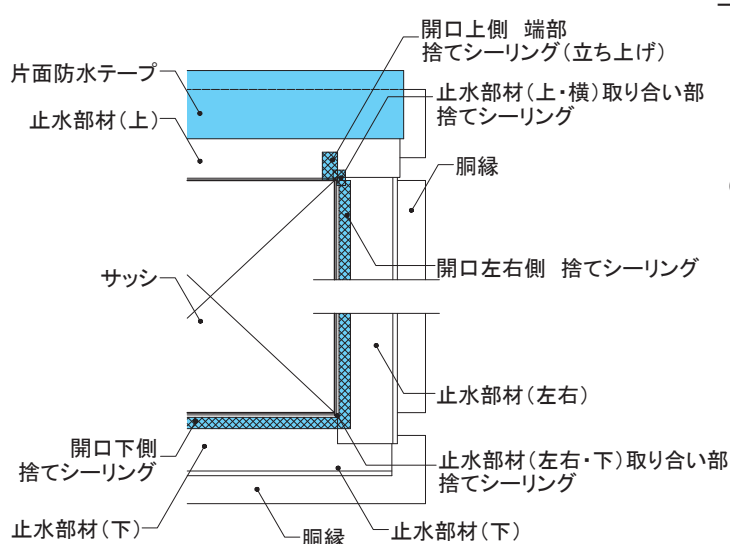
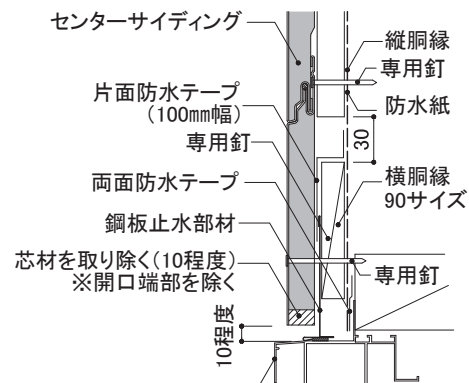
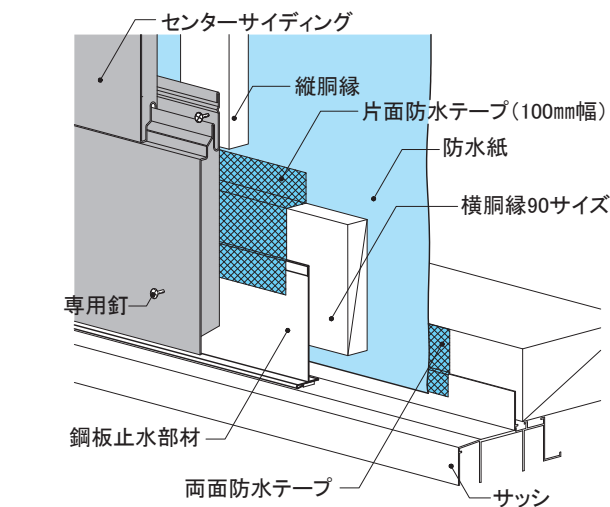
センタールーフ
納まり詳細図

参考資料

開口部

上側 インナーシール工法

- 開口部まわりには、両面防水テープを必ず使用し、防水紙を施工します。
 - サッシと横胴縁の取り合い部は、サッシフィンを避けて20～30mm程度の隙間を設けます。
 - 開口部まわりには、鋼板止水部材（以下、止水部材）をEPDM材が十分圧縮されるようにサッシ面に押しつけ、専用釘（ステンスリング釘φ2.3mm×38mm）を用いて455mm以下の間隔（部材が浮く場合は適宜増し留め）で胴縁に留め付けます。（施工順：下側→左右側→上側）加工部が左右側部材の上に重なるように施工します。
 - サッシ上側の止水部材は継がずに1本の部材で施工します。
 - 開口上側の止水部材は、EPDM部の見掛けがなるべく小さくなるよう留め付けます。（サッシ上面が傾斜の場合は、EPDM部が見えやすくなりますのでご了承ください。）
 - 止水部材取り付け後、「止水部材（上部）-胴縁-防水紙」にまたがるように、片面防水テープ（100mm幅）を施工します。
 - センターサイディングを取り付ける際に、止水部材上の指定箇所（開口上側端部・止水部材取り付け部・開口左右側および下側）に捨てシーリングを施工します。（下記図参照）また止水部材（上側以外）の継ぎ部や、施工上サッシとの間に軽微な隙間が生じた箇所にも捨てシーリングを施工します。
 - 開口上側のセンターサイディング下端の芯材を、10mm程度取り除きます。（上側端部の捨てシーリング部は除く。）
 - 開口上側のサッシとセンターサイディングの取り合い部は、10mm程度の隙間を設けて施工します。
 - センターサイディングを専用釘（ステンスリング釘φ2.5mm×43mm）で実部に留め付けます。
 - センターサイディングの実部に留め付けができない場合は、表面から専用釘（ステンスリング釘φ2.75mm×50mm）で留め付けます。
 - 開口上側の端部（捨てシーリング箇所）、開口左右側・開口下側のセンターサイディングとサッシの取り合い部は、マスキングテープで養生後、化粧（三角）シーリングを施工します。（上側の端部は、奥までしっかりと充填します。）
- ※センターサイディングとサッシの取り合い部の化粧（三角）シーリング部は、美観上のメンテナンスを適宜おこなってください。
なお、化粧（三角）シーリング部に関する不具合は対応いたしかねますのでご了承ください。十分留意の上、施工を計画してください。



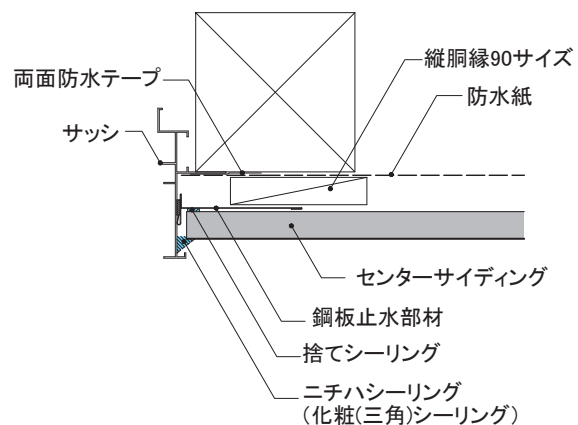
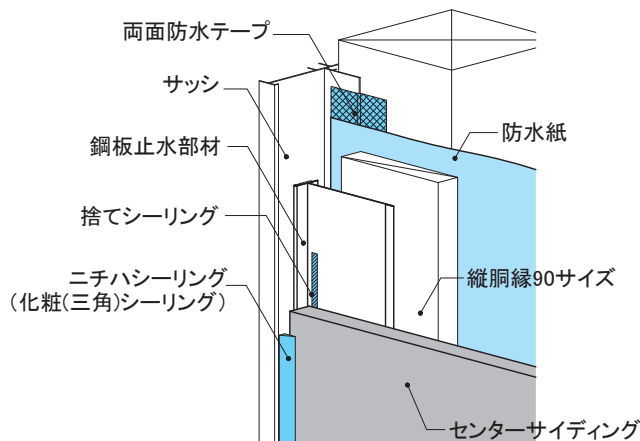
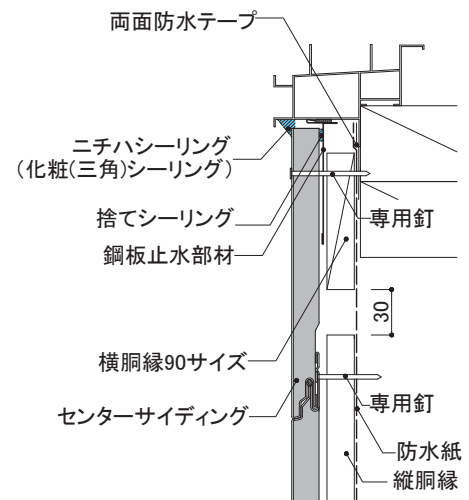
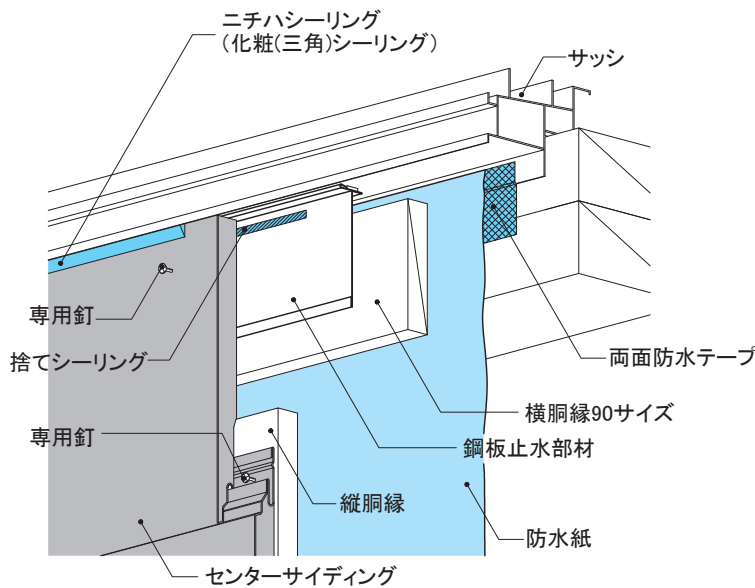
<捨てシーリング>

- 開口上側の両端部、止水部材の取り付け部、開口左右側・下側の鋼板止水部材上に捨てシーリングを施工します。
- 開口上側の両端部は、立ち上げシーリングとします。
- 捨てシーリングは、センターサイディング裏面と止水部材に密着するよう施工します。

センターサイディング	下地	留付方法	張り方向	木脚縁組
	木造下地	釘	横	縦脚縁 @500mm以下

開口部	下側 インナーシール工法
開口部	左右側 インナーシール工法

- 開口部周りには、両面防水テープを必ず使用し、防水紙を施工します。
 - サッシと縦・横脚縁の取り合い部は、サッシフィンを避けて20～30mm程度の隙間を設けます。
 - 開口部周りには、鋼板止水部材（以下、止水部材）をEPDM材が十分圧縮されるようにサッシ面に押しつけ、専用釘（ステンレスリング釘φ2.3mm×38mm）を用いて455mm以下の間隔（部材が浮く場合は適宜増し留め）で脚縁に留め付けます。（施工順：下側→左右側→上側）加工部が左右側部材の上に重なるように施工します。
 - サッシ左右側・下側の止水部材を継ぐ場合は隙間が出ないように突き付けて施工します。（EPDMが連続するように施工します。）
 - センターサイディングを取り付ける際に、止水部材上の指定箇所（開口上側端部・止水部材取り合い部・開口左右側および下側）に捨てシーリングを施工します。また止水部材（上側以外）の継ぎ部や、施工上サッシとの間に軽微な隙間ができてしまった箇所にも捨てシーリングを施工します。
 - 開口部左右側・下側は、止水部材との隙間ができるだけ小さくなるように、センターサイディングを施工します。
 - センターサイディングは専用釘（ステンレスリング釘φ2.5mm×43mm）で実部に留め付けます。
 - センターサイディングの実部に留め付けができない場合は、表面から専用釘（ステンレスリング釘φ2.75mm×50mm）で留め付けます。
 - 開口上側の端部（捨てシーリング箇所）、開口左右側・開口下側のセンターサイディングとサッシの取り合い部は、マスキングテープで養生後、化粧（三角）シーリングを施工します。
- ※センターサイディングとサッシの取り合い部の化粧（三角）シーリング部は、美観上のメンテナンスを適宜おこなってください。
 なお、化粧（三角）シーリング部に関しての不具合は対応いたしかねますのでご了承ください。
 ※サッシの下側・左右側に、開口部の際まで入れ込むことができませんセンターサイディングとの隙間が発生する場合には、シーリングまたはバッカー材とシーリングを十分に充填し、意匠性を確保します。十分留意の上施工を計画してください。



センターサイディング	下地	留付方法	張り方向	木胴縁組
	木造下地	釘	縦	横胴縁 @500mm以下

センターサイディング
標準施工法

センターサイディング
基本納まり図

本体・付属部材
詳細図

付属部材加工図

センターサイディング
木造編

センターサイディング
鉄骨造 金属胴縁編

センターサイディング
鉄骨造 直張り編

センターサイディング
標準施工法

センターサイディング
標準施工法

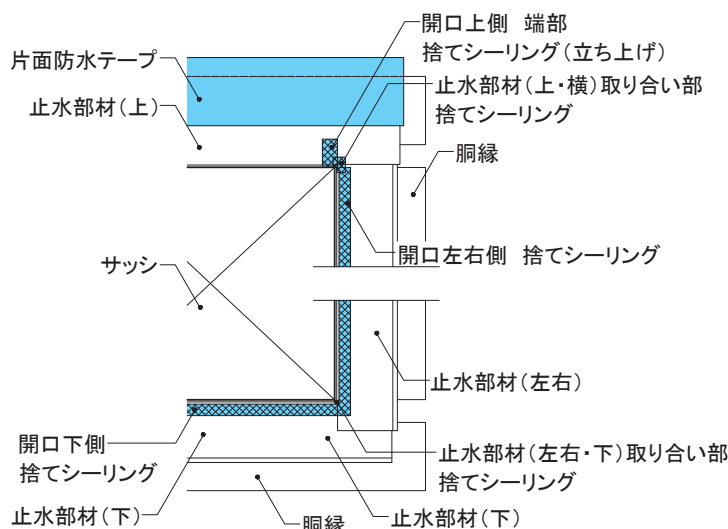
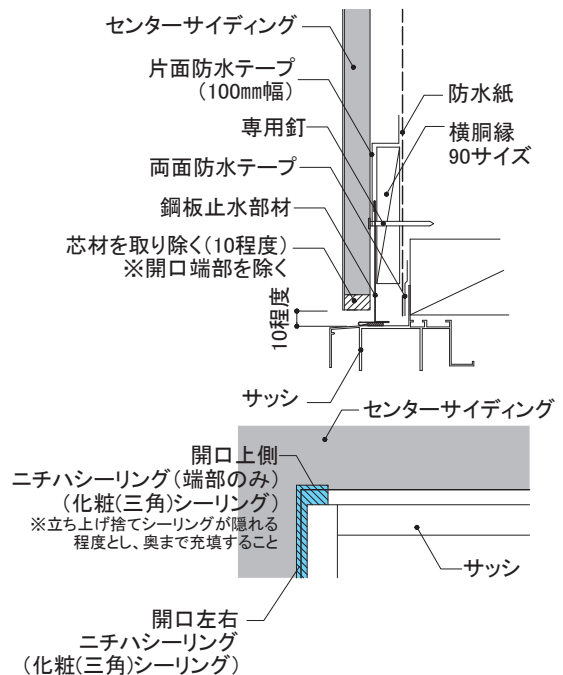
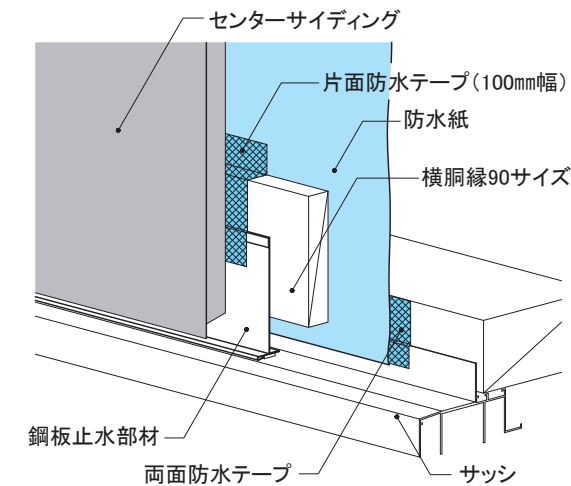
センターサイディング
納まり詳細図

参考資料

開口部

上側 インナーシール工法

- 開口部まわりには、両面防水テープを必ず使用し、防水紙を施工します。
 - サッシと横胴縁の取り合い部は、サッシフィンを避けて20～30mm程度の隙間を設けます。
 - 開口部まわりには、鋼板止水部材（以下、止水部材）をEPDM材が十分圧縮されるようにサッシ面に押しつけ、専用釘（ステンレスリング釘φ2.3mm×38mm）を用いて455mm以下の間隔（部材が浮く場合は適宜増し留め）で胴縁に留め付けます。（施工順：下側→左右側→上側）加工部が左右側部材の上に重なるように施工します。
 - サッシ上側の止水部材は継がずに1本の部材で施工します。
 - 開口上側の止水部材は、EPDM部の見掛けがなるべく小さくなるよう留め付けます。（サッシ上面が傾斜の場合は、EPDM部が見えやすくなりますのでご了承ください。）
 - 止水部材取り付け後、「止水部材（上部）-胴縁-防水紙」にまたがるように、片面防水テープ（100幅）を施工します。
 - センターサイディングを取り付ける際に、止水部材上の指定箇所（開口上側端部・止水部材取り合い部・開口左右側および下側）に捨てシーリングを施工します。（下記図参照）また止水部材（上側以外）の継ぎ部や、施工上サッシとの間に軽微な隙間が生じた箇所にも捨てシーリングを施工します。
 - 開口上側のセンターサイディング下端の芯材を、10mm程度取り除きます。（開口端部の裏面側立ち上げ捨てシーリング部に重なる箇所は、芯材を取り除かないでください。）
 - 開口上側のサッシとセンターサイディングの取り合い部は、10mm程度の隙間を設けて施工します。
 - センターサイディングを専用釘（ステンレスリング釘φ2.5mm×43mm）で実部に留め付けます。センターサイディングの実部に留め付けができない場合は、表面から専用釘（ステンレスリング釘φ2.75mm×50mm）で留め付けます。
 - 開口上側の端部（捨てシーリング箇所）、開口左右側・開口下側のセンターサイディングとサッシの取り合い部は、マスキングテープで養生後、化粧（三角）シーリングを施工します。（上側の端部は、奥までしっかりと充填します。）
- ※センターサイディングとサッシの取り合い部の化粧（三角）シーリング部は、美観上のメンテナンスを適宜おこなってください。
なお、化粧（三角）シーリング部に関しての不具合は対応いたしかねますのでご了承ください。十分留意の上、施工を計画してください。



<捨てシーリング>

- 開口上側の両端部、止水部材の取り合い部、開口左右側・下側の鋼板止水部材上に捨てシーリングを施工します。
- 開口上側の両端部は、立ち上げシーリングとします。
- 捨てシーリングは、センターサイディング裏面と止水部材に密着するよう施工します。

センターサイディング	下地	留付方法	張り方向	木脚縁組
	木造下地	釘	縦	横脚縁 @500mm以下

開口部	下側 インナーシール工法
開口部	左右側 インナーシール工法

- 開口部まわりには、両面防水テープを必ず使用し、防水紙を施工します。
- サッシと縦・横脚縁の取り合い部は、サッシフィンを避けて20~30mm程度の隙間を設けます。
- 開口部まわりには、鋼板止水部材(以下、止水部材)をEPDM材が十分圧縮されるようにサッシ面に押しつけ、専用釘(ステンスリング釘φ2.3mm×38mm)を用いて455mm以下の間隔(部材が浮く場合は適宜増し留め)で脚縁に留め付けます。(施工順:下側→左右側→上側)左右止水部材の加工部が下側部材の上に重なるように施工します。
- サッシ左右側・下側の止水部材を継ぐ場合は隙間のでないよう突き付けて施工します。(EPDMが連続するように施工します。)
- センターサイディングを取り付ける際に、止水部材上の指定箇所(開口上側端部・止水部材取り合い部・開口左右側および下側)に捨てシーリングを施工します。また止水部材(上側以外)の継ぎ部や、施工上サッシとの間に軽微な隙間が出来てしまった箇所にも捨てシーリングを施工します。捨てシーリングはセンターサイディング裏面と密着する位置に施工します。
- 開口部左右側・下側は、止水部材との隙間ができるだけ小さくなるように、センターサイディングを施工します。
- センターサイディングは専用釘(ステンスリング釘φ2.5mm×43mm)で実部に留め付けます。センターサイディングの実部に留め付けができない場合は、表面から専用釘(ステンスリング釘φ2.75mm×50mm)で留め付けます。
- 開口上側の端部(立ち上げ捨てシーリング箇所)、開口左右側・開口下側のセンターサイディングとサッシの取り合い部は、マスキングテープで養生後、化粧(三角)シーリングを施工します。

※センターサイディングとサッシの取り合い部の化粧(三角)シーリング部は、美観上のメンテナンスを適宜おこなってください。

なお、化粧(三角)シーリング部に関しての不具合は対応いたしかねますのでご了承ください。

※縦張りの留意事項として、サッシの左右側にサイディングかんごう部のみ込みシロ分の隙間が発生します。

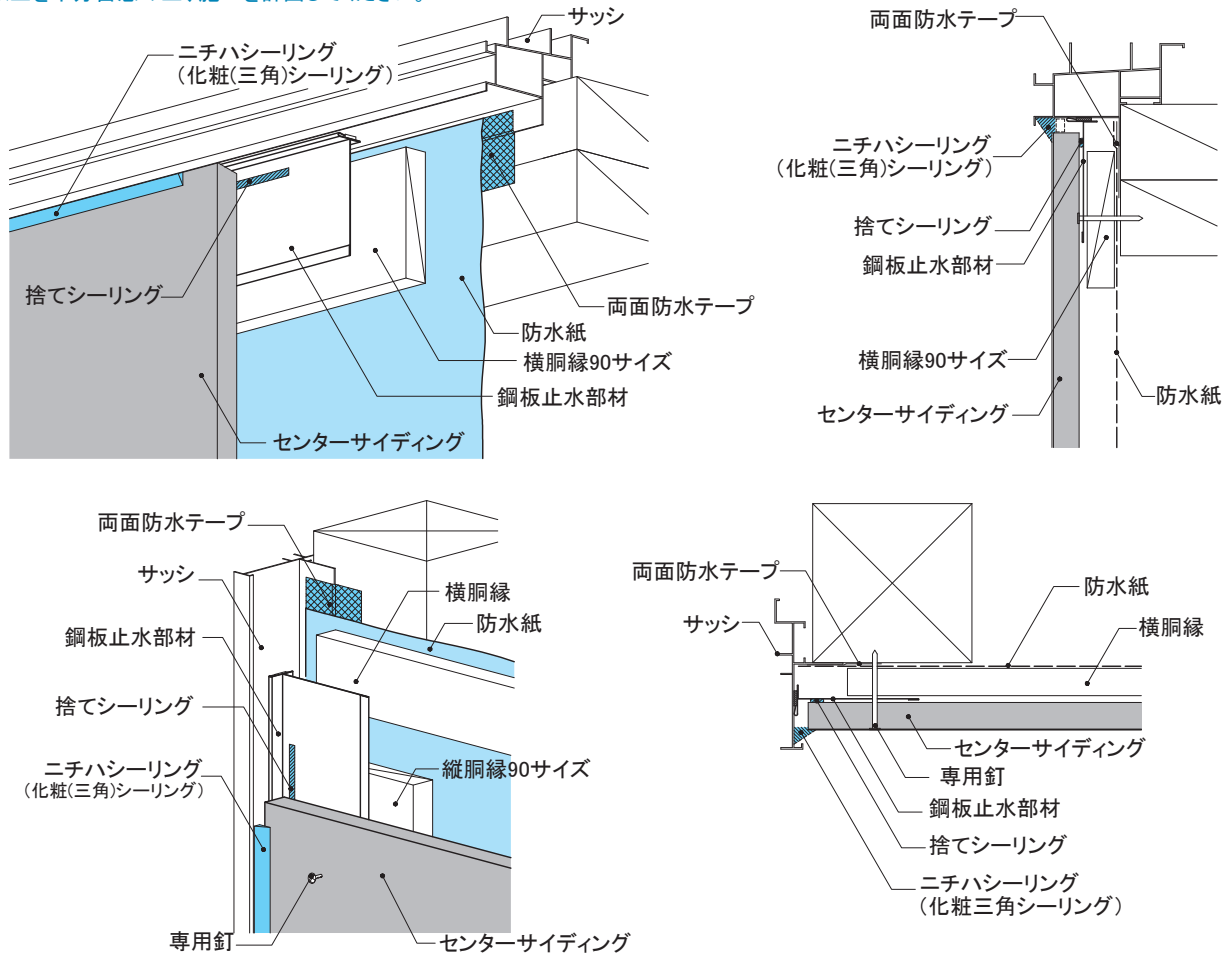
(例:NS型ネオスパン 約20mm)この場合、シーリングまたはパッカー材+シーリングを十分に充填し、意匠性を確保します。

※土台部および中間部に端部カバーを使用する場合、サッシ下側に端部カバーへののみ込みシロ分の隙間が発生します。

(例:NS型ネオスパン 約15mm)この場合も、シーリングまたはパッカー材+シーリングを十分に充填し、意匠性を確保します。

また、シーリング充填時は、サイディング表面の鋼板部に十分シーリングが掛かるようにします。

以上を十分留意の上、施工を計画してください。



2 各部の基本納まり図

2-6 開口部

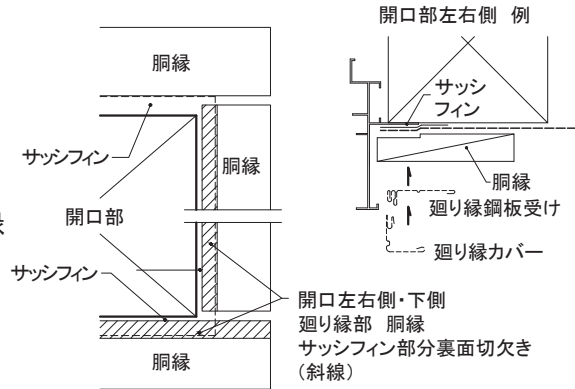
⑧ 廻り縁納め

- ※ 廻り縁カバーの設定があるセンターサイディングに適用します。
- ※ スマートフラットは廻り縁納めで施工します。

■ 施工方法および施工手順(縦張り/横張り)

手順① 防水紙・胴縁の施工

- 開口部まわりには、両面防水テープを必ず使用し、防水紙を施工します。
- 開口部まわりの胴縁は、幅90mmサイズを使用します。
- 開口上側の胴縁は、サッシフィンを避けて(サッシと胴縁が20~30mm程度離れている状態)施工してください。
- 開口左右側・開口下側の胴縁は、サッシフィン部分を切欠いてサッシに近づけて施工します。(廻り縁鋼板受け端部が浮いた状態だと、廻り縁カバーを取り付けにくくなるため。)

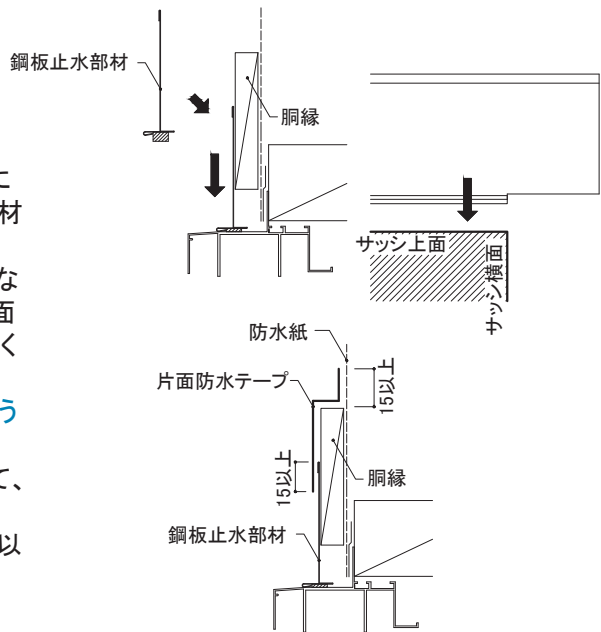


手順② 鋼板止水部材(上側)の施工

- 開口上側に鋼板止水部材を取り付けます。
- 鋼板止水部材の両端T字部を、サッシ横の面にあわせ切断加工します。(鋼板止水部材の加工方法参照)
- EPDM材が十分圧縮されるように、部材をサッシ面に押しつけながら胴縁に留め付けます。(鋼板止水部材の留め付け参照)
- 開口上側の鋼板止水部材は、EPDM部の見掛けがなるべく小さくなるよう留め付けてください。(サッシ上面が傾斜している場合は、EPDM部の見え掛けが大きくなりますのでご了承ください。)

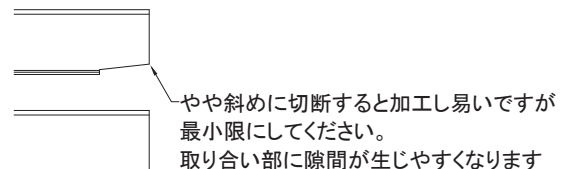
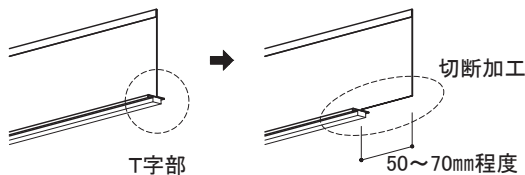
※ 開口上側の鋼板止水部材は、継ぎ施工をしないよう1本の部材で施工してください。

- 開口上側の鋼板止水部材~胴縁~防水紙に掛けて、片面防水テープ(100mm幅)を施工します。
 - 片面防水テープは、鋼板止水部材・防水紙に15mm以上重なるように貼り付けます。
- ※ 隙間のないよう十分に貼り付けてください。



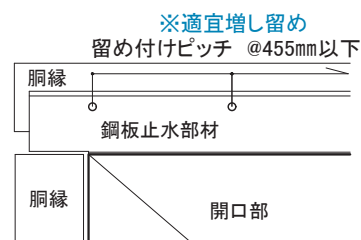
< 鋼板止水部材の加工方法 >

- 鋼板止水部材の両側のT字部を指定位置で切断加工します。(加工部の長さは50~70mm程度としてください。)



< 鋼板止水部材の留め付け >

- EPDM材が十分圧縮されるように部材をサッシ面に押しつけながら、胴縁に留め付けます。
- 専用釘(ステンレスリング釘φ2.3mm×38mm)にて@455mm以下かつEPDM部が浮く場合は適宜増し留めしてください。



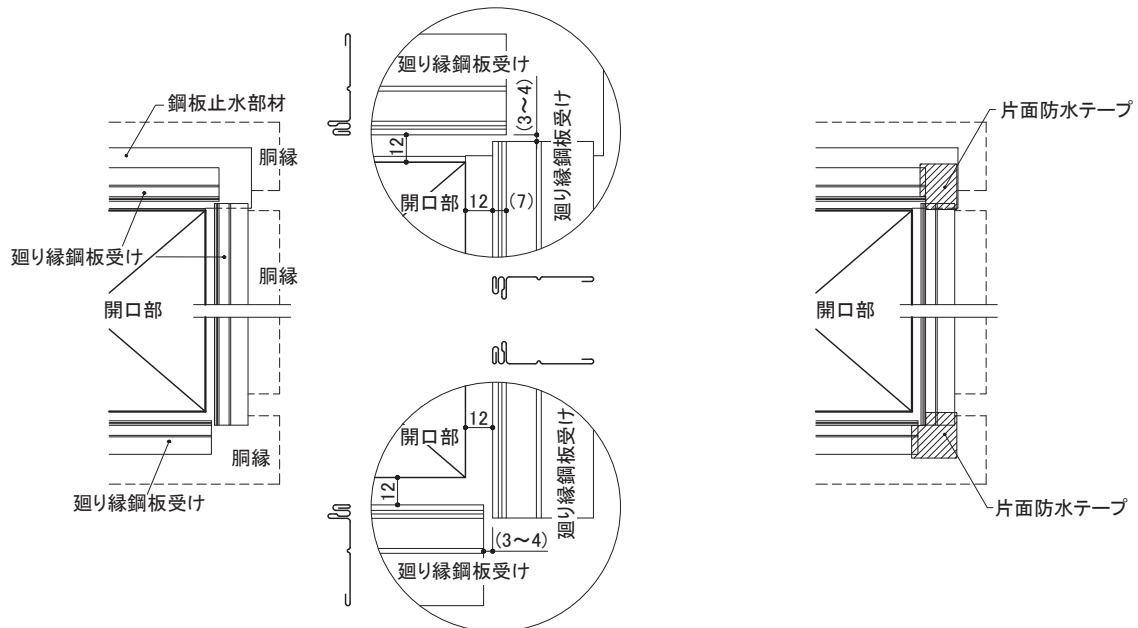
2 各部の基本納まり図

2-6 開口部

⑧ 廻り縁納め

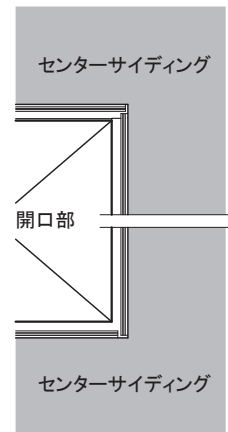
手順③ 廻り縁鋼板受けの施工

- 廻り縁鋼板受けを、四周それぞれに取り付けます。鋼板受け部材とサッシとの空きは12mm程度を目安に施工します。(サッシと廻り縁カバーとの空きが10mm程度となるように施工してください。)
- 廻り縁鋼板受け同士は、図のように勝ち負けの取り合いとなるように長さおよび隙間を設け施工します。(勝ち側の廻り縁鋼板受けは、負け側の廻り縁鋼板受けの差し込み立ち上がり部以上の長さとしてください。)
- 角部の廻り縁鋼板受け部分に、片面防水テープを施工します。
※隙間が出ないように十分に貼り付けてください。

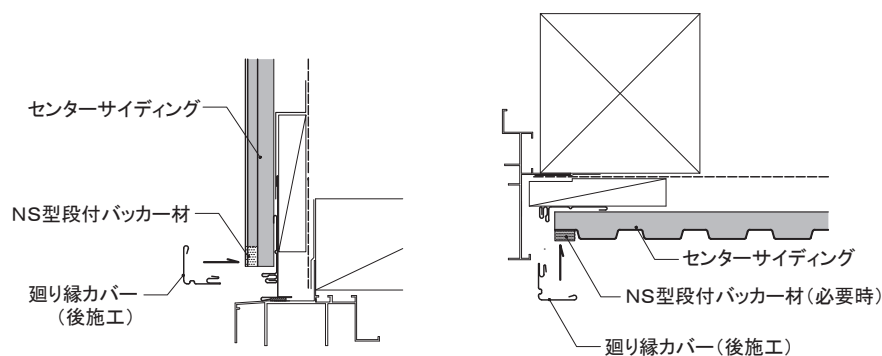


手順④ センターサイディング本体の施工

- センターサイディング本体を廻り縁カバーと十分かぶる寸法(かぶり寸法10mm程度)に切断し施工します。
- スパン系・ストライプ系のセンターサイディングの場合は、専用バッカー材を取り付けます。(後施工の廻り縁カバーに隠れる位置に取り付けてください。)



<センターサイディング本体・専用バッカー材の施工> (例 NS型ネオスパン 縦張りの場合)



2 各部の基本納まり図

2-6 開口部

⑧ 廻り縁納め

手順⑤ 廻り縁カバーの施工

●開口上側の廻り縁カバーは、事前に水抜き穴(φ6mm×300mm間隔)を加工します。

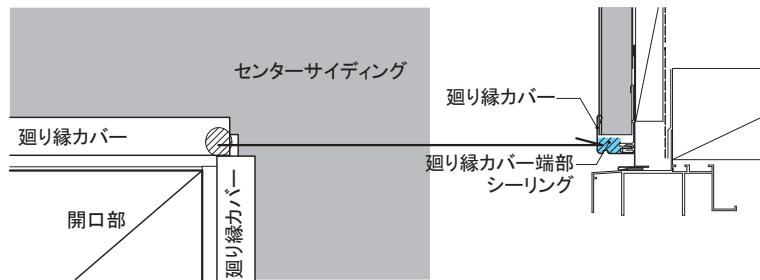
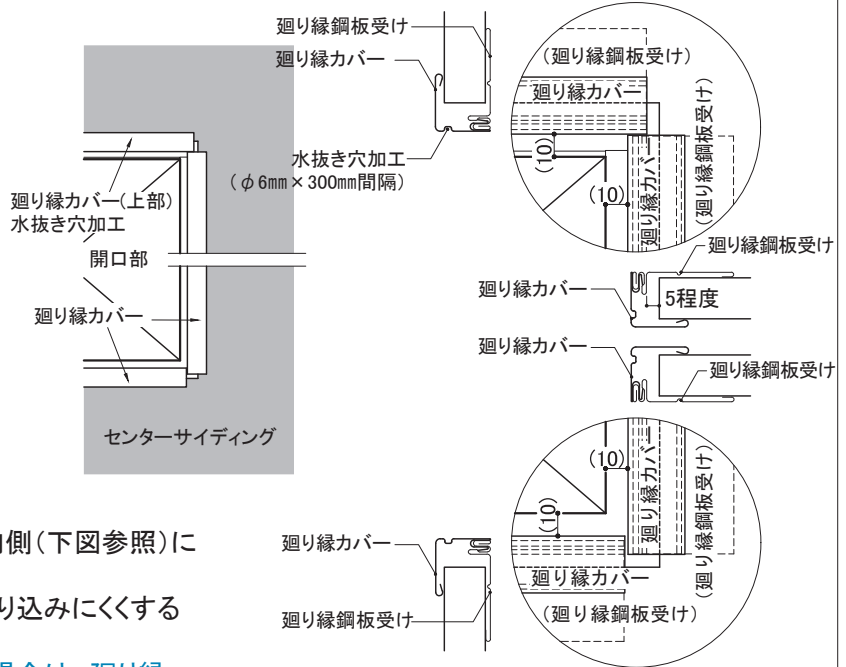
●廻り縁カバーは、図のような取り合いとなるよう長さを加工し施工します。(上側は左右の廻り縁鋼板受けにかぶるように、左右側は下側の廻り縁カバーにかぶるようにします。)

廻り縁カバーは開口の途中で接合しないでください。

※廻り縁カバーを施工する際に、角部の納まりに隙間がある場合は、シーリングを施工してください。

●開口上側の廻り縁カバー端部の内側(下図参照)にシーリングを施工します。(上側廻り縁の雨水が左右側に回り込みにくくする措置となります。)

※シーリングを充填する隙間のない場合は、廻り縁カバー取り付け直前に廻り縁カバー内側にシーリングを充填してから取り付けます。



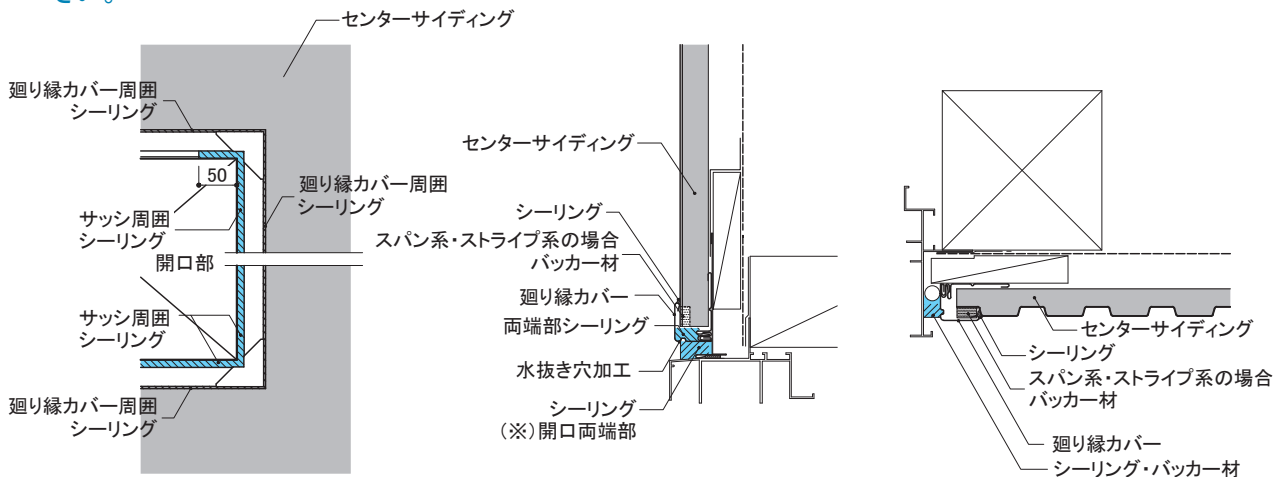
手順⑥ 見切コーナー・開口周囲シーリングの施工

●廻り縁カバー角部に、見切りコーナー部材を取り付けます。

●サッシ周囲では、上側は端部50mm程度にシーリングを施工します。下側・左右側は、バッカー材(現場調達)・シーリングを施工します。

●廻り縁カバー周囲(廻り縁カバーとセンターサイディング本体の取り合い部)にシーリングを施工します。(スパン系・ストライプ系のセンターサイディングの場合は、専用バッカー材の事前取り付けが必要です。)

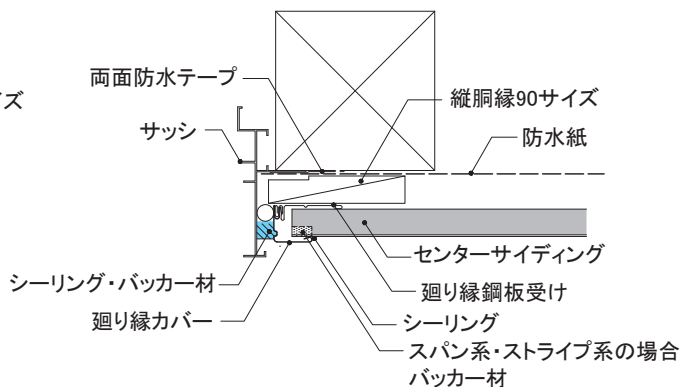
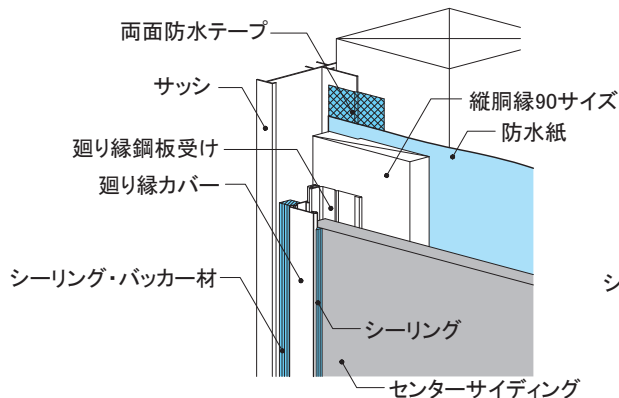
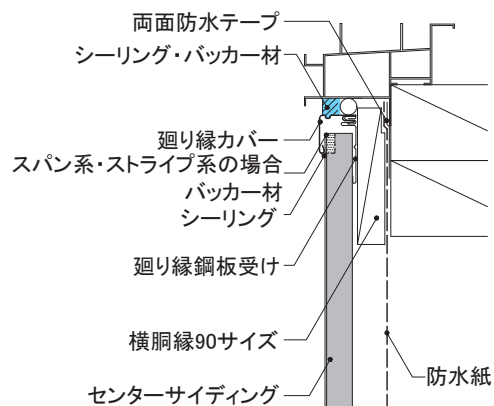
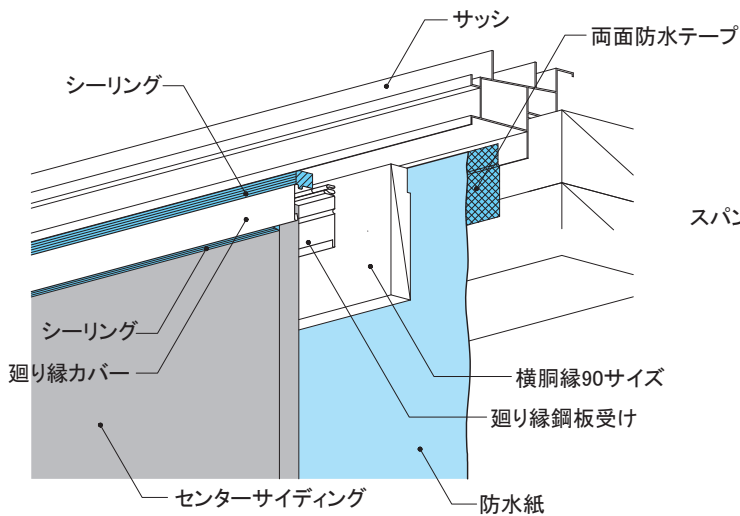
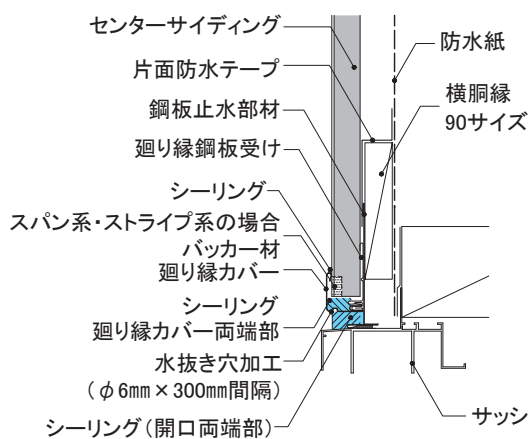
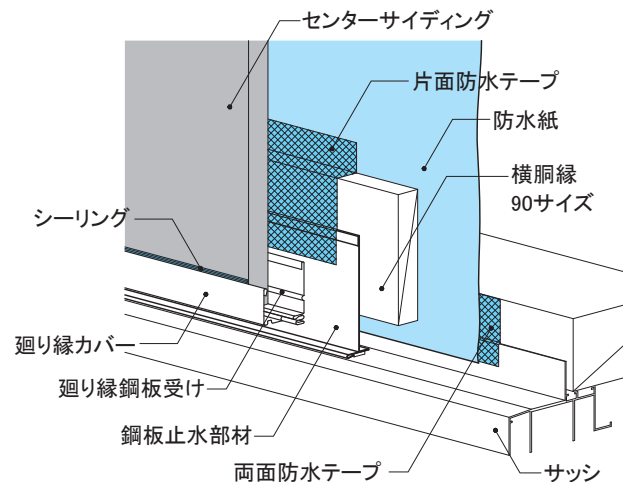
※廻り縁カバー周囲のシーリングは、切れる可能性もありますので定期的なメンテナンスをおこなってください。



センターサイディング	下地	留付方法	張り方向	木胴縁組
	木造下地	釘	縦/横	開口周囲 90mmサイズ

開口部 ⑧廻り縁納め

- 開口部まわりに、廻り縁を使用した場合の納まりです。
胴縁仕様および廻り縁カバーの設定があるセンターサイディングに適用となります。
詳細は、施工方法および施工手順(P69~71)を参照してください。
- その他の施工に関しては、標準施工を遵守してください。



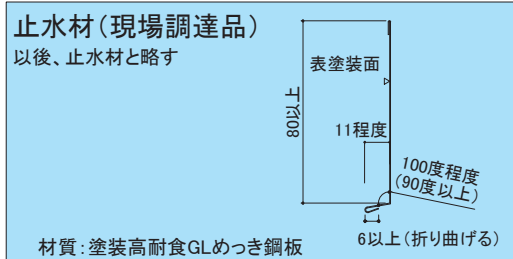
2 各部の基本納まり図

2-6 開口部

⑨ 廻り縁納め 鉄骨造直張り仕様

※ 廻り縁カバーの設定があるセンターサイディングで、直張りは倉庫などの非住宅に適用します。
 ※ スマートフラットは廻り縁納めで施工します。

- 止水材（現場調達品）について
 鉄骨造直張りで開口部周囲を廻り縁カバーで納める際は、以下の手順で施工してください。
 なお、開口上部に使用する止水材は現場調達品です。左記条件を満たす部材としてください。

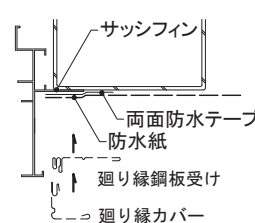


■ 施工方法および施工手順（縦張り／横張り）

手順① 防水紙の施工

- 開口部周りには、両面防水テープを必ず使用し、防水紙を施工します。

開口部左右側 例



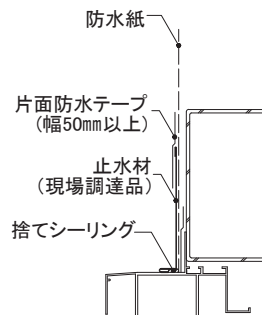
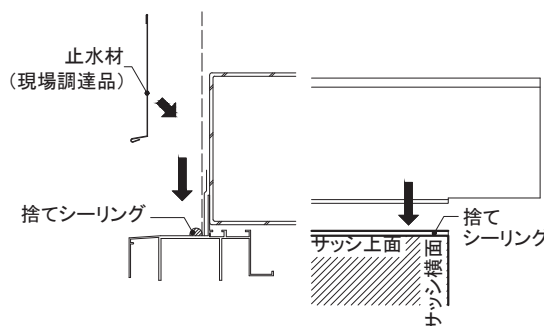
手順② 止水材（上側）の施工

- 開口上側に止水材を取り付けます。
- 止水材の両端L字部を、サッシ横の面にあわせ切断加工します。（止水材の加工方法参照）
- 止水材の取り付け前に、図のようにシーリングを捨て打ちします。止水材をサッシ面に押しつけながら下地に留め付けます。（止水材の留め付け参照）

※ 止水材は、継ぎ施工をしないよう1本の部材で施工してください。

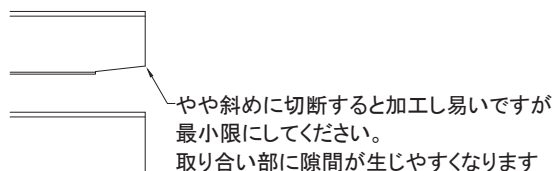
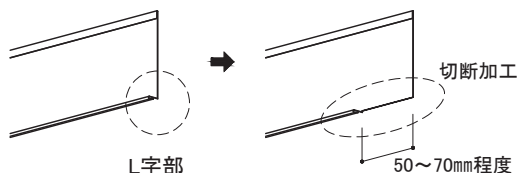
- 止水材上端は片面防水テープ（50mm幅以上）で防水紙と確実に密着します。

※ 隙間が出ないように十分に貼り付けてください。



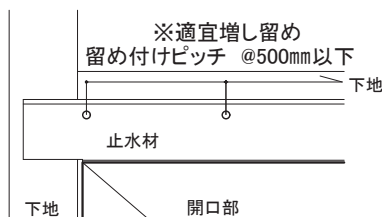
< 止水材の加工方法 >

- 止水材の両側のT字部を指定位置で切断加工します。（加工部の長さは50～70mm程度。）



< 止水部材の留め付け >

- シーリングを捨て打ちした後、止水材をサッシ面に押しつけながら、下地に留め付けます。
- 専用ビス（ステンレスビスφ4mm×19mm）にて、@500mm以下で留め付けます。



手順③～⑥はP70～71をご参照ください。

センターサイディング

下地

鉄骨造直張り

留付方法

ビス

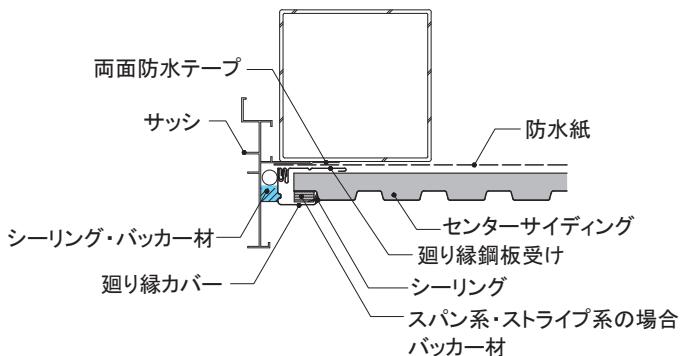
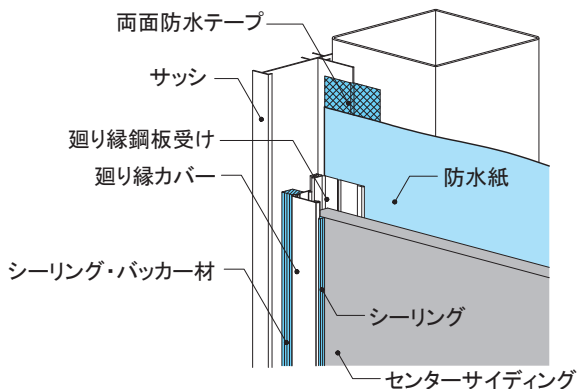
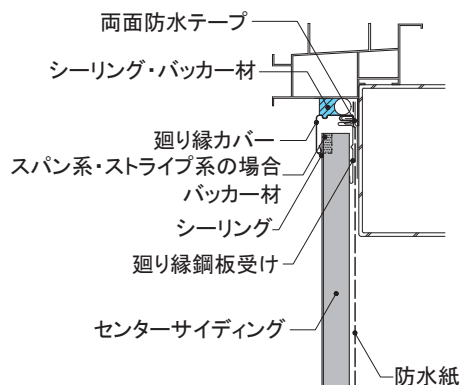
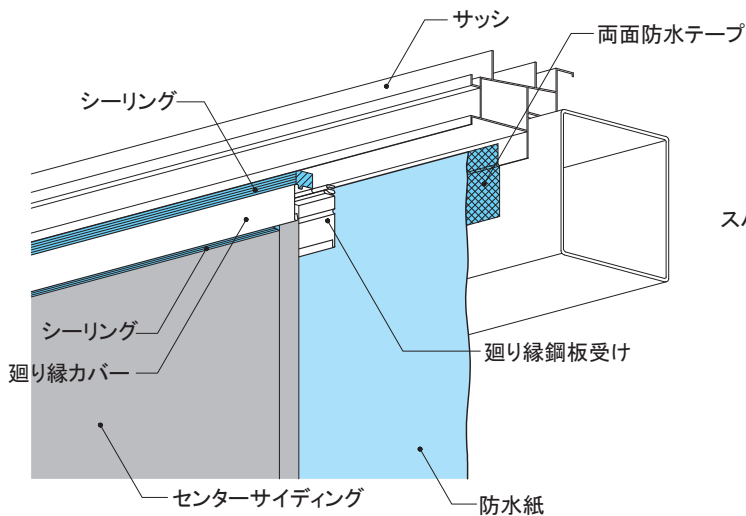
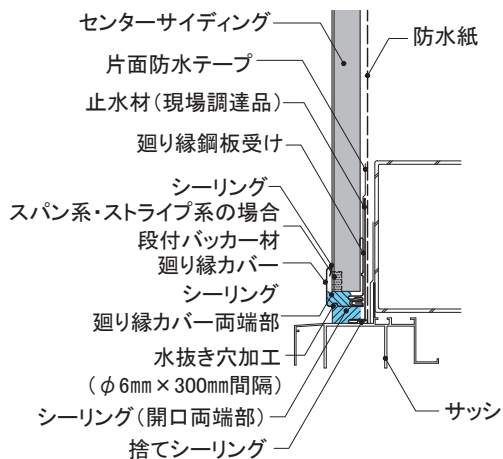
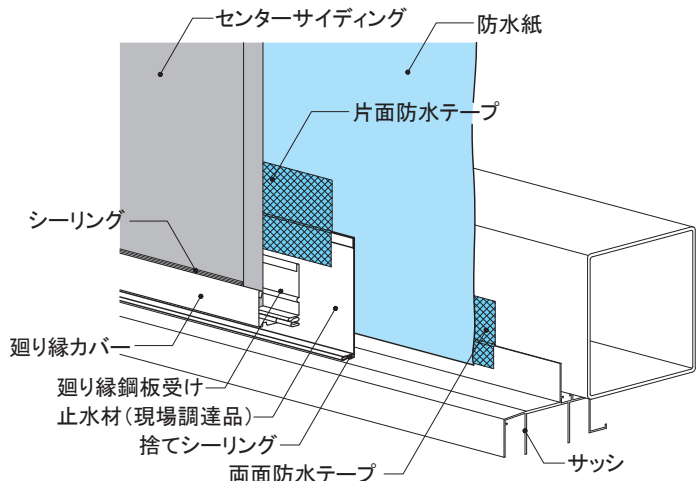
張り方向

縦/横

開口部

⑨廻り縁納め 鉄骨造直張り仕様

- 開口部まわりに、廻り縁を使用した場合の納まりです。
廻り縁カバーの設定があるセンターサイディングに適用となります。
詳細は、施工方法および施工手順(P73)を参照してください。
- その他の施工に関しては、標準施工を遵守してください。

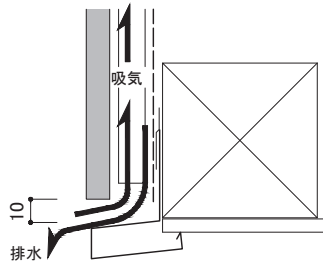


2 各部の基本納まり図

2-7 オーバーハング部

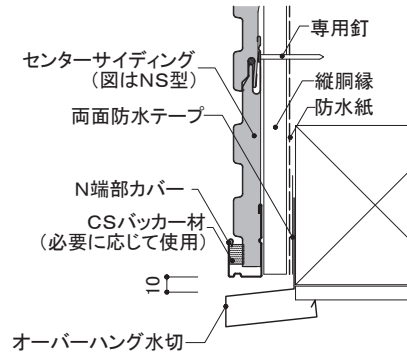
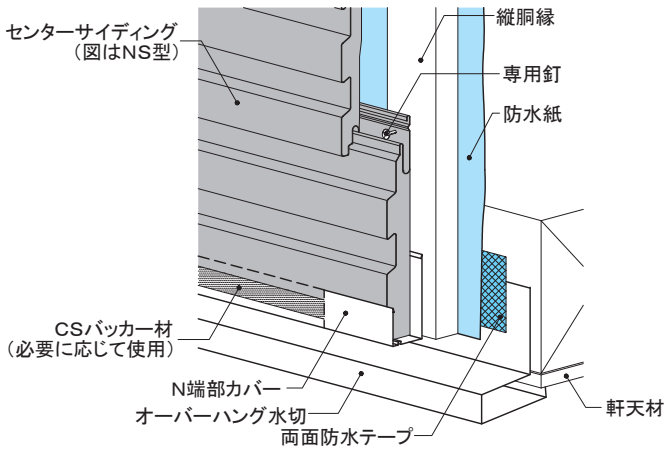
1) 基本納まり

オーバーハング部は外壁通気構法の「吸気」機能、浸入水や結露水などの「排水」機能を発揮するよう施工します。



- オーバーハング部材は水平に十分留意して、木下地の場合は専用釘（φ2.3mm×38mm）で500mm以下の間隔で躯体に留め付け、鉄骨下地の場合は専用ビス（P35）を用いて610mm以下の間隔で胴縁に留め付けます。オーバーハング部材を取り付け後、両面防水テープで防水紙を密着させます。
- センターサイディング下端とオーバーハング部材の隙間は必ず10mm確保し、シーリングなどでふさがらないでください。
- 端部カバーの設定がない柄は、芯材を取り除く（縦張り時）か見切縁に水抜き穴（φ10mm×300mm間隔）を現場加工し、施工します。

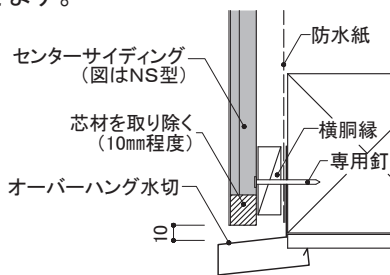
①横張りの場合



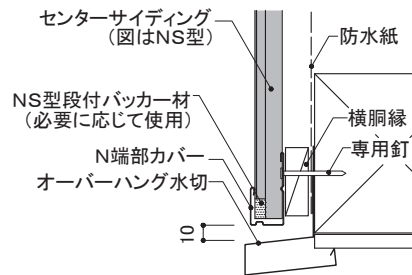
M型、NS型、iシリーズ、ST型、
F型、FB型、FN型、D型

②縦張りの場合

- 本体の張り始めは、本体のみで施工する仕様と端部カバーなどを使用して施工する仕様があります。
- 本体のみで施工する仕様は切断部が露出します。芯材の吸水防止のため切断部の芯材を10mm程度取り除きます。

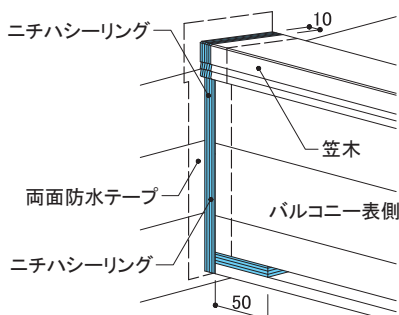


M型、NS型、ST型、
F型、FB型、FN型、A型



M型、NS型、ST型、
F型、FB型、FN型、A型

<オーバーハング水切と壁面入隅部>



✗

禁止 不具合のおそれがある納まり

左図のような納まりは……

- ①裏面に浸入した雨水や結露水を排出できず、軒天材にシミを作るなどの不具合の原因となります。
- ②外壁通気の吸気排水経路が確保できません。

2 各部の基本納まり図

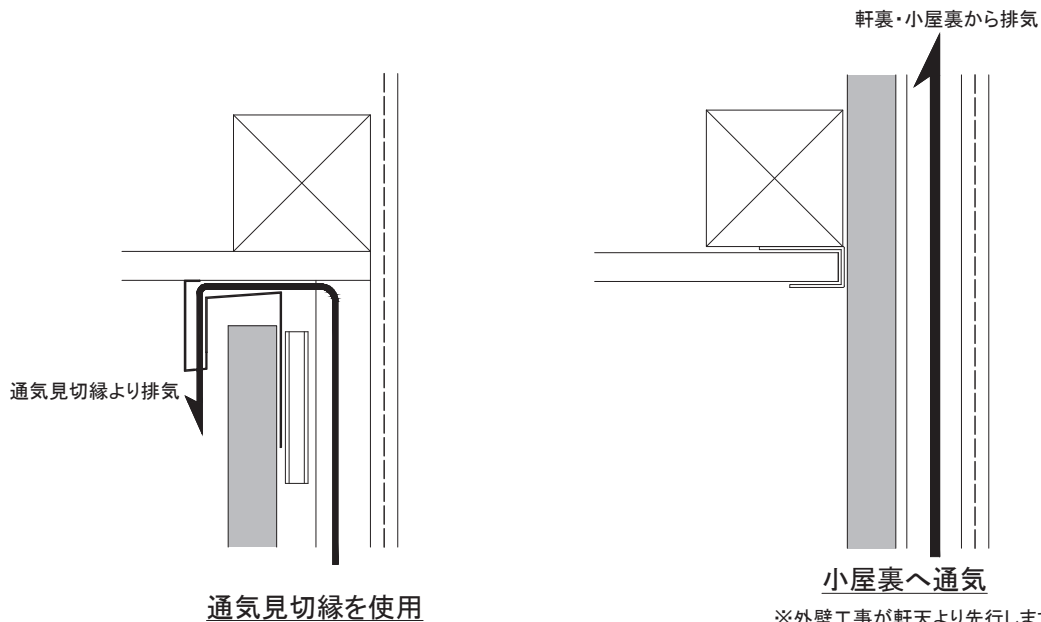
2-8 軒天部

1) 基本納まり

- 軒天部は外壁通気構法の「排気」を行う部位です。軒裏、小屋裏へ排気ができるように胴縁組みをするか、通気見切部材を使用し排気を行います。
- A型は長手方向に切断すると、実形状および芯材の厚みにより働き幅方向の厚みが変わります。そのまま施工すると本体が傾いてしまうため、あらかじめ木材などの調整材を施工します。

換気の種類	センターサイディングの種類	付属部材の種類
通気見切換気	全ての型	通気見切縁21
軒裏・小屋裏換気	M型、NS型、ST型、F型、FB型、FN型、D型	S廻り縁鋼板受け＋(N)S廻り縁カバー18
	M型、NS型、シリーズ、ST型、F型、FB型、FN型、D型、A型	(N)S見切縁18

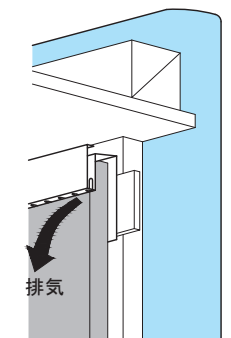
注意 通気見切縁は自治体によって、延焼のおそれのある部分や防耐火構造の外壁に使用することが認められていない場合がありますので、各指定確認検査機関などにご確認ください。



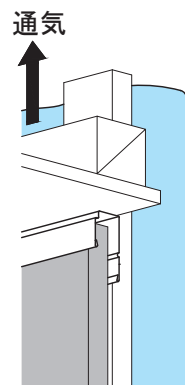
※外壁工事が軒天より先行します。工程手順に注意してください。

2) 部材による軒天納まりの種類

通気見切換気

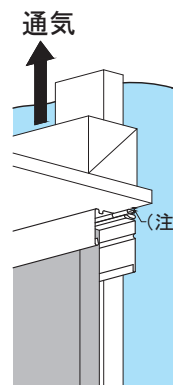


<通気見切縁21>



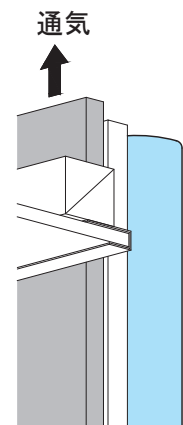
(N)S見切縁18

軒裏・小屋裏換気



S廻り縁鋼板受け＋(N)S廻り縁カバー18

(注) S廻り縁鋼板受けは(N)S廻り縁カバー18が嵌められるように、軒天材との間に5mm程度の隙間を設け取り付けます。



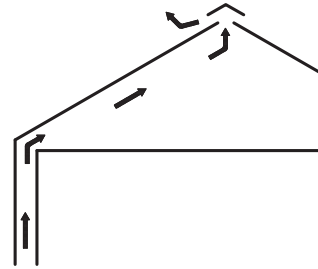
天井見切縁
(現場調達品)

2 各部の基本納まり図

2-9 軒天部(軒・けらばの出寸法がない場合)

1) 基本概念

- 軒やけらばの出が極めて少ない(通称:軒ゼロなど)
納まりの場合、「軒天部の基本納まり」同様、まず
小屋裏または屋根面からの排気をお考えください。



2) 部材を使用した納まり

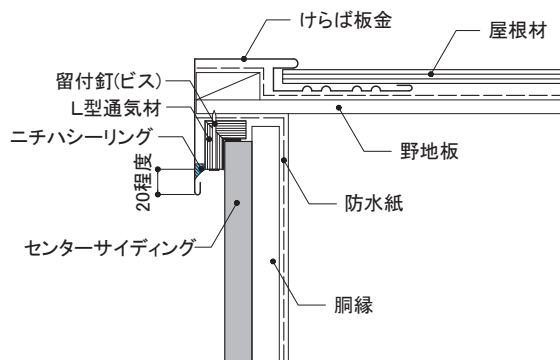
- 躯体構造上小屋裏からの排気が困難な場合、部材を使用して通気をとることができます。



軒天換気部材は、自治体によって延焼のおそれのある部分での使用が認められない場合があります。また地域により開口面積について、通気抵抗係数などにより制限される場合があります。各指定確認検査機関などにご確認ください。

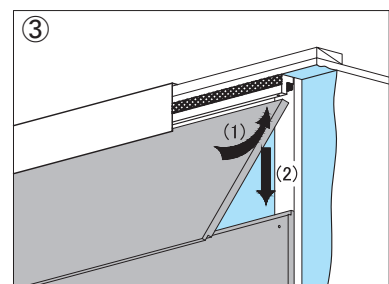
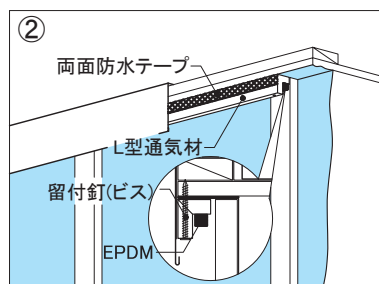
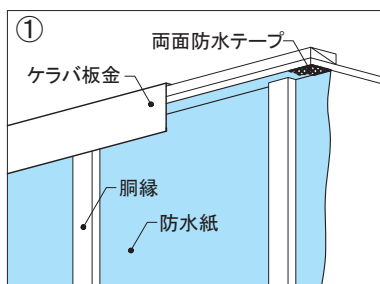
① L型通気材

- 防水紙、胴縁を施工します。防水紙の張り終わり部分は、両面防水テープで防水処理します。
 - L型通気材に付いている両面テープの剥離紙を剥がし、EPDMが付いている面を下向きにして、L型通気材を取り付けます。L型通気材は釘、またはビスで胴縁ごとに留め付けてください。(けらば板金工事が先行している場合は野地板に留め付けます。)この際、L型通気材と胴縁の間はセンターサイディングが入る程度の隙間をあけておきます。
 - センターサイディングを施工します。最上段のセンターサイディングはL型通気材の奥まで差し込んだ後、下げながら施工します。センターサイディングを施工後、L型通気材とセンターサイディングの隙間が大きい場合はシーリング処理します。
- ※切り妻屋根の妻面などの傾斜のある部分で使用される場合、センターサイディング表面とL型通気材との隙間を10mm程度確保してください。隙間が狭すぎると、上手く施工できないおそれがあります。センターサイディング施工後は、L型通気材とセンターサイディングの隙間をシーリング処理します。



横張り施工

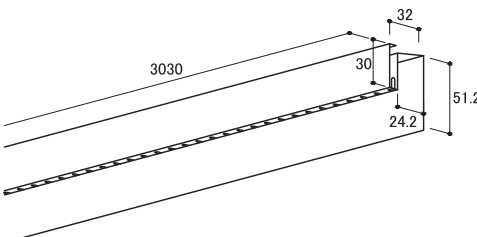
施工手順



2 各部の基本納まり図

2-9 軒天部(軒・ケラバの出寸法がない場合)

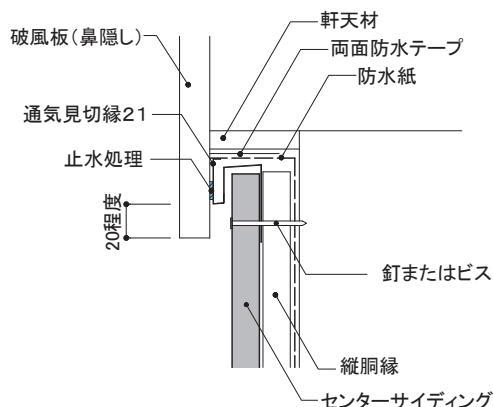
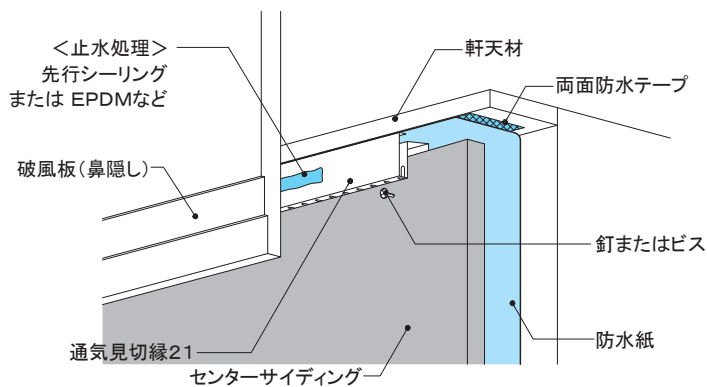
②通気見切縁

商品名	寸法(mm)	材質
通気見切縁21		塗装高耐食GLめっき鋼板 板厚_0.35mm

※けらば部への施工はできませんのでご注意ください。
 ※小屋裏換気には使用できませんのでご注意ください。
 ※軒裏の認定はありませんのでご注意ください。

軒の出が少ない場合の納まり例:センターサイディング

- 納まりの性質上、外壁工事が先行しますので工程手順にご注意ください。
- 止水処理は、先行シーリングまたはEPDMなどとし、空き寸法に合わせて隙間のないよう施工します。



2 各部の基本納まり図

2-9 軒天部(軒・ケラバの出寸法がない場合)

③日本住環境株式会社製品

品名	寸法(mm)			原材料	有効開口面積
	厚み	高さ	長さ		
軒天換気部材 イーヴスベント585H	18	40/25	1820	ポリプロピレン	142cm ² /m
換気ガラリ イーヴプロテクター	準耐火構造1時間(軒裏)性能試験合格品 認定番号QF060RS-0022				

※上記商品以外の使用は、弊社施工法の対象外となりますのでご注意ください。
 ※上記換気部材自体はニチハの保証対象ではありません。

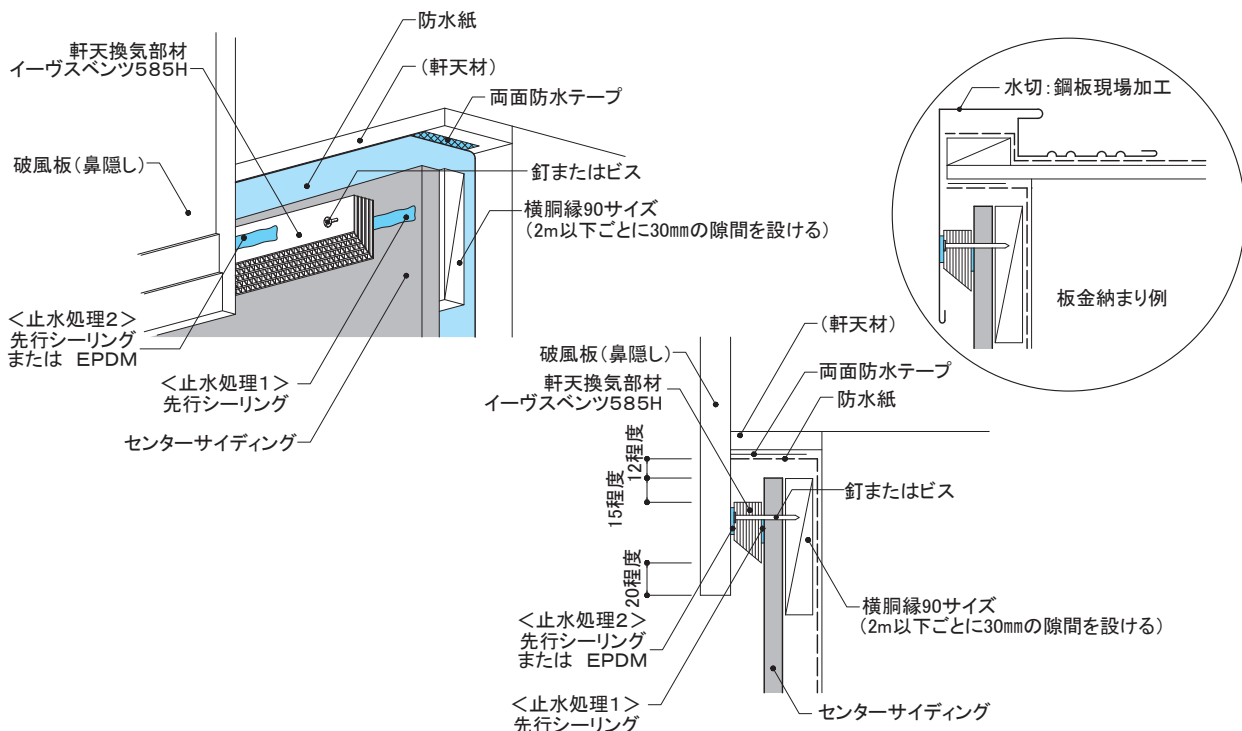
●部材および商流などに関するお問い合わせは下記へお願いします。

日本住環境株式会社 営業本部

TEL 03-5289-3302

(ニチハの設計施工資料集を見ての問い合わせとお伝えください。)

- 軒天換気部材は片側が斜めの形状ですが、納まり上、部材の上下および表裏に制限はありません。
 - 納まりの性質上、外壁工事が先行しますので工程手順に注意します。
 - センターサイディングの横胴縁は、通気のため下図のようにセンターサイディングの上端と横胴縁の上端は位置を合わせ、2m以下ごとに30mmの隙間を設けます。
 - 止水処理1は、先行シーリングとし、センターサイディング柄溝部分にも十分に充填します。
 - 軒天換気部材は釘またはビスで胴縁に500mm以下の間隔で留め付けます。
 - 止水処理2は、先行シーリングまたはEPDMなどとし、空き寸法に合わせて隙間のないよう施工します。
- ※部材の連結部分は、シーリング処理をします。
 ※部材および破風(鼻隠し)などの仕上げ材は、胴縁または躯体に届くよう留め付けます。
 またセンターサイディングを貫通する際には適宜先孔をあけて留め付けます。

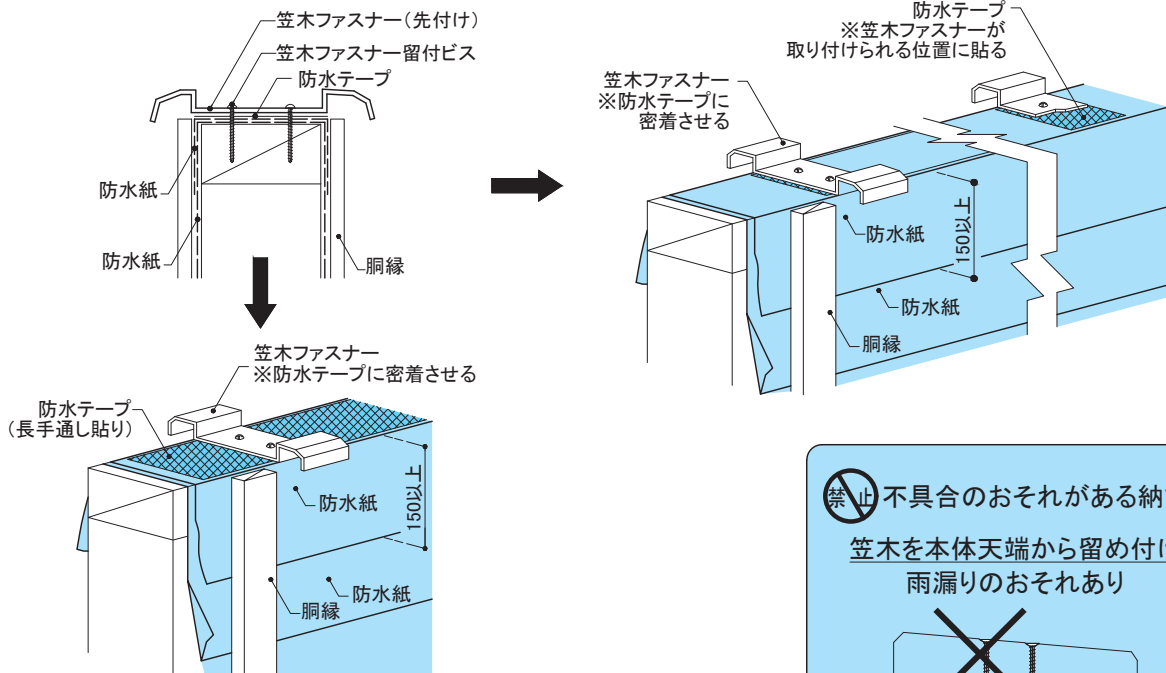


2 各部の基本納まり図

2-10 笠木部

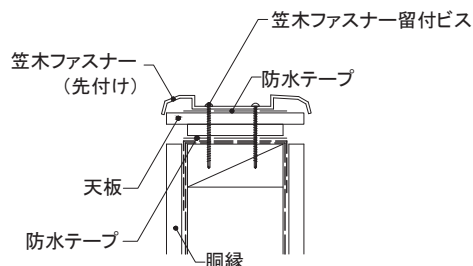
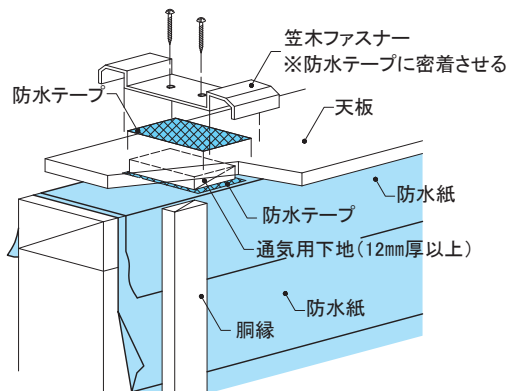
1) 基本納まり

- 防水紙が張り上がった後、笠木の天端は図のように長手方向に防水テープを貼るか、事前に笠木を取り付ける工事業者または現場管理者に確認を行い、笠木ファスナーの位置がわかる場合は、その位置に防水テープを貼り付けます。
 - 笠木は外勾配にはしないでください。
 - 雨漏りの危険があるため、笠木本体や手すり部材は上部から直接留め付けしないでください。
- ※ 笠木のタイプにより外壁取り合い部が異なります。外壁工事と施工順が変わる事もありますので必ず事前に確認してから施工してください。図は笠木取付金具(先付け笠木ファスナー)の取り付け後、笠木本体を後にはめ込むタイプの例です。



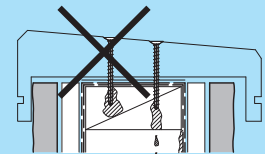
<天板を入れる場合>

- 天板を取り付ける場合は通気用下地を留め付け、その上に天板を取り付けます。その場合は通気用下地の裏に防水テープを貼り付けます。
 - 笠木ファスナーは、通気用下地がある部分の天板に再度防水テープを貼ってから笠木ファスナーを留め付けてください(※)。
- ※ 笠木取り付け工事業者様の施工

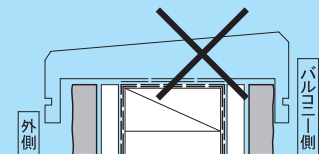


禁止 不具合のおそれがある納まり

笠木を本体天端から留め付け
雨漏りのおそれあり



笠木を外勾配で取り付け
外壁表面を多量の雨水が流れる
おそれあり



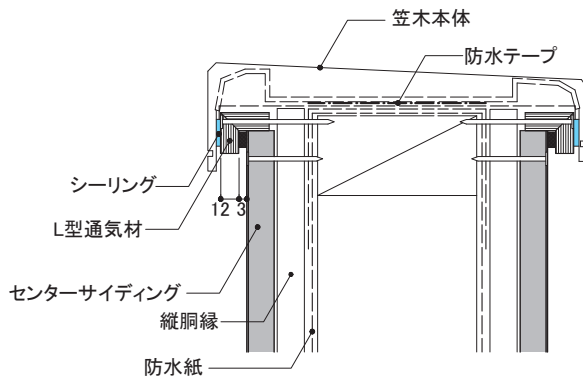
2 各部の基本納まり図

2-10 笠木部

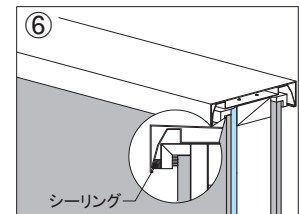
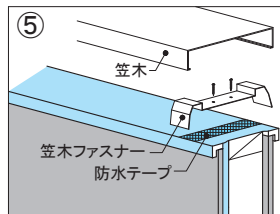
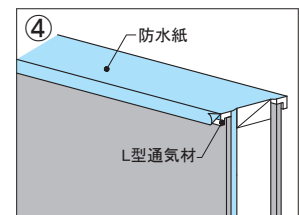
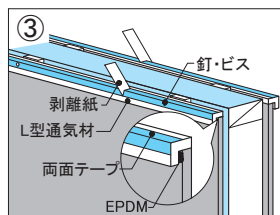
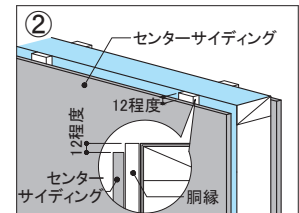
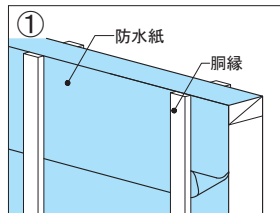
2) L型通気材を使用した納まり

- 防水紙、胴縁を施工します。
- センターサイディングを施工します。この際、L型通気材取り付けのために、センターサイディングは胴縁上端より12mm程度下がったところを上端として施工します。
- L型通気材を施工します。L型通気材は釘またはビスで胴縁に留め付けます(2ヶ所以上/本)。
L型通気材はEPDMをセンターサイディング表面に押しつけるようにして施工します。
L型通気材どうしの接合部は、突き付けた後、両面防水テープで固定します。
L型通気材を留め付け後、L型通気材外側に付いている両面テープの剥離紙をはがします。
- 防水紙をL型通気材の上に巻き、通気部材に付いている両面テープで固定します。
- 笠木ファスナー取付部へ防水テープを捨て貼りし、笠木を取り付けます。
- 笠木とL型通気材の取り合いをシーリング処理します。
- 笠木有効幅の選定は、L型通気材の厚み(12mm)を考慮してください。

施工手順

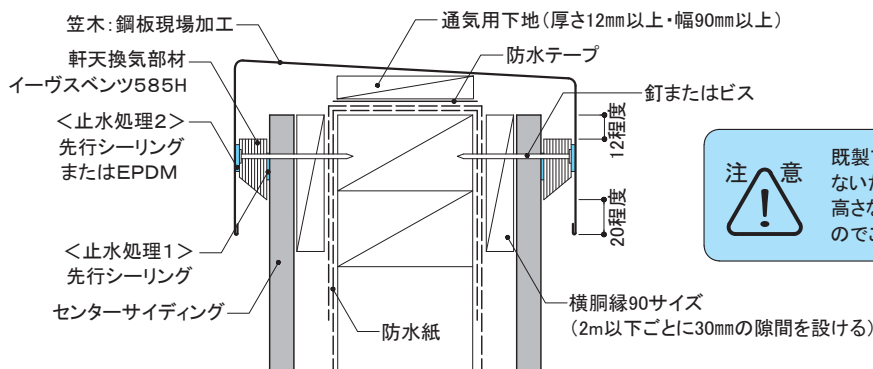


納まり例：センターサイディング横張り施工



3) イーヴスベント585Hを使用した納まり

- 止水処理1は、先行シーリングとし、センターサイディング柄溝部分にも十分に充填します。
- 止水処理2は、先行シーリングまたはEPDMなどとし、空き寸法に合わせて隙間のないよう施工します。



納まり例：センターサイディング縦張り施工



注意

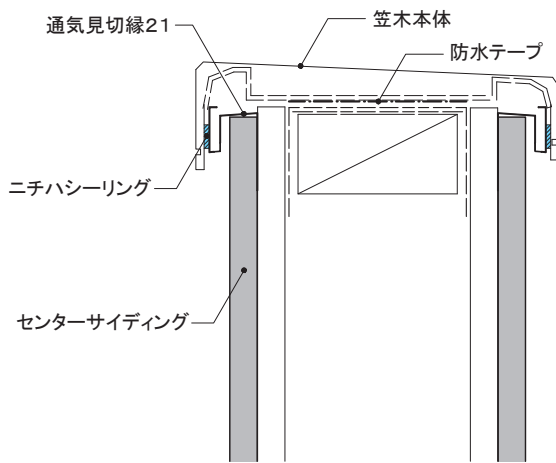
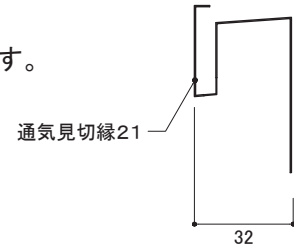
既製アルミ笠木などは、笠木内部形状が一定でないため十分な止水処理が困難であり、かぶせ高さなども不足するため、施工不可となりますのでご注意ください。

2 各部の基本納まり図

2-10 笠木部

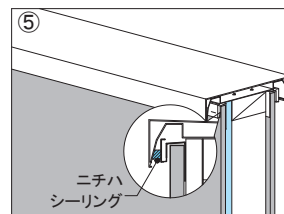
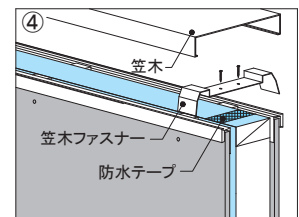
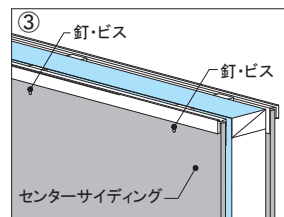
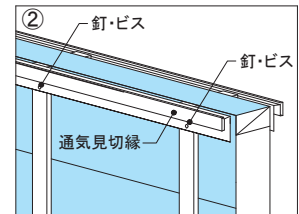
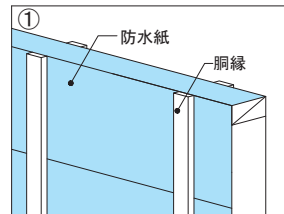
4) 通気見切縁

- 防水紙、胴縁を施工します。
 - 通気見切縁を施工します。通気見切縁は釘またはビスで胴縁に留め付けてください。
 - センターサイディングを施工します。
 - 笠木ファスナー取り付け部へ防水テープを捨て貼りし、笠木を取り付けます。
 - 笠木と通気見切縁の取り合いをシーリング処理します。
 - 笠木有効幅の選定は、通気見切縁の厚みを考慮してください。
- ※ 厚み (t) 通気見切縁 21 : 32mm

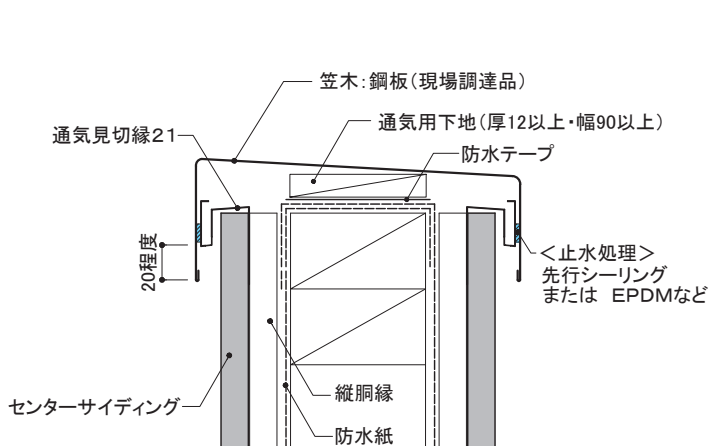


納まり例: センターサイディング 横張り施工

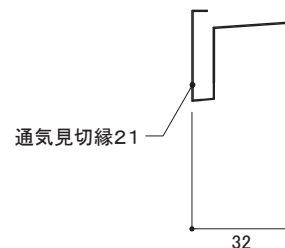
施工手順



- 止水処理は、先行シーリングまたはEPDMなどとし、空き寸法に合わせて隙間がないよう施工します。
 - 笠木有効幅の選定は、通気見切縁の厚みを考慮してください。
- ※ 厚み (t) 通気見切縁 21 : 32mm



センターサイディング: 横張り施工例



2 各部の基本納まり図

2-11 下屋根部

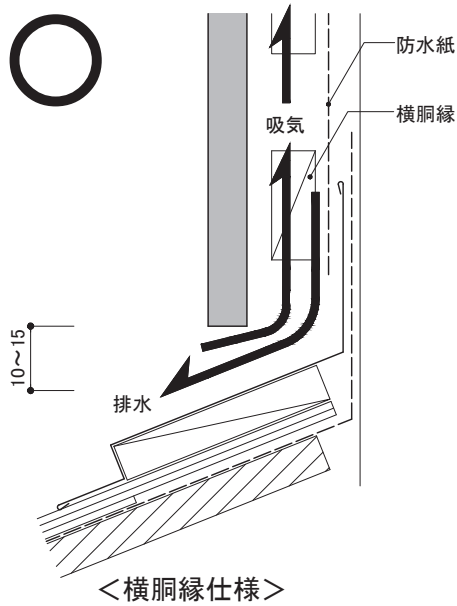
1) 基本納まり

- 下屋根部は外壁通気構法の「吸気」、浸入水などの「排水」を行います。
- 雨ハネ回避、吸気・排水のため、センターサイディングと雨押えの間に10～15mmの隙間を設けます。
- 棟側を縦胴縁のみで納める場合は、防水紙と雨押えの間に必ず両面防水テープを施工します。

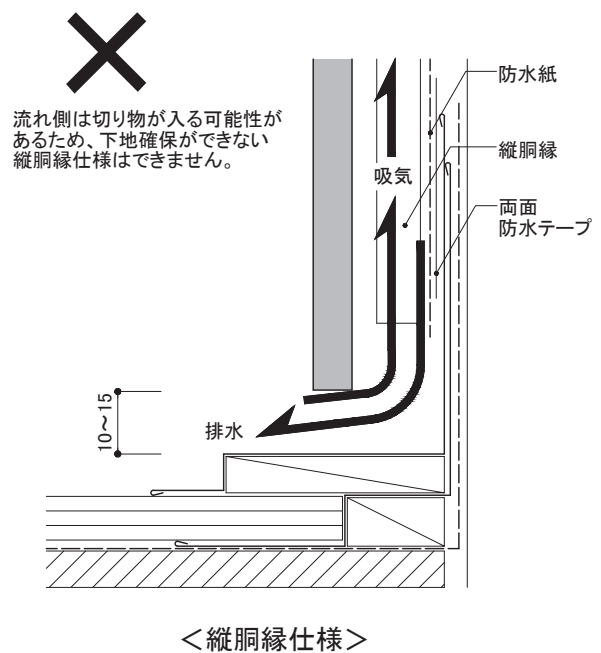
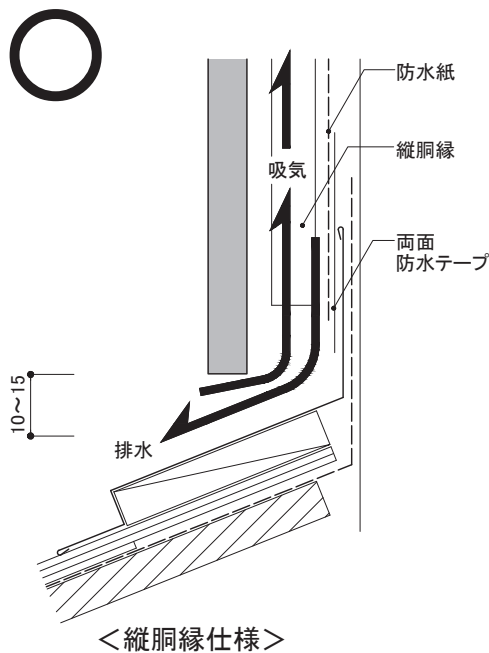
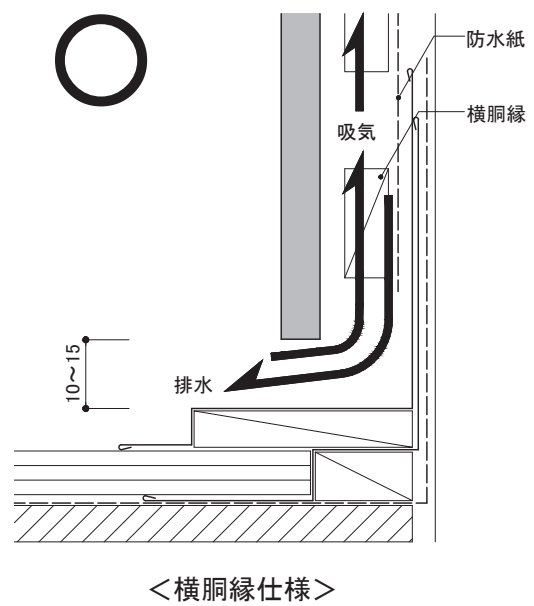
横胴縁で防水紙を押さえる場合は、両面防水テープは不要です。

※流れ側は必ず横胴縁を取り付けます。

棟側



流れ側

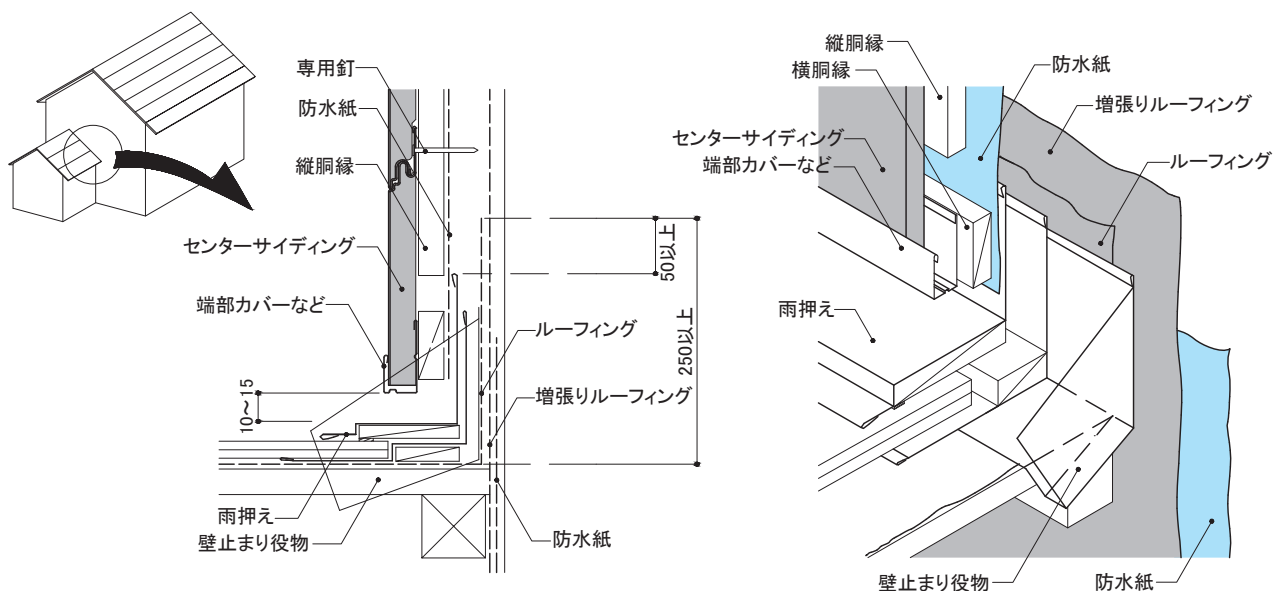


2 各部の基本納まり図

2-11 下屋根部

2) 壁止まり部

- 壁止まり部は、大雨などの際に壁止まり役物の部分で雨水がオーバーフローして壁内側に浸入してもすぐに排出できるようにするため、あらかじめ屋根工事の時点で図のような増張りルーフィングを施工します。

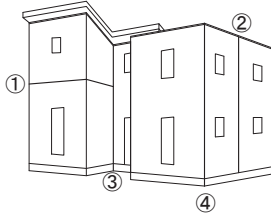


2 各部の基本納まり図

2-12 センターサイディングとモエンサイディングの張り分け

1) 基本納まり

- センターサイディングとモエンサイディングを同一物件で張り分ける場合は、基本的に見切縁や中間水切などで縁を切ります。

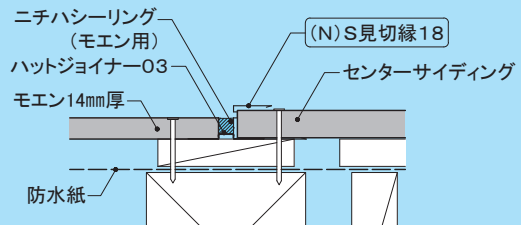


- ①上下接合部
- ②左右接合部
- ③入隅部
- ④出隅部



注意 施工上の注意事項

- センターサイディングの断熱材はシーリングと接着しません。接着不良となりますので、センターサイディングの小口は見切縁を使用します。
- シーリングはモエン用のニチハシーリングを使用してください。



2) 防耐火認定について

防耐火構造とする場合は、防耐火構造認定書の別添の通りとしてください。

3) 出隅部について

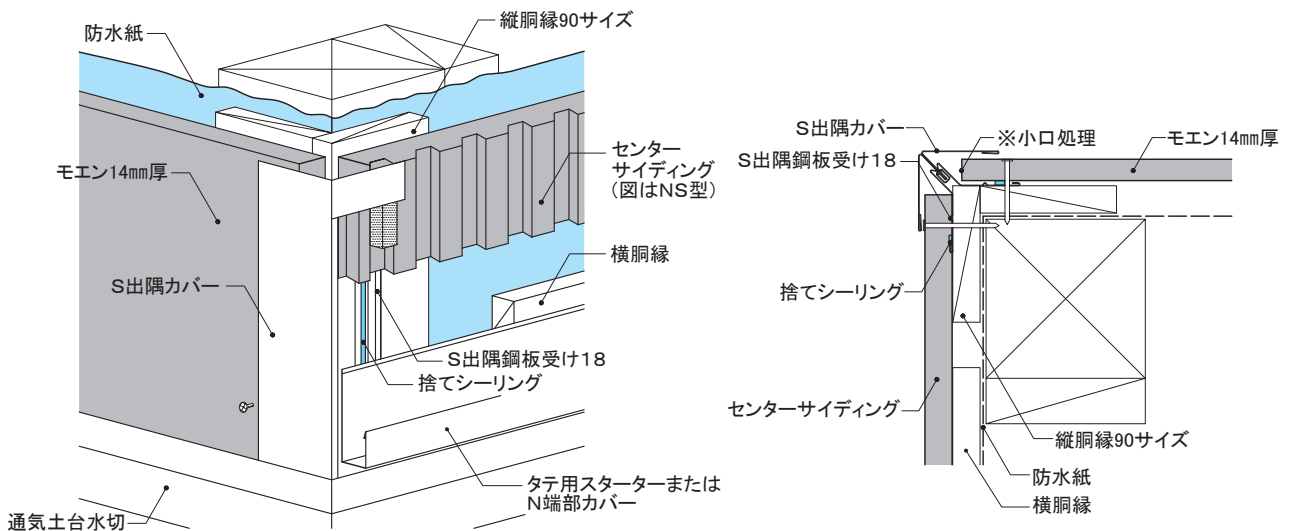
- 出隅部は表のように、モエンの同質出隅を使用する納め方と鋼板製の出隅を使用する納め方があります。

表 出隅部での使用部材

モエン14mm厚	同質出隅(モエン用) S出隅鋼板受け18+出隅カバー (センターサイディング用)
モエン16mm厚	同質出隅(モエン用) ツーピース出隅(モエン用)

① S出隅鋼板受け18+S出隅カバーを使用する場合

- S出隅鋼板受け18は胴縁に取り付け、両側端部に捨てシーリングを施工します。
- モエン14mm厚の切断小口はモエンシーラーを十分塗布し、乾燥後、モエンシーラーを再度塗布します。
- センターサイディング、モエン14mm厚を施工します。
- S出隅カバーをS出隅鋼板受け18に差し込みます。



2 各部の基本納まり図

2-12 センターサイディングとモエンサイディングの張り分け

② ツーピース出隅を使用する場合

- 施工の手順は、以下となります。
 1. ベース材取り付け
 2. センターサイディングの切断(カッターで斜め切り)、モエンの切断およびモエンシーラー塗布
 3. モエン、センターサイディングの取り付け
 4. トップ材16の取り付け

注意 トップ材16には嵌合爪がありますので、ベース材に差し込む際には十分に位置を確認してください。

- ベース材の留め付けは1m以下の間隔で胴縁に取り付けます。
- センターサイディングおよびモエン16mm厚品を切断します。ベース材首下に10mmを加えた位置でモエン16mm厚品を切断します。図1のように面取り加工し、モエンシーラーを塗布します。センターサイディングも同様に切断し面取りします。センターサイディングにはモエンシーラーを塗布しません。

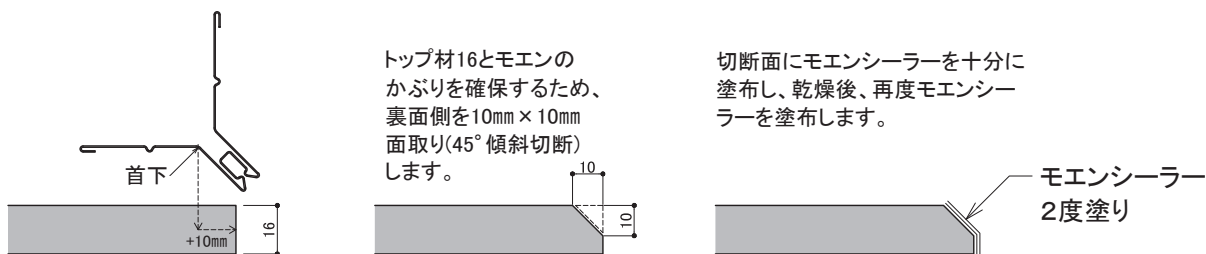
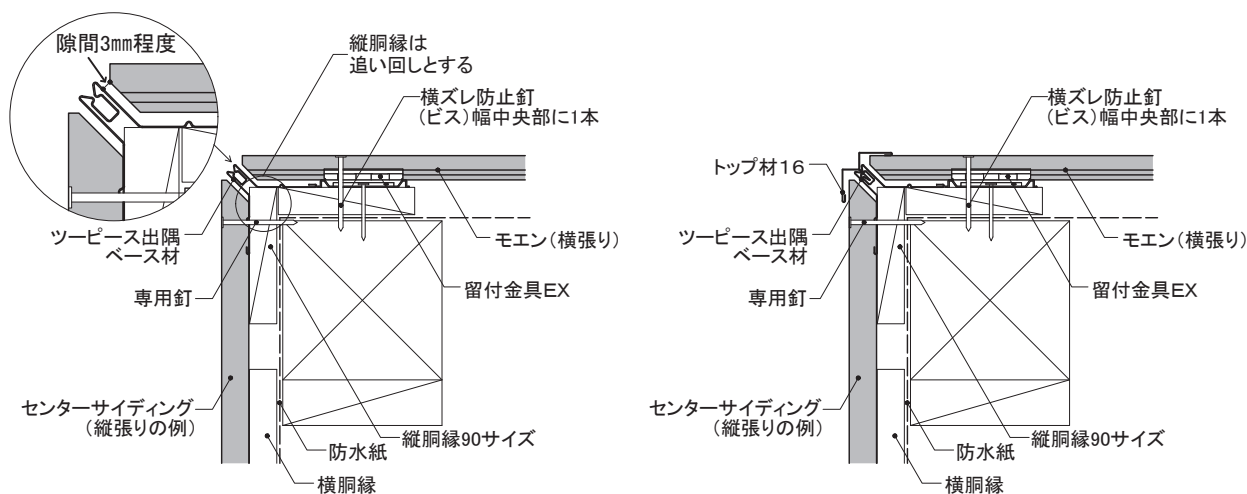


図1 モエンの加工

- センターサイディングおよびモエン16mm厚品を施工します。S出隅鋼板受け18の嵌合部に3mm程度の隙間ができるように本体をあわせて留め付けます。モエン16mm厚はあらかじめ横ズレ防止釘位置にスペーサーを入れ、横ズレ防止のために釘打ちします。
- トップ材16をベース材に差し込みます。トップ材16には嵌合爪がついており、取り外しにくい形状になっています。位置を十分に確認のうえ、嵌めます。



外壁材の取り付け

トップ材16の取り付け

センターサイディングと モエンサイディングの張り分け

外壁材の種類	張り方	施工方法
センターサイディング	縦張り	釘打ち
モエン16mm厚	横張り	金具

センターサイディング
標準施工法

センターサイディング
基本納まり図

本体・付属部材
詳細図

付属部材加工図

センターサイディング
木造編

センターサイディング
鉄骨造 金属脚縁編

センターサイディング
鉄骨造 直張り編

センター化粧幕板
標準施工法

センタールーフ
標準施工法

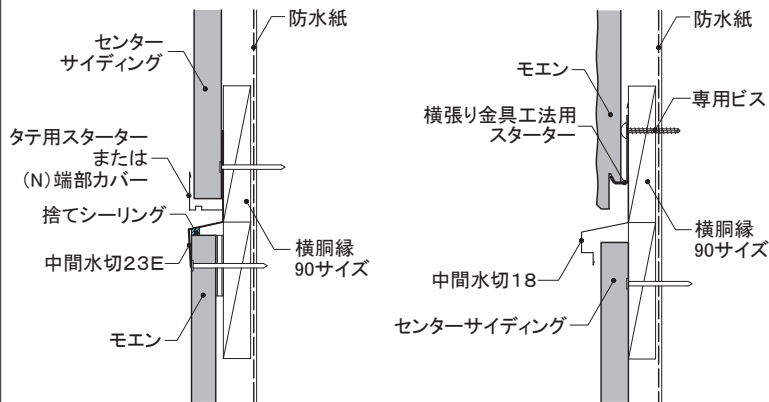
センタールーフ
納まり詳細図

参考資料

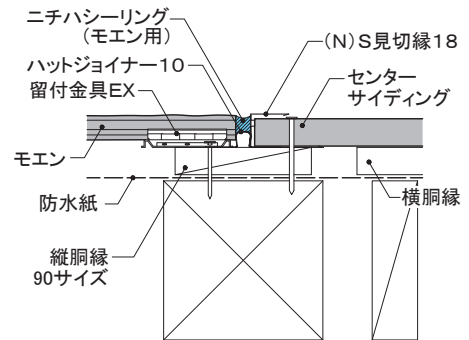
1) 上下接合部

■ 上側：センターサイディング
下側：モエン

■ 上側：モエン
下側：センターサイディング



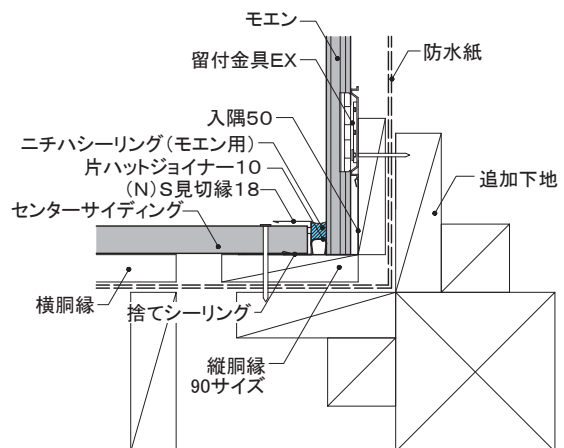
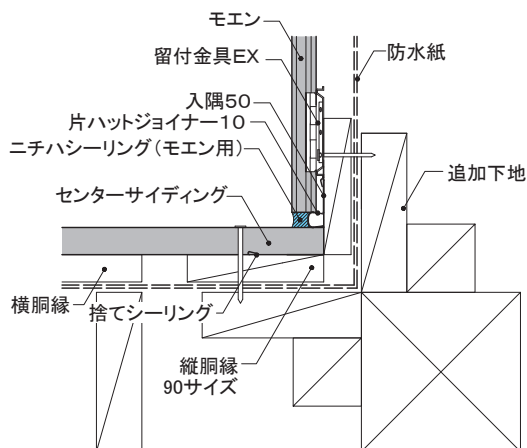
2) 左右接合部



3) 入隅部

■ センターサイディング先行仕様

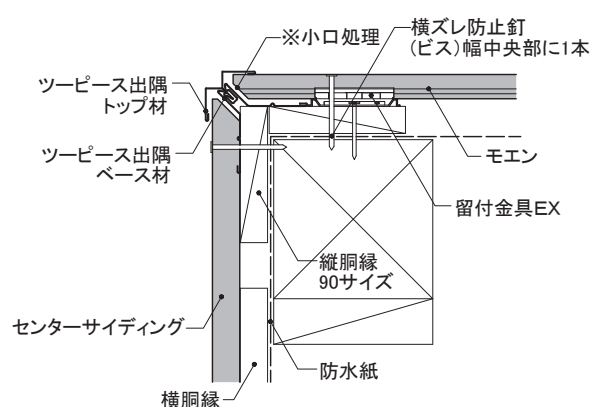
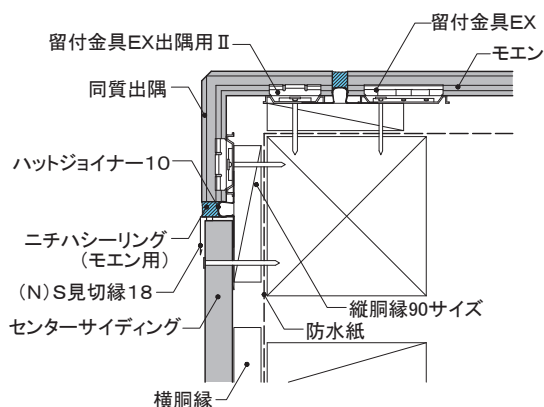
■ モエン先行仕様



4) 出隅部

■ 同質出隅仕様

■ ツープース出隅仕様



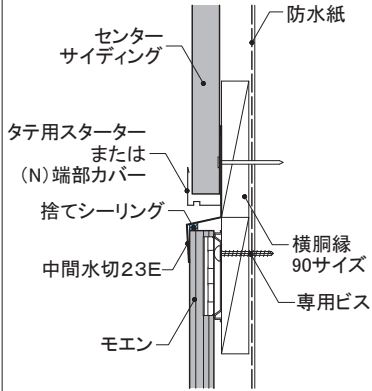
※モエンの切断小口はモエンシーラーを十分塗布し乾燥後、モエンシーラーを再度塗布してください。

センターサイディングとモエンサイディングの張り分け

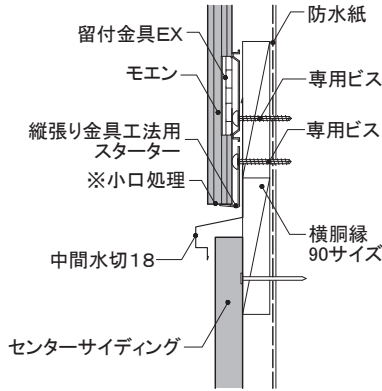
外壁材の種類	張り方	施工方法
センターサイディング	縦張り	釘打ち
モエン16mm厚	縦張り	金具

1) 上下接合部

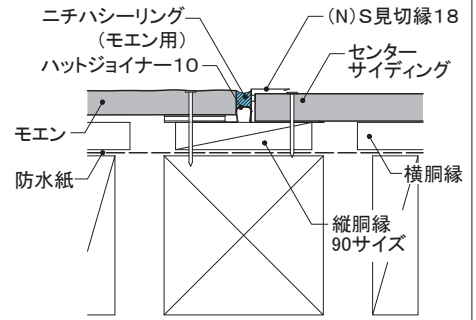
■上側:センターサイディング
下側:モエン



■上側:モエン
下側:センターサイディング

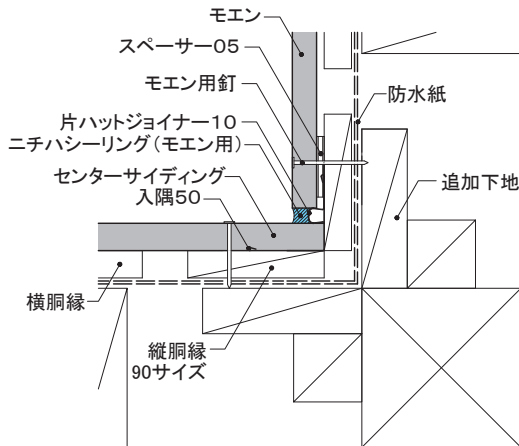


2) 左右接合部

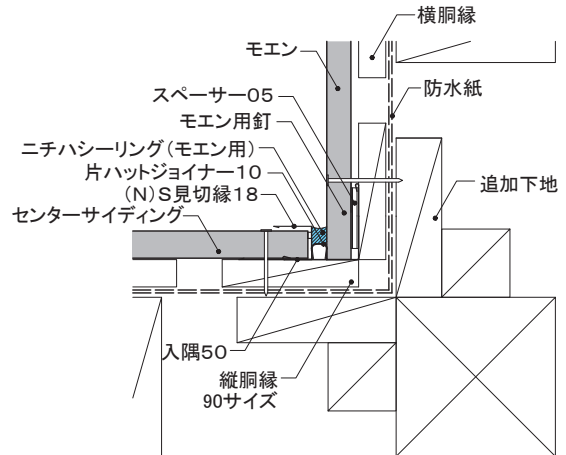


3) 入隅部

■センターサイディング先行仕様

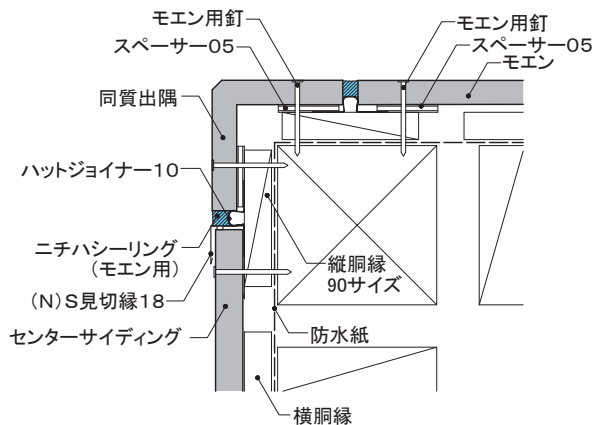


■モエン先行仕様



4) 出隅部 ツーピース出隅は、モエン16mm厚横張りのみ対応しております。

■同質出隅仕様



※モエンの切断小口はモエンシーラーを十分塗布し乾燥後、モエンシーラーを再度塗布してください。

センターサイディングと モエンサイディングの張り分け

面材	張り方	施工方法
センターサイディング	縦張り	釘打ち
モエン14mm厚	横張り	釘打ち

センターサイディング
標準施工法

センターサイディング
基本納まり図

本体・付属部材
詳細図

付属部材加工図

センターサイディング
木造編

センターサイディング
鉄骨造 金属脚縁編

センターサイディング
鉄骨造 直張り編

センター化粧幕板
標準施工法

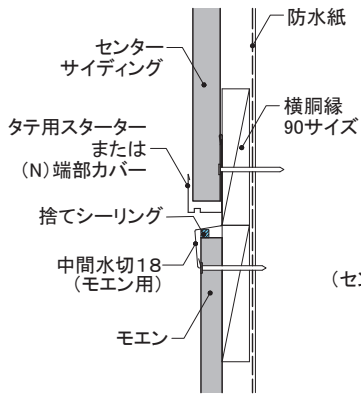
センタールーフ
標準施工法

センタールーフ
納まり詳細図

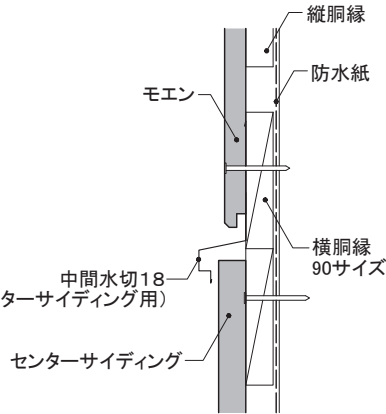
参考資料

1) 上下接合部

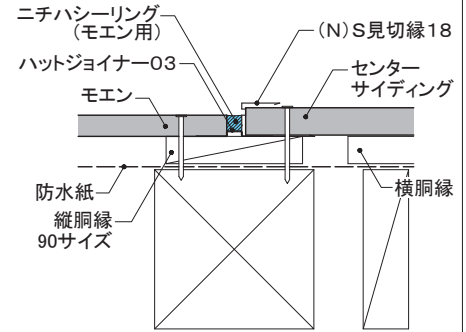
■上側：センターサイディング
下側：モエン



■上側：モエン
下側：センターサイディング

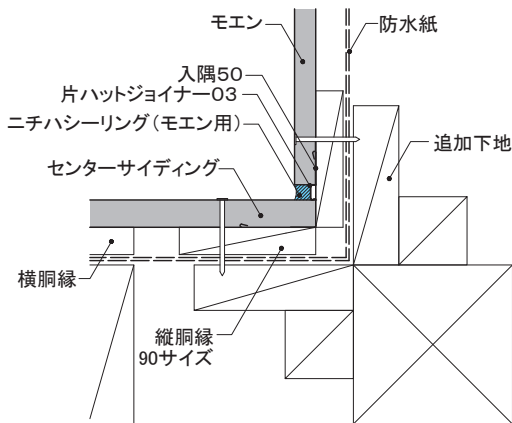


2) 左右接合部

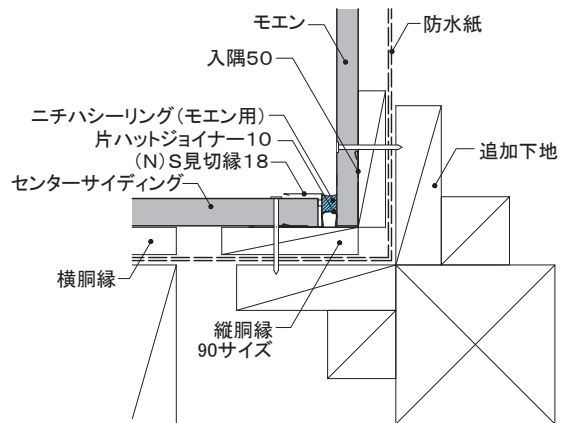


3) 入隅部

■センターサイディング先行仕様

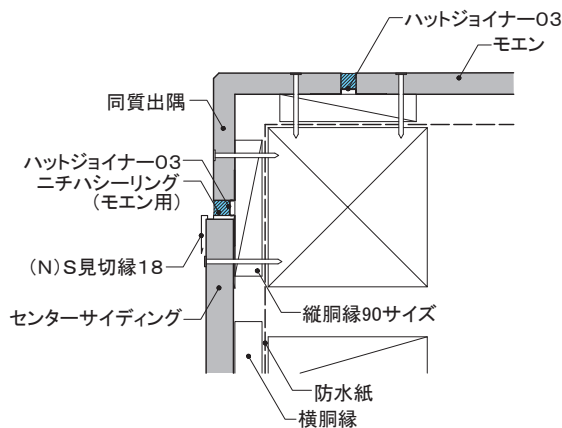


■モエン先行仕様



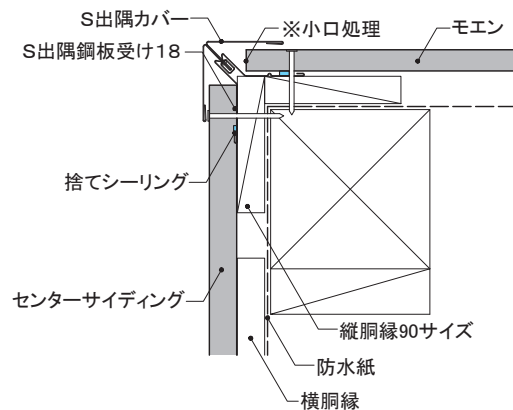
4) 出隅部

■同質出隅仕様



■出隅カバー仕様

※モエンの切断小口はモエンシーラーを十分塗布し、乾燥後、モエンシーラーを再度塗布してください。

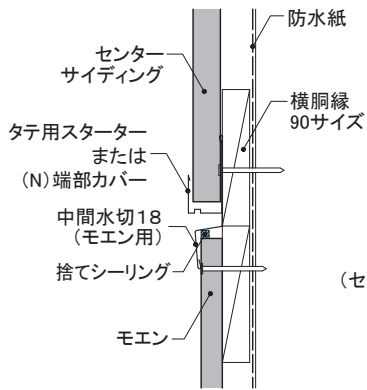


センターサイディングとモエンサイディングの張り分け

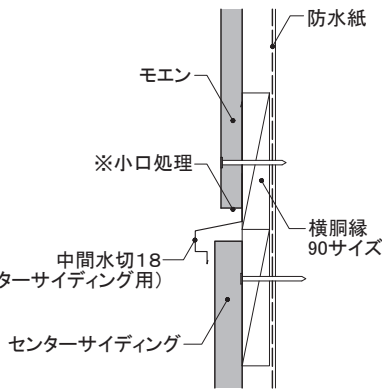
面材	張り方	施工方法
センターサイディング	縦張り	釘打ち
モエン14mm厚	縦張り	釘打ち

1) 上下接合部

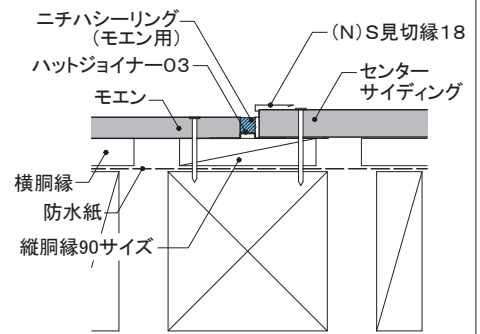
■上側:センターサイディング
下側:モエン



■上側:モエン
下側:センターサイディング

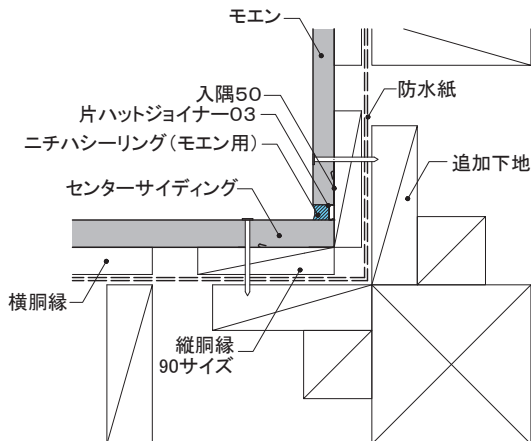


2) 左右接合部

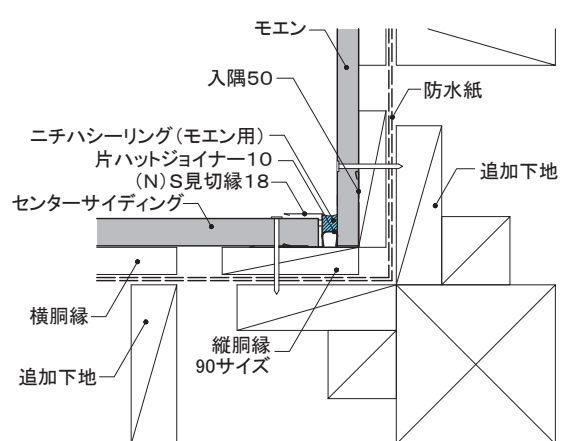


3) 入隅部

■センターサイディング先行仕様

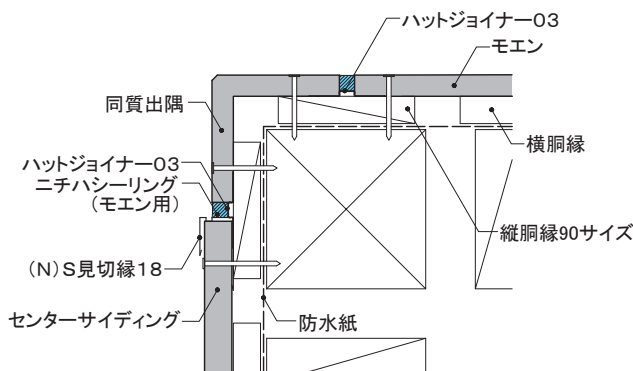


■モエン先行仕様

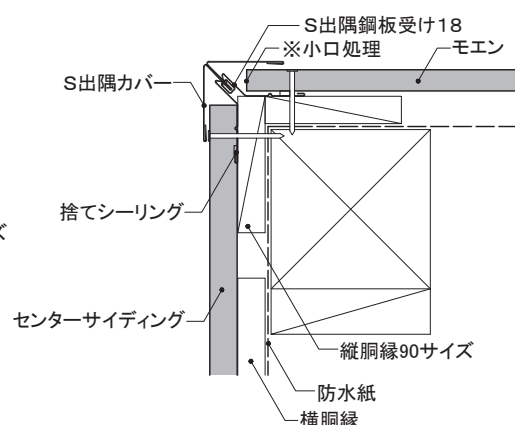


4) 出隅部

■同質出隅仕様



■出隅カバー仕様



※モエンの切断小口はモエンシーラーを十分塗布し、乾燥後、モエンシーラーを再度塗布してください。

3 本体・付属部材詳細図

3- 1	センターサイディングの詳細図
3- 2	付属部材一覧表

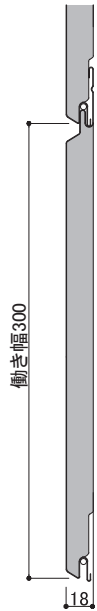
※シン・ネオスパンはNS型と同じ本体形状です。
※シン・スマートフラットはM型と同じ本体形状です。

3 本体・付属部材詳細図

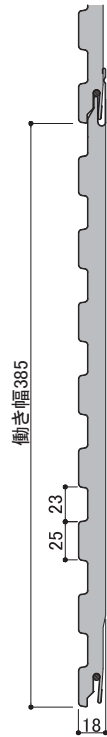
3-1 センターサイディングの詳細図

1) 縦張り・横張り兼用品

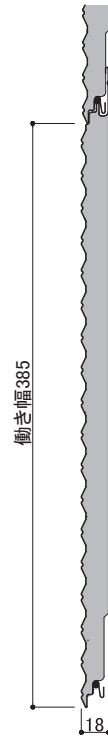
M型



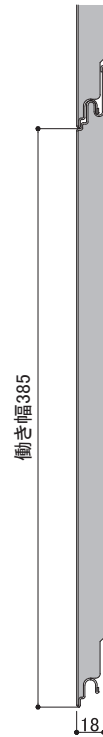
NS型



ST型

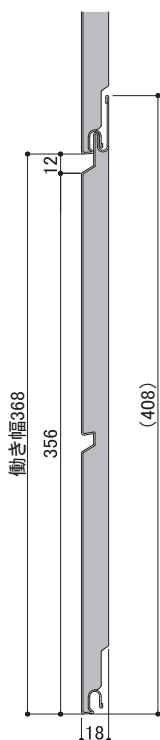


iシリーズ、
F型、FB型、FN型



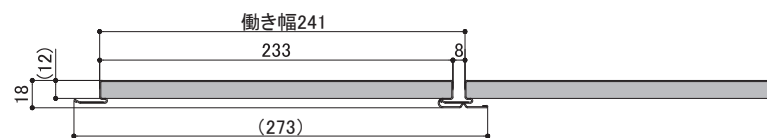
2) 横張り専用品

D型



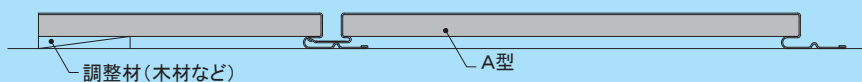
3) 縦張り専用品

A型



注意

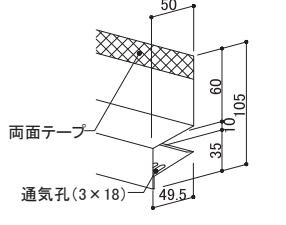
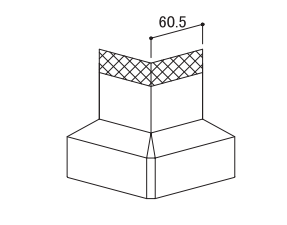
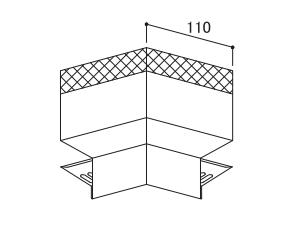
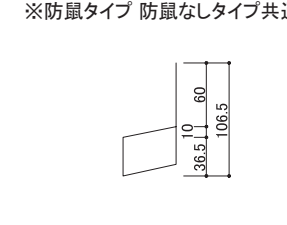
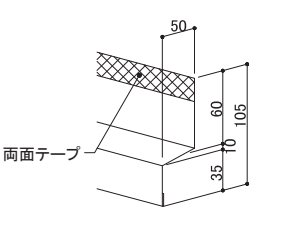
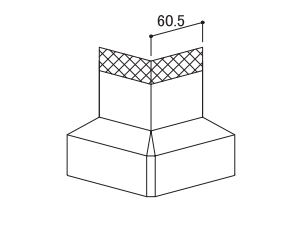
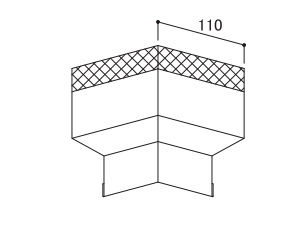
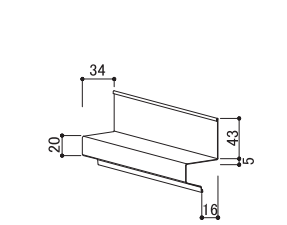
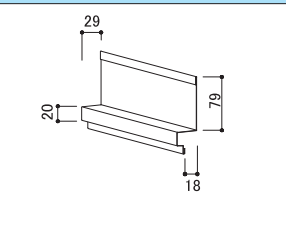
A型は長手方向に切断すると、実形状および芯材の厚みにより、働き幅方向の厚みが変わります。このまま施工すると、張り始めと張り終わりで本体が傾いてしまうため、あらかじめ調整材を施工してください。調整材は付属部材（見切縁、受け材など）の厚みを考慮してください。



3 本体・付属部材詳細図

3-2 付属部材一覧表

1) 水切

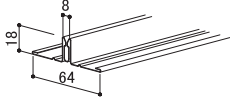
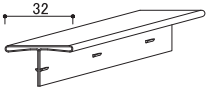
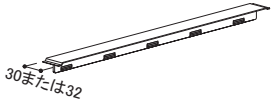
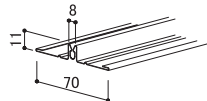
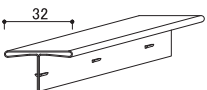
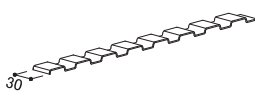
通気土台水切	通気土台水切出隅	通気土台水切入隅	通気土台水切エンドキャップ
 <p>通気土台水切50(防鼠タイプ) 【品番:FTD57**】 材質:塗装高耐食GLめっき鋼板 厚み:0.35mm 長さ:3,030mm</p>	 <p>通気土台水切50(防鼠タイプ)出隅 【品番:FTD57**B】 材質:塗装高耐食GLめっき鋼板 厚み:0.35mm</p>	 <p>通気土台水切50(防鼠タイプ)入隅 【品番:FTD57**D】 材質:塗装高耐食GLめっき鋼板 厚み:0.35mm</p>	<p>※防鼠タイプ 防鼠なしタイプ共通</p>  <p>通気土台水切50(防鼠タイプ) エンドキャップ 【品番:FTD57**C】 材質:塗装高耐食GLめっき鋼板 厚み:0.35mm</p>
通気土台水切	通気土台水切出隅	通気土台水切入隅	水切34
 <p>通気土台水切50(防鼠なしタイプ) 【品番:FTD59**】 材質:塗装高耐食GLめっき鋼板 厚み:0.35mm 長さ:3,030mm</p>	 <p>通気土台水切50(防鼠なしタイプ)出隅 【品番:FTD59**B】 材質:塗装高耐食GLめっき鋼板 厚み:0.35mm</p>	 <p>通気土台水切50(防鼠なしタイプ)入隅 【品番:FTD59**D】 材質:塗装高耐食GLめっき鋼板 厚み:0.35mm</p>	 <p>【品番:AMZ7F0**】 材質:塗装高耐食GLめっき鋼板 厚み:0.35mm 長さ:3,030mm 鉄骨造直張り・リフォーム用</p>
中間水切18			
 <p>【品番:ATM6F0**】 材質:塗装高耐食GLめっき鋼板 厚み:0.35mm 長さ:3,030mm</p>			

※各部材は、2024年2月時点のものです。最新の情報はNICHIIHA金属製外壁材・屋根材総合カタログでご確認ください。

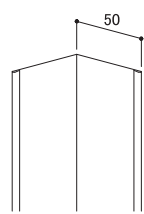
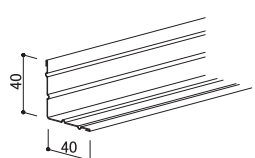
3 本体・付属部材詳細図

3-2 付属部材一覧表

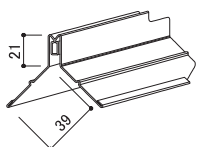
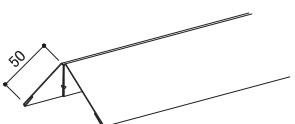
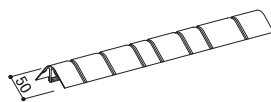
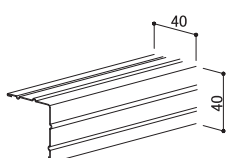
2) 目地部材

S目地鋼板受け18	S目地カバー	段目地	目地鋼板受け
 <p>【品番:AMU1F00A】 材質:塗装高耐食GLめつき鋼板 厚み:0.35mm 働き長さ:3,030mm</p>	 <p>【品番:AMJ1*0**】 材質:塗装高耐食GLめつき鋼板 厚み:本体厚みと同じ 働き長さ:3,030mm</p>	 <p>【品番:ADM2*0**】 材質:塗装高耐食GLめつき鋼板 働き長さ:385mm 備考:幅は商品によって異なる</p>	 <p>【品番:AMU6F00A】 材質:塗装高耐食GLめつき鋼板 厚み:0.35mm 働き長さ:3,030mm 備考:N型・NS型に設定</p>
NS目地カバー	NS段目地		
 <p>【品番:AMJ3F0**】 材質:塗装高耐食GLめつき鋼板 厚み:0.35mm 働き長さ:3,030mm 備考:N型・NS型に設定</p>	 <p>【品番:ADM5F0**】 材質:塗装高耐食GLめつき鋼板 働き長さ:385mm 備考:NS型に設定</p>		

3) 入隅

入隅50	入隅		
 <p>【品番:JR1900】 材質:高耐食GLめつき鋼板 厚み:0.27mm 長さ:3,030mm</p>	 <p>【品番:AYR2F0**】 材質:塗装高耐食GLめつき鋼板 厚み:0.35mm 長さ:3,030mm</p>		

4) 出隅

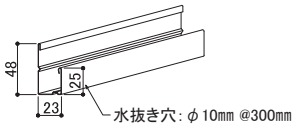
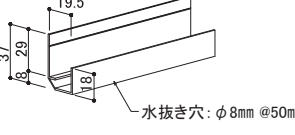
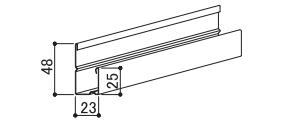
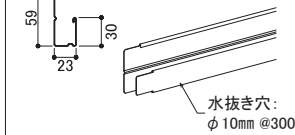
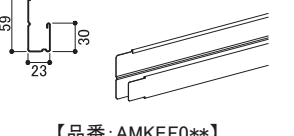
S出隅鋼板受け18	S出隅カバー	段出隅	出隅
 <p>【品番:ADU1F00A】 材質:塗装高耐食GLめつき鋼板 働き長さ:3,030mm</p>	 <p>【品番:ADS2*0**】 材質:塗装高耐食GLめつき鋼板 厚み:本体厚みと同じ 働き長さ:3,030mm</p>	 <p>【品番:ADD1*0**】 材質:塗装高耐食GLめつき鋼板 厚み:0.35mm 働き長さ:385mm</p>	 <p>【品番:ADS3F0**】 材質:塗装高耐食GLめつき鋼板 厚み:0.35mm 長さ:3,030mm</p>

※各部材は、2024年2月時点のものです。最新の情報はNICHIIHA金属製外壁材・屋根材総合カタログでご確認ください。

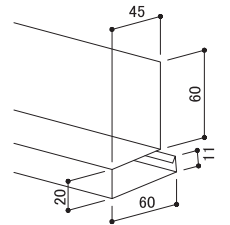
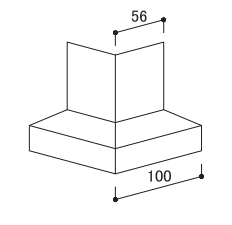
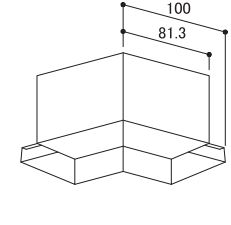
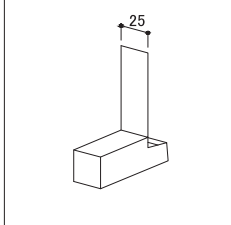
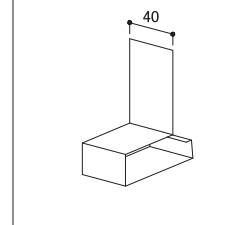
3 本体・付属部材詳細図

3-2 付属部材一覧表

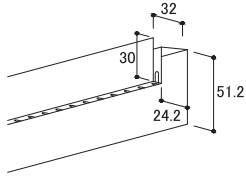
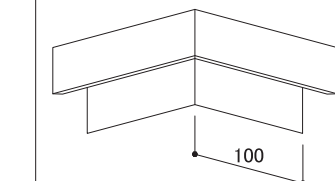
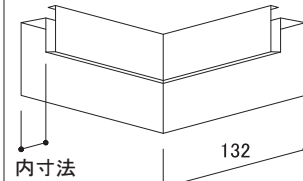
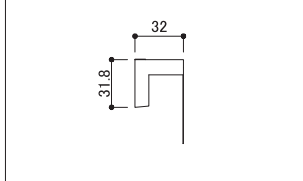
5) 見切部材

端部カバー	アルミ端部カバー	S見切縁18	N端部カバー
 <p>【品番: AMK7*0**】 材質: 塗装高耐食GLめっき鋼板 厚み: 0.35mm 長さ: 3,030mm</p>	 <p>【品番: AMKDF09*】 材質: アルミ押出 長さ: 3,030mm 備考: 積雪のある地域で土台部・下屋根部に使用</p>	 <p>【品番: AMK1*0**】 材質: 塗装高耐食GLめっき鋼板 厚み: 0.35mm 長さ: 3,030mm</p>	 <p>【品番: AMKFF0**】 【品番: AMKHFO**】 材質: 塗装高耐食GLめっき鋼板 厚み: 0.35mm 働き長さ: 3,030mm 水抜き穴: φ10mm @300mm 備考: 本体両端部に継手加工あり</p>
N見切縁18			
 <p>【品番: AMKEFO**】 【品番: AMKGF0**】 材質: 塗装高耐食GLめっき鋼板 厚み: 0.35mm 働き長さ: 3,030mm 備考: 本体両端部に継手加工あり</p>			

6) オーバーハング部材

オーバーハング水切	オーバーハング水切出隅	オーバーハング水切入隅	オーバーハング水切 エンドキャップ	オーバーハング水切 接合部材
 <p>【品番: JOH72**】 材質: 塗装高耐食GLめっき鋼板 厚み: 0.35mm 長さ: 3,030mm</p>	 <p>【品番: JOH72**B】 材質: 塗装高耐食GLめっき鋼板 厚み: 0.35mm</p>	 <p>【品番: JOH72**D】 材質: 塗装高耐食GLめっき鋼板 厚み: 0.35mm</p>	 <p>【品番: JOH72**C】 材質: 塗装高耐食GLめっき鋼板 厚み: 0.35mm</p>	 <p>【品番: JOH72**S】 材質: 塗装高耐食GLめっき鋼板 厚み: 0.35mm</p>

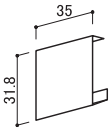
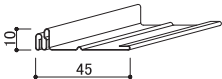
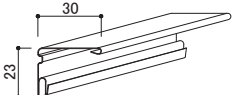
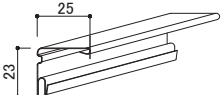
7) 軒天部材

通気見切縁21	通気見切縁21出隅	通気見切縁21入隅	通気見切縁21エンドキャップ
 <p>【品番: FTM21**】 材質: 塗装高耐食GLめっき鋼板 厚み: 0.35mm 長さ: 3,030mm</p>	 <p>【品番: FTM21**B】 材質: 塗装高耐食GLめっき鋼板 厚み: 0.35mm</p>	 <p>【品番: FTM21**D】 材質: 塗装高耐食GLめっき鋼板 厚み: 0.35mm</p>	 <p>【品番: FTM21**C】 材質: 塗装高耐食GLめっき鋼板 厚み: 0.35mm</p>

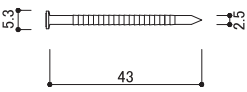
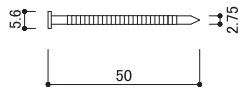
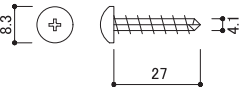
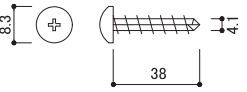
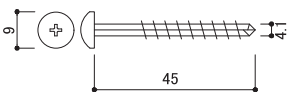
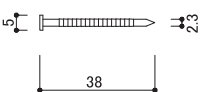
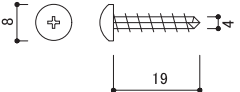
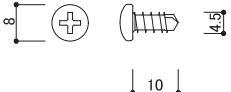
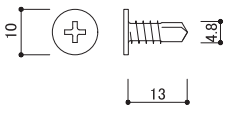
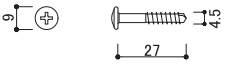
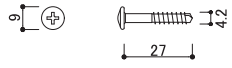
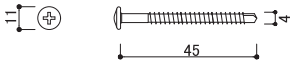
*各部材は、2024年2月時点のものです。最新の情報はNICHIIHA金属製外壁材・屋根材総合カタログでご確認ください。

3 本体・付属部材詳細図

3-2 付属部材一覧表

通気見切縁21接合部材	S廻り縁鋼板受け	N廻り縁カバー18	S廻り縁カバー18
 <p>【品番:FTM11**S】 材質:塗装高耐食GLめつき鋼板 厚み:0.35mm</p>	 <p>【品番:AMW3F00A】 材質:塗装高耐食GLめつき鋼板 厚み:0.27mm 働き長さ:3,030mm</p>	 <p>【品番:AMW8F0**】 材質:塗装高耐食GLめつき鋼板 厚み:本体厚みと同じ 働き長さ:3,030mm</p>	 <p>【品番:AMW1*0**】 材質:塗装高耐食GLめつき鋼板 厚み:本体厚みと同じ 働き長さ:3,030mm</p>

8) 留付部材

<p>ステンスリング釘 ＜木造/本体留付用＞</p>  <p>【品番:JKR640】 材質:ステンレス サイズ:φ2.5mm×43mm</p>	<p>ステンスリング釘 ＜木造/表面留め用＞</p>  <p>【品番:JKW840BまたはJKW840S】 材質:ステンレス サイズ:φ2.75mm×50mm</p>	<p>ステンスビス ＜木造/本体留付用＞</p>  <p>【品番:JK1710】 材質:ステンレス サイズ:φ4.1mm×27mm</p>	<p>ステンスビス ＜木造/本体留付用＞ ※防耐火構造認定に応じて使用</p>  <p>【品番:JK1150L】 材質:ステンレス サイズ:φ4.1mm×38mm</p>
<p>ステンスビス ＜木造/補強用＞</p>  <p>【品番:JK1720】 材質:ステンレス サイズ:φ4.1×45mm</p>	<p>ステンスリング釘 ＜木造/部材留付用＞</p>  <p>【品番:JK440】 材質:ステンレス サイズ:φ2.3mm×38mm</p>	<p>ステンステクスネジ ＜鉄骨造金属胴縁/金属胴縁留付用＞ ＜鉄骨造直張り/本体・部材留付用＞</p>  <p>【品番:JK1140】 材質:ステンレス サイズ:φ4mm×19mm</p>	<p>ステンステクスネジ ＜鉄骨造金属胴縁/本体留付用＞</p>  <p>【品番:JK1510】 材質:ステンレス サイズ:φ4.5mm×10mm</p>
<p>平頭ねじ ＜鉄骨造金属胴縁/部材留付用＞</p>  <p>【品番:KN65】 材質:ステンレス サイズ:φ4.8mm×13mm</p>	<p>ステンスドリルビス ＜鉄骨造金属胴縁/表面留め・補強用＞</p>  <p>【品番:JK1740】 材質:ステンレス サイズ:φ2.7mm×27mm</p>	<p>ステンスドリルビス ＜鉄骨造直張り/表面留め・補強用＞</p>  <p>【品番:JK1750】 材質:ステンレス サイズ:φ2.7mm×27mm</p>	<p>ステンスドリルビス ＜鉄骨造直張り/本体・部材留付用＞ ※せっこうボードなど表張り(屋外側)を有する場合に使用</p>  <p>【品番:JK1760】 材質:ステンレス サイズ:φ4mm×45mm</p>

※各部材は、2024年2月時点のものです。最新の情報はNICHIIHA金属製外壁材・屋根材総合カタログでご確認ください。

3 本体・付属部材詳細図

センターサイディング
標準施工法

センターサイディング
基本納まり図

本体・付属部材
詳細図

付属部材加工図

センターサイディング
木造編

センターサイディング
鉄骨造 金属胴縁編

センターサイディング
鉄骨造 直張り編

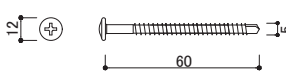
センター化粧葺編
標準施工法

センタールーフ
標準施工法

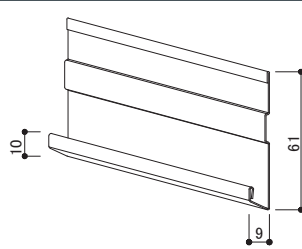
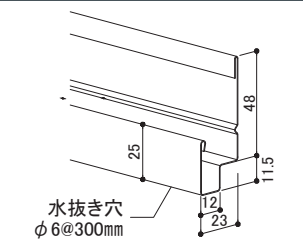
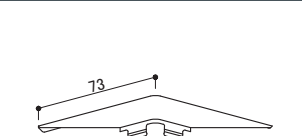
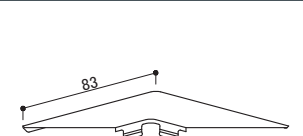
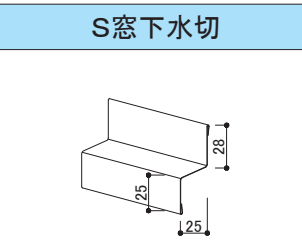
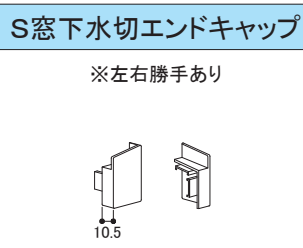
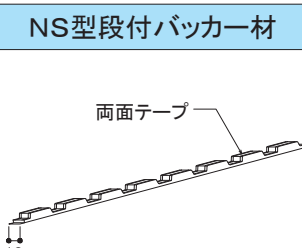
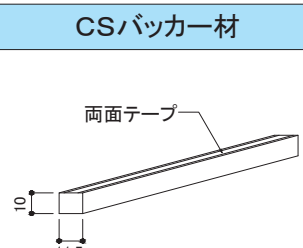
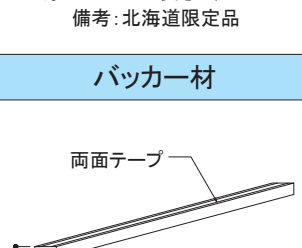
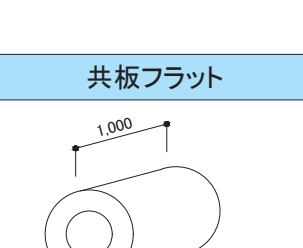
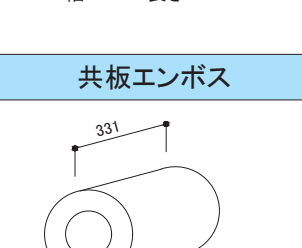
センタールーフ
納まり詳細図

参考資料

3-2 付属部材一覧表

<p>ステンレドリルビス</p> <p><鉄骨造直張り／表面留め・補強用> ※せっこうボードなど表張り(屋外側)を有する場合に使用</p>  <p>【品番:JK1770】 材質:ステンレス サイズ:φ5mm×60mm</p>			
----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	--	--	--


9)その他の部材

<p>ヨコ用スターター</p>  <p>【品番:AST2F00A】 材質:塗装高耐食GLめっき鋼板 長さ:3,030mm 備考:スマートフラットは専用品番あり</p>	<p>タテ用スターター</p>  <p>【品番:AST5F0**】 材質:塗装高耐食GLめっき鋼板 厚み:0.35mm 働き長さ:3,030mm 備考:左右継ぎ手加工あり</p>	<p>S見切コーナー</p>  <p>【品番:AMC5*0**】 材質:塗装高耐食GLめっき鋼板 厚み:0.35mm</p>	<p>N見切コーナー</p>  <p>【品番:AMC4F0**】 材質:塗装高耐食GLめっき鋼板 厚み:0.35mm</p>
<p>S窓下水切</p>  <p>【品番:AMM3F04*】 材質:塗装高耐食GLめっき鋼板 厚み:0.35mm 長さ:3,030mm 備考:北海道限定品</p>	<p>S窓下水切エンドキャップ</p> <p>※左右勝手あり</p>  <p>【品番:AMM4Q0J*】 材質:ポリカーボネート樹脂</p>	<p>NS型段付パッカー材</p>  <p>【品番:ABK8Q0JL】 材質:発泡ポリエチレン 幅:10mm 長さ:385mm</p>	<p>CSパッカー材</p>  <p>【品番:ABK5Q0J3】 材質:EPDM 長さ:2,000mm</p>
<p>パッカー材</p>  <p>【品番:ABK6Q0JL】 材質:EPDM 長さ:2,000mm</p>	<p>共板フラット</p>  <p>【品番:ECL1F0**】 材質:塗装高耐食GLめっき鋼板 厚み:0.35mm 幅1,000mm×長さ10m</p>	<p>共板エンボス</p>  <p>【品番:ECL1F0**】 材質:塗装高耐食GLめっき鋼板 厚み:0.27mm 幅331mm×長さ37m</p>	

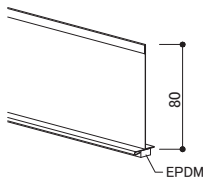
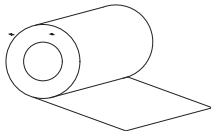
※各部材は、2024年2月時点のものです。最新の情報はNICHIIHA金属製外壁材・屋根材総合カタログでご確認ください。

3 本体・付属部材詳細図

3-2 付属部材一覧表

ニチハシーリング	補修塗料		
 <p>【品番:DSY1Q0**】 材質:変成シリコン系</p>	 <p>【品番:DPA4Q0**】</p>		

10) 開口部向け部材

鋼板止水部材	片面防水テープ		
 <p>【品番:KE5100】 材質:塗装高耐食GLめっき鋼板 厚み:0.35mm 長さ:3,030mm</p>	 <p>【品番:JF1526】 材質:アクリル 長さ:20m 幅:100mm</p>		

※各部材は、2024年2月時点のものです。最新の情報はNICHIIHA金属製外壁材・屋根材総合カタログでご確認ください。

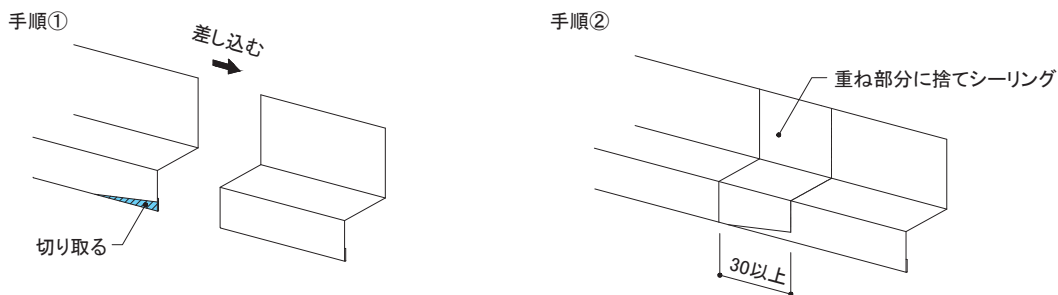
4 付属部材加工図

4- 1	鋼板製付属部材の接合および加工方法
4- 2	通気土台水切(防鼠あり)の加工方法
4- 3	通気土台水切(防鼠なし)の加工方法
4- 4	水切(水切34、中間水切8)の加工方法
4- 5	先付け付属部材の接合方法
4- 6	端部カバー、見切縁の加工方法

4 付属部材加工図

4-1 鋼板製付属部材の接合および加工方法

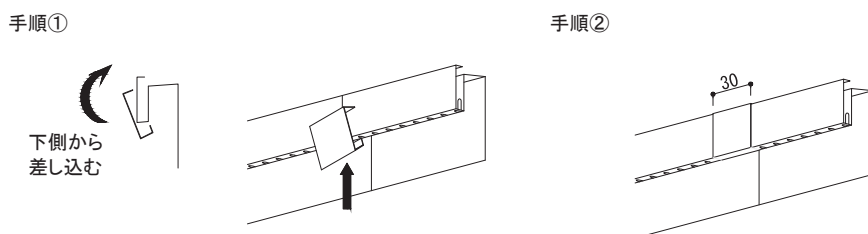
■通気土台水切(防鼠なしタイプ)



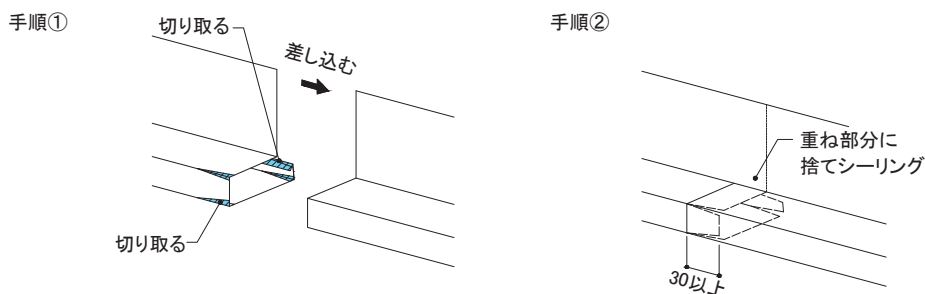
※防鼠ありタイプの右側端部は継手加工しています。

■通気見切縁 接合部材

接合部材はセンターサイディング施工前に取り付けます。

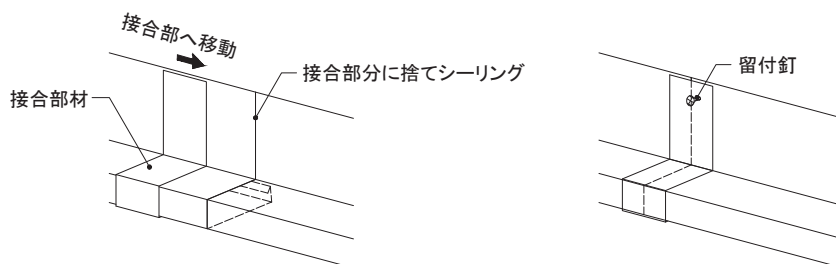


■オーバーハング水切



■オーバーハング水切 接合部材

- 手順①
- あらかじめ、本体に接合部材を差し込みます。本体に傷がつかないようにご注意ください。
 - 本体突き付け部に捨てシーリングを施工します。シーリングがはみ出さないようにご注意ください。
- 手順②
- 本体突き付け部まで、接合部材をスライドさせ、留付釘で留め付けます。

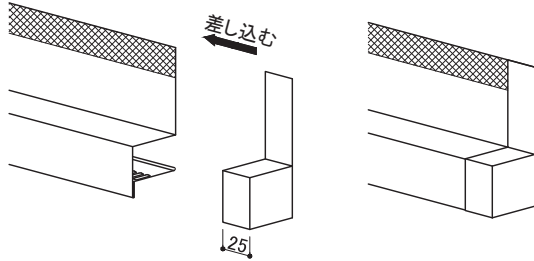


4 付属部材加工図

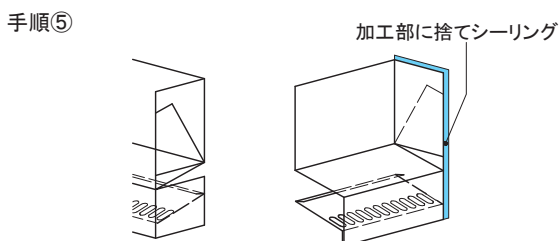
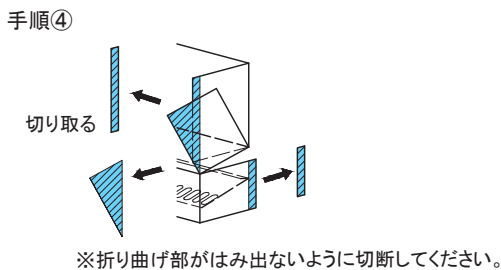
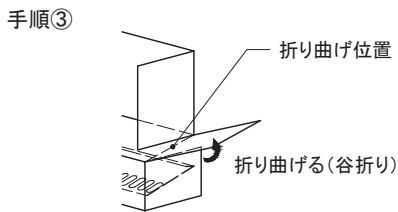
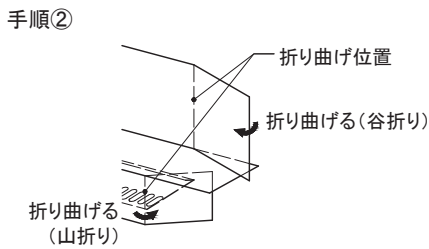
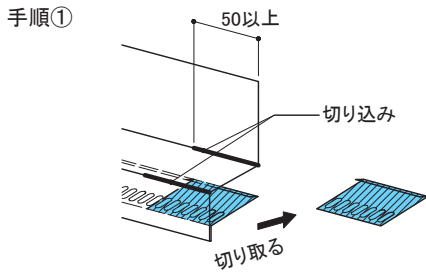
4-2 通気土台水切(防鼠あり)の加工方法

■エンドキャップ(防鼠あり・なし共通)

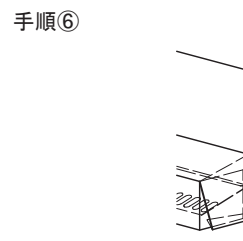
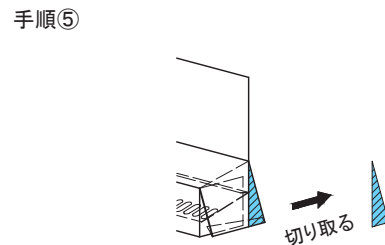
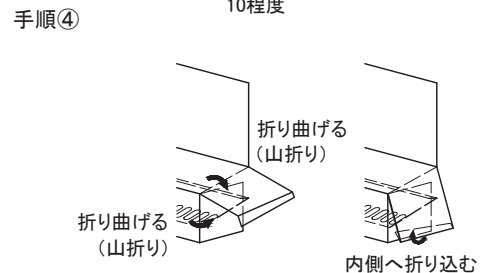
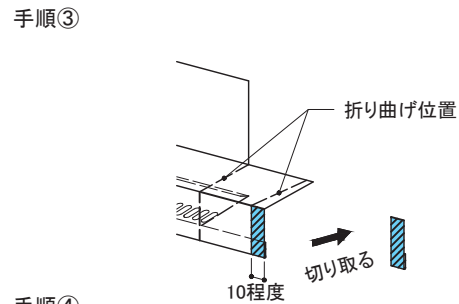
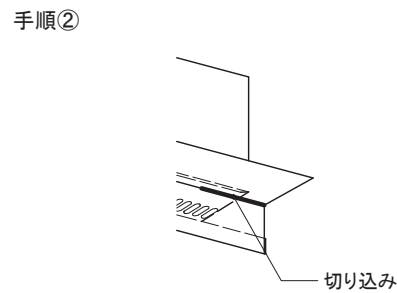
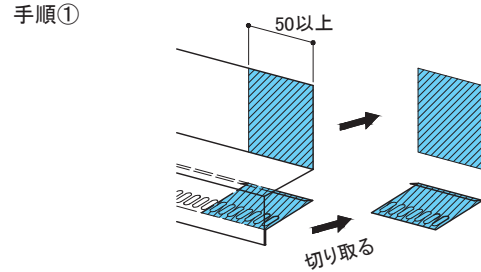
センターサイディング留め付け前にエンドキャップを差し込んでください。



■開口部横など



■小口があらわしの場合



※加工例はあくまで一例です。現場の状況に応じて、適宜ご対応ください。

センターサイディング
標準施工法

センターサイディング
基本納まり図

本体・付属部材
詳細図

付属部材加工図

センターサイディング
木造編

センターサイディング
鉄骨造 金属胸縁編

センターサイディング
鉄骨造 直張り編

センターサイディング
標準施工法

センターサイディング
標準施工法

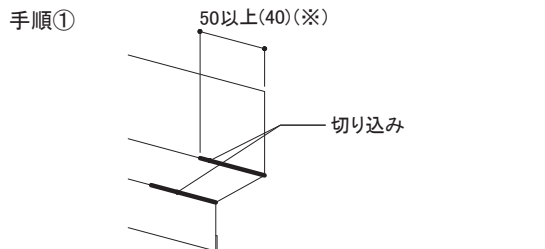
センターサイディング
納まり詳細図

参考資料

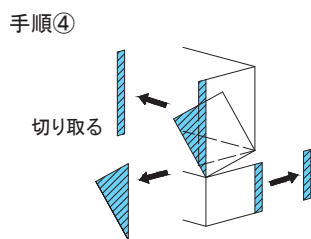
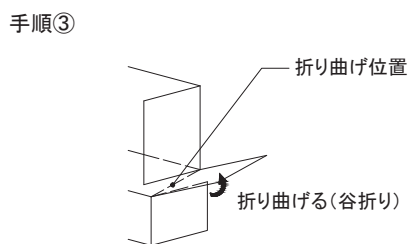
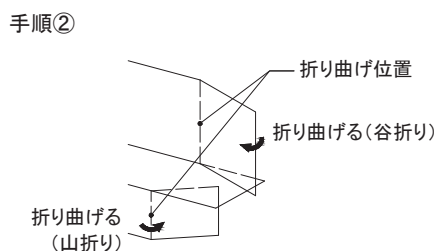
4 付属部材加工図

4-3 通気土台水切(防鼠なし)の加工方法

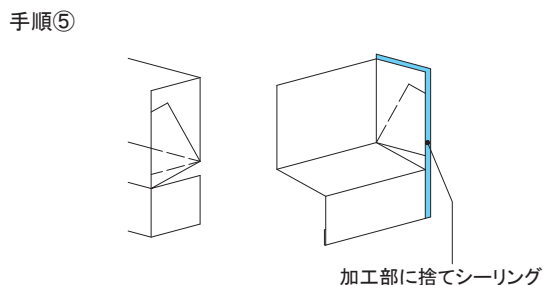
■開口部横など



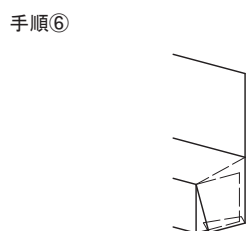
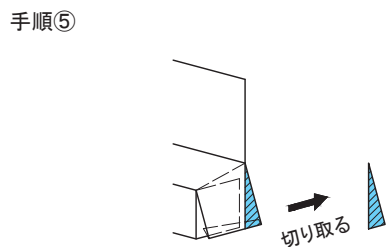
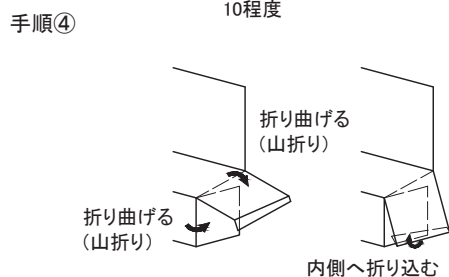
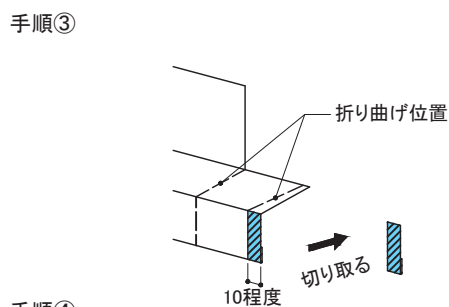
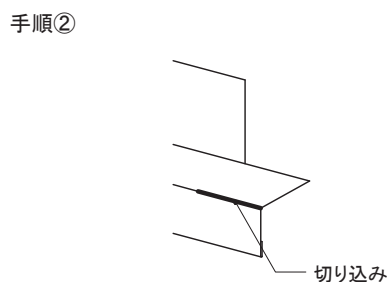
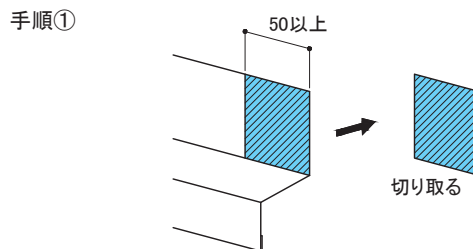
※()内の数値は通気土台水切40の場合



※はみ出ないように切断し、調整してください。



■小口があらわしの場合



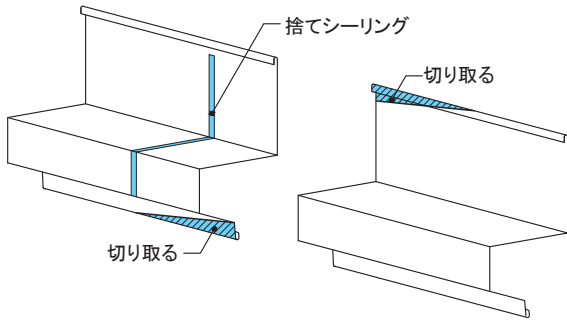
※加工例はあくまで一例です。現場の状況に応じて、適宜ご対応ください。

4 付属部材加工図

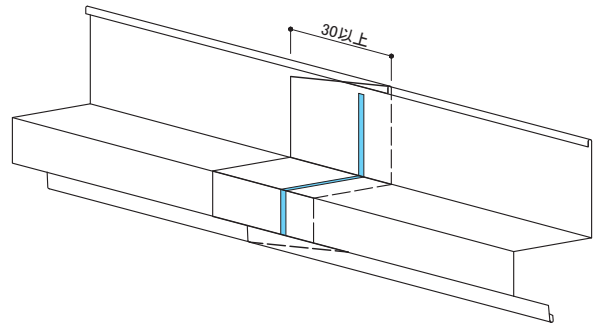
4-4 水切(水切34、中間水切18)の加工方法

■水切の接合方法

手順① 下側水切の端を切り落とし、ビード状に捨てシーリングを施工します。

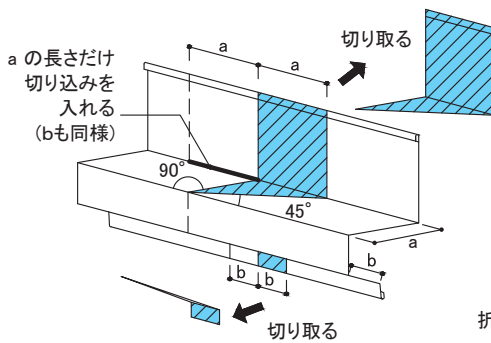


手順② 重ね代を30mm以上取って重ねてください。

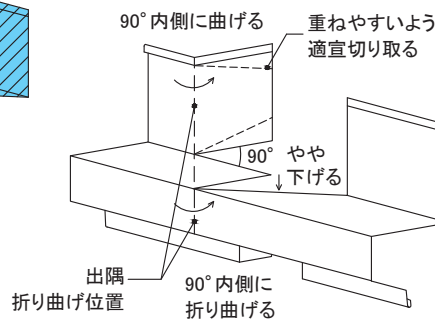


■水切の出隅加工

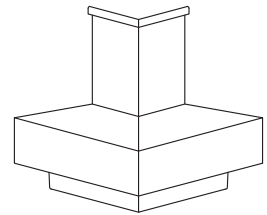
手順① 斜線部分を切り取ります。



手順② 立ち上がり部で90°内側に折り曲げます。

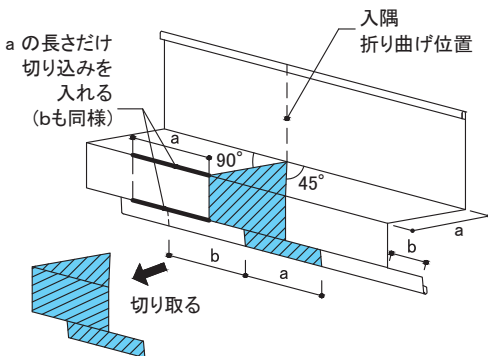


手順③ 出隅折り曲げ位置で90°内側に曲げます。

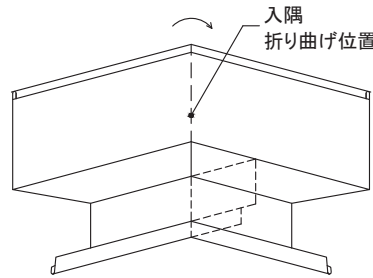


■水切の入隅加工

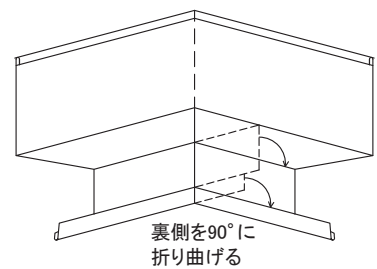
手順① 斜線部分を切り取ります。



手順② 入隅折り曲げ位置で90°に折り曲げます。

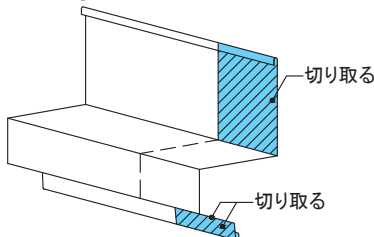


手順③ 裏側を90°に折り曲げます。

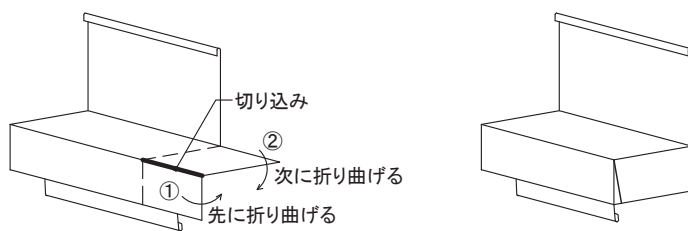


■水切の端部加工

手順① 斜線部分を切り取ります。



手順② 下図のように切り込みを入れ、折り曲げます。



※加工例はあくまで一例です。現場の状況に応じて、適宜、ご対応ください。

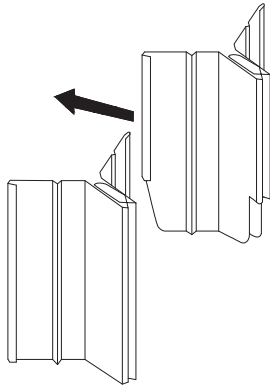
4 付属部材加工図

4-5 先付け付属部材の接合方法

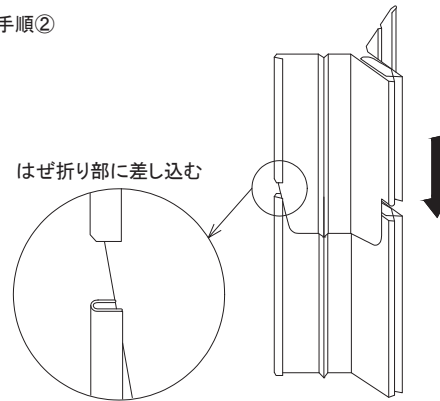
●後付け付属部材(カバーなど)の浮き上がり防止のため、先付け付属部材(受けなど)は十分に押さえて留め付けます。

■S出隅鋼板受け18の接合方法

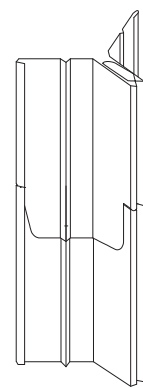
手順①



手順②

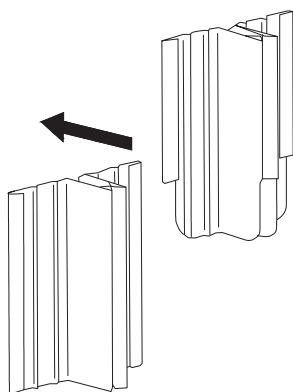


手順③

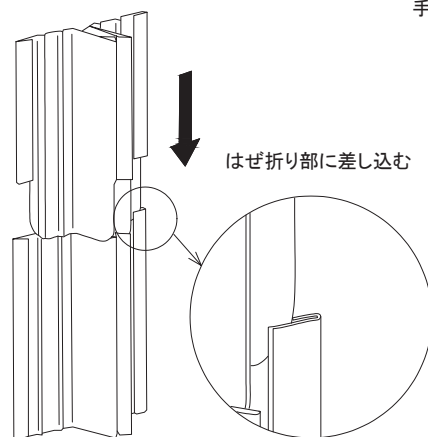


■S目地鋼板受け18、目地鋼板受けの接合方法

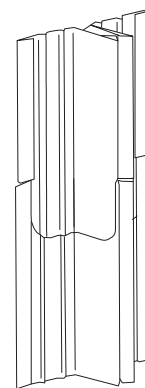
手順①



手順②



手順③

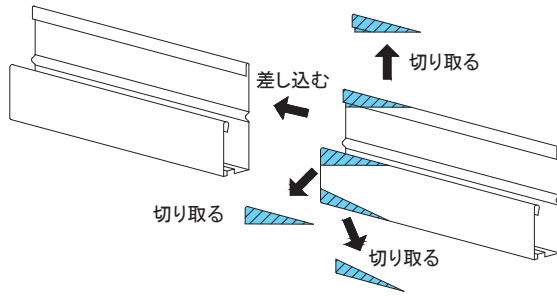


4 付属部材加工図

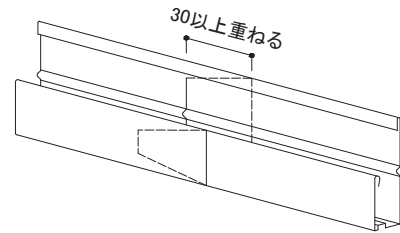
4-6 端部カバー、見切縁の加工方法

■端部カバー、見切縁の接合方法

手順①



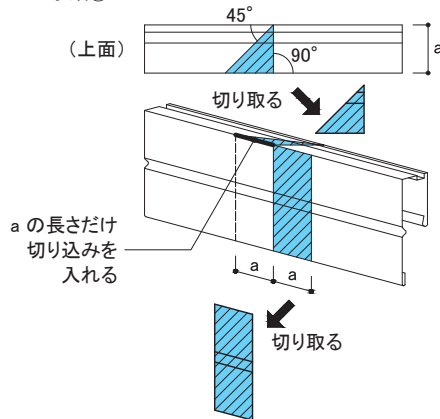
手順②



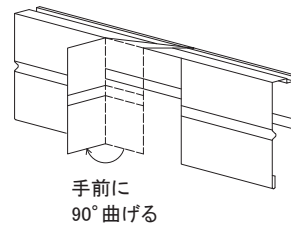
※N端部カバー、N見切縁18は本体両端部にあらかじめ継手加工をしております。

■端部カバー、見切縁の出隅加工

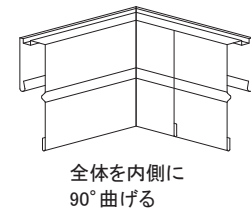
手順①



手順②

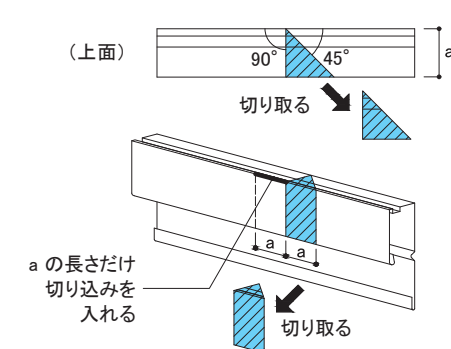


手順③

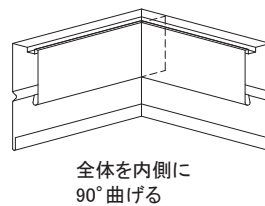


■端部カバー、見切縁の入隅加工

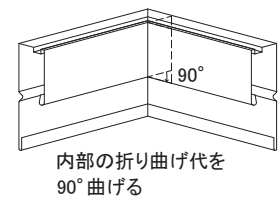
手順①



手順②



手順③



※加工例はあくまで一例です。現場の状況に応じて、適宜、ご対応ください。

5 センターサイディング標準施工法 ＜納まり図 木造編＞

5- 1	納まり詳細図	木造軸組下地	NS型	横張り
5- 2	納まり詳細図	木造軸組下地	NS型	縦張り
5- 3	納まり図	木造軸組下地	その他の型	横張り
5- 4	納まり図	木造軸組下地	その他の型	縦張り



防耐火構造の大臣認定が必要な場合は、胴縁間隔や躯体サイズなど大臣認定の別添に従い、施工してください。

シン・スマートフラットはM型の納まりをご参照ください。
シン・ネオスパンはNS型の納まりをご参照ください。

5-1 納まり詳細図

木造軸組下地

NS型

横張り

1)基本構成図・下地組図	
2)主要部材一覧表	
3)土台部	通気土台水切
4)上下接合部	嵌合
5)左右接合部	①目地鋼板受け+NS目地カバー ②目地鋼板受け+NS段目地
6)入隅部	①土台 N見切縁18 ②軒天 通気見切縁21
7)出隅部	①土台 S出隅鋼板受け18+S出隅カバー ②軒天 通気見切縁21
8)開口部	①上側 N端部カバー ②上側 N見切縁18 ③下側 N見切縁18 ④左右側 N見切縁18
9)軒天部	①通気見切縁21 ②S廻り縁鋼板受け+N廻り縁カバー18
10)オーバーハング部	オーバーハング水切+N端部カバー
11)下屋根部	①棟側 N端部カバー ②流れ側 N端部カバー



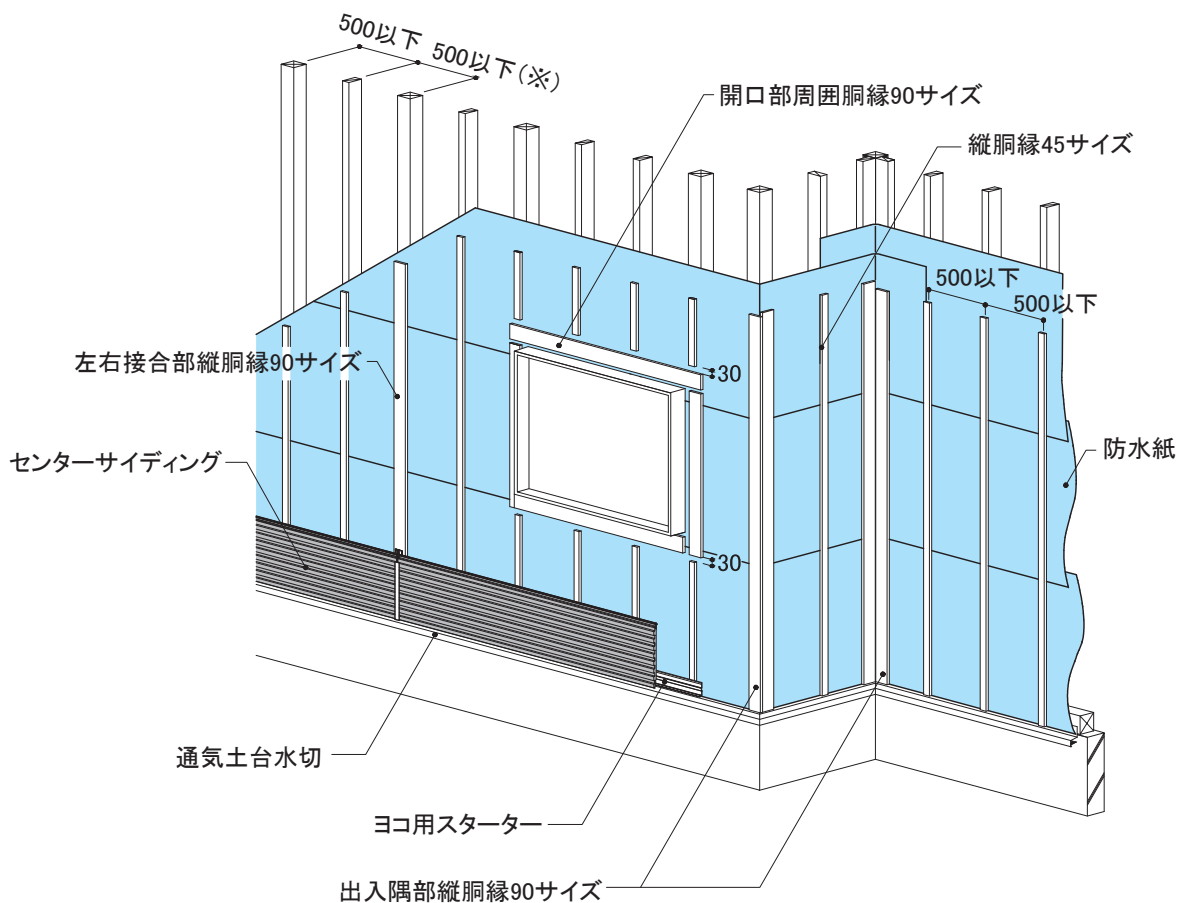
防耐火構造の大臣認定が必要な場合は、胴縁間隔や躯体サイズなど大臣認定の別添に従い、施工してください。
なお、準耐火構造の柱・間柱・胴縁間隔は認定上、455mm以下となります。

シン・ネオスパンFUIはNS型の納まりをご参照ください。

NS型	下地	留付方法	張り方向	木胴縁組(※)
	木造軸組下地	釘	横	縦胴縁 @500mm以下

1) 基本構成図・下地組図

- 通気土台水切は胴縁組みを行う前に取り付け、防水紙を上にかぶせて施工します。
- 下地は図のように木胴縁を組み、スギ材は厚み18mm以上、ベイツガ材は厚み15mm以上の乾燥材を使用します。
- 木胴縁の幅は45mm以上を標準サイズとし、左右接合部、出入隅部や開口部まわりなどの指定箇所には倍幅の90mm以上を使用します。
- 木胴縁はN65、CN65以上の釘またはφ3.8mm×50mm以上の木ビスを使用して500mm以下の間隔で躯体に留め付け、仕上げ面の不陸(段差)は1.5mm以下となるように調整して施工します。
- 縦胴縁と開口部まわりの胴縁は30mm程度の隙間を設け、通気する構造とします。



注意

防耐火構造の大臣認定が必要な場合は、胴縁間隔や躯体サイズなど大臣認定の別添に従い施工してください。

※準耐火構造の柱・間柱・胴縁間隔は認定上、455mm以下となります。

センターサイディング
標準施工法

センターサイディング
基本納まり図

本体・付属部材
詳細図

付属部材加工図

センターサイディング
木造編

センターサイディング
鉄骨造 金属胴縁編

センターサイディング
鉄骨造 直張り編

センター化粧幕板
標準施工法

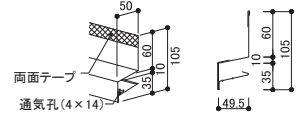
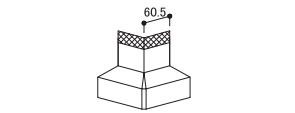
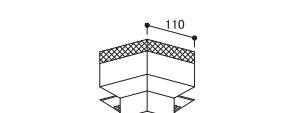
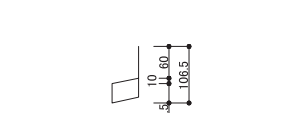
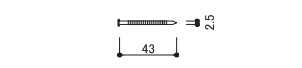
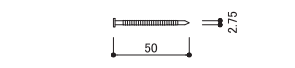
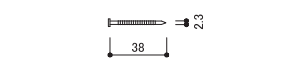
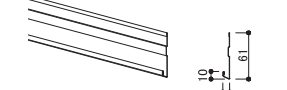
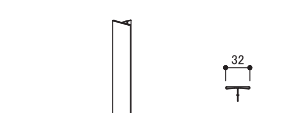
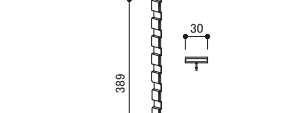
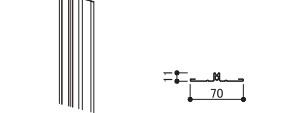
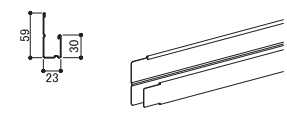
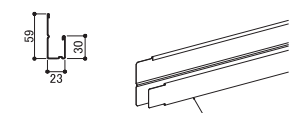
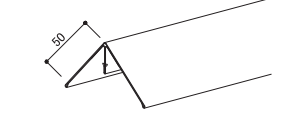
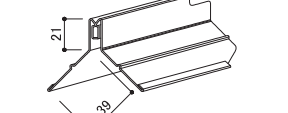
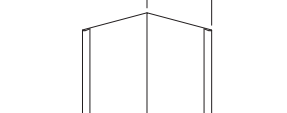
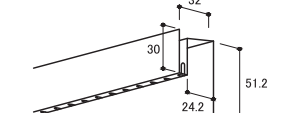
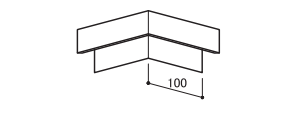
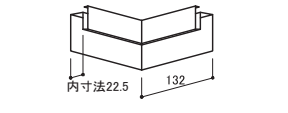
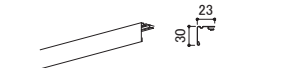
センタールーフ
標準施工法

センタールーフ
納まり詳細図

参考資料

NS型	下地	留付方法	張り方向	木胴縁組
	木造軸組下地	釘	横	縦胴縁 @500mm以下

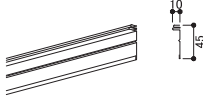
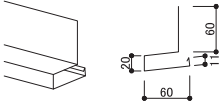
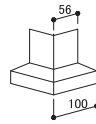
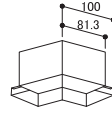

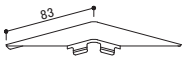
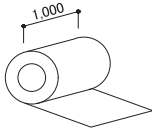
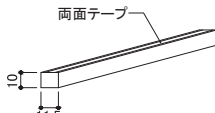

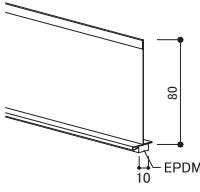
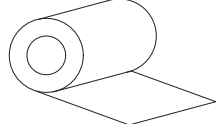
2) 主要部材一覧表

<p>■通気土台水切</p>  <p>通気土台水切50 【品番:FTD57**】 材質:塗装高耐食GLめっき鋼板 厚み:0.35mm 長さ:3.030mm</p>	<p>■通気土台水切出隅</p>  <p>通気土台水切出隅50 【品番:FTD57**B】 材質:塗装高耐食GLめっき鋼板 厚み:0.35mm 長さ:110mm</p>	<p>■通気土台水切入隅</p>  <p>通気土台水切入隅50 【品番:FTD57**D】 材質:塗装高耐食GLめっき鋼板 厚み:0.35mm 長さ:110mm</p>	<p>■通気土台水切 エンドキャップ</p>  <p>エンドキャップ 【品番:FTD57**C】 材質:塗装高耐食GLめっき鋼板 厚み:0.35mm</p>
<p>■専用釘(本体実部留付用)</p>  <p>ステンレスリング釘 【品番:JKR640】 材質:ステンレス サイズ:φ2.5mm×43mm</p>	<p>■専用釘(本体表面留め用)</p>  <p>ステンレスリング釘 【品番:JKW840B・S】 材質:ステンレス サイズ:φ2.75mm×50mm</p>	<p>■専用釘(付属部材用)</p>  <p>ステンレスリング釘 【品番:JK440】 材質:ステンレス サイズ:φ2.3mm×38mm</p>	<p>■スターター</p>  <p>ヨコ用スターター 【品番:AST2F00A】 材質:塗装高耐食GLめっき鋼板 長さ:3.030mm</p>
<p>■目地カバー</p>  <p>NS目地カバー 【品番:AMJ3F0**】 材質:塗装高耐食GLめっき鋼板 厚み:0.35mm 働き長さ:3.030mm</p>	<p>■目地カバー</p>  <p>NS段目地 【品番:ADM5F0**】 材質:塗装高耐食GLめっき鋼板 厚み:0.35mm 働き長さ:385mm</p>	<p>■目地受け</p>  <p>目地鋼板受け 【品番:AMU6F00A】 材質:塗装高耐食GLめっき鋼板 厚み:0.35mm 働き長さ:3.030mm</p>	<p>■見切縁</p>  <p>N見切縁18 【品番:AMKEF0**】 【品番:AMKGF0**】 材質:塗装高耐食GLめっき鋼板 厚み:0.35mm 働き長さ:3.030mm</p>
<p>■端部カバー</p>  <p>N端部カバー 【品番:AMKFF0**】 【品番:AMKHFO**】 材質:塗装高耐食GLめっき鋼板 厚み:0.35mm 働き長さ:3.030mm 水抜き穴:φ10mm@300mm</p>	<p>■出隅カバー</p>  <p>S出隅カバー 【品番:ADS2F***】 材質:塗装高耐食GLめっき鋼板 厚み:0.35mm 働き長さ:3.030mm</p>	<p>■出隅鋼板受け</p>  <p>S出隅鋼板受け18 【品番:ADU1F00A】 材質:塗装高耐食GLめっき鋼板 働き長さ:3.030mm</p>	<p>■入隅50</p>  <p>入隅50 【品番:JR1900】 材質:高耐食GLめっき鋼板 厚み:0.27mm 長さ:3.030mm</p>
<p>■通気見切縁</p>  <p>通気見切縁21 【品番:FTM21**】 材質:塗装高耐食GLめっき鋼板 厚み:0.35mm 長さ:3.030mm</p>	<p>■通気見切縁出隅</p>  <p>通気見切縁21出隅 【品番:FTM21**B】 材質:塗装高耐食GLめっき鋼板 厚み:0.35mm</p>	<p>■通気見切縁入隅</p>  <p>通気見切縁21入隅 【品番:FTM21**D】 材質:塗装高耐食GLめっき鋼板 厚み:0.35mm</p>	<p>■廻り縁カバー</p>  <p>N廻り縁カバー18 【品番:AMW8F0**】 材質:塗装高耐食GLめっき鋼板 厚み:0.35mm 働き長さ:3.030mm</p>

※各部材は、2024年2月時点のものです。最新の情報はNICHIIHA金属製外壁材・屋根材総合カタログでご確認ください。

NS型	下地	留付方法	張り方向	木胴縁組
	木造軸組下地	釘	横	縦胴縁 @500mm以下

2) 主要部材一覧表

<p>■ 廻り縁受け</p>  <p>S廻り縁鋼板受け 【品番:AMW3F00A】 材質:塗装高耐食GLめっき鋼板 厚み:0.35mm 働き長さ:3,030mm</p>	<p>■ オーバーハング水切</p>  <p>オーバーハング水切 【品番:JOH72**】 材質:塗装高耐食GLめっき鋼板 厚み:0.35mm 長さ:3,030mm</p>	<p>■ オーバーハング水切出隅</p>  <p>オーバーハング水切出隅 【品番:JOH72**B】 材質:塗装高耐食GLめっき鋼板 厚み:0.35mm 長さ:100mm</p>	<p>■ オーバーハング水切入隅</p>  <p>オーバーハング水切入隅 【品番:JOH72**D】 材質:塗装高耐食GLめっき鋼板 厚み:0.35mm 長さ:100mm</p>
<p>■ オーバーハング水切 エンドキャップ</p>  <p>オーバーハング水切エンドキャップ 【品番:JOH72**C】 材質:塗装高耐食GLめっき鋼板 厚み:0.35mm</p>	<p>■ 見切コーナー</p>  <p>N見切コーナー 【品番:AMC****】 材質:塗装高耐食GLめっき鋼板 厚み:0.35mm</p>	<p>■ 共板フラット</p>  <p>共板フラット 【品番:ECL1F0**】 材質:塗装高耐食GLめっき鋼板 厚み:0.35mm 幅:1,000mm×長さ10m</p>	<p>■ バッカー材</p>  <p>CS/バッカー材 【品番:ABK5Q0J3】 材質:EPDM 幅:11.5mm 厚み:10mm 長さ:2,000mm</p>
<p>■ 段付バッカー材</p>  <p>NS型段付バッカー材 【品番:ABK8Q0JL】 材質:発泡ポリエチレン 幅:10mm 長さ:385mm</p>	<p>■ 鋼板止水部材</p>  <p>鋼板止水部材 【品番:KE5100】 材質:塗装高耐食GLめっき鋼板 厚み:0.35mm 長さ:3,030mm</p>	<p>■ 片面防水テープ</p>  <p>【品番:JF1526】 材質:アクリル 長さ:20m 幅:100mm</p>	

※各部材は、2024年2月時点のものです。最新の情報はNICHIIA金属製外壁材・屋根材総合カタログでご確認ください。

センターサイディング
標準施工法

センターサイディング
基本納まり図

本体・付属部材
詳細図

付属部材加工図

木造編
センターサイディング

センターサイディング
鉄骨造 金属胴縁編

センターサイディング
鉄骨造 直張り編

センター化粧幕板
標準施工法

センタールーフ
標準施工法

センタールーフ
納まり詳細図

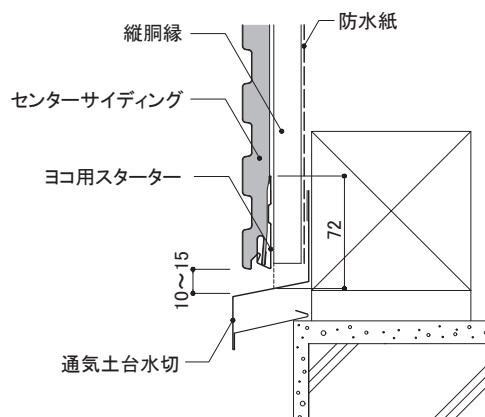
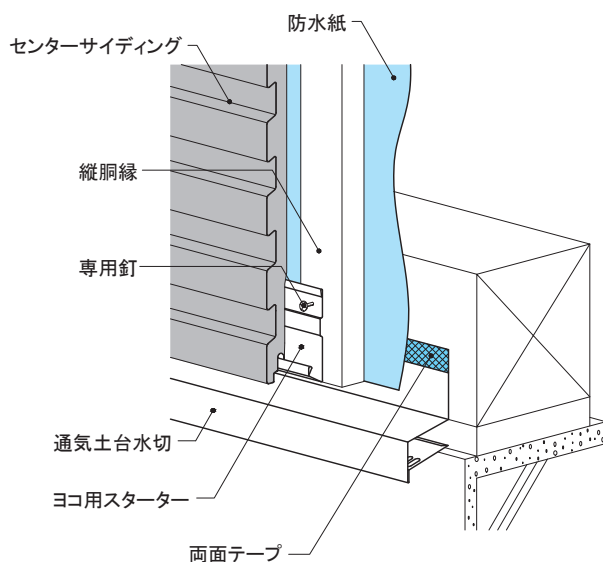
参考資料

NS型	下地	留付方法	張り方向	木胴縁組
	木造軸組下地	釘	横	縦胴縁 @500mm以下

3) 土台部

通気土台水切

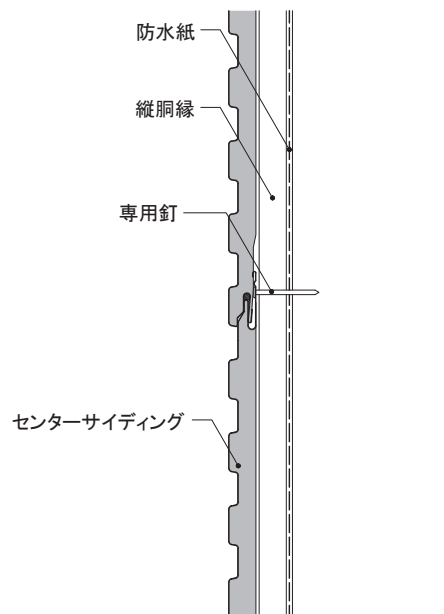
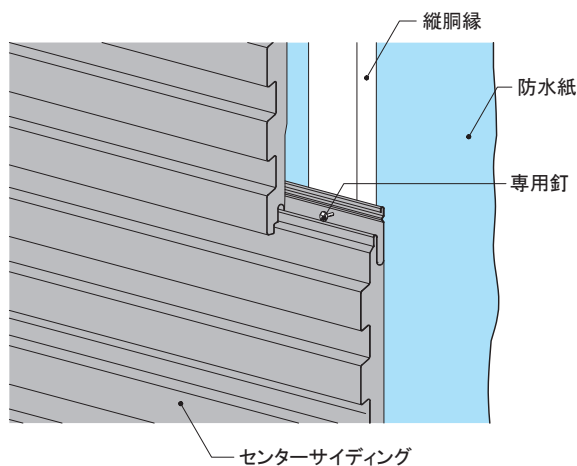
- 通気土台水切は、土台へ500mm以下の間隔で専用釘(ステンレスリング釘φ2.3mm×38mm)を用いて水平に留め付けます。
- ヨコ用スターターを専用釘(ステンレスリング釘φ2.3mm×38mm)で胴縁ごとに留め付けます。
- センターサイディング下端と通気土台水切の間に、10~15mmの隙間を設けます。



4) 上下接合部

嵌合

- センターサイディングは実を確実に嵌合させ、専用釘(ステンレスリング釘φ2.5mm×43mm)で胴縁ごとに実部に留め付けます。
- 本体2枚ごとに働き幅・水平を確保しながら施工します。



NS型	下地	留付方法	張り方向	木胴縁組
	木造軸組下地	釘	横	縦胴縁 @500mm以下

センターサイディング
標準施工法

センターサイディング
基本納まり図

本体・付属部材
詳細図

付属部材加工図

木造編
センターサイディング

センターサイディング
鉄骨造 金属胴縁編

センターサイディング
鉄骨造 直張り編

センター化粧石膏
標準施工法

センタールーフ
標準施工法

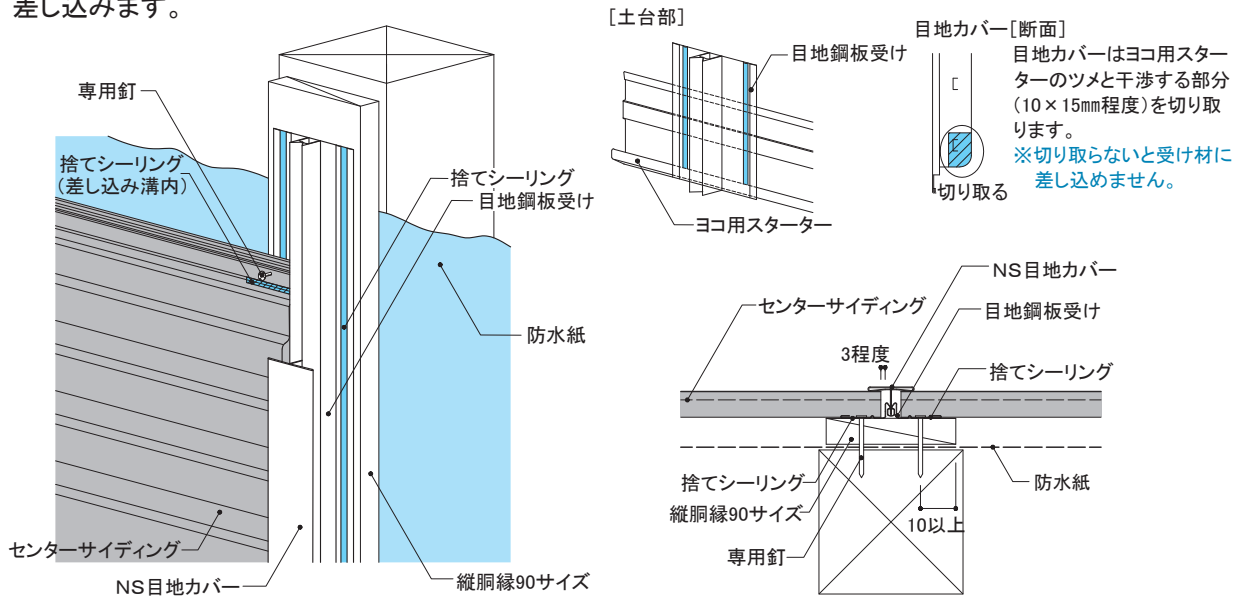
センタールーフ
納まり詳細図

参考資料

5) 左右接合部

① 目地鋼板受け+NS目地カバー

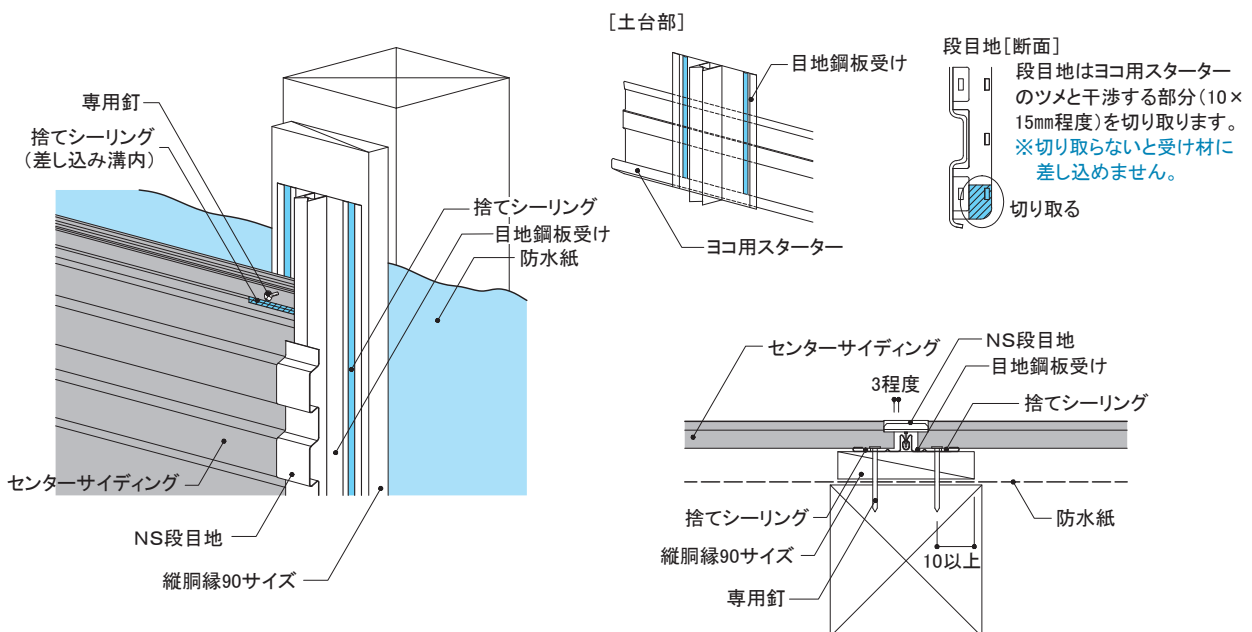
- 土台部はヨコ用スター勝ちとし、目地鋼板受けを専用釘(ステンレスリング釘φ2.3mm×38mm)で1m以下の間隔で取り付けます。両側端部に捨てシーリングを施工します。
- センターサイディングの留め付けは、縦胴縁の端空きを10mm以上確保します。また、センターサイディングと目地鋼板受けは、図のように3mm程度隙間を設けます。
- NS目地カバーはヨコ用スターのツメと干渉する部分を10×15mm程度切り落として、目地鋼板受けに差し込みます。



5) 左右接合部

② 目地鋼板受け+NS段目地

- 土台部はヨコ用スター勝ちとし、目地鋼板受けを専用釘(ステンレスリング釘φ2.3mm×38mm)で1m以下の間隔で取り付けます。両側端部に捨てシーリングを施工します。
- センターサイディングの留め付けは、縦胴縁の端空きを10mm以上確保します。また、センターサイディングと目地鋼板受けは、図のように3mm程度隙間を設けます。
- NS段目地はヨコ用スターのツメと干渉する部分を10×15mm程度切り落として、目地鋼板受けに差し込みます。

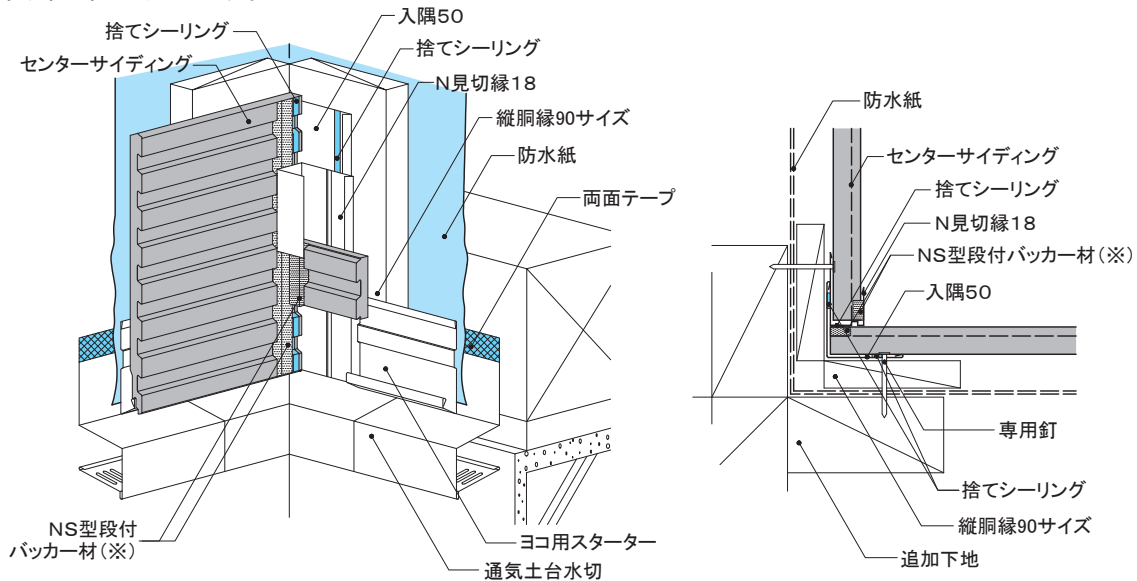


NS型	下地	留付方法	張り方向	木脚縁組
	木造軸組下地	釘	横	縦脚縁 @500mm以下

6) 入隅部

①土台 N見切縁18

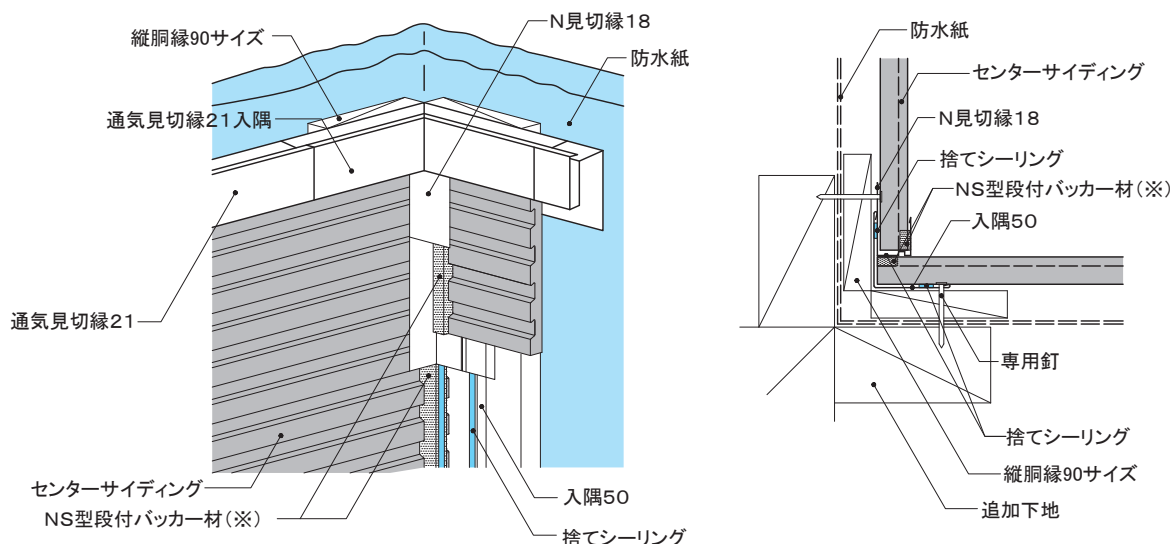
- 入隅部に、胴縁の留付下地として、必ず追加下地を入れます。
- 入隅50を取り付け、捨てシーリングを図のように両側端部に施工します。
- センターサイディングの端部は必要に応じてNS型段付バック材を貼り付けます。(※)
- 先施工側のセンターサイディングを施工後、図のように捨てシーリングを施工し、N見切縁18を取り付けます。
- 後施工側のセンターサイディングをN見切縁18に差し込み、専用釘(ステンスリング釘φ2.5mm×43mm)で実部に留め付けます。



6) 入隅部

②軒天 通気見切縁21

- 入隅部に、胴縁の留付下地として、必ず追加下地を入れます。
- 入隅50を取り付け、捨てシーリングを図のように両側端部に施工します。
- センターサイディングの端部は必要に応じてNS型段付バック材を貼り付けます。(※)
- 先施工側のセンターサイディングを施工後、図のように捨てシーリングを施工し、N見切縁18を取り付けます。
- 後施工側のセンターサイディングをN見切縁18に差し込み、専用釘(ステンスリング釘φ2.5mm×43mm)で実部に留め付けます。
- 最上段のセンターサイディングは通気見切縁21に差し込み、表面から専用釘(ステンスリング釘φ2.75mm×50mm)で留め付けます。



NS型	下地	留付方法	張り方向	木胴縁組
	木造軸組下地	釘	横	縦胴縁 @500mm以下

センターサイディング
標準施工法

センターサイディング
基本納まり図

本体・付属部材
詳細図

付属部材加工図

センターサイディング
木造編

センターサイディング
鉄骨造 金属胴縁編

センターサイディング
鉄骨造 直張り編

センター化粧石膏板
標準施工法

センタールーフ
標準施工法

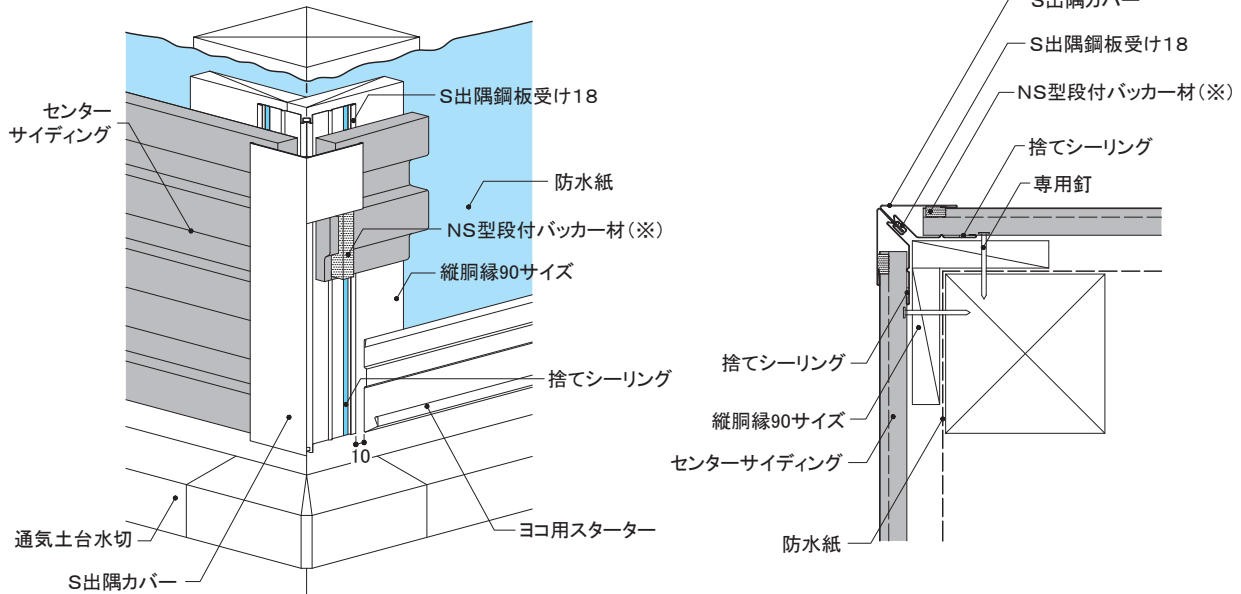
センタールーフ
納まり詳細図

参考資料

7) 出隅部

①土台 S出隅鋼板受け18+S出隅カバー

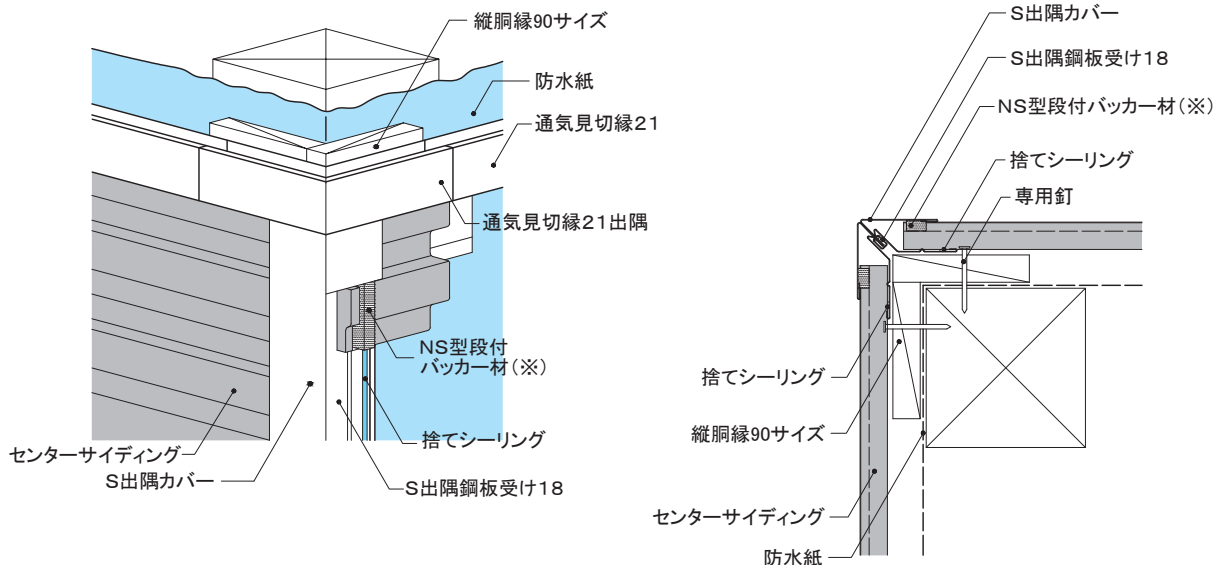
- S出隅鋼板受け18は通気土台水切から10～15mmの隙間を設けて取り付けます。S出隅鋼板受け18の両側端部に捨てシーリングを施工します。
- ヨコ用スターターをS出隅鋼板受け18から10mm程度離して取り付けます。
- 各センターサイディング端部は必要に応じてNS型段付パッカー材を貼り付けます。(※)
- S出隅カバーをS出隅鋼板受け18に差し込みます。



7) 出隅部

②軒天 通気見切縁21

- 通気見切縁21を取り付けた後、S出隅鋼板受け18を通気土台水切から10～15mmの隙間を設けて取り付けます。S出隅鋼板受け18の両側端部に捨てシーリングを施工します。
- 各センターサイディング端部は必要に応じてNS型段付パッカー材を貼り付けます。(※)
- 最上段のセンターサイディングは通気見切縁21に差し込み、表面から専用釘(ステンレスリング釘φ2.75mm×50mm)で留め付けます。
- S出隅カバーをS出隅鋼板受け18に差し込みます。

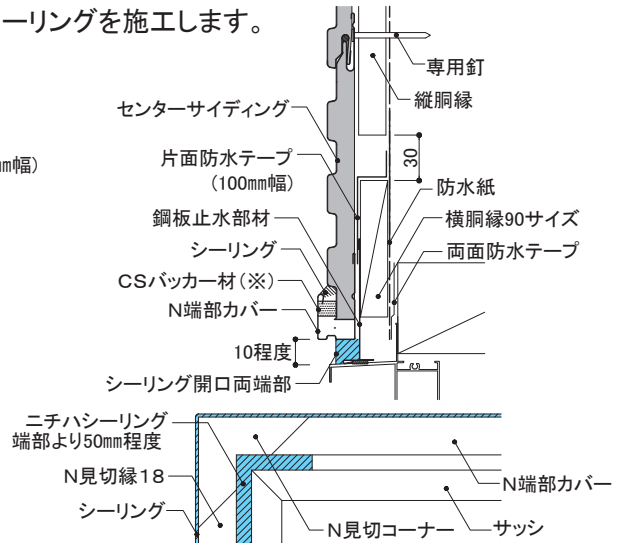
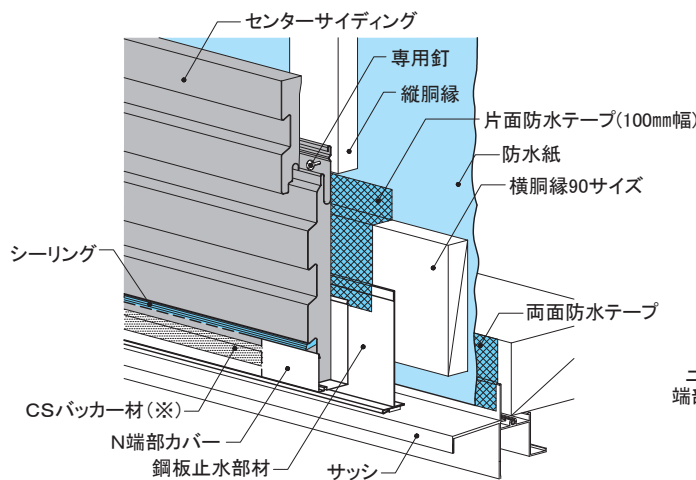


NS型	下地	留付方法	張り方向	木脚縁組
	木造軸組下地	釘	横	縦脚縁 @500mm以下

8) 開口部

①上側 N端部カバー

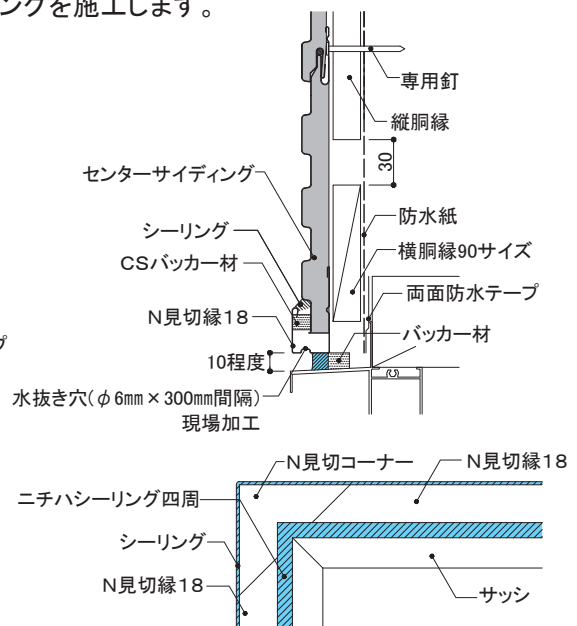
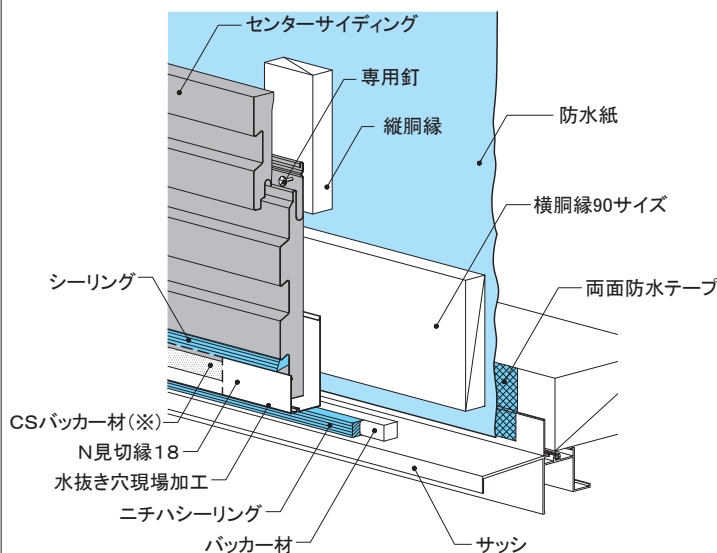
- 開口部まわりには、両面防水テープを必ず使用し、防水紙を施工します。
- 鋼板止水部材を横脚縁に取り付け、片面防水テープ(100mm幅)を図のように貼り付けます。
- 開口部上側は水抜き穴のあるN端部カバーを使用します。N見切縁18を使用する場合は、水抜き穴(φ10mm×300mm間隔)を現場加工します。
- N端部カバーとサッシとの取り合い部は、10mm程度の隙間を設けて施工します。
- センターサイディング下端が柄凹部となる場合は、CSバック材を貼り付けます。(※)
- サッシ上部は、端部から50mm程度、マスキングテープで養生後ニチハシーリングを充填します。
- センターサイディングとN端部カバーの取り合い部にシーリングを施工します。



8) 開口部

②上側 N見切縁18

- 開口部周囲をシーリングで施工する場合の納まりです。
- 開口部まわりには、両面防水テープを必ず使用し、防水紙を施工します。
- N見切縁18(部材先端の方にφ6mm×300mm間隔で現場加工)をサッシとの取り合い部に10mm程度の隙間を設けて取り付けます。
- センターサイディング下端が柄凹部となる場合は、CSバック材を貼り付けます。(※)
- バック材を取り付け、マスキングテープで養生後ニチハシーリングを充填します。(四周シーリング)
- センターサイディングとN見切縁18の取り合い部にシーリングを施工します。

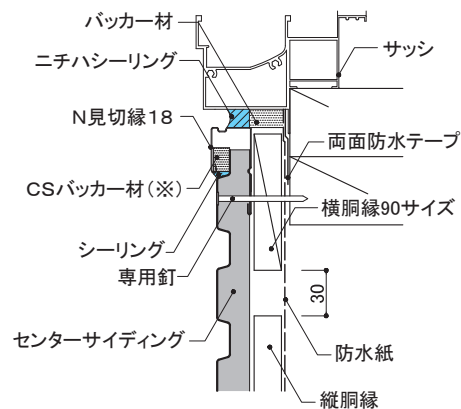
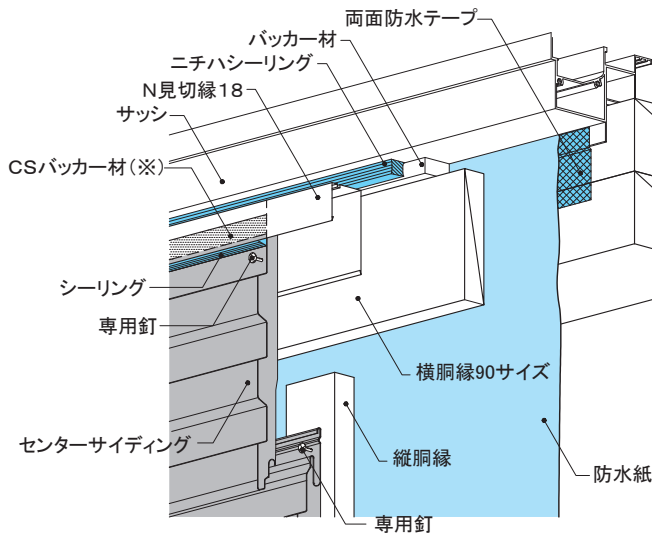


NS型	下地	留付方法	張り方向	木胴縁組
	木造軸組下地	釘	横	縦胴縁 @500mm以下

8) 開口部

③ 下側 N見切縁18

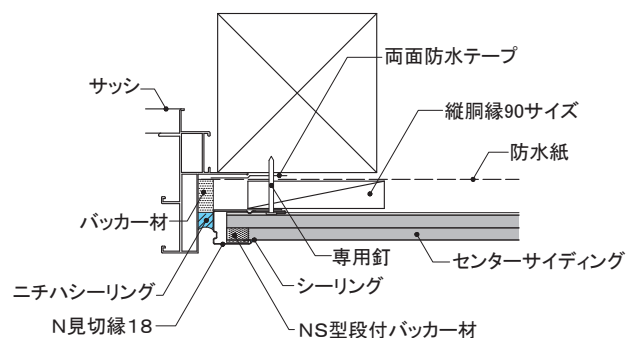
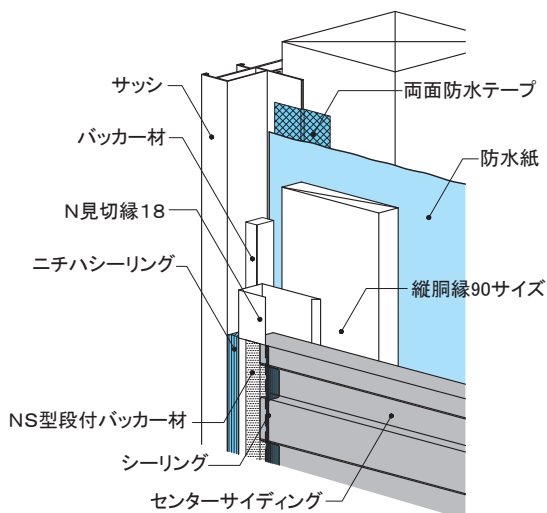
- 開口部まわりには、両面防水テープを必ず使用し、防水紙を施工します。
- N見切縁18をサッシとの取り付け部に10mm程度の隙間を設けて取り付けます。
- センターサイディング上端が柄凹部となる場合は、CSバッカー材を貼り付け、N見切縁18に差し込みます。(※)
- センターサイディングを表面から留め付ける場合は、専用釘(ステンレスリング釘φ2.75mm×50mm)で留め付けます。
- サッシとN見切縁18の取り付け部はバッカー材を取り付け、マスキングテープで養生後ニチハシーリングを充填します。
- センターサイディングとN見切縁18の取り付け部にシーリングを施工します。



8) 開口部

④ 左右側 N見切縁18

- 開口部まわりには、両面防水テープを必ず使用し、防水紙を施工します。
- N見切縁18をサッシとの取り付け部に10mm程度の隙間を設けて取り付けます。
- センターサイディング端部にNS型段付バッカー材を貼り付け、N見切縁18に差し込みます。
- バッカー材を取り付け、マスキングテープで養生後ニチハシーリングを充填します。
- センターサイディングとN見切縁18の取り付け部にシーリングを施工します。



センターサイディング
標準施工法

センターサイディング
基本納まり図

本体・付属部材
詳細図

付属部材加工図

センターサイディング
木造編

センターサイディング
鉄骨造 金属胴縁編

センターサイディング
鉄骨造 直張り編

センター化粧幕板
標準施工法

センタールーフ
標準施工法

センタールーフ
納まり詳細図

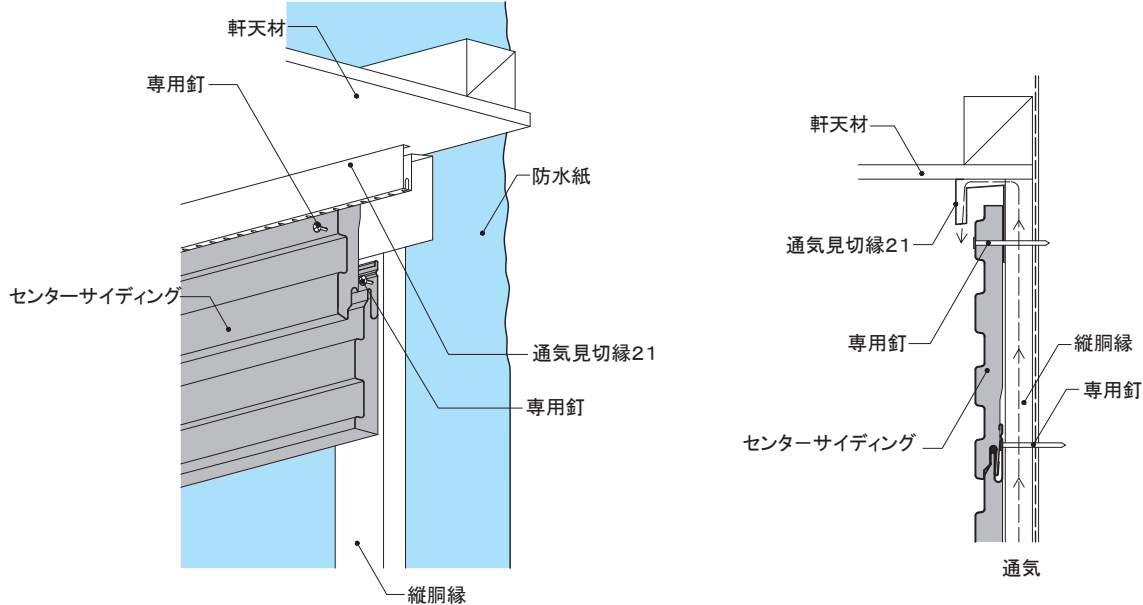
参考資料

NS型	下地	留付方法	張り方向	木胴縁組
	木造軸組下地	釘	横	縦胴縁 @500mm以下

9) 軒天部

① 通気見切縁21

- センターサイディング施工前に通気見切縁21を図の位置に取り付けます。
- センターサイディングは通気見切縁21に差し込み、表面から専用釘(ステンレスリング釘φ2.75mm×50mm)で留め付けます。

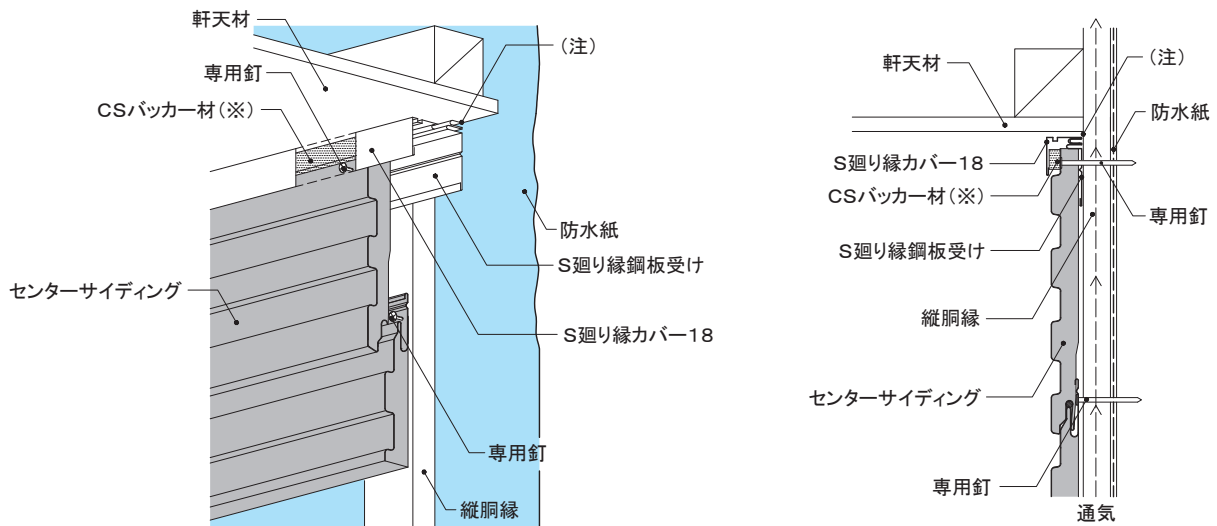


9) 軒天部

② S廻り縁鋼板受け+S廻り縁カバー18

- 通気が小屋裏へ抜けるように、防水紙張りや胴縁下地組みは軒天工事前に先行して行います。
- S廻り縁鋼板受けを胴縁ごとに専用釘(ステンレスリング釘φ2.3mm×38mm)で留め付けます。
- センターサイディング上端が柄凹部となる場合は、必要に応じてCSバッカー材を貼り付けます。(※)
- センターサイディングを表面から専用釘(ステンレスリング釘φ2.75mm×50mm)で留め付けます。
- S廻り縁カバー18をS廻り縁鋼板受けに差し込みます。

(注) S廻り縁鋼板受けを取り付ける際は、S廻り縁カバー18が嵌められるように軒天材との間に5mm程度の隙間を設け、位置を調整してから取り付けてください。

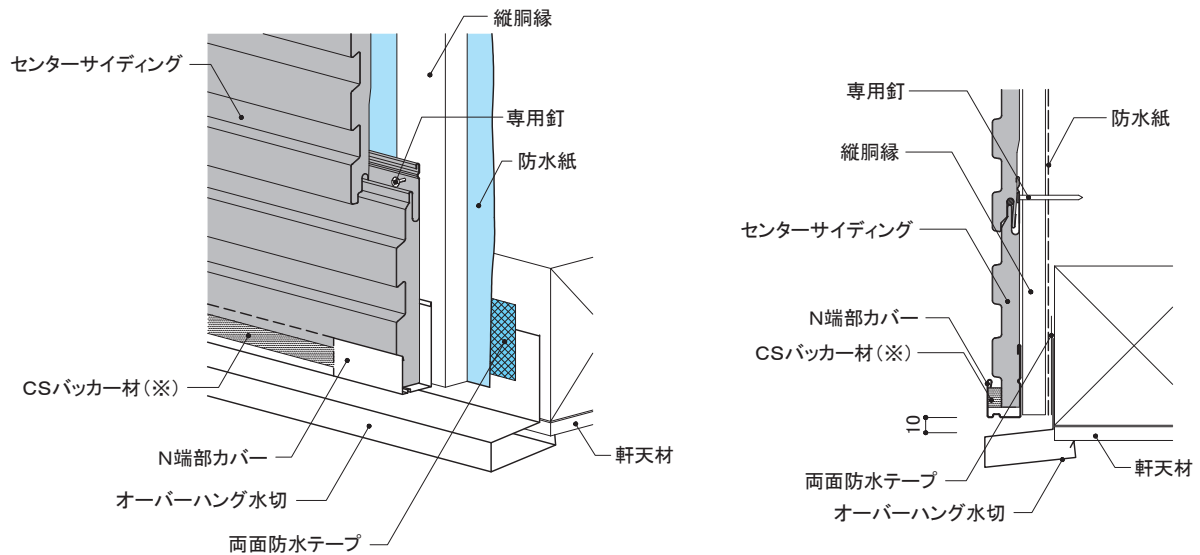


NS型	下地	留付方法	張り方向	木胴縁組
	木造軸組下地	釘	横	縦胴縁 @500mm以下

10) オーバーハング部

オーバーハング水切 + N端部カバー

- 防水紙はオーバーハング水切の上にかぶせて施工し、両面防水テープで防水紙を貼り付けます。
- センターサイディング下端が柄凹部となる場合は、必要に応じてCSバッカー材を貼り付けます。(※)
- N端部カバーは胴縁ごとに専用釘(ステンレスリング釘 φ2.3mm × 38mm)で水平に留め付けます。
- N端部カバーとオーバーハング水切の間に、10mmの隙間を設けます。



センターサイディング
標準施工法

センターサイディング
基本納まり図

本体・付属部材
詳細図

付属部材加工図

木造編
センターサイディング

センターサイディング
鉄骨造 金属胴縁編

センターサイディング
鉄骨造 直張り編

センター化粧幕板
標準施工法

センタールーフ
標準施工法

センタールーフ
納まり詳細図

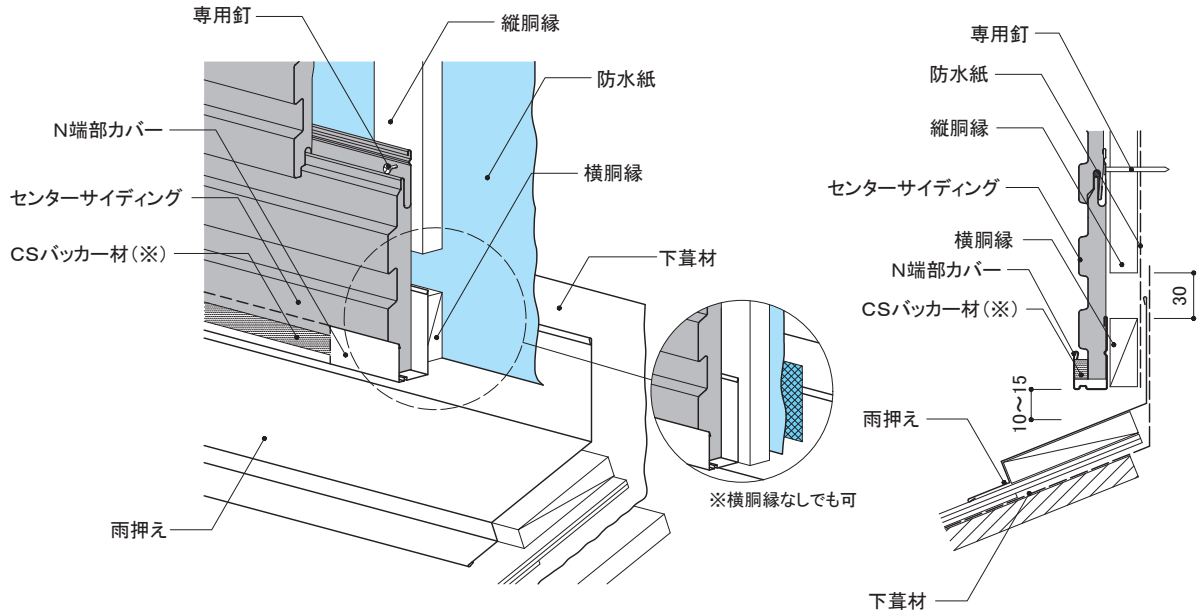
参考資料

NS型	下地	留付方法	張り方向	木胴縁組
	木造軸組下地	釘	横	縦胴縁 @500mm以下

11) 下屋根部

①棟側 N端部カバー

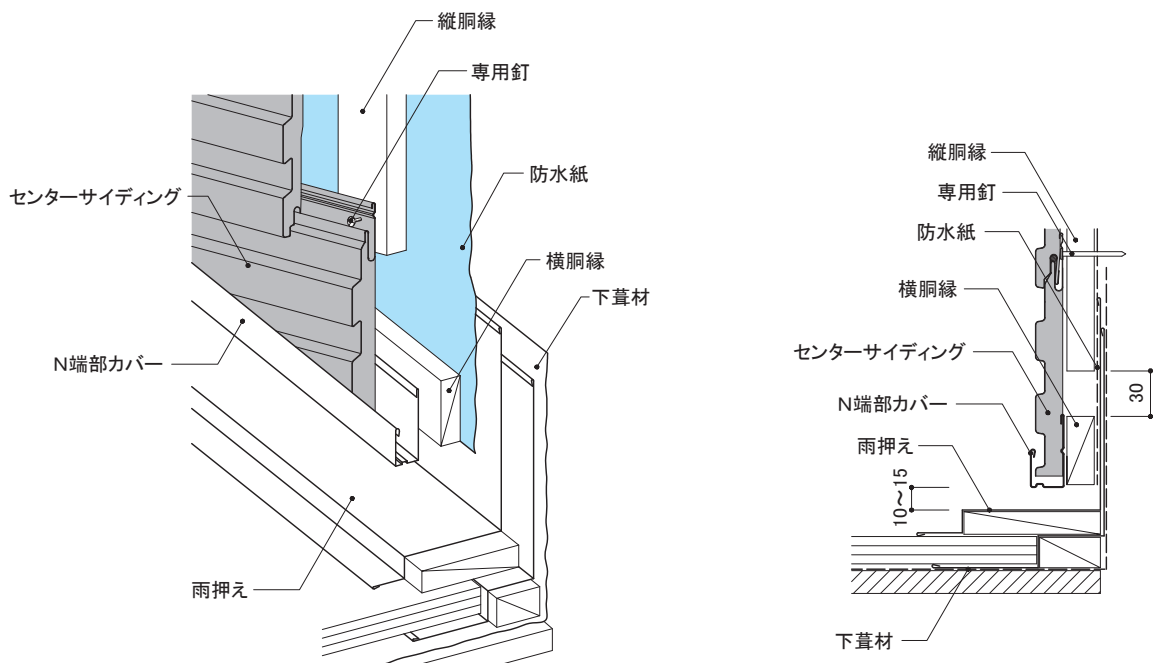
- 防水紙を雨押えの上にかぶせて施工します。
- N端部カバー下端と雨押えの間に、10～15mmの隙間を設けます。
- センターサイディング下端が柄凹部となる場合は必要に応じてCSバッカー材を貼り付け、N端部カバーに差し込みます。(※)



11) 下屋根部

②流れ側 N端部カバー

- 防水紙を雨押えの上にかぶせて施工します。
- N端部カバー下端と雨押えの間に、10～15mmの隙間を設けます。なお、流れ側にはCSバッカー材は不要です。



5-2 納まり詳細図

木造軸組下地

NS型

縦張り

1)基本構成図・下地組図	
2)主要部材一覧表	
3)土台部	①通気土台水切 ②通気土台水切+タテ用スターター
4)上下接合部	①中間水切18 ②中間水切18+タテ用スターター
5)左右接合部	嵌合
6)入隅部	①土台 N見切縁18+タテ用スターター ②軒天 通気見切縁21
7)出隅部	①土台 S出隅鋼板受け18+S出隅カバー ②軒天 通気見切縁21
8)開口部	①上側 N端部カバー ②上側 N見切縁18 ③下側 N見切縁18 ④左右側 N見切縁18
9)軒天部	①通気見切縁21 ②S廻り縁鋼板受け+N廻り縁カバー18
10)オーバーハング部	①オーバーハング水切 ②オーバーハング水切+タテ用スターター
11)下屋根部	①棟側 ②棟側 N端部カバー ③流れ側 ④流れ側 N端部カバー



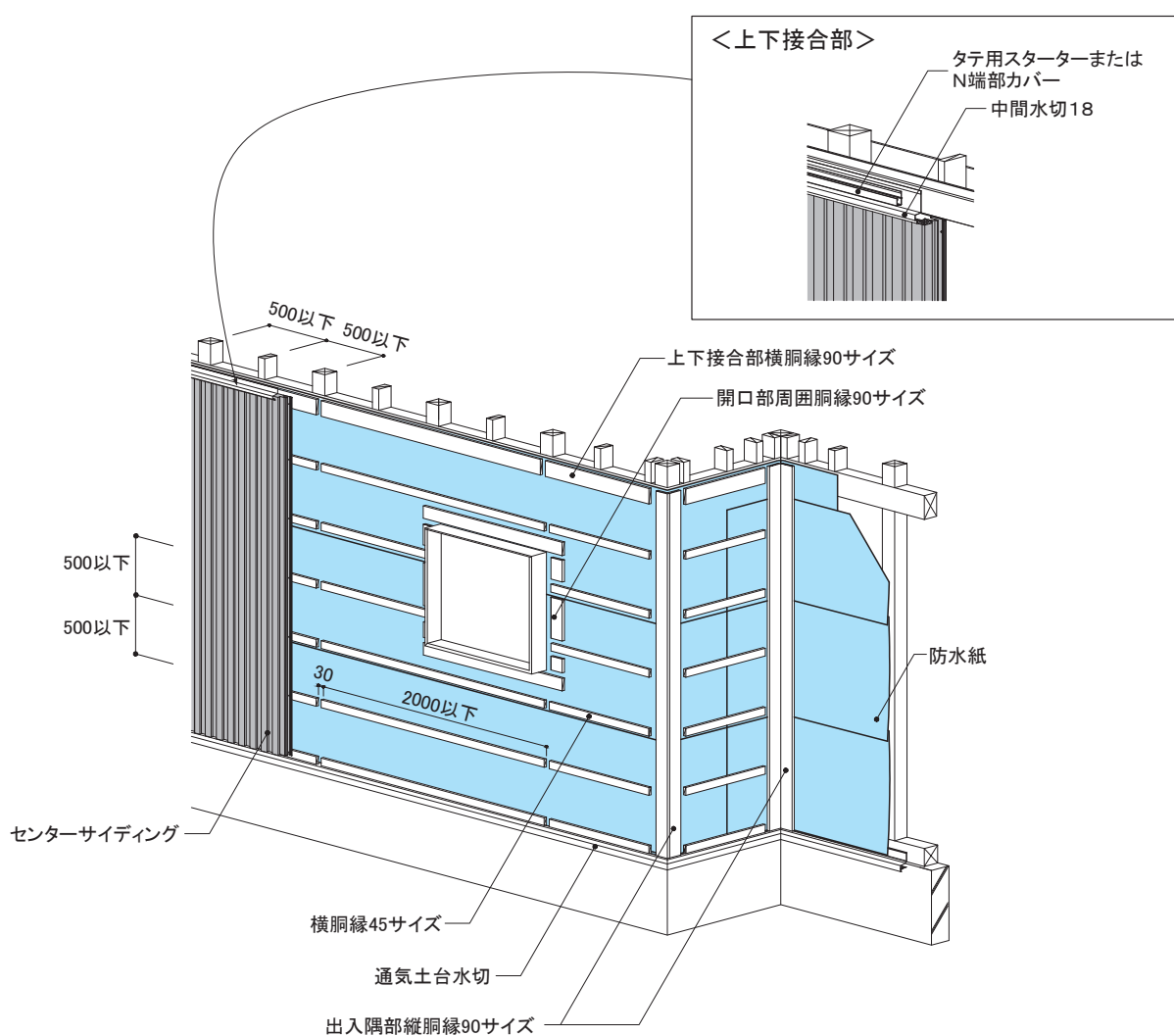
防耐火構造の大臣認定が必要な場合は、胴縁間隔や躯体サイズなど大臣認定の別添に従い、施工してください。
なお、準耐火構造の柱・間柱・胴縁間隔は認定上、455mm以下となります。

シン・ネオスパンFUIはNS型の納まりをご参照ください。

NS型	下地	留付方法	張り方向	木胴縁組(※)
	木造軸組下地	釘	縦	横胴縁 @500mm以下

1) 基本構成図・下地組図

- 通気土台水切は胴縁組みを行う前に取り付け、防水紙を上にかぶせて施工します。
- 下地は図のように木胴縁を組み、スギ材は厚み18mm以上、ベイツガ材は厚み15mm以上の乾燥材を使用します。ただし、耐力面材がない場合は18mm以上の乾燥材を使用します。
- 木胴縁の幅は45mm以上を標準サイズとし、上下接合部、出入隅部や開口部まわりなどの指定箇所には倍幅の90mm以上を使用します。
- 木胴縁はN65、CN65以上の釘またはφ3.8mm×50mm以上の木ビスを使用して500mm以下の間隔で躯体に留め付け、仕上げ面の不陸(段差)は1.5mm以下となるように調整して施工します。
- 下地組みは必ず通気ができるように、2000mm以下の間隔で30mm程度の隙間を設けます。
- 横胴縁と開口部まわりの胴縁は30mm程度の隙間を設け、通気する構造とします。



注意

防耐火構造の大臣認定が必要な場合は、胴縁間隔や躯体サイズなど大臣認定の別添に従い施工してください。

※ 準耐火構造の柱・間柱・胴縁間隔は認定上、455mm以下となります。

NS型	下地	留付方法	張り方向	木胴縁組
	木造軸組下地	釘	縦	横胴縁 @500mm以下

センターサイディング
標準施工法

センターサイディング
基本納まり図

本体・付属部材
詳細図

付属部材加工図

センターサイディング
木造編

センターサイディング
鉄骨造 金属胴縁編

センターサイディング
鉄骨造 直張り編

センター化粧幕板
標準施工法

センタールーフ
標準施工法

センタールーフ
納まり詳細図

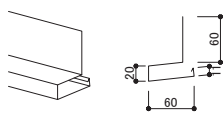
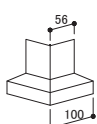
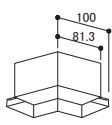

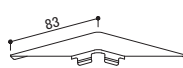
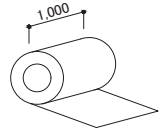
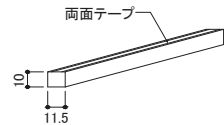
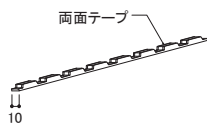
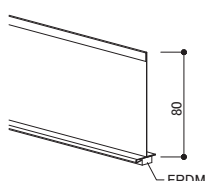
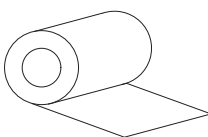
参考資料

2) 主要部材一覧表

<p>■通気土台水切</p> <p>通気土台水切50 【品番:FTD57**】 材質:塗装高耐食GLめっき鋼板 厚み:0.35mm 長さ:3,030mm</p>	<p>■通気土台水切出隅</p> <p>通気土台水切出隅50 【品番:FTD57**B】 材質:塗装高耐食GLめっき鋼板 厚み:0.35mm 長さ:110mm</p>	<p>■通気土台水切入隅</p> <p>通気土台水切入隅50 【品番:FTD57**D】 材質:塗装高耐食GLめっき鋼板 厚み:0.35mm 長さ:110mm</p>	<p>■通気土台水切 エンドキャップ</p> <p>エンドキャップ 【品番:FTD57**C】 材質:塗装高耐食GLめっき鋼板 厚み:0.35mm</p>
<p>■専用釘(本体実部留付用)</p> <p>ステンレスリング釘 【品番:JKR640】 材質:ステンレス サイズ:φ2.5mm×43mm</p>	<p>■専用釘(本体表面留め用)</p> <p>ステンレスリング釘 【品番:JKW840B・S】 材質:ステンレス サイズ:φ2.75mm×50mm</p>	<p>■専用釘(付属部材用)</p> <p>ステンレスリング釘 【品番:JK440】 材質:ステンレス サイズ:φ2.3mm×38mm</p>	<p>■タテ用スターター</p> <p>タテ用スターター 【品番:AST5F0**】 材質:塗装高耐食GLめっき鋼板 厚み:0.35mm 働き長さ:3,030mm 水抜き穴:φ6mm @300mm 備考:左右継ぎ手加工あり</p>
<p>■端部カバー</p> <p>N端部カバー 【品番:AMKFF0**】 【品番:AMKHF0**】 材質:塗装高耐食GLめっき鋼板 厚み:0.35mm 働き長さ:3,030mm 水抜き穴:φ10mm @300mm</p>	<p>■端部カバー(土台部)</p> <p>アルミ端部カバー 【品番:AMKDF09*】 材質:アルミ 厚み:1.2mm 長さ:3,030mm 水抜き穴:φ8mm @50mm 備考:積雪地向け</p>	<p>■見切縁</p> <p>N見切縁18 【品番:AMKEF0**】 【品番:AMKGF0**】 材質:塗装高耐食GLめっき鋼板 厚み:0.35mm 働き長さ:3,030mm</p>	<p>■出隅カバー</p> <p>S出隅カバー 【品番:ADS2F***】 材質:塗装高耐食GLめっき鋼板 厚み:0.35mm 働き長さ:3,030mm</p>
<p>■出隅鋼板受け</p> <p>S出隅鋼板受け18 【品番:ADU1F00A】 材質:塗装高耐食GLめっき鋼板 働き長さ:3,030mm</p>	<p>■入隅50</p> <p>入隅50 【品番:JR1900】 材質:高耐食GLめっき鋼板 厚み:0.27mm 長さ:3,030mm</p>	<p>■中間水切</p> <p>中間水切18 【品番:ATM6F0**】 材質:塗装高耐食GLめっき鋼板 厚み:0.35mm 長さ:3,030mm</p>	<p>■通気見切縁</p> <p>通気見切縁21 【品番:FTM21**】 材質:塗装高耐食GLめっき鋼板 厚み:0.35mm 長さ:3,030mm</p>
<p>■通気見切縁出隅</p> <p>通気見切縁21出隅 【品番:FTM21**B】 材質:塗装高耐食GLめっき鋼板 厚み:0.35mm</p>	<p>■通気見切縁入隅</p> <p>通気見切縁21入隅 【品番:FTM21**D】 材質:塗装高耐食GLめっき鋼板 厚み:0.35mm</p>	<p>■廻り縁カバー</p> <p>N廻り縁カバー18 【品番:AMW8F0**】 材質:塗装高耐食GLめっき鋼板 働き長さ:3,030mm</p>	<p>■廻り縁受け</p> <p>S廻り縁鋼板受け 【品番:AMW3F00A】 材質:塗装高耐食GLめっき鋼板 厚み:0.27mm 長さ:3,030mm</p>

※各部材は、2024年2月時点のものです。最新の情報は、NICHIIA金属製外壁材・屋根材総合カタログでご確認ください。

NS型	下地	留付方法	張り方向	木胴縁組
	木造軸組下地	釘	縦	横胴縁 @500mm以下

2) 主要部材一覧表			
<p>■オーバーハング水切</p>  <p>オーバーハング水切 【品番:JOH72**】 材質:塗装高耐食GLめっき鋼板 厚み:0.35mm 長さ:3,030mm</p>	<p>■オーバーハング水切出隅</p>  <p>オーバーハング水切出隅 【品番:JOH72**B】 材質:塗装高耐食GLめっき鋼板 厚み:0.35mm 長さ:100mm</p>	<p>■オーバーハング水切入隅</p>  <p>オーバーハング水切入隅 【品番:JOH72**D】 材質:塗装高耐食GLめっき鋼板 厚み:0.35mm 長さ:100mm</p>	<p>■オーバーハング水切 エンドキャップ</p>  <p>オーバーハング水切エンドキャップ 【品番:JOH72**C】 材質:塗装高耐食GLめっき鋼板 厚み:0.35mm</p>
<p>■見切コーナー</p>  <p>N見切コーナー 【品番:AMC****】 材質:塗装高耐食GLめっき鋼板 厚み:0.35mm</p>	<p>■共板フラット</p>  <p>共板フラット 【品番:ECL1F0**】 材質:塗装高耐食GLめっき鋼板 厚み:0.35mm 幅:1,000mm×長さ10m</p>	<p>■バックカー材</p>  <p>CS/バックカー材 【品番:ABK5Q0J3】 材質:EPDM 幅:11.5mm 厚み:10mm 長さ:2,000mm</p>	<p>■段付バックカー材</p>  <p>NS型段付バックカー材 【品番:ABK8Q0JL】 材質:発泡ポリエチレン 幅:10mm 長さ:385mm</p>
<p>■鋼板止水部材</p>  <p>鋼板止水部材 【品番:KE5100】 材質:塗装高耐食GLめっき鋼板 厚み:0.35mm 長さ:3,030mm</p>	<p>■片面防水テープ</p>  <p>【品番:JF1526】 材質:アクリル 長さ:20m 幅:100mm</p>		

※各部材は、2024年2月時点のものです。最新の情報は、NICHIIHA金属製外壁材・屋根材総合カタログでご確認ください。

NS型	下地	留付方法	張り方向	木胴縁組
	木造軸組下地	釘	縦	横胴縁 @500mm以下

センターサイディング
標準施工法

センターサイディング
基本納まり図

本体・付属部材
詳細図

付属部材加工図

センターサイディング
木造編

センターサイディング
鉄骨造 金属胴縁編

センターサイディング
鉄骨造 直張り編

センター化粧幕板
標準施工法

センタールーフ
標準施工法

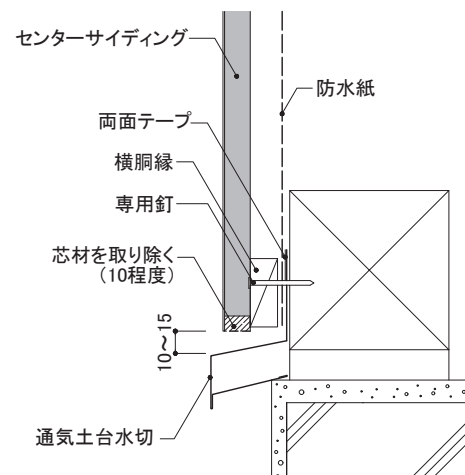
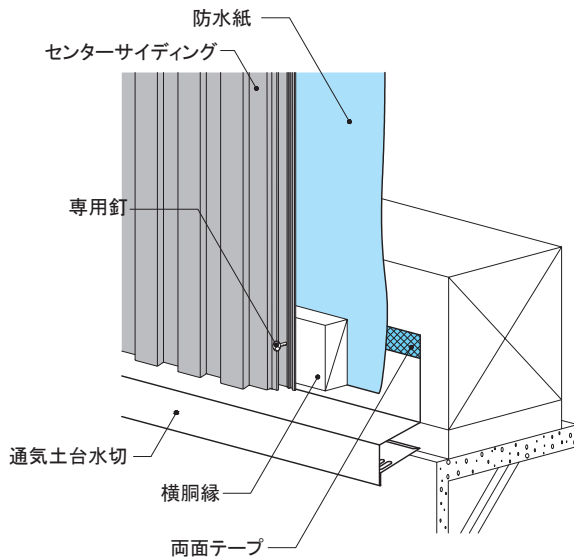
センタールーフ
納まり詳細図

参考資料

3) 土台部

① 通気土台水切

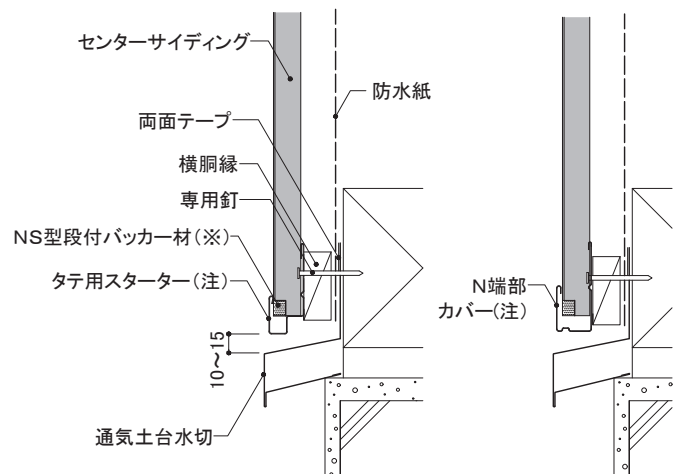
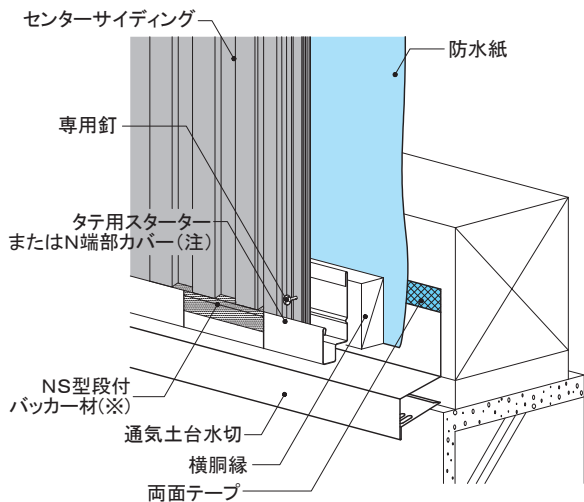
- 通気土台水切は、土台に500mm以下の間隔で専用釘(ステンレスリング釘φ2.3mm×38mm)を用いて水平に留め付けます。
- センターサイディング下端の芯材を、10mm程度取り除きます。
- センターサイディング下端と通気土台水切の間に、10～15mmの隙間を設けます。
- センターサイディングは、専用釘(ステンレスリング釘φ2.5mm×43mm)で実部に留め付けます。



3) 土台部

② 通気土台水切＋タテ用スターター

- 通気土台水切は、土台に500mm以下の間隔で専用釘(ステンレスリング釘φ2.3mm×38mm)を用いて水平に留め付けます。
- タテ用スターターまたはN端部カバーは、胴縁に500mm以下の間隔で専用釘(ステンレスリング釘φ2.3mm×38mm)を用いて水平に留め付けます。
- タテ用スターターまたはN端部カバー下端と通気土台水切の間に、10～15mmの隙間を設けます。
- センターサイディング下端は必要に応じてNS型段付バック材(ABK8Q0JL)を貼り付け、差し込みます。(※)
- センターサイディングは、専用釘(ステンレスリング釘φ2.5mm×43mm)で実部に留め付けます。



(注)降雪量の多い地域では鋼板製の部材を用いず、本体の芯材を取り除くかアルミ端部カバーを使用します。
なお、アルミ端部カバーを使用する場合、NS型段付バック材は不要です。

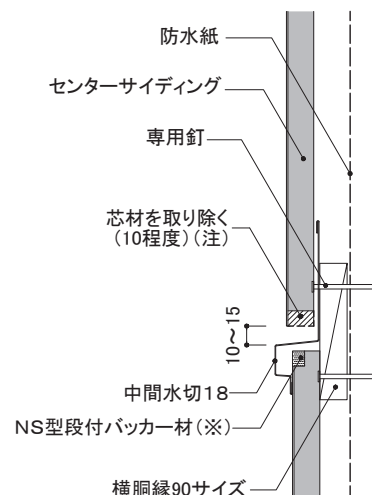
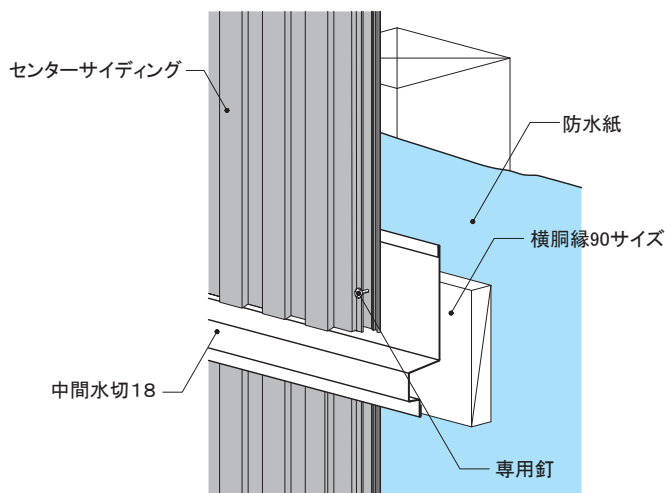
NS型

下地
木造軸組下地留付方法
釘張り方向
縦木胴縁組
横胴縁
@500mm以下

4) 上下接合部

① 中間水切18

- 中間水切18の下側に施工するセンターサイディングの上端に、必要に応じてNS型段付バック材を貼り付けます。(※)
- 中間水切18は、胴縁に500mm以下の間隔で専用釘(ステンスリング釘φ2.3mm×38mm)を用いて水平に留め付けます。
- 中間水切18の上側に施工するセンターサイディング下端の芯材を、10mm程度取り除きます。
- 中間水切18と上側に施工するセンターサイディング下端の間に、10～15mmの隙間を設けます。
- センターサイディングは、専用釘(ステンスリング釘φ2.5mm×43mm)で実部に留め付けます。

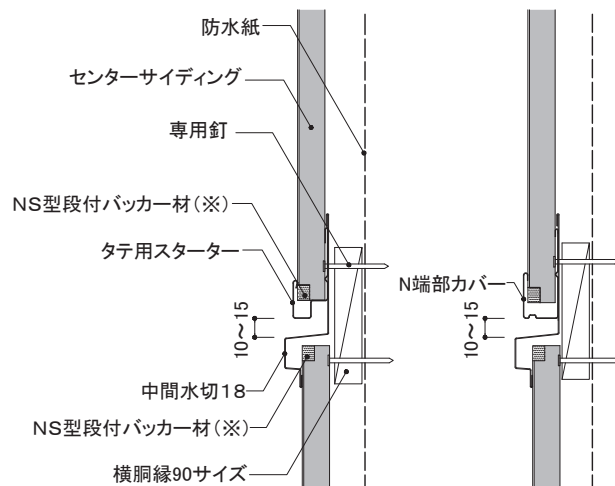
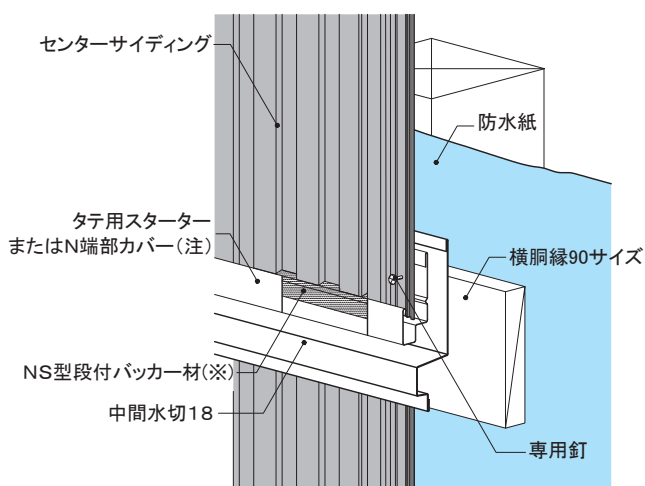


(注) 防耐火認定の中にはタテ用スターターやN端部カバーが必要な認定があります。認定書の別添をご確認ください。

4) 上下接合部

② 中間水切18+タテ用スターター

- 中間水切18の下側に施工するセンターサイディングの上端および上側に施工するセンターサイディングの下端には、必要に応じてNS型段付バック材(ABK8Q0JL)を貼り付けます。(※)
- 中間水切18は、胴縁に500mm以下の間隔で専用釘(ステンスリング釘φ2.3mm×38mm)を用いて水平に留め付けます。
- タテ用スターターまたはN端部カバーは、胴縁に500mm以下の間隔で専用釘(ステンスリング釘φ2.3mm×38mm)を用いて水平に留め付けます。
- タテ用スターターまたはN端部カバー下端と中間水切18の間に、10～15mmの隙間を設けます。
- センターサイディングは、専用釘(ステンスリング釘φ2.5mm×43mm)で実部に留め付けます。



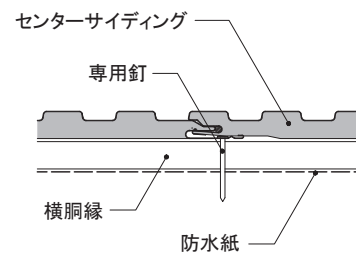
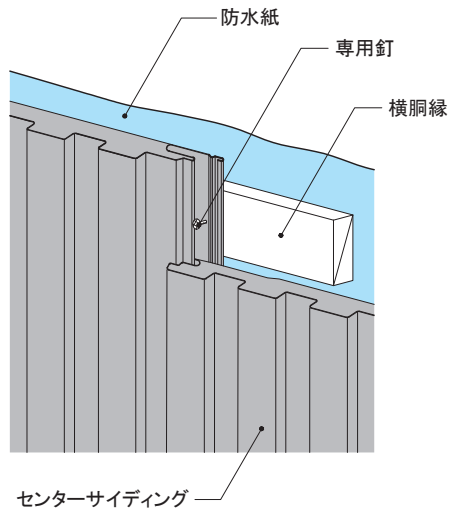
(注) 上下接合部にアルミ端部カバー(積雪地向け)を使用すると防耐火構造認定の対象外となります。

NS型	下地	留付方法	張り方向	木胴縁組
	木造軸組下地	釘	縦	横胴縁 @500mm以下

5) 左右接合部

嵌合

- 実を確実に嵌合させ、専用釘(ステンレスリング釘φ2.5mm×43mm)で実部に留め付けます。
- 本体2枚ごとに働き幅と垂直を確認しながら施工します。



センターサイディング
標準施工法

センターサイディング
基本納まり図

本体・付属部材
詳細図

付属部材加工図

センターサイディング
木造編

センターサイディング
鉄骨造 金属胴縁編

センターサイディング
鉄骨造 直張り編

センター化粧幕板
標準施工法

センタールーフ
標準施工法

センタールーフ
納まり詳細図

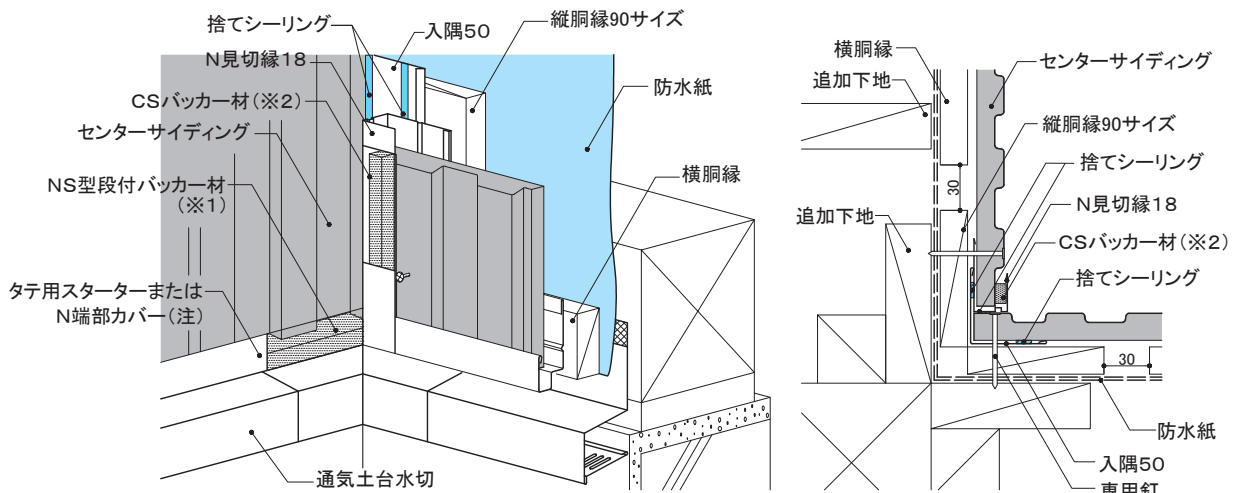
参考資料

NS型	下地	留付方法	張り方向	木胴縁組
	木造軸組下地	釘	縦	横胴縁 @500mm以下

6) 入隅部

① 土台 N見切縁18 + タテ用スターター

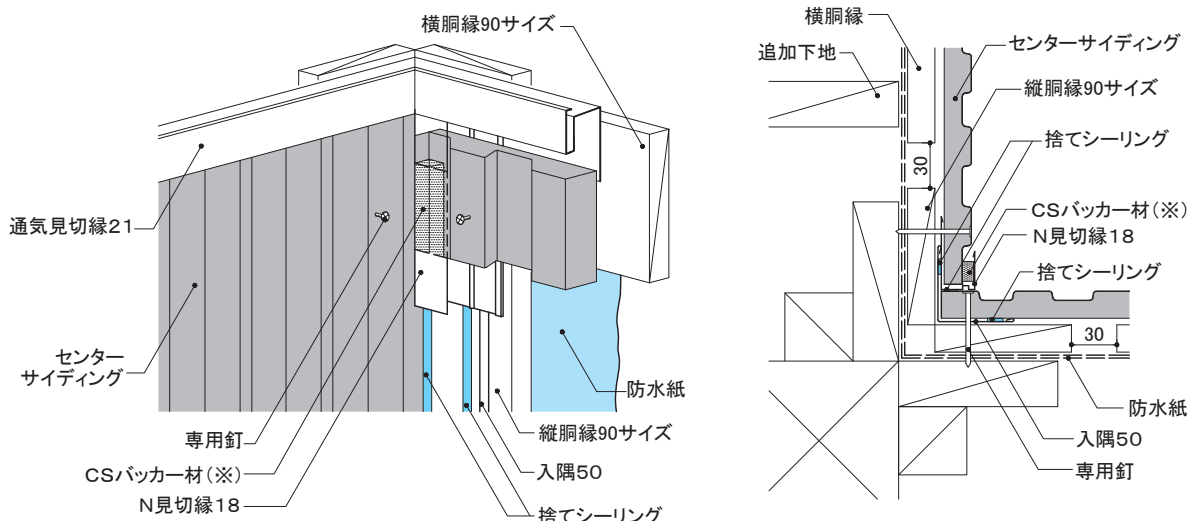
- 入隅部に、胴縁の留付下地として、必ず追加下地を入れます。
 - センターサイディング下端は必要に応じてNS型段付バック材を貼り付け、タテ用スターターに差し込みます。(※1)
 - 入隅50を取り付け、捨てシーリングを図のように両側端部に施工します。
 - 先施工側のサイディングを施工後、図のように捨てシーリングを施工しN見切縁18を取り付けます。
 - センターサイディング端部が柄凹部でN見切縁18に隙間ができる場合は、必要に応じて図のようにCSバック材を貼り付けます。(※2)
 - センターサイディングの実部に留め付けができない場合は、表面から専用釘(ステンレスリング釘φ2.75mm×50mm)で留め付けます。
- (注) 降雪量の多い地域では鋼板製の部材を使用せず、本体の芯材を取り除くかアルミ端部カバーを使用します。なお、アルミ端部カバーを使用する場合、NS型段付バック材は不要です。



6) 入隅部

② 軒天 通気見切縁21

- 入隅50を取り付け、捨てシーリングを両側端部に施工します。
- センターサイディングを軒天側の通気見切縁21に差し込みます。先施工側のサイディングを施工後、図のように捨てシーリングを施工し、N見切縁18を取り付けます。
- センターサイディング端部が柄凹部でN見切縁18に隙間ができる場合は、必要に応じて図のようにCSバック材を貼り付けます。(※)
- センターサイディングの実部に留め付けができない場合は、表面から専用釘(ステンレスリング釘φ2.75mm×50mm)で留め付けます。



NS型	下地	留付方法	張り方向	木胴縁組
	木造軸組下地	釘	縦	横胴縁 @500mm以下

センターサイディング
標準施工法

センターサイディング
基本納まり図

本体・付属部材
詳細図

付属部材加工図

木造編
センターサイディング

センターサイディング
鉄骨造 金属胴縁編

センターサイディング
鉄骨造 直張り編

センター化粧幕板
標準施工法

センタールーフ
標準施工法

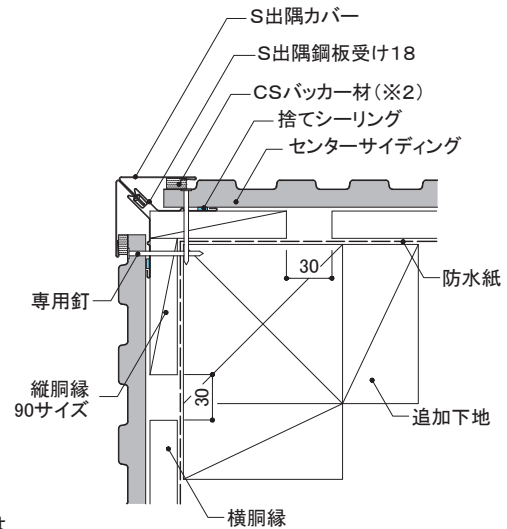
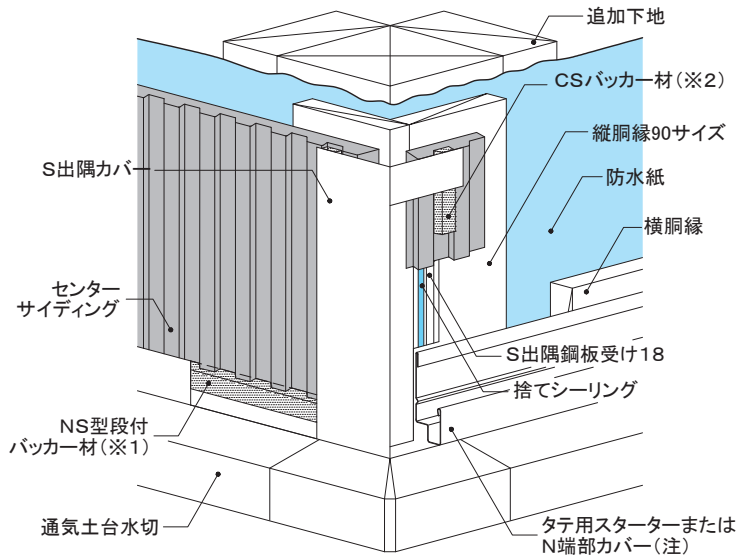
センタールーフ
納まり詳細図

参考資料

7) 出隅部

①土台 S出隅鋼板受け18+S出隅カバー

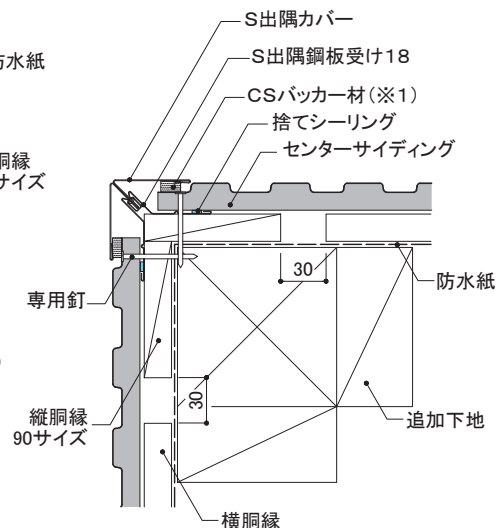
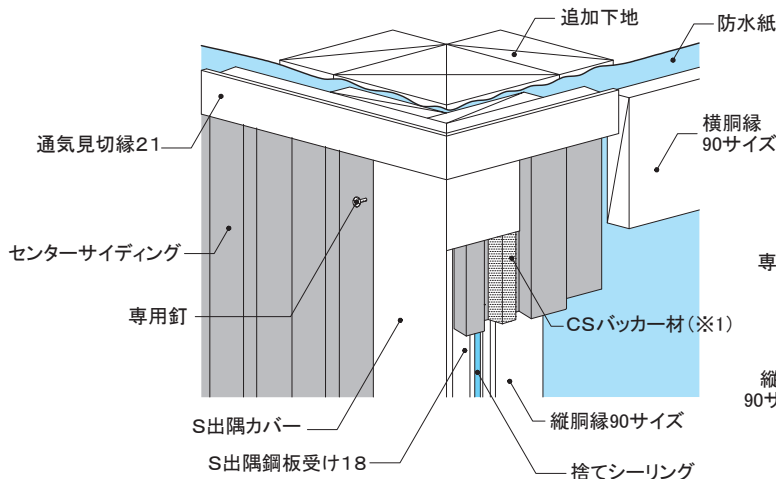
- 各センターサイディング端部に、必要に応じてNS型段付バック材を貼り付けます。(※1)
 - S出隅鋼板受け18を取り付け、捨てシーリングを施工します。
 - センターサイディング端部が柄凹部となりS出隅カバーと隙間ができる場合は、必要に応じて図のようにCSバック材を貼り付けます。(※2)
 - センターサイディングの実部に留め付けができない場合は、表面から専用釘(ステンレスリング釘φ2.75mm×50mm)で留め付けます。
 - S出隅カバーをS出隅鋼板受け18に差し込みます。
- (注)降雪量の多い地域では鋼板製の部材などを使用せず、本体の芯材を取り除くかアルミ端部カバーを使用します。なお、アルミ端部カバーを使用する場合、NS型段付バック材は不要です。



7) 出隅部

②軒天 通気見切縁21

- S出隅鋼板受け18を取り付け、捨てシーリングを図のように両側端部に施工します。
- センターサイディング端部が柄凹部でS出隅カバーに隙間ができる場合は、必要に応じて図のようにCSバック材を貼り付けます。(※1)
- センターサイディングを通気見切縁21に差し込みます。
- センターサイディングの実部に留め付けができない場合は、表面から専用釘(ステンレスリング釘φ2.75mm×50mm)で留め付けます。
- S出隅カバーをS出隅鋼板受け18に差し込みます。

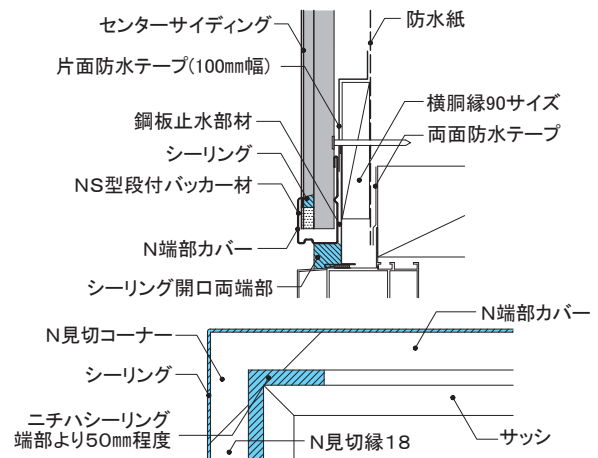
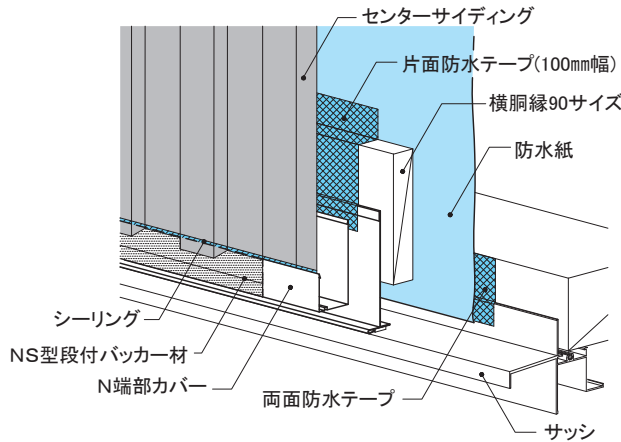


NS型	下地	留付方法	張り方向	木胴縁組
	木造軸組下地	釘	縦	横胴縁 @500mm以下

8) 開口部

①上側 N端部カバー

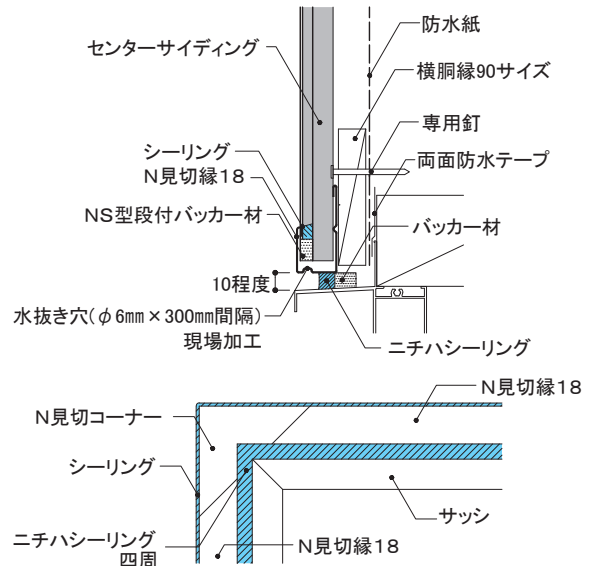
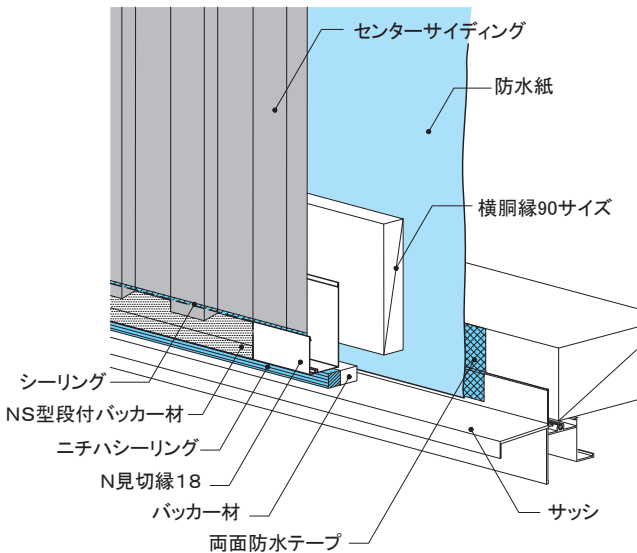
- 開口部まわりには両面防水テープを必ず使用し、防水紙を施工します。
- 開口部上側は水抜き穴のあるN端部カバーを使用します。見切縁を使用する場合は、水抜き穴(φ10mm×300mm間隔)を現場加工します。
- 鋼板止水部材を横胴縁に取り付け、片面防水テープ(100mm幅)を図のように貼り付けます。
- N端部カバーとサッシとの取り付け部に、10mm程度の隙間を設けて施工します。
- センターサイディング下端にNS型段付バック材を貼り付け、N端部カバーに差し込みます。
- センターサイディングは、専用釘(ステンレスリング釘φ2.5mm×43mm)で実部に留め付けます。
- サッシ端部から50mm程度、マスキングテープで養生後ニチハシーリングを充填します。
- センターサイディングとN端部カバーの取り付け部にシーリングを施工します。



8) 開口部

②上側 N見切縁18

- 開口部周囲をシーリングで施工する場合の納まりです。
- 開口部まわりには両面防水テープを必ず使用し、防水紙を施工します。
- N見切縁18(部材先端の方にφ6mm×300mm間隔で現場加工)をサッシとの取り付け部に10mm程度の隙間を設けて取り付けます。
- センターサイディング下端に、NS型段付バック材を貼り付け、N見切縁18に差し込みます。
- バック材を取り付け、マスキングテープで養生後ニチハシーリングを充填します。
- センターサイディングとN見切縁18の取り付け部にシーリングを施工します。

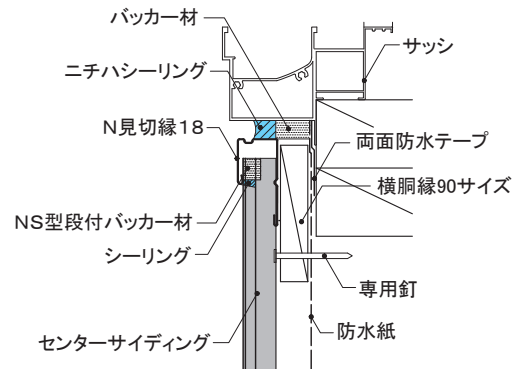
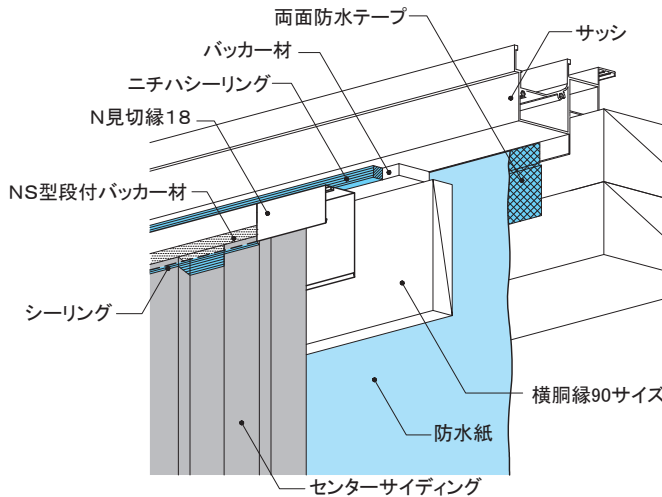


NS型	下地	留付方法	張り方向	木胴縁組
	木造軸組下地	釘	縦	横胴縁 @500mm以下

8) 開口部

③ 下側 N見切縁18

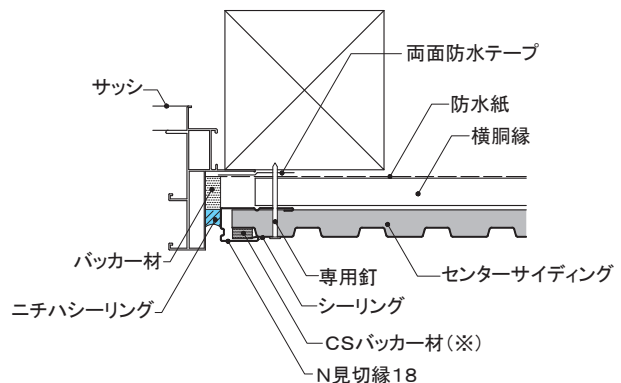
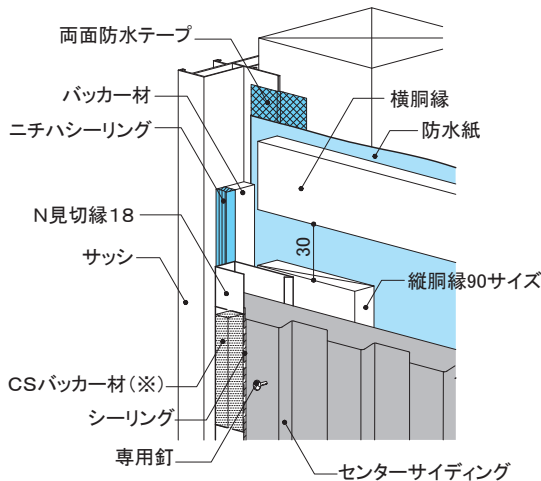
- 開口部まわりには両面防水テープを必ず使用し、防水紙を施工します。
- N見切縁18をサッシとの取り合い部に10mm程度の隙間を設けて取り付けます。
- センターサイディング上端に、NS型段付バック材を貼り付け、N見切縁18に差し込みます。
- センターサイディングは、専用釘(ステンスリング釘φ2.5mm×43mm)で実部に留め付けます。
- バッカー材を取り付け、マスキングテープで養生後ニチハシーリングを充填します。
- センターサイディングとN見切縁18の取り合い部にシーリングを施工します。



8) 開口部

④ 左右側 N見切縁18

- 開口部まわりには両面防水テープを必ず使用し、防水紙を施工します。
- サッシと横胴縁の取り合い部および縦胴縁と横胴縁には、30mm程度の隙間を設けます。
- N見切縁18をサッシとの取り合い部に10mm程度の隙間を設けて取り付けます。
- センターサイディング端部が柄凹部でN見切縁18に隙間ができる場合は、必要に応じて図のようにCSバック材を貼り付けます。(※)
- センターサイディングの実部に留め付けができない場合は、表面から専用釘(ステンスリング釘φ2.75mm×50mm)で留め付けます。
- バッカー材を取り付け、マスキングテープで養生後ニチハシーリングを充填します。
- センターサイディングとN見切縁18の取り合い部にシーリングを施工します。



センターサイディング
標準施工法

センターサイディング
基本納まり図

本体・付属部材
詳細図

付属部材加工図

センターサイディング
木造編

センターサイディング
鉄骨造 金属胴縁編

センターサイディング
鉄骨造 直張り編

センター化粧幕板
標準施工法

センタールーフ
標準施工法

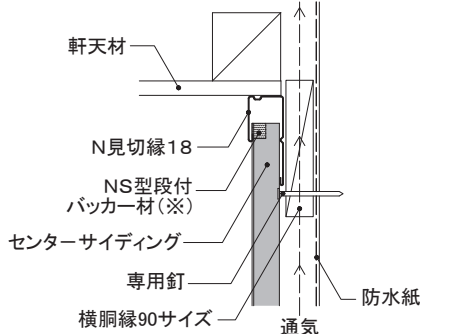
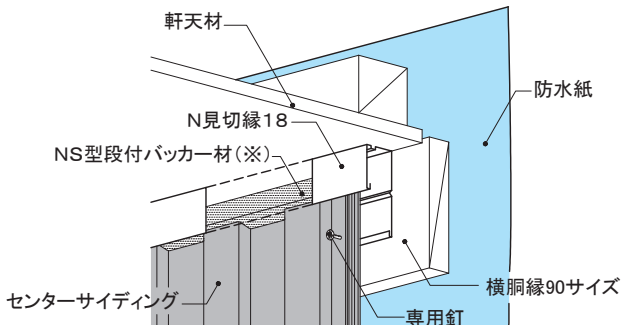
センタールーフ
納まり詳細図

参考資料

NS型	下地	留付方法	張り方向	木胴縁組
	木造軸組下地	釘	縦	横胴縁 @500mm以下

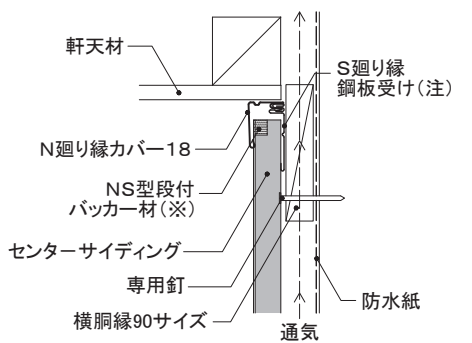
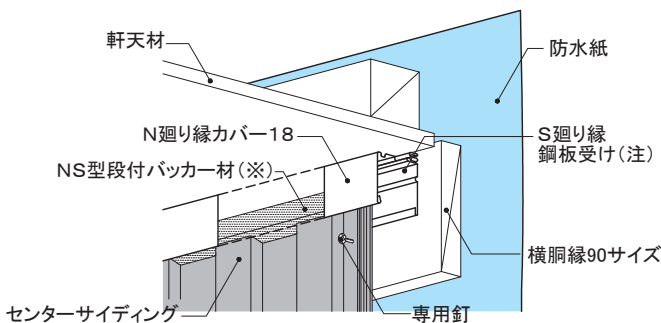
9) 軒天部	①N見切縁18
--------	---------

- 小屋裏に通気できるよう、横胴縁と軒天材などを施工します。
- センターサイディングを施工前に、N見切縁18を図位置に取り付けます。
- センターサイディング上端に、必要に応じてNS型段付バック材(ABK8Q0JL)を貼り付けます(※)
- センターサイディングは、専用釘(ステンスリング釘φ2.5mm×43mm)で実部に留め付けます。



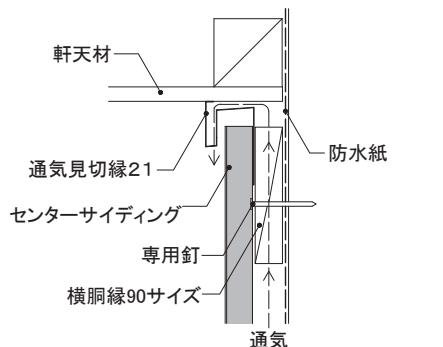
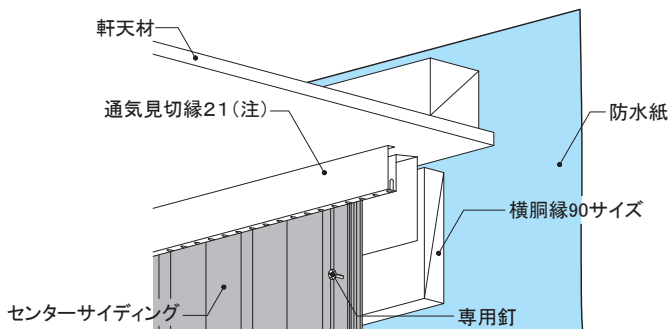
9) 軒天部	②S廻り縁鋼板受け+N廻り縁カバー18
--------	---------------------

- 小屋裏に通気できるよう、横胴縁と軒天材などを施工します。
 - S廻り縁鋼板受けを、図の位置に専用釘(ステンスリング釘φ2.3mm×38mm)で取り付けます。
 - センターサイディング上端に、必要に応じてNS型段付バック材(ABK8Q0JL)を貼り付けます。(※)
 - センターサイディングは、専用釘(ステンスリング釘φ2.5mm×43mm)で実部に留め付けます。
 - N廻り縁カバー18をS廻り縁鋼板受けに差し込みます。
- (注) S廻り縁鋼板受けを取り付ける際は、N廻り縁カバー18が嵌められるように軒天材との間に5mm程度の隙間を設け、位置を調整してから取り付けてください。



9) 軒天部	③通気見切縁21
--------	----------

- 通気の妨げにならないように、軒天材と横胴縁は隙間をあけて施工します。
- センターサイディング施工前に、通気見切縁21を図の位置に取り付けます。
- センターサイディングは、専用釘(ステンスリング釘φ2.5mm×43mm)で実部に留め付けます。



(注) 通気見切縁21を使用する際は、NS型段付バック材は使用できません。

NS型	下地	留付方法	張り方向	木胴縁組
	木造軸組下地	釘	縦	横胴縁 @500mm以下

センターサイディング
標準施工法

センターサイディング
基本納まり図

本体・付属部材
詳細図

付属部材加工図

センターサイディング
木造編

センターサイディング
鉄骨造 金属胴縁編

センターサイディング
鉄骨造 直張り編

センター化粧幕板
標準施工法

センタールーフ
標準施工法

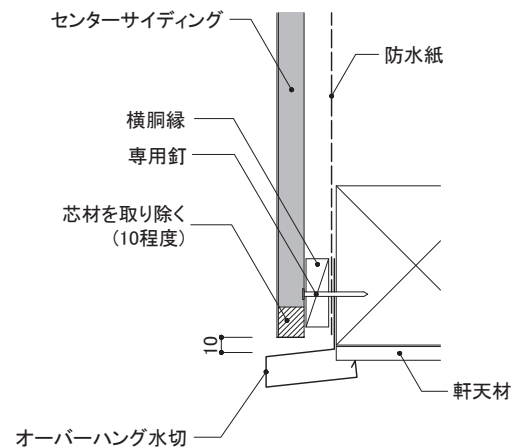
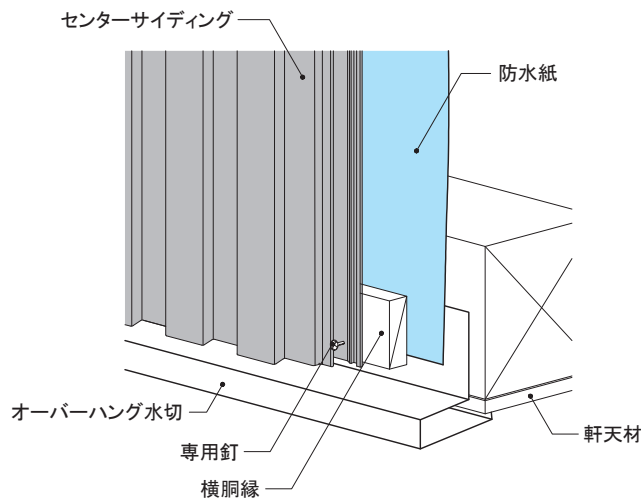
センタールーフ
納まり詳細図

参考資料

10) オーバーハング部

① オーバーハング水切

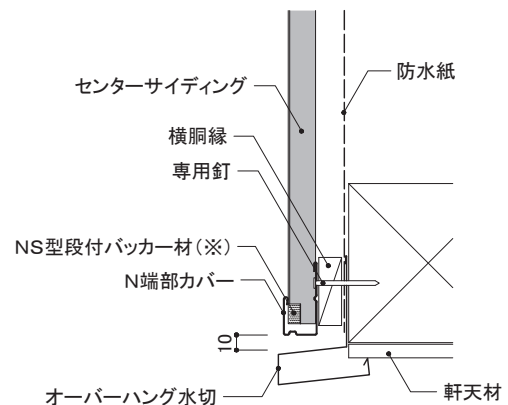
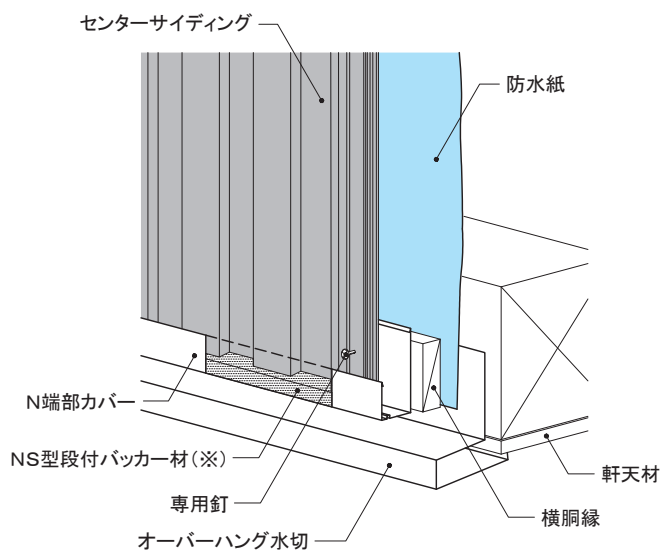
- 防水紙はオーバーハング水切の上にかぶせて施工します。
- センターサイディング下端の芯材は、10mm程度取り除きます。
- センターサイディング下端とオーバーハング水切の間に、10mmの隙間を設けます。
- センターサイディングは、専用釘(ステンレスリング釘φ2.5mm×43mm)で実部に留め付けます。



10) オーバーハング部

② オーバーハング水切+N端部カバー

- 防水紙はオーバーハング水切の上にかぶせて施工します。
- N端部カバーは、胴縁に500mm以下の間隔で、専用釘(ステンレスリング釘φ2.3mm×38mm)を用いて水平に留め付けます。
- N端部カバー下端とオーバーハング水切の間に、10mmの隙間を設けます。
- センターサイディング下端に、必要に応じてNS型段付バック材を貼り付け、N端部カバーに差し込みます。(※)
- センターサイディングは、専用釘(ステンレスリング釘φ2.5mm×43mm)で実部に留め付けます。



NS型	下地	留付方法	張り方向	木胴縁組
	木造軸組下地	釘	縦	横胴縁 @500mm以下

11) 下屋根部	①棟側
<ul style="list-style-type: none"> ●防水紙を雨押えの上にかぶせて施工します。 ●センターサイディング下端の芯材を10mm程度取り除きます。 ●センターサイディング下端と雨押えの間に、10～15mmの隙間を設けます。 ●センターサイディングは、専用釘(ステンレスリング釘φ2.5mm×43mm)で実部に留め付けます。 	

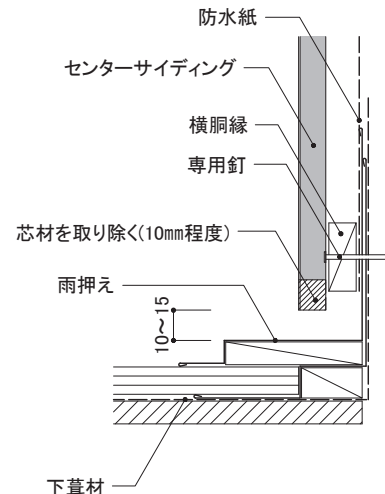
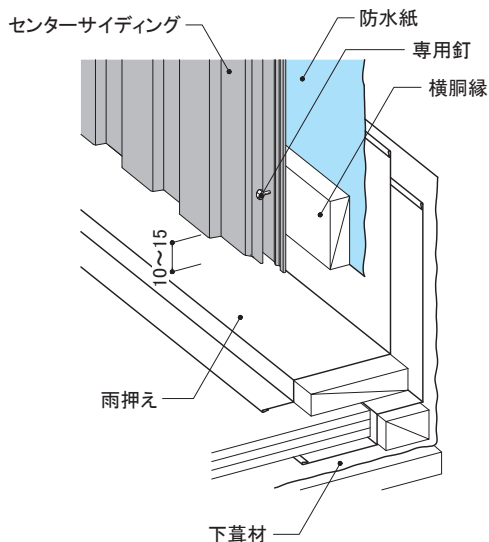
11) 下屋根部	②棟側 N端部カバー
<ul style="list-style-type: none"> ●防水紙を雨押えの上にかぶせて施工します。 ●N端部カバー下端と雨押えの間に、10～15mmの隙間を設けます。 ●センターサイディング下端に、必要に応じてNS型段付バッカー材(ABK8Q0JK)を貼り付け、N端部カバーに差し込みます。(※) ●センターサイディングは、専用釘(ステンレスリング釘φ2.5mm×43mm)で実部に留め付けます。 	

NS型	下地	留付方法	張り方向	木胴縁組
	木造軸組下地	釘	縦	横胴縁 @500mm以下

11) 下屋根部

③流れ側

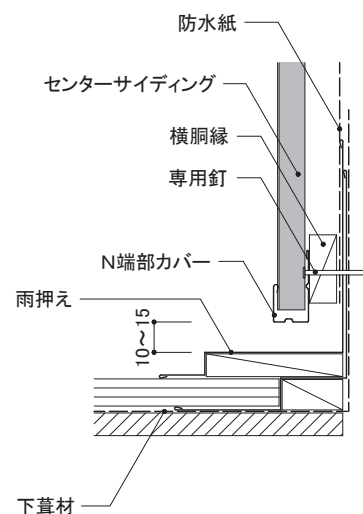
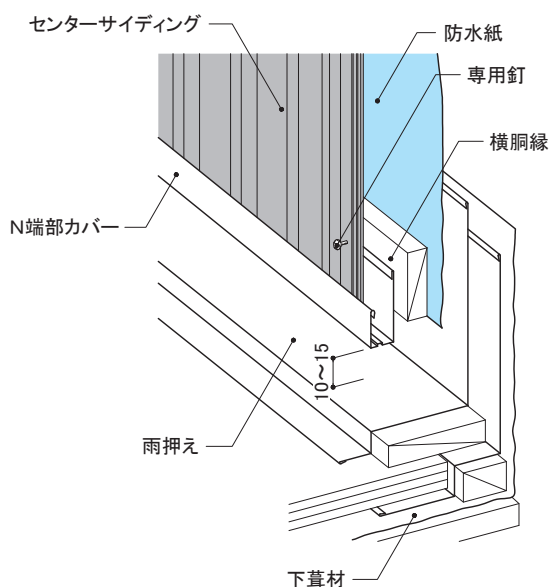
- 防水紙を雨押えの上にかぶせて施工します。
- センターサイディング下端の芯材を10mm程度取り除きます。
- センターサイディング下端と雨押えの間に、10～15mmの隙間を設けます。
- センターサイディングは、専用釘(ステンスリング釘φ2.5mm×43mm)で実部に留め付けます。



11) 下屋根部

④流れ側 N端部カバー

- 防水紙を雨押えの上にかぶせて施工します。
- N端部カバー下端と雨押えの間に、10～15mmの隙間を設けます。
- センターサイディングは、専用釘(ステンスリング釘φ2.5mm×43mm)で実部に留め付けます。なお、流れ側にはNS型段付バッカー材は不要です。



センターサイディング
標準施工法

センターサイディング
基本納まり図

本体・付属部材
詳細図

付属部材加工図

センターサイディング
木造編

センターサイディング
鉄骨造 金属胴縁編

センターサイディング
鉄骨造 直張り編

センター化粧幕板
標準施工法

センタールーフ
標準施工法

センタールーフ
納まり詳細図

参考資料

5-3 納まり図

木造軸組下地

その他の型

横張り

1)M型
2)FN型・ST型
3)iシリーズ・F型・FB型
4)D型



注意

防耐火構造の大臣認定が必要な場合は、胴縁間隔や躯体サイズなど大臣認定の別添に従い施工してください。

シン・スマートフラットはM型と同じ本体形状です。

M型	下地	留付方法	張り方向	木胴縁組(注)
	木造軸組下地	釘	横	縦胴縁 @500mm以下

センターサイディング
標準施工法

センターサイディング
基本納まり図

本体・付属部材
詳細図

付属部材加工図

センターサイディング
木造編

センターサイディング
鉄骨造 金属胴縁編

センターサイディング
鉄骨造 直張り編

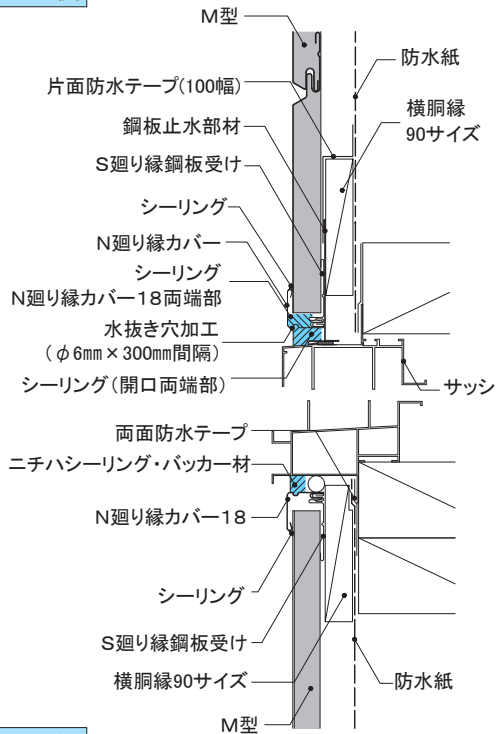
センター化粧石膏
標準施工法

センタールーフ
標準施工法

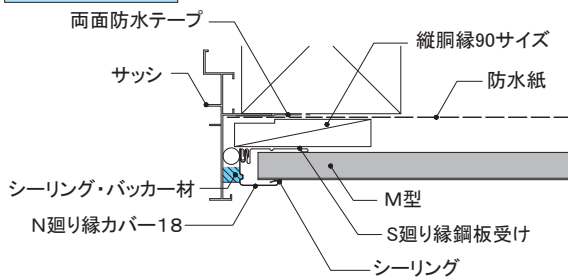
センタールーフ
納まり詳細図

参考資料

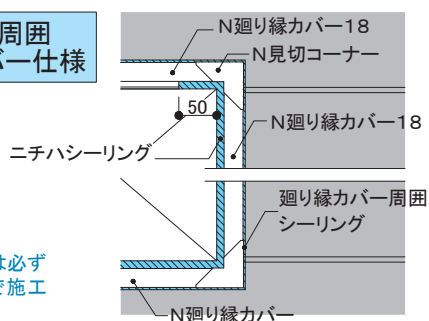
開口部上下側



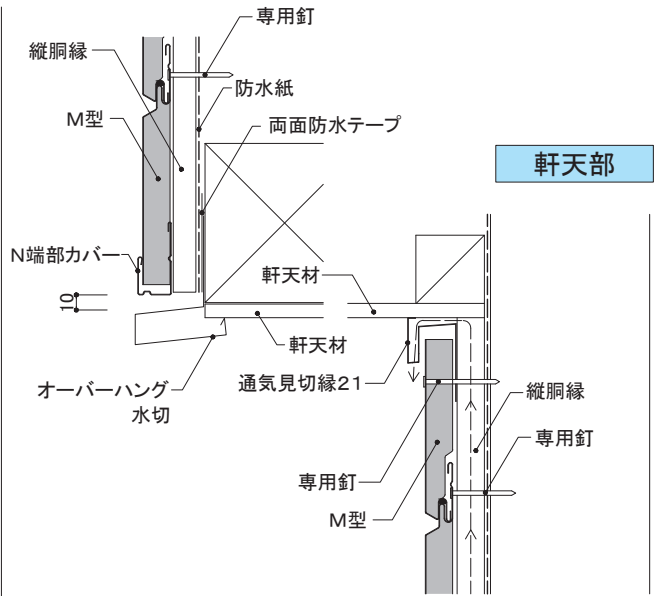
開口部左右側



開口部周囲
廻り縁カバー仕様

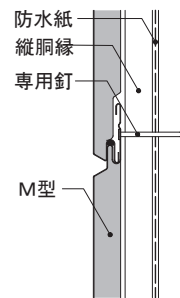


M型の開口部は必ず
廻り縁カバーで施工
します。

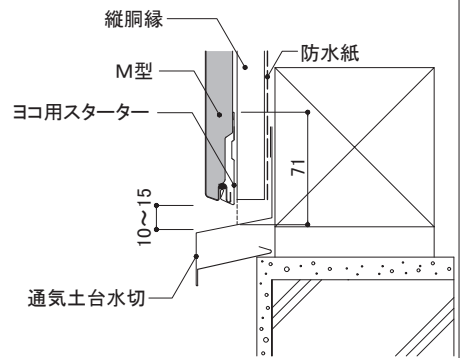


軒天部

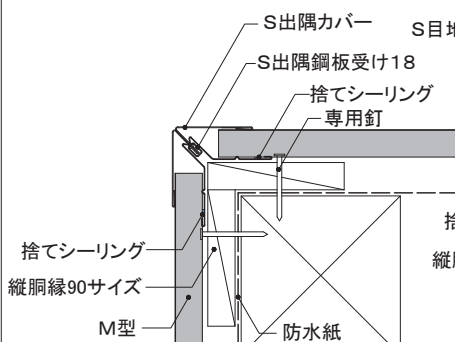
上下接合部



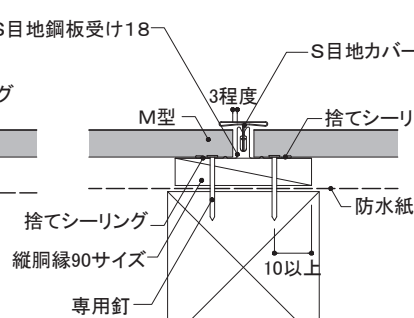
土台部



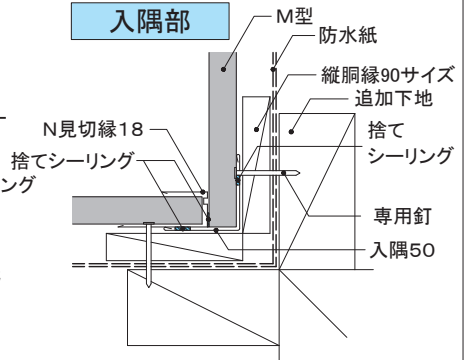
出隅部



左右接合部



入隅部



(注)M型で45分準耐火構造が必要な場合、認定上、胴縁間隔は455mm以下となります。

センターサイディング
標準施工法

センターサイディング
基本納まり図

本体・付属部材
詳細図

付属部材加工図

センターサイディング
木造編

センターサイディング
鉄骨造金属脚縁編

センターサイディング
鉄骨造直張り編

センター化粧幕板
標準施工法

センタールーフ
標準施工法

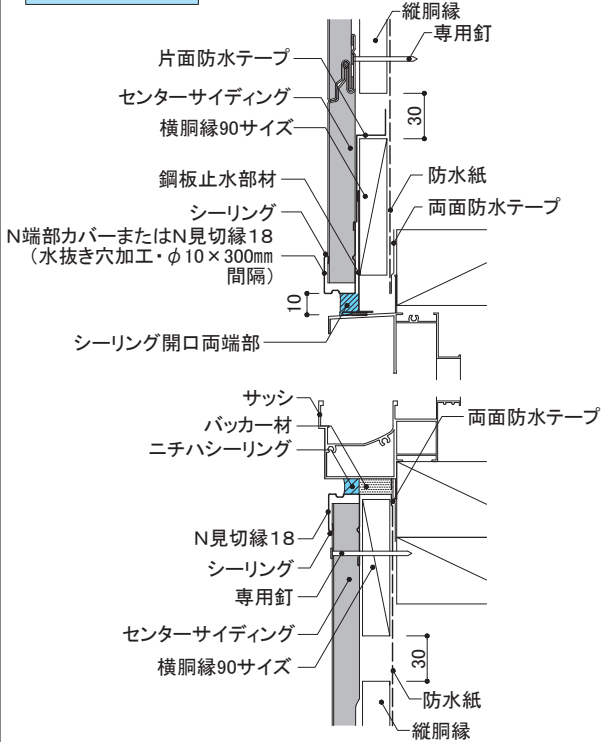
センタールーフ
納まり詳細図

参考資料

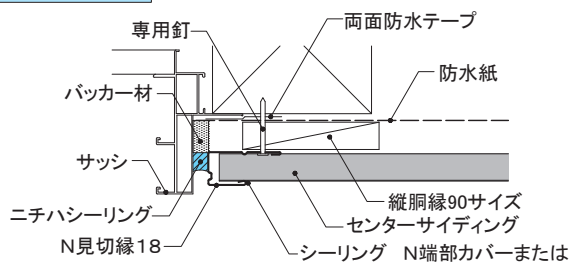
FN型・ST型

下地	留付方法	張り方向	木胴縁組(注)
木造軸組下地	釘	横	縦胴縁 @500mm以下

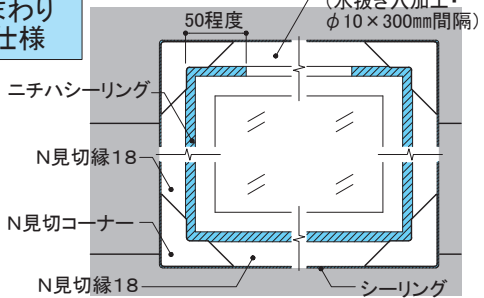
開口部上下側



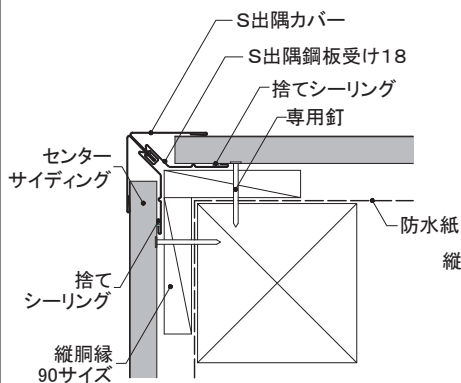
開口部左右側



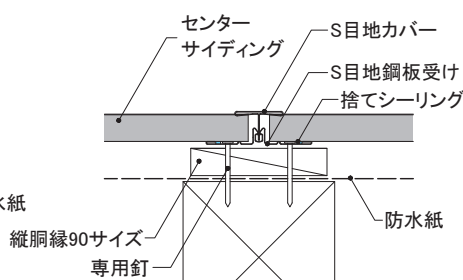
開口まわり 一般仕様



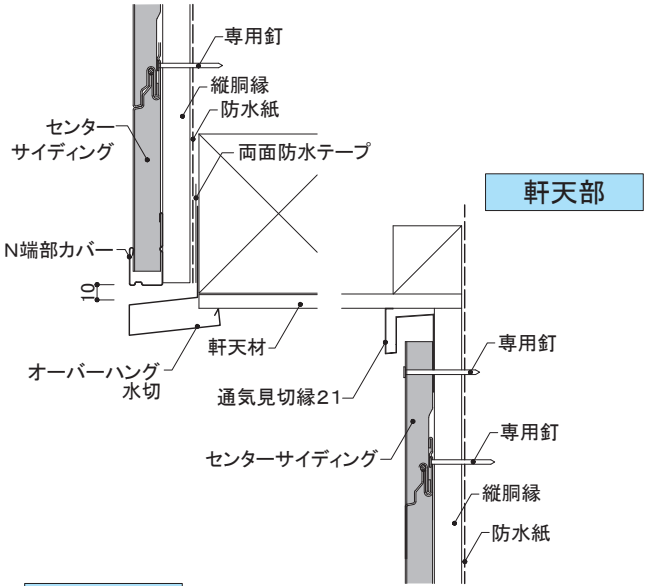
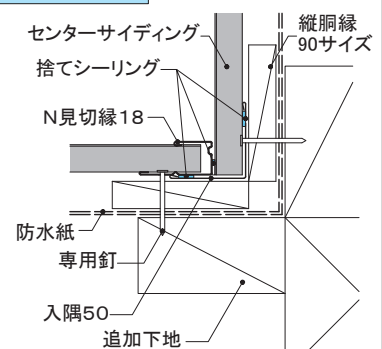
出隅部



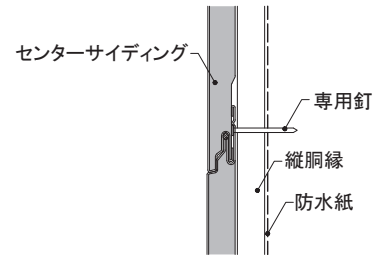
左右接合部



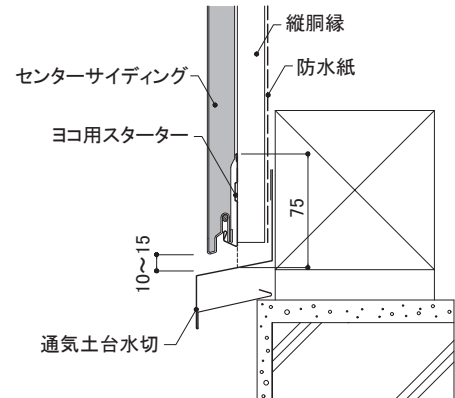
入隅部



上下接合部



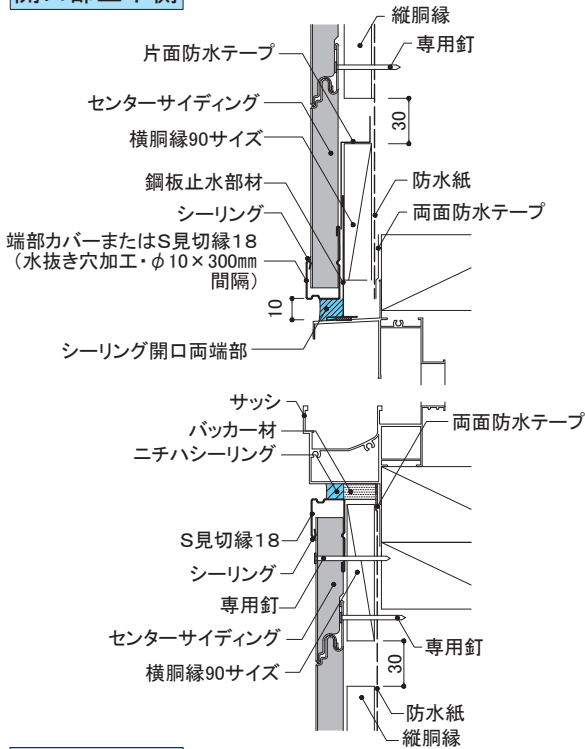
土台部



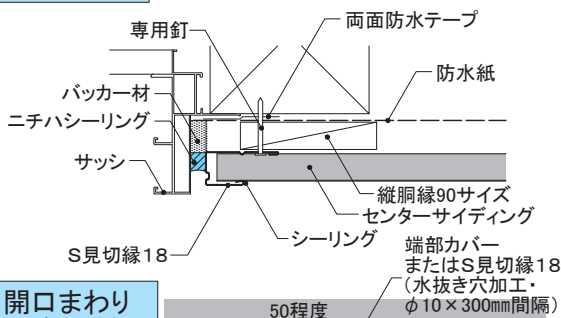
シリーズ・F型・FB型

下地	留付方法	張り方向	木胴縁組
木造軸組下地	釘	横	縦胴縁 @500mm以下

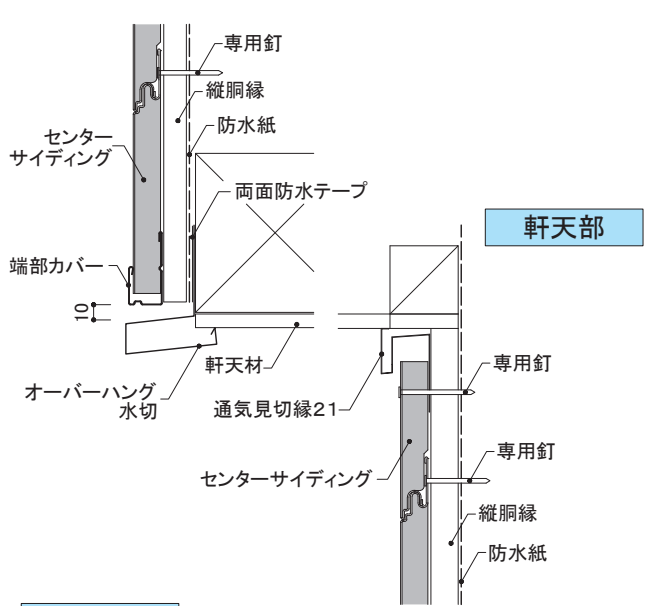
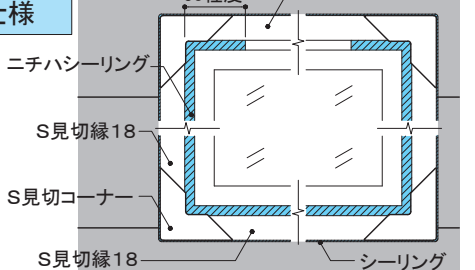
開口部上下側



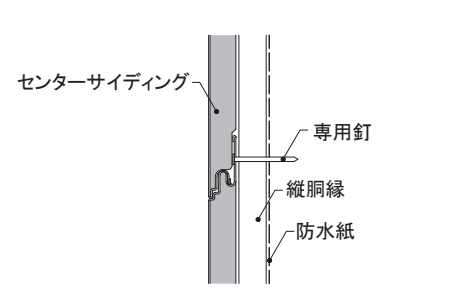
開口部左右側



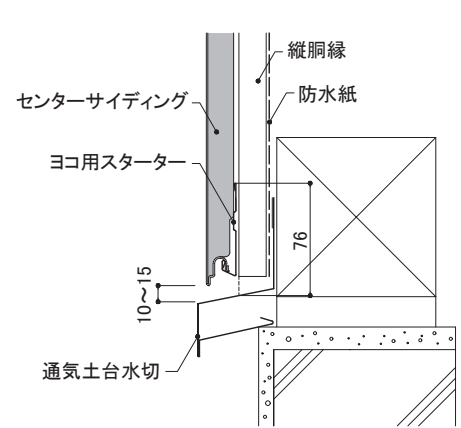
開口まわり一般仕様



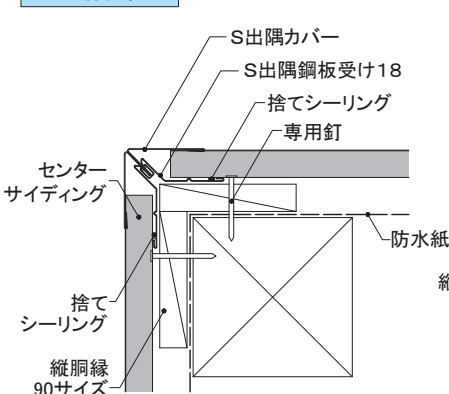
上下接合部



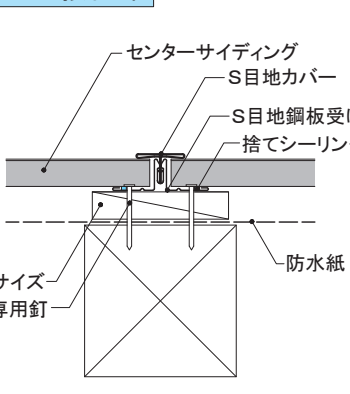
土台部



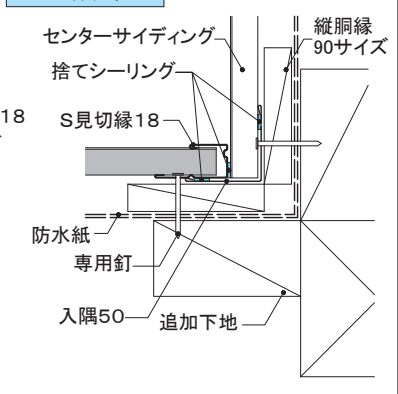
出隅部



左右接合部



入隅部



- センターサイディング
標準施工法
- センターサイディング
基本納まり図
- 本体・付属部材
詳細図
- 付属部材加工図
- センターサイディング
木造編
- センターサイディング
鉄骨造 金属胴縁編
- センターサイディング
鉄骨造 直張り編
- センター化粧幕板
標準施工法
- センタールーフ
標準施工法
- センタールーフ
納まり詳細図
- 参考資料

センターサイディング
標準施工法

センターサイディング
基本納まり図

本体・付属部材
詳細図

付属部材加工図

センターサイディング
木造編

センターサイディング
鉄骨造金属胴縁編

センターサイディング
鉄骨造直張り編

センター化粧幕板
標準施工法

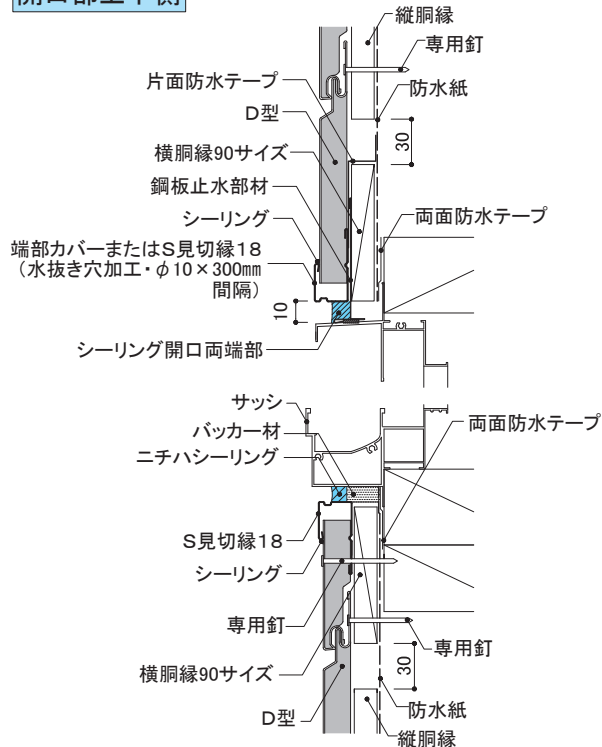
センタールーフ
標準施工法

センタールーフ
納まり詳細図

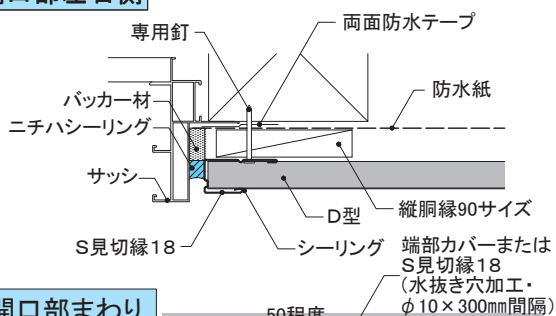
参考資料

D型	下地	留付方法	張り方向	木胴縁組
	木造軸組下地	釘	横	縦胴縁 @500mm以下

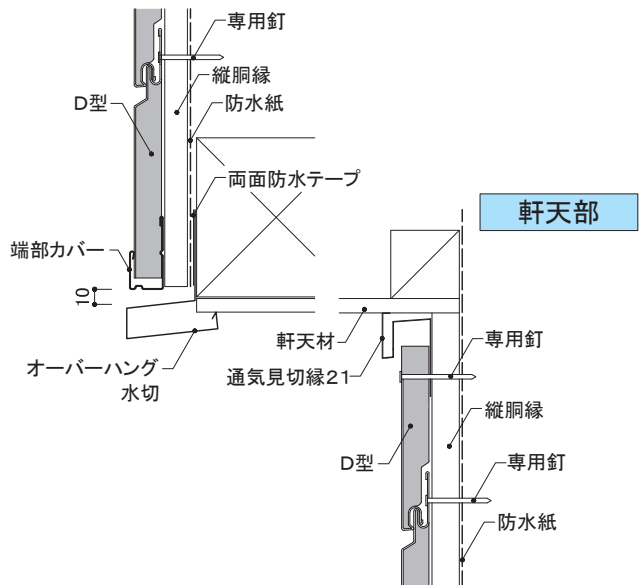
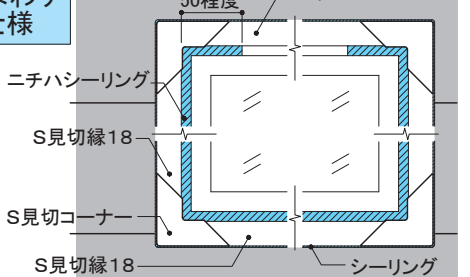
開口部上下側



開口部左右側

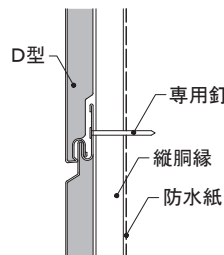


開口部まわり一般仕様

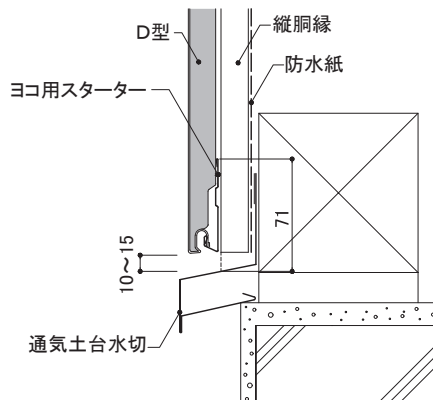


軒天部

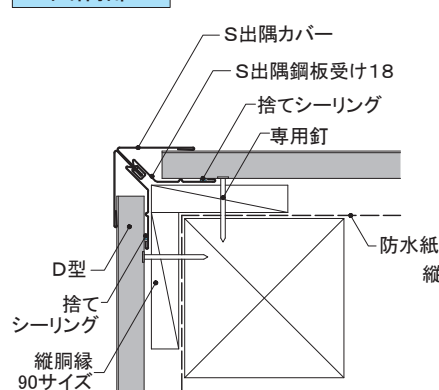
上下接合部



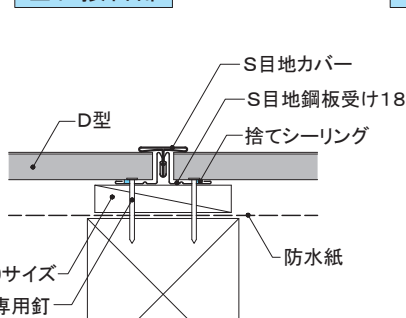
土台部



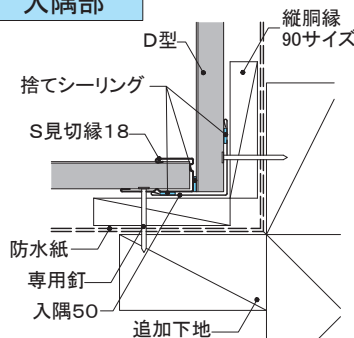
出隅部



左右接合部



入隅部



5-4 納まり図

木造軸組下地

その他の型

縦張り

1)M型
2)FN型・ST型
3)iシリーズ・F型・FB型
4)A型

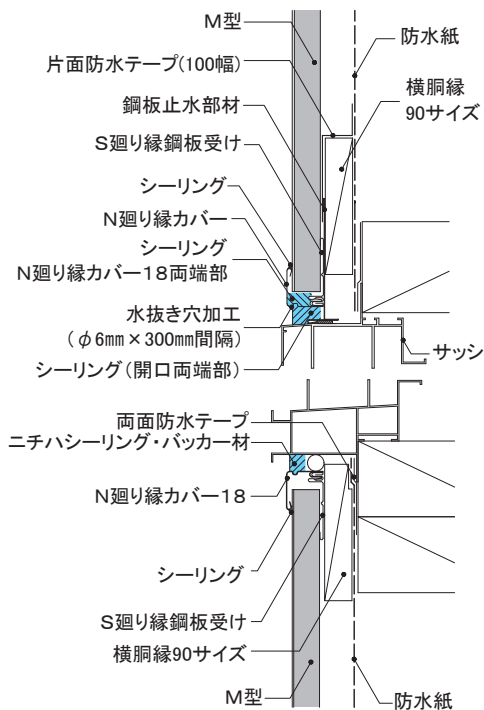


防耐火構造の大臣認定が必要な場合は、胴縁間隔や躯体サイズなど大臣認定の別添に従い施工してください。

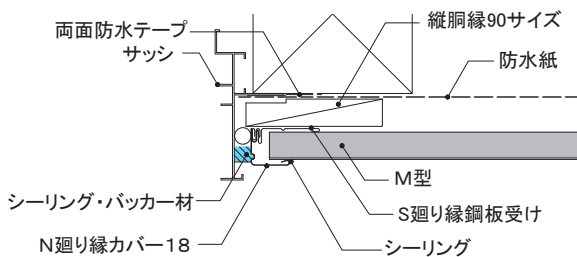
スマートフラットPUはM型の納まりをご参照ください。

M型	下地	留付方法	張り方向	木胴縁組
	木造軸組下地	釘	縦	横胴縁 @500mm以下

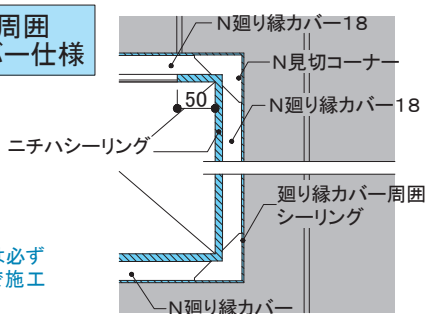
開口部上下側



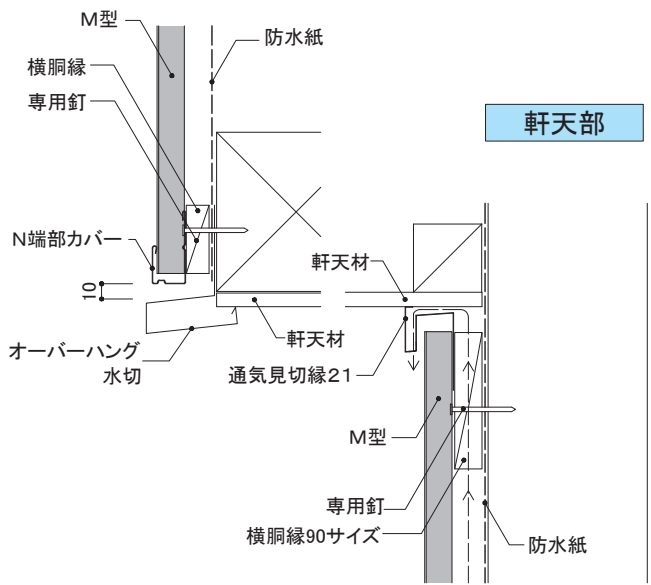
開口部左右側



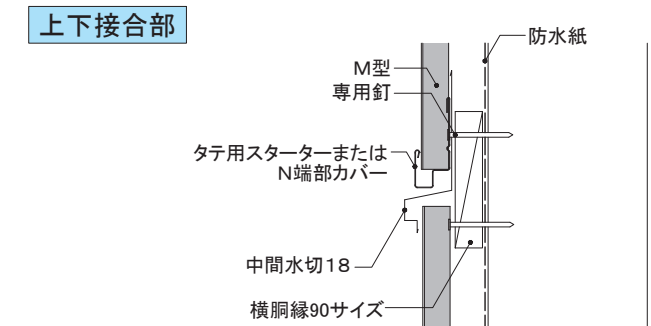
開口部周囲
廻り縁カバー仕様



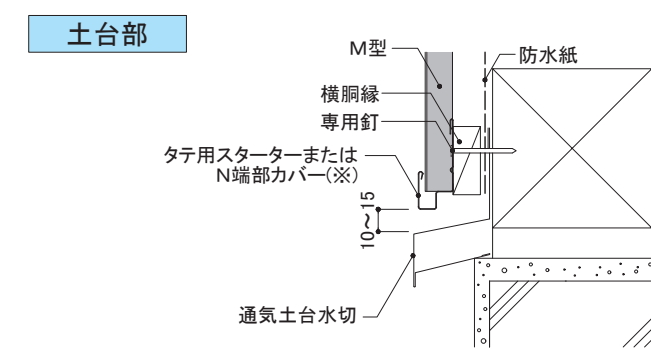
M型の開口部は必ず廻り縁カバーで施工します。



軒天部



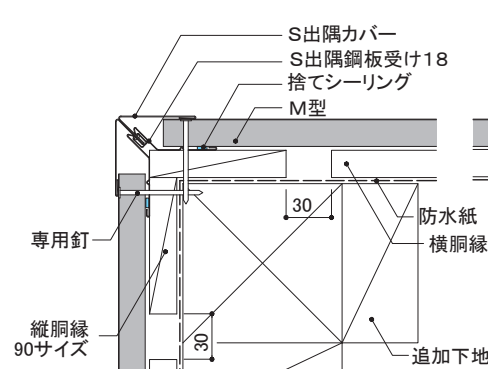
上下接合部



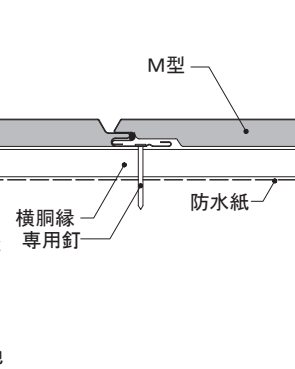
土台部

※タテ用スターターまたはN端部カバーの代わりに芯材を10mm程度取り除いても施工できます。また降水量の多い地域の土台部は鋼板製の部材を使用せず、芯材を取り除いてください。

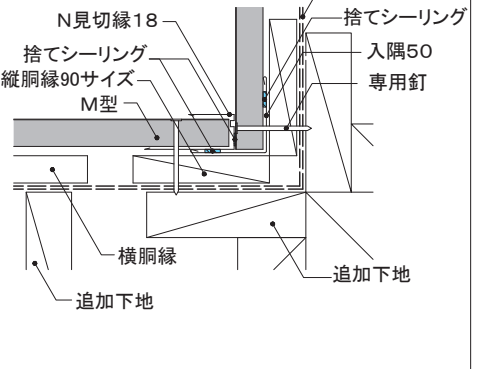
出隅部



左右接合部



入隅部



(注) 上下接合部にアルミ端部カバー(積雪地向け)を使用すると防耐火構造認定の対象外となります。

FN型・ST型	下地	留付方法	張り方向	木胴縁組(注)
	木造軸組下地	釘	縦	横胴縁 @500mm以下

センターサイディング
標準施工法

センターサイディング
基本納まり図

本体・付属部材
詳細図

付属部材加工図

センターサイディング
木造編

センターサイディング
鉄骨造 金属胴縁編

センターサイディング
鉄骨造 直張り編

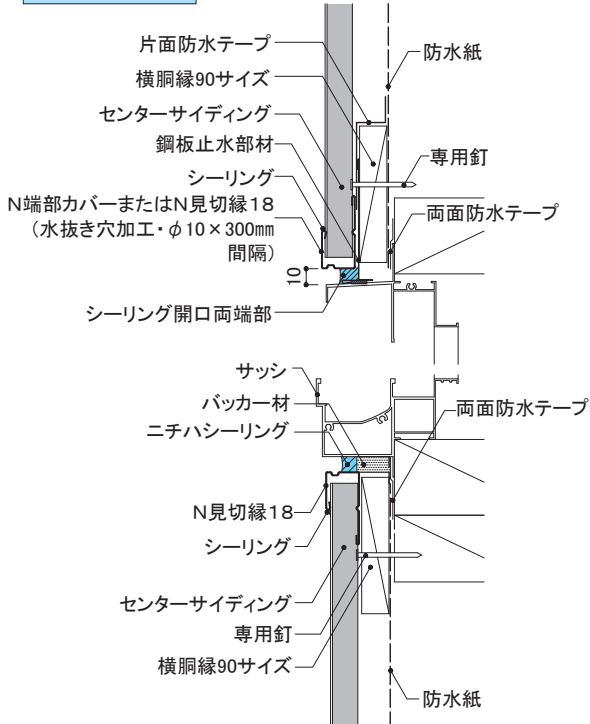
センター化粧幕板
標準施工法

センタールーフ
標準施工法

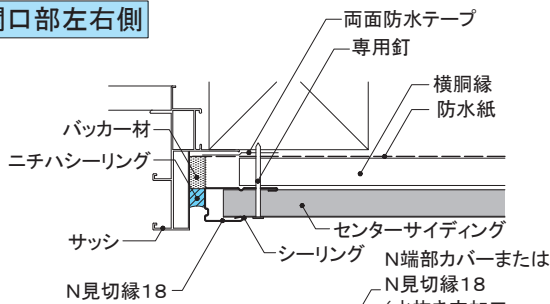
センタールーフ
納まり詳細図

参考資料

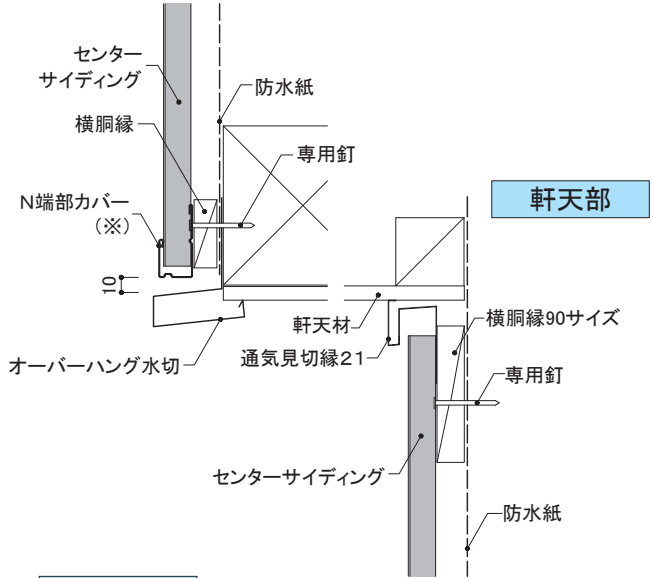
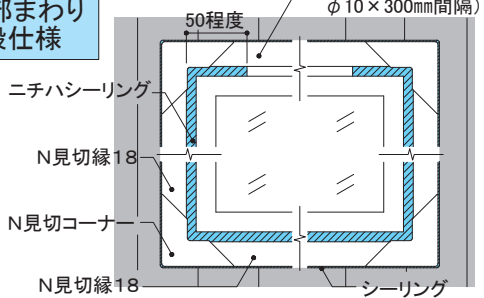
開口部上下側



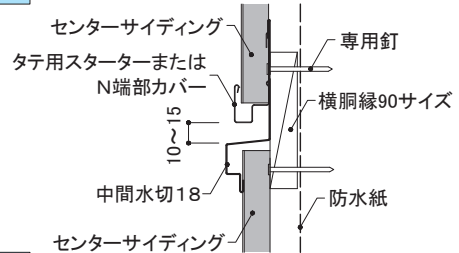
開口部左右側



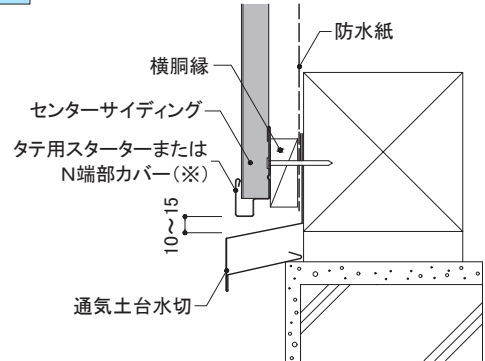
開口部まわり一般仕様



上下接合部

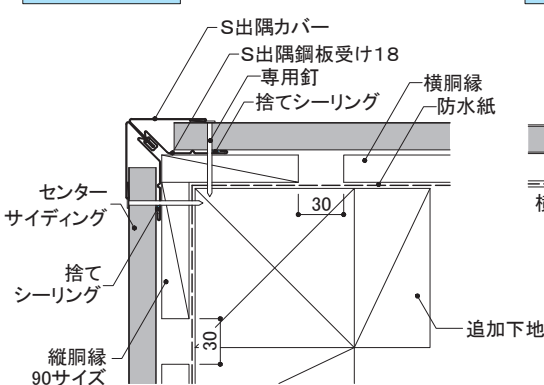


土台部

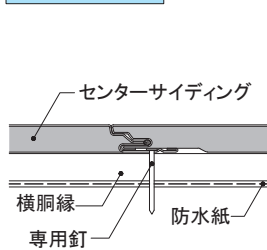


※N端部カバーの代わりに芯材を10mm程度取り除いても施工できます。また、降雪量の多い地域の土台部は鋼板製の部材を用いず、芯材を取り除くかアルミ端部カバーを使用してください。

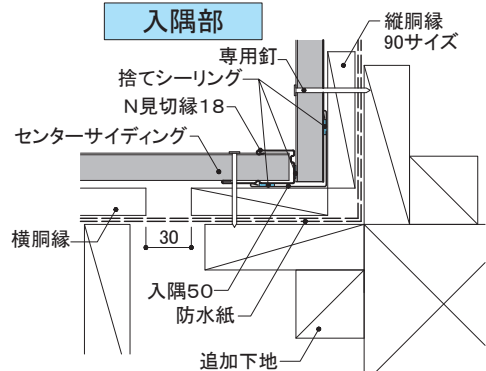
出隅部



左右接合部



入隅部



(注) FN型で45分準耐火構造が必要な場合、認定上、胴縁間隔は455mm以下となります。
(注) 上下接合部にアルミ端部カバー(積雪地向け)を使用すると防耐火構造認定の対象外となります。

センターサイディング
標準施工法

センターサイディング
基本納まり図

本体・付属部材
詳細図

付属部材加工図

木造編
センターサイディング

センターサイディング
鉄骨造金属脚縁編

センターサイディング
鉄骨造直張り編

センター化粧幕板
標準施工法

センタールーフ
標準施工法

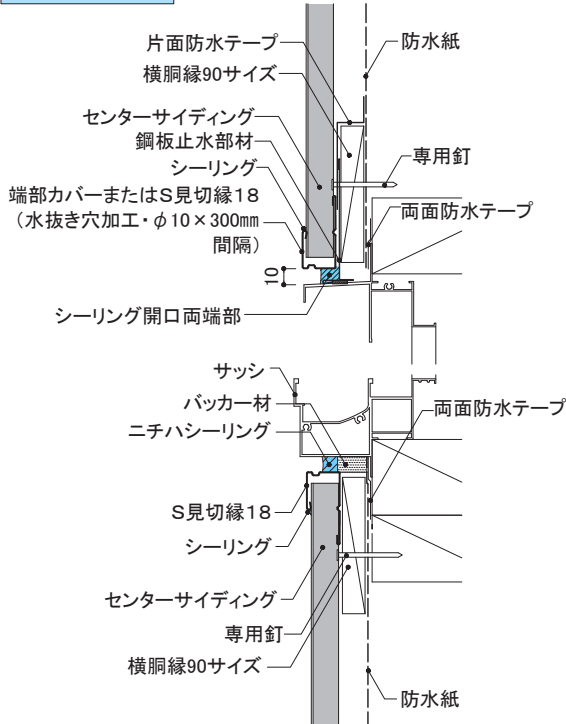
センタールーフ
納まり詳細図

参考資料

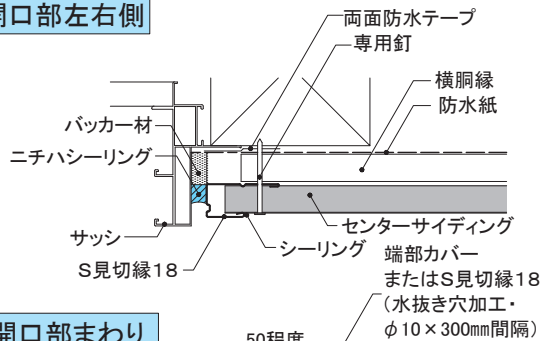
シリーズ・F型・FB型

下地	留付方法	張り方向	木脚縁組
木造軸組下地	釘	縦	横脚縁 @500mm以下

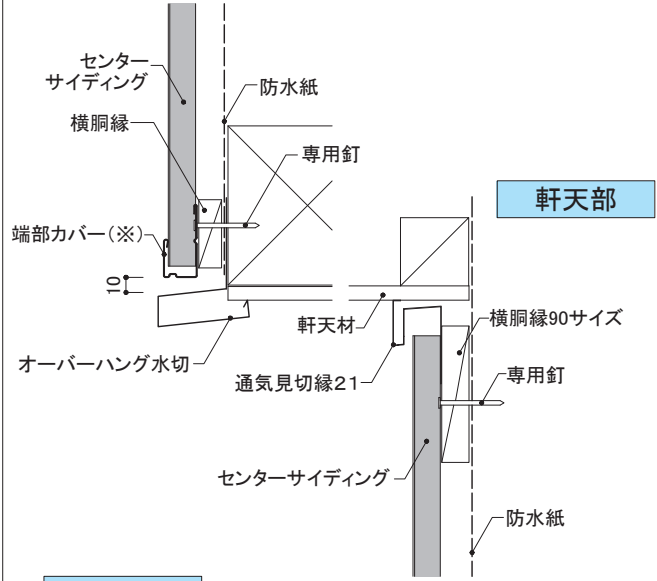
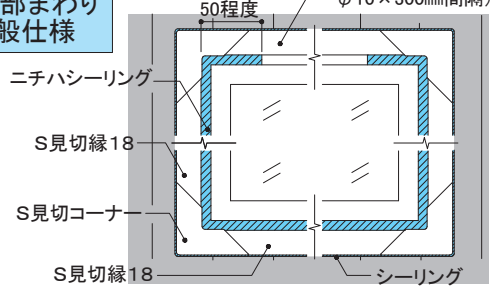
開口部上下側



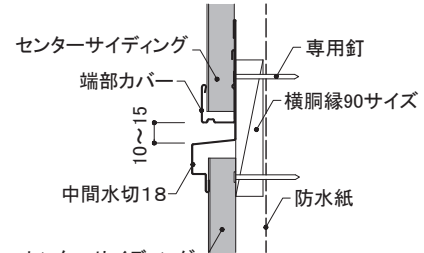
開口部左右側



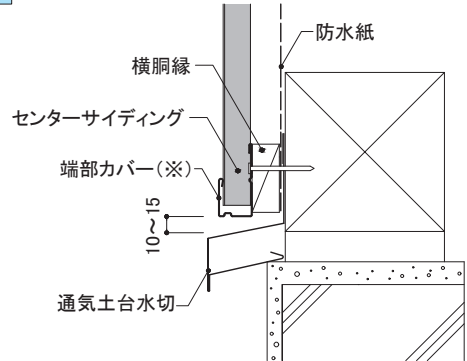
開口部まわり一般仕様



上下接合部

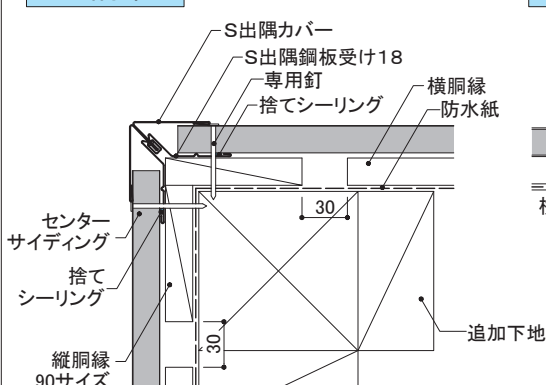


土台部

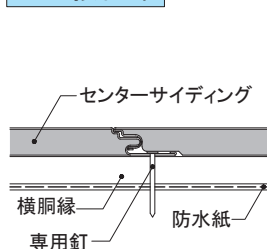


※端部カバーの代わりに芯材を10mm程度取り除いても施工できます。
また、降雪量の多い地域の土台部は鋼板製の部材を用いず、芯材を取り除くかアルミ端部カバーを使用してください。

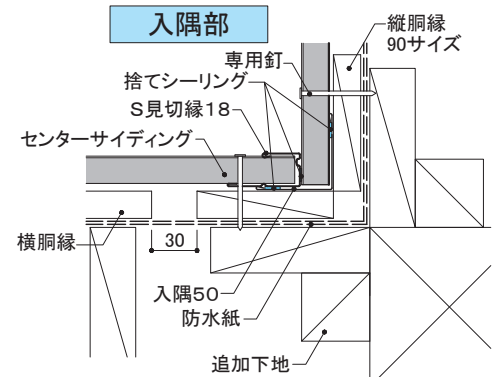
出隅部



左右接合部



入隅部



(注) 上下接合部にアルミ端部カバー(積雪地向け)を使用すると防耐火構造認定の対象外となります。

A型	下地	留付方法	張り方向	木胴縁組
	木造軸組下地	釘	縦	横胴縁 @500mm以下

センターサイディング
標準施工法

センターサイディング
基本納まり図

本体・付属部材
詳細図

付属部材加工図

センターサイディング
木造編

センターサイディング
鉄骨造 金属胴縁編

センターサイディング
鉄骨造 直張り編

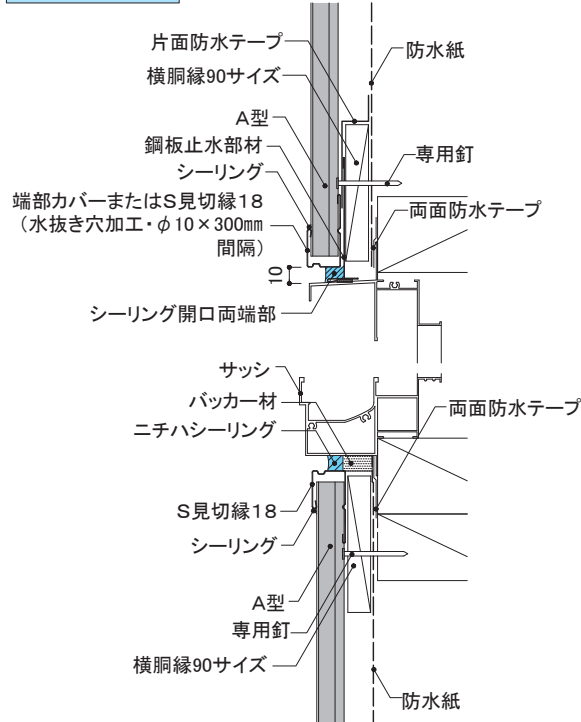
センター化粧幕板
標準施工法

センタールーフ
標準施工法

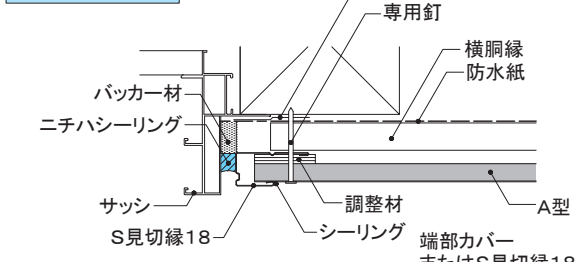
センタールーフ
納まり詳細図

参考資料

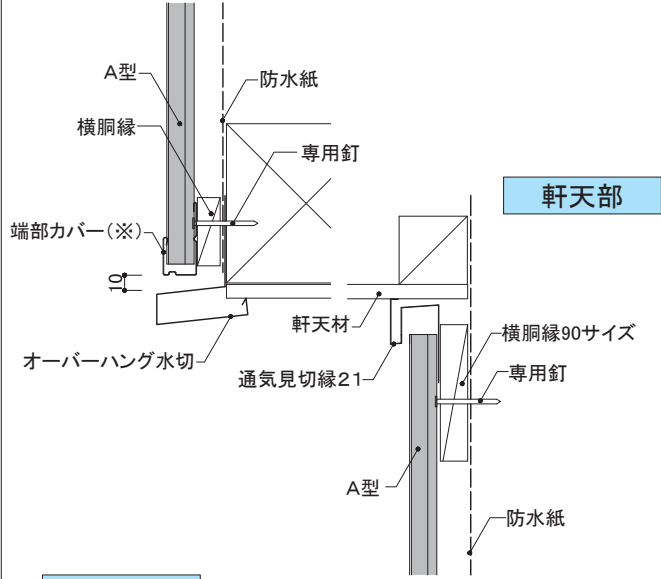
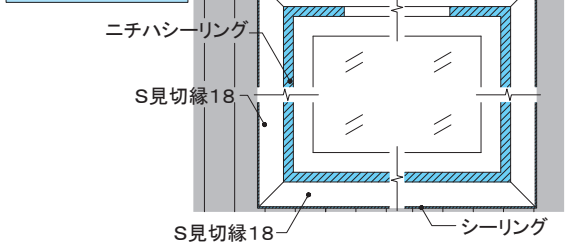
開口部上下側



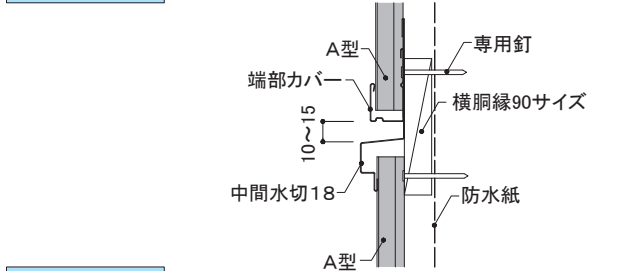
開口部左右側



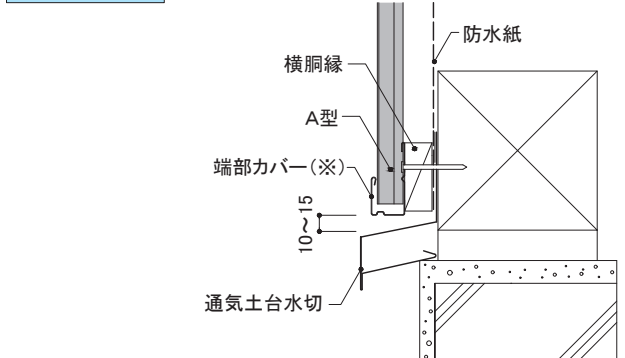
開口部まわり
一般仕様



上下接合部

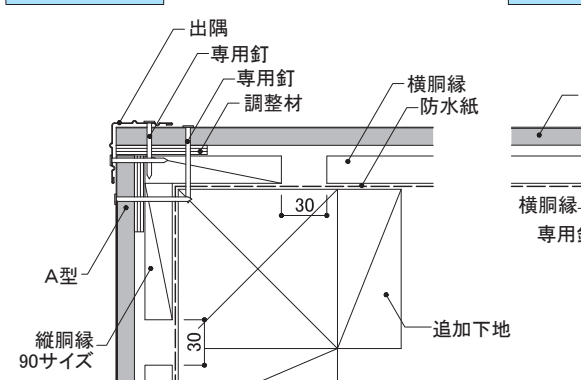


土台部

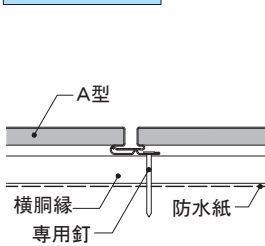


※端部カバーの代わりに芯材を10mm程度取り除いても施工できます。
また、降雪量の多い地域の土台部は鋼板製の部材を用いず、芯材を取り除くかアルミ端部カバーを使用してください。

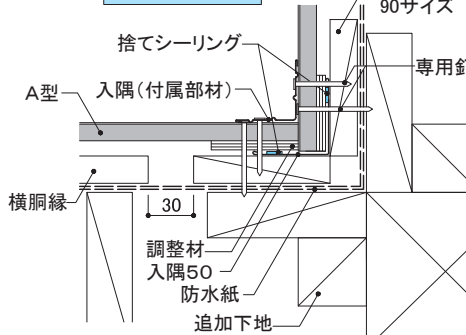
出隅部



左右接合部



入隅部



(注) 上下接合部にアルミ端部カバー(積雪地向け)を使用すると防耐火構造認定の対象外となります。

6 センターサイディング標準施工法 ＜納まり図 鉄骨造 金属胴縁編＞

6- 1	施工手順			
6- 2	納まり詳細図	鉄骨下地横組	金属胴縁縦組	サイディング横張り
6- 3	納まり詳細図	鉄骨下地縦組	金属胴縁縦組	サイディング横張り
6- 4	納まり詳細図	鉄骨下地横組	金属胴縁横組	サイディング縦張り
6- 5	納まり詳細図	鉄骨下地縦組	金属胴縁横組	サイディング縦張り



本施工方法は、防耐火構造の大臣認定を取得していません。

6 センターサイディング標準施工法

6-1 施工手順

手順① 鉄骨下地の確認

<横張り、縦張り共通の確認ポイント>

- 鉄骨下地は柱を $\square-100 \times 100 \times 2.3\text{mm}$ 以上、その他の下地を $C-100 \times 50 \times 2.3\text{mm}$ 以上または $C-100 \times 50 \times 20 \times 1.6\text{mm}$ 以上とします。
- 鉄骨下地の間隔は610mm以下とします。また、鉄骨下地の不陸は1.5mm以下にします。
(下地の不陸が大きい場合に本体表面に波うちが現れることがあります。外装材としての機能に影響はありませんが、美観を低下させる要因となりますので、特にご注意ください。)
- 出隅・入隅には $\square-100 \times 100 \times 2.3\text{mm}$ 以上または $C-100 \times 50 \times 20 \times 1.6\text{mm}$ 以上ダブルを使用します。
- 開口部のまわりには $C-100 \times 50 \times 20 \times 1.6\text{mm}$ 以上があることを確認してください。

<本体が横張りの場合の確認ポイント>

- 金属胴縁15を垂直方向に配置します。

<本体が縦張りの場合の確認ポイント>

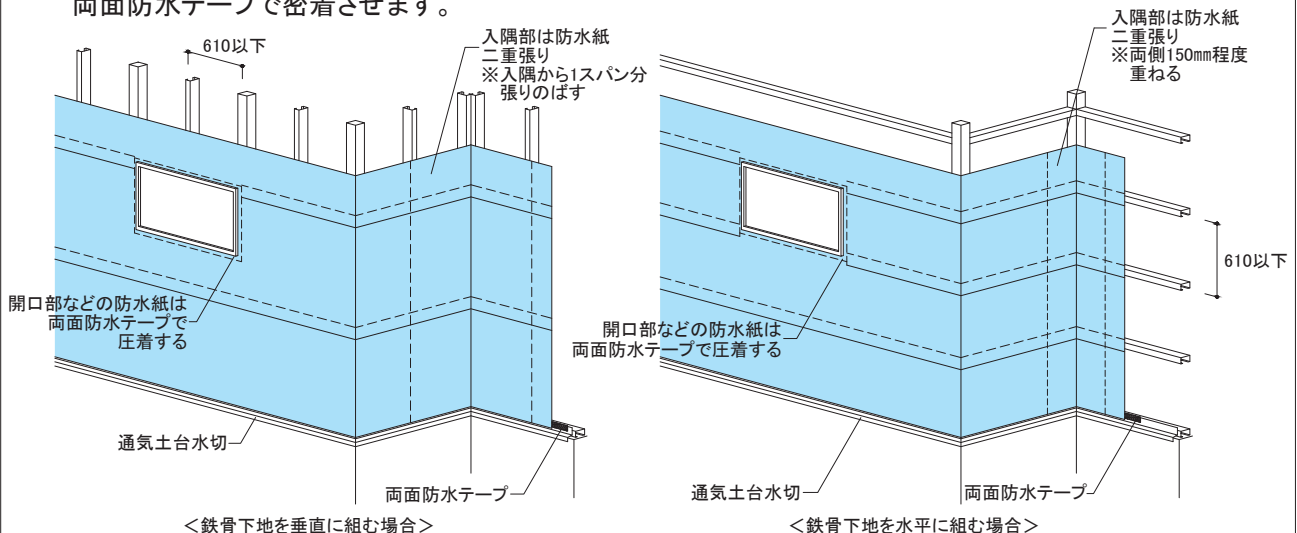
- 金属胴縁15を水平方向に配置します。

手順② 通気土台水切の取り付け

- 通気土台水切は、胴縁組みの前に土台へ水平に留め付けます。

手順③ 防水紙の施工

- 防水紙および両面防水テープを必ず使用してください。
センターサイディングを使用した外壁の防水は、本体・防水紙・防水テープの各防水機能によって確保されます。強風・大雨時には、雨水が本体裏面に浸入する場合がありますので、必ず防水紙・防水テープを施工してください。
- 防水紙は横張りを原則とし、下から上へと張り上げます。
- 通気層をふさがないように、たるみや剥がれがれないようにします。
- 防水紙を下地に留め付ける際は、ステープルや両面防水テープまたは透湿防水シート用スプレーのりを使用します。
- 上下の重ね代は90mm以上、左右の重ね代は150mm以上とします。
- 防水紙は土台部から張り上げます。土台部の水切立ち上がり下端から20mm程度の位置まで防水紙を重ね、両面防水テープで圧着します。(通気土台水切は水切についている両面テープに密着させます。)
- 出隅・入隅部などの隅角部は、特に隙間、破れなどの防水上の欠陥を生じさせないようにしてください。出隅部では両方向とも鉄骨下地幅程度重ねて留め付け、入隅部では両端の鉄骨下地があるところに留め付けます。
- 防水紙が破れた場合は張り直すか補修をしてください。
- 開口部まわりや換気口・配管まわりなどは両面防水テープで密着させます。また、サッシのツバと防水紙も両面防水テープで密着させます。



6 センターサイディング標準施工法

6-1 施工手順

手順④ 胴縁の施工

<横張り、縦張り共通の施工ポイント>

- 開口部まわりに金属胴縁15を留め付けます。

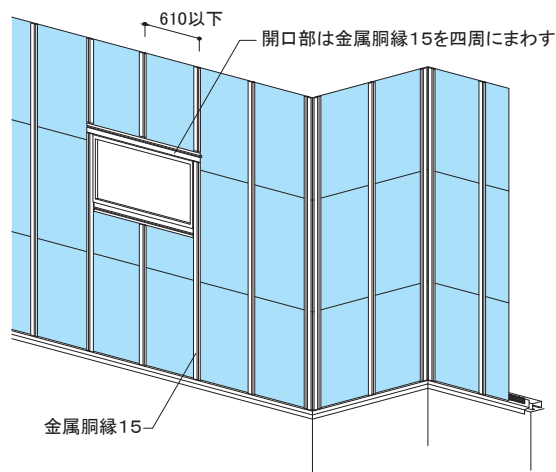
注)防耐火構造とする場合、金属胴縁15は使用できません。

<本体が横張りの場合の施工ポイント>

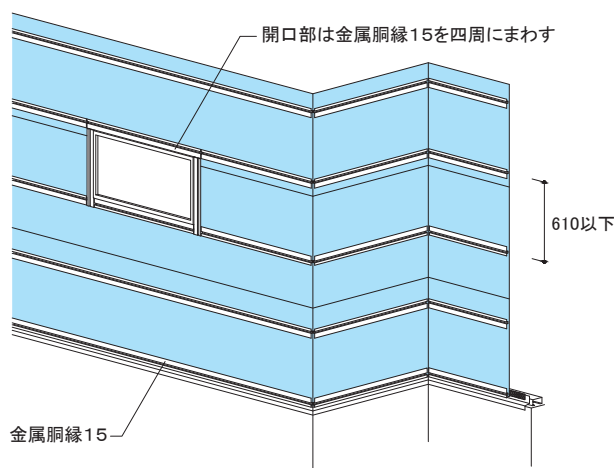
- 金属胴縁15は垂直方向に防水紙の上から鉄骨下地に留め付けます。
- 金属胴縁15の間隔は610mm以下とします。積雪地域や強風地域などは、金属胴縁15の留付間隔を狭めます。

<本体が縦張りの場合の施工ポイント>

- 金属胴縁15は水平方向に防水紙の上から鉄骨下地に留め付けます。
- 金属胴縁15の間隔は610mm以下とします。積雪地域や強風地域などは、金属胴縁15の留付間隔を狭めます。



<金属胴縁15を垂直に組む場合>



<金属胴縁15を水平に組む場合>

手順⑤ 墨出し

- 本体の働き幅で墨出しを行います。

手順⑥ 先付け付属部材の施工(S出隅鋼板受け18など)

- 出隅受け・S廻り縁受けなどの先付け付属部材は専用ビス3で金属胴縁15に留め付けます。
- 受けなどの先付け付属部材の継ぎ部分はカバー(後付け付属部材)の浮き上がり防止のため、十分に押さえて固定します。
- スターターは水準器などを用い、水平を確認します。
- 受けなどの先付け付属部材は、指定の部位に捨てシーリングを施工します。この際、捨てシーリングが浸入した水の排出を妨げないように注意してください。
- 中間水切18は下側の本体を施工後に取り付けます。取り付け後、上側のセンターサイディングを施工します。
- ケガ防止のため、付属品端部は板金加工を施します。
- ビス打ちミスによる孔は、防水のため必ずシーリングでふさいでください。(防水のため、ビス頭にもシーリングを施工します。)

6 センターサイディング標準施工法

6-1 施工手順

手順⑦ センターサイディング本体の施工

<横張り、縦張り共通の施工ポイント>

- 本体は専用ビス2で金属胴縁15に留め付けます。
- 本体2枚ごとに働き幅と水平を確認してください。働き幅は製品ロットによって多少異なる場合があります。
- F型、FB型、FN型(糸目地タイプのセンターサイディング)では、内部応力による変形防止のため、強く押しつけながら差し込まないでください。
- ビス打ちミスによる孔は、防水のため必ずシーリングでふさいでください。

<本体が横張りの場合の施工ポイント>

- 本体の嵌合部は雨水の横走り防止のため、本体左右端部から30mm程度の差し込み溝に捨てシーリングを施工します。
- 横張り時、軒天部で最上段のセンターサイディングは軒天までの寸法にあわせて長手方向に切断し、一旦見切縁などの奥(軒天側)まで差し込んでから、下段の本体に嵌合させます。
- 長手方向に切断した本体が反ることがありますので、本体の上部から下部へと押さえつけながら、本体上部を金属胴縁15に表面からビス留めし、ビス頭に補修塗料を塗布します。

<本体が縦張りの場合の施工ポイント>

- 張り始めと張り終わりで本体の倒れを防止するため、必要に応じて先付け付属部材と本体裏面との間に調整材を入れます。
- 張り始めと張り終わりを金属胴縁15に表面からビス留めし、ビス頭に補修塗料を塗布します。

手順⑧ 後付け付属部材の施工(S出隅カバーなど)

- カバーなどの後付け付属部材の差し込みが硬い場合は、当て木などをあて徐々に差し込んでください。直接たたくと変形や破損の原因になります。

センターサイディング
標準施工法

センターサイディング
基本納まり図

本体・付属部材
詳細図

付属部材加工図

センターサイディング
木造編

センターサイディング
鉄骨造 金属胴縁編

センターサイディング
鉄骨造 直張り編

センター化粧幕板
標準施工法

センタールーフ
標準施工法

センタールーフ
納まり詳細図

参考資料

6-2 納まり詳細図

鉄骨下地横組

金属胴縁縦組

サイディング横張り

1)基本構成図・下地組図	
2)主要部材一覧表	
3)土台部	通気土台水切
4)上下接合部	嵌合
5)左右接合部	目地鋼板受け+NS目地カバー
6)入隅部	N見切縁18
7)出隅部	S出隅鋼板受け18+S出隅カバー
8)開口部	①上側 N端部カバー ②下側 N見切縁18 ③左右側 N見切縁18
9)軒天部	①通気見切縁21 ②N見切縁18
10)オーバーハング部	オーバーハング水切+N端部カバー



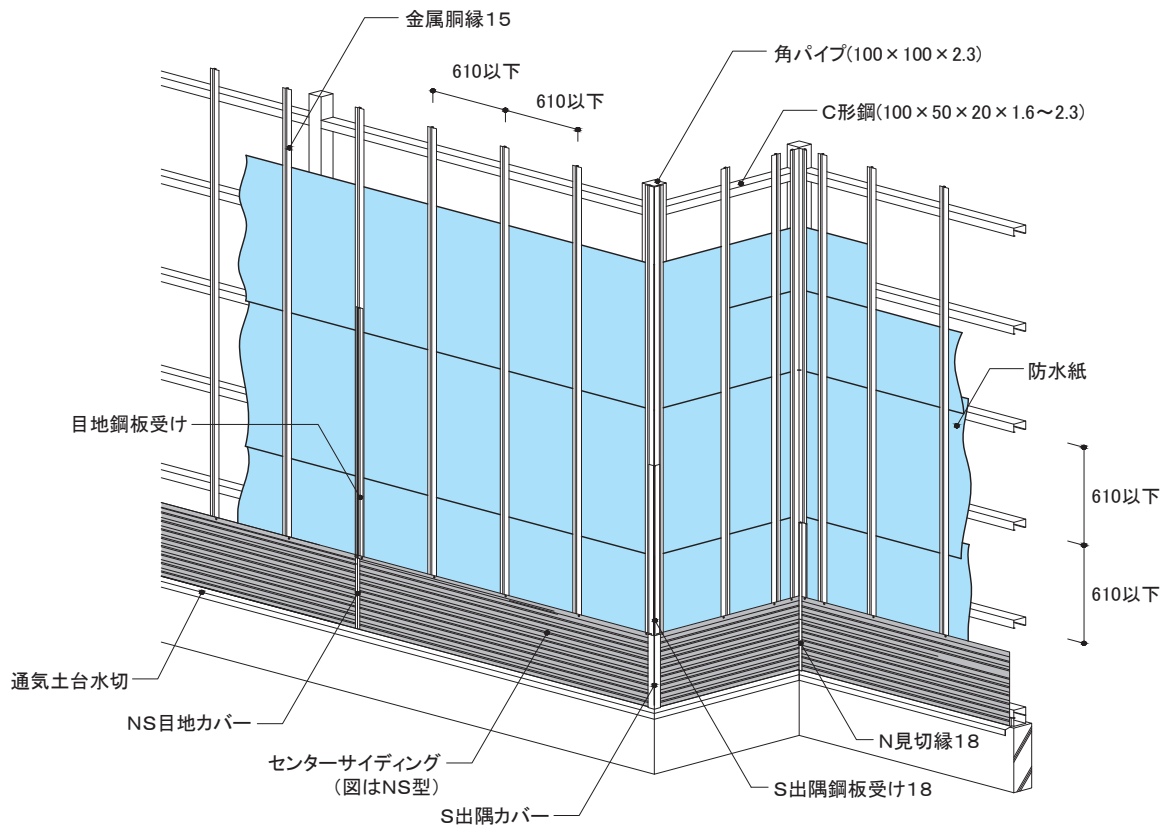
本施工方法は防耐火構造の大臣認定を取得していません。

センターサイディング 18mm厚品	下地	鉄骨下地方向	金属胴縁方向	張り方向
	鉄骨下地	横	縦	横

1) 基本構成図・下地組図

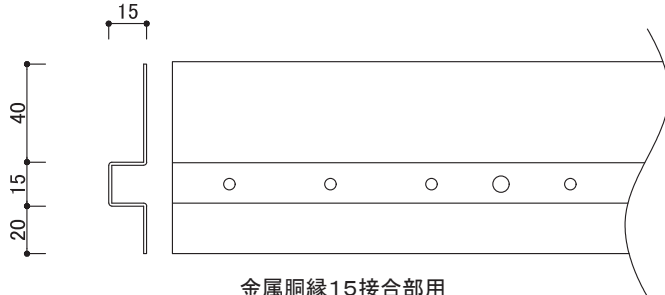
- 鉄骨下地は610mm以下の間隔とします。
- 通気土台水切は胴縁組みを行う前に取り付け、防水紙を上にかぶせて施工します。
- 防水紙は横張りとし、下から順に張り上げます。
- 金属胴縁15は610mm以下の間隔で配置し、専用ビス1を使用して、610mm以下の間隔で鉄骨下地に留め付けます。
- センターサイディングは専用ビス2を用いて、金属胴縁15に610mm以下の間隔で留め付けます。

※本施工方法は防耐火構造の大臣認定を取得しておりません。



2) 主要部材一覧表

■金属胴縁15接合部用



金属胴縁15接合部用

【品番:KN2060】

材質:高耐食めつき鋼板 厚み:1.2mm 長さ:2,990mm

備考:専用ビス1で鉄骨下地へ固定

■専用ビス1

(金属胴縁15留付ビス)



ステンステクスネジ

【品番:JK1140】

材質:ステンレス

サイズ:φ4mm×19mm

※各部材は、2024年2月時点のものです。最新の情報は、NICHIIA金属製外壁材・屋根材総合カタログでご確認ください。

標準施工法
センターサイディング

基本納まり図
センターサイディング

詳細図
本体・付属部材

付属部材加工図

木造編
センターサイディング

鉄骨造
センターサイディング
金属胴縁編

鉄骨造
センターサイディング
直張り編

標準施工法
センター化粧石膏板

標準施工法
センタールーフ

納まり詳細図
センタールーフ

参考資料

センターサイディング 18mm厚品

下地

鉄骨下地

鉄骨下地方向

横

金属胴縁方向

縦

張り方向

横

2) 主要部材一覧表

■専用ビス2 (本体留付ビス)



ステンステクスネジ
【品番:JK1510】
材質:ステンレス
サイズ:φ4.5mm×10mm

■専用ビス3 (付属部材留付ビス)



平頭ねじ
【品番:KN65】
材質:ステンレス
サイズ:φ4.8mm×13mm

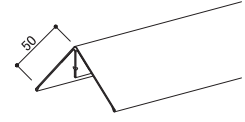
■専用ビス4 (表面留付ビス)

軒天部、笠木部などおよび補強工法での
センターサイディング表面留め用ビス



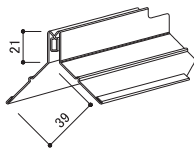
ステンレドリルビス
【品番:JK1740】
材質:ステンレス
サイズ:φ4.5mm×27mm

■出隅カバー



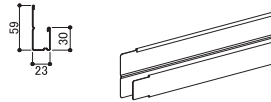
S出隅カバー
【品番:ADS2****】
材質:塗装高耐食GLめっき鋼板
厚み:0.35mm 働き長さ:3,030mm

■出隅鋼板受け



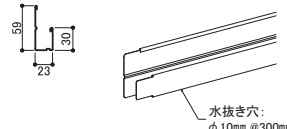
S出隅鋼板受け18
【品番:ADU1F00A】
材質:塗装高耐食GLめっき鋼板
働き長さ:3,030mm

■見切縁



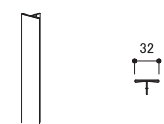
N見切縁18
【品番:AMKEF0**】
【品番:AMKGF0**】
材質:塗装高耐食GLめっき鋼板
厚み:0.35mm 働き長さ:3,030mm

■端部カバー



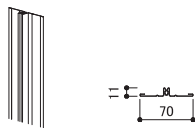
N端部カバー
【品番:AMKFF0**】
【品番:AMKHF0**】
材質:塗装高耐食GLめっき鋼板
厚み:0.35mm 働き長さ:3,030mm
水抜き穴:φ10mm @ 300mm

■目地カバー



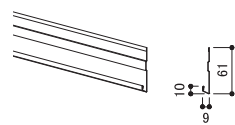
NS目地カバー
【品番:AMJ3F0**】
材質:塗装高耐食GLめっき鋼板
厚み:0.35mm 働き長さ:3,030mm

■目地受け



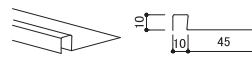
目地鋼板受け
【品番:AMU6F00A】
材質:塗装高耐食GLめっき鋼板
働き長さ:3,030mm

■スターター



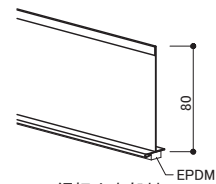
ヨコ用スターター
【品番:AST2F00A】
材質:塗装高耐食GLめっき鋼板
長さ:3,030mm

■片ハットジョイナー10



片ハットジョイナー10
【品番:FHK1110R】
材質:フッ素樹脂コート高耐食GLめっき鋼板
厚み:0.3mm、長さ:2,000mm

■鋼板止水部材



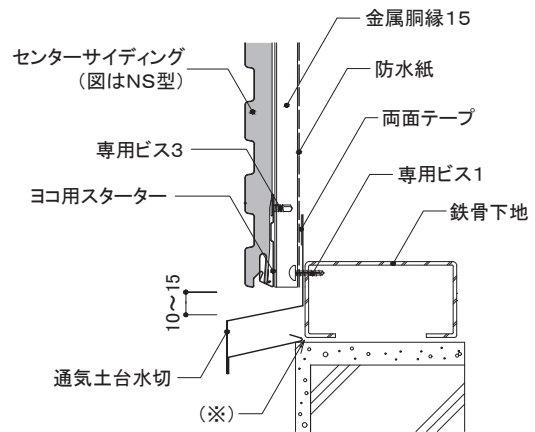
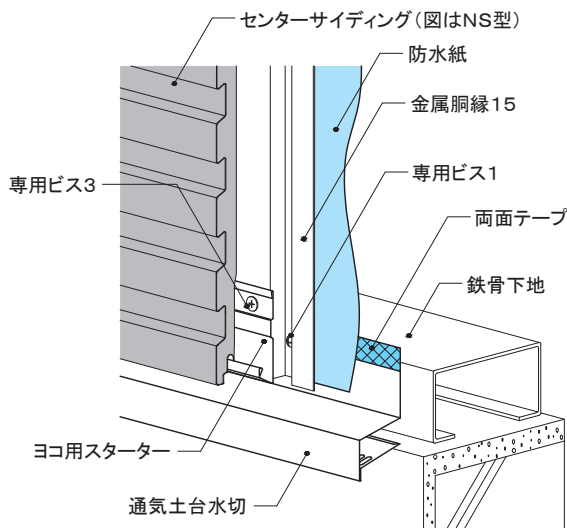
鋼板止水部材
【品番:KE5100】
材質:塗装高耐食GLめっき鋼板
厚み:0.35mm 長さ:3,030mm

※各工法の納まり図例にて使用される主要な部材例です。(2024年2月時点)
その他の部材および部材の最新情報は、NICHIIA金属製外壁材・屋根材総合カタログでご確認ください。

センターサイディング 18mm厚品	下地	鉄骨下地	鉄骨下地	金属胴縁	張り
		鉄骨下地	横	縦	横

3) 土台部	通気土台水切
--------	--------

- 通気土台水切は、胴縁組みの前に鉄骨下地へ500mm以下の間隔で専用ビス3を用いて水平に留め付けます。
- 金属胴縁15は鉄骨下地に専用ビス1を使用し、610mm以下の間隔で留め付けます。
- ヨコ用スターターは専用ビス3を用いて金属胴縁15ごとに水平に留め付けます。
- センターサイディング下端と通気土台水切の間に、10～15mmの隙間を設けます。
- センターサイディングは専用ビス2で金属胴縁15に留め付けます。



※吹き上げなどによる雨水の浸入を防ぐため、止水処理が確実にされていることを確認してください。

センターサイディング
標準施工法

センターサイディング
基本納まり図

本体・付属部材
詳細図

付属部材加工図

センターサイディング
木造編

センターサイディング
鉄骨造 金属胴縁編

センターサイディング
鉄骨造 直張り編

センター化粧幕板
標準施工法

センタールーフ
標準施工法

センタールーフ
納まり詳細図

参考資料

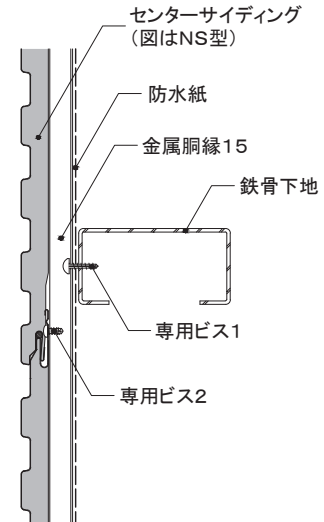
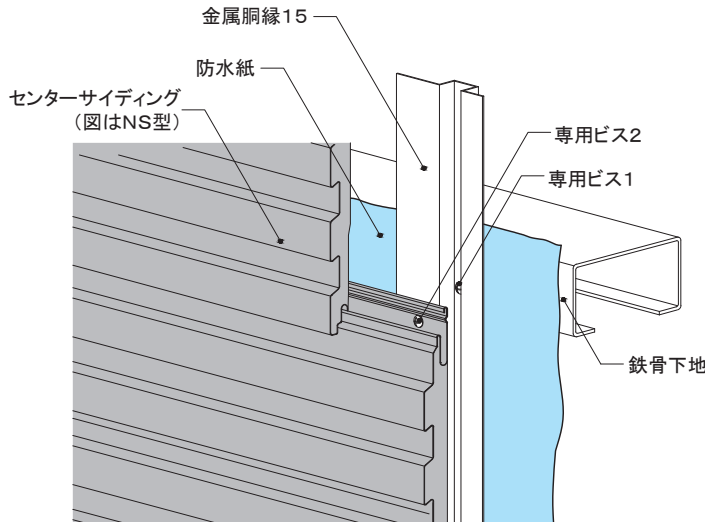
センターサイディング 18mm厚品

下地	鉄骨下地方向	金属胴縁方向	張り方向
鉄骨下地	横	縦	横

4) 上下接合部

嵌合

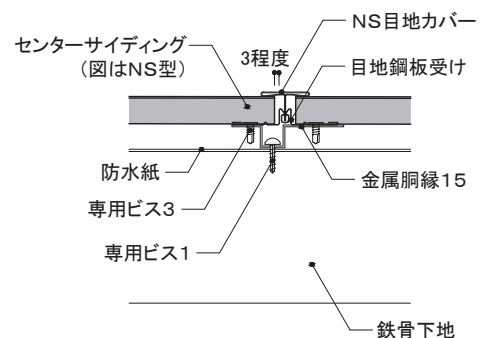
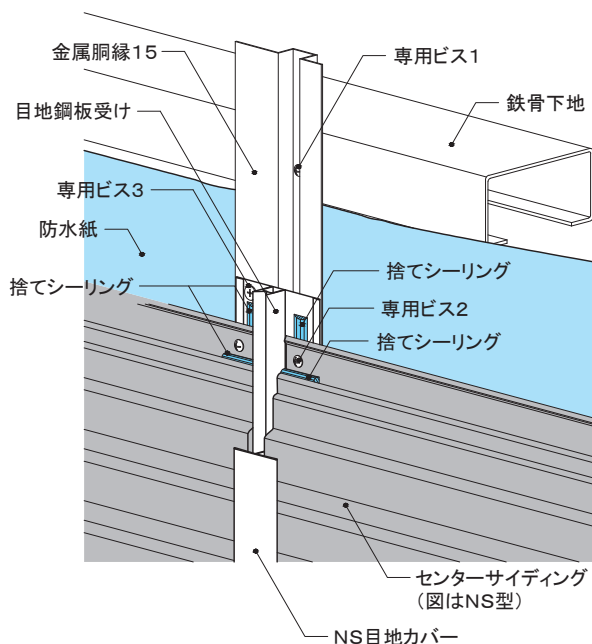
- センターサイディングは実を確実に嵌合させ、専用ビス2で金属胴縁15に留め付けます。
- 本体2枚ごとに働き幅と水平を確認しながら施工します。



5) 左右接合部

目地鋼板受け+NS目地カバー

- 目地鋼板受けは専用ビス3で取り付け、両側端部に捨てシーリングを施工します。
- センターサイディングは専用ビス2で留め付けます。センターサイディングと目地鋼板受けは図のように3mm程度隙間を設けます。
- NS目地カバーを目地鋼板受けに差し込みます。



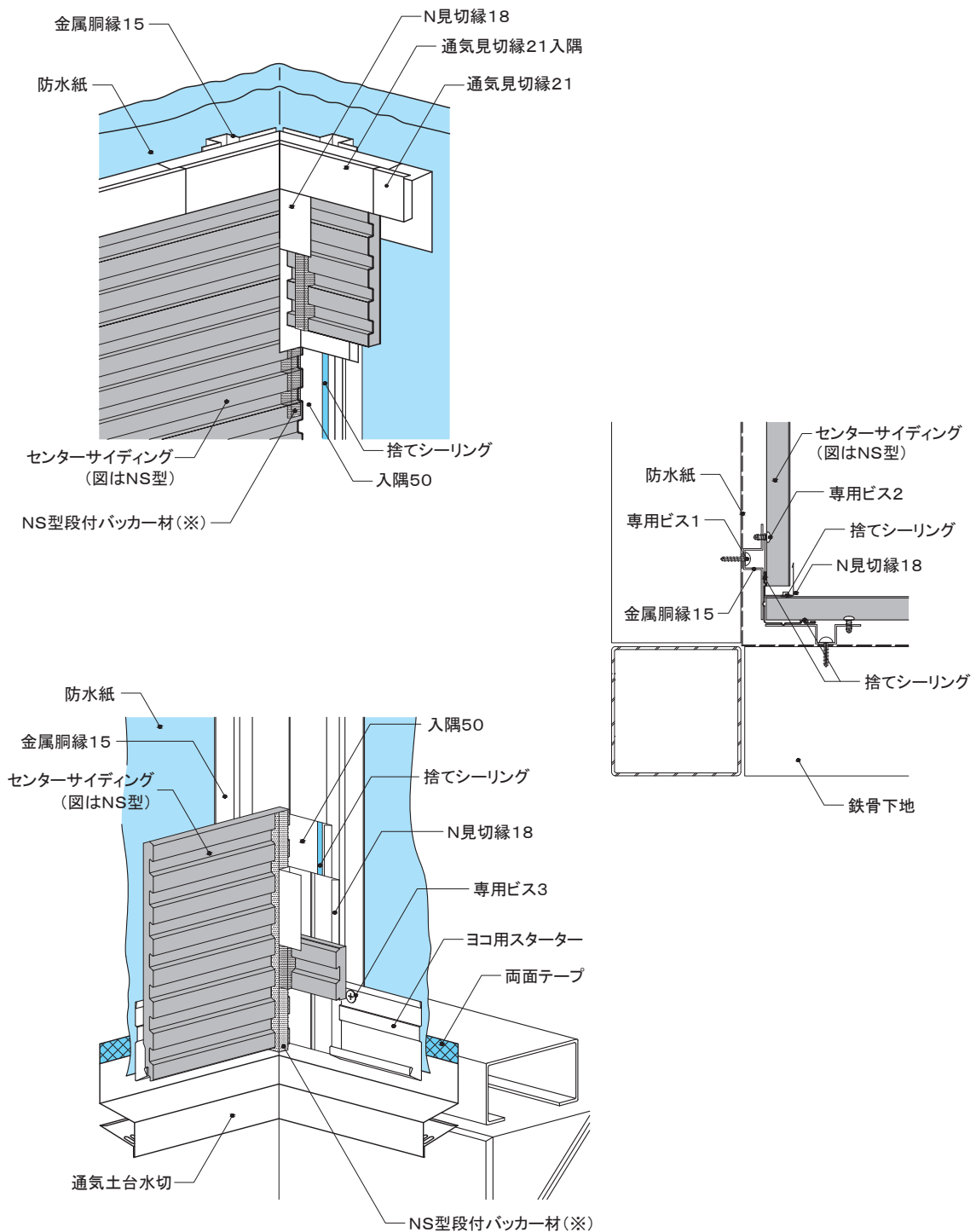
センターサイディング 18mm厚品

下地	鉄骨下地	鉄骨下地方向	金属胴縁方向	張り方向
	鉄骨下地	横	縦	横

6) 入隅部

N見切縁18

- 入隅50を取り付け、両側端部に捨てシーリングを施工します。
- 各センターサイディングの端部は必要に応じて、NS型段付バック材を貼り付けます。(※)
- センターサイディングは専用ビス2で留め付けます。
- 最上段のセンターサイディングは通気見切縁21に差し込み、表面から専用ビス4で留め付けます。



標準施工法
センターサイディング

基本納まり図
センターサイディング

詳細図
本体・付属部材

付属部材加工図

木造編
センターサイディング

鉄骨造 金属胴縁編
センターサイディング

鉄骨造 直張り編
センターサイディング

標準施工法
センター化粧幕板

標準施工法
センタールーフ

納まり詳細図
センタールーフ

参考資料

センターサイディング 18mm厚品

下地

鉄骨下地

鉄骨下地方向

横

金属胴縁方向

縦

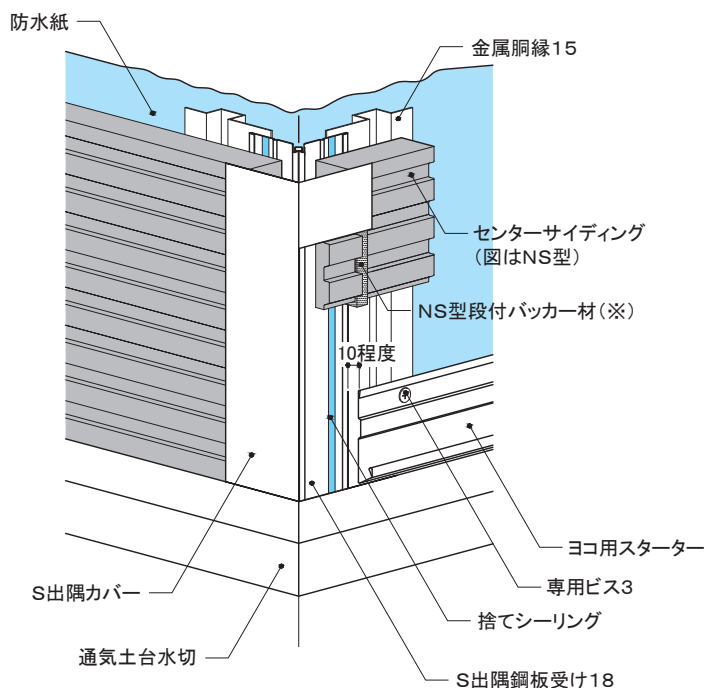
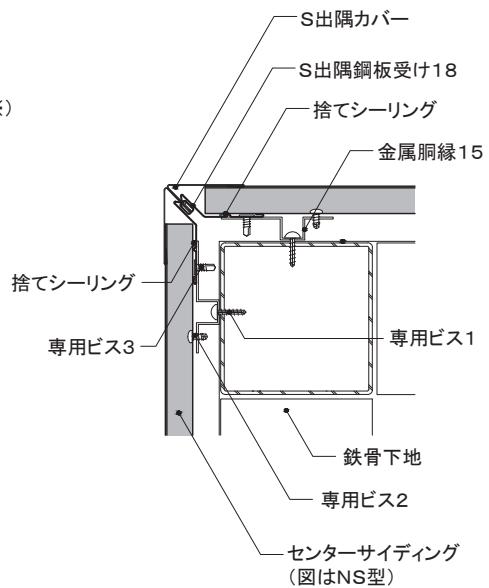
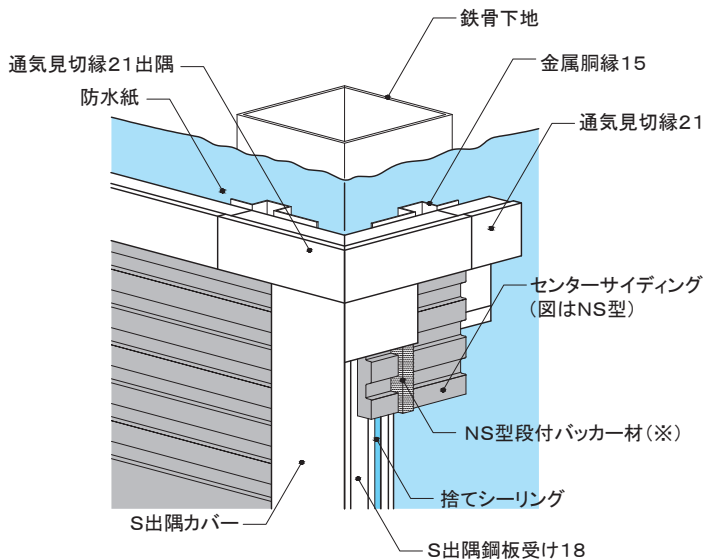
張り方向

横

7) 出隅部

S出隅鋼板受け18+S出隅カバー

- S出隅鋼板受け18は専用ビス3を用いて、通気土台水切から10~15mmの隙間を設けて取り付けます。
- S出隅鋼板受け18の両側端部に捨てシーリングを施工します。
- ヨコ用スターターをS出隅鋼板受け18から10mm程度離して取り付けます。
- 各センターサイディング端部に、必要に応じてNS型段付バック材を貼り付けます。(※)
- センターサイディングは専用ビス2で留め付けます。
- 最上段のセンターサイディングは通気見切縁21に差し込み、表面から専用ビス4で留め付けます。
- S出隅カバーをS出隅鋼板受け18に差し込みます。

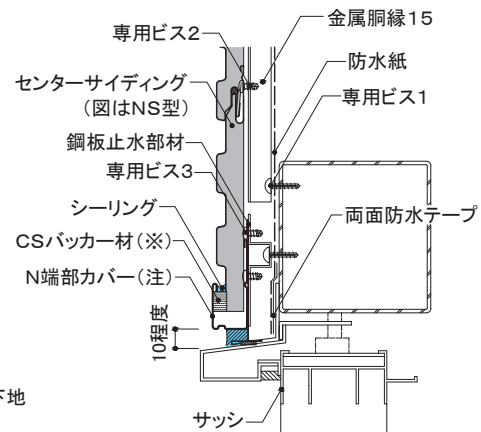
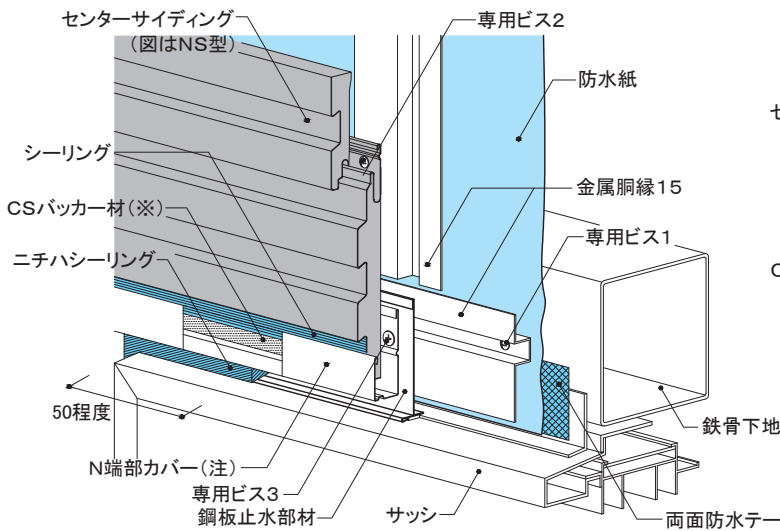


センターサイディング 18mm厚品	下地	鉄骨下地	金属胴縁方向	張り方向
	鉄骨下地	横	縦	横

8) 開口部

① 上側 N端部カバー

- 開口部まわりには両面防水テープを必ず使用し、防水紙を施工します。
- 金属胴縁15を図のように施工後、鋼板止水部材を金属胴縁15に取り付けます。
- 開口部上側は水抜き穴のあるN端部カバーを使用します。見切縁を使用する場合は、水抜き穴(φ10mm×300mm間隔)を現場加工します。
- N端部カバーとサッシとの取り合い部に、10mm程度の隙間を設けて施工します。
- センターサイディング下端が柄凹部となる場合は、CSバック材を貼り付けます。(※)
- サッシ上部は、端部から50mm程度、マスキングテープで養生後ニチハシーリングを施工します。

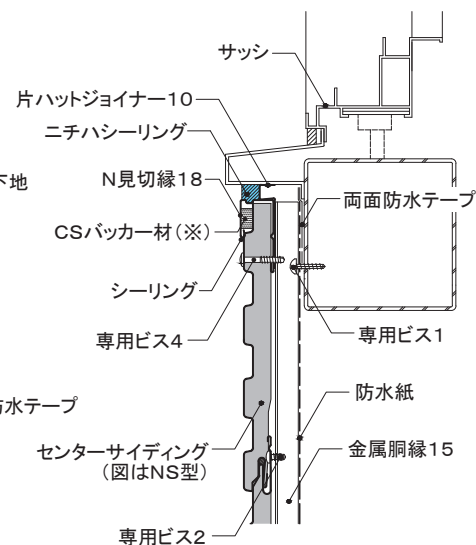
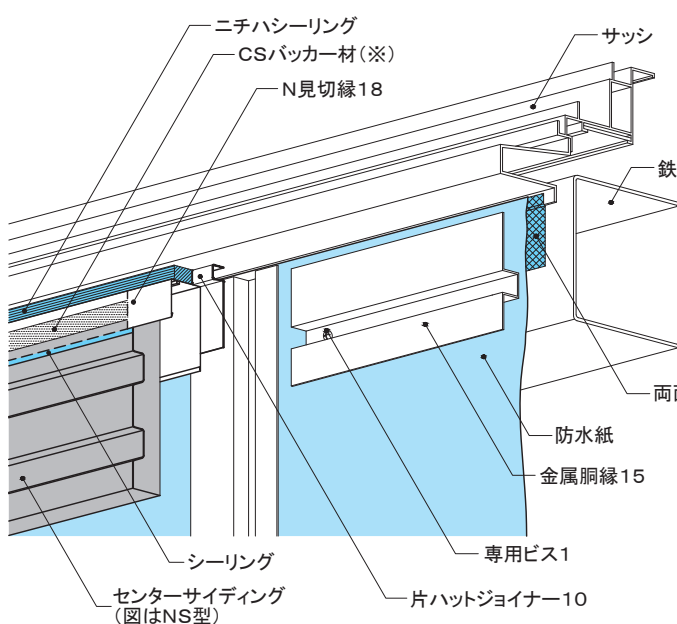


(注) 水抜き穴のない見切縁を使用する際は、全てニチハシーリングを充填します。

8) 開口部

② 下側 N見切縁18

- 開口部まわりには両面防水テープを必ず使用し、防水紙を施工します。
- N見切縁18とサッシとの取り合い部は、片ハットジョイナー10を施工します。
- センターサイディング上端が柄凹部となる場合は、必要に応じてCSバック材を貼り付け、N見切縁18に差し込みます。(※)
- センターサイディングを表面から留め付ける場合は、専用ビス4で留め付けます。
- サッシとN見切縁18の取り合い部は、マスキングテープで養生後ニチハシーリングを充填します。



標準施工法
センターサイディング

基本納まり図
センターサイディング

詳細図
本体・付属部材

付属部材加工図

木造編
センターサイディング

鉄骨造 金属胴縁編
センターサイディング

鉄骨造 直張り編
センターサイディング

標準施工法
センター化粧扉板

標準施工法
センタールーフ

納まり詳細図
センタールーフ

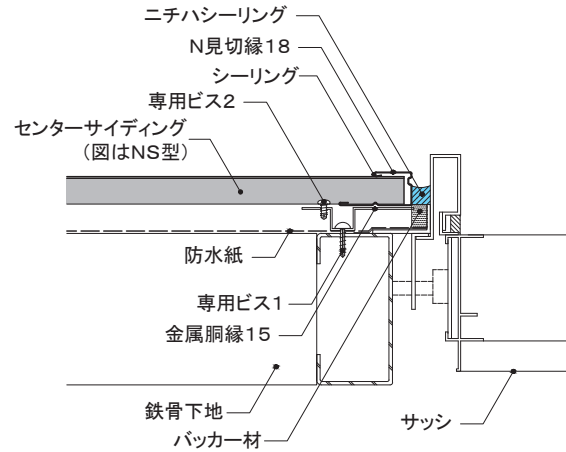
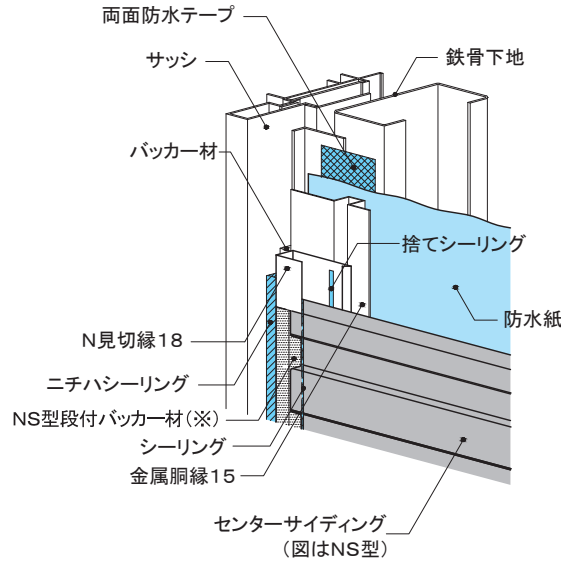
参考資料

センターサイディング 18mm厚品	下地	鉄骨下地方向	金属胴縁方向	張り方向
	鉄骨下地	横	縦	横

8) 開口部

③左右側 N見切縁18

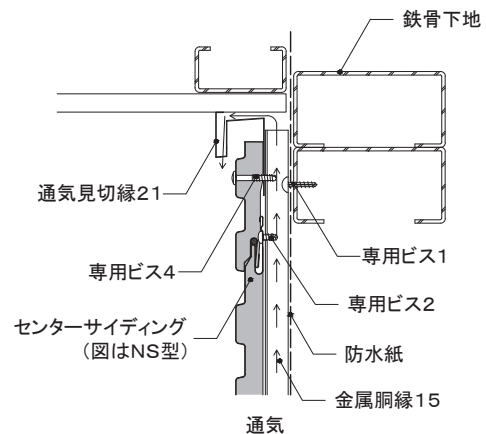
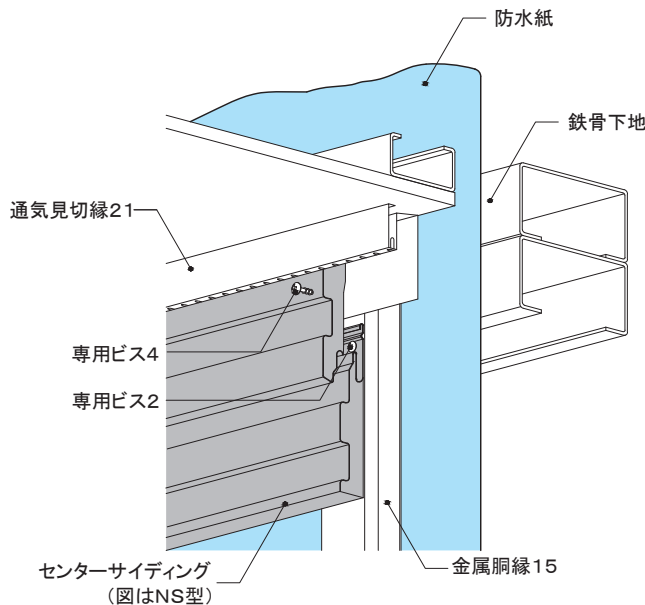
- 開口部周りには両面防水テープを必ず使用し、防水紙を施工します。
- N見切縁18とサッシの取り合い部は、バッカー材を取り付けます。
- N見切縁18に、図のように捨てシーリングを施工します。
- センターサイディング端部にNS型段付バッカー材を貼り付け、N見切縁18に差し込みます。(※)
- サッシとN見切縁18の取り合い部は、マスキングテープで養生後ニチハシーリングを充填します。



9) 軒天部

①通気見切縁21

- センターサイディング施工前に、通気見切縁21を図の位置に取り付けます。
- センターサイディングを表面から留め付ける場合は、専用ビス4で胴縁ごとに留め付けます。

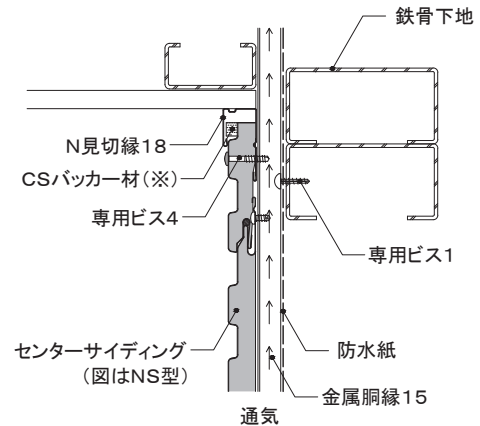
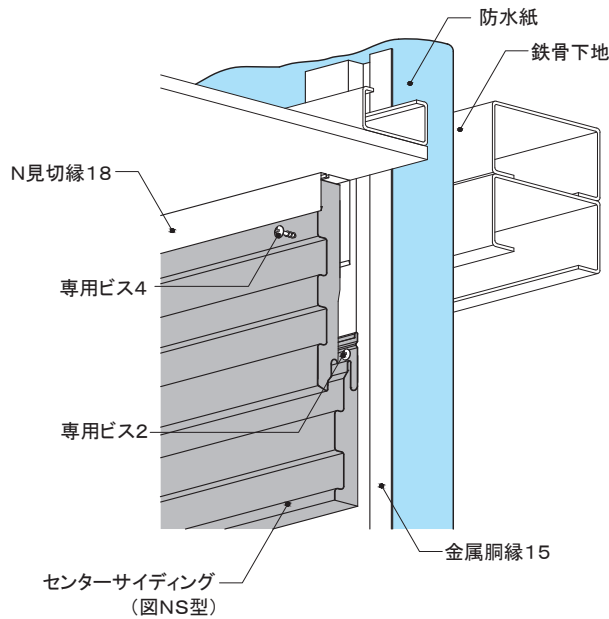


センターサイディング 18mm厚品	下地	鉄骨下地方向	金属胴縁方向	張り方向
	鉄骨下地	横	縦	横

9) 軒天部

②N見切縁18

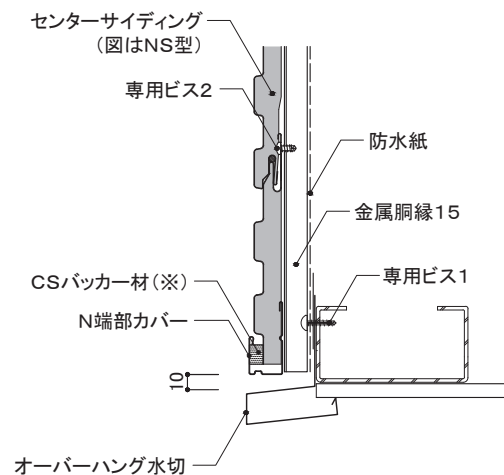
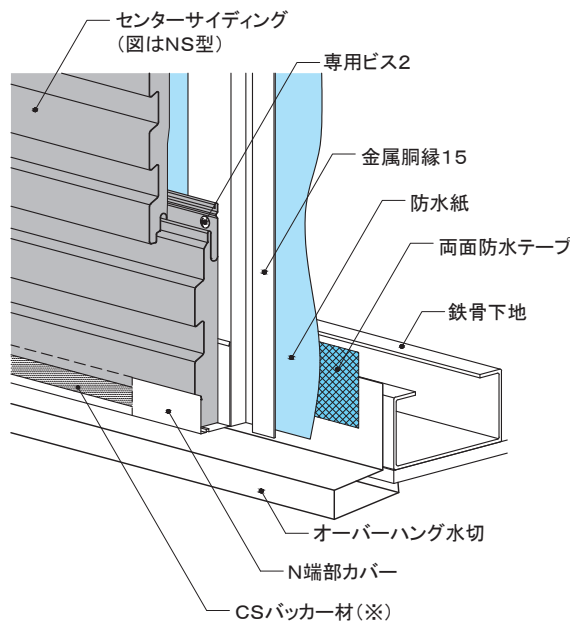
- 通気が小屋裏へ抜けるように軒天工事前に先行して、防水紙張りと同縁下地組みを行います。
- センターサイディング上端が柄凹部となる場合は、必要に応じてCSバッカー材を貼り付けます。(※)
- センターサイディングをN見切縁18に差し込み、専用ビス4で胴縁ごとに表面から留め付けます。



10) オーバーハング部

オーバーハング水切+N端部カバー

- 防水紙はオーバーハング水切の上にかぶせて施工し、両面防水テープで防水紙を貼り付けます。
- センターサイディング下端が柄凹部となる場合は、必要に応じてCSバッカー材を貼り付けます。(※)
- N端部カバーとオーバーハング水切の間に、10mmの隙間を設けます。



標準施工法
センターサイディング

基本納まり図
センターサイディング

詳細図
本体・付属部材

付属部材加工図

木造編
センターサイディング

鉄骨造
金属胴縁編
センターサイディング

鉄骨造
直張り編
センターサイディング

標準施工法
センター化粧石膏板

標準施工法
センタールーフ

納まり詳細図
センタールーフ

参考資料

6-3 納まり詳細図

鉄骨下地縦組

金属胴縁縦組

サイディング横張り

1)基本構成図・下地組図	
2)主要部材一覧表	
3)土台部	通気土台水切
4)上下接合部	嵌合
5)左右接合部	目地鋼板受け+NS目地カバー
6)入隅部	N見切縁18
7)出隅部	S出隅鋼板受け18+S出隅カバー
8)開口部	①上側 N端部カバー ②下側 N見切縁18 ③左右側 N見切縁18
9)軒天部	①通気見切縁21 ②N見切縁18
10)オーバーハング部	オーバーハング水切+N端部カバー



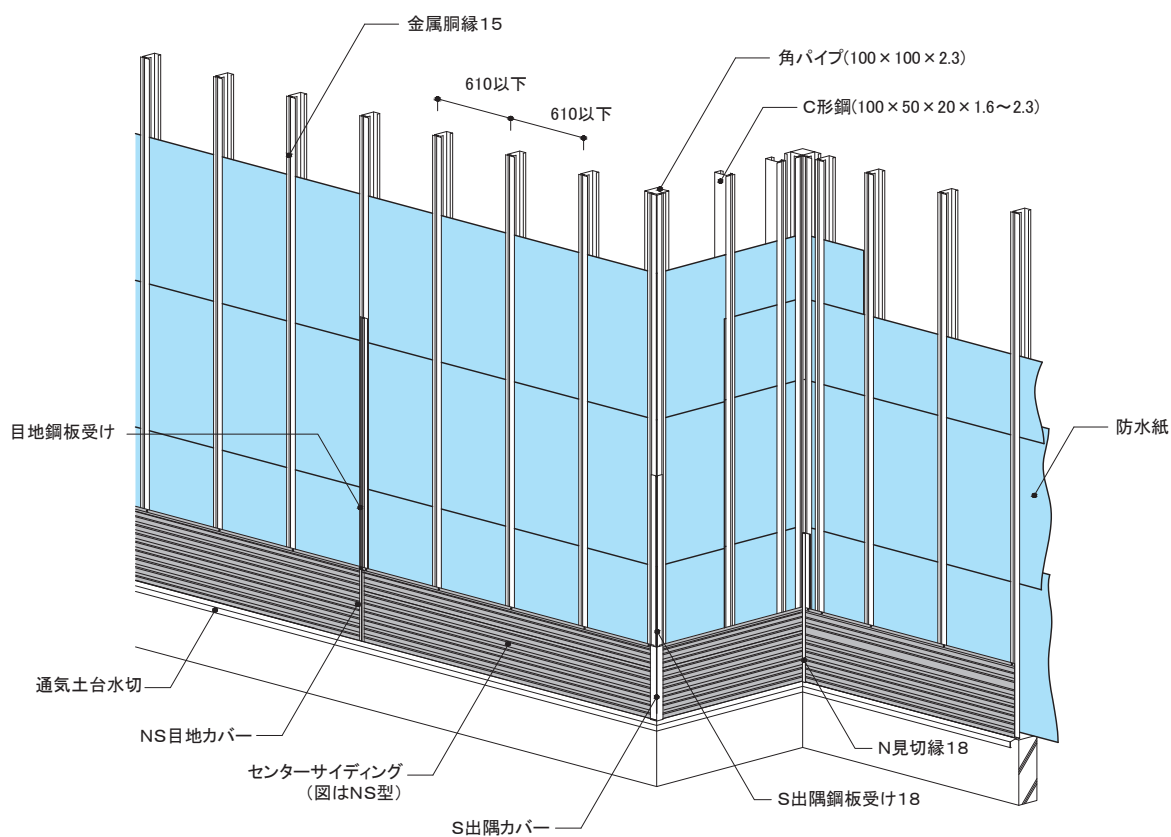
本施工方法は防耐火構造の大臣認定を取得していません。

センターサイディング 18mm厚品	下地	鉄骨下地方向	金属胴縁方向	張り方向
	鉄骨下地	縦	縦	横

1) 基本構成図・下地組図

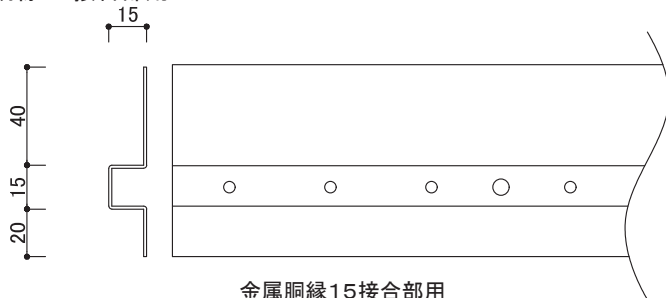
- 鉄骨下地は610mm以下の間隔とします。
- 通気土台水切は胴縁組みを行う前に取り付け、防水紙を上にかぶせて施工します。
- 防水紙は横張りとし、下から順に張り上げます。
- 金属胴縁15は610mm以下の間隔で配置し、専用ビス1を使用して、610mm以下の間隔で鉄骨下地に留め付けます。
- センターサイディングは専用ビス2を用いて、金属胴縁15に610mm以下の間隔で留め付けます。

※本施工方法は防耐火構造の大臣認定を取得しておりません。



2) 主要部材一覧表

■金属胴縁15接合部用



金属胴縁15接合部用
【品番:KN2060】

材質:高耐食めつき鋼板 厚み:1.2mm 長さ:2,990mm
備考:専用ビス1で鉄骨下地へ固定

■専用ビス1

(金属胴縁15留付ビス)



ステンステクスネジ
【品番:JK1140】
材質:ステンレス
サイズ:φ4mm×19mm

※各部材は、2024年2月時点のものです。最新の情報は、NICHIIA金属製外壁材・屋根材総合カタログでご確認ください。

センターサイディング
標準施工法

センターサイディング
基本納まり図

センターサイディング
詳細図
本体・付属部材

センターサイディング
付属部材加工図

センターサイディング
木造編

センターサイディング
鉄骨造 金属胴縁編

センターサイディング
鉄骨造 直張り編

センターサイディング
標準施工法
化粧化粧板

センターサイディング
標準施工法
センタールーフ

センターサイディング
納まり詳細図

センターサイディング
参考資料

センターサイディング 18mm厚品

下地

鉄骨下地

鉄骨下地方向

縦

金属胴縁方向

縦

張り方向

横

2) 主要部材一覧表

■専用ビス2 (本体留付ビス)



ステンステクスネジ
【品番:JK1510】
材質:ステンレス
サイズ:φ4.5mm×10mm

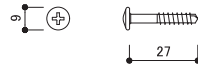
■専用ビス3 (付属部材留付ビス)



平頭ねじ
【品番:KN65】
材質:ステンレス
サイズ:φ4.8mm×13mm

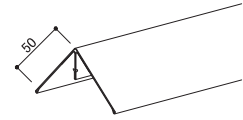
■専用ビス4 (表面留付ビス)

軒天部、笠木部などおよび補強工法での
センターサイディング表面留め用ビス



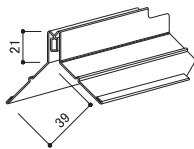
ステンレドリルビス
【品番:JK1740】
材質:ステンレス
サイズ:φ4.5mm×27mm

■出隅カバー



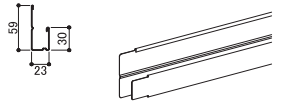
S出隅カバー
【品番:ADS2****】
材質:塗装高耐食GLめっき鋼板
厚み:0.35mm 働き長さ:3,030mm

■出隅鋼板受け



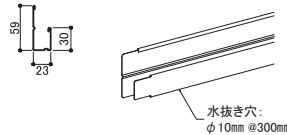
S出隅鋼板受け18
【品番:ADU1F00A】
材質:塗装高耐食GLめっき鋼板
働き長さ:3,030mm

■見切縁



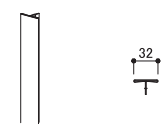
N見切縁18
【品番:AMKEF0**】
【品番:AMKGF0**】
材質:塗装高耐食GLめっき鋼板
厚み:0.35mm 働き長さ:3,030mm

■端部カバー



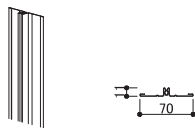
N端部カバー
【品番:AMKFF0**】
【品番:AMKHF0**】
材質:塗装高耐食GLめっき鋼板
厚み:0.35mm 働き長さ:3,030mm
水抜き穴:φ10mm @ 300mm

■目地カバー



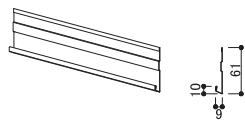
NS目地カバー
【品番:AMJ3F0**】
材質:塗装高耐食GLめっき鋼板
厚み:0.35mm 働き長さ:3,030mm

■目地受け



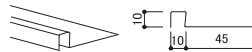
目地鋼板受け
【品番:AMU6F00A】
材質:塗装高耐食GLめっき鋼板
働き長さ:3,030mm

■スターター



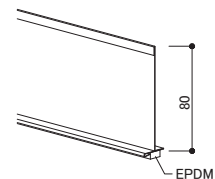
ヨコ用スターター
【品番:AST2F00A】
材質:塗装高耐食GLめっき鋼板
長さ:3,030mm

■片ハットジョイナー10



片ハットジョイナー10
【品番:FHK1110R】
材質:フッ素樹脂コート高耐食GLめっき鋼板
厚み:0.3mm、長さ:2,000mm

■鋼板止水部材



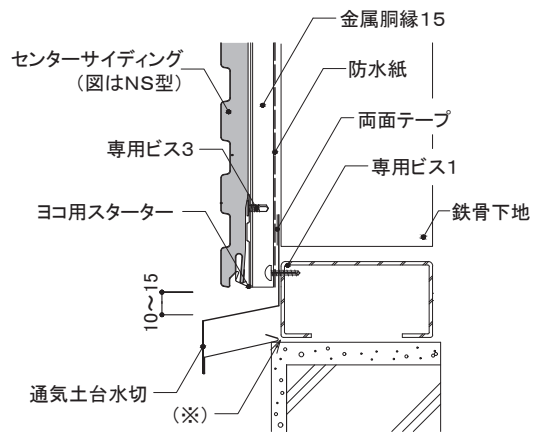
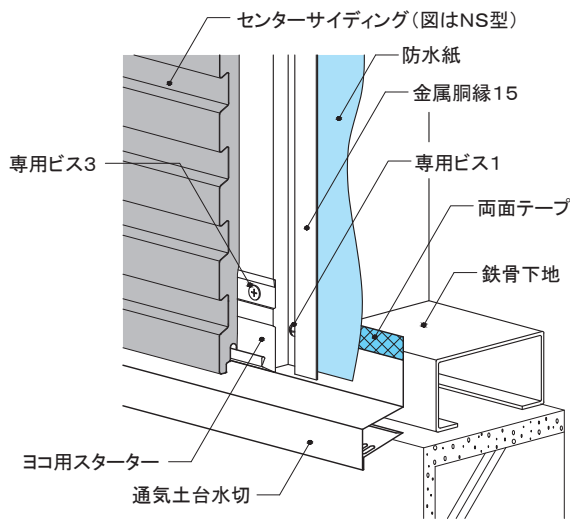
鋼板止水部材
【品番:KE5100】
材質:塗装高耐食GLめっき鋼板
厚み:0.35mm 長さ:3,030mm

※各工法の納まり図例にて使用される主要な部材例です。(2024年2月時点)
その他の部材および部材の最新情報は、NICHIIA金属製外壁材・屋根材総合カタログでご確認ください。

センターサイディング 18mm厚品	下地	鉄骨下地方向	金属胴縁方向	張り方向
	鉄骨下地	縦	縦	横

3) 土台部	通気土台水切
--------	--------

- 通気土台水切は、胴縁組みの前に、鉄骨下地へ500mm以下の間隔で専用ビス3を用いて水平に留め付けます。
- 金属胴縁15は鉄骨下地に専用ビス1を使用し、610mm以下の間隔で留め付けます。
- ヨコ用スターターは専用ビス3で金属胴縁15ごとに水平に留め付けます。
- センターサイディング下端と通気土台水切の間に、10～15mmの隙間を設けます。
- センターサイディングを専用ビス2で金属胴縁15に留め付けます。



※吹き上げなどによる雨水の浸入を防ぐため、止水処理が確実に行われていることを確認してください。

センターサイディング
標準施工法

センターサイディング
基本納まり図

本体・付属部材
詳細図

付属部材加工図

センターサイディング
木造編

センターサイディング
鉄骨造 金属胴縁編

センターサイディング
鉄骨造 直張り編

センター化粧幕板
標準施工法

センタールーフ
標準施工法

センタールーフ
納まり詳細図

参考資料

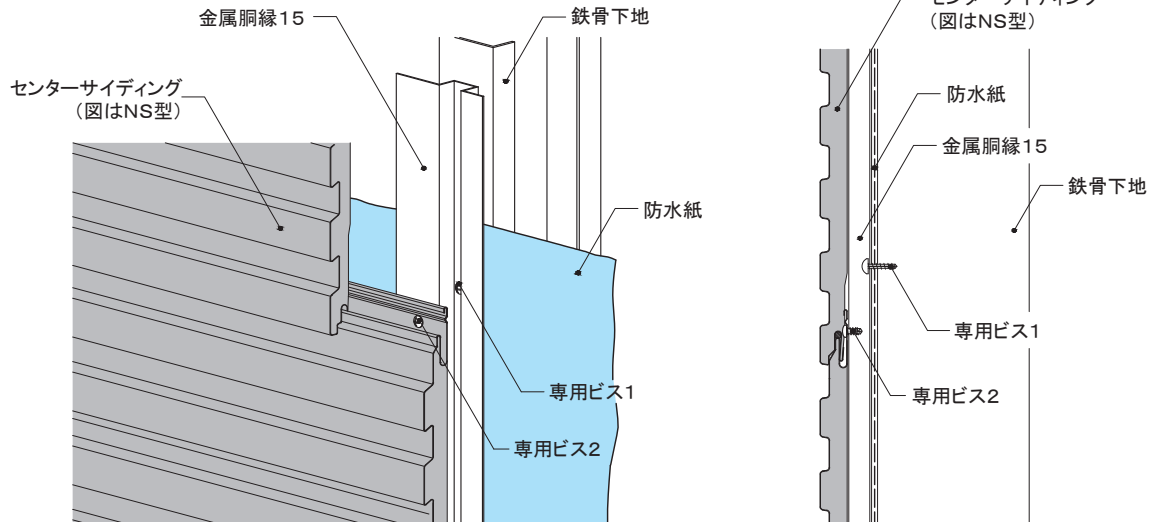
センターサイディング 18mm厚品

下地	鉄骨下地方向	金属胴縁方向	張り方向
鉄骨下地	縦	縦	横

4) 上下接合部

嵌合

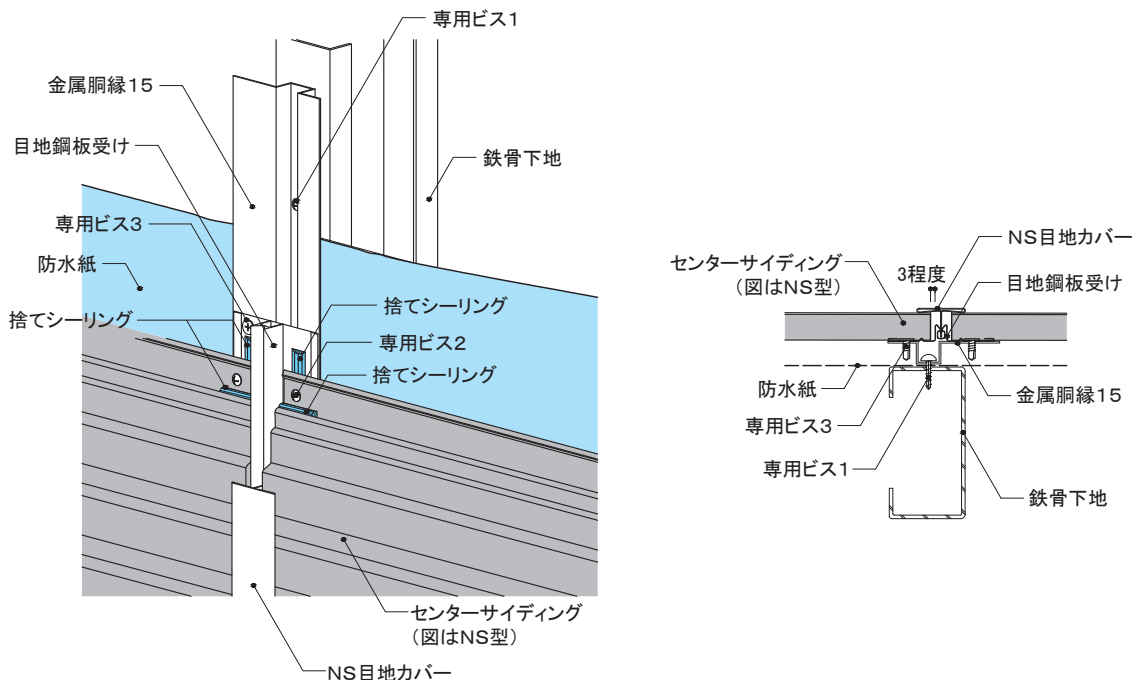
- センターサイディングは実を確実に嵌合させ、専用ビス2で金属胴縁15に留め付けます。
- 本体2枚ごとに働き幅と水平を確認しながら施工します。



5) 左右接合部

目地鋼板受け+NS目地カバー

- 目地鋼板受けは専用ビス3で取り付け、両側端部に捨てシーリングを施工します。
- センターサイディングは専用ビス2で留め付けます。センターサイディングと目地鋼板受けは図のように3mm程度隙間を設けます。
- NS目地カバーを目地鋼板受けに差し込みます。

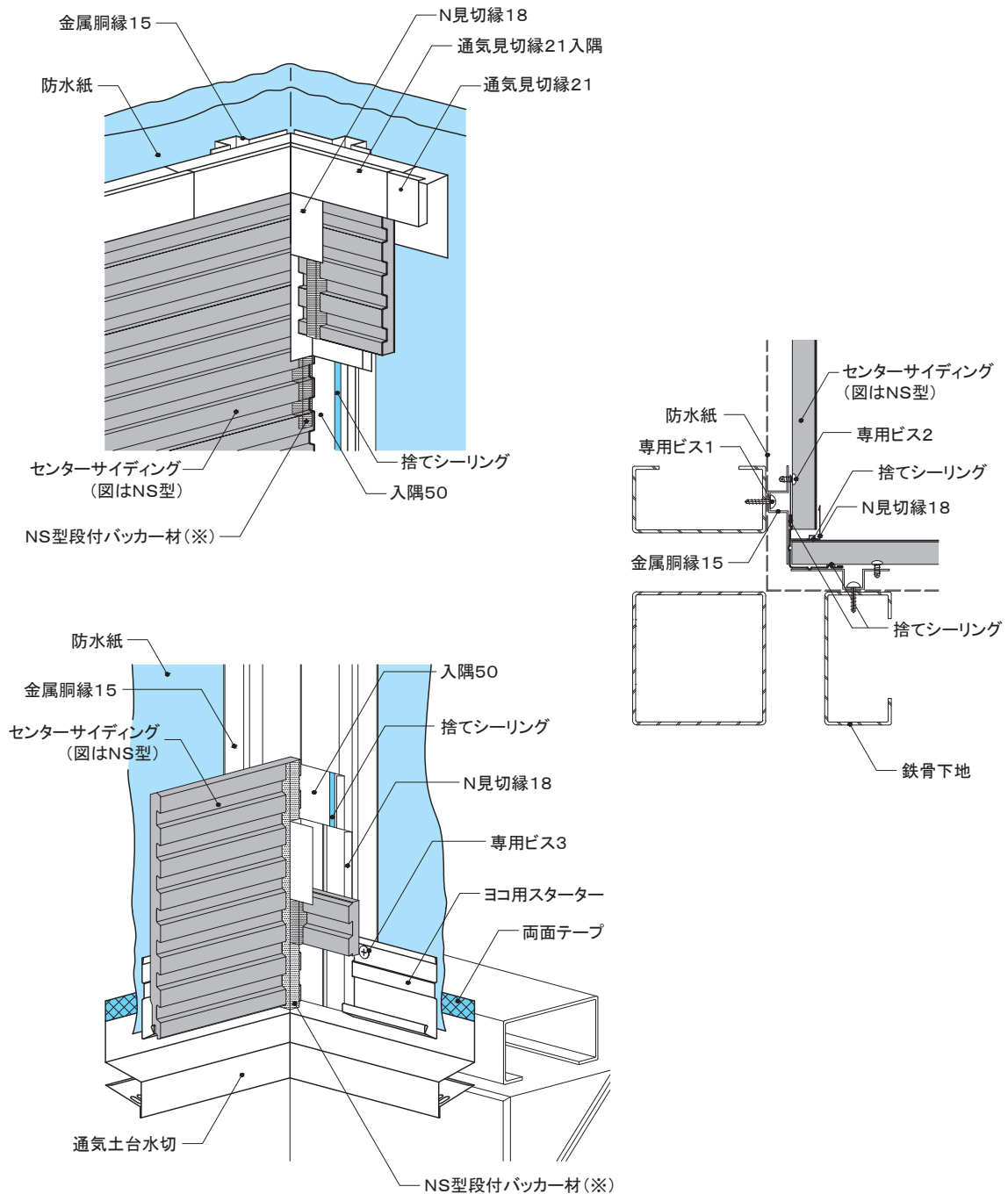


センターサイディング 18mm厚品	下地	鉄骨下地	鉄骨下地方向	金属胴縁方向	張り方向
	鉄骨下地	縦	縦	縦	横

6) 入隅部

N見切縁18

- 入隅50を取り付け、両側端部に捨てシーリングを施工します。
- 各センターサイディングの端部は必要に応じて、NS型段付バック材を貼り付けます。(※)
- センターサイディングは専用ビス2で留め付けます。
- 最上段のセンターサイディングは通気見切縁21に差し込み、表面から専用ビス4で留め付けます。



標準施工法
センターサイディング

基本納まり図
センターサイディング

詳細図
本体・付属部材

付属部材加工図

木造編
センターサイディング

鉄骨造 金属胴縁編
センターサイディング

鉄骨造 直張り編
センターサイディング

標準施工法
センター化粧石膏板

標準施工法
センタールーフ

納まり詳細図
センタールーフ

参考資料

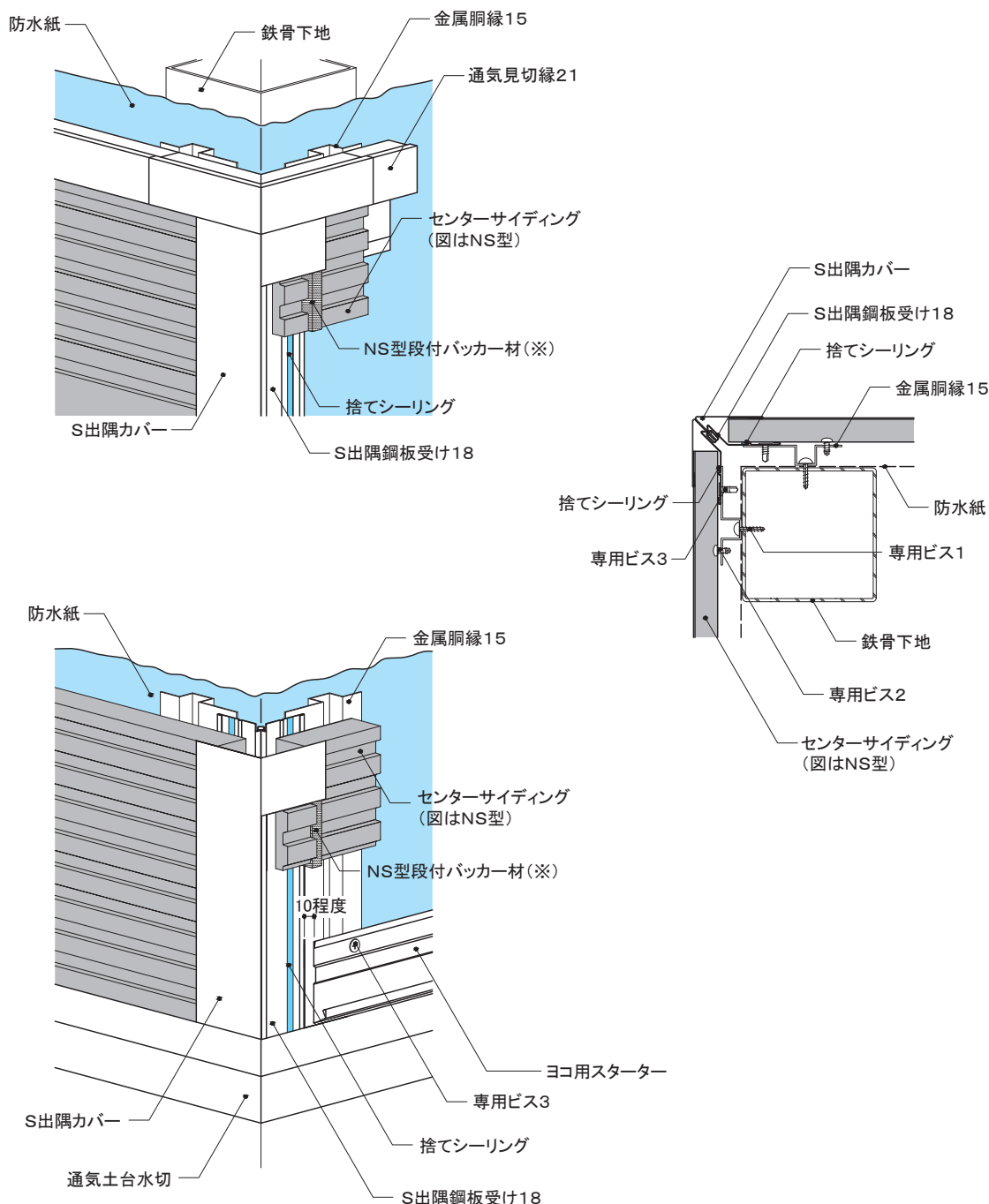
センターサイディング 18mm厚品

下地	鉄骨下地	鉄骨下地方向	金属胴縁方向	張り方向
	鉄骨下地	縦	縦	横

7) 出隅部

S出隅鋼板受け18+S出隅カバー

- S出隅鋼板受け18は専用ビス3を用いて、通気土台水切から10～15mmの隙間を設けて取り付けます。
- S出隅鋼板受け18の両側端部に捨てシーリングを施工します。
- ヨコ用スターターをS出隅鋼板受け18から10mm程度離して取り付けます。
- 各センターサイディング端部に、必要に応じてNS型段付バック材を貼り付けます。(※)
- センターサイディングは専用ビス2で留め付けます。
- 最上段のセンターサイディングは通気見切縁21に差し込み、表面から専用ビス4で留め付けます。
- S出隅カバーをS出隅鋼板受け18に差し込みます。



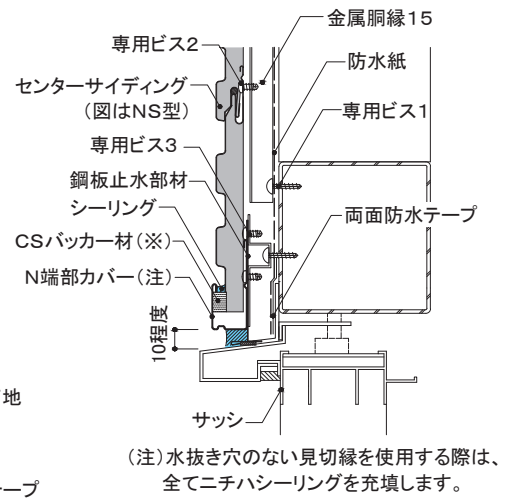
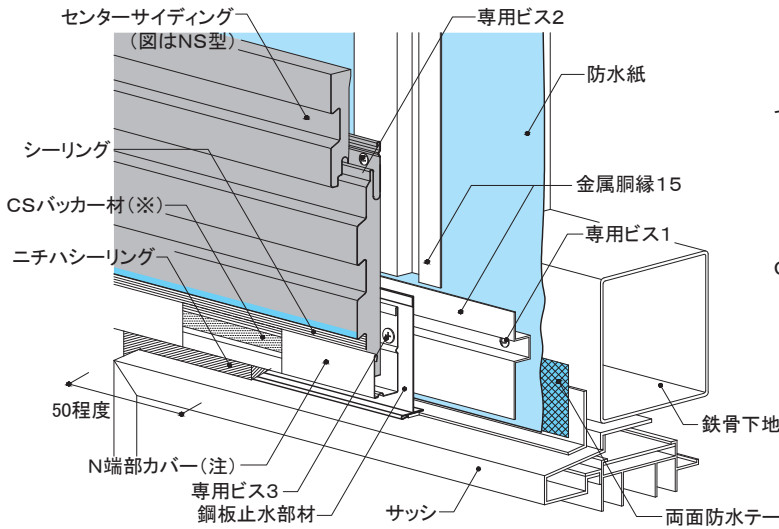
センターサイディング 18mm厚品

下地	鉄骨下地	鉄骨下地方向	縦	金属胴縁方向	縦	張り方向	横
----	------	--------	---	--------	---	------	---

8) 開口部

① 上側 N端部カバー

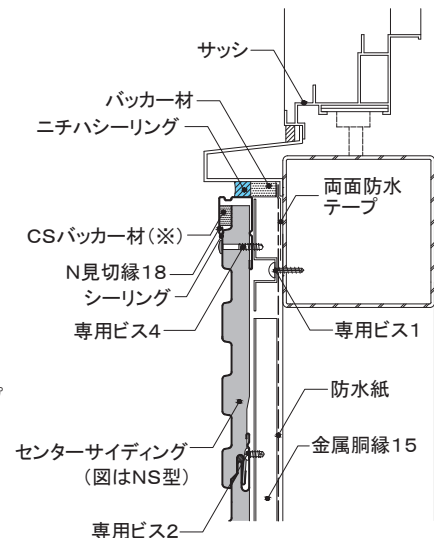
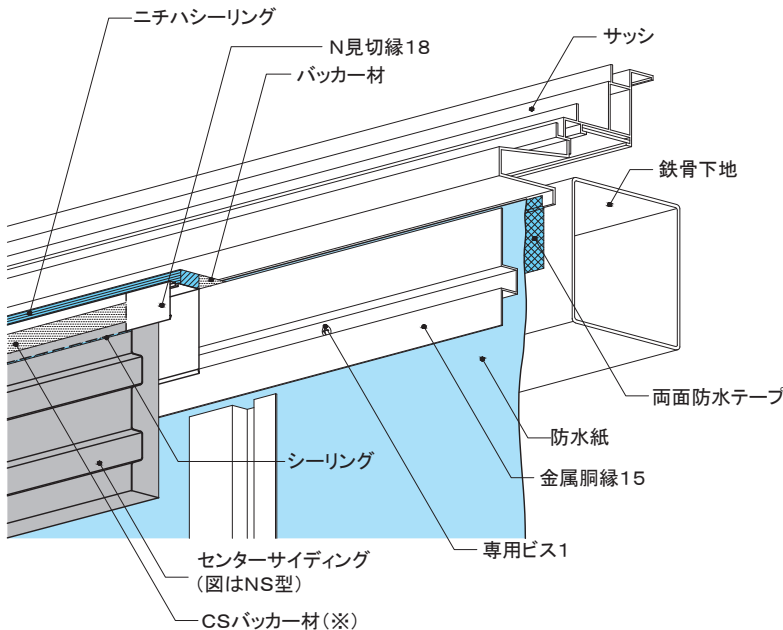
- 開口部まわりには両面防水テープを必ず使用し、防水紙を施工します。
- 金属胴縁15を図のように施工後、鋼板止水部材を金属胴縁15に取り付けます。
- 開口部上側は水抜き穴のあるN端部カバーを使用します。見切縁を使用する場合は、水抜き穴(φ10mm×300mm間隔)を現場加工します。
- N端部カバーとサッシとの取り合い部に、10mm程度の隙間を設けて施工します。
- センターサイディング下端が柄凹部となる場合は、CSバック材を貼り付けます。(※)
- サッシ上部は、端部から50mm程度、マスキングテープで養生後ニチハシーリングを施工します。



8) 開口部

② 下側 N見切縁18

- 開口部まわりには両面防水テープを必ず使用し、防水紙を施工します。
- N見切縁18とサッシとの取り合い部に、バック材を取り付けます。
- センターサイディング上端が柄凹部となる場合は、CSバック材を貼り付け、N見切縁18に差し込みます。(※)
- センターサイディングを表面から留め付ける場合は、専用ビス4で留め付けます。
- サッシとN見切縁18の取り合い部は、マスキングテープで養生後ニチハシーリングを充填します。



標準施工法
センターサイディング

基本納まり図
センターサイディング

詳細図
本体・付属部材

付属部材加工図

木造編
センターサイディング

鉄骨造 金属胴縁編
センターサイディング

鉄骨造 直張り編
センターサイディング

標準施工法
センター化粧幕板

標準施工法
センタールーフ

納まり詳細図
センタールーフ

参考資料

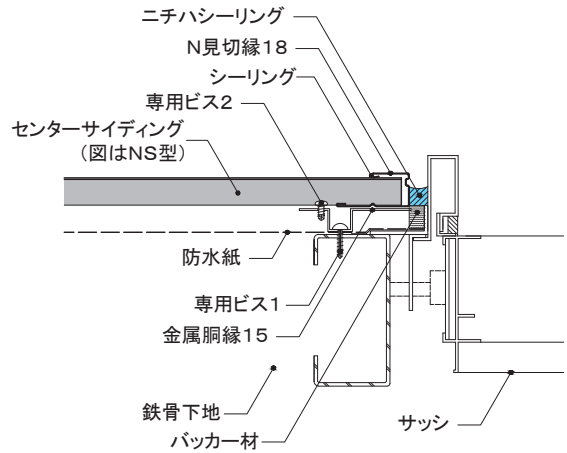
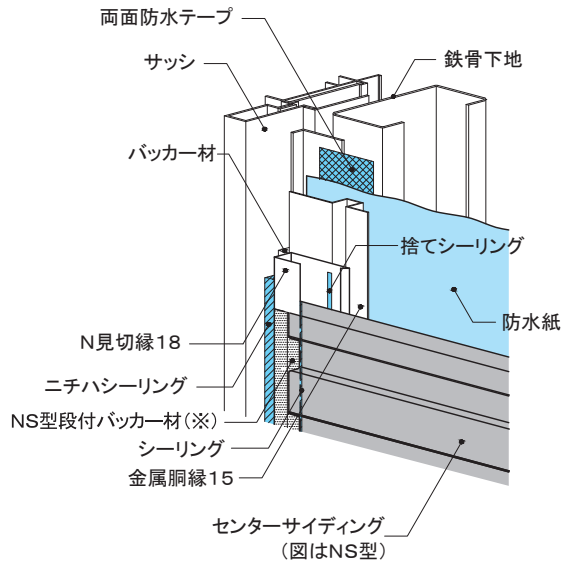
センターサイディング 18mm厚品

下地	鉄骨下地方向	金属胴縁方向	張り方向
鉄骨下地	縦	縦	横

8) 開口部

③左右側 N見切縁18

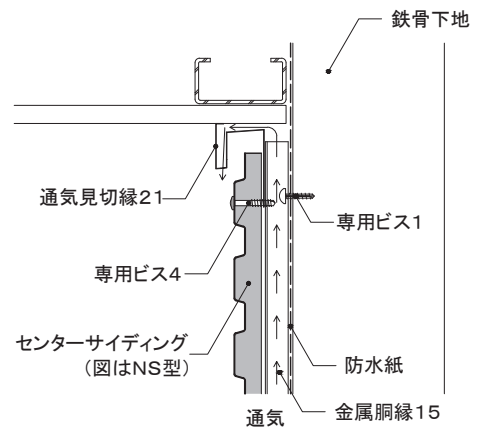
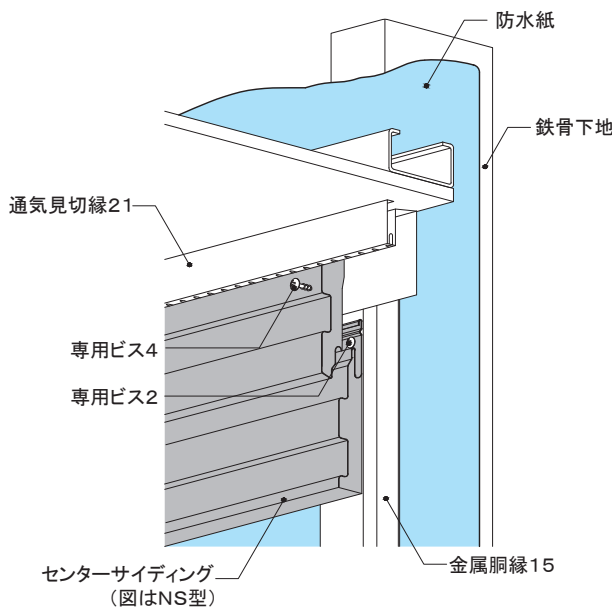
- 開口部周りには両面防水テープを必ず使用し、防水紙を施工します。
- N見切縁18とサッシの取り合い部は、バック材を取り付けます。
- N見切縁18に、図のように捨てシーリングを施工します。
- センターサイディング端部にNS型段付バック材を貼り付け、N見切縁18に差し込みます。
- サッシとN見切縁18の取り合い部は、マスキングテープで養生後ニチハシーリングを充填します。



9) 軒天部

①通気見切縁21

- センターサイディング施工前に通気見切縁21を図の位置に取り付けます。
- センターサイディングを表面から留め付ける場合は、専用ビス4で胴縁ごとに留め付けます。

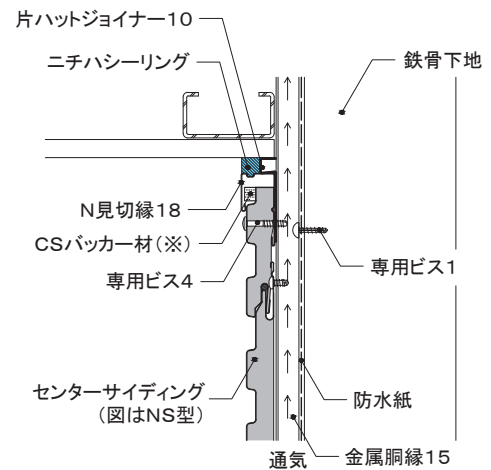
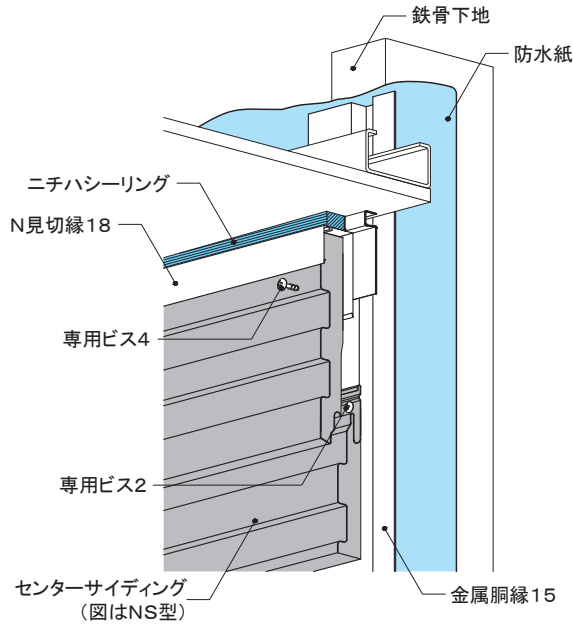


センターサイディング 18mm厚品	下地	鉄骨下地方向	金属胴縁方向	張り方向
	鉄骨下地	縦	縦	横

9) 軒天部

②N見切縁18

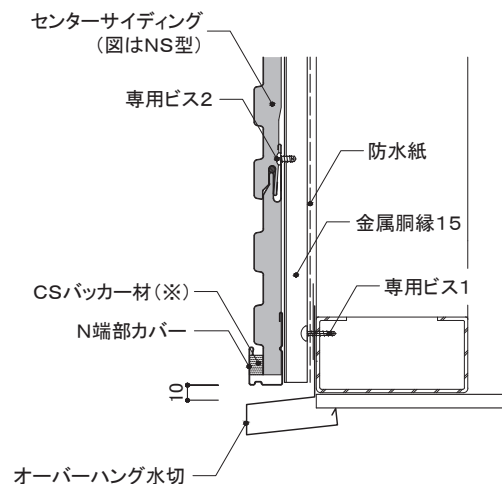
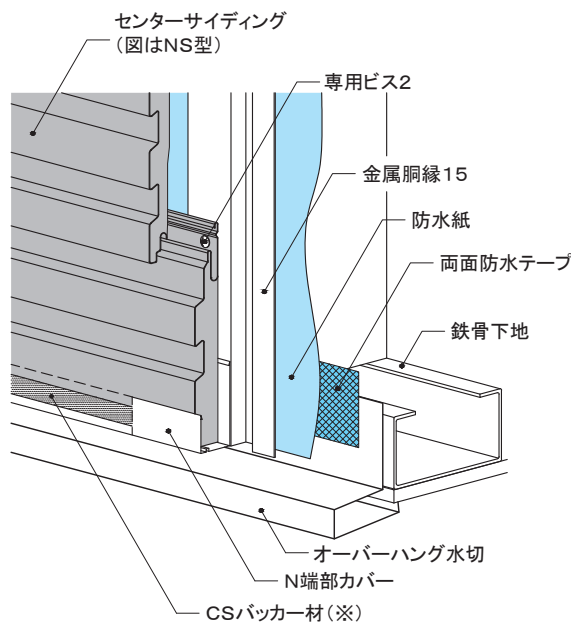
- 通気が小屋裏へ抜けるように軒天工事前に先行して、防水紙張りと同縁下地組みを行います。
- センターサイディング上端が柄凹部となる場合は、必要に応じてCSバッカー材を貼り付けます。(※)
- センターサイディングをN見切縁18に差し込み、専用ビス4で胴縁ごとに表面から留め付けます。
- 軒天材とN見切縁18の取り合い部は、片ハットジョイナー10を用いて10mm程度の隙間を設けて施工し、ニチハシーリングを充填します。



10) オーバーハング部

オーバーハング水切+N端部カバー

- 防水紙はオーバーハング水切の上にかぶせて施工し、両面防水テープで防水紙を貼り付けます。
- センターサイディング下端が柄凹部となる場合は、必要に応じてCSバッカー材を貼り付けます。(※)
- N端部カバーとオーバーハング水切の間に、10mmの隙間を設けます。



センターサイディング
標準施工法

センターサイディング
基本納まり図

本体・付属部材
詳細図

付属部材加工図

センターサイディング
木造編

センターサイディング
鉄骨造 金属胴縁編

センターサイディング
鉄骨造 直張り編

センター化粧幕板
標準施工法

センタールーフ
標準施工法

センタールーフ
納まり詳細図

参考資料

6-4 納まり詳細図

鉄骨下地横組

金属胴縁横組

サイディング縦張り

1)基本構成図・下地組図	
2)主要部材一覧表	
3)土台部	通気土台水切
4)上下接合部	中間水切18
5)左右接合部	嵌合
6)入隅部	N見切縁18
7)出隅部	S出隅鋼板受け18+S出隅カバー
8)開口部	①上側 N端部カバー ②下側 N見切縁18 ③左右側 N見切縁18
9)軒天部	①通気見切縁21 ②シーリング
10)オーバーハング部	オーバーハング水切



本施工方法は防耐火構造の大臣認定を取得していません。

センターサイディング 18mm厚品	下地	鉄骨下地方向	金属胴縁方向	張り方向
	鉄骨下地	横	横	縦

センターサイディング
標準施工法

センターサイディング
基本納まり図

本体・付属部材
詳細図

付属部材加工図

センターサイディング
木造編

センターサイディング
鉄骨造 金属胴縁編

センターサイディング
鉄骨造 直張り編

センター化粧石膏板
標準施工法

センタールーフ
標準施工法

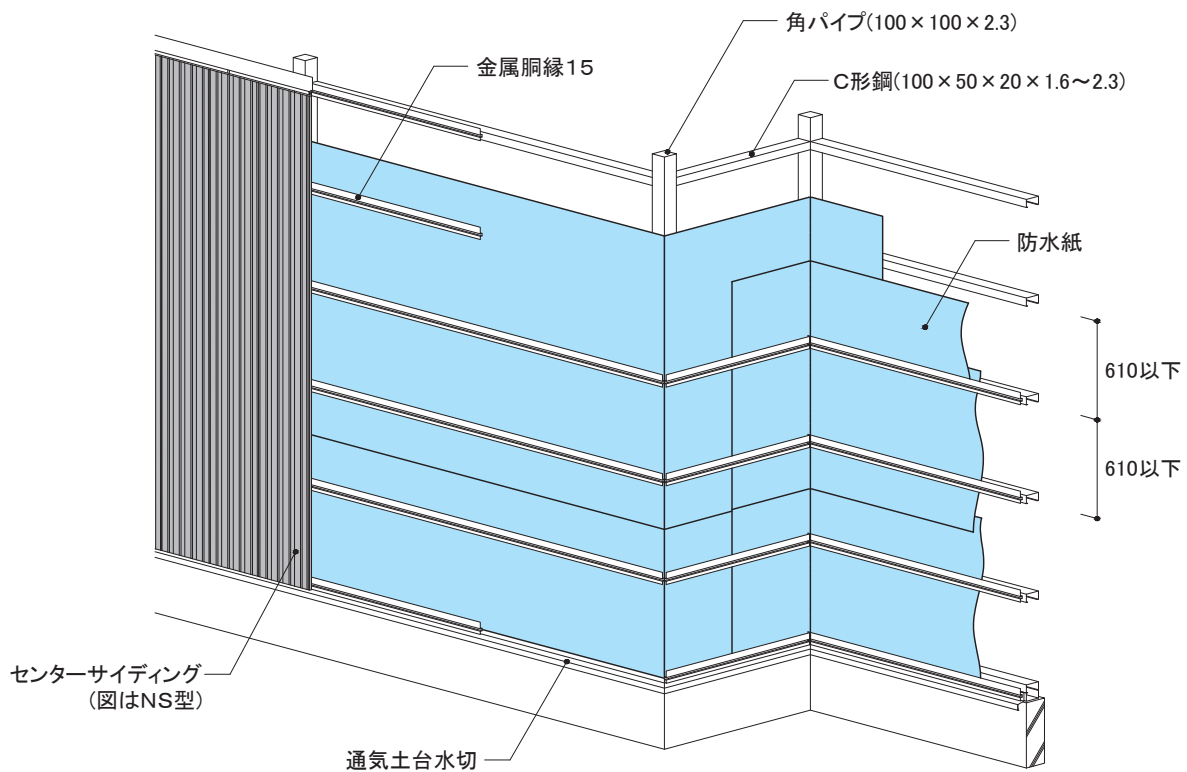
センタールーフ
納まり詳細図

参考資料

1) 基本構成図・下地組図

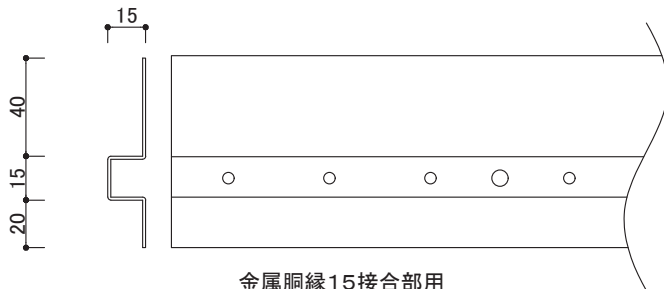
- 鉄骨下地は610mm以下の間隔とします。
- 通気土台水切は胴縁組みを行う前に取り付け、防水紙を上にかぶせて施工します。
- 防水紙は横張りとし、下から順に張り上げます。
- 金属胴縁15は610mm以下の間隔で配置し、専用ビス1を使用して、610mm以下の間隔で鉄骨下地に留め付けます。
- センターサイディングは専用ビス2を用いて、金属胴縁15に610mm以下の間隔で留付けます。

※本下地組は防耐火構造の大臣認定を取得しておりません。



2) 主要部材一覧表

■金属胴縁15 接合部用



金属胴縁15接合部用
【品番:KN2060】
材質:高耐食めつき鋼板 厚み:1.2mm 長さ:2,990mm
備考:専用ビス1で鉄骨下地へ固定

■専用ビス1 (金属胴縁15留付ビス)






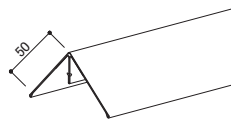
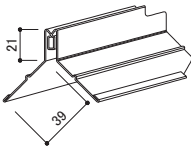
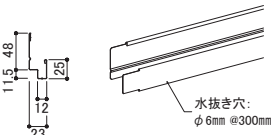
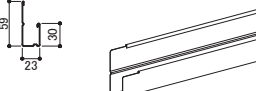
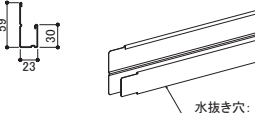
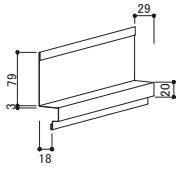
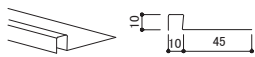
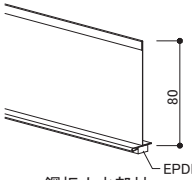
ステンステクスネジ
【品番:JK1140】
材質:ステンレス
サイズ:φ4mm×19mm

※各部材は、2024年2月時点のものです。最新の情報は、NICHIIA金属製外壁材・屋根材総合カタログでご確認ください。

センターサイディング 18mm厚品

下地	鉄骨下地方向	金属胴縁方向	張り方向
鉄骨下地	横	横	縦

2) 主要部材一覧表

<p>■専用ビス2 (本体留付ビス)</p>  <p>ステンステクスネジ 【品番:JK1510】 材質:ステンレス サイズ:φ4.5mm×10mm</p>	<p>■専用ビス3 (付属部材留付ビス)</p>  <p>平頭ねじ 【品番:KN65】 材質:ステンレス サイズ:φ4.8mm×13mm</p>	<p>■専用ビス4 (表面留付ビス)</p> <p>軒天部、笠木部などおよび補強工法でのセンターサイディング表面留め用ビス</p>  <p>ステンレスドリルビス 【品番:JK1740】 材質:ステンレス サイズ:φ4.5mm×27mm</p>	<p>■出隅カバー</p>  <p>S出隅カバー 【品番:ADS2****】 材質:塗装高耐食GLめっき鋼板 厚み:0.35mm 働き長さ:3,030mm</p>
<p>■出隅鋼板受け</p>  <p>S出隅鋼板受け18 【品番:ADU1F00A】 材質:塗装高耐食GLめっき鋼板 働き長さ:3,030mm</p>	<p>■タテ用スターター</p>  <p>水抜き穴: φ6mm @300mm</p> <p>タテ用スターター 【品番:AST5F0**】 材質:塗装高耐食GLめっき鋼板 厚み:0.35mm 働き長さ:3,030mm 水抜き穴:φ6mm @300mm 備考:左右継ぎ手加工あり</p>	<p>■見切縁</p>  <p>N見切縁18 【品番:AMKEF0**】 【品番:AMKGF0**】 材質:塗装高耐食GLめっき鋼板 厚み:0.35mm 働き長さ:3,030mm</p>	<p>■端部カバー</p>  <p>水抜き穴: φ10mm @300mm</p> <p>N端部カバー 【品番:AMKFF0**】 【品番:AMKHFO**】 材質:塗装高耐食GLめっき鋼板 厚み:0.35mm 働き長さ:3,030mm 水抜き穴:φ10mm @300mm</p>
<p>■中間水切</p>  <p>中間水切18 【品番:ATM6F0**】 材質:塗装高耐食GLめっき鋼板 厚み:0.35mm 長さ:3,030mm</p>	<p>■片ハットジョイナー10</p>  <p>片ハットジョイナー10 【品番:FHK1110R】 材質:フッ素樹脂コート高耐食GLめっき鋼板 厚み:0.3mm、長さ:2,000mm</p>	<p>■鋼板止水部材</p>  <p>鋼板止水部材 【品番:KE5100】 材質:塗装高耐食GLめっき鋼板 厚み:0.35mm 長さ:3,030mm</p> <p>EPDM</p>	

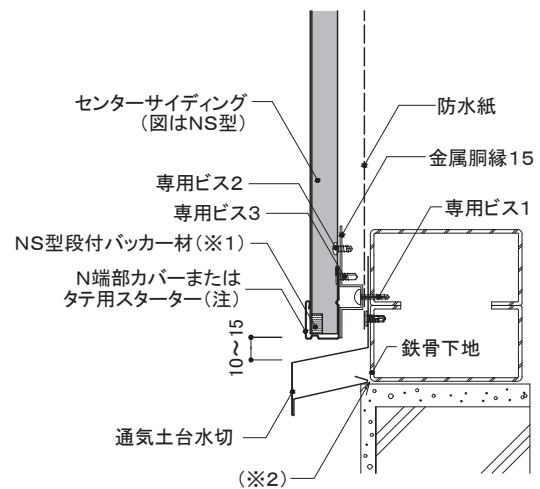
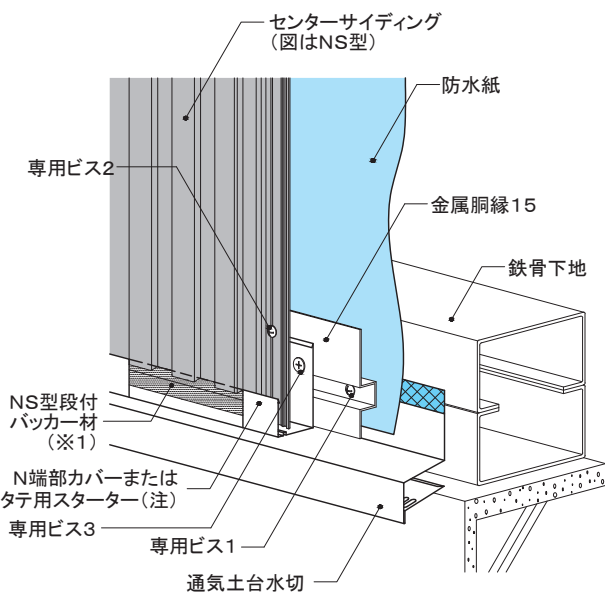
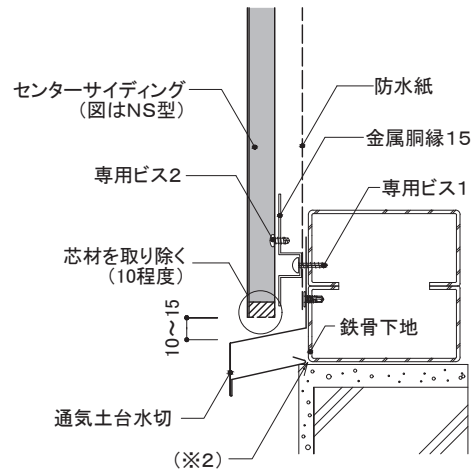
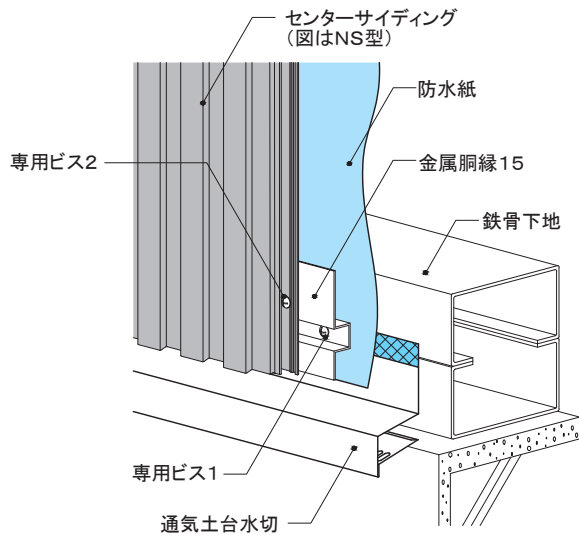
※各工法の納まり図例にて使用される主要な部材例です。(2024年2月時点)
その他の部材および各部材の最新情報は、NICHIIHA金属製外壁材・屋根材総合カタログでご確認ください。

センターサイディング 18mm厚品	下地	鉄骨下地	金属胴縁方向	張り方向
	鉄骨下地	横	横	縦

3) 土台部

通気土台水切

- 通気土台水切は、鉄骨下地に500mm以下の間隔で専用ビス3を用いて水平に留め付けます。
 - 金属胴縁15は鉄骨下地に専用ビス1を使用し、610mm以下の間隔で留め付けます。
 - センターサイディング下端はN端部カバーまたはタテ用スターターを使用するか、下端の芯材を10mm程度取り除きます。
 - N端部カバーまたはタテ用スターターを使用する場合、センターサイディング端部に必要に応じてNS型段付バッカー材 (ABK8Q0JL) を貼り付けます。(※1)
 - センターサイディング下端と通気土台水切の間に、10~15mmの隙間を設けます。
 - センターサイディングは、専用ビス2で金属胴縁15に留め付けます。
- (注)降雪量の多い地域では鋼板製の部材を使用せず、本体の芯材を取り除くかアルミ端部カバーを使用します。なお、アルミ端部カバーを使用する場合、NS型段付バッカー材は不要です。



※2 吹き上げなどによる雨水の浸入を防ぐため、止水処理が確実にされていることを確認してください。

標準施工法
センターサイディング

基本納まり図
センターサイディング

詳細図
本体・付属部材

付属部材加工図

木造編
センターサイディング

鉄骨造
金属胴縁編
センターサイディング

鉄骨造
直張り編
センターサイディング

標準施工法
センター化粧幕板

標準施工法
センタールーフ

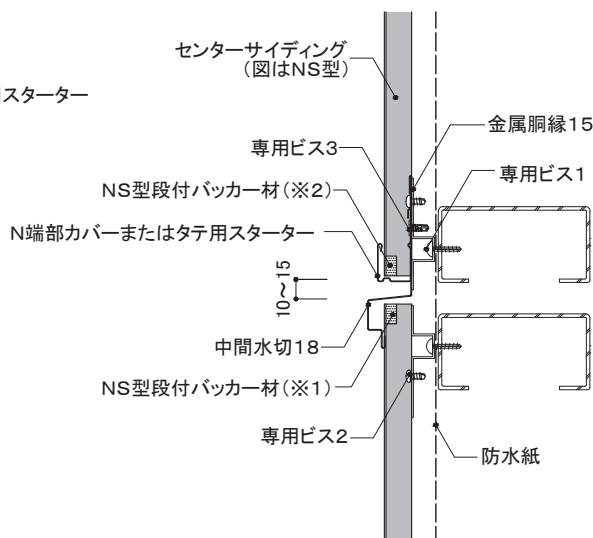
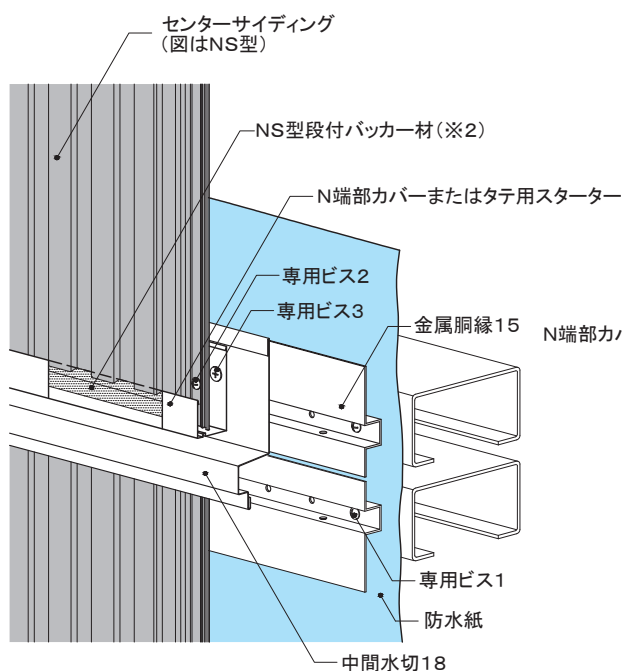
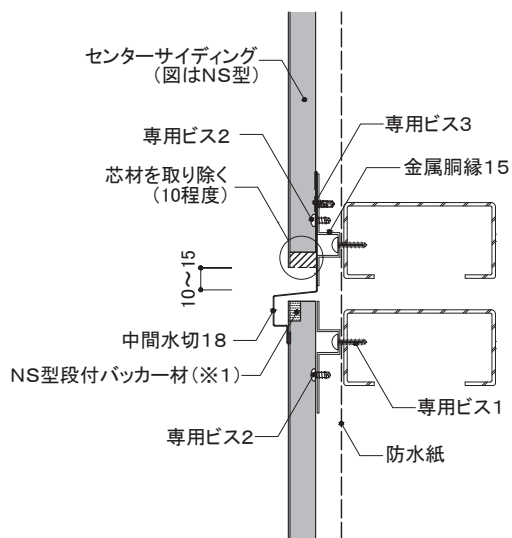
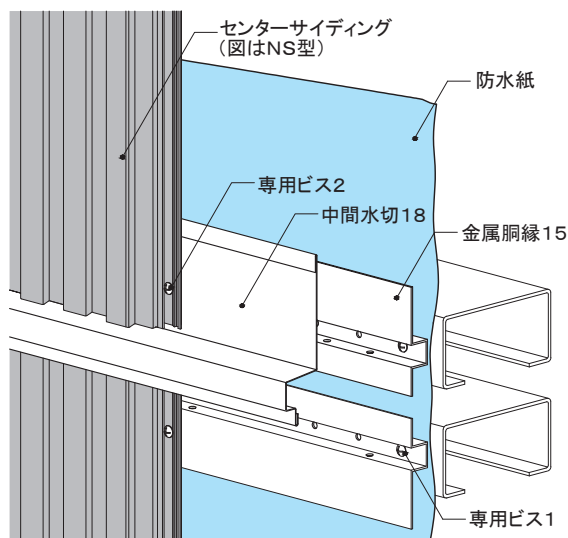
納まり詳細図
センタールーフ

参考資料

センターサイディング 18mm厚品	下地	鉄骨下地方向	金属胴縁方向	張り方向
	鉄骨下地	横	横	縦

4) 上下接合部 中間水切18

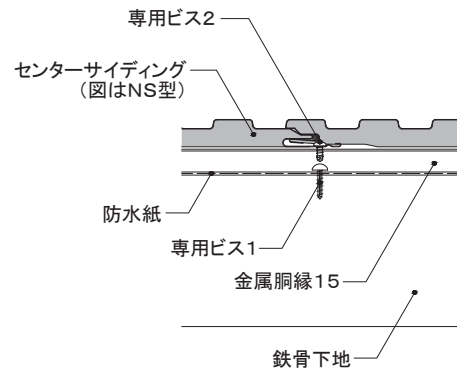
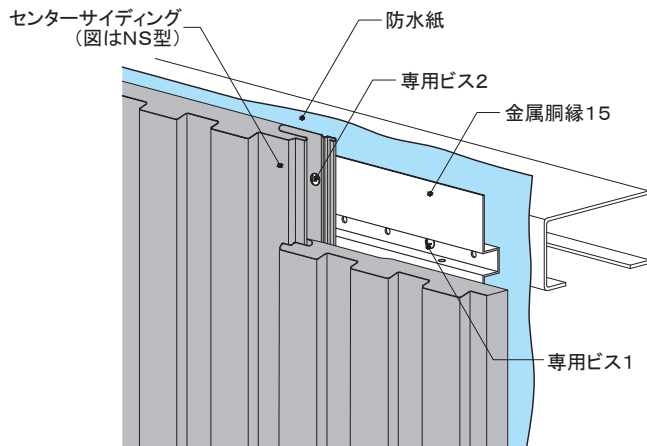
- 中間水切18の下側に施工するセンターサイディングの上端に、必要に応じてNS型段付パッカー材を貼り付けます。(※1)
- 中間水切18の上側に施工するセンターサイディングの下端はN端部カバーを使用するか、下端の芯材10mm程度取り除きます。
- N端部カバーまたはタテ用スターターを使用する場合、センターサイディング下端に必要に応じてNS型段付パッカー材 (ABK8Q0JL) を貼り付けます。(※2)
- 中間水切18と上側に施工するセンターサイディング下端の間に、10～15mmの隙間を設けます。
- センターサイディングを専用ビス2で金属胴縁15に留め付けます。



センターサイディング 18mm厚品	下地	鉄骨下地	鉄骨下地方向	金属胴縁方向	張り方向
		鉄骨下地	横	横	縦

5) 左右接合部	嵌合
----------	----

- センターサイディングは実を確実に嵌合させ、専用ビス2で金属胴縁15に留め付けます。
- 本体2枚ごとに働き幅と垂直を確認しながら施工します。



センターサイディング
標準施工法

センターサイディング
基本納まり図

本体・付属部材
詳細図

付属部材加工図

センターサイディング
木造編

センターサイディング
鉄骨造 金属胴縁編

センターサイディング
鉄骨造 直張り編

センター化粧幕板
標準施工法

センタールーフ
標準施工法

センタールーフ
納まり詳細図

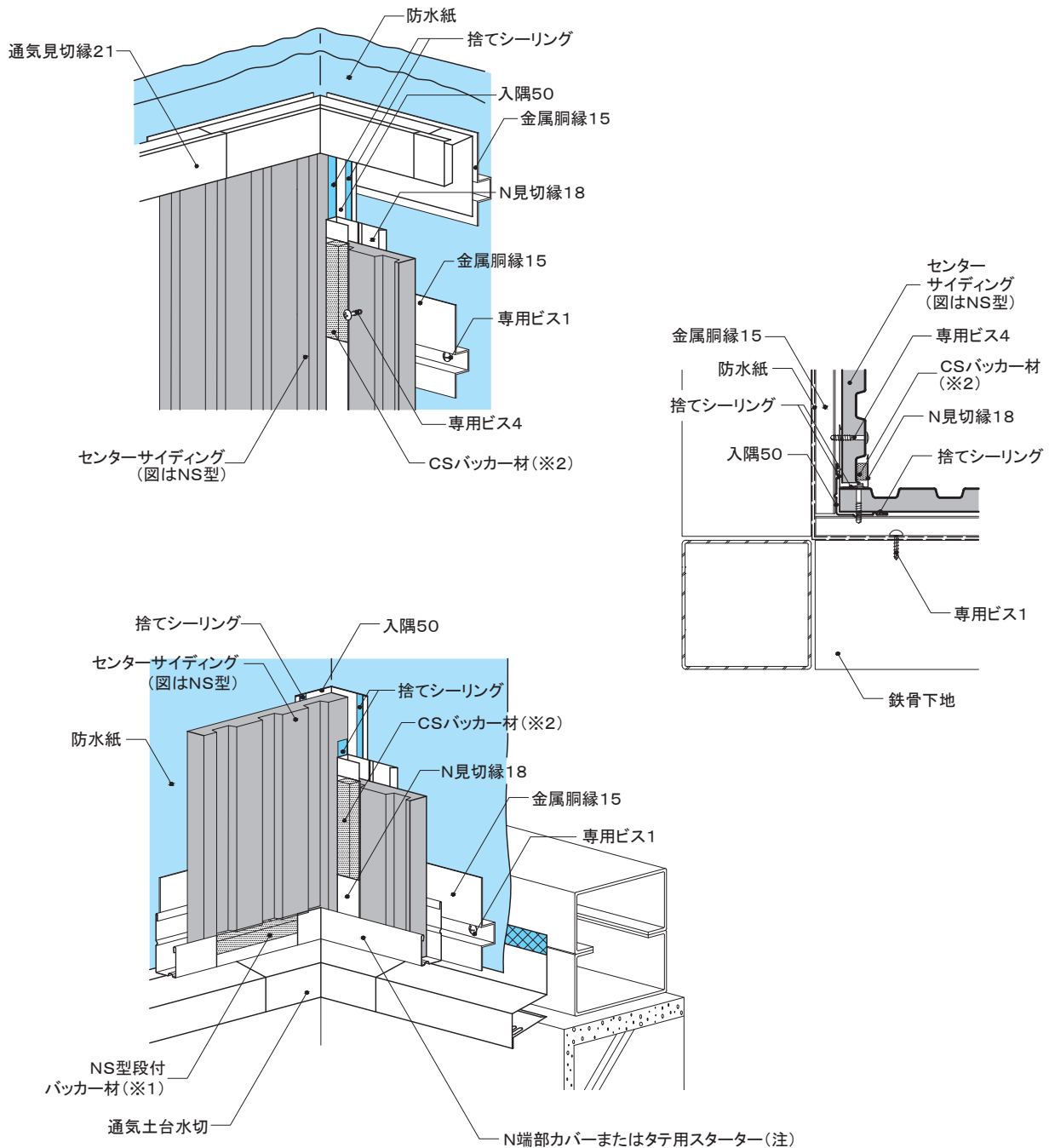
参考資料

センターサイディング 18mm厚品	下地	鉄骨下地方向	金属胴縁方向	張り方向
	鉄骨下地	横	横	縦

6) 入隅部

N見切縁18

- 入隅50を取り付け、捨てシーリングを図のように両側端部に施工します。
 - センターサイディングの上下端に、必要に応じてNS型段付パッカー材(ABK8Q0JL)を貼り付け、N端部カバーおよび通気見切縁21に差し込みます。(※1)
 - 先施工側のセンターサイディングを施工後、図のように捨てシーリングを施工し、N見切縁18を取り付けます。
 - センターサイディング端部が柄凹部でN見切縁18に隙間ができる場合は、必要に応じて図のようにCSパッカー材を貼り付けます。(※2)
 - センターサイディングの実部に留め付けができない場合は、表面から専用ビス4で留め付けます。
- (注)降雪量の多い地域では鋼板製の部材を使用せず、本体の芯材を取り除くかアルミ端部カバーを使用します。
なお、アルミ端部カバーを使用する場合、NS型段付パッカー材は不要です。



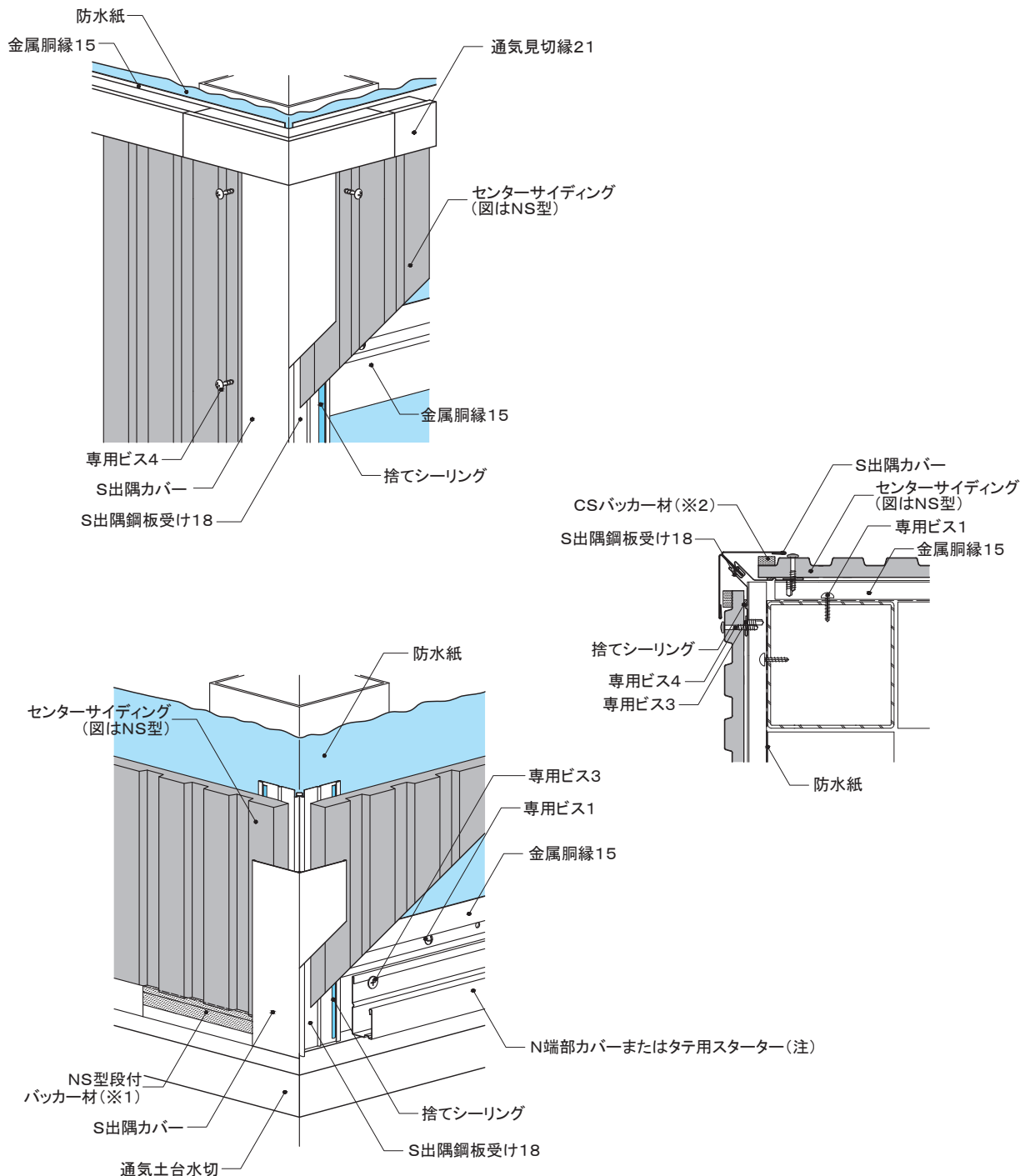
センターサイディング 18mm厚品

下地	鉄骨下地	鉄骨下地方向	金属胴縁方向	張り方向
	鉄骨下地	横	横	縦

7) 出隅部

S出隅鋼板受け18+S出隅カバー

- S出隅鋼板受け18を取り付け、捨てシーリングを施工します。
 - センターサイディングの下端に、必要に応じてNS型段付バッカー材 (ABK8Q0JL) を貼り付け、N端部カバーおよび通気見切縁21に差し込みます。(※1)
 - センターサイディング端部が柄凹部となりS出隅カバーと隙間ができる場合は、図のように必要に応じてCSバッカー材を貼り付けます。(※2)
 - 実部に留め付けられないセンターサイディングは表面から専用ビス4で留め付けます。
 - S出隅カバーをS出隅鋼板受け18に差し込みます。
- (注) 降雪量の多い地域では鋼板製の部材を使用せず、本体の芯材を取り除くかアルミ端部カバーを使用します。なお、アルミ端部カバーを使用する場合、NS型段付バッカー材は不要です。



センターサイディング
標準施工法

センターサイディング
基本納まり図

本体・付属部材
詳細図

付属部材加工図

センターサイディング
木造編

センターサイディング
鉄骨造 金属胴縁編

センターサイディング
鉄骨造 直張り編

センター化粧幕板
標準施工法

センタールーフ
標準施工法

センタールーフ
納まり詳細図

参考資料

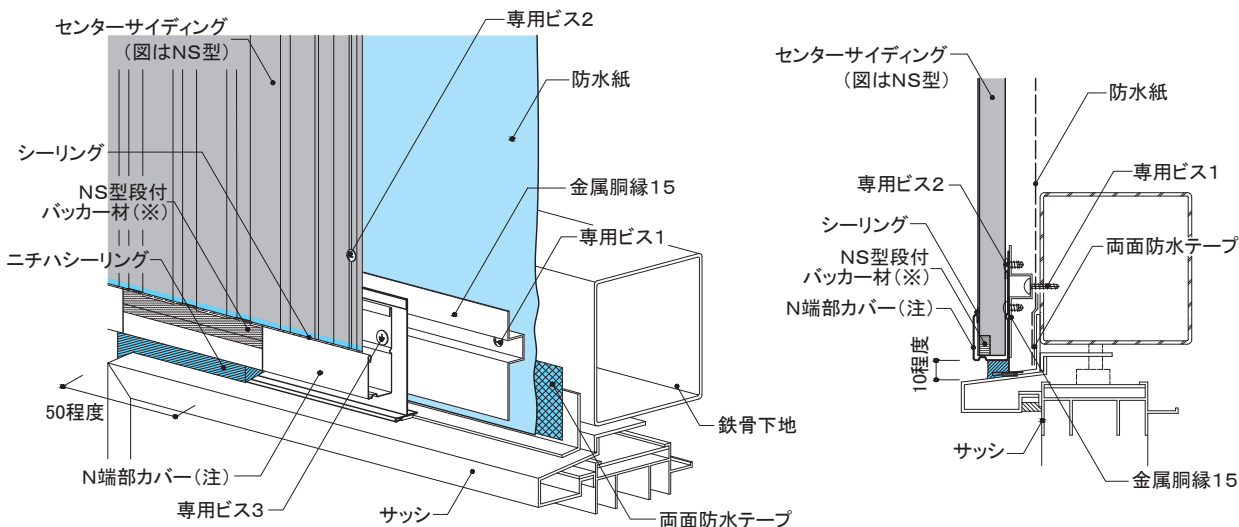
センターサイディング 18mm厚品

下地	鉄骨下地	金属胴縁方向	張り方向
鉄骨下地	横	横	縦

8) 開口部

① 上側 N端部カバー

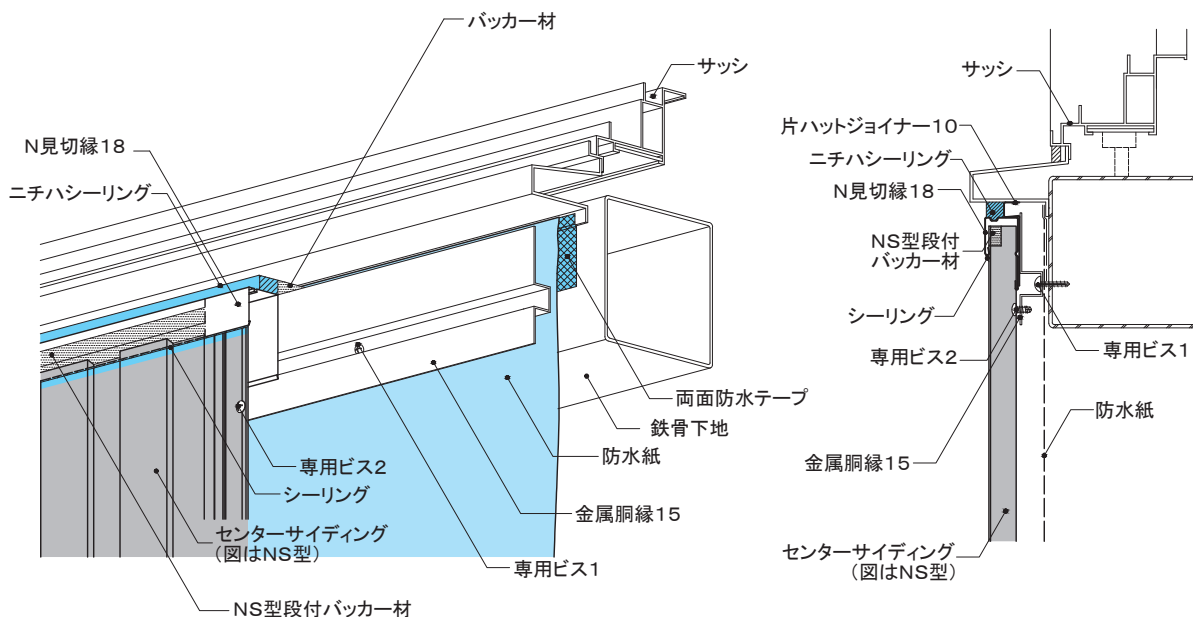
- 開口部まわりには両面防水テープを必ず使用し、防水紙を施工します。
 - 開口部上側は水抜き穴のあるN端部カバーを使用します。見切縁を使用する場合は、水抜き穴(φ10mm×300mm間隔)を現場加工します。
 - N端部カバーとサッシとの取り合い部に、10mm程度の隙間を設けて施工します。
 - センターサイディング下端に、NS型段付バック材を貼り付け、N端部カバーに差し込みます。(※)
 - サッシ上部は、端部から50mm程度、マスキングテープで養生後ニチハシーリングを充填します。
- (注) 水抜き穴のない見切縁を使用する際は、全てニチハシーリングを充填します。



8) 開口部

② 下側 N見切縁18

- 開口部まわりには両面防水テープを必ず使用し、防水紙を施工します。
- サッシとN見切縁18の取り合い部に、バック材を取り付けます。
- センターサイディング上端に必要に応じてNS型段付バック材を貼り付け、N見切縁18に差し込みます。
- センターサイディングは専用ビス2で実部に留め付けます。
- サッシとN見切縁18の取り合い部は、マスキングテープで養生後ニチハシーリングを充填します。



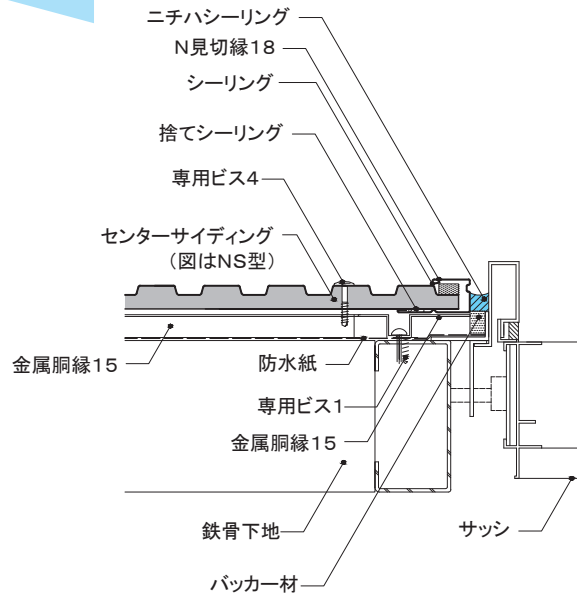
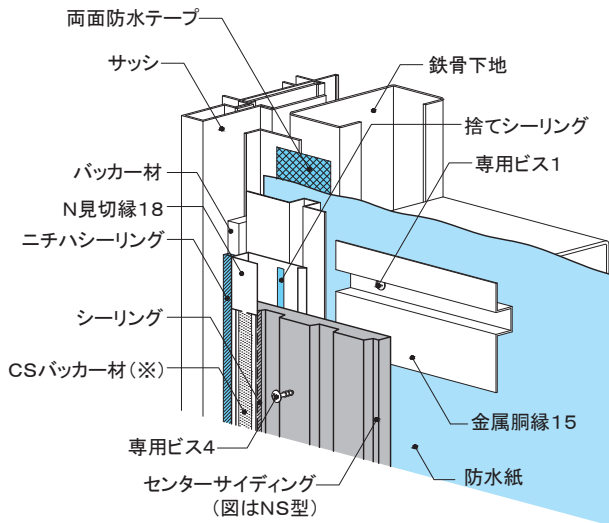
センターサイディング 18mm厚品

下地	鉄骨下地	鉄骨下地方向	金属胴縁方向	張り方向
	鉄骨下地	横	横	縦

8) 開口部

③ 左右側 N見切縁18

- 開口部まわりには両面防水テープを必ず使用し、防水紙を施工します。
- サッシとN見切縁18の取り合い部は、パッカー材を用いて10mm程度の隙間を設けて施工します。マスキングテープで養生後、ニチハシーリングを充填します。
- 図のように捨てシーリングをN見切縁18に施工します。
- センターサイディング端部が柄凹部でN見切縁18に隙間ができる場合は、図のようにCSパッカー材を貼り付けます。(※)
- センターサイディングの実部に留付ができない場合は、表面から専用ビス4で留め付けます。



センターサイディング
標準施工法

センターサイディング
基本納まり図

本体・付属部材
詳細図

付属部材加工図

センターサイディング
木造編

センターサイディング
鉄骨造 金属胴縁編

センターサイディング
鉄骨造 直張り編

センター化粧幕板
標準施工法

センタールーフ
標準施工法

センタールーフ
納まり詳細図

参考資料

センターサイディング 18mm厚品

下地
鉄骨下地

鉄骨下地方向
横

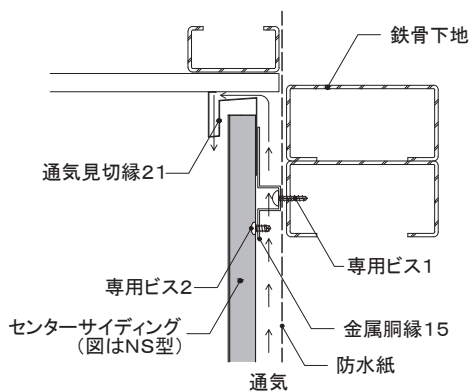
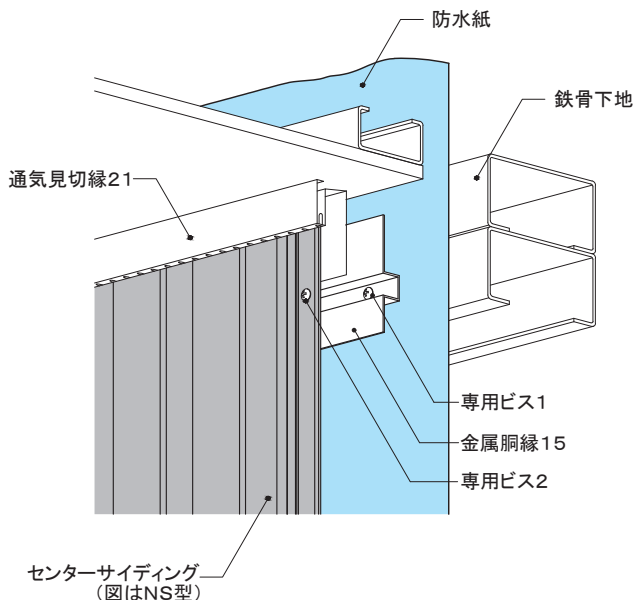
金属胴縁方向
横

張り方向
縦

9) 軒天部

① 通気見切縁21

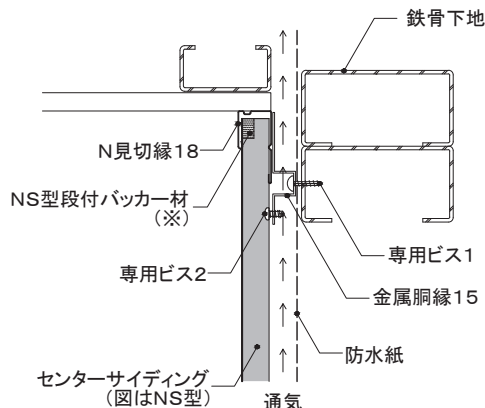
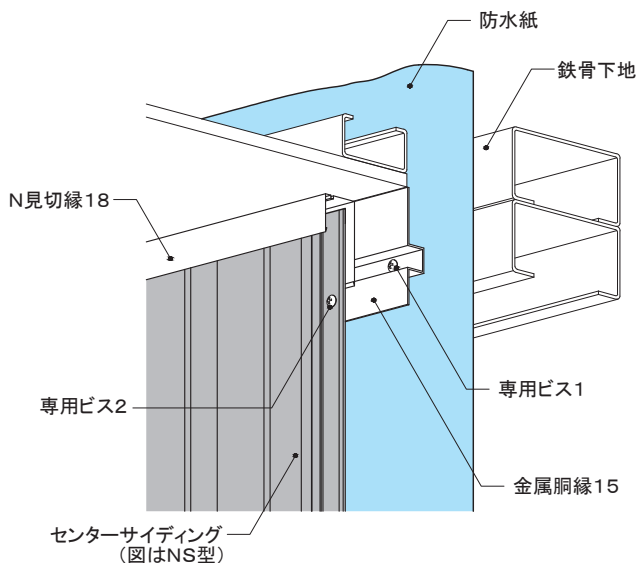
- センターサイディングを施工前に通気見切縁21を図の位置に取り付けます。
- センターサイディングを通気見切縁21に差し込み、専用ビス2で金属胴縁15に留め付けます。



9) 軒天部

② シーリング

- 通気が小屋裏へ抜けるように軒天工事前に先行して、防水紙張りと同縁下地組みを行います。
- センターサイディング上端に、必要に応じてNS型段付バッカー材を貼り付けます。(※)

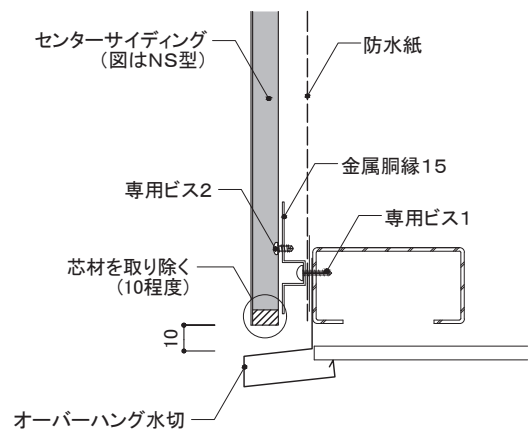
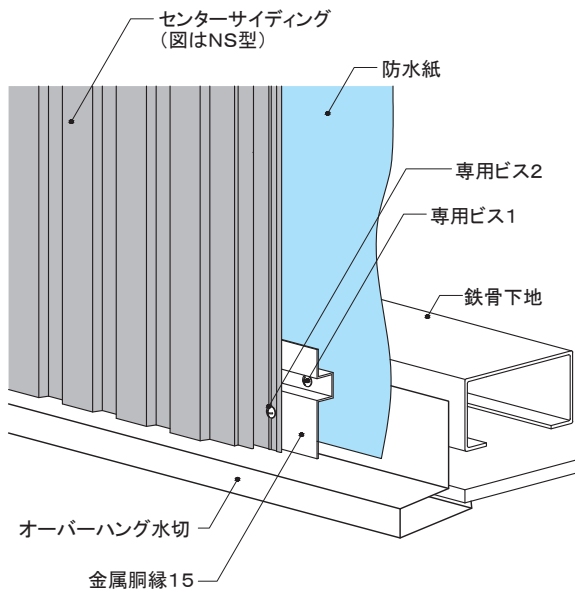
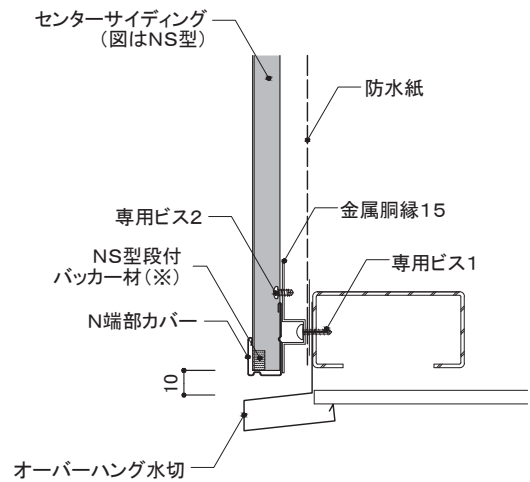
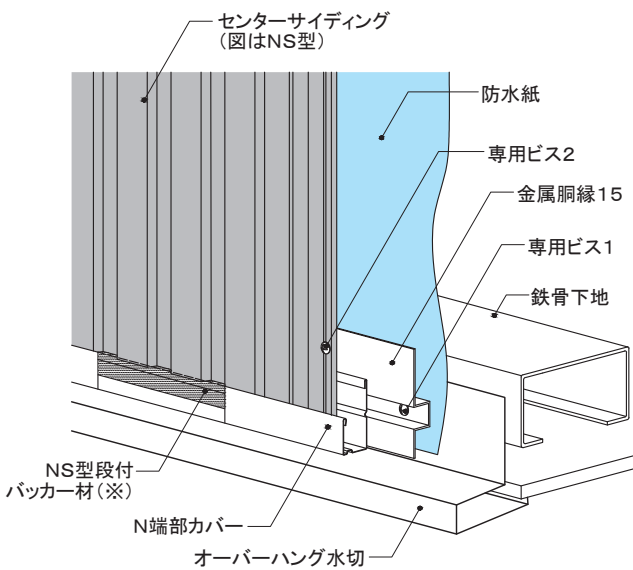


センターサイディング 18mm厚品	下地	鉄骨下地	金属胴縁方向	金属胴縁方向	張り方向
	鉄骨下地	横	横	縦	

10) オーバーハング部

オーバーハング水切

- 防水紙はオーバーハング水切の上にかぶせて施工します。
- センターサイディング下端はN端部カバーを使用するか、芯材を10mm程度取り除きます。
- N端部カバーを使用する場合は、センターサイディング下端に必要なに応じてNS型段付パッカー材を貼り付け、N端部カバーに差し込みます。(※)
- センターサイディング下端とオーバーハング水切の間に、10mmの隙間を設けます。
- センターサイディングを専用ビス2で金属胴縁15に留め付けます。



センターサイディング
標準施工法

センターサイディング
基本納まり図

本体・付属部材
詳細図

付属部材加工図

センターサイディング
木造編

センターサイディング
鉄骨造 金属胴縁編

センターサイディング
鉄骨造 直張り編

センター化粧幕板
標準施工法

センタールーフ
標準施工法

センタールーフ
納まり詳細図

参考資料

6-5 納まり詳細図

鉄骨下地縦組

金属胴縁横組

サイディング縦張り

1)基本構成図・下地組図	
2)主要部材一覧表	
3)土台部	通気土台水切
4)上下接合部	中間水切18
5)左右接合部	嵌合
6)入隅部	N見切縁18
7)出隅部	S出隅鋼板受け18+S出隅カバー
8)開口部	①上側 N端部カバー ②下側 N見切縁18 ③左右側 N見切縁18
9)軒天部	①通気見切縁21 ②シーリング
10)オーバーハング部	オーバーハング水切



本施工方法は防耐火構造の大臣認定を取得していません。

センターサイディング 18mm厚品	下地	鉄骨下地方向	金属胴縁方向	張り方向
	鉄骨下地	縦	横	縦

センターサイディング
標準施工法

センターサイディング
基本納まり図

本体・付属部材
詳細図

付属部材加工図

センターサイディング
木造編

センターサイディング
鉄骨造 金属胴縁編

センターサイディング
鉄骨造 直張り編

センター化粧石膏板
標準施工法

センタールーフ
標準施工法

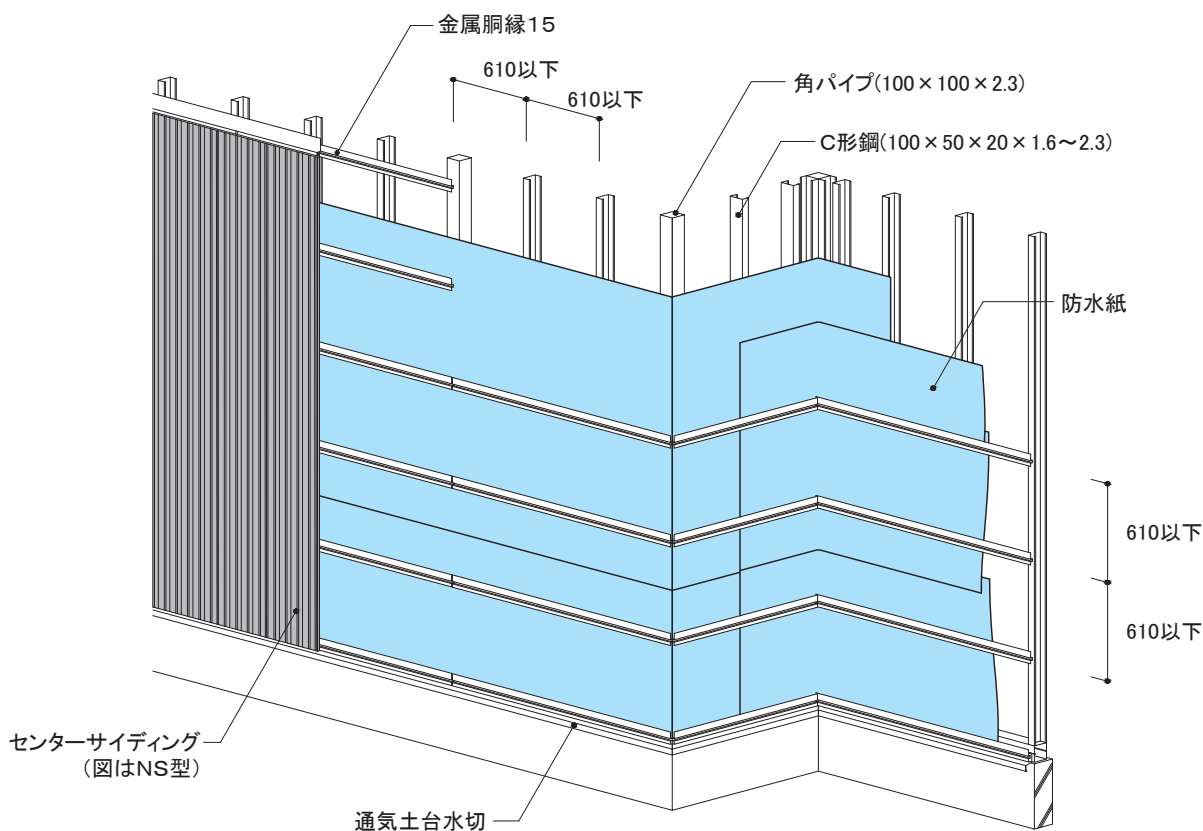
センタールーフ
納まり詳細図

参考資料

1) 基本構成図・下地組図

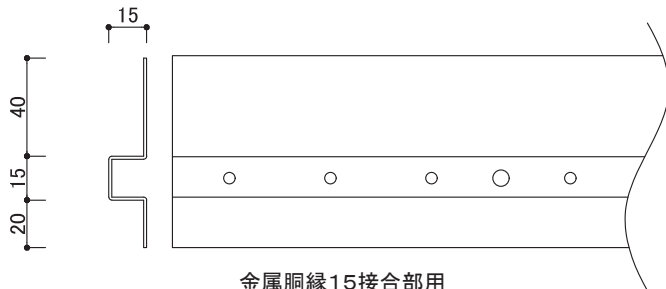
- 鉄骨下地は610mm以下の間隔とします。
- 通気土台水切は胴縁組みを行う前に取り付け、防水紙を上にかぶせて施工します。
- 防水紙は横張りとし、下から順に張り上げます。
- 金属胴縁15は610mm以下の間隔で配置し、専用ビス1を使用して、610mm以下の間隔で鉄骨下地に留め付けます。
- センターサイディングは専用ビス2を使用して、金属胴縁15に610mm以下の間隔で留め付けます。

※本下地組は防耐火構造の大臣認定を取得していません。



2) 主要部材一覧表

■金属胴縁15 接合部用



金属胴縁15接合部用
【品番: KN2060】
材質: 高耐食めつき鋼板 厚み: 1.2mm 長さ: 2,990mm
備考: 専用ビス1で鉄骨下地へ固定

■専用ビス1

(金属胴縁15留付ビス)



ステンステクスネジ
【品番: JK1140】
材質: ステンレス
サイズ: φ4mm × 19mm

※各部材は、2024年2月時点のものです。最新の情報は、NICHIIA金属製外壁材・屋根材総合カタログでご確認ください。

センターサイディング 18mm厚品

下地
鉄骨下地

鉄骨下地方向
縦

金属胴縁方向
横

張り方向
縦

2) 主要部材一覧表

■専用ビス2 (本体留付ビス)



ステンステクスネジ
【品番:JK1510】
材質:ステンレス
サイズ:φ4.5mm×10mm

■専用ビス3 (付属部材留付ビス)



平頭ねじ
【品番:KN65】
材質:ステンレス
サイズ:φ4.8mm×13mm

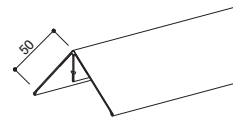
■専用ビス4 (表面留付ビス)

軒尾部、笠木部などおよび補強工法での
センターサイディング表面留め用ビス



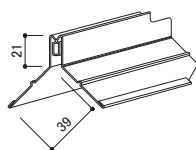
ステンレドリルビス
【品番:JK1740】
材質:ステンレス
サイズ:φ4.5mm×27mm

■出隅カバー



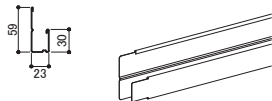
S出隅カバー
【品番:ADS2****】
材質:塗装高耐食GLめっき鋼板
厚み:0.35mm 働き長さ:3,030mm

■出隅鋼板受け



S出隅鋼板受け18
【品番:ADU1F00A】
材質:塗装高耐食GLめっき鋼板
働き長さ:3,030mm

■見切縁



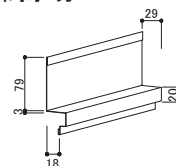
N見切縁18
【品番:AMKEF0**】
【品番:AMKGF0**】
材質:塗装高耐食GLめっき鋼板
厚み:0.35mm 働き長さ:3,030mm

■端部カバー



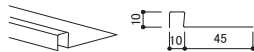
N端部カバー
【品番:AMKFF0**】
【品番:AMKH0**】
材質:塗装高耐食GLめっき鋼板
厚み:0.35mm 働き長さ:3,030mm
水抜き穴:φ10mm @ 300mm

■中間水切



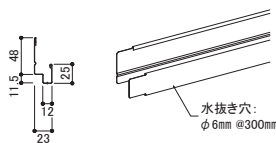
中間水切18
【品番:ATM6F0**】
材質:塗装高耐食GLめっき鋼板
厚み:0.35mm 長さ:3,030mm

■片ハットジョイナー10



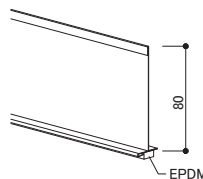
片ハットジョイナー10
【品番:FHK1110R】
材質:フッ素樹脂コート高耐食GLめっき鋼板
厚み:0.3mm、長さ:2,000mm

■タテ用スターター



タテ用スターター
【品番:AST5F0**】
材質:塗装高耐食GLめっき鋼板
厚み:0.35mm 働き長さ:3,030mm
水抜き穴:φ6mm @ 300mm
備考:左右継ぎ手加工あり

■鋼板止水部材



鋼板止水部材
【品番:KE5100】
材質:塗装高耐食GLめっき鋼板
厚み:0.35mm 長さ:3,030mm

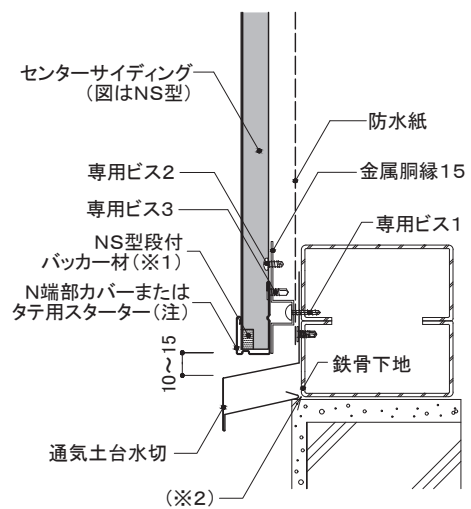
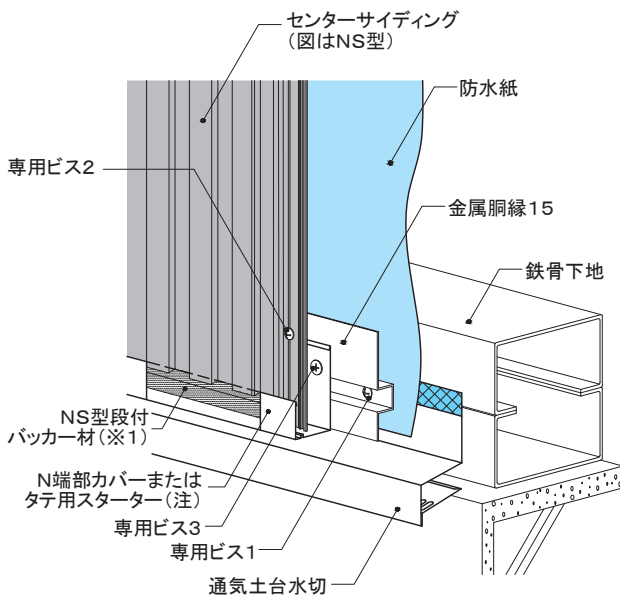
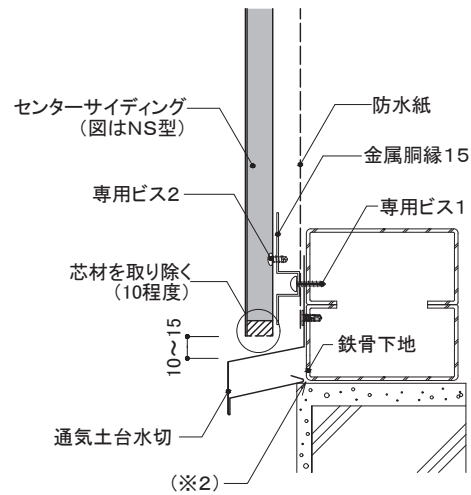
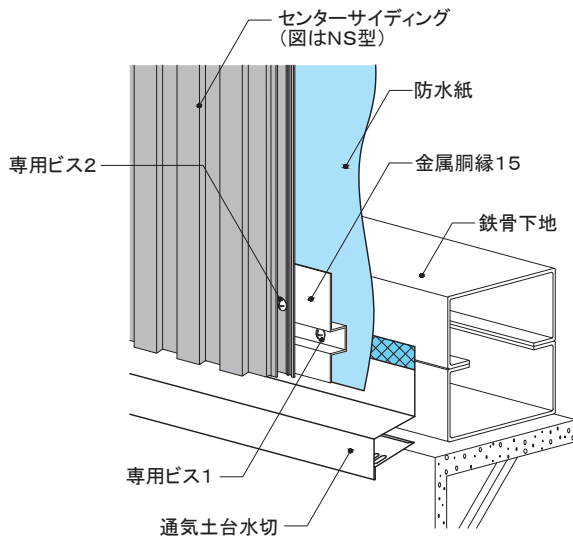
※各工法の納まり図例にて使用される主要な部材例です。(2024年2月時点)
その他の部材および部材の最新情報は、NICHIIA金属製外壁材・屋根材総合カタログでご確認ください。

センターサイディング 18mm厚品	下地	鉄骨下地	金属胴縁方向	張り方向
	鉄骨下地	縦	横	縦

3) 土台部

通気土台水切

- 通気土台水切は、鉄骨下地に500mm以下の間隔で専用ビス3を用いて水平に留め付けます。
 - 金属胴縁15は鉄骨下地に専用ビス1を使用し、610mm以下の間隔で留め付けます。
 - センターサイディング下端はN端部カバーまたはタテ用スターターを使用するか、下端の芯材を10mm程度取り除きます。
 - N端部カバーまたはタテ用スターターを使用する場合、センターサイディング端部に必要に応じてNS型段付バッカー材(ABK8Q0JL)を貼り付けます。(※1)
 - センターサイディング下端と通気土台水切の間に、10~15mmの隙間を設けます。
 - センターサイディングは、専用ビス2で金属胴縁15に留め付けます。
- (注)降雪量の多い地域では鋼板製の部材を使用せず、本体の芯材を取り除くかアルミ端部カバーを使用します。なお、アルミ端部カバーを使用する場合、NS型段付バッカー材は不要です。



※2 吹き上げなどによる雨水の浸入を防ぐため、止水処理が確実にされていることを確認してください。

標準施工法
センターサイディング

基本納まり図
センターサイディング

詳細図
本体・付属部材

付属部材加工図

木造編
センターサイディング

鉄骨造
金属胴縁編
センターサイディング

鉄骨造
直張り編
センターサイディング

標準施工法
センター化粧幕板

標準施工法
センタールーフ

納まり詳細図
センタールーフ

参考資料

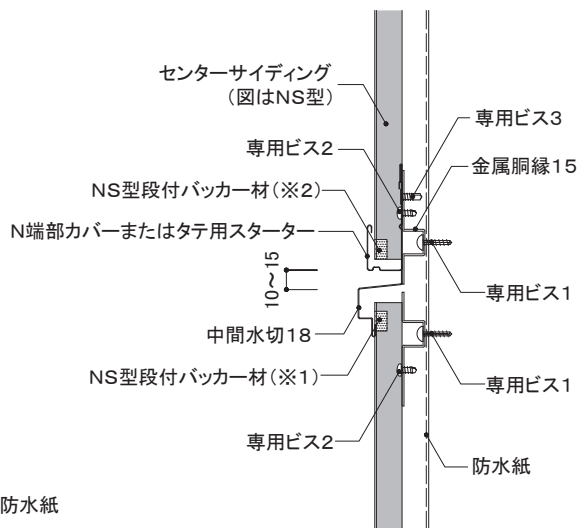
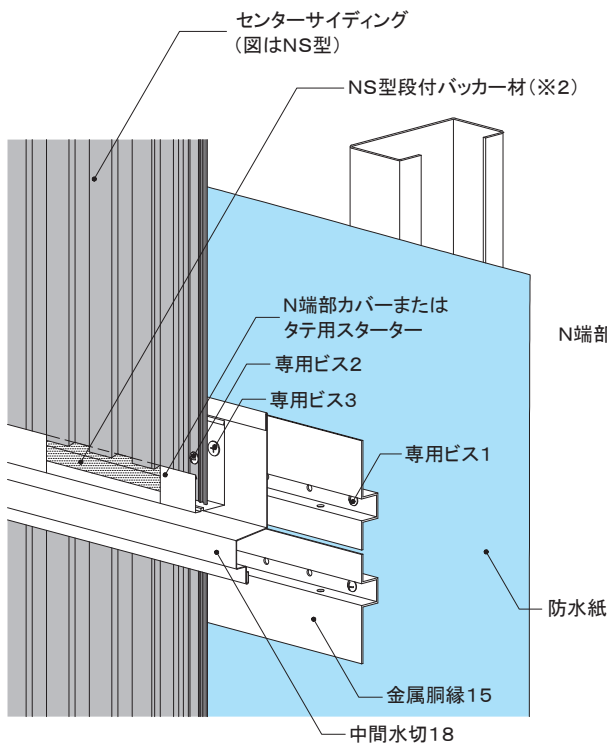
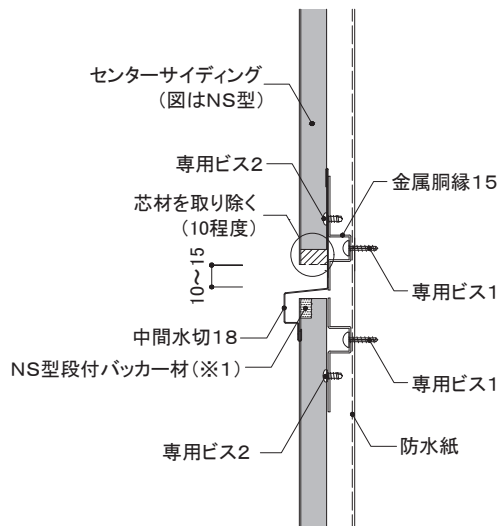
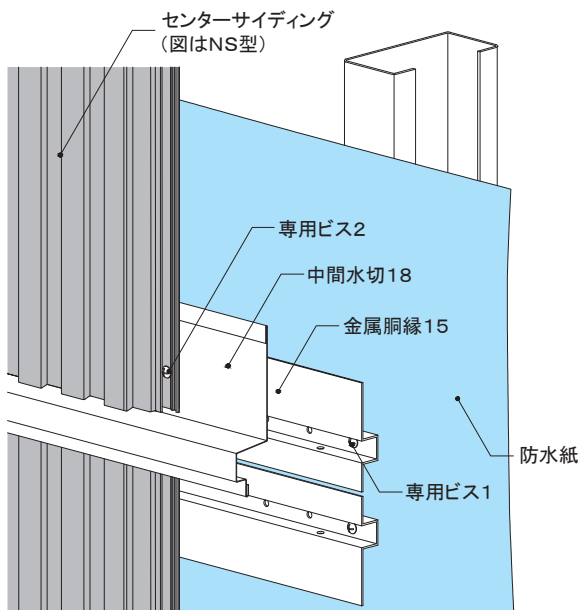
センターサイディング 18mm厚品

下地	鉄骨下地方向	金属胴縁方向	張り方向
鉄骨下地	縦	横	縦

4) 上下接合部

中間水切18

- 中間水切18の下側に施工するセンターサイディングの上端に、必要に応じてNS型段付バッカー材を貼り付けます。(※1)
- 中間水切18の上側に施工するセンターサイディングの下端はN端部カバーを使用するか、下端の芯材を10mm程度取り除きます。
- N端部カバーまたはタテ用スターターを使用する場合、センターサイディング下端に必要なに応じてNS型段付バッカー材 (ABK8Q0JL) を貼り付けます。(※2)
- 中間水切18と上側に施工するセンターサイディング下端の間に、10~15mmの隙間を設けます。
- センターサイディングは、専用ビス2で金属胴縁15に留め付けます。



センターサイディング 18mm厚品	下地	鉄骨下地	金属胴縁方向	張り方向
	鉄骨下地	縦	横	縦

5) 左右接合部	嵌合
<ul style="list-style-type: none"> ●センターサイディングは実を確実に嵌合させ、専用ビス2で金属胴縁15に留め付けます。 ●本体2枚ごとに働き幅と垂直を確認しながら施工します。 	

標準施工法	センターサイディング
基本納まり図	センターサイディング
詳細図	本体・付属部材
	付属部材加工図
木造編	センターサイディング
鉄骨造	センターサイディング
直張り編	センターサイディング
標準施工法	センター化粧幕板
標準施工法	センタールーフ
納まり詳細図	センタールーフ
参考資料	

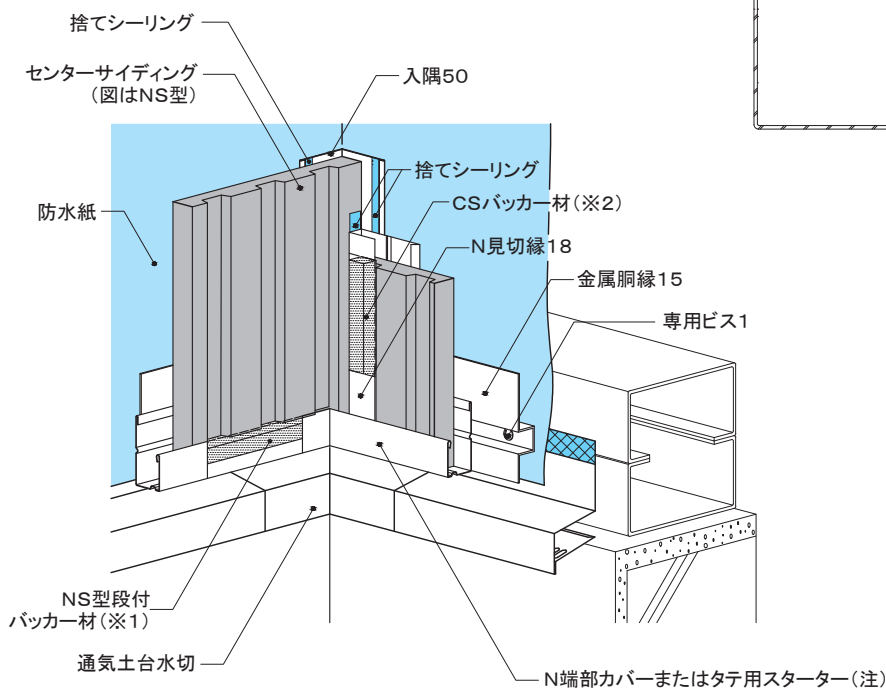
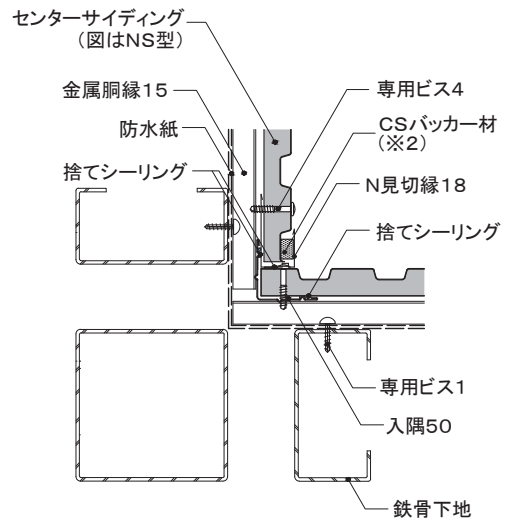
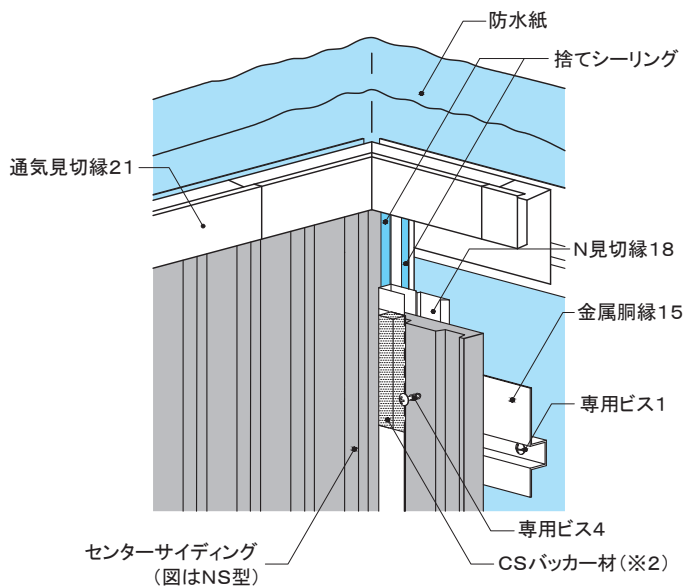
センターサイディング 18mm厚品

下地	鉄骨下地	鉄骨下地方向	金属胴縁方向	張り方向
鉄骨下地		縦	横	縦

6) 入隅部

N見切縁18

- 入隅50を取り付け、捨てシーリングを図のように両側端部に施工します。
 - センターサイディングの下端に、必要に応じてNS型段付バック材(ABK8Q0JL)を貼り付け、N端部カバーおよび通気見切縁21に差し込みます。(※1)
 - 先施工側のサイディングを施工後、図のように捨てシーリングを施工し、N見切縁18を取り付けます。
 - センターサイディング端部が柄凹部でN見切縁18に隙間ができる場合は、必要に応じて図のようにCSバック材を貼り付けます。(※2)
 - センターサイディングの実部に留め付けができない場合は、表面から専用ビス4で留め付けます。
- (注)降雪量の多い地域では鋼板製のN端部カバーを使用せず、本体の芯材を取り除くかアルミ端部カバーを使用します。なお、アルミ端部カバーを使用する場合、NS型段付バック材は不要です。



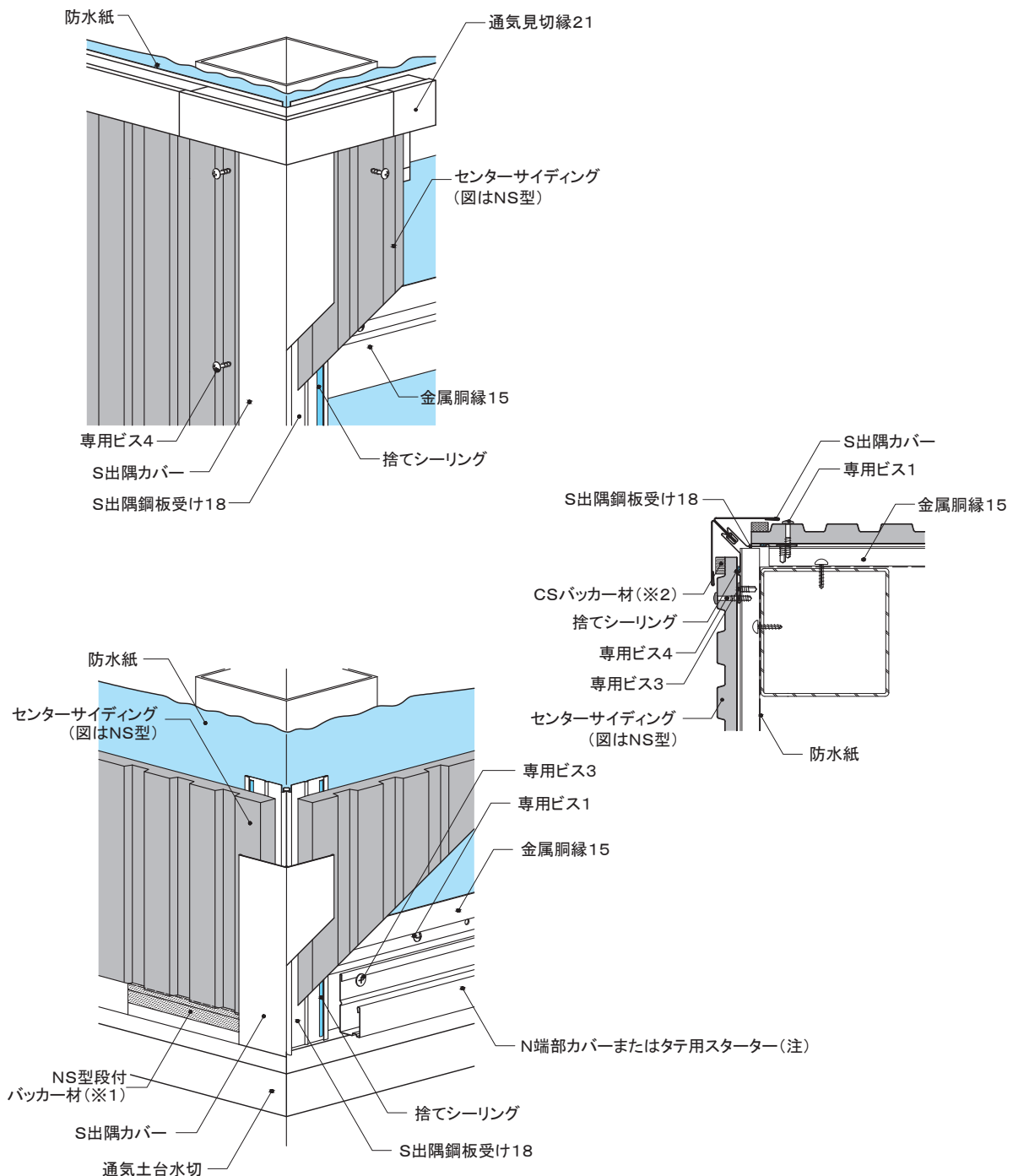
センターサイディング 18mm厚品

下地	鉄骨下地	鉄骨下地方向	金属胴縁方向	張り方向
	鉄骨下地	縦	横	縦

7) 出隅部

S出隅鋼板受け18+S出隅カバー

- S出隅鋼板受け18を取り付け、捨てシーリングを施工します。
 - センターサイディングの下端に、必要に応じてNS型段付バッカー材 (ABK8Q0JL) を貼り付け、N端部カバーおよび通気見切縁21に差し込みます。(※1)
 - センターサイディング端部が柄凹部となりS出隅カバーと隙間ができる場合は、下図のようにCSバッカー材を貼り付けます。(※2)
 - 実部に留め付けられないセンターサイディングは表面から専用ビス4で留め付けます。
 - S出隅カバーをS出隅鋼板受け18に差し込みます。
- (注) 降雪量の多い地域では鋼板製のN端部カバーなどを使用せず、本体の芯材を取り除くかアルミ端部カバーを使用します。なお、アルミ端部カバーを使用する場合、NS型段付バッカー材は不要です。



センターサイディング
標準施工法

センターサイディング
基本納まり図

本体・付属部材
詳細図

付属部材加工図

センターサイディング
木造編

センターサイディング
鉄骨造 金属胴縁編

センターサイディング
鉄骨造 直張り編

センター化粧幕板
標準施工法

センタールーフ
標準施工法

センタールーフ
納まり詳細図

参考資料

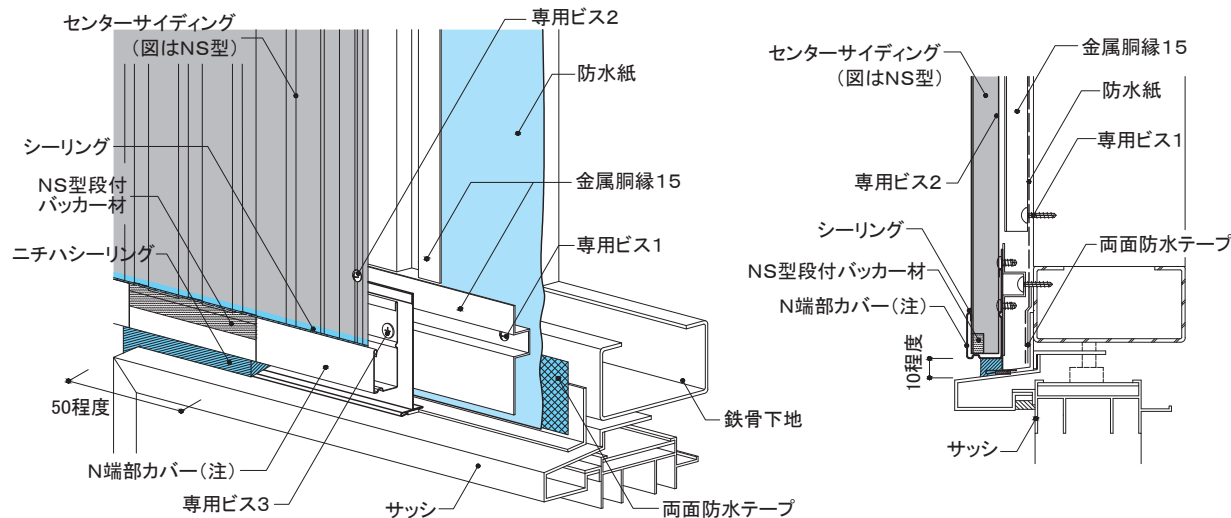
センターサイディング 18mm厚品

下地	鉄骨下地方向	金属胴縁方向	張り方向
鉄骨下地	縦	横	縦

8) 開口部

①上側 N端部カバー

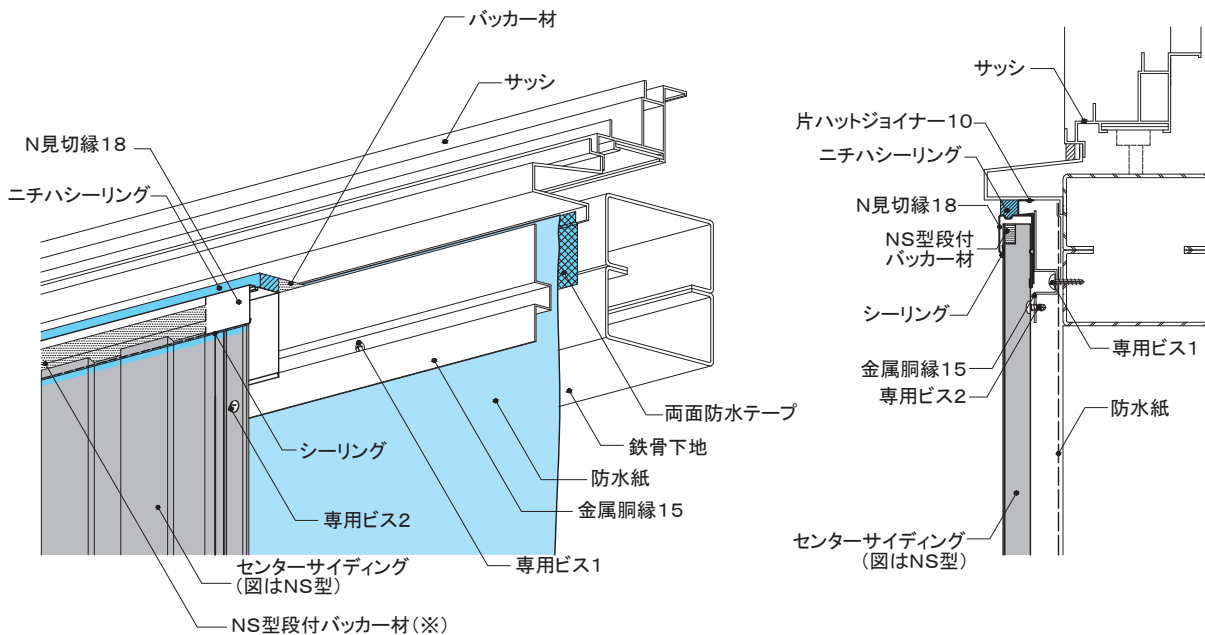
- 開口部まわりには、両面防水テープを必ず使用し、防水紙を施工します。
 - 開口部上側は水抜き穴のあるN端部カバーを使用します。見切縁を使用する場合は、水抜き穴(φ10mm×300mm間隔)を現場加工します。
 - N端部カバーとサッシとの取り合い部に、10mm程度の隙間を設けて施工します。
 - センターサイディング下端に、NS型段付バック材を貼り付け、N端部カバーに差し込みます。
 - サッシ上部は、端部から50mm程度、マスキングテープで養生後ニチハシーリングを充填します。
- (注)水抜き穴のない見切縁を使用する際は、全てニチハシーリングを充填します。



8) 開口部

②下側 N見切縁18

- 開口部まわりには両面防水テープを必ず使用し、防水紙を施工します。
- サッシとN見切縁18の取り合い部に、バック材を貼り付けます。
- センターサイディング上端にNS型段付バック材を貼り付け、N見切縁18に差し込みます。
- センターサイディングは専用ビス2で実部に留め付けます。
- サッシとN見切縁18の取り合い部は、マスキングテープで養生後ニチハシーリングを充填します。



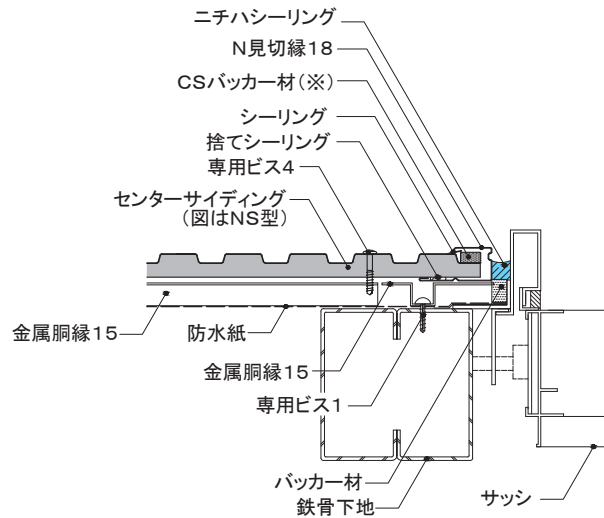
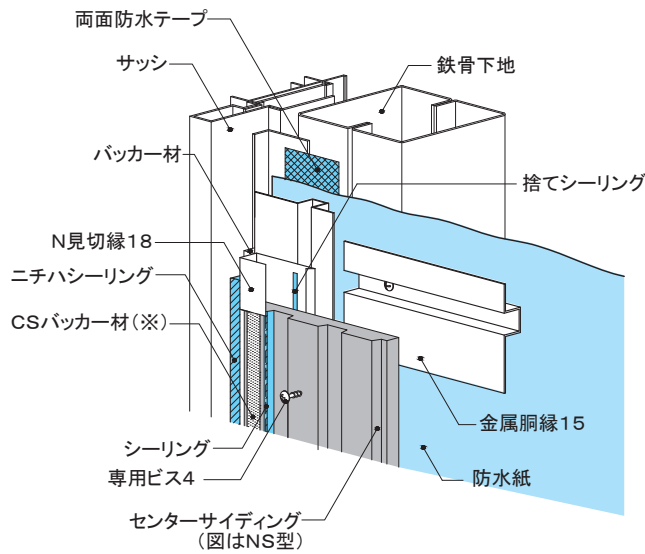
センターサイディング 18mm厚品

下地	鉄骨下地	鉄骨下地方向	縦	金属胴縁方向	横	張り方向	縦
----	------	--------	---	--------	---	------	---

8) 開口部

③ 左右側 N見切縁18

- 開口部まわりには両面防水テープを必ず使用し、防水紙を施工します。
- サッシとN見切縁18の取り合い部は、バッカー材を用い10mm程度の隙間を設けて施工します。マスキングテープで養生後、ニチハシーリングを充填します。
- 図のように捨てシーリングをN見切縁18に施工します。
- センターサイディング端部が柄凹部でN見切縁18に隙間ができる場合は、図のようにCSバッカー材を貼り付けます。(※)
- センターサイディングの実部に留め付けができない場合は、表面から専用ビス4で留め付けます。



センターサイディング
標準施工法

センターサイディング
基本納まり図

本体・付属部材
詳細図

付属部材加工図

センターサイディング
木造編

センターサイディング
鉄骨造 金属胴縁編

センターサイディング
鉄骨造 直張り編

センター化粧幕板
標準施工法

センタールーフ
標準施工法

センタールーフ
納まり詳細図

参考資料

センターサイディング 18mm厚品

下地

鉄骨下地

鉄骨下地方向

縦

金属胴縁方向

横

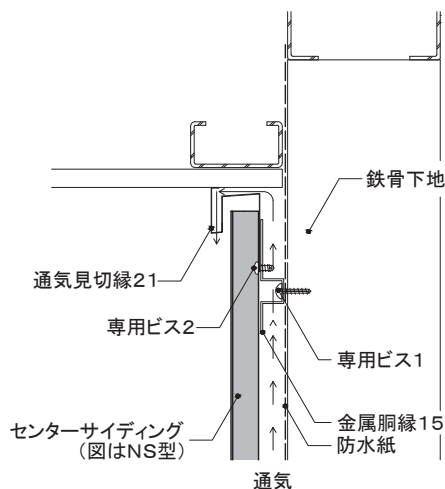
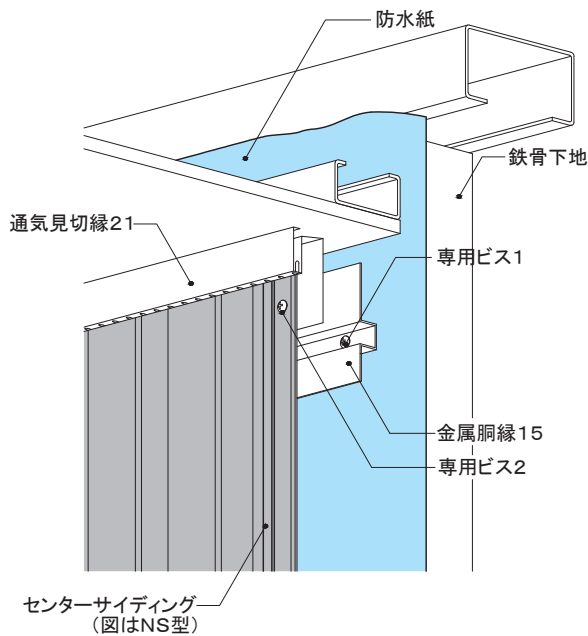
張り方向

縦

9) 軒天部

① 通気見切縁21

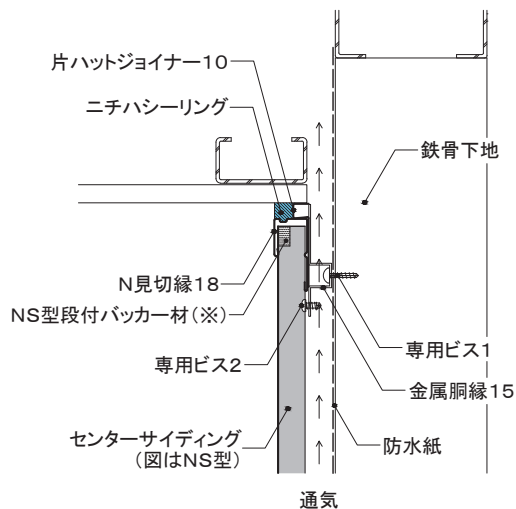
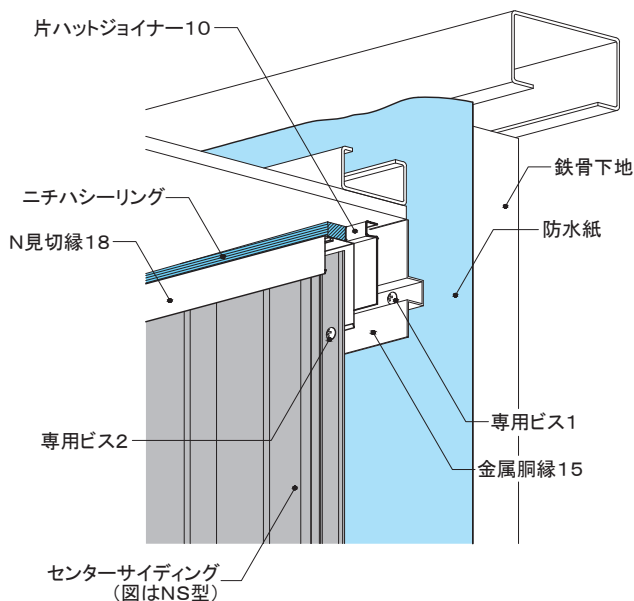
- センターサイディングの施工前に、通気見切縁21を図の位置に取り付けます。
- センターサイディングを通気見切縁21に差し込み、専用ビス2で金属胴縁15に留め付けます。



9) 軒天部

② シーリング

- 通気が小屋裏へ抜けるように軒天工事前に先行して、防水紙張りと同縁下地組みを行います。
- センターサイディング上端に、必要に応じてNS型段付バッカー材を貼り付けます。(※)
- 軒天材とN見切縁18の取り合い部は、片ハットジョイナー10を用いて、10mm程度の隙間を設けて施工し、ニチハシーリングを充填します。

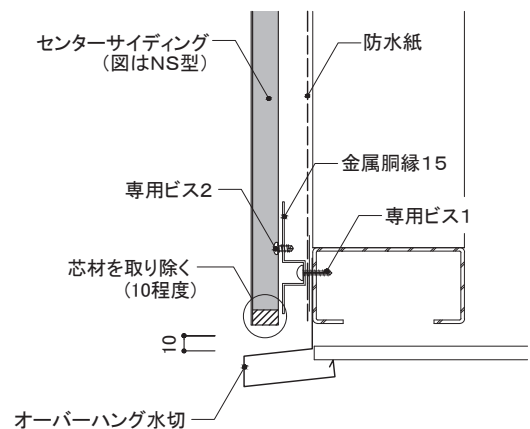
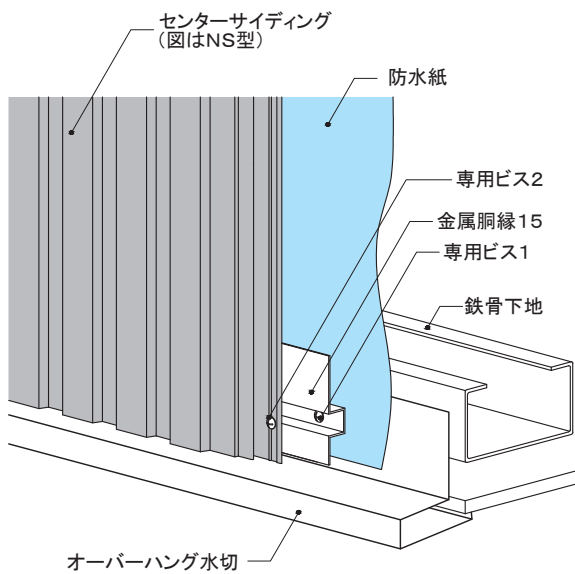
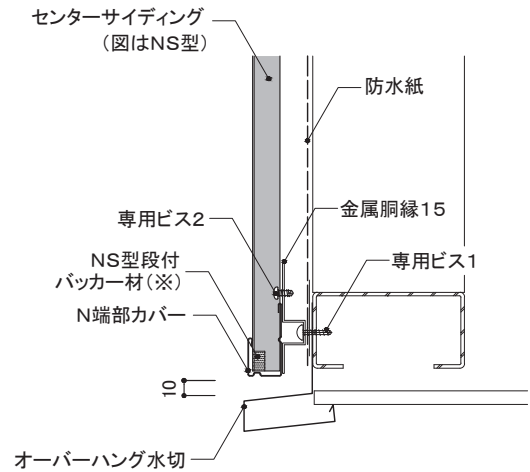
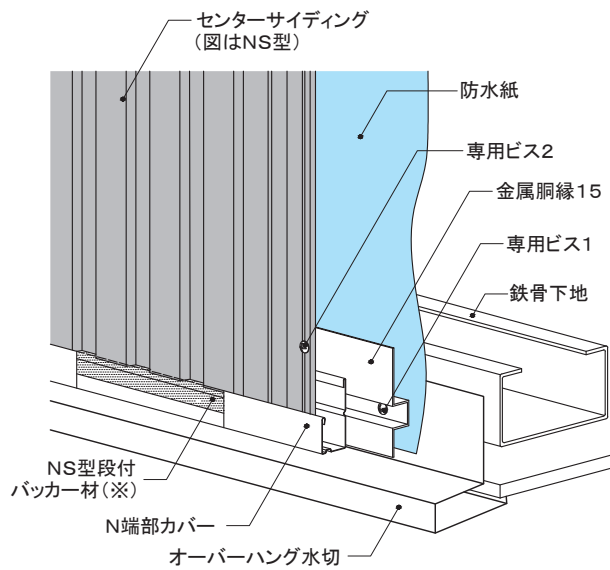


センターサイディング 18mm厚品	下地	鉄骨下地	金属胴縁方向	金属胴縁方向	張り方向
	鉄骨下地	縦	横	縦	縦

10) オーバーハング部

オーバーハング水切

- 防水紙はオーバーハング水切の上にかぶせて施工します。
- センターサイディング下端はN端部カバーを使用するか、芯材を10mm程度取り除きます。
- N端部カバーを使用する場合は、センターサイディング下端に必要なに応じてNS型段付バック材を貼り付け、N端部カバーに差し込みます。(※)
- センターサイディング下端とオーバーハング水切の間に、10mmの隙間を設けます。
- センターサイディングを専用ビス2で金属胴縁15に留め付けます。



標準施工法
センターサイディング

基本納まり図
センターサイディング

詳細図
本体・付属部材

付属部材加工図

木造編
センターサイディング

鉄骨造 金属胴縁編
センターサイディング

鉄骨造 直張り編
センターサイディング

標準施工法
センター化粧幕板

標準施工法
センタールーフ

納まり詳細図
センタールーフ

参考資料

7 センターサイディング標準施工法 ＜納まり図 鉄骨造 直張り編＞

7- 1	納まり図	鉄骨下地	NS型	横張り
7- 2	納まり図	鉄骨下地	NS型	縦張り
7- 3	納まり図	鉄骨下地	M型	横張り
7- 4	納まり図	鉄骨下地	M型	縦張り
7- 5	納まり図	鉄骨下地	FN型	横張り
7- 6	納まり図	鉄骨下地	FN型	縦張り

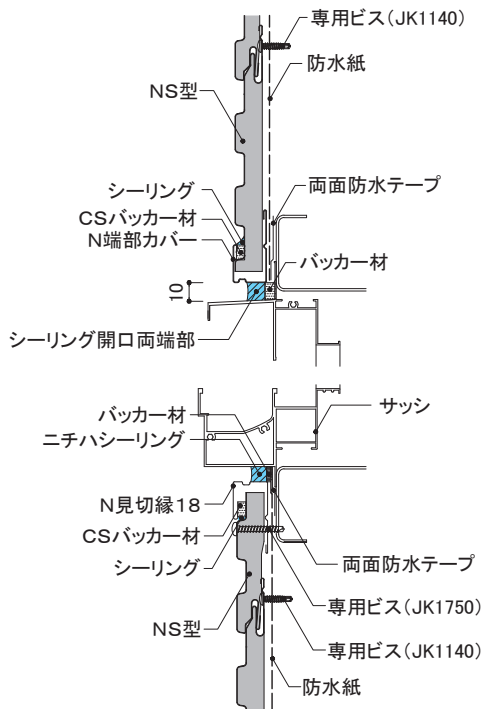


- 本章は倉庫などの非住宅を想定しております。
- 防耐火構造の大臣認定が必要な場合は、胴縁間隔や躯体サイズなど大臣認定の別添に従い、施工してください。

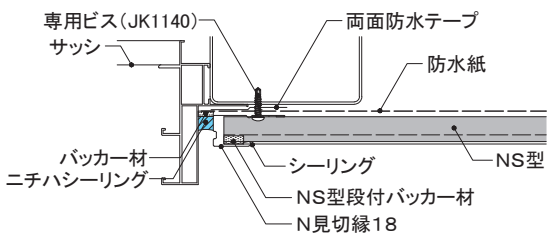
NS型

下地	留付方法	張り方向	鉄骨胴縁 縦胴縁 @610mm以下
鉄骨造直張り	ビス	横	

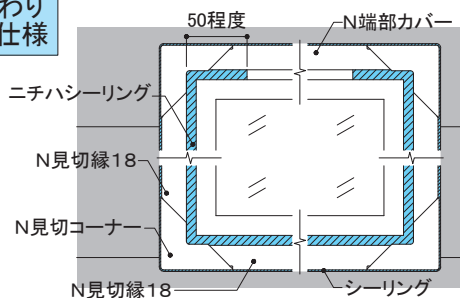
開口部上下側



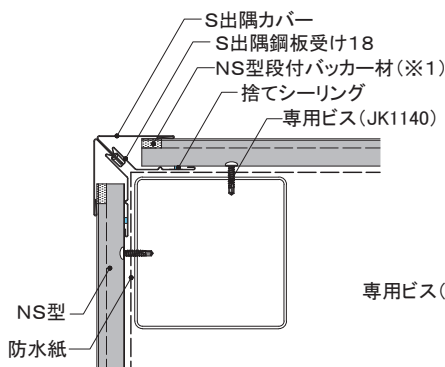
開口部左右側



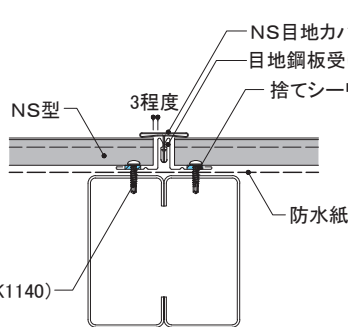
開口部まわり 一般地域仕様



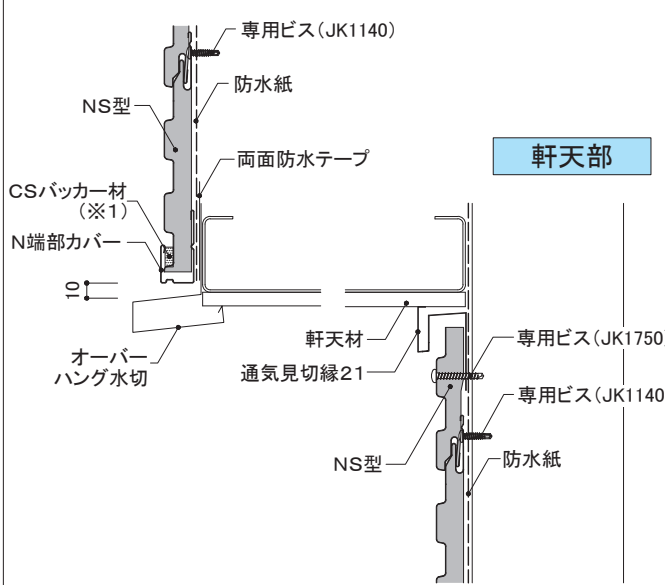
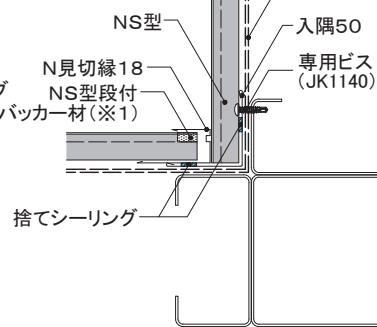
出隅部



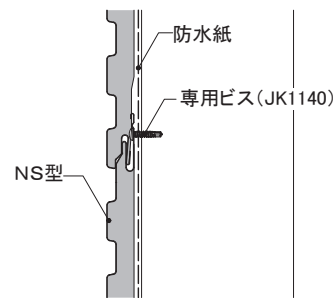
左右接合部



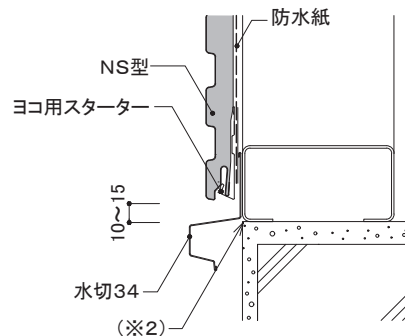
入隅部



上下接合部



土台部



※1 NS型段付バックカー材、CSバックカー材はNS型の凹凸による隙間が外観に影響する場合など必要に応じて使用します。
 ※2 吹き上げなどによる雨水の浸入を防ぐため、止水処理が確実に行われていることを確認してください。

NS型	下地	留付方法	張り方向	鉄骨胴縁 横胴縁 @610mm以下
	鉄骨造直張り	ビス	縦	

センターサイディング
標準施工法

センターサイディング
基本納まり図

詳細図
本体・付属部材

付属部材加工図

センターサイディング
木造編

センターサイディング
鉄骨造 金属胴縁編

センターサイディング
鉄骨造直張り編

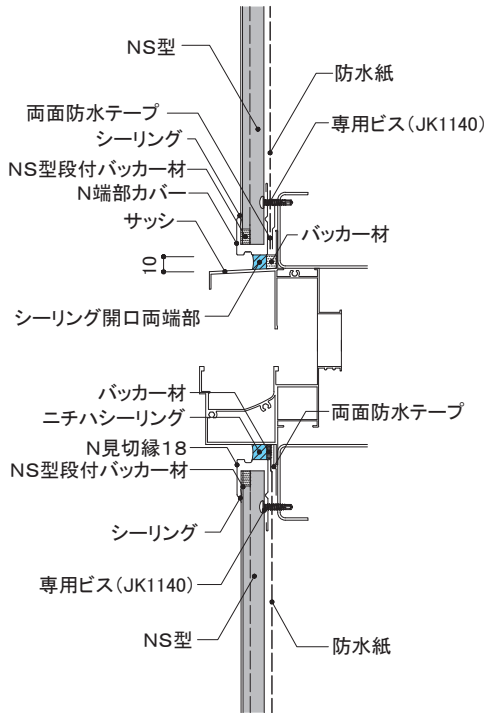
センター化粧幕板
標準施工法

センタールーフ
標準施工法

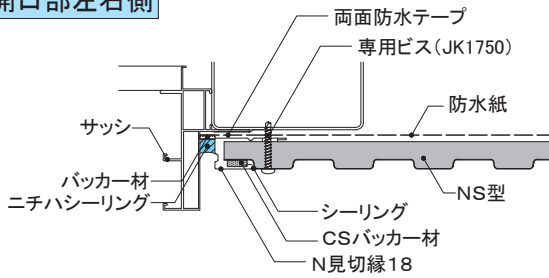
センタールーフ
納まり詳細図

参考資料

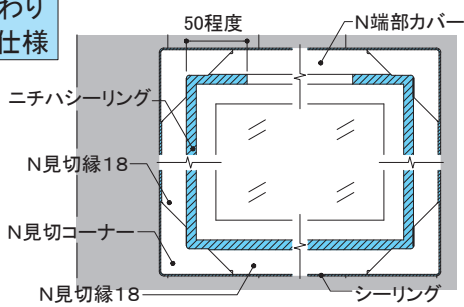
開口部上下側



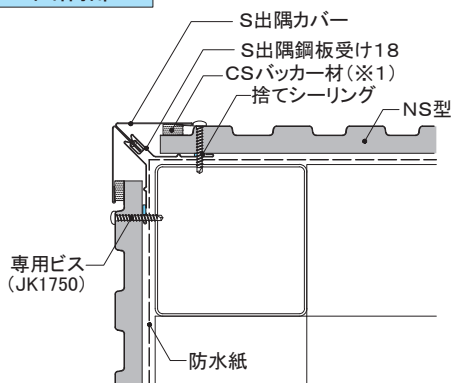
開口部左右側



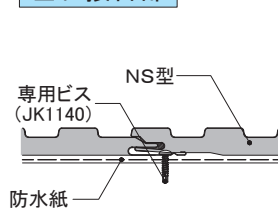
開口部まわり
一般地域仕様



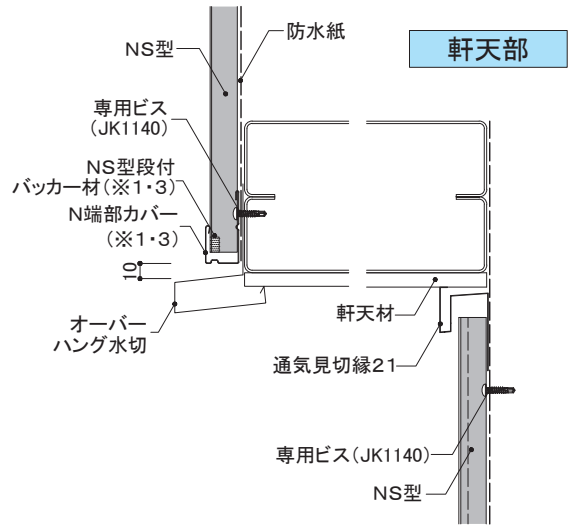
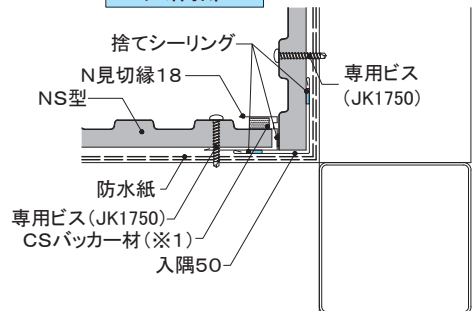
出隅部



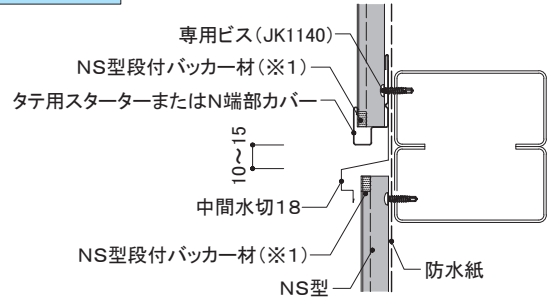
左右接合部



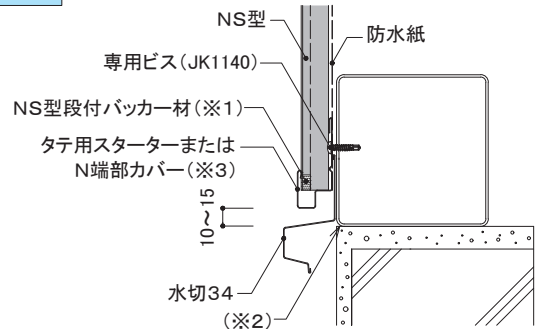
入隅部



上下接合部



土台部

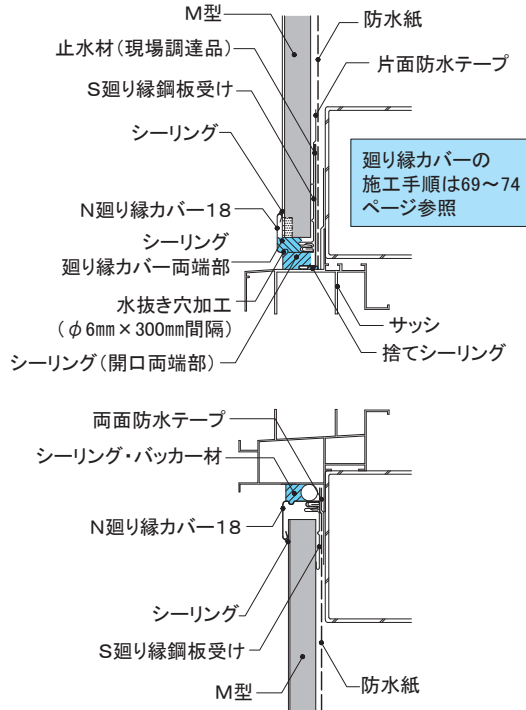


※3 N端部カバーの代わりに芯材を10mm程度取り除いても施工できます。
また、降雪量の多い地域の土台部は鋼板製の部材を用いず、
本体の芯材を取り除くかアルミ端部カバーを使用してください。
上下接合部にアルミ端部カバー(積雪地域)を使用すると防耐火構造認定
の対象外となります。

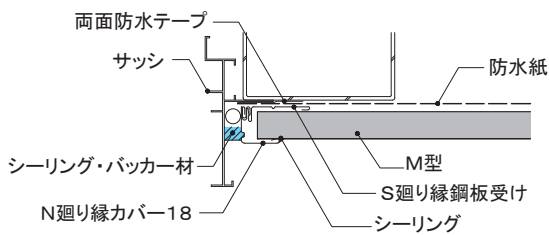
※1 NS型段付パッカー材、CSパッカー材はNS型の凹凸による隙間が外観に影響する場合など必要に応じて使用します。
※2 吹き上げなどによる雨水の浸入を防ぐため、止水処理が確実にされていることを確認してください。

M型	下地	留付方法	張り方向	鉄骨胴縁 縦胴縁 @610mm以下
	鉄骨造直張り	ビス	横	

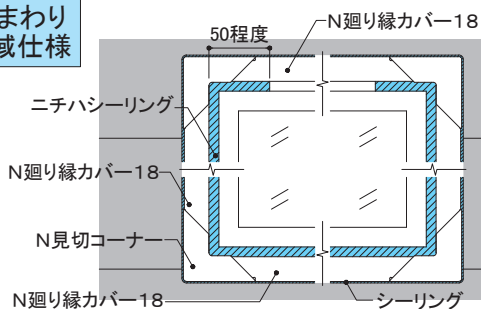
開口部上下側



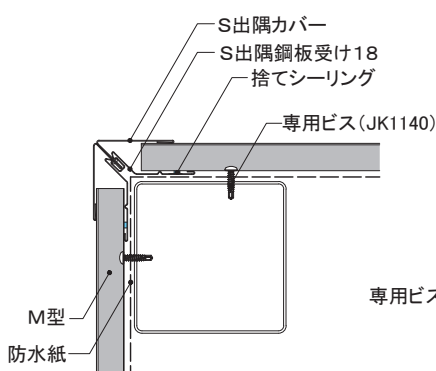
開口部左右側



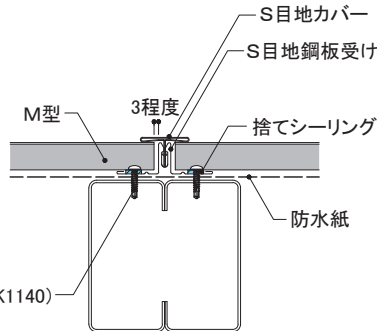
開口部まわり一般地域仕様



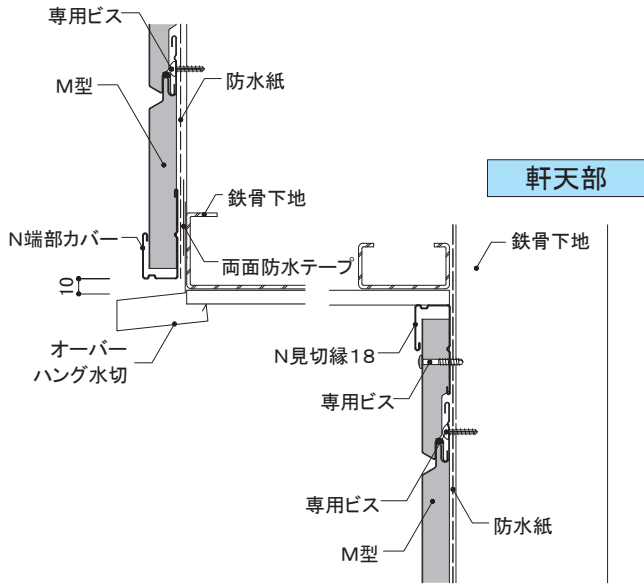
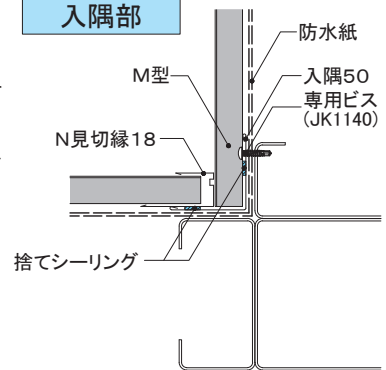
出隅部



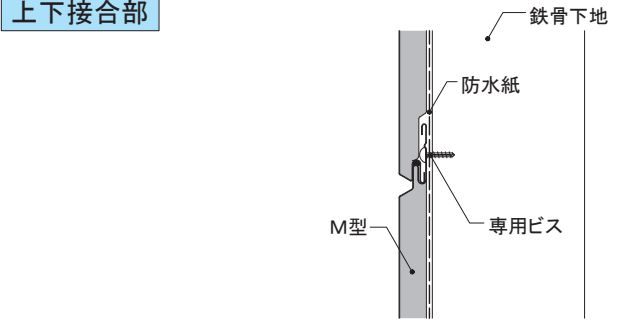
左右接合部



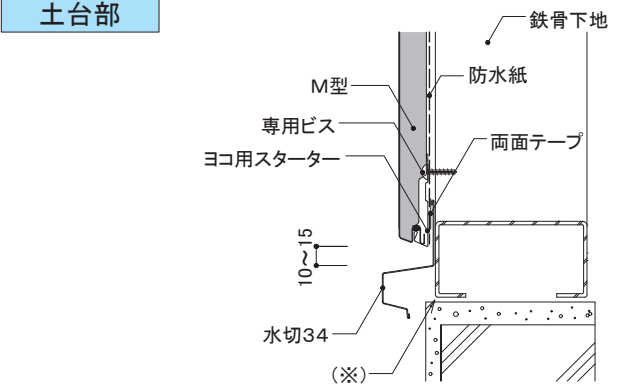
入隅部



上下接合部



土台部



※ 吹き上げなどによる雨水の浸入を防ぐため、止水処理が確実にされていることを確認してください。
(注) 柄の特性上、開口部周囲には必ず廻り縁カバーで施工します。

M型	下地	留付方法	張り方向	鉄骨胴縁 横胴縁 @610mm以下
	鉄骨造直張り	ビス	縦	

センターサイディング
標準施工法

センターサイディング
基本納まり図

本体・付属部材
詳細図

付属部材加工図

センターサイディング
木造編

センターサイディング
鉄骨造 金属胴縁編

センターサイディング
鉄骨造 直張り編

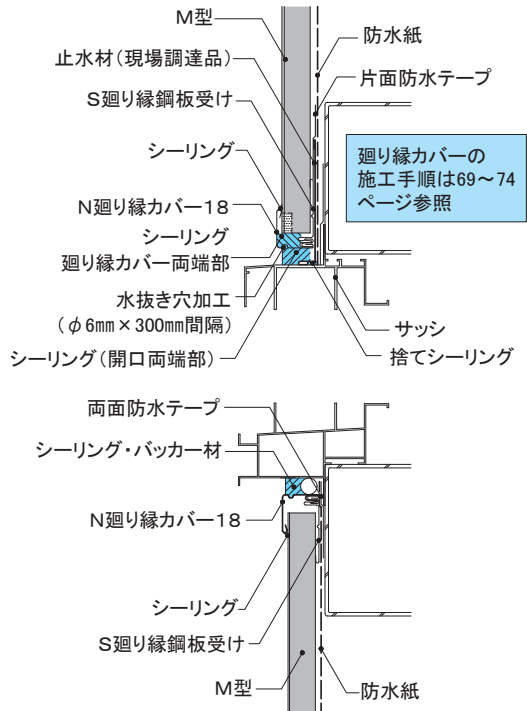
センター化粧幕板
標準施工法

センタールーフ
標準施工法

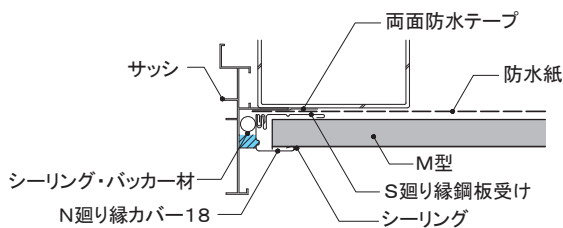
センタールーフ
納まり詳細図

参考資料

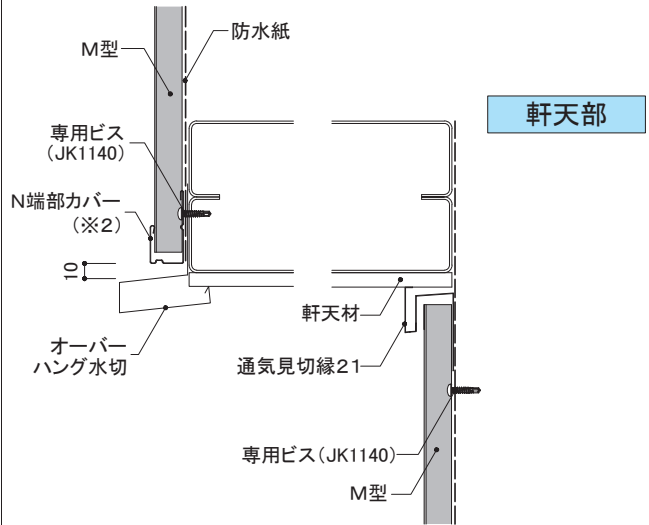
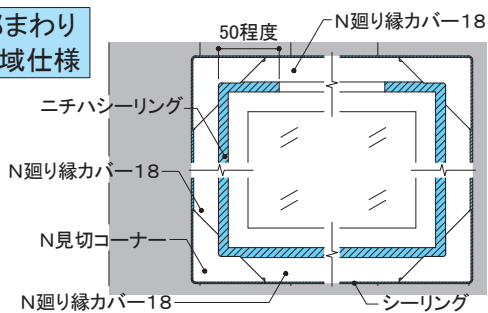
開口部上下側



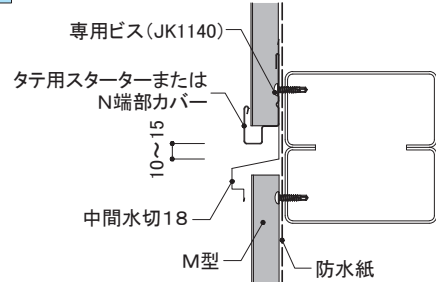
開口部左右側



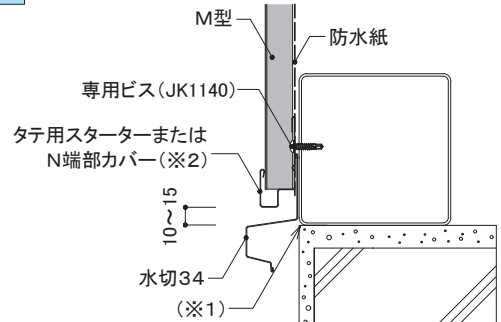
開口部まわり一般地域仕様



上下接合部

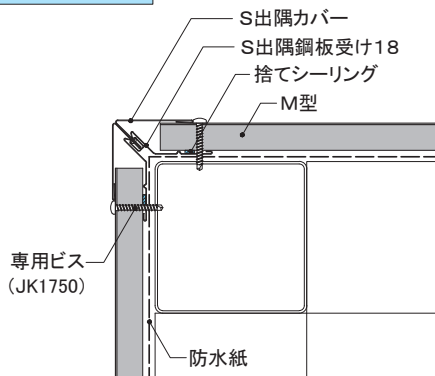


土台部

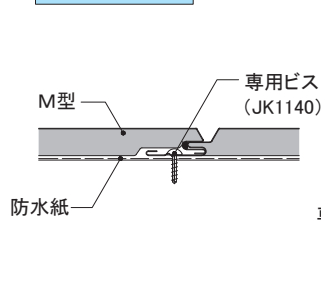


※2 N端部カバーの代わりに芯材を10mm程度取り除いても施工できます。また、降雪量の多い地域の土台部は鋼板製の部材を用いず、本体の芯材を取り除くかアルミ端部カバーを使用してください。上下接合部にアルミ端部カバー(積雪地域)を使用すると防耐火構造認定の対象外となります。

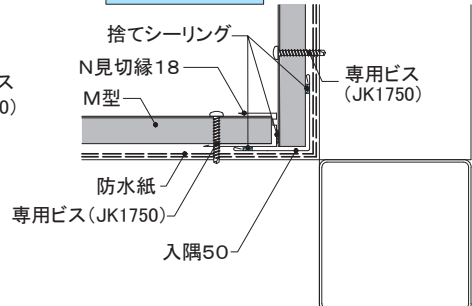
出隅部



左右接合部



入隅部



※1 吹き上げなどによる雨水の浸入を防ぐため、止水処理が確実にされていることを確認してください。
(注)柄の特性上、開口部周囲には必ず廻り縁カバーで施工します。

センターサイディング
標準施工法

センターサイディング
基本納まり図

本体・付属部材
詳細図

付属部材加工図

センターサイディング
木造編

センターサイディング
鉄骨造金属胴縁編

センターサイディング
鉄骨造直張り編

センター化粧幕板
標準施工法

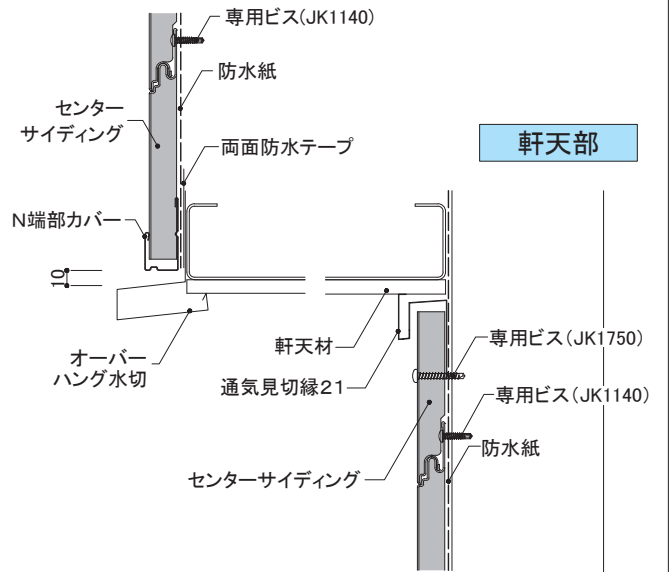
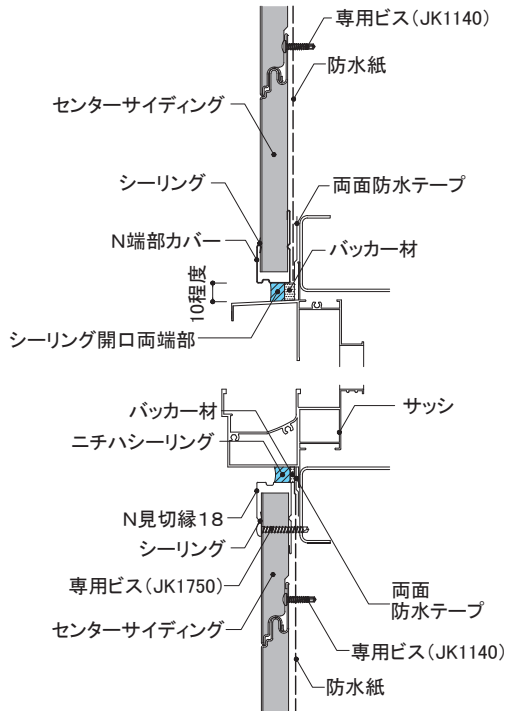
センタールーフ
標準施工法

センタールーフ
納まり詳細図

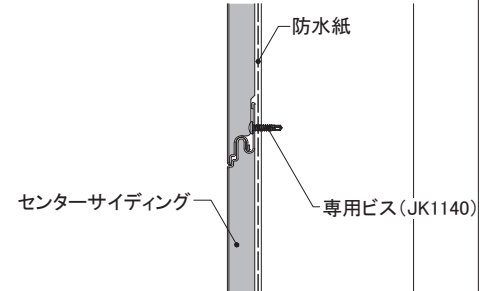
参考資料

FN型	下地	留付方法	張り方向	鉄骨胴縁 縦胴縁 @610mm以下
	鉄骨造直張り	ビス	横	

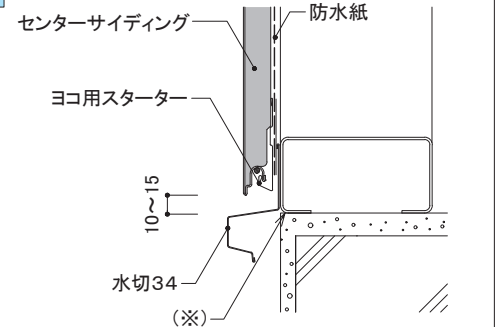
開口部上下側



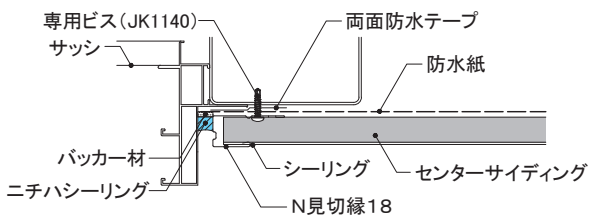
上下接合部



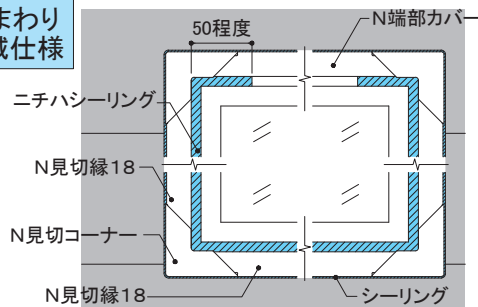
土台部



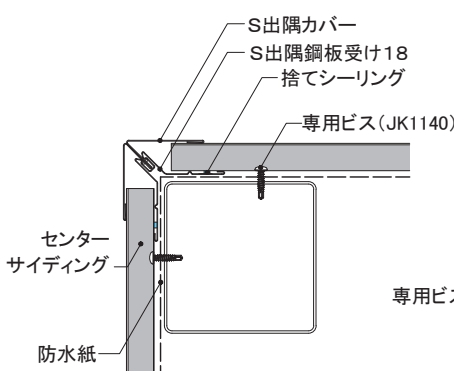
開口部左右側



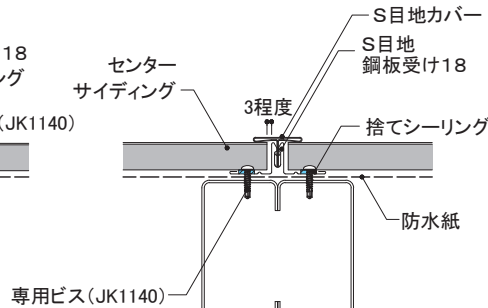
開口部まわり
一般地域仕様



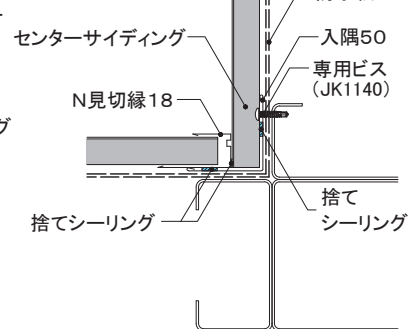
出隅部



左右接合部



入隅部



※ 吹き上げなどによる雨水の浸入を防ぐため、止水処理が確実にされていることを確認してください。

FN型	下地	留付方法	張り方向	鉄骨胴縁 横胴縁 @610mm以下
	鉄骨造直張り	ビス	縦	

センターサイディング
標準施工法

センターサイディング
基本納まり図

本体・付属部材
詳細図

付属部材加工図

センターサイディング
木造編

センターサイディング
鉄骨造 金属胴縁編

センターサイディング
鉄骨造 直張り編

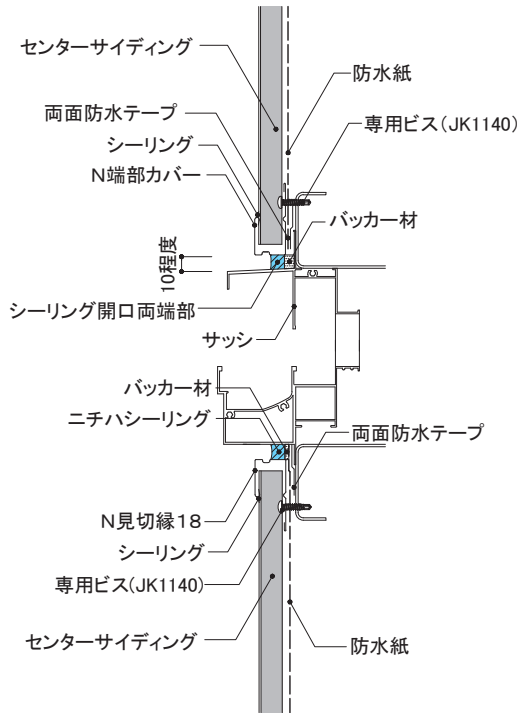
センター化粧幕板
標準施工法

センタールーフ
標準施工法

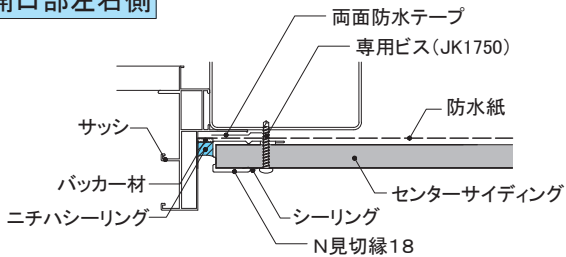
センタールーフ
納まり詳細図

参考資料

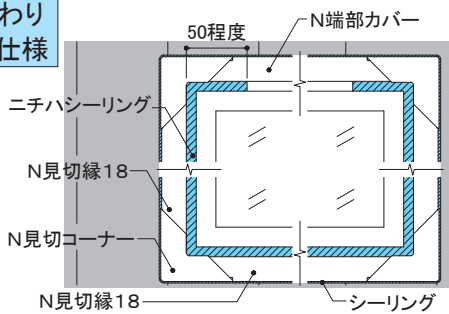
開口部上下側



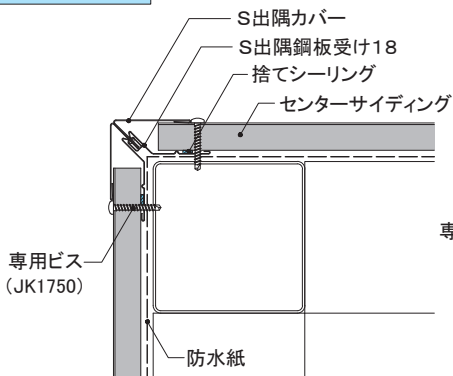
開口部左右側



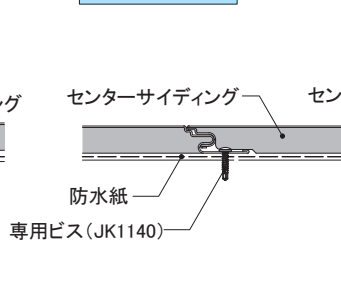
開口部まわり
一般地域仕様



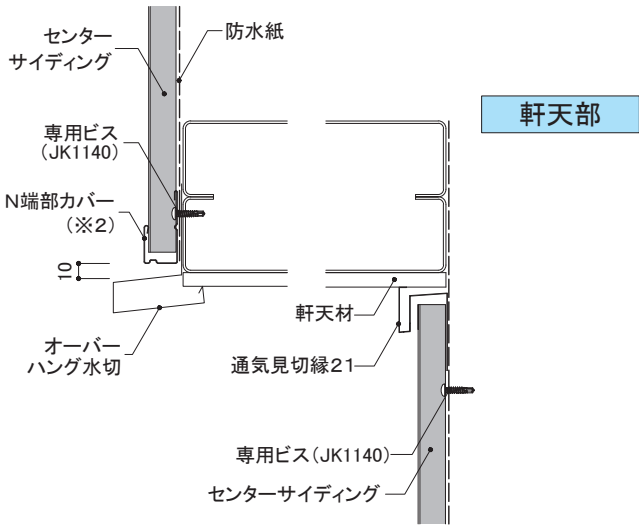
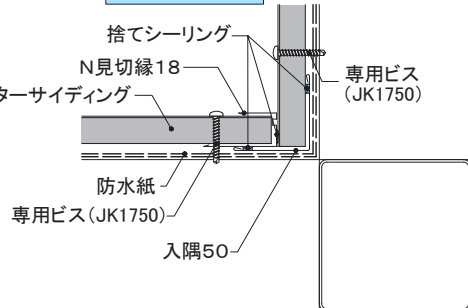
出隅部



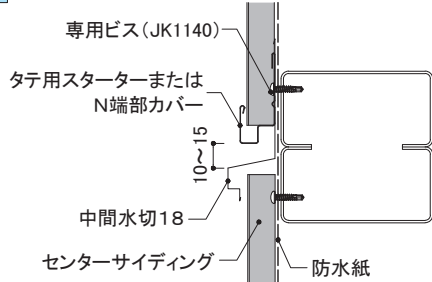
左右接合部



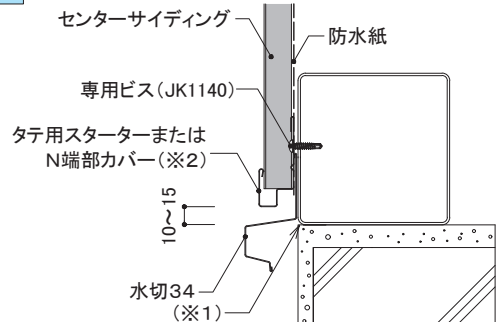
入隅部



上下接合部



土台部



※2 N端部カバーの代わりに芯材を10mm程度取り除いても施工できます。また、降雪量の多い地域の土台部は鋼板製の部材を用いず、本体の芯材を取り除くかアルミN端部カバーを使用してください。上下接合部にアルミ端部カバー(積雪地域)を使用すると防耐火構造認定の対象外となります。

※1 吹き上げなどによる雨水の浸入を防ぐため、止水処理が確実にされていることを確認してください。

8 センター化粧幕板 標準施工法

8- 1	製品一覧
8- 2	施工を始める前のポイント
8- 3	施工上の注意事項
8- 4	施工手順
8- 5	施工のポイント

8 センター化粧幕板 標準施工法

8-1 製品一覧

名称	センター化粧幕板	ジョイントカバー	出隅カバー
形状			
品番	AMT3Q0J5	AMT4Q0J5	AMT5Q0J5
製品寸法	18 × 191 × 3658mm	195.5 × 40mm	195.5 × 50mm
梱包入数	2本/梱	20個/梱	20個/梱
名称	エンドキャップ(左右別)	取付金具	ニチハシーリング (化粧幕板用)
形状			
品番	AMT□Q0J5	AMT8Q00B	DSY1Q0NX
製品寸法	195.5 × 20mm	141 × 40mm	320ml/本
梱包入数	20個/梱	50個/梱	10本/梱

- 上記品番の口部は、右=6、左=7を示します。
- コーススレッドは現場でφ4.2mm×51mm以上(取付金具留め付け用)のものを調達してください。

センターサイディング
標準施工法

センターサイディング
基本納まり図

詳細図
本体・付属部材

付属部材加工図

センターサイディング
木造編

センターサイディング
鉄骨造 金属胴縁編

センターサイディング
鉄骨造 直張り編

センター化粧幕板
標準施工法

センタールーフ
標準施工法

センタールーフ
納まり詳細図

参考資料

8 センター化粧幕板 標準施工法

8-2 施工を始める前のポイント

1) 「センター化粧幕板」を正しくお使い頂くために

- 本設計施工資料集は外壁材としてセンターサイディングをお使い頂くことを前提に、施工方法を説明しております。
- 外壁材および付属部材などの取扱方法や施工手順、注意事項は本設計施工資料集に従ってください。
- 取付金具は胴縁または躯体に固定します。そのためにセンターサイディング施工前の化粧幕板取り付け予定部へ幅200mm以上になるように横胴縁を配置します。横胴縁の固定は十分な長さ(胴縁の厚さ+20mm以上)のビスを用いて、500mm以下の間隔で固定します。**センターサイディング固定用に縦胴縁を使用する場合は化粧幕板取付部で縁を切り、横胴縁を通します。**
- 化粧幕板、出隅カバー、ジョイントカバーおよびエンドキャップには樹脂を使用しています。火災の原因となるような場所や物に近づけないでください。また、炎天下の車中などの温度環境下での保管・運搬の際、上に物を載せるなど荷重をかけると変形しやすくなるおそれがありますので、取り扱いにご注意ください。
- 出隅カバー、ジョイントカバーおよびエンドキャップの引っかけ爪は大変薄く成形されており、施工時の負荷により破損するおそれがあります。化粧幕板を引っかけた後にねじらないようにしてください。
- 化粧幕板は、外観を向上させるための飾りです。雨仕舞いの効果はありませんので、下地およびセンターサイディングの雨仕舞いを十分に行った後、施工してください。

※取り付け可能な平面部があるセンターサイディング(F型など)と張り分ける場合は、取り付け可能な平面部があるセンターサイディング側に化粧幕板を取り付けてください。

2) 確認事項

施工を始める前に、以下の点を確認してください。

- 指定通りの資材が現場に納品されていること。
- 設計施工資料集が最新版であること。
- 製品・付属部材・工具が揃っていること。
- 施工方法。(特に付属部材との取り合い部など。)
- センター化粧幕板の長さ。(規格寸法(3658mm)より長めになっています。)

8-3 施工上の注意事項

1) 付属部材、取付金具、出隅部、入隅部、ジョイント部の施工

- 付属部材については、受け材を除く全ての後付け付属部材(出隅カバーや目地カバーなど)が、化粧幕板に対して後付け(突き付け)施工となります。(先に取り付けしてしまうと化粧幕板に干渉して化粧幕板が施工できなくなります。)
- 中間水切部には、中間水切を使用します。化粧幕板は中間水切にかぶせて施工できませんので必ず中間水切よりも上部に取り付けてください。
- 取付金具の固定前に必ず墨出しを行い、墨出し線の水平を水準器で確認してください。施工精度および仕上りの外観を大きく左右します。
- 取付金具を910mm以下の間隔で施工します。
- 取付金具の固定はセンターサイディングに先孔(φ3.2mm)をあけてから行い、ビスを胴縁に確実に固定します。
- センターサイディング付属部材(例えば見切縁の上)に取付金具を固定しないでください。変形や破損、脱落などの原因になります。
- 取付金具は適切な力で固定してください。センターサイディング、取付金具の変形や破損の原因になります。
- 化粧幕板施工後の横ズレとはずれ防止のため、取付金具キャッチ部に別売りのニチハシーリングを施工してください。
- 化粧幕板出隅・入隅部は化粧幕板端部を45°の角度で切断してください。
- 化粧幕板と出隅カバーまたはジョイントカバーは化粧幕板の片側端部に別売りのニチハシーリングを接着剤として施工し、取り付けてください。(エンドキャップもニチハシーリングで固定します。)
- 入隅はシーリング目地納めとなります。

8 センター化粧幕板 標準施工法

8-3 施工上の注意事項

2) 化粧幕板の施工

- 化粧幕板の伸縮に対応するために、出隅部、入隅部およびジョイント部に8mmの目地を確保します。
(化粧幕板は1本(3658mm)あたり、温度変化10℃に対して約2mm伸縮します。また、昼夜の温度差が大きい場合には、1日の中で大きく長さが変化する場合があります。)
- 化粧幕板は取付金具に確実に固定します。固定が不十分な場合、脱落するおそれがあります。
- 化粧幕板とセンターサイディングの隙間にシーリングを施工しないでください。化粧幕板の伸縮によってシーリングが破断します。また、化粧幕板の下端面は絶対にシーリングを施工しないでください。雨水などが溜まり、漏水の原因になります。
- 化粧幕板が付属部材やその他の部材(例えば壁水切など)と干渉する場合は、干渉部を逃がすように化粧幕板をカッターなどの工具で切り欠きます。
- その他、不明な点は弊社営業所またはお客さま相談室までお問合せください。

8-4 施工手順

センターサイディング施工後、化粧幕板を次の順序で取り付けます。

水平方向の墨出し

- ↓ ・レベルを必ず確認します。外観に影響を与えます。

出隅部分の取付金具の墨出し

- ↓ ・割り付けの基準となります。

取付金具施工間隔の確認・墨出し

- ↓ ・取付間隔が910mm以下になるように割り付けます。
- ↓ ・化粧幕板の長さを確認し、取付金具を所定の位置に取り付けます。

取付金具の固定

- ↓ ・金具の水平・金具どうしのレベル合わせに注意します。外観に影響を与えます。

取付金具への捨てシーリングの施工

- ↓ ・取付金具に捨てシーリングを施工します。
- ※シーリング硬化前に幕板を施工します。

化粧幕板の施工

- ↓ ・出隅・入隅は45°の角度で切断します。
- ↓ ・幕板の伸縮に対応するため、出隅部、入隅部およびジョイント部に8mmの目地を確保します。
- ↓ ・レベルを確認し、キズの補修など問題ないことを確認します。

化粧幕板の出隅・入隅・ジョイント・エンド部へのシーリング施工

- ↓ ・出隅・ジョイント部は化粧幕板の片側端部のみ(接着剤として)シーリングを施工します。
- ↓ ・入隅はシーリング目地納めとなります。

化粧幕板の付属部材(出隅カバー・ジョイントカバー・エンドキャップ)の取り付け



センターサイディングの後付け付属部材の施工



完了

8 センター化粧幕板 標準施工法

8-5 施工のポイント

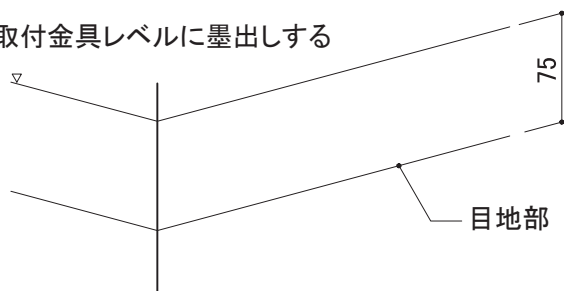
1) 墨出し(取付金具の位置決め)

外壁材の張り方向によって(化粧幕板の割り付けを含む)墨出し基準・寸法が異なります。墨出し線の水平は水準器で確認します。(図1、2)

<センターサイディングが横張りの場合>

化粧幕板の中心を基準とする場合、割り付けたい位置から上方に75mmの位置に墨出しをします。(図1-①)
また、化粧幕板の天面(上端)を基準とする場合には、基準位置から下方に21mmの位置に墨出しをします。(図1-②)

取付金具レベルに墨出しする



センターサイディング上下接合部に化粧幕板中心を合わせて施工する場合の墨出し例(図1-①参照)

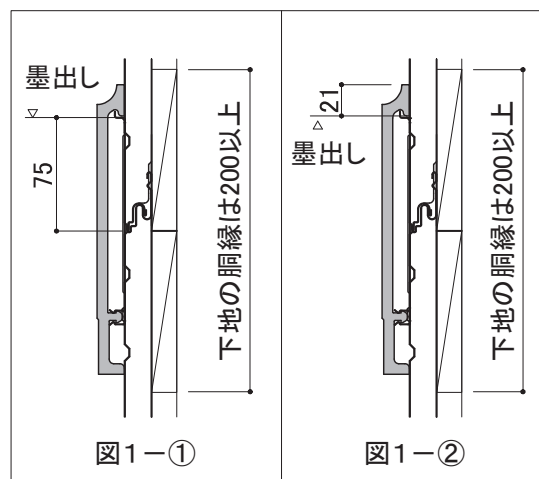


図1 センターサイディングが横張りの場合 取付金具の位置決め

<センターサイディングが縦張りの場合>

中間水切上部のセンターサイディング下端から170mmの位置に墨出しをします。

※この墨出しレベルに取付金具の天面を合わせて施工することにより、化粧幕板の下端を中間水切上部のセンターサイディング下端に合わせて割り付けできます。

取付金具レベルに墨出しする

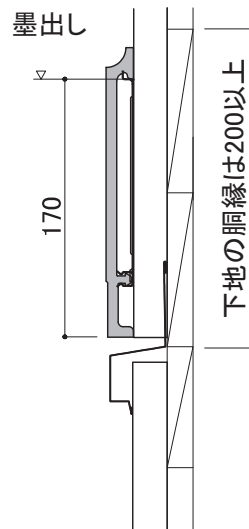
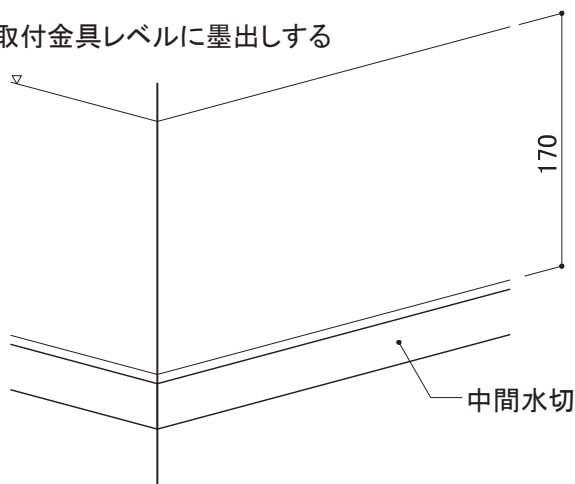


図2 センターサイディングが縦張りの場合 取付金具の位置決め

8 センター化粧幕板 標準施工法

8-5 施工のポイント

2) 取付金具の割り付けと固定(図3、4)

<取付金具の割り付け>

出隅の角部を基準として図3のように取付金具を割り付けます。

(出隅・入隅部は角から85mmの位置に、ジョイント部はジョイント中心から左右5mmずつあけて割り付けます。)

※取付金具レベルより21mm上方が化粧幕板天面レベルになります。

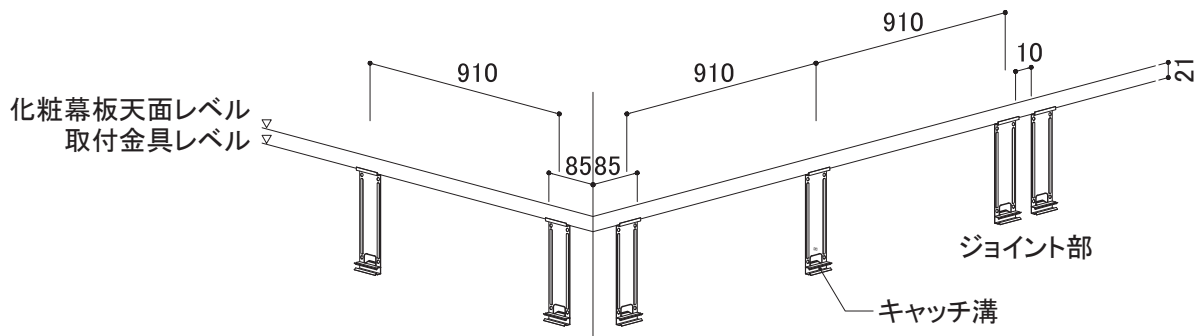


図3 取付金具の割り付け図

<取付金具の固定方法>

取付金具にあるビス打ち孔からセンターサイディングの留め付け胴縁へビス留めし、取付金具下部のキャッチ溝に捨てシーリングを施工します。(図4)

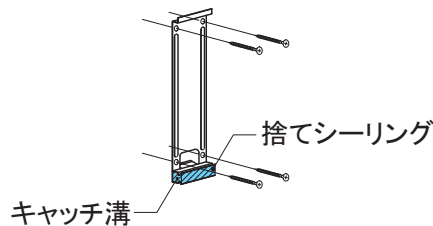


図4 ビス打ち穴とキャッチ溝への捨てシーリング



取付金具の水平精度が幕板の外観を大きく左右しますのでご注意ください。
ビスを打ち込み過ぎた場合、センターサイディングに変形・破損が生じますのでご注意ください。
NS型の場合、表面凸部へ取付金具を固定します。
シン・ネオスパンはNS型の納まりを参照ください。

3) 化粧幕板の固定と付属部材の取り付け

<化粧幕板の固定>

化粧幕板は取付金具に上部を引っかけてから取付金具のキャッチ溝に嵌め込みます。(図5)

※出隅・入隅部は化粧幕板の加工が必要です。

①取付金具の上部に化粧幕板を引っ掛けます。

②取付金具の下部にある受けに捨てシーリングを施工し、化粧幕板の固定部を嵌め込んで固定してください。

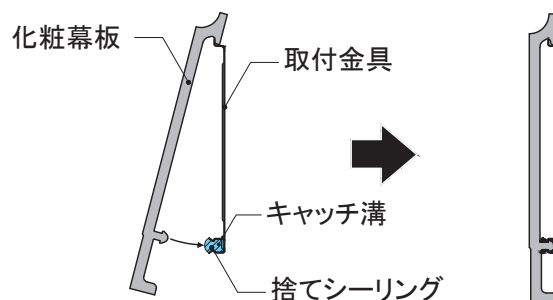


図5 化粧幕板の固定方法

8 センター化粧幕板 標準施工法

8-5 施工のポイント

<出隅部の施工>

出隅部は化粧幕板端部を45°の角度で切断し、8mmの隙間を設けて施工し、化粧幕板の片側の表面に捨てシーリングを施工して出隅カバーを取り付けます。(図6)

※出隅カバーの脱落防止と、外気温の変化による化粧幕板の伸縮に対応するため、化粧幕板の片側表面のみに捨てシーリングを施工します。(ジョイント部も同様)

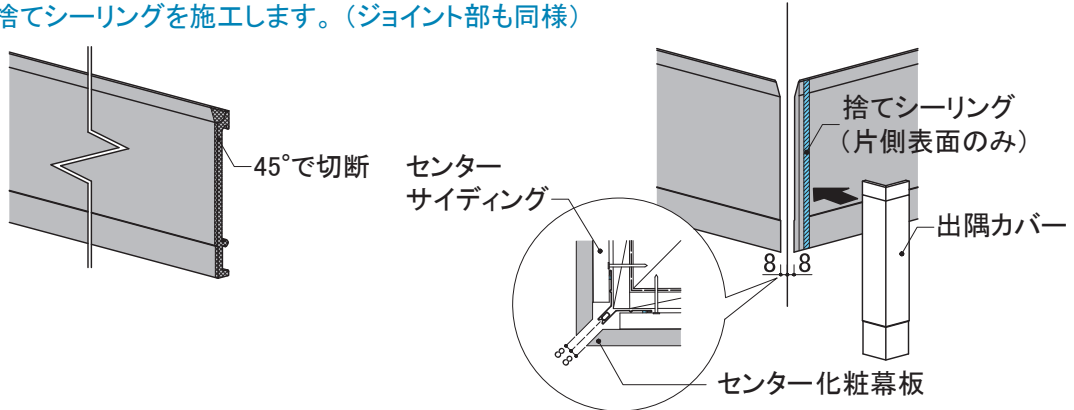


図6 出隅部の加工と出隅カバーの取り付け

<入隅部の施工>

入隅部は化粧幕板端部を45°の角度で切断し、8mmの隙間を設けて施工し、シーリングを充填します。(図7)

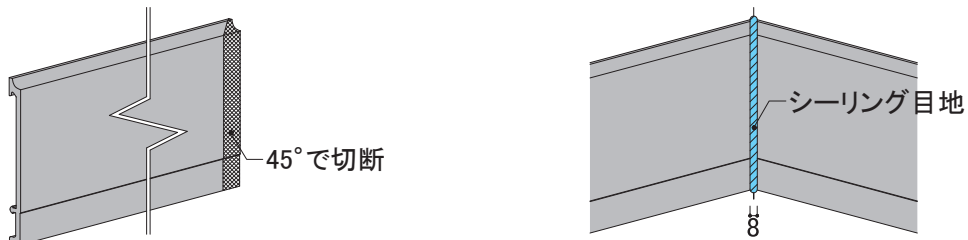


図7 入隅部のシーリング納め

<ジョイント部の施工>

ジョイント部は化粧幕板端部に8mmの隙間を設けて施工し、化粧幕板の片側の表面に捨てシーリングを施工してジョイントカバーを取り付けます。(図8)

※ジョイントカバーの脱落防止と、外気温の変化による化粧幕板の伸縮に対応するため、化粧幕板の片側表面のみに捨てシーリングを施工します。(出隅部も同様)

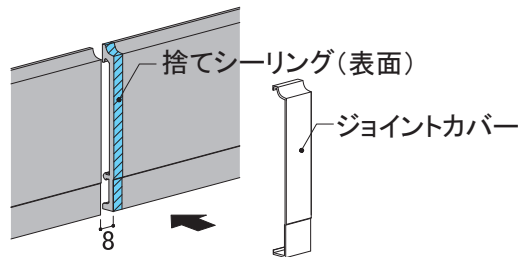


図8 ジョイントカバーの取り付け

<エンド部の施工>

エンド部は化粧幕板の端面にシーリングを接着剤として使用し、エンドキャップを取り付けます。(図9)

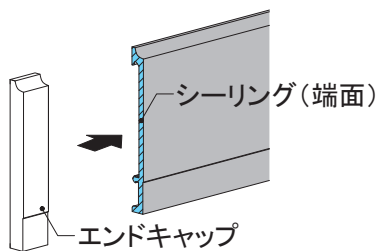


図9 エンドキャップの取り付け

9 センタールーフ標準施工法

9- 1	安全にご使用いただくために
9- 2	運搬・保管時の注意事項
9- 3	設計施工基準
9- 4	本体施工時の注意事項
9- 5	下地の確認
9- 6	施工手順
9- 7	補修塗装
9- 8	下葺材の施工(一般施工仕様)
9- 9	下葺材の施工(防水強化仕様)
9-10	本体・付属部材の留め付け
9-11	雪止め金具の設置について
9-12	施工後の注意事項
9-13	太陽光発電パネル設置をご検討のお客様へ



センタールーフは木造建築物専用商品です。

本章では横暖ルーフ α プレミアムS、横暖ルーフ α S窯変、横暖ルーフ α Sを「横暖ルーフ α 」、横暖ルーフプレミアムS、横暖ルーフS、横暖ルーフS1820を「横暖ルーフ」と表記しております。

9 センタールーフ標準施工法

9-1 安全にご使用いただくために

センタールーフを安全にご使用いただくため、施工前に必ずお読みいただき、正しい施工を行ってください。なお、この製品は専門施工が必要なため、工事は必ず屋根専門工事業者様にご依頼ください。また、センタールーフを屋根材以外の用途には使用しないでください。

センタールーフは、住宅などの屋根材として十分満足していただける品質を備えておりますが、耐久性や耐候性などの諸機能は、正しい施工（標準施工）を行うことによってはじめて発揮されるものです。従って、必ず正しい施工（標準施工）を実施していただくようお願いいたします。



死亡または重傷を負う可能性が想定されます。

- 強風・雨天・降雪・雷鳴時は、施工しないでください。落下および落雷事故のおそれがあります。
- 高所作業は関係法規に従って行ってください。事故のおそれがあります。
- センタールーフや金属製付属部材は電線などに触れないよう施工してください。感電のおそれがあります。併せて、高圧送電線が近くにある場合、事前に電力会社へ相談するなど、安全対策を講じてください。
- センタールーフの使用可能地域外では、不具合や施工上の危険をまねくおそれがありますので、使用しないでください。
- 雨や雪、露などで屋根面が濡れている場合は施工しないでください。滑り落ちるおそれがあります。
- 積雪のある地域では、落雪による事故を防止するため、雪止め金具をご使用ください。
- 屋根施工後は原則、屋根面に乗らないでください。また、屋根材の上の歩行は極力控え、やむを得ず歩行する際は慎重な歩行を心掛けてください。底の硬い靴は使用しないでください。
- 屋根面にはむやみに端材や工具などの物を置かないでください。滑り落ち、怪我などのおそれがあります。
- 固定していない屋根材や付属部材などの上には絶対に乗らないでください。滑り落ちるおそれがあります。



使用者が傷害を負う危険が想定される場合および物的損傷の発生が想定されます。

- 建築基準法、消防法に規定された建築用途、施工地域などを確認して使用してください。
- 動きやすい服装、滑りにくい履物など、作業に適したものを着用してください。
- 作業の際は、ヘルメット、滑り止め付き手袋や保護めがねなどの適切な保護具を着用してください。
- 工事期間中、毎日の作業終了後には、屋根面の清掃をしてください。
- 電動工具などをご使用の際は、各工具の取扱説明書に従って正しく使用してください。また、その配線などには漏電しないものを使用してください。
- 釘打ち機はセンタールーフ釘打ち部を突き破るおそれがあるので使用しないでください。
- 梱包材、残材などは産業廃棄物として適正に処分してください。
- 屋根面に仮設足場を組む場合は必ず養生板を敷いてください。また、架台を組む場合は、取り付け架台のメーカーへご相談の上、汚れや雨水、異物の滞留がないようにしてください。
- はしごをかける場合は、当て木を使い、かつ、滑らないように固定してください。また、登り降りの作業は2人で行ってください。
- 施工中は仮設足場から屋根面へ飛び下りたり、物を落としたりしないでください。破損などが生じ、雨漏りなどの不具合の原因となります。

9-2 運搬・保管時の注意事項

- センタールーフの保管は原則屋内の水平な場所とし、必ずパレットまたは飼い木の上に載せてください。飼い木の間隔は1m以下としてください。(8段積み以下)立て掛け保管は反りの原因となります。
- 水漏れの可能性のある施工現場などでは、防水用のシート掛けをしてセンタールーフが濡れないようにしてください。
- 保管中は変形防止のため、重量物や人が乗らないようにしてください。輸送中は損傷しないようにしてください。
- 持ち運びの際は、1枚の時もケースの時も小端立てして両端を2人で持って運んでください。
- ロープで吊り上げる場合は2点吊りとし、吊り上げる時はワイヤー掛けなどでセンタールーフが損傷しないようにしてください。
- 吊り上げ作業中は、構造物や樹木に接触して変形、ひっかき傷などが生じないように注意してください。
- 屋根上に仮置きする場合は落下防止のため、滑り止めの栈木を仮打ちしてその上に置いてください。(仮打ちで生じた孔はシーリング材などで補修してください。)また、風のある時はあおられて飛ばないようにロープなどで結束して固定してください。
- 梱包のPPバンドは持たないでください。

9 センタールーフ標準施工法

9-3 設計施工基準

- 下葺材は下表のようにセンタールーフの種類および屋根勾配、流れ長さに応じて施工してください。

勾配	2.5寸以上3.5寸未満	3.5寸以上27.5寸以下
流れ長さ	10m以下	13m以下
捨て板(BYS2F00A)	要(全段)	不要
横暖ルーフαプレミアムS 横暖ルーフプレミアムS 【飛び火認定 DR-1859-1(1)】	<防水強化仕様> 片面粘着層付き 改質アスファルトルーフィング、 アスファルトルーフィング940、 改質アスファルトルーフィング	<一般施工仕様> アスファルトルーフィング940または 改質アスファルトルーフィング
横暖ルーフαS窯変 【飛び火認定 DR-1981(1)】		
横暖ルーフαS 横暖ルーフS(1820) 【飛び火認定 DR-1892(1)】		

- 建物の高さは原則16m以下とします。耐風圧性能はP215でご確認ください。
- 垂木は455mm以下の間隔で施工します。
- 野地板は耐水合板(普通合板1類、構造用合板特類または1類)12mm厚以上とし、千鳥張りします。なお、ALC板には施工できません。
- 積雪のある地域で、すがもれが懸念される場合は、十分なすがもれ対策を実施のうえ、センタールーフを施工します。なお、屋根勾配は3.5寸以上、流れ長さは屋根勾配に応じて表の通りとなります。

<すがもれ対策の勾配と流れ長さ・下葺材の条件>

勾配	3.5寸以上4.0寸未満	4.0寸以上5.0寸未満	5.0寸以上
流れ長さ	10m以下	13m以下	
捨て板(BYS2F00A)	軒先から8段目まで使用		不要
下葺材の強化方法	片面粘着層付きアスファルトルーフィング上下重ね100mm以上、または アスファルトルーフィング上下重ね550mm以上、 左右重ねは双方とも200mm以上		

- 結露防止のため、(独)住宅金融支援機構住宅工事仕様書に準じた小屋裏換気を必ず行ってください。

9-4 本体施工時の注意事項

- センタールーフは長尺、軽量のため風にあおられやすいので風のある日は特に注意して施工してください。
- センタールーフの上で切断作業を行わないでください。また、センタールーフ本体や付属部材の加工時、切断面に生じたバリおよび切り粉などは取り除いてください。もらい錆の原因となります。
- センタールーフ表面および裏面の塗装に傷がつかないように注意してください。傷がつくと発錆の原因となります。万一、傷をつけてしまった場合は、必ず専用補修塗料で補修してください。
- シーリング、補修塗料などは使用方法をご確認の上、正しく使用してください。
- 専用付属部材以外の部材を使用した場合、本体と部材で質感が異なる可能性があります。設定のある付属部材は、必ず専用付属部材を使用してください。

9-5 下地の確認

1) 屋根の清掃・点検

- 施工前に屋根面が設計図通りになっているか野地板、けらば、軒先、棟、隅棟などの下地の寸法を確認してください。また、納品された製品が注文したものと一致しているか確認してください。
- 施工前に屋根面の点検を行い、枯れ葉やゴミが残っていないか確認してください。また、同時に仮設足場の不備がないか、障害物を撤去した後の破損がないか十分に確認してください。

2) 下地組みの確認

- 屋根面(野地板、軒先、けらば、棟、隅棟など)が設計図通りになっていることを確認してください。

9 センタールーフ標準施工法

9-6 施工手順



●施工手順の詳細は、部位や屋根形状によって変わりますので納まり図をご参照ください。

9-7 補修塗装

1) 補修塗装手順

センタールーフには専用の補修塗料を用意していますが、適切な補修がなされないと色違いなどの原因となるおそれがあります。使用に際しては下記に注意してください。

①天候確認

- 補修の前日および当日が降雨・降雪の場合は補修塗装を行わないでください。
- 施工時の気温が5℃以上の時に行ってください。

②色調の確認

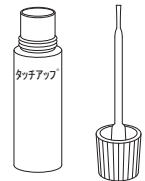
- 色が均一になるまで十分に振った後、端材などに試し塗りをして色調を確認してください。

③補修面の処理

- 汚れ、埃、水分などを除去してください。

④補修塗装

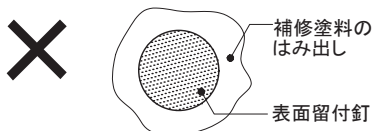
- 補修塗料には攪拌球がセットされています。カチカチと音がするまでよく振ってからご使用ください。
 - 必要以上に塗り広げないように、かつ、厚く塗らないようにしてください。
- ※補修塗料は色調をセンタールーフに合わせてありますが、塗布量・塗布方法・艶などにより補修箇所が目立つ場合がありますので、塗布面積は必要最小限としてください。
塗布面積が大きくなると違和感が生じるおそれがあります。



補修塗料の蓋中央にある色見本と同色になるまで充分に振り、必ず端材などに試し塗りをしてください。
特に多色品は塗布する箇所に近い色を選定してください。

2) 釘頭の補修塗装

センタールーフの付属部材を留め付ける釘頭・ビス頭が目立つ箇所のみとし、周辺に塗り広げないよう最小限に塗布します。



釘頭より広く塗り広げたり、厚く塗布しないでください。広げたり、塗布量が多くても、施工途中は足場やネットがあり暗いのでわかりにくい場合があります。足場などが外れると外観上かなり目立つ場合があります。丁寧に塗布してください！

9 センタールーフ標準施工法

センターサイディング
標準施工法

センターサイディング
基本納まり図

本体・付属部材
詳細図

付属部材加工図

センターサイディング
木造編

センターサイディング
鉄骨造 金属脚縁編

センターサイディング
鉄骨造 直張り編

センター化粧石膏板
標準施工法

センタールーフ
標準施工法

センタールーフ
納まり詳細図

参考資料

9-8 下葺材の施工(一般施工仕様)

- 下葺材はP211表より、アスファルトルーフィング940(JIS A 6005)または改質アスファルトルーフィングを使用します。
- 棟換気部材などを設置する場合は、各換気部材メーカーの設置仕様に従ってください。
- 下葺材の施工後、垂木の位置が分かるように墨出しを行ってください。

一般部

●重ねしろは上下100mm以上、左右200mm以上とします。

軒先・けらば部

●軒先部は、軒先水切の半分程度まで下葺材をかぶせます。
●ケラバ部はのぼり木を設置し、下葺材を立ち上げます。役物に応じて納めます。

大棟部

●大棟部は、片側300mm以上(計600mm以上)重ねます。

隅棟部

●隅棟部は、隅棟芯より200mm以上下葺材を敷き延ばして施工した後、幅500mm以上の下葺材を隅棟芯に沿って増し張りします。

壁際部

●壁際は、250mm以上(雨押え金物の上端より50mm以上)立ち上げます。

谷部

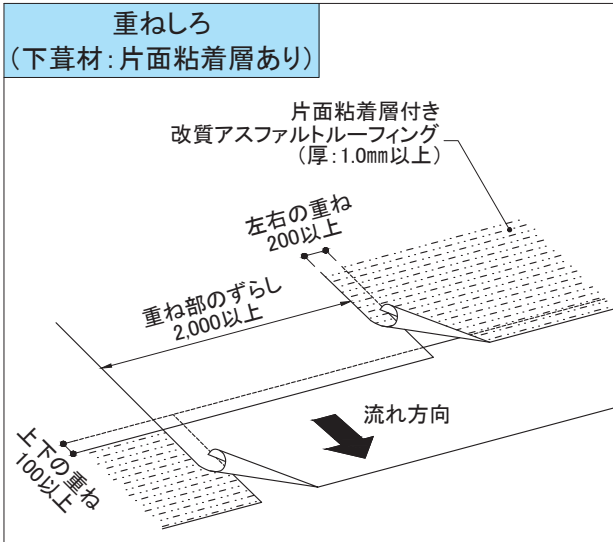
●谷部は、
①谷芯を中心に片側500mm以上下葺材を捨て張りし、
②、③は、両側から谷芯より250mm以上敷き延ばします。
(図中の○数字は、施工の順番を表しています。)

9 センタールーフ標準施工法

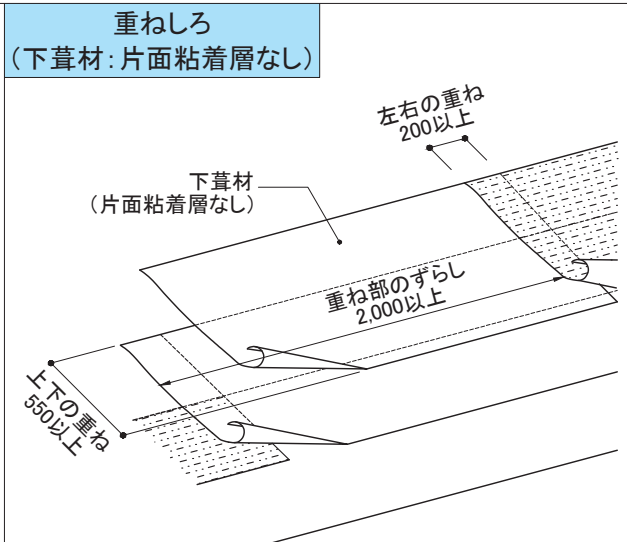
9-9 下葺材の施工(防水強化仕様)

勾配2.5寸以上3.5寸未満の緩勾配屋根

- 本下葺材施工仕様は屋根勾配2.5寸以上3.5寸未満の緩勾配屋根に適用します。
- 下葺材はP211表より、片面粘着層付き改質アスファルトルーフィング、アスファルトルーフィング940または改質アスファルトルーフィングを使用します。
- 共通捨て板は図のように施工します。
- 棟換気部材などを設置する場合は、各換気部材メーカーの設置仕様に従ってください。
- 下葺材の施工後、垂木の位置が分かるように墨出しを行ってください。

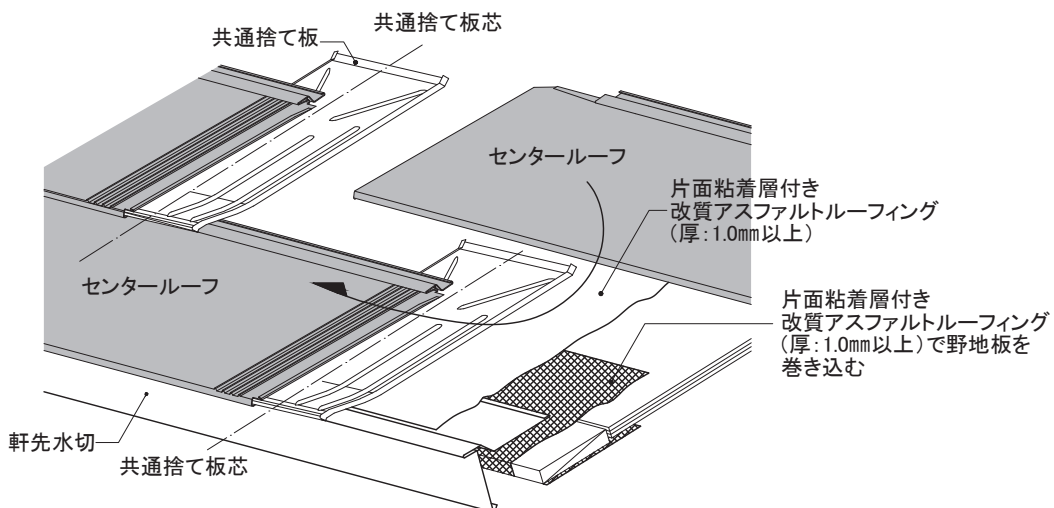


- 重ねしろは、縦方向100mm、横方向200mm以上とします。
- 上下段の重ね部は2000mm以上ずらします。



- 重ねしろは、縦方向550mm、横方向200mm以上とします。
- 上下段の重ね部は2000mm以上ずらします。

共通捨て板・板金取り合い部



- 野地板腐朽防止のため、軒先水切施工前に片面粘着層付き改質アスファルトルーフィングで野地板の軒先先端を巻き込んでください。
- 板金役物の接合部は必ずシーリング処理を行います。
- センタールーフの共通捨て板は本体左右接合部に図のように施工します。共通捨て板の中心がセンタールーフ本体右端部となるよう位置を合わせて取り付けます。上下の共通捨て板が重なるような割り付けは避けてください。
- 共通捨て板には、本体・付属部材の釘・ビスなどで孔をあけないでください。

9 センタールーフ標準施工法

9-10 本体・付属部材の留め付け

1) 本体の留め付け

- センタールーフは下表の釘、ビスで留め付けてください。

屋根材	施工方法	留付材	留付間隔
横暖ルーフ α 横暖ルーフ	垂木固定	JK500E (ステンレススクリュー釘 ϕ 2.3mm \times 50mm) JK1710 (ステンレスビス ϕ 4.1mm \times 27mm)	455mm以下
	野地板固定	JK1710 (ステンレスビス ϕ 4.1mm \times 27mm)	300mm以下

- 施工方法に応じた耐風圧性能は下表の通りです。適切な安全率を見込んで施工仕様を決定してください。
推奨安全率=1.6以上

センタールーフの耐風圧性能

屋根材	留付材	留付間隔	留付下地	耐風圧性能※
横暖ルーフ α	釘:JK500E	455mm	木製垂木留め	4500Pa/安全率
	ビス:JK1710	300mm	野地板留め	
横暖ルーフ	釘:JK500E	455mm	木製垂木留め	
	ビス:JK1710	300mm	野地板留め	

※試験条件 センタールーフ単体の性能値になります。

- エアーナイラーはセンタールーフ釘打ち部を突き破るおそれがあるので、使用しないでください。

2) 付属部材の留め付け

- 付属部材は木製栈木または樹脂製栈木に留め付けます。栈木の種類による施工条件は表の通りです。

栈木	栈木サイズ		付属部材の留付材※2	留め付け間隔
木製栈木	横暖ルーフ	30 \times 40	カラーステンレススクリュー釘 または ステンレススクリュー釘 長さ32mm以上 (現場調達品)	軒先唐草、棟包み、 谷樋用吊り子:300mm以下 上記以外455mm以下
	横暖ルーフ α	45 \sim 50 \times 45 \sim 50		
	けらば水切85 \cdot 110	18 \times 45		
樹脂栈木 フクビ化学工業製 エコランバー ※1	横暖ルーフ	エコランバー 瓦栈 H4028	止水パッキン付き ステンレスビス ϕ 4.2 \times 32mm以上 (現場調達品)	455mm以下
	横暖ルーフ α	エコランバー 瓦栈 M4343		
	けらば水切85 \cdot 110	エコランバー 瓦栈 N1845		

※1 エコランバーを使用する場合は、下葦材を栈木にまかなくてもかまいません。

※2 付属部材の留付材は栈木を貫通しないサイズを選定してください。ステンレススクリュー釘を使用する場合は留め付け後、補修塗料を最小限の範囲で塗布します。

<樹脂製栈木>

フクビ化学工業株式会社製 エコランバー

※エコランバーに関するお問い合わせは下記へお願いいたします。

フクビ化学工業株式会社 特需開発営業部 大阪特需課 電話:06-6386-6952

9 センタールーフ標準施工法

9-11 雪止め金具の設置について

- 1段あたりの雪止め金具が負担できる屋根流れ長さは、下記の通りです。
(屋根と雪の摩擦係数:0、安全率:1.5、積雪の単位荷重:3kg/(m²・cm))

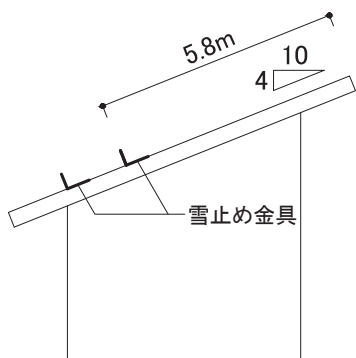
表①雪止め金具取付間隔:455mm以下の場合
単位:m

勾配(寸)	垂直積雪量(cm)										
	30	40	50	60	70	80	90	100	110	120	
2.5	12.4	9.3	7.5	6.2	5.3	4.7	4.1	3.7	3.4	3.1	
3	10.4	7.8	6.2	5.2	4.4	3.9	3.5	3.1	2.8	2.6	
3.5	8.9	6.7	5.3	4.4	3.8	3.3	3	2.7	2.4	2.2	
4	7.8	5.8	4.7	3.9	3.3	2.9	2.6	2.3	2.1	1.9	
4.5	6.9	5.2	4.1	3.5	3	2.6	2.3	2.1	1.9	1.7	
5	6.2	4.7	3.7	3.1	2.7	2.3	2.1	1.9	1.7	1.6	

表②雪止め金具取付間隔:300mm以下の場合
単位:m

勾配(寸)	垂直積雪量(cm)										
	30	40	50	60	70	80	90	100	110	120	
2.5	18.8	14.1	11.3	9.4	8.1	7.1	6.3	5.7	5.1	4.7	
3	15.7	11.8	9.4	7.9	6.7	5.9	5.2	4.7	4.3	3.9	
3.5	13.5	10.1	8.1	6.7	5.8	5	4.5	4	3.7	3.4	
4	11.8	8.8	7.1	5.9	5	4.4	3.9	3.5	3.2	2.9	
4.5	10.5	7.9	6.3	5.2	4.5	3.9	3.5	3.1	2.9	2.6	
5	9.4	7.1	5.7	4.7	4	3.5	3.1	2.8	2.6	2.4	

<計算例> 流れ長さ8.2m、4寸勾配、垂直積雪量40cmの場合(上の表①、②の○部)



図は雪止め金具取付間隔455mmの場合

表①雪止め金具取付間隔 455mmの場合
上の表より、雪止め金具が負担できる流れ長さは5.8m。
屋根の流れ長さは8.2mなので2段必要。

表②雪止め金具取付間隔 300mmの場合
上の表より、雪止め金具が負担できる流れ長さは8.8m。
屋根の流れ長さは8.2mなので1段必要。

- 垂直積雪量が120cmを超える地域にご使用の場合は、雪止め金具の強度性能から雪止め金具の段数をご検討ください。

<計算式>

$$\text{1段あたりの雪止め金具が負担できる屋根流れ長さ(m)} = \frac{190.8^{(kg)}}{(3 \times \text{垂直積雪量}^{(cm)} \times (\text{勾配}/10) \times \text{雪止め金具取付間隔} \times 1.5)^{(m)}}$$

- ・190.8:雪止め金具1個あたりの引張強度(測定値) 1870(N)/9.8→190.8(kg)
 - ・3:積雪の単位荷重(kg/m²・cm)
 - ・垂直積雪量:(cm)
 - ・勾配:(寸)
 - ・雪止め金具取付間隔:(m)
 - ・1.5:安全率※
- ※適切な安全率を見込んでください。推奨安全率=1.5以上。

9 センタールーフ標準施工法

9-12 施工後の注意事項

- 屋根面の歩行は原則控え、やむを得ず歩く場合は、本体の中心部を歩くように注意してください。なお、棟包みやけらば包み、ジョイント部などの上には絶対に乗らないようにしてください。
- 壁面などを塗装する場合は、必ずシートなどで屋根面を汚さないように養生してください。
- 他の構築物や取付金具などを施工する際に生じた、汚れ、ゴミ、屑などは掃除してください。
- 屋根面で他の構築物や取付金具などを施工する際に切り粉がでる切断は行わないでください。また、ハサミなどで切断した鉄板の切り屑、釘などをそのまま屋根面に放置しておくともらい錆の原因となります。切り屑、釘などは完全に除去してください。
- 屋根各部に小動物が侵入する穴が残っていないか点検し、もしあれば対策を立ててください。

9-13 太陽光発電パネル設置をご検討のお客様へ

横暖ルーフにも、太陽光パネルを設置可能です。

1) カナメソーラーグリップ

- 太陽光発電パネル設置の際は、事前に株式会社カナメの施工研修を受講し、同工法の施工IDを取得してください。
- 横暖ルーフにカナメソーラーグリップ工法で太陽光発電パネルを設置する場合、下地強度、留付ビス、留付間隔などの特殊な施工基準が定められています。同工法の施工基準を遵守し、正しく施工してください。

詳細は下記にご相談ください。

<株式会社カナメ>

・本社 ソーラー事業部

栃木県宇都宮市平出工業団地38-52 TEL 028-663-6300

・東京支店

東京都台東区台東4-25-7 TX佐竹ビル7F TEL 03-6841-1621

2) PVA-ATスライド

- 横暖ルーフにPVA-ATスライド工法で太陽光発電パネルを設置する場合、架台メーカーのニイガタ製販株式会社の独自の施工基準が定められています。

詳細は下記にご相談ください。

<高島株式会社 建材事業本部 東日本統括部 エネルギーソリューション東京ユニット>

・本社

東京都千代田区神田駿河台2-2 御茶ノ水杏雲ビル TEL 03-5217-7571

10 センタールーフ標準施工法 ＜納まり詳細図＞

10- 1	納まり詳細図	センタールーフ共通事項
10- 2	納まり詳細図	横暖ルーフ α
10- 3	納まり詳細図	横暖ルーフ



注意

飛び火認定の大臣認定が必要な場合は、大臣認定の別添に従い
施工してください。

本章では横暖ルーフ α プレミアムS、横暖ルーフ α S窯変、横暖ルーフ α Sを「横暖ルーフ α 」、横暖ルーフ
プレミアムS、横暖ルーフS、横暖ルーフS1820を「横暖ルーフ」と表記しております。

10-1 納まり詳細図 センタールーフ共通事項

1) 付属部材のつなぎ方	<ul style="list-style-type: none"> ① けらば唐草 ② 軒先唐草 ③ 棟包み210 ④ 段付けらば唐草 ⑤ 捨て谷80 ⑥ 隅棟捨て板
2) 付属部材の取り合い・加工	<ul style="list-style-type: none"> ① 棟包み210端部(けらば唐草使用時) ② 軒先唐草+けらば唐草 ③ 大棟-隅棟 ④ 壁水切(棟-流れ)
3) 本体の葺き方	<ul style="list-style-type: none"> ① 階段葺き ② 一文字葺き
4) 本体のつなぎ方	
5) 雪止め金具の施工方法	<ul style="list-style-type: none"> ① ウィング ② アングル
6) 棟包み210	屋根勾配と棧木寸法
7) センター換気棟	<ul style="list-style-type: none"> ① 施工のポイント ② 下地の開口 ③ センタールーフ・笠木の施工 ④ ベース・カバーの施工
8) 片流れ用換気棟	

センタールーフ

工法

下地

構造

新築

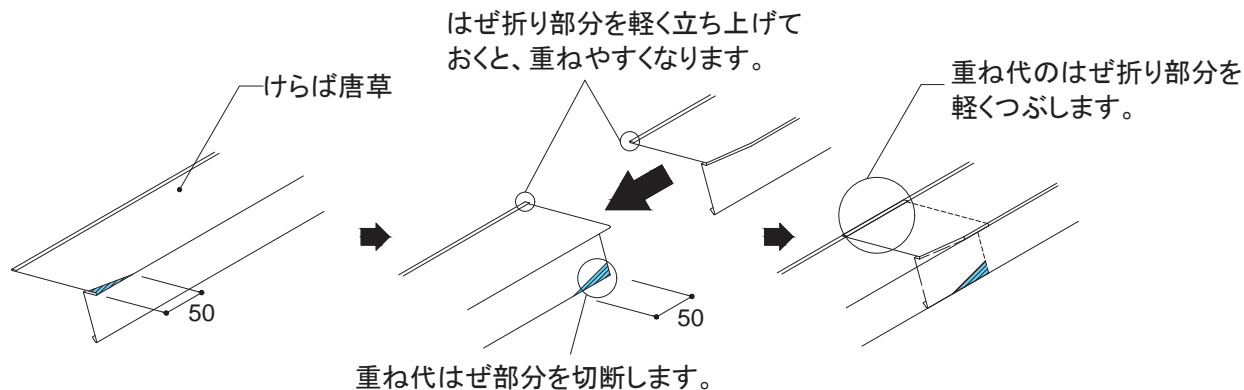
耐水合板

木造

1) 付属部材のつなぎ方

① けらば唐草

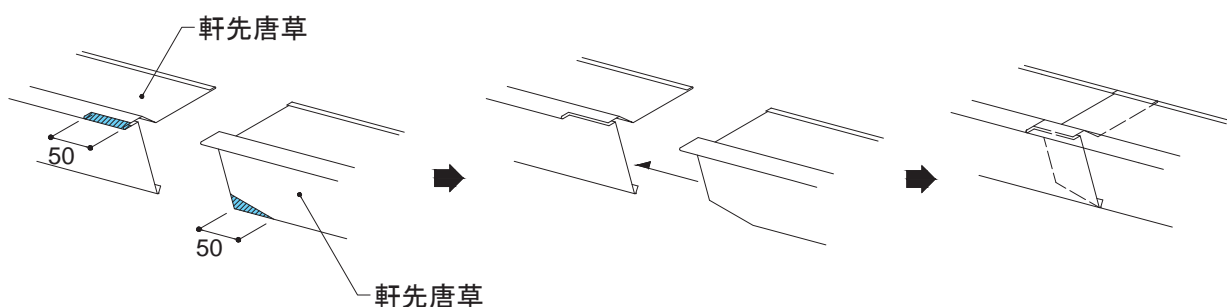
● けらば唐草端部から50mm程度を斜めに切断してつなぎます。



1) 付属部材のつなぎ方

② 軒先唐草

● 斜線部分を切断して図のように納めてつなぎます。

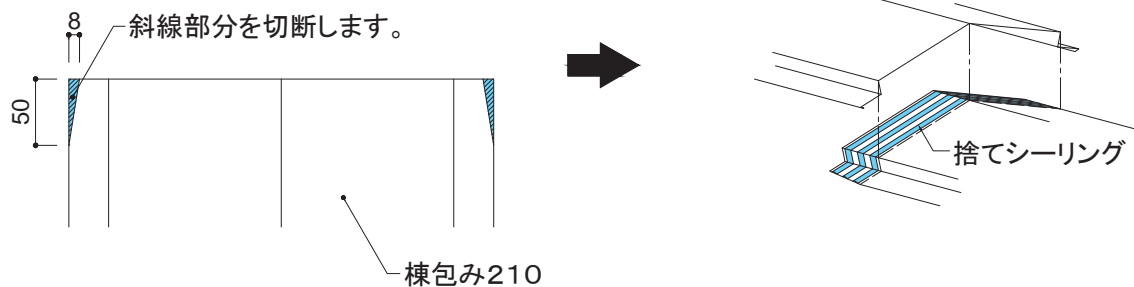


1) 付属部材のつなぎ方

③ 棟包み210

● 重ねの下になる棟包みの端部は、図の斜線部分を切断してつなぎます。

● 重ね代部分に、シーリングでビードを3本作り棟包み210をかぶせます。



※ 付属部材のつなぎ方はあくまで一例です。現場の状況に応じて適宜ご対応ください。

センタールーフ	工法	下地	構造
	新築	耐水合板	木造

センターサイディング
標準施工法

センターサイディング
基本納まり図

詳細図
本体・付属部材

付属部材加工図

センターサイディング
木造編

センターサイディング
鉄骨造 金属胸縁編

センターサイディング
鉄骨造 直張り編

センター化粧石膏板
標準施工法

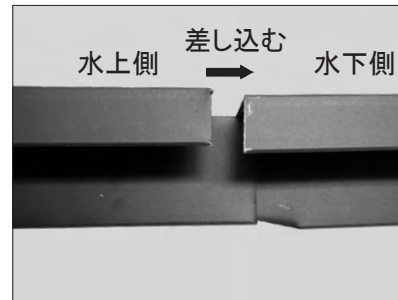
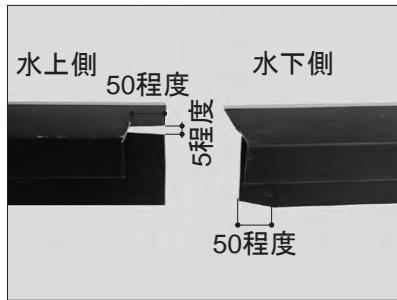
センタールーフ
標準施工法

センタールーフ
納まり詳細図

参考資料

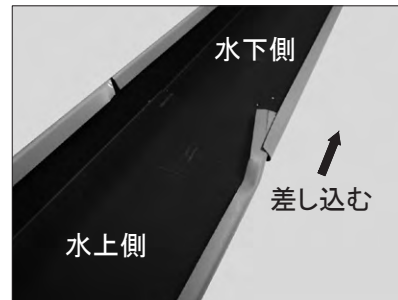
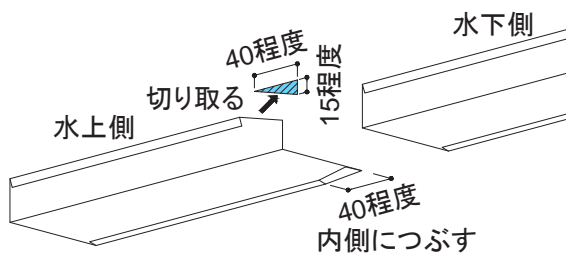
1) 付属部材のつなぎ方	④ 段付けらば唐草
--------------	-----------

● 段付けらば唐草端部から50mm程度を斜めに切断し、水上側を水下側へ差し込みます。



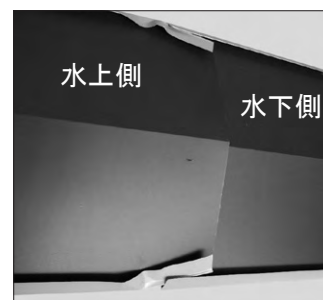
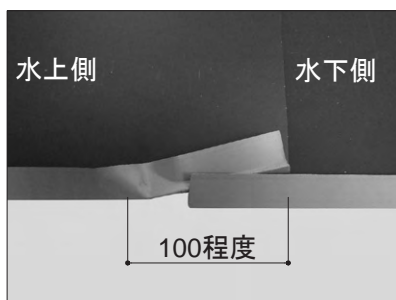
1) 付属部材のつなぎ方	⑤ 捨て谷80
--------------	---------

● 斜線部分を切断して図のように納めてつなぎます。
水上側の捨て谷80を図のように加工し、水上側を水下側へ差し込みます。



1) 付属部材のつなぎ方	⑥ 隅棟捨て板
--------------	---------

● 水上側の隅棟捨て板の返し部分の端部100mm程度を写真のように内側につぶし、水上側を水下側へ差し込みます。



※ 付属部材のつなぎ方はあくまで一例です。現場の状況に応じて適宜ご対応ください。写真はイメージです。

センタールーフ

工法

新築

下地

耐水合板

構造

木造

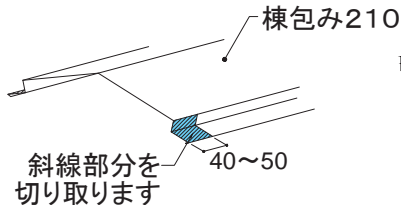
2) 付属部材の取り合い・加工

① 棟包み210端部(けらば唐草使用時)

●けらば唐草を使用して納める場合は、棟包み端部を現場加工してください。

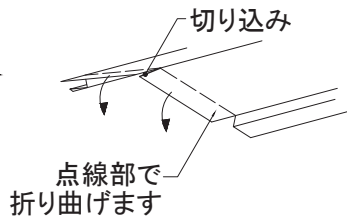
手順①

重ねの下になる棟包みの端部を図の斜線部分で切り取ります。



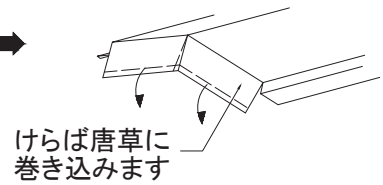
手順②

点線部分で下に折り曲げます。



手順③

折り曲げた部分の下端をけらば唐草に巻き込みます。

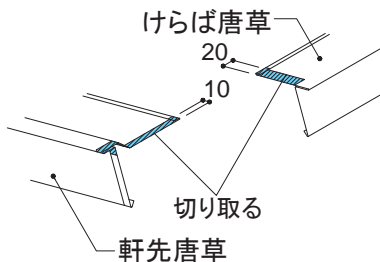


2) 付属部材の取り合い・加工

② 軒先唐草+けらば唐草

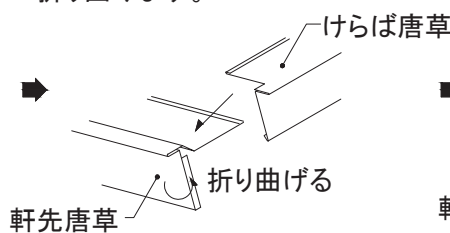
手順①

斜線部分を切り取ります。



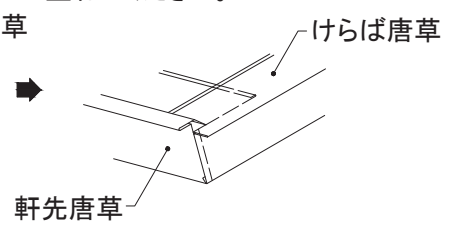
手順②

けらば唐草端部の下がり部分を折り曲げます。



手順③

けらば唐草を軒先唐草の上に重ねてください。



2) 付属部材の取り合い・加工

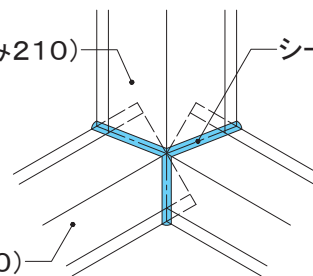
③ 大棟一隅棟

●棟包みどうしが重なるように端部を加工して納めます。

●つなぎ部分には必ずシーリングを施工してください。

大棟(例: 棟包み210)

シーリング



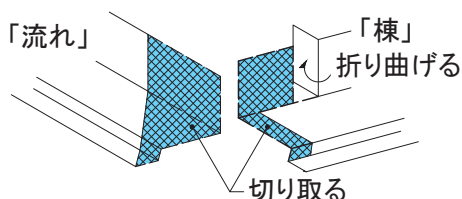
隅棟(例: 棟包み210)

2) 付属部材の取り合い・加工

壁水切(棟一流れ)

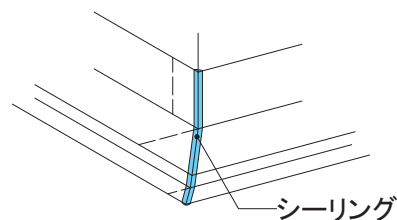
手順①

斜線部分を切断し、棟側の壁水切を折り曲げて納めます。(斜線部分は勾配により異なります。)



手順②

つなぎ部分には必ずシーリングを施工します。



※付属部材のつなぎ方はあくまで一例です。現場の状況に応じて適宜ご対応ください。

センタールーフ

工法	下地	構造
新築	耐水合板	木造

センターサイディング
標準施工法

センターサイディング
基本納まり図

本体・付属部材
詳細図

付属部材加工図

センターサイディング
木造編

センターサイディング
鉄骨造 金属縁編

センターサイディング
鉄骨造 直張り編

センター化粧幕板
標準施工法

センタールーフ
標準施工法

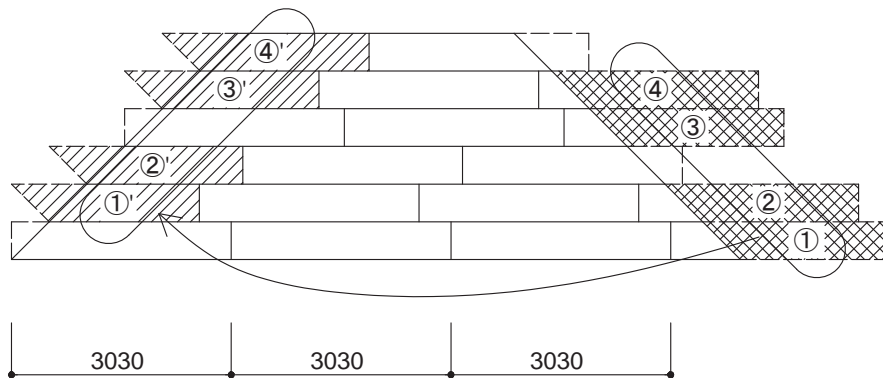
センタールーフ
納まり詳細図

参考資料

3) 本体の葺き方

① 階段葺き

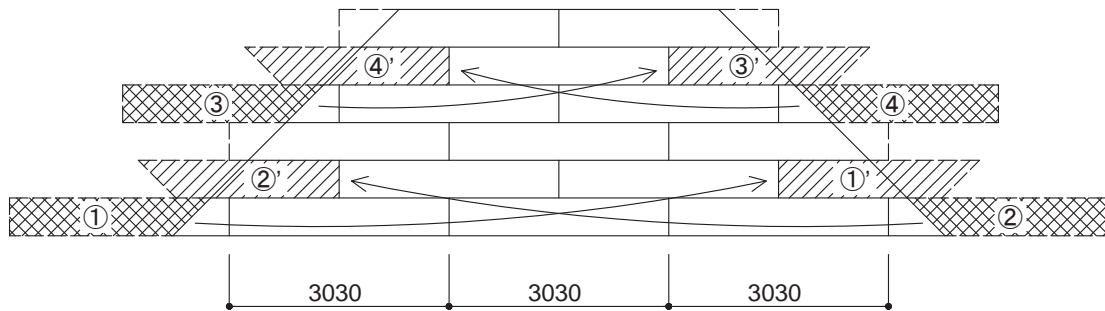
- 端材の寸法を優先して使うことにより、ロスの少ない施工が可能です。
- ※本体の横つなぎ目地が流れ方向で重ならないよう、以下の方法で配置してください。



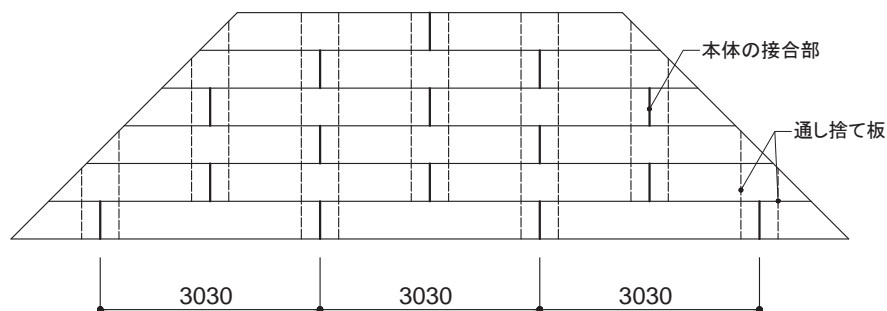
3) 本体の葺き方

② 一文字葺き

- 端材のロスが比較的多くなりますが目地を揃える施工が可能です。一段おきに本体のつながりができます。
- ※本体の横つなぎ目地が流れ方向で重ならないよう、以下の方法で配置してください。



- 通し捨て板(現場加工)を下に敷くこともできます。通し捨て板を使用する場合は以下の点にご注意ください。
- ①通し捨て板の固定は吊り子を使用します。
- ②通し捨て板には本体・付属部材固定用の釘・ビスなどで孔をあけないようにします。



センタールーフ

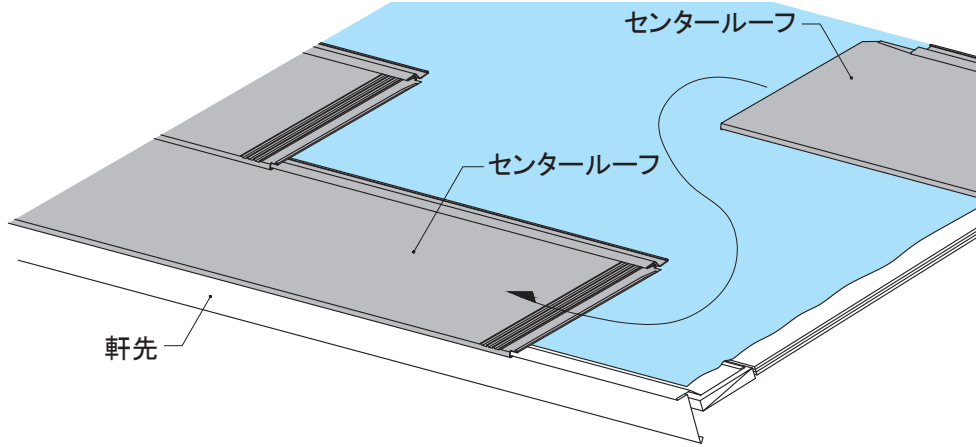
工法
新築

下地
耐水合板

構造
木造

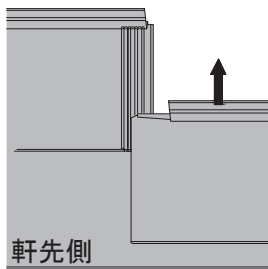
4) 本体のつなぎ方

●センタールーフ本体は左から右へ葺いていきます。また本体どうしのつなぎは重ね合わせのみです。



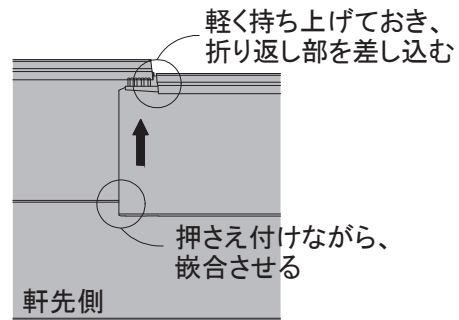
●つなぎの下になる本体を施工後、図1のように施工します。図1で施工できない場合は図2のように施工します。

図1



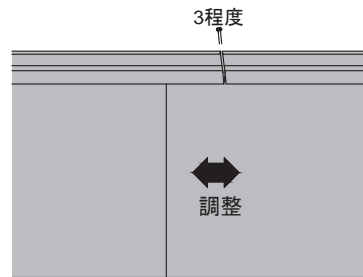
つなぎの上になる本体を下の本体にかぶせるようにスライドさせます。

図2



上になる本体の軒先側は嵌合できるように上から押さえ、釘打ち側は軽く持ち上げておき、一気に軒先側は嵌合させ、釘打ち側は上の本体の折り返し部を下の本体の折り返し部に差し込みます。

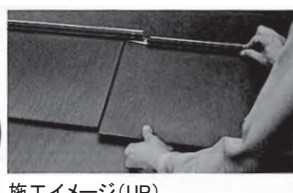
●横暖ルーフの横つなぎは本体釘打ち部の左右隙間が3mm程度になるように調整して施工してください。



●横暖ルーフ α は左右の断熱材を突き合わせてつなぐ設計となっています。断熱材を突き合わせて施工してください。横暖ルーフと横暖ルーフ α では隙間寸法が異なります。



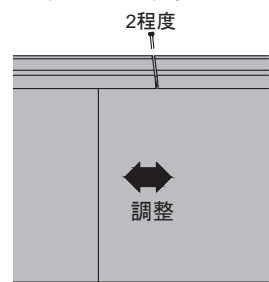
施工イメージ(近景)



施工イメージ(UP)



裏面イメージ



●緩勾配で捨て板を使用する場合は、P214をご確認ください。

センタールーフ

工法
新築

下地
耐水合板

構造
木造

センターサイディング
標準施工法

センターサイディング
基本納まり図

本体・付属部材
詳細図

付属部材加工図

センターサイディング
木造編

センターサイディング
鉄骨造 金属胸縁編

センターサイディング
鉄骨造 直張り編

センター化粧幕板
標準施工法

センタールーフ
標準施工法

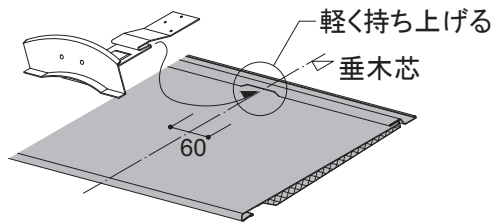
センタールーフ
納まり詳細図

参考資料

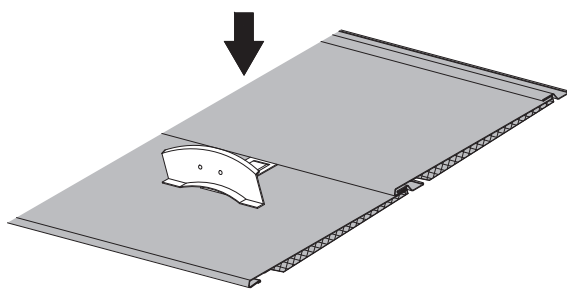
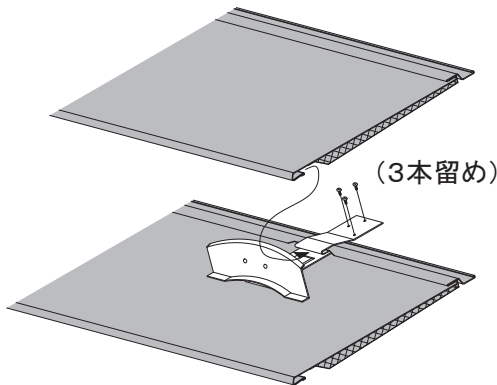
5) 雪止め金具

① ウイング

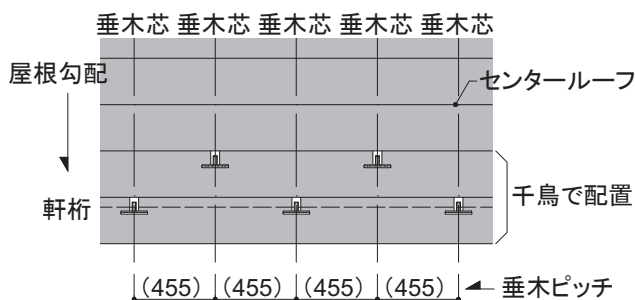
- 雪止め金具の取付位置は必ず垂木の直上に配置します。
- 雪止め金具を設置するセンタールーフ本体の折り返し部分を幅60mm程度軽く持ち上げます。
- 雪止め金具の折り返し部分をセンタールーフ本体の持ち上げた部分に奥までしっかり差し込みます。



- 雪止め金具を垂木に留め付け、上段のセンタールーフ本体を通常施工通りにかぶせます。

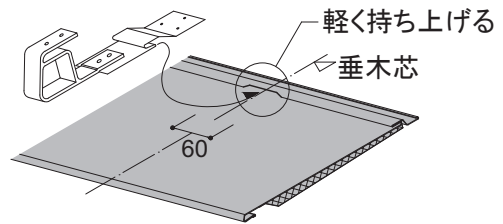


- 図のように軒桁の上を1段目とし、千鳥に配置します。
- 取付間隔は垂木に合わせてます。

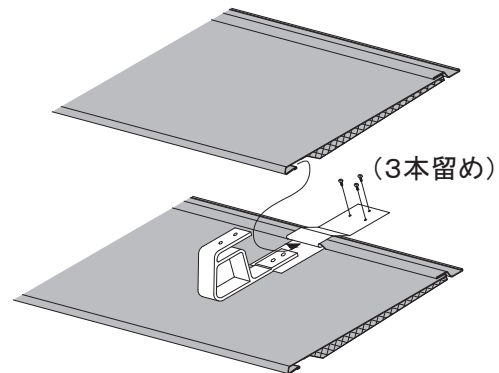


② アンクル

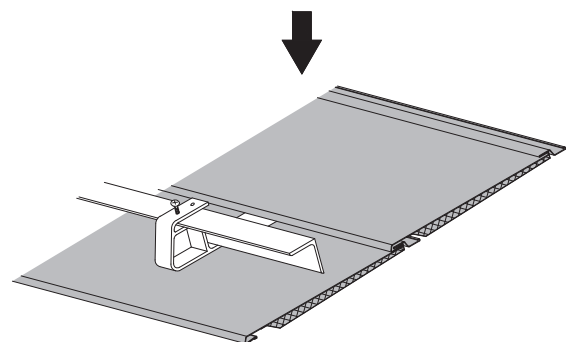
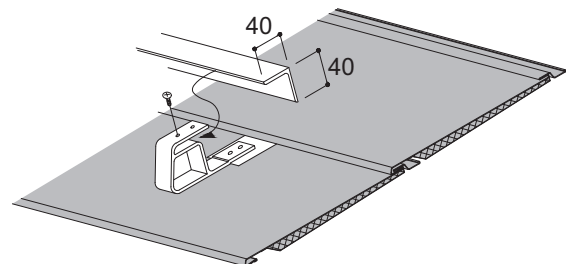
- 雪止め金具の取付位置は必ず垂木の直上に配置します。
- 雪止め金具を設置するセンタールーフ本体の折り返し部分を幅60mm程度軽く持ち上げます。
- 雪止め金具の折り返し部分をセンタールーフ本体の持ち上げた部分に奥までしっかり差し込みます。



- 雪止め金具を垂木に留め付け、上段のセンタールーフ本体を通常施工通りにかぶせます。



- 図のようにL型アンクル(現場調達)を取り付け、ビスで固定します。



センタールーフ

工法

新築

下地

耐水合板

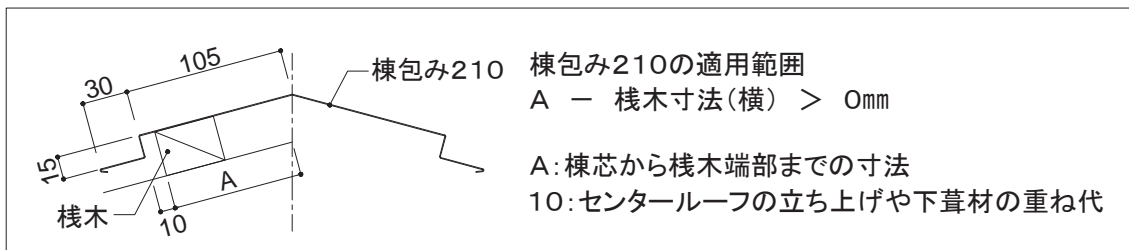
構造

木造

6) 棟包み210

屋根勾配と栈木寸法

- 棟包み210の適用範囲は、棟包み210の内側に栈木が入る勾配となります。
- 栈木位置は、センタールーフの種類ごとに栈木サイズと屋根勾配に応じて異なります。表はセンタールーフの種類と栈木サイズに応じた栈木位置の目安です。現場の状況に応じて栈木の位置を調整してください。



センタールーフの種類に応じた屋根勾配ごとの栈木位置A(※)の目安

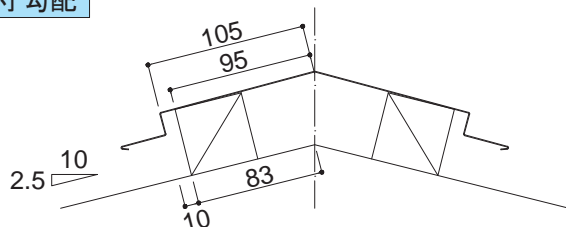
栈木寸法(mm)	横暖ルーフ	横暖ルーフ α	
	30(縦)×40(横)	45×45	50×50
2.5	87	83	82
3	86	81	80
3.5	84	79	77
4	83	77	75
4.5	81	74	72
5	80	72	70
5.5	78	70	67
6	77	68	65
6.5	75	65	62
7	74	63	60
7.5	72	61	57
8	71	59	55
8.5	69	56	52
9	68	54	50
9.5	66	52	
10	65	50	
12	59		
17	44		
19			

※ A: 小数点以下切り捨て

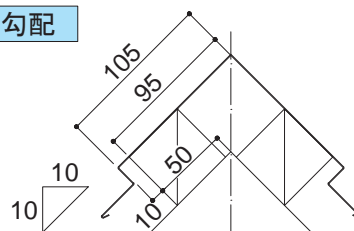
■部は棟包み210が使用できません。現場調達となります。

例: 屋根材が横暖ルーフ α 、栈木寸法が45×45mmの場合

2.5寸勾配



10寸勾配



センタールーフ

工法	下地	構造
新築	耐水合板	木造

センターサイディング
標準施工法

センターサイディング
基本納まり図

本体・付属部材
詳細図

付属部材加工図

センターサイディング
木造編

センターサイディング
鉄骨造 金属胴縁編

センターサイディング
鉄骨造 直張り編

センター化粧石膏板
標準施工法

センタールーフ
標準施工法

センタールーフ
納まり詳細図

参考資料

7) センター換気棟

① 施工のポイント

■大棟部:センター換気棟909と1818
センター換気棟を使用する場合は、大棟全体がP228~230の納まりとなります。椽木のサイズ、施工手順が[センター換気棟を使用しない場合の納まり\(P246、264\)](#)と異なります。

適用範囲 センター換気棟は大棟専用です。隅棟には使用できません。

適用勾配 ●センター換気棟は2.5~10寸までの屋根勾配に使用します。
●出荷段階ではカバーは、2.5寸勾配に設定しています。施工する屋根勾配に調節してからご使用ください。

施工本数 施工本数は住宅金融支援機構による住宅工事共通仕様書に準じます。

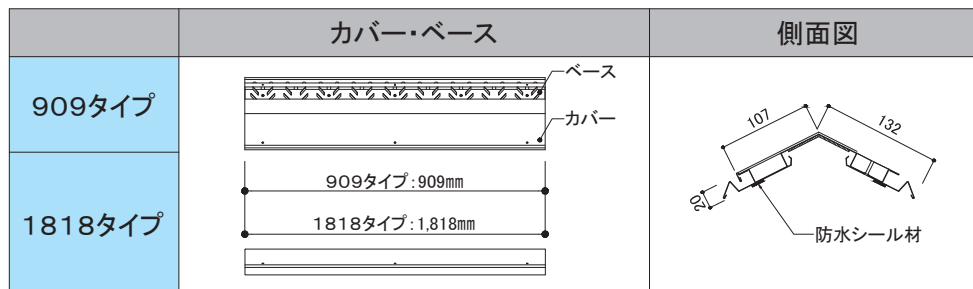
換気金物その他の器具を用いた排気口は、できるだけ小屋裏頂部に設け、排気口の有効換気面積は、天井面積の1/1600とする。
また、軒裏などに設ける吸気口の有効換気面積は、天井面積の1/900とする。

出典:(独)住宅金融支援機構住宅工事仕様書より抜粋

注意事項 ●センター換気棟の上に乗らないでください。変形や雨漏りの原因になります。
●センター換気棟は切断しないでください。
●センター換気棟どうしの接続部や棟包みとの接続部には十分な防水対策を行ってください。

有効換気面積	有効換気口面積 (cm ² /本)	適応天井面積 (m ² /本)	板厚 (mm)
909タイプ	118.8	19.0	0.35
1818タイプ	237.5	38.0	

本体形状 (略図)



付属品

	本体付属部品	換気棟エンドキャップ (別売)	換気棟ジョイント (別売)	棟包み210 (別売)
909タイプ	ベース取付ビス(φ4×32):6本 カバー取付ビス(φ4×16):6本			
1818タイプ	ベース取付ビス(φ4×32):12本 カバー取付ビス(φ4×16):10本			長さ:2,727mm

センタールーフ

工法	下地	構造
新築	耐水合板	木造

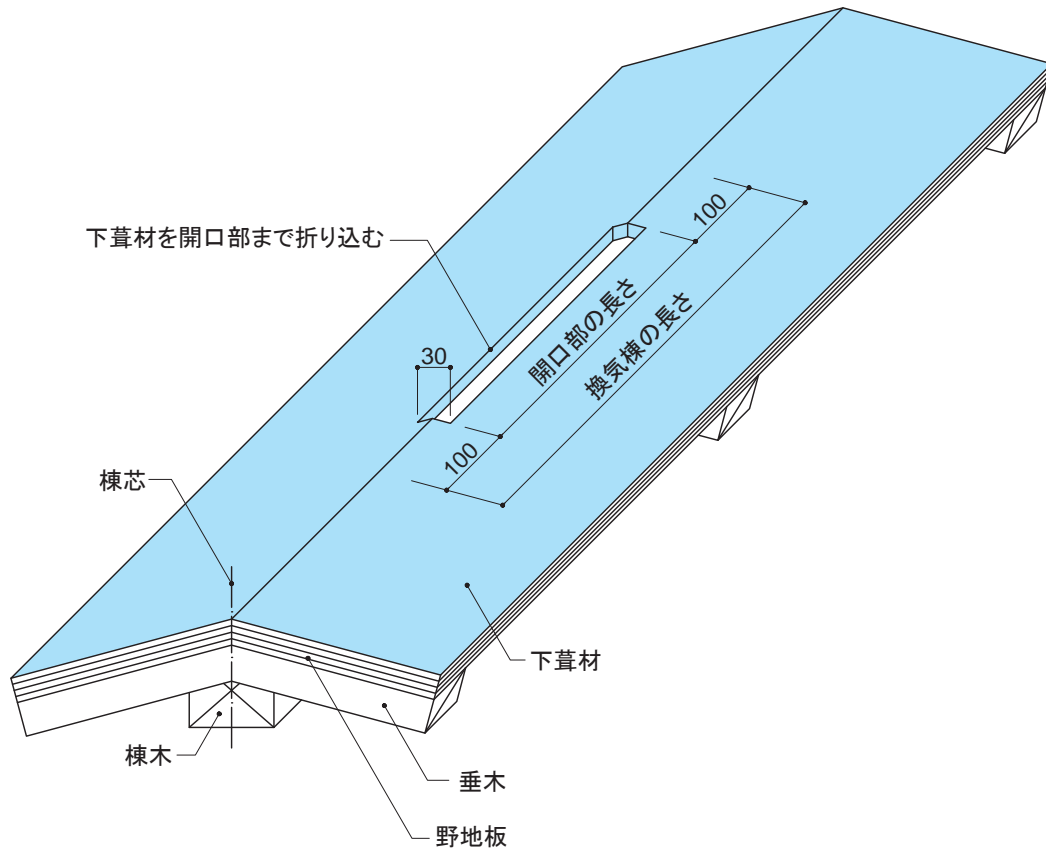
7) センター換気棟

② 下地の開口

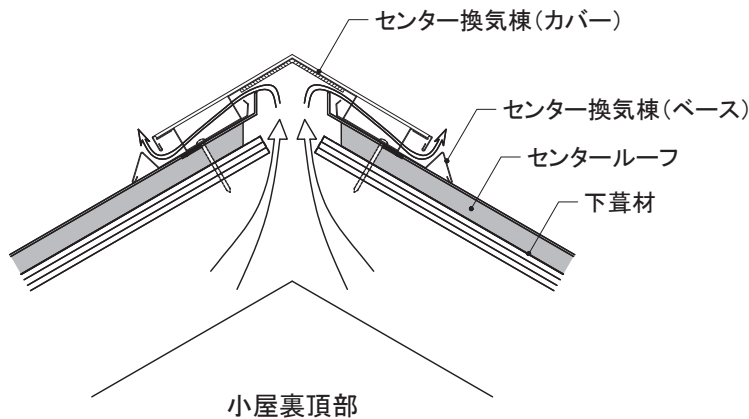
■大棟部: センター換気棟909・1818

<下地の開口>

- ①換気棟の取付位置を決めます。
- ②開口部の幅寸法は30mm(棟心から片側15mm)、長さ寸法は換気棟の全長より200mm以上(片側100mm以上)短くなるように開口します。(下表参照)
- ③開口後、下葦材を張ります。



	換気棟の長さ(mm)	開口部の長さ(mm)
909タイプ	909	709以下
1818タイプ	1818	1618以下



センタールーフ

工法	下地	構造
新築	耐水合板	木造

7) センター換気棟

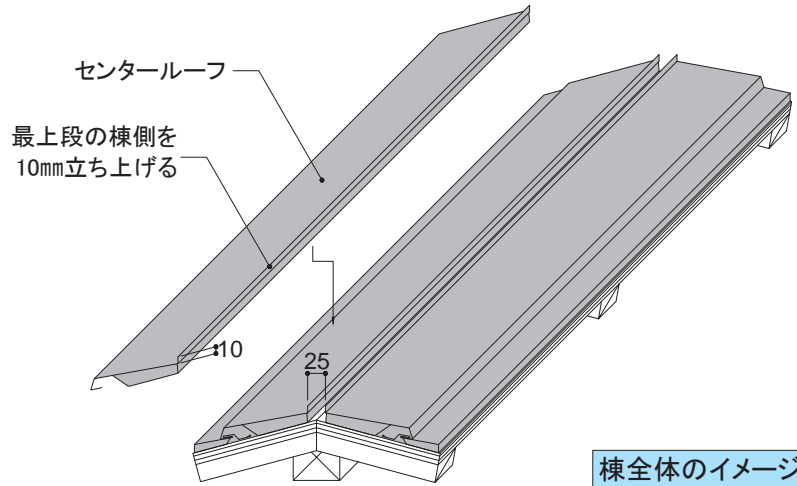
③ センタールーフ・笠木の施工

■大棟部:センター換気棟909・1818

＜センタールーフの施工＞

①センタールーフ本体の最上段棟側を全て10mm立ち上げて施工します。

センタールーフの立ち上げ



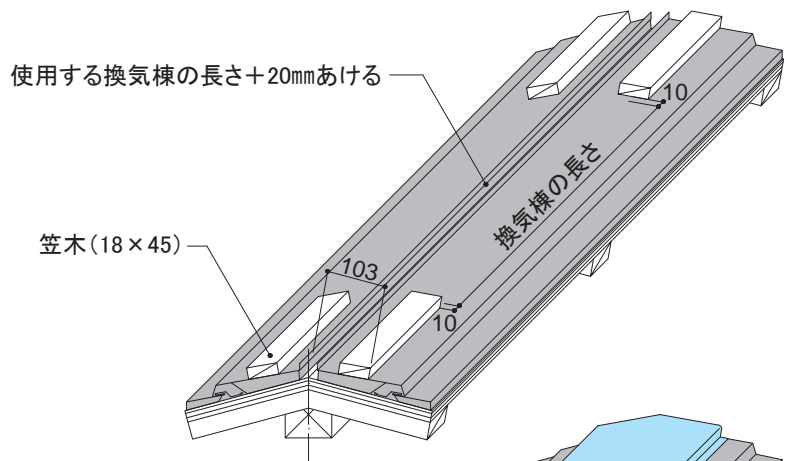
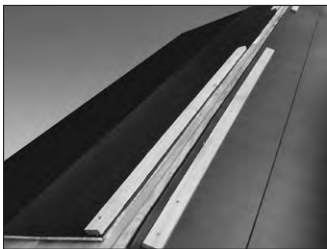
＜笠木の施工＞

①笠木(18×45)と棟包み210を仮組みして図の寸法位置に笠木を取り付けます。

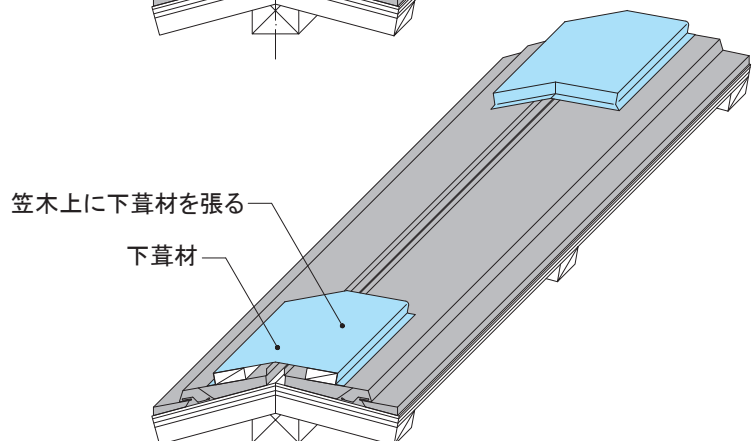
②笠木は換気棟の全長より片側10mm外側に付けます。

③笠木を施工後、笠木上に下葺材を張ります。

笠木の施工



下葺材の施工



写真はイメージです。

センターサイディング
標準施工法

センターサイディング
基本納まり図

本体・付属部材
詳細図

付属部材加工図

センターサイディング
木造編

センターサイディング
鉄骨造 金属脚縁編

センターサイディング
鉄骨造 直張り編

センター化粧幕板
標準施工法

センタールーフ
標準施工法

センタールーフ
納まり詳細図

参考資料

センタールーフ

工法

下地

構造

新築

耐水合板

木造

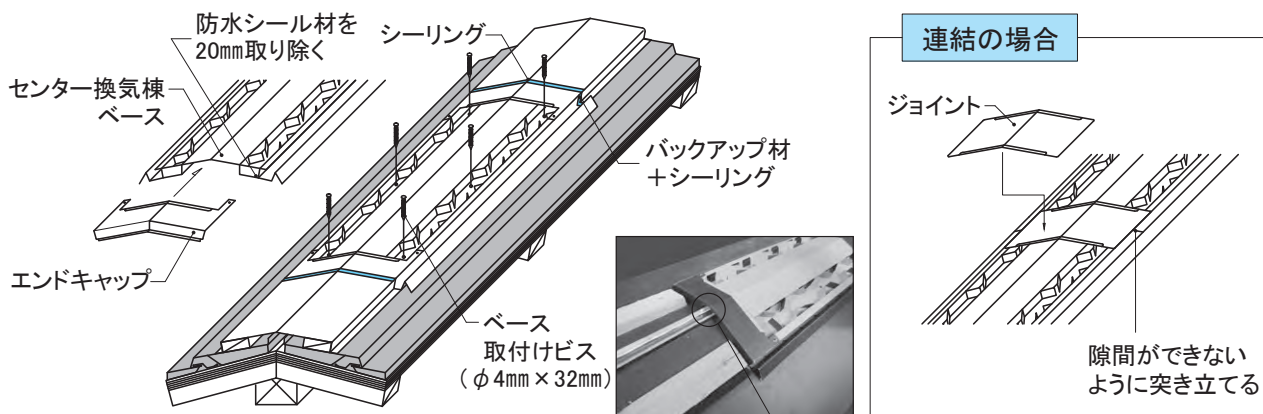
7) センター換気棟

④ ベース・カバーの施工

■大棟部: センター換気棟909・1818

<ベースの施工>

- ①ベース裏面の防水シール材を端部から20mm取り除いた後、ベース両端にエンドキャップを取り付けます。エンドキャップは事前に横暖ルーフ立ち上がり分を切り取ります。
- ②ベース裏面にエンドキャップを取り付けたものを笠木の間付属のベース取付けビス(φ4mm×32mm)で固定します。エンドキャップ切り取り部と横暖ルーフの取り合い部は、捨てシーリングを施工します。
- ③端部にはシーリングを施工します。
- ④換気棟を連結する場合は、換気棟ジョイントを使用してください。

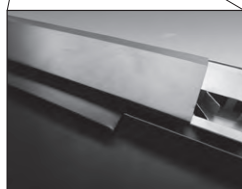
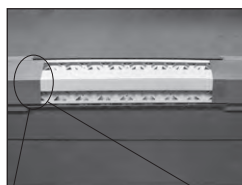


エンドキャップはセンタールーフの立ち上がり分を切り取る

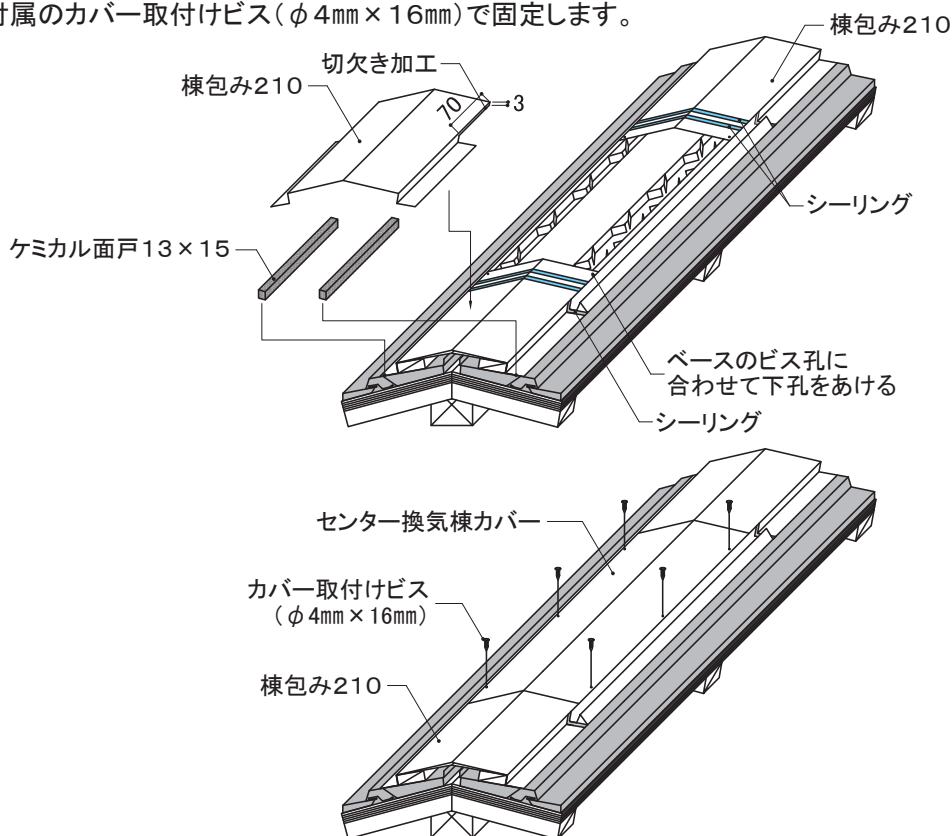
<棟包みとカバーの施工>

- ①棟包み210を図のように切り欠き加工し、加工部をベースに重ねて取り付けます。
- ②ベースのビス孔にあわせて棟包み210に先孔をあけます。
- ③カバーと重なる位置の棟包み210上に、シーリングを施工します。(片面2ヶ所)
- ④カバーを取り付け、付属のカバー取付けビス(φ4mm×16mm)で固定します。

棟包み210の施工



カバーの施工



写真はイメージです。

センタールーフ

工法

新築

下地

耐水合板

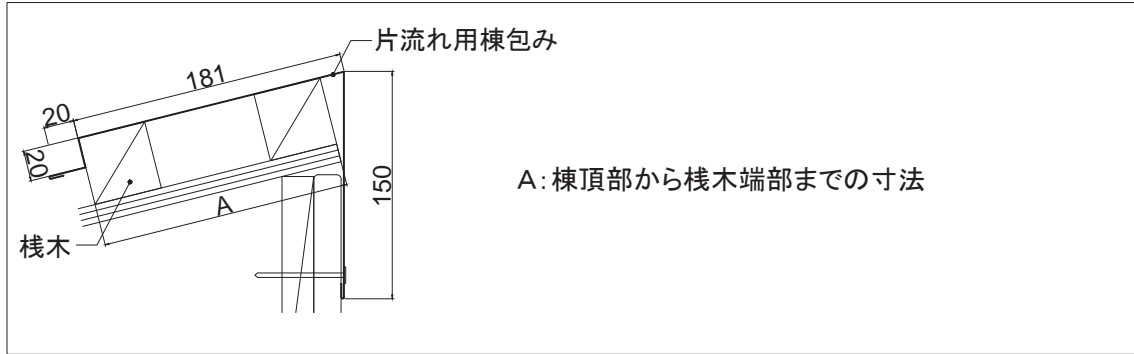
構造

木造

8) 片流れ用棟包み

屋根勾配と椼木寸法

● 椼木位置は、センタールーフの種類ごとに椼木サイズと屋根勾配に応じて異なります。表はセンタールーフの種類と椼木サイズに応じた椼木位置の目安です。現場の状況に応じて椼木の位置を調整してください。



センタールーフの種類に応じた屋根勾配ごとの椼木位置A(※)の目安

椼木寸法(mm)	横暖ルーフ	横暖ルーフ α
	30(横)×40(縦)	45×45
2.5	165	164
3	162	161
3.5	160	158
4	157	155
4.5	154	152
5	152	149
5.5	149	146
6	146	143
6.5	144	141

※ A: 小数点以下切り捨て

センターサイディング
標準施工法

センターサイディング
基本納まり図

本体・付属部材
詳細図

付属部材加工図

センターサイディング
木造編

センターサイディング
鉄骨造 金属胸縁編

センターサイディング
鉄骨造 直張り編

センター化粧幕板
標準施工法

センタールーフ
標準施工法

センタールーフ
納まり詳細図

参考資料

センタールーフ

工法

下地

構造

新築

耐水合板

木造

9) 片流れ用換気棟 ①施工のポイント 改訂のご案内

本ページ(P232)は、一部改訂のため、次ページ(P232-1)に更新しております。
最新の設計施工資料を閲覧される際は、次ページをご確認ください。

■片流れ部: 片流れ用換気棟

片流れ用換気棟を使用する場合は、片流れ棟全体がP232～236の納まりとなります。
栈木のサイズ、組み方等が片流れ用換気棟を使用しない場合の納まり(P255、273)と異なります。

適用範囲 片流れ用換気棟は片流れ棟専用です。

適用勾配 片流れ用換気棟は屋根材の種類で適用勾配が異なりますのでご注意ください。
出荷時は2.5寸勾配に設定しています。施工する屋根勾配に調節してからご使用ください。

施工本数 施工本数は住宅金融支援機構による工事共通仕様書に準じます。

換気金物その他の器具を用いた排気口は、できるだけ小屋裏頂部に設け、排気口の有効換気面積は、天井面積の1/1600とする。

また、軒裏などに設ける吸気口の有効換気面積は、天井面積の1/900とする。

出典:住宅金融支援機構仕様書より抜粋

- 注意事項**
- 片流れ用換気棟の上に乗らないでください。変形や雨漏りの原因になります。
 - 片流れ用換気棟は切断しないでください。
 - 片流れ用換気棟どうしの接続部や片流れ用棟包みとの接続部には十分な防水対策を行ってください。

有効換気面積	有効換気口面積 (cm ² /本)	適応天井面積 (m ² /本)	板厚 (mm)
	219	35	0.35

本体形状 (略図)	長さ	外観	側面図
	本体全長 2050mm 働き長さ 2000mm		

付属品	本体固定ビス	捨水切	捨水切 エンドキャップ	片流れ用棟包み (別売)
	 φ4.2×75mm:5本入り 予備1本含む	 塗装高耐食GLめっき鋼板 2本	 塗装高耐食GLめっき鋼板 2個	 塗装高耐食GLめっき鋼板 長さ2727mm

現地調達 部材	押さえ板金	
	【横暖ルーフの場合】 	【横暖ルーフαの場合】

センタールーフ

工法	下地	構造
新築	耐水合板	木造

9) 片流れ用換気棟

① 施工のポイント

■ 片流れ部: 片流れ用換気棟

センター換気棟を使用する場合は、片流れ棟全体がP232～236の納まりとなります。
 檼木のサイズ、組み方等がセンター換気棟を使用しない場合の納まり(P255、273)と異なります。

適用範囲 片流れ用換気棟は片流れ棟専用です。

適用勾配 片流れ用換気棟は屋根材の種類で適用勾配が異なりますのでご注意ください。
 出荷時は2.5寸勾配に設定しています。施工する屋根勾配に調節してからご使用ください。

施工本数 施工本数は住宅金融支援機構による工事共通仕様書に準じます。

換気金物その他の器具を用いた排気口は、できるだけ小屋裏頂部に設け、排気口の有効換気面積は、天井面積の1/1600とする。
 また、軒裏などに設ける吸気口の有効換気面積は、天井面積の1/900とする。
 出典: 住宅金融支援機構仕様書より抜粋

- 注意事項**
- 片流れ用換気棟の上に乗らないでください。変形や雨漏りの原因になります。
 - 片流れ用換気棟は切断しないでください。
 - 片流れ用換気棟どうしの接続部や片流れ用棟包みとの接続部には十分な防水対策を行ってください。

有効換気面積	有効換気口面積 (cm ² /本)	適応天井面積 (m ² /本)	板厚 (mm)
	219	35	0.35

本体形状 (略図)	長さ	外観	側面図
本体全長 2050mm 働き長さ 2000mm			

付属品	本体固定ビス	捨水切	捨水切 エンドキャップ	片流れ用棟包み (別売)
	<p>φ4.2×75mm: 5本入り 予備1本含む</p>	<p>塗装高耐食GLめっき鋼板 2本</p>	<p>塗装高耐食GLめっき鋼板 2個</p>	<p>塗装高耐食GLめっき鋼板 長さ2727mm</p>

別売り	押さえ板金	
	【横暖ルーフの場合】 	【横暖ルーフαの場合】

センターサイディング 標準施工法
 センターサイディング 基本納まり図
 本体・付属部材 詳細図
 付属部材加工図
 センターサイディング 木造編
 センターサイディング 鉄骨造 金属胴縁編
 センターサイディング 鉄骨造 直張り編
 センター化粧幕板 標準施工法
 センタールーフ 納まり詳細図
 参考資料

センタールーフ

工法	下地	構造
新築	耐水合板	木造

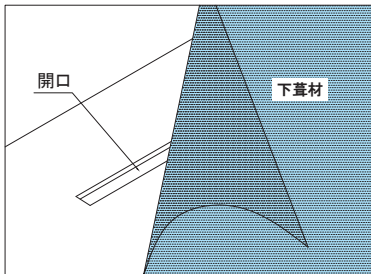
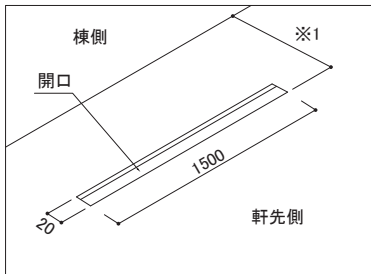
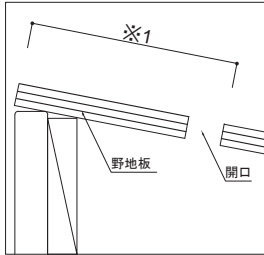
9) 片流れ用換気棟

②下地の開口・捨水切の施工

1. 下地の開口

- ①換気棟の取付位置を決めます。
- ②開口位置は屋根勾配と使用する屋根材の種類によって表(※1)のように異なります。
- ③開口後、下葺材を張ります。

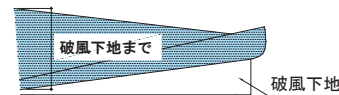
開口位置決め



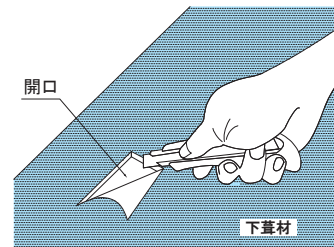
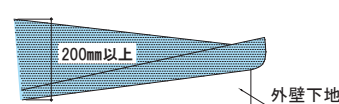
※1の長さの条件別対応表 (目安)

工法	新築	
	横暖ルーフ	横暖ルーフα
2.5寸	89mm	82mm
3寸	85mm	79mm
3.5寸	82mm	77mm
4寸	80mm	75mm
4.5寸	78mm	73mm
5寸	75mm	71mm
5.5寸	73mm	使用不可
6寸	71mm	
6.5寸	70mm	

■破風施工時の壁側の屋根下葺材

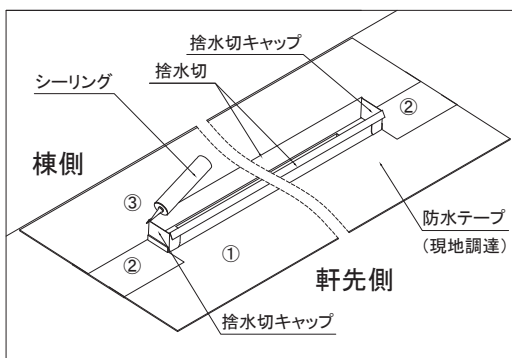
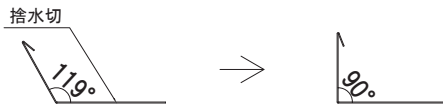


■外壁材施工時の壁側の屋根下葺材



- 破風を施工する場合は破風下地まで、破風を施工しない場合は屋根頂部から壁側に200mm以上、下葺材を張ります。
- 開口にかかる下葺材を切り取ります。

2. 捨水切の施工および防水処理



- 捨水切と捨水切キャップを開口に合わせて施工します。捨水切キャップは捨水切の端部に差し込んでください。
- 捨水切の立ち上がりが鉛直になるよう角度を調整し、留付釘(ステンレスクリュー釘、長さ32mm以上)で留め付けます。
- 捨水切施工後、捨水切と捨水切キャップ境界部に内側からシーリングを施します。
- 捨水切と下葺材との境界部、釘頭部およびピンホールにはシーリング材および防水テープで防水処理を施します。防水テープは四方①軒先側→②捨水切端部→③棟側の順に貼り付けます。

※防水テープは空気が入らないよう十分に接着させてください。

センターサイディング
標準施工法

センターサイディング
基本納まり図

本体・付属部材
詳細図

付属部材加工図

センターサイディング
木造編

センターサイディング
鉄骨造 金属脚縁編

センターサイディング
鉄骨造 直張り編

センター化粧幕板
標準施工法

センタールーフ
標準施工法

センタールーフ
納まり詳細図

参考資料

センタールーフ

工法

下地

構造

新築

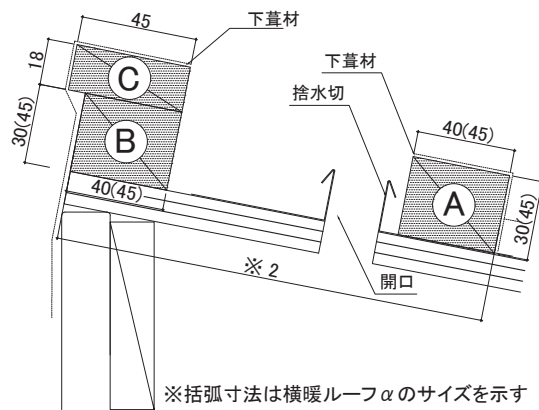
耐水合板

木造

9) 片流れ用換気棟 ③下地木材・センタールーフの施工 改訂のご案内

本ページ(P234)は、一部改訂のため、次ページ(P234-1)に更新しております。
最新の設計施工資料を閲覧される際は、次ページをご確認ください。

3. 下地木材の施工



※2の長さの条件別対応表(目安)

工法	新築	
	横暖ルーフ	横暖ルーフα
屋根材	横暖ルーフ	横暖ルーフα
下地木材A・Bのサイズ	30×40mm	45×45mm
2.5寸	139mm	137mm
3寸	135mm	134mm
3.5寸	132mm	132mm
4寸	129mm	128mm
4.5寸	127mm	126mm
5寸	122mm	121mm
5.5寸	119mm	使用不可
6寸	116mm	
6.5寸	114mm	

●図のように下地木材AおよびBを設置します。

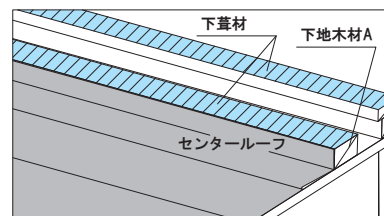
下地木材Aは垂木に留め付けます。

●下地木材B施工後、下地木材Cを設置し、留め付けます。

※下地木材A(現場調達)の施工位置は条件によって異なります。(※2の長さの条件別対応表を参照)

※下地木材には下葺材を巻いてください。

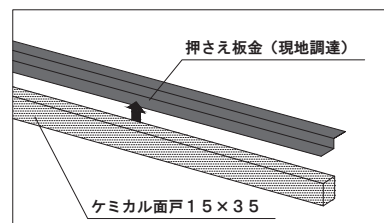
4. センタールーフの施工



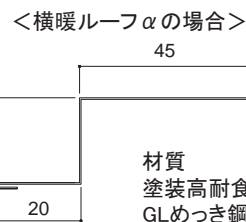
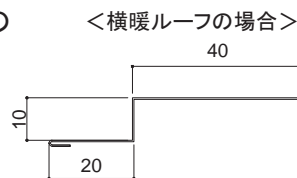
●下地木材Aまでセンタールーフを葺き上げます。

センタールーフは下地木材Aの厚みと同じだけ立ち上げます。

5. 押さえ板金(現場調達)およびケミカル面戸

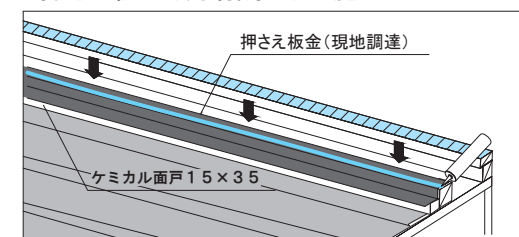


■押さえ板金の加工形状図



●押さえ板金にケミカル面戸15×35を貼り付けます。

6. 押さえ板金(現場調達)の施工



●ケミカル面戸15×35を貼り付けた押さえ板金を下地木材Aを覆うように設置し、留付釘(ステンレスクリュー釘長さ32mm以上)で下地木材A上面に留め付けます。

●押さえ板金上面に捨てシーリングを施工します。

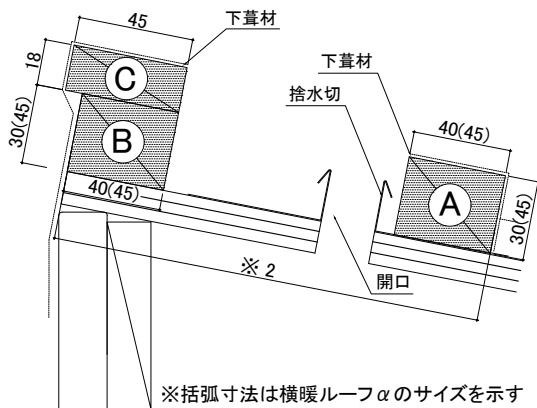
センタールーフ

工法	下地	構造
新築	耐水合板	木造

9) 片流れ用換気棟

③ 下地木材・センタールーフの施工

3. 下地木材の施工

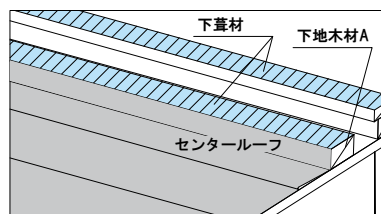


※2の長さの条件別対応表 (目安)

工法	新築	
	横暖ルーフ	横暖ルーフα
屋根材	横暖ルーフ	横暖ルーフα
下地木材A・Bのサイズ	30×40mm	45×45mm
2.5寸	139mm	137mm
3寸	135mm	134mm
3.5寸	132mm	132mm
4寸	129mm	128mm
4.5寸	127mm	126mm
5寸	122mm	121mm
5.5寸	119mm	使用不可
6寸	116mm	
6.5寸	114mm	

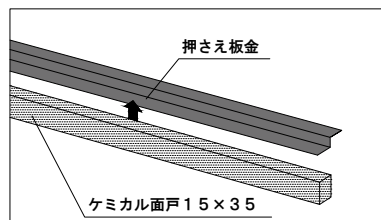
- 図のように下地木材AおよびBを設置します。
下地木材Aは垂木に留め付けます。
- 下地木材B施工後、下地木材Cを設置し、留め付けます。
※下地木材A(現場調達)の施工位置は条件によって異なります。(※2の長さの条件別対応表を参照)
※下地木材には下葺材を巻いてください。

4. センタールーフの施工

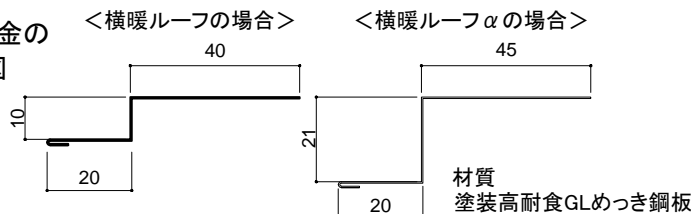


- 下地木材Aまでセンタールーフを葺き上げます。
センタールーフは下地木材の厚みと同じだけ立ち上げます。

5. 押さえ板金およびケミカル面戸

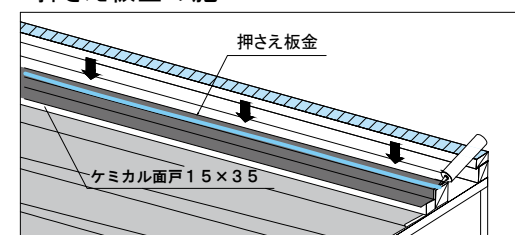


■ 雨押さえ板金の加工形状図



- 押さえ板金にケミカル面戸 15×35を貼り付けます。

6. 押さえ板金の施工



- ケミカル面戸 15×35を貼り付けた押さえ板金を下地木材Aを覆うように設置し、留付釘(ステンレススクルー釘長さ32mm以上)で下地木材A上面に留め付けます。
- 押さえ板金上面に捨てシーリングを施工します。

センターサイディング
標準施工法

センターサイディング
基本納まり図

本体・付属部材
詳細図

付属部材加工図

センターサイディング
木造編

センターサイディング
鉄骨造金属胴縁編

センターサイディング
鉄骨造直張り編

センター化粧幕板
標準施工法

センタールーフ
標準施工法

センタールーフ
納まり詳細図

参考資料

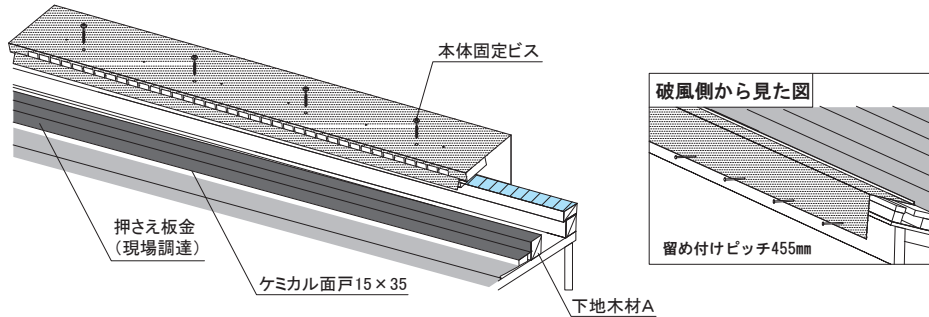
センタールーフ

工法	下地	構造
新築	耐水合板	木造

9) 片流れ用換気棟

④ 片流れ用換気棟・片流れ用棟包みの施工

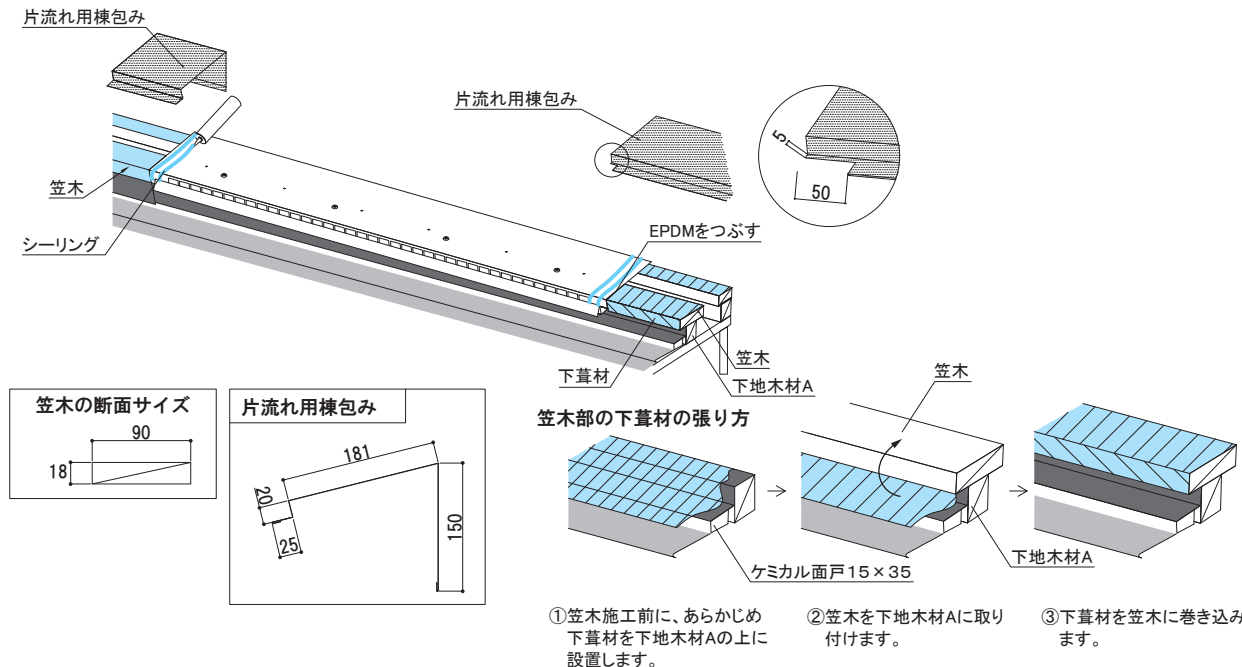
7. 片流れ用換気棟の施工



- 本体の中心位置と開口の中心位置を合わせて本体を設置し、本体固定ビス(75mm)で下地木材Aに留め付けます。
 - 本体垂れ部は化粧破風あるいはサイディングの上から、留付釘(ステンレススクリー釘、長さ:外装材厚み+30mm以上)を用いて455mm以下の間隔で必ず下地に留め付けます。
- ※片流れ用換気棟を施工する時点で化粧破風やサイディングが施工されていない場合は、施工完了後の外装材の厚みと同じ厚みの木材を挟み、本体垂れ部を仮留めしてください。化粧破風やサイディングの施工後、必ず本体垂れ部を留付釘(ステンレススクリー釘、長さ:外装材厚み+30mm以上)で留め付け直します。

8. 笠木および片流れ用棟包みの施工

- 片流れ用換気棟および片流れ用棟包みは棟頂部の角度を屋根勾配に合わせて調整し、棟面がたわまないように施工してください。



- 図のように、片流れ用換気棟の両側面を突き付けで笠木(18×90)を設置し、片流れ用換気棟側面に付いているEPDMを潰します。笠木は下地木材Aに留め付けます。
- ※笠木には図のように下葺材を巻きます。
- 片流れ用換気棟端部の重ね代(50mm程度)となる部分にシリングで防水処理を施します。
 - 片流れ用棟包みの一方の端部は、図のように切り欠き、片流れ用換気棟端部の重ね代にかぶせ、片流れ用棟包みの前面を留付釘(ステンレススクリー釘長さ32mm以上)で笠木に留め付けます。

センターサイディング
標準施工法

センターサイディング
基本納まり図

本体・付属部材
詳細図

付属部材加工図

センターサイディング
木造編

センターサイディング
鉄骨造 金属脚縁編

センターサイディング
鉄骨造 直張り編

センター化粧幕板
標準施工法

センタールーフ
標準施工法

センタールーフ
納まり詳細図

参考資料

センタールーフ

工法

下地

構造

新築

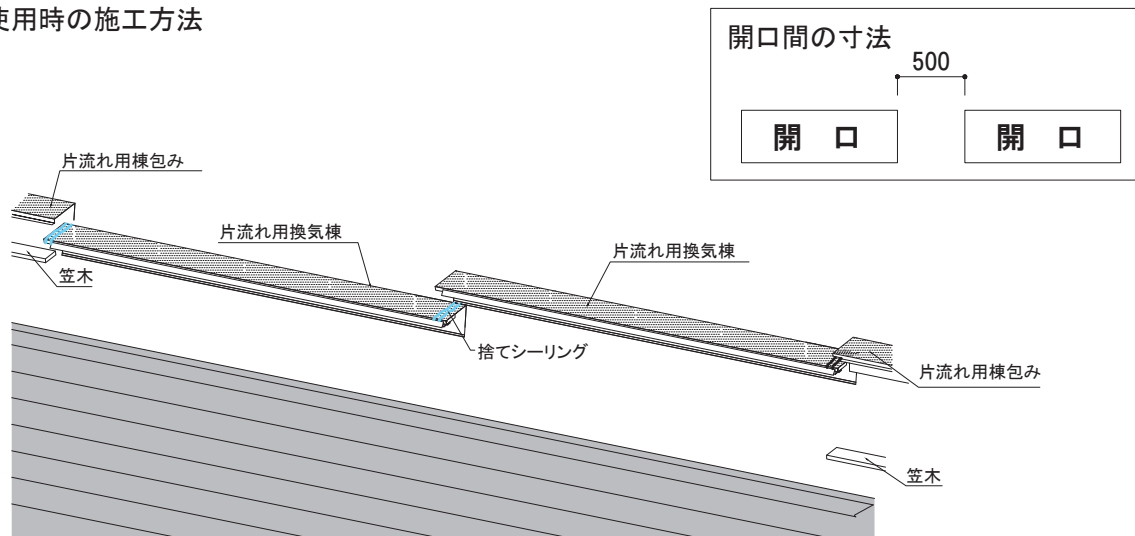
耐水合板

木造

9) 片流れ用換気棟

⑤ 連続使用時の施工

■ 連続使用時の施工方法



- 連続施工時は開口と開口の間を500mmあけ、開口を設けます。
- 手順2～手順8の通り施工します。
- 片流れ用換気棟どうしおよび片流れ用換気棟と片流れ用棟包みが重なる部分にはシーリングでビードを3本作り、防水処理を施します。

センターサイディング
標準施工法

センターサイディング
基本納まり図

本体・付属部材
詳細図

付属部材加工図

センターサイディング
木造編

センターサイディング
鉄骨造 金属胴縁編

センターサイディング
鉄骨造 直張り編

センター化粧幕板
標準施工法

センタールーフ
標準施工法

センタールーフ
納まり詳細図

参考資料

10-2 納まり詳細図

木造下地

横暖ルーフα

1) 施工のポイント	
2) 本体仕様	
3) 主要付属部材一覧表	①横暖ルーフα専用部材 ②横暖ルーフとの共通部材
4) 軒先部	軒先唐草40
5) けらば部	①けらば唐草40 ②けらば包み60 ③段付けらば唐草40+段付けらば ④けらば水切85(110)
6) 大棟部	①棟包み210 ②棟巴210L ③棟包み210+けらば水切85(110)
7) 隅棟部	①棟包み210 ②隅棟カバー(隅棟カバー急勾配用)
8) 谷部	①谷樋 ②谷樋+S見切縁18
9) 下屋根部	①棟側 壁水切60×120 ②流れ側 壁水切60×120+捨て谷80
10) 片棟部	片流れ用棟包み



注意

飛び火認定の大臣認定が必要な場合は、大臣認定の別添に従い施工してください。

横暖ルーフα

工法

新築

下地

耐水合板

構造

木造

1) 施工のポイント

①横暖ルーフα専用施工方法

●桧木寸法が変わります。

桧木は幅45～50mm×高さ45～50mmを使用してください。桧木の使用部位はけらば部(けらば包み仕様)、隅棟部(棟包み仕様)、大棟部、下屋根部です。

●横暖ルーフα専用の部材があります。

けらば包み60、けらばキャップ60(左右勝手あり)、けらば水切85(110)、段付けらば軒先(左右勝手あり)、段付けらば(左右勝手あり)、隅棟カバー、隅棟カバー急勾配用、S見切縁18、ケミカル面戸15×35は、横暖ルーフαの専用品です。その他の部材は横暖ルーフと共通です。

②横暖ルーフαの施工上の注意事項

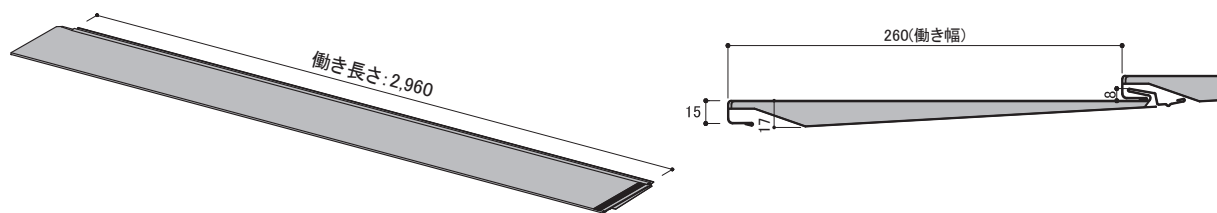
●横暖ルーフαは山の高さ(本体厚さ)が横暖ルーフより高いので、摺り込み(巻き込み)端部加工が横暖ルーフに比べ施工しにくくなっています。

端部加工の少ない段付けらばやS見切縁18の使用を推奨します。

●横暖ルーフαは金切はさみなどで切断してください。

2) 本体仕様

■横暖ルーフα 本体

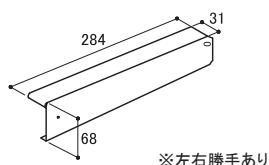


表面材: 塗装高耐食GLめっき鋼板 厚み: 0.35mm
芯材: 硬質ウレタンフォーム

3) 主要付属部材一覧表

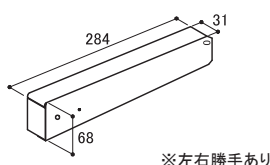
①横暖ルーフα専用部材

■段付けらば(左右)



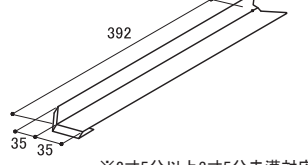
【品番: BDKCF0** (左)】
【品番: BDKBF0** (右)】
材質: 塗装高耐食GLめっき鋼板
厚み: 0.35mm

■段付けらば軒先(左右)



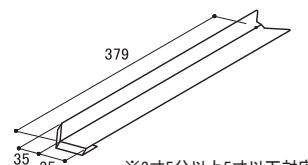
【品番: BDKEF0** (左)】
【品番: BDKDF0** (右)】
材質: 塗装高耐食GLめっき鋼板
厚み: 0.35mm

■隅棟カバー



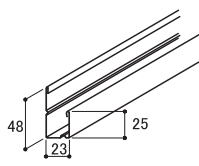
【品番: BSM8F0**】
材質: 塗装高耐食GLめっき鋼板
厚み: 0.35mm

■隅棟カバー(急勾配用)



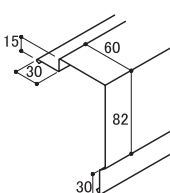
【品番: BSMAF0**】
材質: 塗装高耐食GLめっき鋼板
厚み: 0.35mm

■S見切縁18



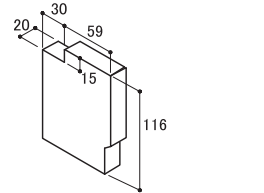
【品番: BMKDF0**】
材質: 塗装高耐食GLめっき鋼板
厚み: 0.35mm 長さ: 2,727mm

■けらば包み60



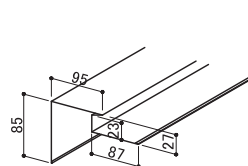
【品番: BKD6F0**】
材質: 塗装高耐食GLめっき鋼板
厚み: 0.35mm 長さ: 2,727mm

■けらばキャップ60(左右)



【品番: BKCBF0** (左)】
【品番: BKCCF0** (右)】
材質: 塗装高耐食GLめっき鋼板
厚み: 0.35mm

■けらば水切85



【品番: BKZ6F0**】
材質: 塗装高耐食GLめっき鋼板
厚み: 0.35mm 長さ: 2,727mm

※各部材は、2024年2月時点のものです。最新の情報はNICHIIHA金属製外壁材・屋根材総合カタログでご確認ください。

横暖ルーフ α

工法

下地

構造

新築

耐水合板

木造

センターサイディング
標準施工法

センターサイディング
基本納まり図

本体・付属部材
詳細図

付属部材加工図

センターサイディング
木造編

センターサイディング
鉄骨造 金属脚縁編

センターサイディング
鉄骨造 直張り編

センター化粧幕板
標準施工法

センタールーフ
標準施工法

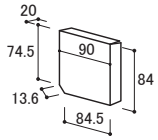
センタールーフ
納まり詳細図

参考資料

3) 主要付属部材一覧表

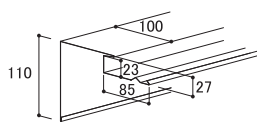
①横暖ルーフ α 専用部材

■けらば水切キャップ85 (左右)



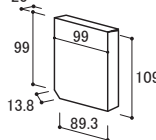
【品番: BKCGF0**(左)】
【品番: BKCF0**(右)】
材質: 塗装高耐食GLめっき鋼板
厚み: 0.35mm

■けらば水切110



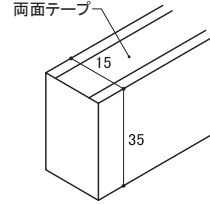
【品番: BKZ8F0**】
材質: 塗装高耐食GLめっき鋼板
厚み: 0.35mm 長さ: 2,727mm

■けらば水切キャップ110 (左右)



【品番: BKCJF0**(左)】
【品番: BKCHF0**(右)】
材質: 塗装高耐食GLめっき鋼板
厚み: 0.35mm

■ケミカル面戸15×35

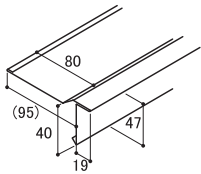


【品番: BCMBQ10B】
材質: EPDM
長さ: 2,000mm

3) 主要付属部材一覧表

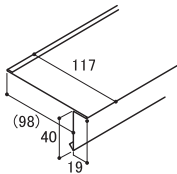
②横暖ルーフとの共通部材

■軒先唐草40



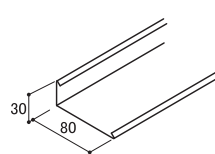
【品番: BNK1F0**】
材質: 塗装高耐食GLめっき鋼板
厚み: 0.35mm 長さ: 2,727mm

■けらば唐草40



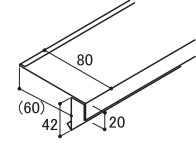
【品番: BKK1F0**】
材質: 塗装高耐食GLめっき鋼板
厚み: 0.35mm 長さ: 2,727mm

■捨て谷80



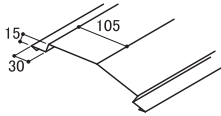
【品番: BSD1F0**】
材質: 塗装高耐食GLめっき鋼板
厚み: 0.35mm 長さ: 2,727mm

■段付けらば唐草40



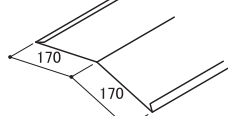
【品番: BKK3F0**】
材質: 塗装高耐食GLめっき鋼板
厚み: 0.35mm 長さ: 2,727mm

■棟包み210



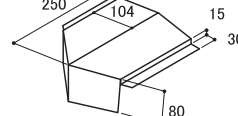
【品番: BMD3F0**】
材質: 塗装高耐食GLめっき鋼板
厚み: 0.35mm 長さ: 2,727mm

■隅棟捨て板



【品番: BSM5F00A】
材質: 塗装高耐食GLめっき鋼板
厚み: 0.35mm 長さ: 2,727mm

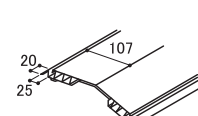
■剣先210



【品番: BKE1F0**】
材質: 塗装高耐食GLめっき鋼板
厚み: 0.35mm

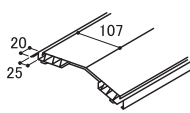
※棟包み210用

■センター換気棟909



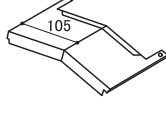
【品番: BKM2F0**】
材質: 塗装高耐食GLめっき鋼板
厚み: 0.35mm 長さ: 909mm

■センター換気棟1818



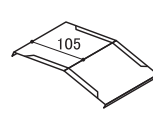
【品番: BKM1F0**】
材質: 塗装高耐食GLめっき鋼板
厚み: 0.35mm 長さ: 1,818mm

■換気棟エンドキャップ



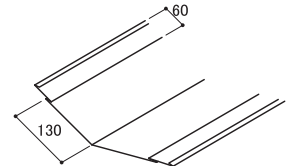
【品番: BKM4F0**】
材質: 塗装高耐食GLめっき鋼板
厚み: 0.35mm

■換気棟ジョイント



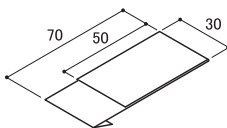
【品番: BKM3F051】
材質: 塗装高耐食GLめっき鋼板
厚み: 0.35mm

■谷樋



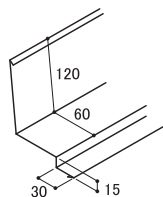
【品番: BTD1F0**】
材質: 塗装高耐食GLめっき鋼板
厚み: 0.35mm 長さ: 2,727mm

■谷樋用吊り子



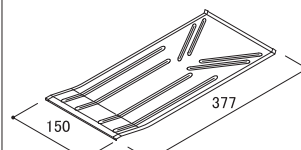
【品番: BTD2F00A】
材質: 塗装高耐食GLめっき鋼板
厚み: 0.35mm

■壁水切60×120



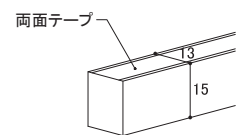
【品番: BAM5F0**】
材質: 塗装高耐食GLめっき鋼板
厚み: 0.35mm 長さ: 2,727mm

■共通捨て板



【品番: BYS2F00A】
材質: 塗装高耐食GLめっき鋼板
厚み: 0.35mm

■ケミカル面戸13×15



【品番: BCMCQ10B】
材質: EPDM
長さ: 2,000mm

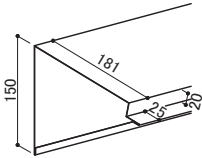
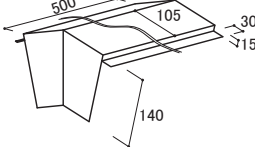
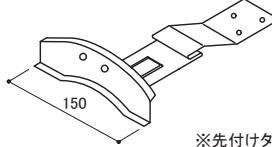
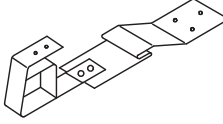
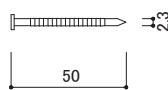
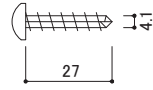
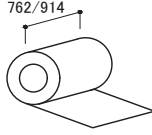

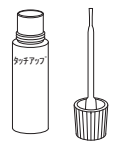
※各部材は、2024年2月時点のものです。最新の情報はNICHIIA金属製外壁材・屋根材総合カタログでご確認ください。

横暖ルーフα

工法	下地	構造
新築	耐水合板	木造

3) 主要部材一覧表 ②横暖ルーフとの共通部材 改訂のご案内

本ページ(P240)は、一部改訂のため、次ページ(P240-1)に更新しております。
最新の設計施工資料を閲覧される際は、次ページをご確認ください。

<p>■片流れ用棟包み</p>  <p>【品番:BDMBF0**】 【品番:BMDBF0**】 材質:塗装高耐食GLめっき鋼板 厚み:0.35mm 長さ:2.727mm</p>	<p>■棟巴210L</p>  <p>【品番:BTEBF0**】 材質:塗装高耐食GLめっき鋼板 厚み:0.35mm 長さ:500mm</p>	<p>■雪止め(ウイング)</p>  <p>※先付けタイプ 【品番:BYE*Q0**】 材質:ステンレス 厚み:1.2mm</p>	<p>■雪止め(アングル)</p>  <p>※先付けタイプ 【品番:BYD4Q0JK】 足・材質:ステンレス 厚み:1.2mm</p>
<p>■専用釘(本体留付用)</p>  <p>ステンレススクルー釘 【品番:JK500E】 材質:ステンレス サイズ:φ2.3mm×50mm</p>	<p>■専用ビス(本体留付用) ※垂木に固定できない場合に使用</p>  <p>ステンレスビス 【品番:JK1710】 材質:ステンレス サイズ:φ4.1mm×27mm</p>	<p>■共板</p>  <p>共板(コイル) 【品番:ECL1F5**】 【品番:ECL1F7**】 材質:塗装高耐食GLめっき鋼板 厚み:0.35mm 幅762/914mm×長さ10m</p>	<p>■シーリング</p>  <p>ニチハシーリング 【品番:DSY1Q0**】 材質:変成シリコーン系</p>
<p>■補修塗料</p>  <p>補修塗料 【品番:DPA4Q0**】</p>			

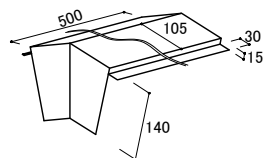
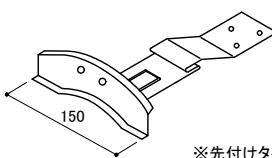
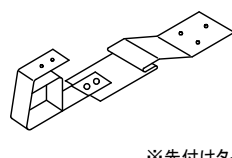
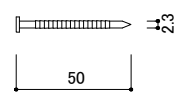
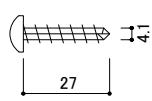
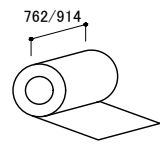

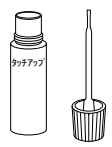
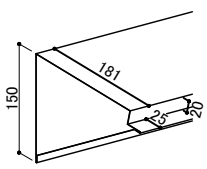
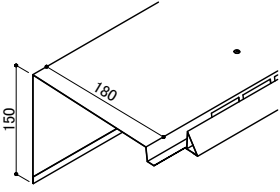
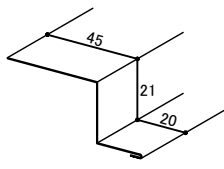
※各部材は、2024年2月時点のものです。最新の情報はNICHIIHA金属製外壁材・屋根材総合カタログでご確認ください。

横暖ルーフα

工法	下地	構造
新築	耐水合板	木造

3) 主要付属部材一覧表

②横暖ルーフとの共通部材

<p>■棟巴210L</p>  <p>【品番: BTEBF0**】 材質: 塗装高耐食GLめっき鋼板 厚み: 0.35mm 長さ: 500mm</p>	<p>■雪止め(ウイング)</p>  <p>※先付けタイプ 【品番: BYE*Q0**】 材質: ステンレス 厚み: 1.2mm</p>	<p>■雪止め(アングル)</p>  <p>※先付けタイプ 【品番: BYD4Q0JK】 足・材質: ステンレス 厚み: 1.2mm</p>	<p>■専用釘(本体留付用)</p>  <p>ステンレススクリュー釘 【品番: JK500E】 材質: ステンレス サイズ: φ2.3mm × 50mm</p>
<p>■専用ビス(本体留付用) ※垂木に固定できない場合に使用</p>  <p>ステンレスビス 【品番: JK1710】 材質: ステンレス サイズ: φ4.1mm × 27mm</p>	<p>■共板</p>  <p>共板(コイル) 【品番: ECL1F5**】 【品番: ECL1F7**】 材質: 塗装高耐食GLめっき鋼板 厚み: 0.35mm 幅762/914mm × 長さ10m</p>	<p>■シーリング</p>  <p>ニチハシーリング 【品番: DSY1Q0**】 材質: 変成シリコーン系</p>	<p>■補修塗料</p>  <p>補修塗料 【品番: DPA2Q0**】</p>
<p>■片流れ用棟包み</p>  <p>【品番: BDMBF0**】 【品番: BDMBF0**】 材質: 塗装高耐食GLめっき鋼板 厚み: 0.35mm 長さ: 2,727mm</p>	<p>■片流れ用換気棟</p>  <p>【品番: BKM5F0**】 材質: 塗装高耐食GLめっき鋼板 厚み: 0.35mm 働き長さ: 2,000mm</p>	<p>■押さえ板金 (片流れ用換気棟)</p>  <p>【品番: BKM6F051】 材質: 塗装高耐食GLめっき鋼板 厚み: 0.35mm 長さ: 2,727mm</p>	

※各部材は、2024年4月時点のものです。最新の情報はNICHIIHA金属製外壁材・屋根材総合カタログでご確認ください。

センターサイディング
標準施工法
基本納まり図
本体・付属部材
詳細図
付属部材加工図
センターサイディング
木造編
センターサイディング
鉄骨造金属胴縁編
センターサイディング
鉄骨造直張り編
センター化粧幕板
標準施工法
センタールーフ
標準施工法
センタールーフ
納まり詳細図
参考資料

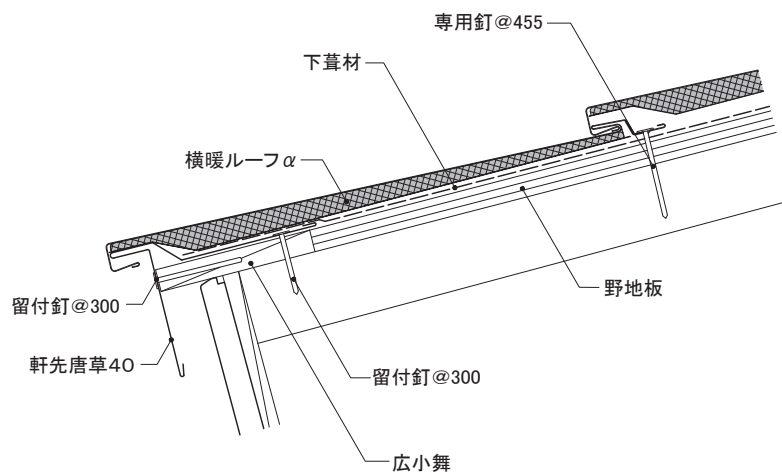
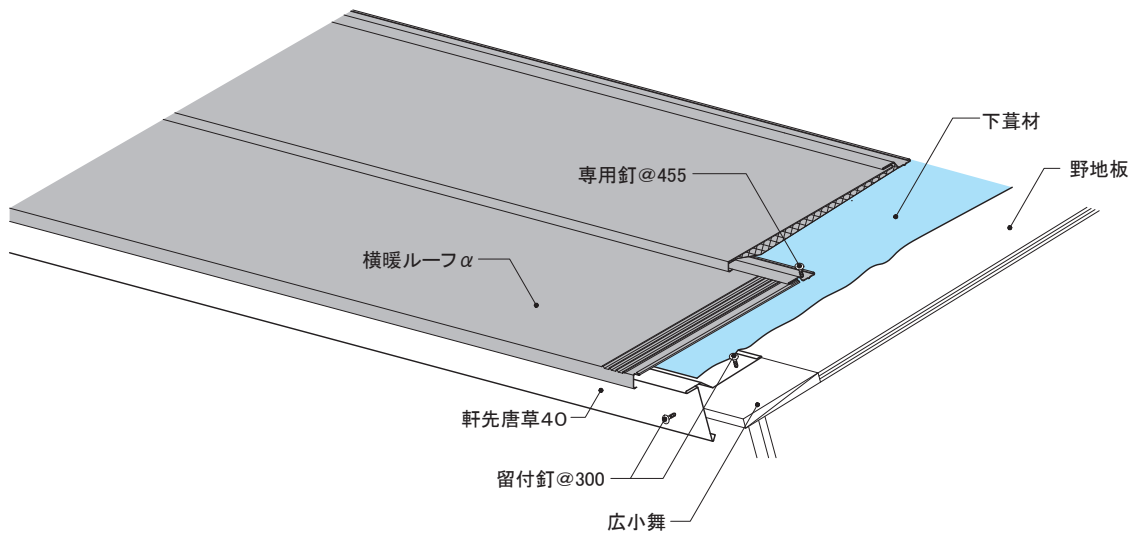
横暖ルーフα

工法	下地	構造
新築	耐水合板	木造

4) 軒先部

軒先唐草40

- 軒先唐草40は留付釘(ステンレスクリュー釘長さ32mm以上)を用いて、300mm以下の間隔で広小舞または野地板に留め付けます。
- 図のように下葺材を張り、横暖ルーフα本体の軒側実を軒先唐草40に差し込み、横暖ルーフα本体の棟側実に専用釘(ステンレスクリュー釘φ2.3mm×50mm)を用いて、455mm以下の間隔で垂木に留め付けます。ただし、垂木への固定が困難な場合は、専用ビス(ステンレスビスφ4.1mm×27mm)を用いて300mm以下の間隔で野地板に留め付けます。



センターサイディング
標準施工法

センターサイディング
基本納まり図

本体・付属部材
詳細図

付属部材加工図

センターサイディング
木造編

センターサイディング
鉄骨造 金属胸縁編

センターサイディング
鉄骨造 直張り編

センター化粧幕板
標準施工法

センタールーフ
標準施工法

センタールーフ
納まり詳細図

参考資料

横暖ルーフα

工法

新築

下地

耐水合板

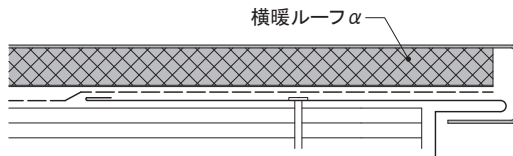
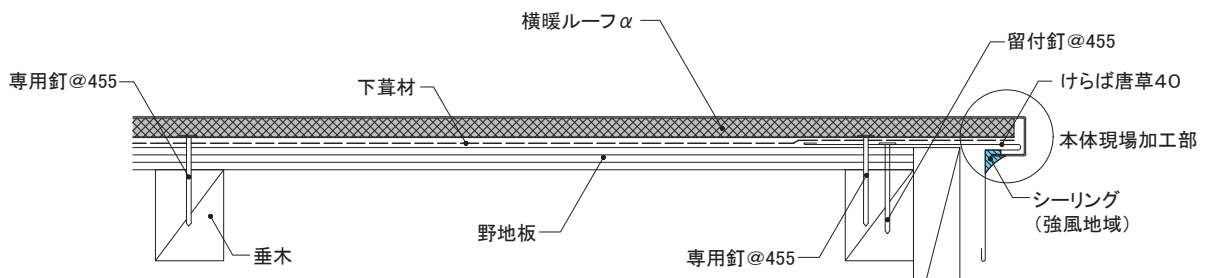
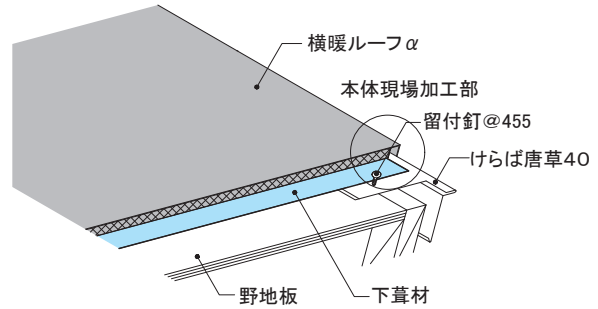
構造

木造

5) けらば部

① けらば唐草40

- けらば唐草40は留付釘(ステンレススクリー
ン釘長さ32mm以上)を用いて、455mm以下の間
隔で図の位置に取り付けます。
- 下葎材を図のように張り、横暖ルーフα本体
は専用釘(ステンレススクリーニング釘φ2.3mm×
50mm)を用いて、455mm以下の間隔で垂木に
施工します。
- 横暖ルーフα本体端部を図のように現場加工
し、けらば唐草40へ納めます。強風地域では
取り合い部にシーリングを施工してください。

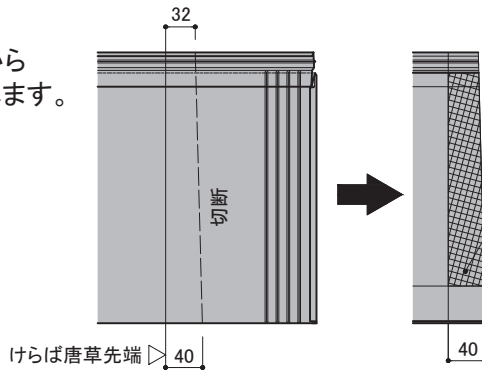


部分断面図

■ 施工ポイント・本現場加工図

- 横暖ルーフα本体のけらば部分は図のように加工します。

① けらば唐草先端から
図の寸法で切断します。



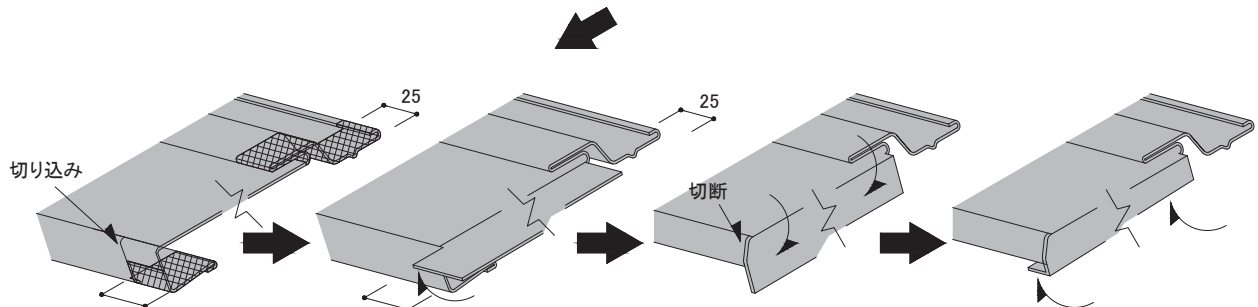
② 長辺端部から40mmの位置まで
芯材のウレタンと裏面紙を剥がします。

芯材ウレタンと裏面紙を剥がす

③ 網掛け部分を
切り落とします。

④ 切り込みを入れた部分を
水平に起こします。

⑤ けらば唐草先端を巻き込むように
折り曲げます。



横暖ルーフα

工法	下地	構造
新築	耐水合板	木造

センターサイディング
標準施工法

センターサイディング
基本納まり図

センターサイディング
詳細図

センターサイディング
付属部材加工図

センターサイディング
木造編

センターサイディング
鉄骨造 金属胴縁編

センターサイディング
鉄骨造 直張り編

センターサイディング
標準施工法

センターサイディング
標準施工法

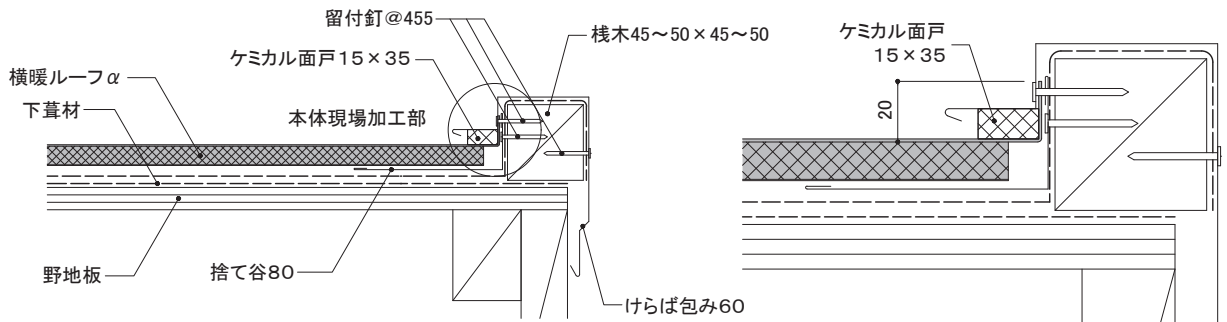
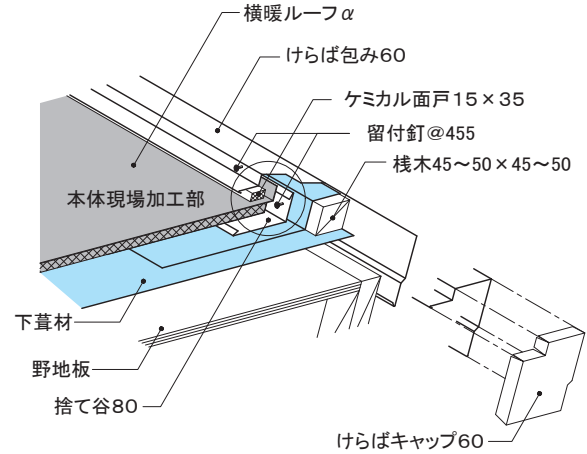
センターサイディング
納まり詳細図

センターサイディング
参考資料

5) けらば部

② けらば包み60

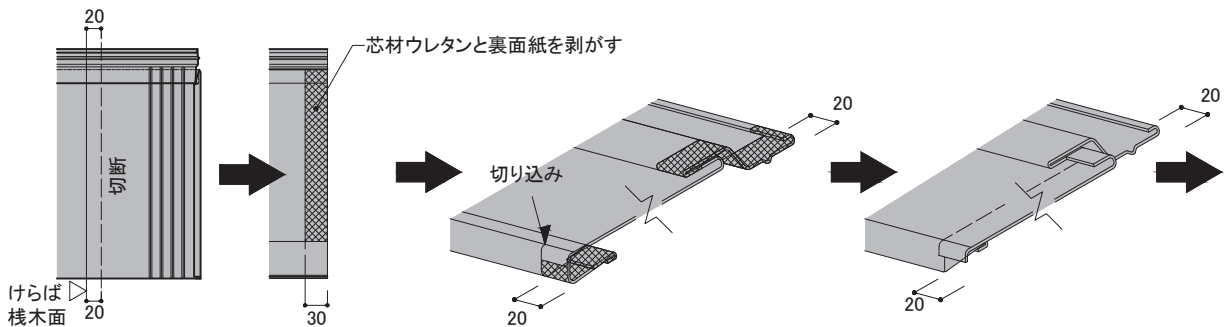
- 野地板の上に下葺材を張ります。
- けらば部に棧木45～50mm×45～50mmを取り付け、棧木を包むように下葺材を増し張りします。
- 捨て谷80は留付釘(ステンレススクリュー釘長さ32mm以上)を用いて、455mm以下の間隔で棧木に留め付けます。
- 本体の図の位置にケミカル面戸15×35を貼り付け、けらば包み60をかぶせるように施工し、留付釘(ステンレススクリュー釘長さ32mm以上)を用いて、455mm以下の間隔で棧木に留め付けます。
- 軒先端部の仕上げは、けらばキャップ60をリベットでけらば包み60に留め付けるか、留付釘(ステンレススクリュー釘長さ32mm以上)で棧木に留め付けます。



部分断面図

■ 施工ポイント・本現場加工図

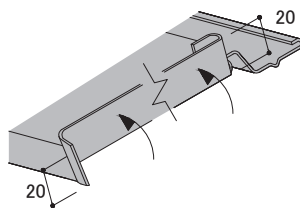
- 横暖ルーフα本体のけらば部分は図のように加工します。



- ① けらば棧木面から図の寸法で切断します。

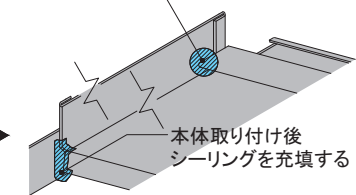
- ② 網掛け部分を切り落とします。

次の横暖ルーフα本体の取り付け前にシーリングを充填する



- ③ 切り込みを入れた部分から垂直に起こします。

- ④ Rの部分をつぶします。



本体取り付け後シーリングを充填する

- ⑤ 接合部から雨水の浸入を防ぐためシーリングを充填します。

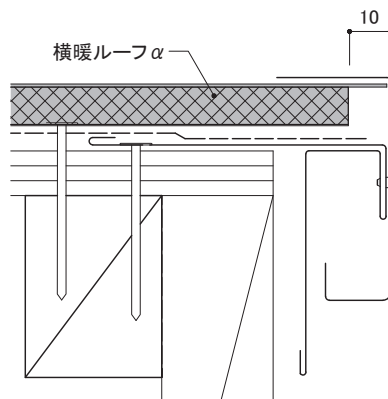
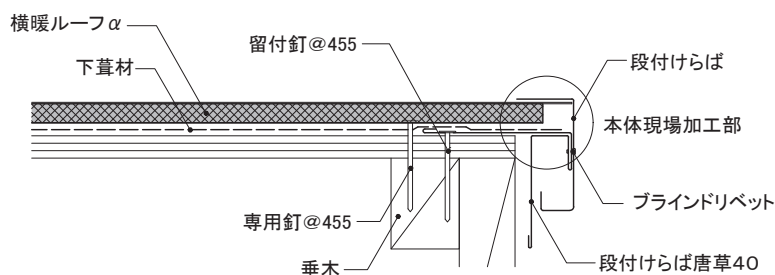
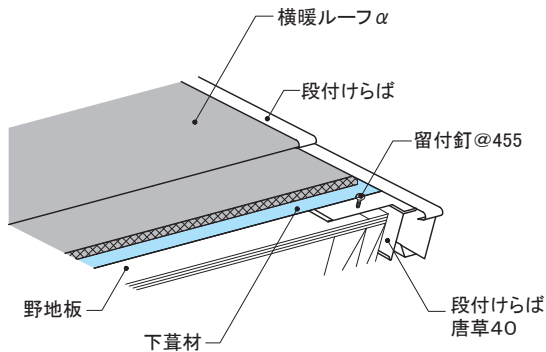
横暖ルーフα

工法	下地	構造
新築	耐水合板	木造

5) けらば部

③ 段付けらば唐草40 + 段付けらば

- 野地板上に、段付けらば唐草40を留付釘（ステンレススクリュー釘長さ32mm以上）を用いて455mm以下の間隔で留め付けます。
- 下葦材を張り、横暖ルーフα本体は専用釘（ステンレススクリュー釘φ2.3mm×50mm）を用いて、455mm以下の間隔で垂木に留め付けます。
- 段付けらばは、けらば小口にかぶせるように取り付けます。その際、軒先から段付けらば軒先を施工し、以降段付けらばを使用して施工します。
- 段付けらば軒先および段付けらばは側面の穴からブラインドリベットで留め付けます。

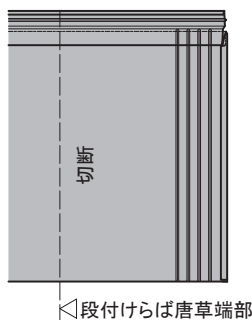


部分断面図

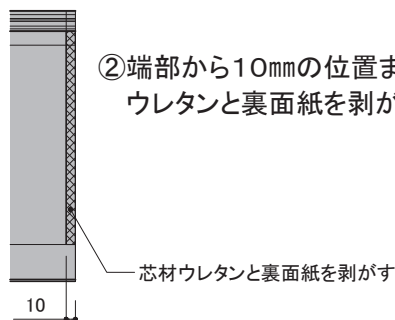
■ 施工ポイント・本現場加工図

- 横暖ルーフα本体のけらば部分は図のように加工します。

① 段付けらば唐草の端部となる位置を切断します。

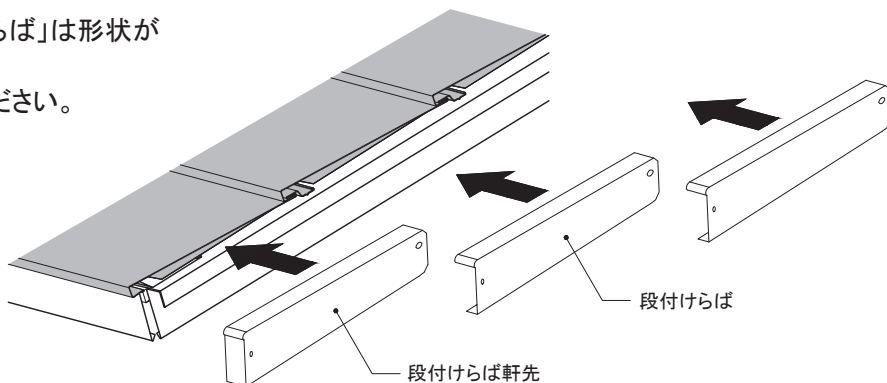


② 端部から10mmの位置まで芯材のウレタンと裏面紙を剥がします。



- 段付けらばは図のように軒先からかぶせるように取り付けます。軒先は必ず小口付きの「段付けらば軒先」を使用します。

※「段付けらば軒先」、「段付けらば」は形状が左右で逆になります。必ずご確認の上、施工してください。



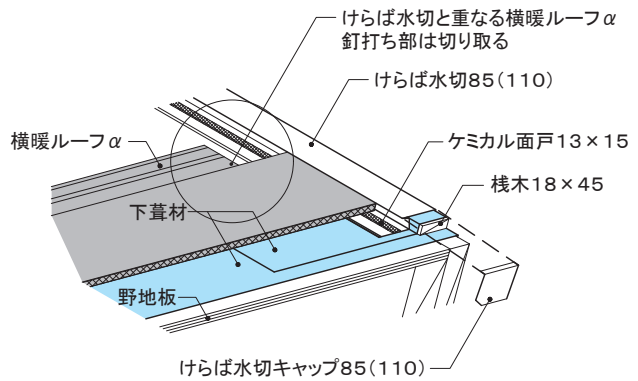
横暖ルーフα

工法	下地	構造
新築	耐水合板	木造

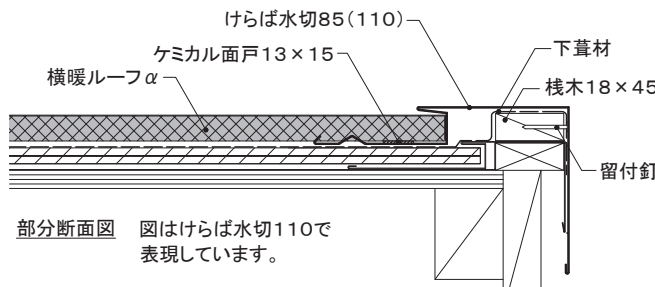
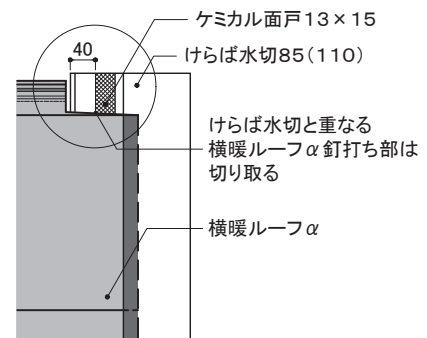
5) けらば部

④ けらば水切85(110)

- けらば部に棧木18×45を取り付け、棧木を包むように下葺材を増し張りします。
- けらば水切85(110)は留付釘(ステンレススクリュー釘長さ32mm以上)を用いて、455mm以下の間隔で棧木に留め付けます。
- けらば水切85(110)にケミカル面戸13×15を貼り付けます。(下図の○位置参照)
- 横暖ルーフαは、けらば水切85(110)と重なる部分の釘打ち部を切り取ります。(図の○部参照)
- 横暖ルーフαをけらば水切85(110)に差し込みます。
- 軒先端部は図のように加工して納めます。
- 軒先端部の仕上げは、けらば水切キャップ85(110)をリベットでけらば水切85(110)に留め付けるか、留付釘(ステンレススクリュー釘長さ32mm以上)で棧木に留め付けます。



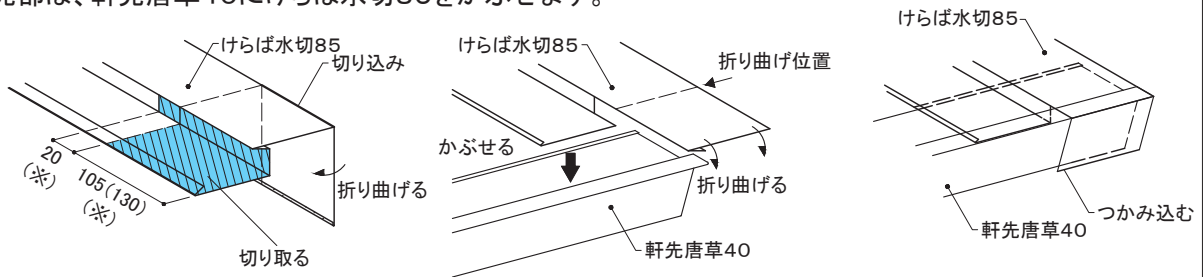
■ケミカル面戸13×15の貼り付け位置



部分断面図 図はけらば水切110で表現しています。

■施工ポイント・現場加工図[けらば水切キャップを使用しない場合]

- 軒先端部は、軒先唐草40にけらば水切85をかぶせます。



- ① けらば水切85は図のように切断します。
※ 切り取り寸法は目安です。

- ② けらば水切85は軒先唐草40にかぶせ、図のように折り曲げます。横暖ルーフαが軒先唐草40に差し込めるように、けらば水切85と軒先唐草40の取り合い部の隙間を調整してください。

<その他の加工例>



けらば水切85軒先部の加工例



けらば水切85と軒先唐草の取り合い



写真はイメージです。

センターサイディング
標準施工法

センターサイディング
基本納まり図

本体・付属部材
詳細図

付属部材加工図

木造編
センターサイディング

センターサイディング
鉄骨造 金属胴縁編

センターサイディング
鉄骨造 直張り編

センター化粧幕板
標準施工法

センタールーフ
標準施工法

センタールーフ
納まり詳細図

参考資料

横暖ルーフα

工法

新築

下地

耐水合板

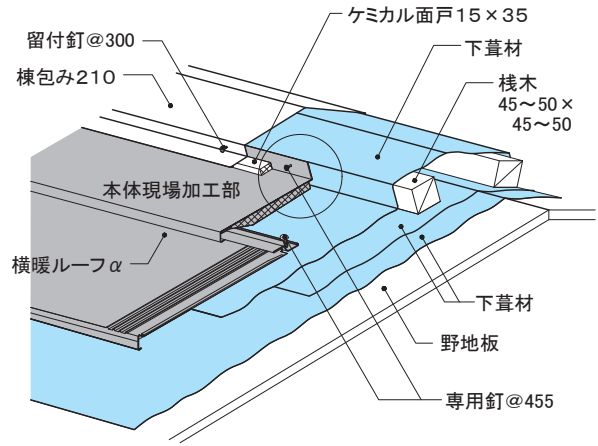
構造

木造

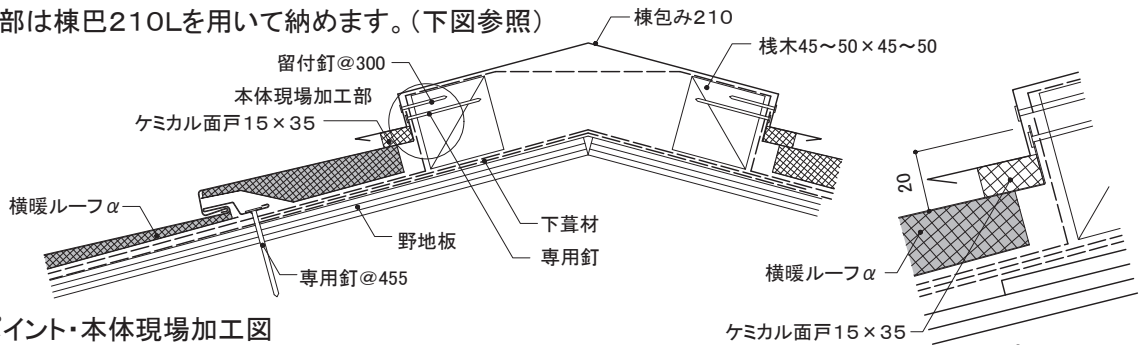
6) 大棟部

① 棟包み210

- 棟包み210の適用勾配と棧木位置はP226をご参照ください。
- 野地板の上に下葦材を張ります。
- 棟部に棧木45～50mm×45～50mmを外側2ヶ所に取り付け、棧木を包むように下葦材を増し張りします。
- ※ 棟包み210に乗らないでください。工具・部材も置かないでください。棟包み210が変形するおそれがあります。
- 棟部を図のように加工した横暖ルーフα本体を棧木に施工し、本体の図の位置にケミカル面戸15×35を貼り付け、棟包み210をかぶせます。棟包み210は、留付釘(ステンレスクリュー釘長さ32mm以上)を用いて、300mm以下の間隔で棧木に留め付けます。

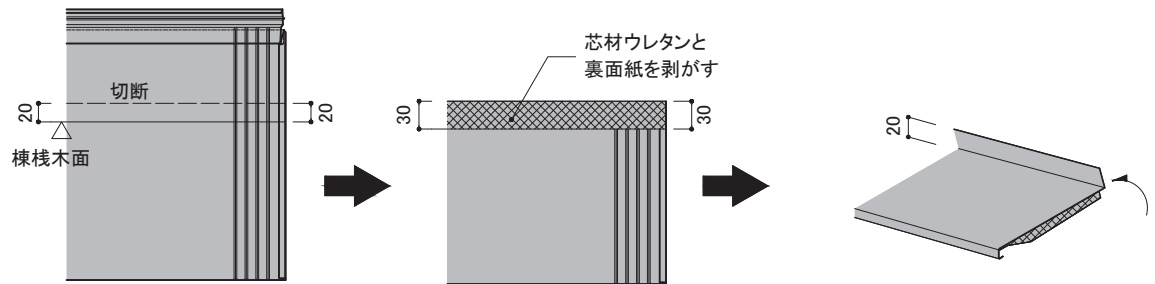


- けらば部は棟巴210Lを用いて納めます。(下図参照)



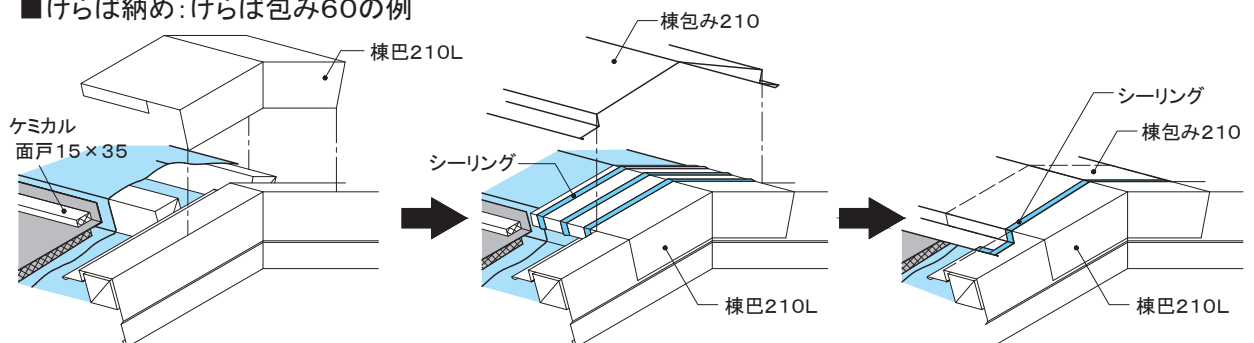
■ 施工ポイント・本体現場加工図

- 横暖ルーフα本体の大棟部分は図のように加工します。



- ① 棟棧木面から図の寸法で切断します。
- ② 端部から30mmの位置まで芯材のウレタンと裏面紙を剥がします。
- ③ 端部から20mmの位置を折り曲げて立ち上げます。

■ けらば納め: けらば包み60の例



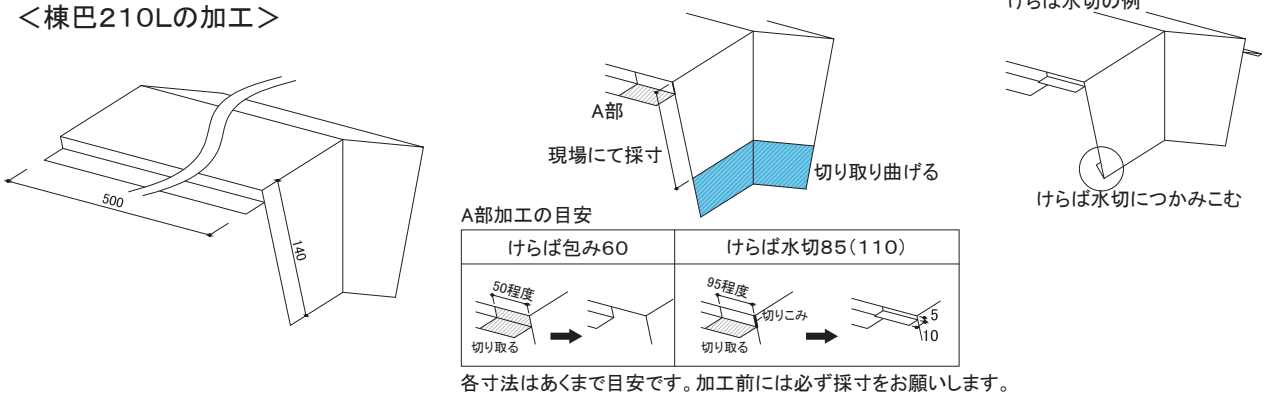
- ① 棟巴210Lを屋根勾配に合わせてけらば包み60と棧木の上にかぶせます。
- ② 重ね代部分にシーリングでビードを3本作り棟包み210をかぶせます。
- ③ 棟包み210、棟巴210L、けらば包み60が交わる部分に捨てシーリングを施工します。

6)大棟部

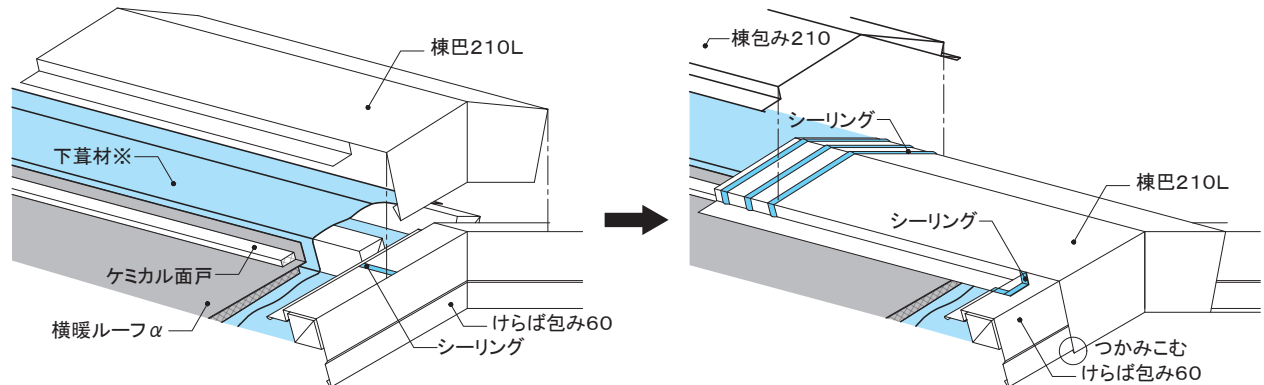
②棟巴210L

- 棟巴210Lはけらば部材に応じて切り取り折り曲げ加工します。
- けらば部材下端にあわせて、棟巴210Lの端部をつかみこみます。
- 棟巴210Lとけらば部材が交わる部分はシーリングを施工します。

<棟巴210Lの加工>



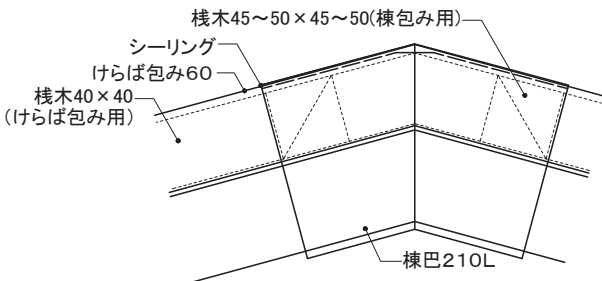
■施工手順: けらば包み60の例



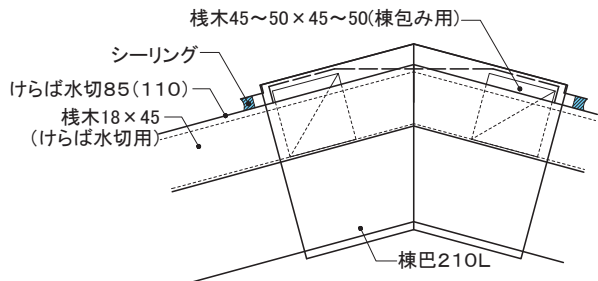
- ①棟巴210Lは屋根勾配に合わせてけらば包み60と桧木の上にかぶせます。
※図はイメージです。実際は桧木を下葺材で覆ってください。
- ②棟包み210、棟巴210L、けらば包み60が交わる部分に捨てシーリングを施工します。

■側面図: 各けらば部材

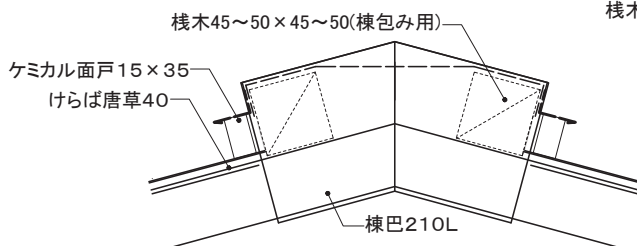
<けらば包み60>



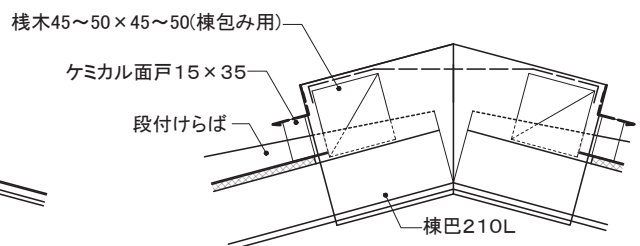
<けらば水切85(110)>



<けらば唐草40>



<段付けらば>



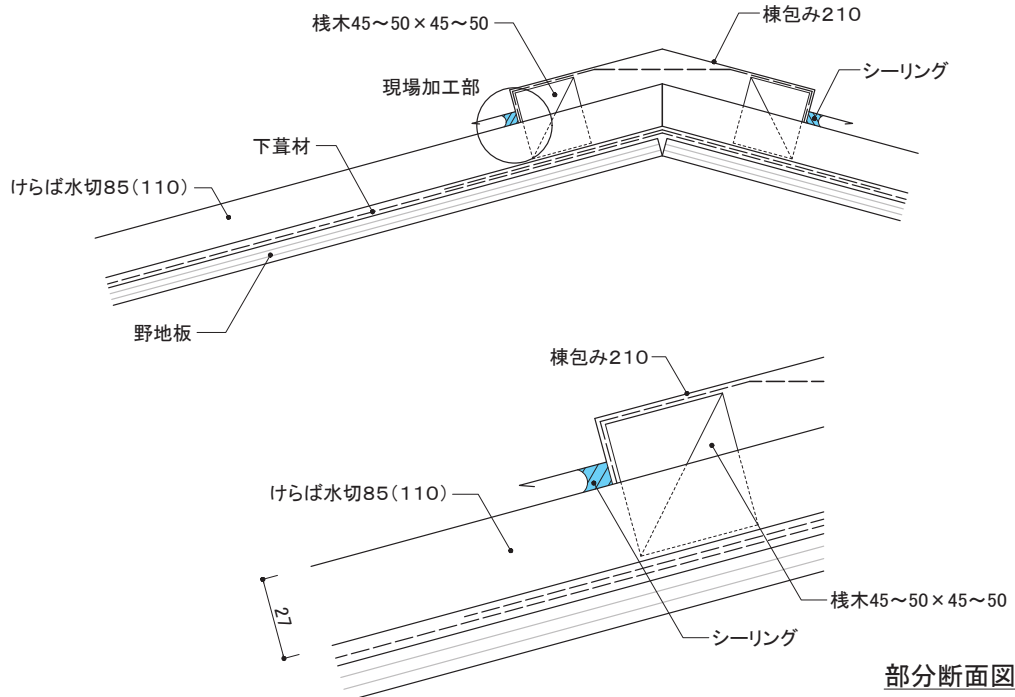
横暖ルーフα

工法	下地	構造
新築	耐水合板	木造

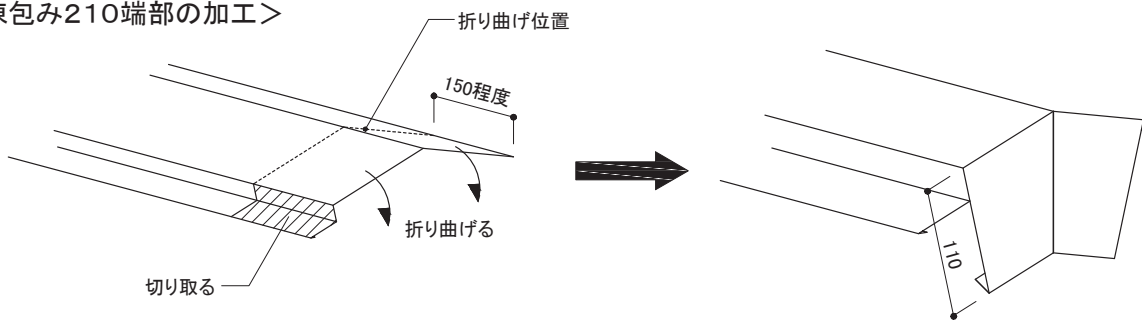
6) 大棟部

③ 棟包み210+けらば水切85(110)

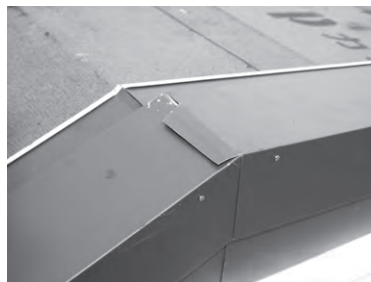
- けらば水切85(110)と棟包み210との取り合いは、棟包み210を加工します。
- 棟包み210の端部は図のように加工します。
- けらば水切85(110)の上に棟包み210をかぶせ、シーリングを施工します。



■ 施工のポイント・現場加工図 < 棟包み210端部の加工 >



① 大棟部のけらば水切85(110)は図のように切断加工します。



② もう一方のけらば水切85(110)は、先行して施工したけらば水切85(110)にかぶせます。



③ 棟包み210を写真のように加工し、けらば水切85(110)にかぶせます。

写真はイメージです。

横暖ルーフα

工法
新築

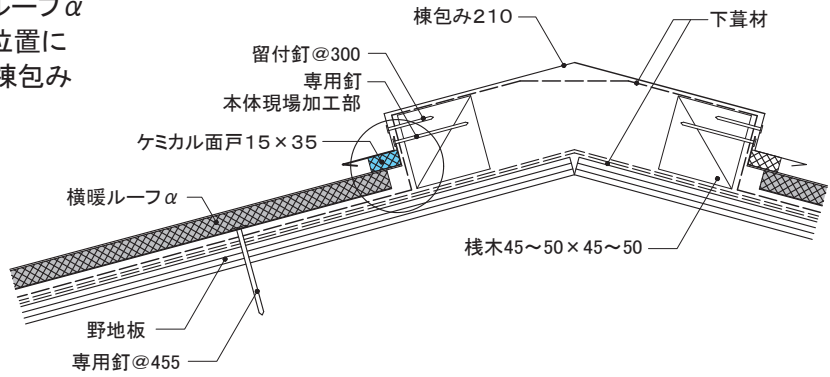
下地
耐水合板

構造
木造

7) 隅棟部

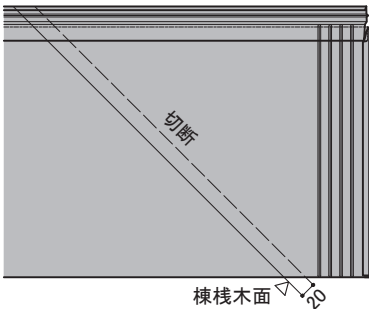
① 棟包み210

- 野地板の上に、下葦材を張ります。
- 棧木45～50mm×45～50mmを外側2ヶ所に取り付け、棧木を包むように下葦材を増し張りします。
- ※棟包み210に乗らないでください。工具・部材も置かないでください。棟包み210が変形するおそれがあります。
- 隅棟部は図のように加工した横暖ルーフα
本体を垂木に施工し、本体の図の位置にケミカル面戸15×35を貼り付け、棟包み210をかぶせます。
棟包み210は、留付釘(ステンレススクリュー釘長さ32mm以上)を用いて、300mm以下の間隔で棧木に留め付けます。
- 剣先は下図のように施工します。

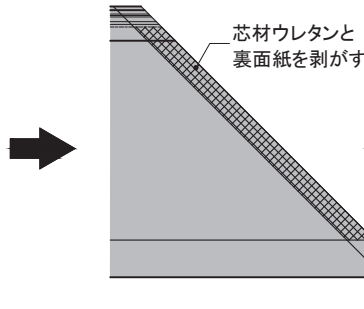


■施工ポイント・本現場加工図

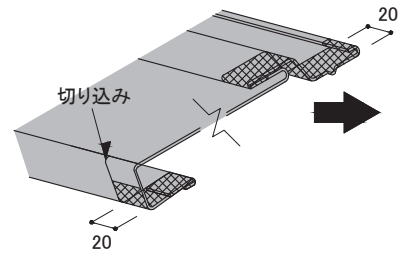
- 横暖ルーフα本体の隅棟部分は図のように加工します。



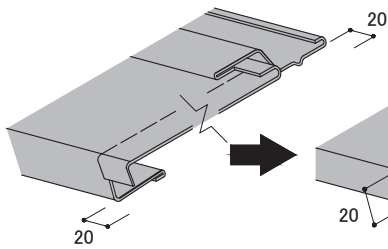
- ①棟棧木面から図の寸法で切断します。



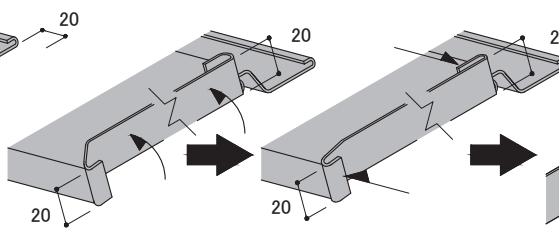
- ②端部から30mmの位置まで芯材のウレタンと裏面紙を剥がします。



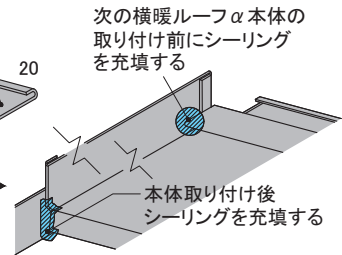
- ③網掛け部分を切り落とします。



- ④切り込みを入れた部分から垂直に起こします。



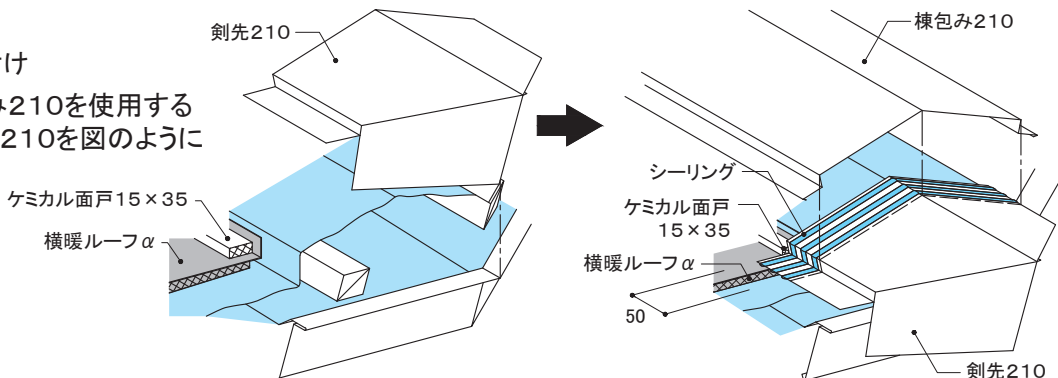
- ⑤Rの部分をつぶします。



- ⑥接合部から雨水の浸入を防ぐためシーリングを充填します。

■剣先の取り付け

- 隅棟に棟包み210を使用する場合は、剣先210を図のように施工します。



センターサイディング
標準施工法

センターサイディング
基本納まり図

本体・付属部材
詳細図

付属部材加工図

センターサイディング
木造編

センターサイディング
鉄骨造 金属胴縁編

センターサイディング
鉄骨造 直張り編

センター化粧幕板
標準施工法

センタールーフ
標準施工法

センタールーフ
納まり詳細図

参考資料

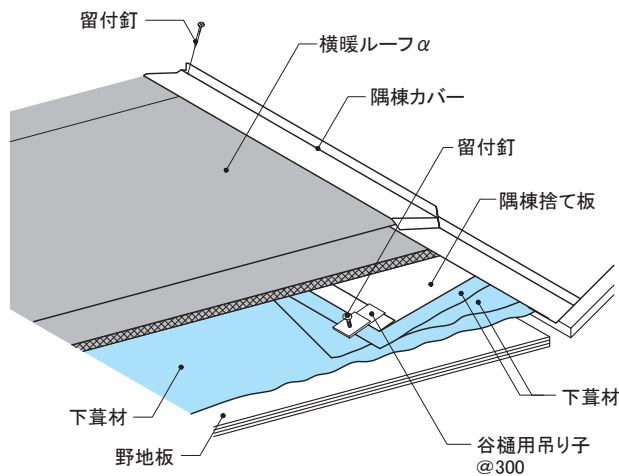
横暖ルーフ α

工法	下地	構造
新築	耐水合板	木造

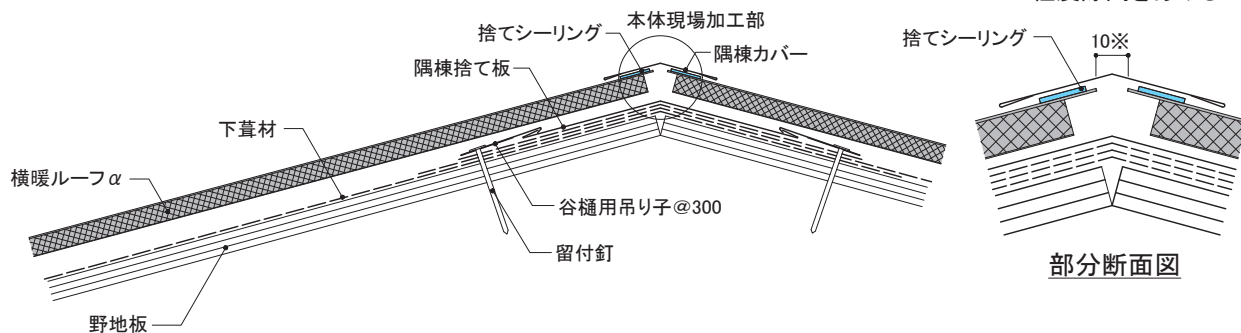
7) 隅棟部

② 隅棟カバー (隅棟カバー急勾配用)

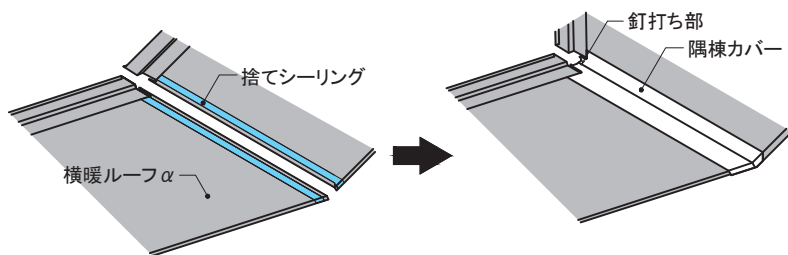
- 野地板の上に、下葦材を張ります。
- 隅棟部には、隅棟捨て板を谷樋用吊り子で取り付けます。吊り子は、留付釘(ステンレススクリュー釘長さ32mm以上)を用いて、300mm以下の間隔で留め付け、図のように加工した横暖ルーフ α 本体を施工します。本体施工の際は、隅棟捨て板を避けて施工します。
- 横暖ルーフ α 本体の切断部から約10mm程度の幅で捨てシーリングを施工します。
- 隅棟カバーは横暖ルーフ α 本体の接合部に差し込み、留付釘(ステンレススクリュー釘長さ32mm以上)で留め付けます。
- 屋根の勾配が2寸5分以上3寸5分未満は隅棟カバーを使用し、3寸5分以上5寸以下は隅棟カバー急勾配用を使用します。



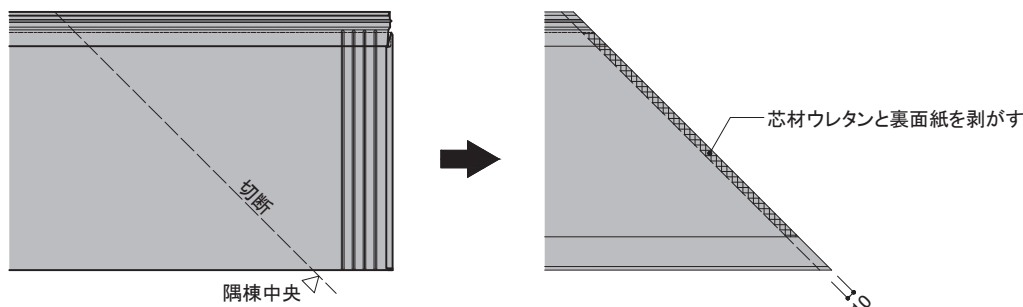
※本体どうしに10mm程度隙間をあける



- 隅棟カバーの取り付け
- ①本体切断部から10mm程度に捨てシーリングを施工します。
 - ②隅棟カバーを取り付け、釘打ち部に留付釘(ステンレススクリュー釘長さ32mm以上)で固定します。



- 施工ポイント・本現場加工図
- 横暖ルーフ α 本体の隅棟部分は図のように加工します。



①隅棟中央の位置で切断します。

②端部から10mmの位置まで芯材ウレタンと裏面紙を剥がします。

横暖ルーフα

工法
新築

下地
耐水合板

構造
木造

センターサイディング
標準施工法

センターサイディング
基本納まり図

本体・付属部材
詳細図

付属部材加工図

センターサイディング
木造編

センターサイディング
鉄骨造 金属胴縁編

センターサイディング
鉄骨造 直張り編

センター化粧石膏板
標準施工法

センタールーフ
標準施工法

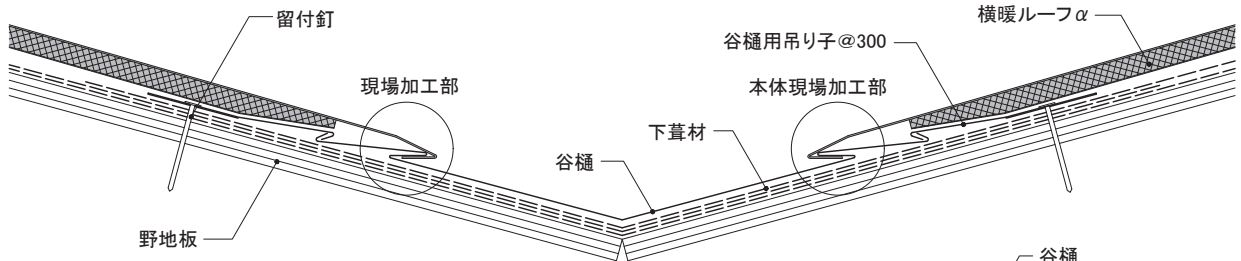
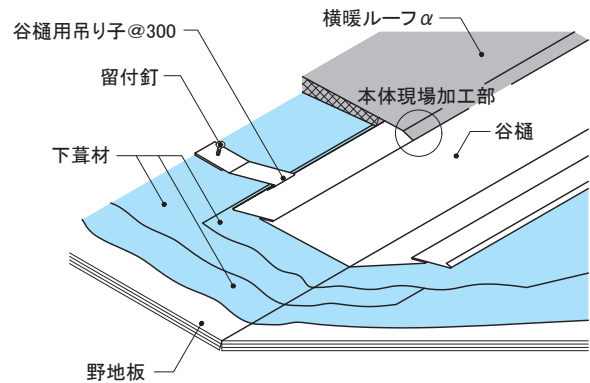
センタールーフ
納まり詳細図

参考資料

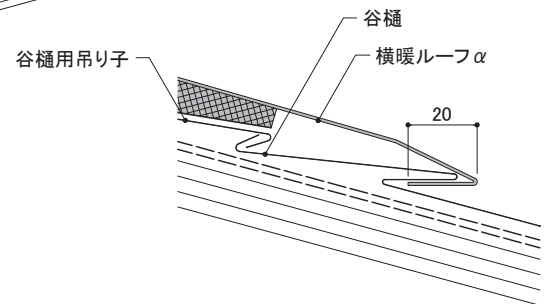
8) 谷部

① 谷樋

- 野地板の上に、下葦材を張ります。
- 谷樋は谷樋用吊り子を使用し留め付けます。谷樋用吊り子は300mm以下の間隔で配置し、留付釘(ステンレススクリュー釘長さ32mm以上)を用いて留め付けます。本体施工の際は、谷樋を避けて施工します。
- 谷樋部分は図のように加工した横暖ルーフα本体を、谷樋折り返し部分に引っ掛けるようにして施工します。
- 谷樋の接合部についてはP252をご確認ください。

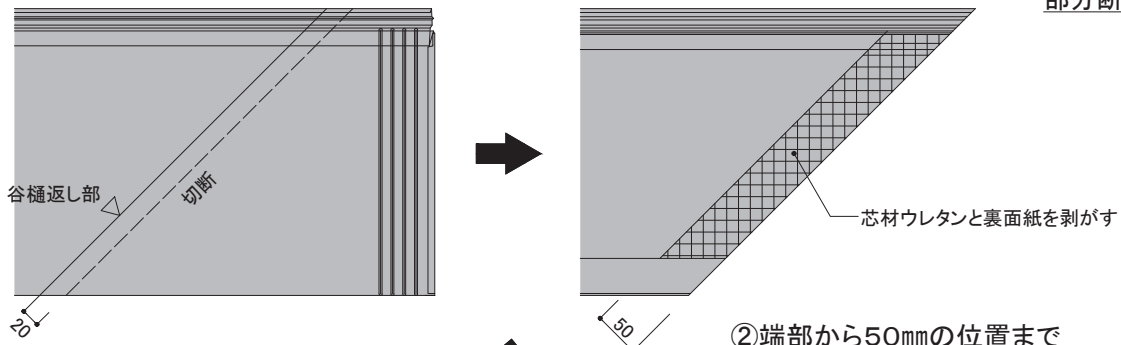


※1谷樋は、端部から150mm以内の位置にマークが付いている方が水上側です。



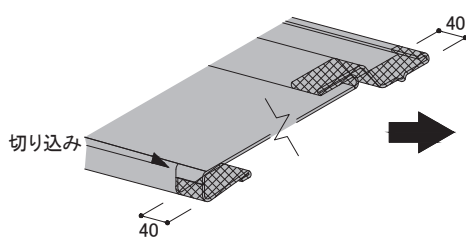
- 施工ポイント・本現場加工図
- 横暖ルーフα本体の谷樋部分は、図のように加工します。

部分断面図

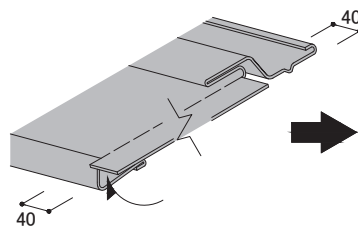


①谷樋返し部から図の寸法で切断します。

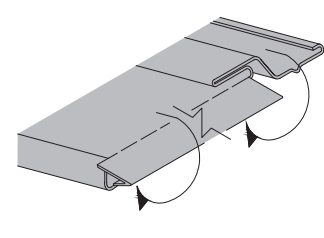
②端部から50mmの位置まで芯材ウレタンと裏面紙を剥がします。



③網掛け部分を切り落とします。



④切り込みを入れた部分を水平に起こします。



⑤谷樋返し部を巻き込むように折り曲げます。

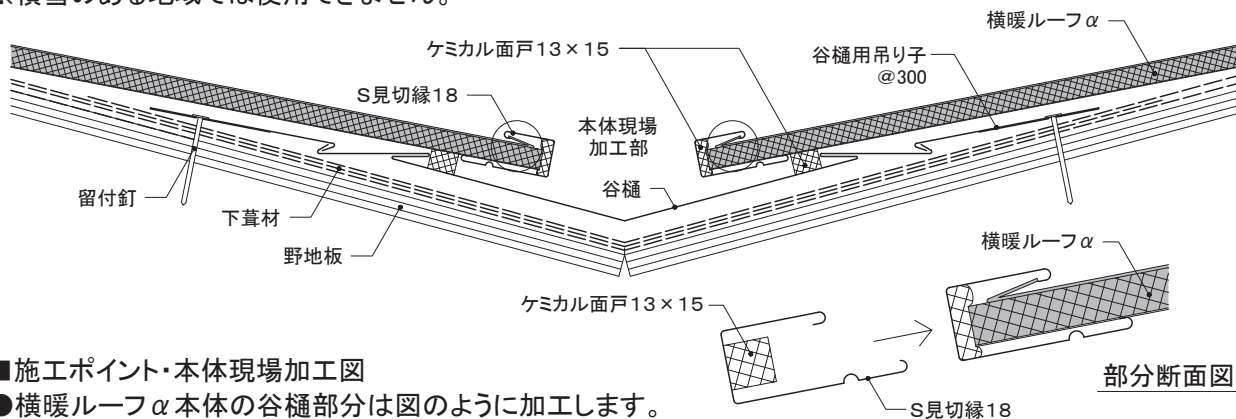
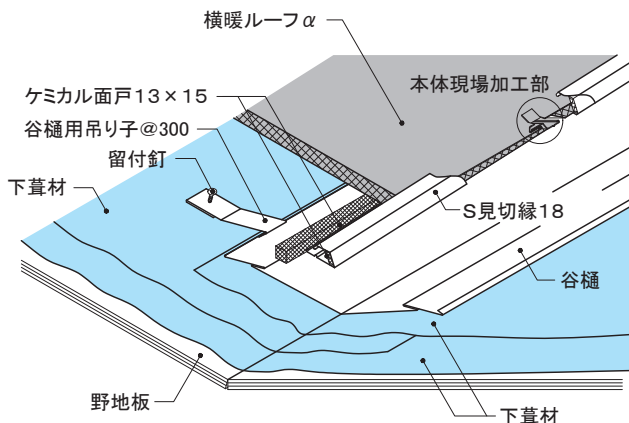
横暖ルーフ α

工法	下地	構造
新築	耐水合板	木造

8) 谷部

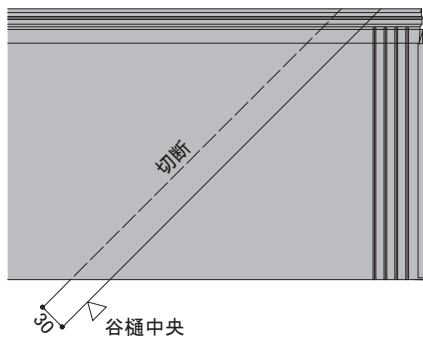
② 谷樋+S見切縁18

- 野地板の上に、下葦材を張ります。
- 谷樋は谷樋用吊り子を使用し留め付けます。谷樋用吊り子は300mm以下の間隔で配置し、留付釘(ステンレススクリュー釘 長さ32mm以上)を用いて留め付けます。
- 谷樋部分の横暖ルーフ α は下図のように折り返し加工します。S見切縁18と谷樋にケミカル面戸13×15を貼り付けます。横暖ルーフ α 本体の折り返し加工部とS見切縁18のハゼとが引っ掛かるまで押し付けます。
- 挿着後、S見切縁18を引っ張り、外れないことを確認してください。
- 本体施工の際は、谷樋を避けて施工します。
※積雪のある地域では使用できません。

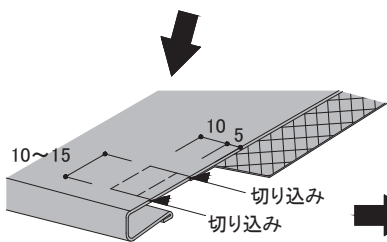


■施工ポイント・本体現場加工図

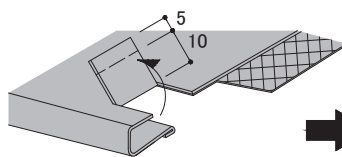
- 横暖ルーフ α 本体の谷樋部分は図のように加工します。



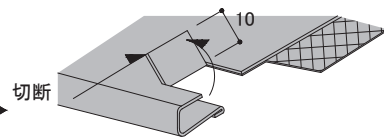
①横暖ルーフ α 本体を谷樋中央部から30mmの位置で切断します。



②図の位置2ヶ所に切り込みを入れます。



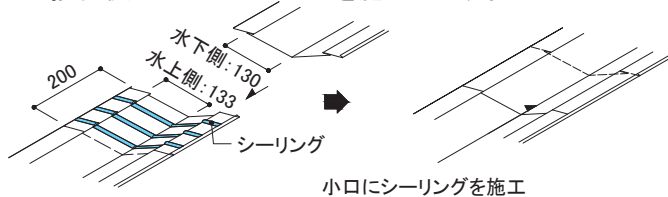
③切り込みを入れた部分を起こします。



④端部から5mmの位置を切断します。

■谷樋 接合部

- 重ね代にシーリングで3本のビードを作り、上部谷樋を差し込みます。
- 接合後小口にシーリングを施工します。



小口にシーリングを施工

※谷樋は図の寸法のように流れの上下で小口の大きさが異なります。水上側に目印がありますので、接合時には注意して施工してください。

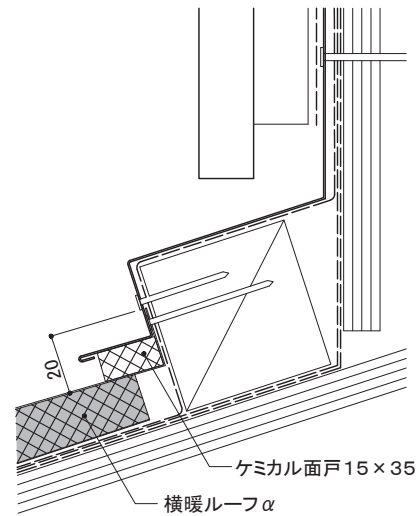
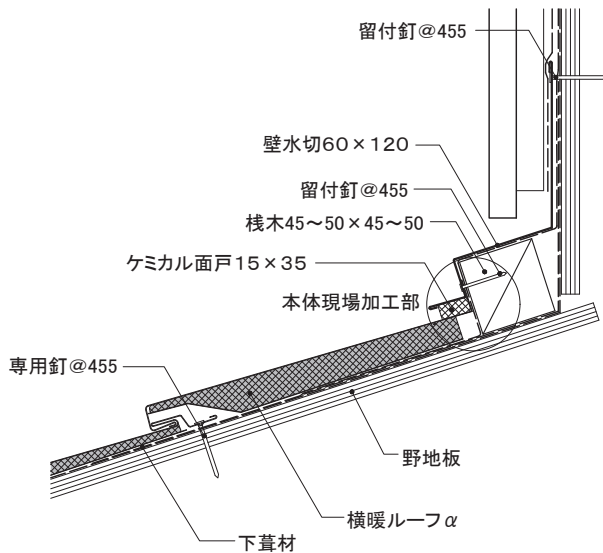
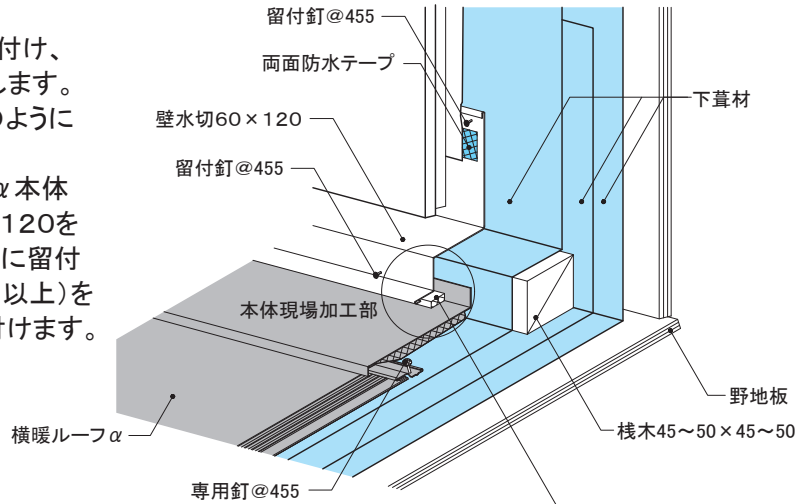
横暖ルーフα

工法	下地	構造
新築	耐水合板	木造

9) 下屋根部

①棟側 壁水切60×120

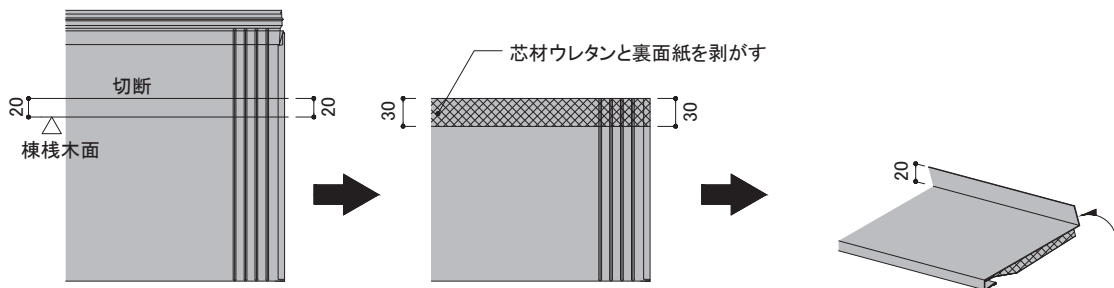
- 野地板の上に、下葺材を張ります。
- 桟木45～50mm×45～50mmを取り付け、桟木を包むように下葺材を増し張りします。
- 壁取り合い部の横暖ルーフαは図のように現場加工し施工します。
- ケミカル面戸15×35を横暖ルーフα本体に図のように貼り付け、壁水切60×120をかぶせるように施工します。図のように留付釘(ステンレスクリュー釘長さ32mm以上)を用いて、455mm以下の間隔で留め付けます。



部分断面図

■施工ポイント・本体現場加工図

- 横暖ルーフα本体の壁付部分は図のように加工します。



- ①棟桟木面から図の寸法で切断します。
- ②端部から30mmの位置まで芯材ウレタンと裏面紙を剥がします。
- ③端部から20mmの位置を折り曲げて立ち上げます。

センターサイディング
標準施工法

センターサイディング
基本納まり図

本体・付属部材
詳細図

付属部材加工図

センターサイディング
木造編

センターサイディング
鉄骨造 金属脚縁編

センターサイディング
鉄骨造 直張り編

センター化粧石膏板
標準施工法

センタールーフ
標準施工法

センタールーフ
納まり詳細図

参考資料

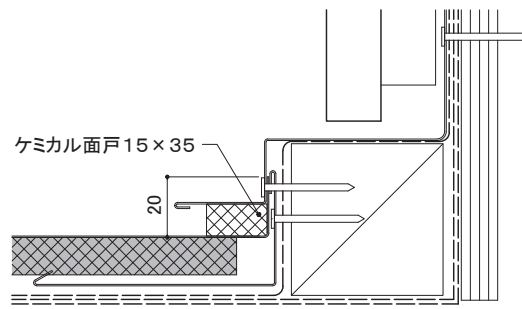
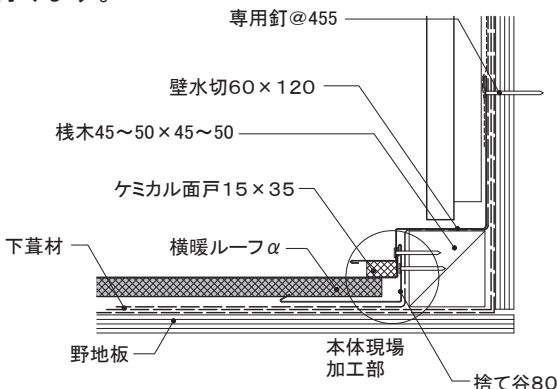
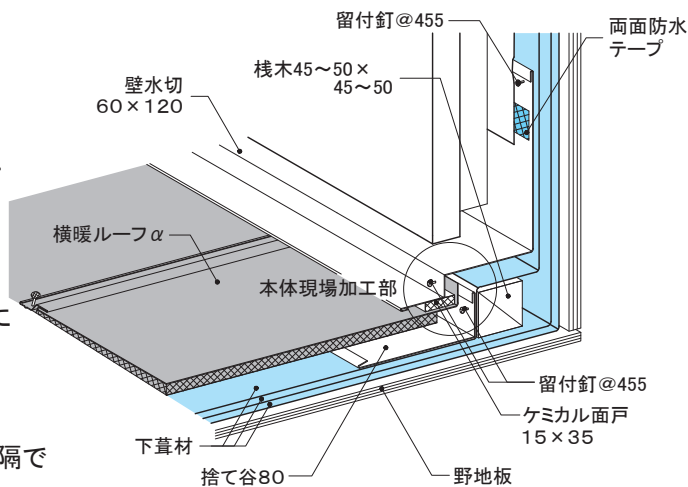
横暖ルーフα

工法	下地	構造
新築	耐水合板	木造

9) 下屋根部

②流れ側 壁水切60×120+捨て谷80

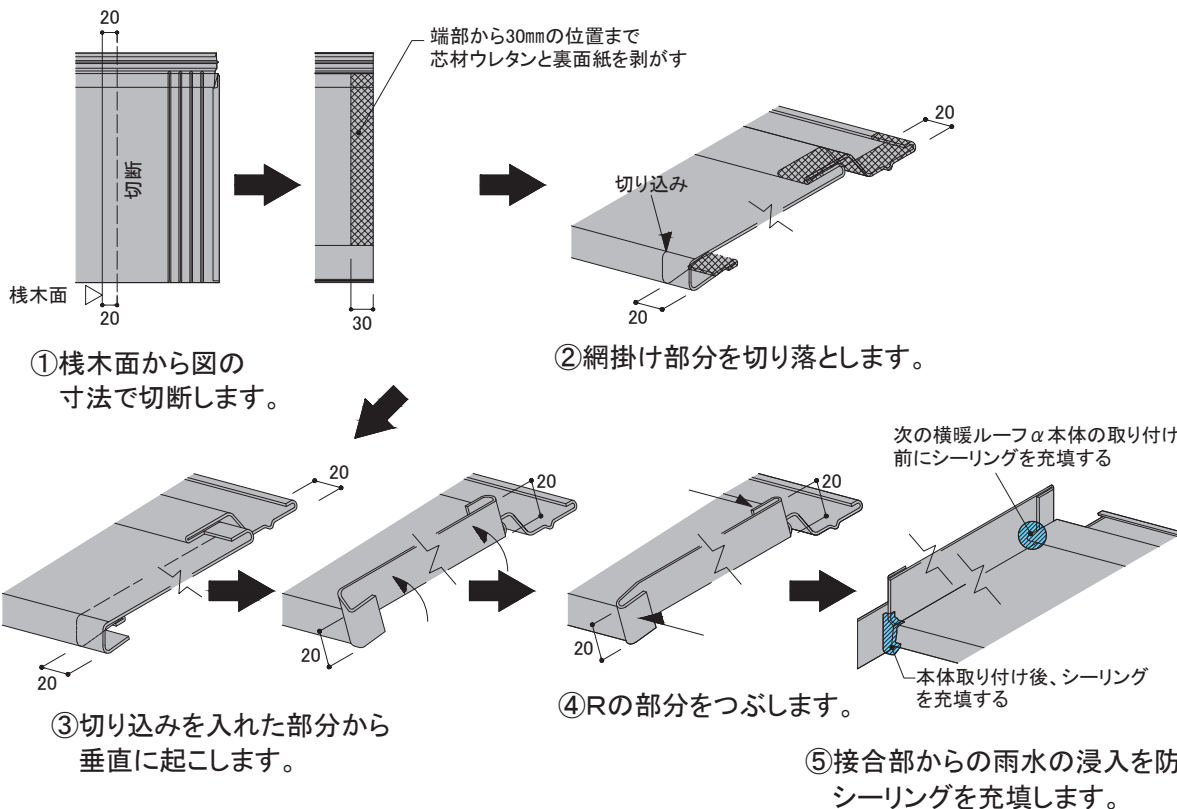
- 野地板の上に、下葺材を施工します。
- 栈木45～50mm×45～50mmを取り付け、栈木を包むように下葺材を増し張りしてください。
- 捨て谷80は留付釘(ステンレスクリュー釘 長さ32mm以上)を用いて、455mm以下の間隔で栈木に留め付け、図のように加工した横暖ルーフα本体を施工します。
- ケミカル面戸15×35を横暖ルーフα本体に図のように貼り付け、壁水切60×120をかぶせるように施工します。図のように留付釘(ステンレスクリュー釘 長さ32mm以上)を用いて、455mm以下の間隔で留め付けます。



部分断面図

■施工ポイント・本体現場加工図

- 横暖ルーフα本体の壁付部分は図のように加工します。



横暖ルーフα

工法	下地	構造
新築	耐水合板	木造

センターサイディング
標準施工法

センターサイディング
基本納まり図

本体・付属部材
詳細図

付属部材加工図

木造編
センターサイディング

センターサイディング
鉄骨造 金属脚縁編

センターサイディング
鉄骨造 直張り編

センター化粧幕板
標準施工法

センタールーフ
標準施工法

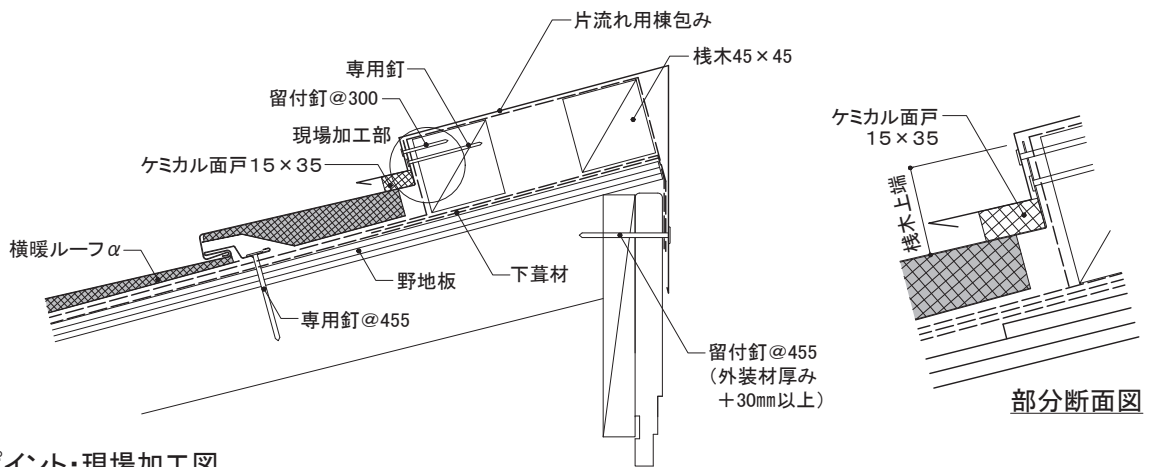
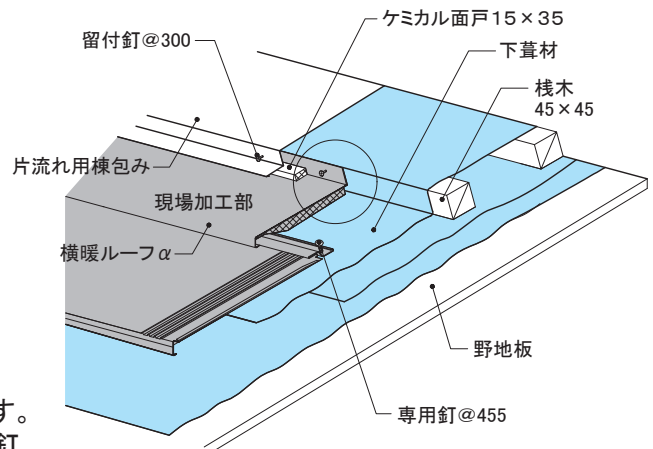
センタールーフ
納まり詳細図

参考資料

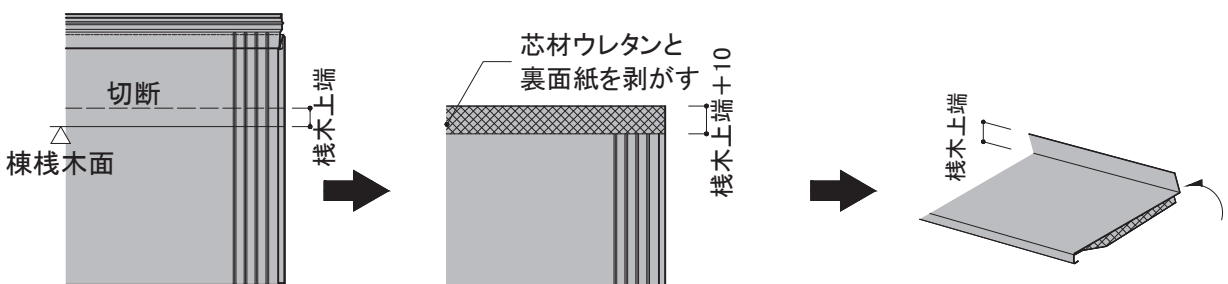
10) 片棟部

片流れ用棟包み

- 片流れ用棟包みの適用勾配と棧木位置はP231をご参照ください。
- 野地板の上に下葦材を張ります。
- 片流れ棟部に棧木45mm×45mmを2ヶ所に取り付け、棧木を包むように下葦材を増し張ります。
- ※片流れ用棟包みに乗らないでください。工具・部材も置かないでください。片流れ用棟包みに変形するおそれがあります。
- 棟部を図のように加工した横暖ルーフα本体を棧木に施工し、本体の図の位置にケミカル面戸15×35を貼り付け、片流れ用棟包みをかぶせします。片流れ用棟包みは、留付釘(ステンレスクリュー釘 長さ32mm以上)を用いて、300mm以下の間隔で棧木に留め付けます。
- 外壁面側は化粧破風あるいはサイディングの上から、留付釘(ステンレスクリュー釘・外装材厚み+30mm以上)で455mm以下の間隔で必ず下地に留め付けます。
- けらば部は片流れ用棟包みを加工して納めます。



- 施工ポイント・現場加工図
- 横暖ルーフα本体の大棟部分は図のように加工してください。



- ①棟木面から図の寸法で切断します。
- ②棟木上端+10mmの位置まで芯材のウレタンと裏面紙を剥がしてください。
- ③端部から棟木上端の位置で折り曲げて立ち上げます。

10-3 納まり詳細図

木造下地

横暖ルーフ

1) 本体仕様	
2) 主要付属部材一覧表	
3) 軒先部	軒先唐草40
4) けらば部	①けらば唐草40 ②けらば包み50 ③段付けらば唐草40+段付けらば ④けらば水切85(110)
5) 大棟部	①棟包み210 ②棟包み210+けらば水切85(110) ③棟巴210L
6) 隅棟部	①棟包み210 ②隅棟カバー(隅棟カバー急勾配用)
7) 谷部	①谷樋 ②谷樋+見切縁12
8) 下屋根部	①棟側 壁水切60×120 ②流れ側 壁水切60×120+捨て谷80
9) 片棟部	片流れ用棟包み



注意

飛び火認定の大臣認定が必要な場合は、大臣認定の別添に従い施工してください。

横暖ルーフ

工法
新築

下地
耐水合板

構造
木造

センターサイディング
標準施工法

センターサイディング
基本納まり図

本体・付属部材
詳細図

付属部材加工図

センターサイディング
木造編

センターサイディング
鉄骨造 金属脚縁編

センターサイディング
鉄骨造 直張り編

センター化粧幕板
標準施工法

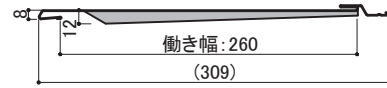
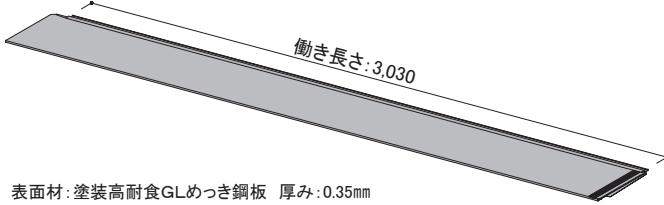
センタールーフ
標準施工法

センタールーフ
納まり詳細図

参考資料

1) 本体仕様

■横暖ルーフ 本体

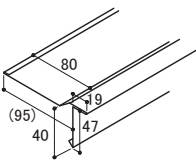


表面材: 塗装高耐食GLめっき鋼板 厚み: 0.35mm
芯材: 硬質ウレタンフォーム

備考: 横暖ルーフS1820の働き長さは1,820mm

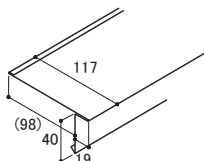
2) 主要部材一覧表

■軒先唐草40



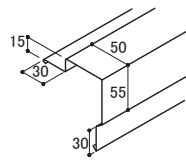
【品番: BNK1F0**】
材質: 塗装高耐食GLめっき鋼板
厚み: 0.35mm 長さ: 2,727mm

■けらば唐草40



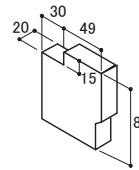
【品番: BKK1F0**】
材質: 塗装高耐食GLめっき鋼板
厚み: 0.35mm 長さ: 2,727mm

■けらば包み50



【品番: BKD2F0**】
材質: 塗装高耐食GLめっき鋼板
厚み: 0.35mm 長さ: 2,727mm

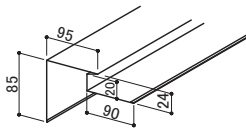
■けらばキャップ50(左右)



※左右勝手あり

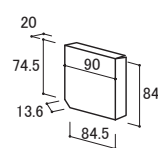
【品番: BKC3F0** (左)】
【品番: BKC1F0** (右)】
材質: 塗装高耐食GLめっき鋼板
厚み: 0.35mm

■けらば水切85



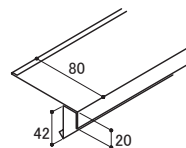
【品番: BKZ4F0**】
材質: 塗装高耐食GLめっき鋼板
厚み: 0.35mm 長さ: 2,727mm

■けらば水切キャップ85(左右)



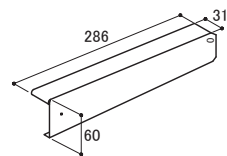
【品番: BKCGF0** (左)】
【品番: BKCF0** (右)】
材質: 塗装高耐食GLめっき鋼板
厚み: 0.35mm

■段付けらば唐草40



【品番: BKK3F0**】
材質: 塗装高耐食GLめっき鋼板
厚み: 0.35mm 長さ: 2,727mm

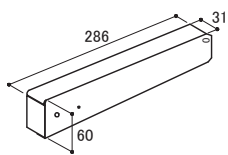
■段付けらば(左右)



※左右勝手あり

【品番: BDK3F0** (左)】
【品番: BDK1F0** (右)】
材質: 塗装高耐食GLめっき鋼板
厚み: 0.35mm

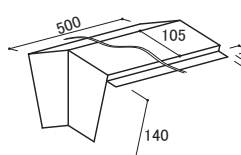
■段付けらば軒先(左右)



※左右勝手あり

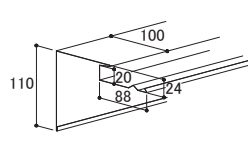
【品番: BDK7F0** (左)】
【品番: BDK5F0** (右)】
材質: 塗装高耐食GLめっき鋼板
厚み: 0.35mm

■棟巴210L



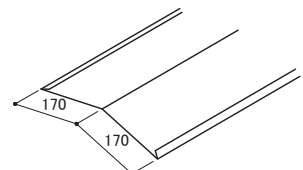
【品番: BTEBF0**】
材質: 塗装高耐食GLめっき鋼板
厚み: 0.35mm 長さ: 500mm

■けらば水切110



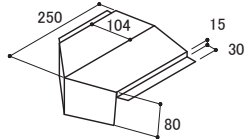
【品番: BKZ7F0**】
材質: 塗装高耐食GLめっき鋼板
厚み: 0.35mm 長さ: 2,727mm

■隅棟捨て板



【品番: BSM5F00A】
材質: 塗装高耐食GLめっき鋼板
厚み: 0.35mm 長さ: 2,727mm

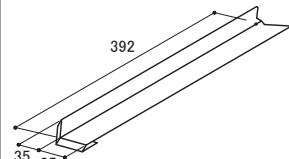
■剣先210



※棟包み210用

【品番: BKE1F0**】
材質: 塗装高耐食GLめっき鋼板
厚み: 0.35mm

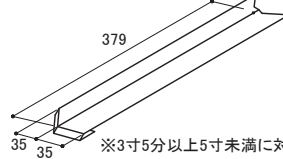
■隅棟カバー



※2寸5分以上3寸5分未満に対応

【品番: BSM1F0**】
材質: 塗装高耐食GLめっき鋼板
厚み: 0.35mm

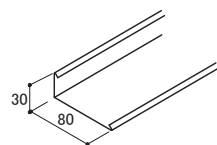
■隅棟カバー(急勾配用)



※3寸5分以上5寸未満に対応

【品番: BSM3F0**】
材質: 塗装高耐食GLめっき鋼板
厚み: 0.35mm

■捨て谷80



【品番: BSD1F0**】
材質: 塗装高耐食GLめっき鋼板
厚み: 0.35mm 長さ: 2,727mm

※各部材は、2024年2月時点のものです。最新の情報はNICHIIHA金属製外壁材・屋根材総合カタログでご確認ください。

横暖ルーフ

工法

下地

構造

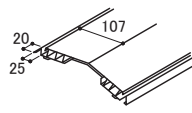
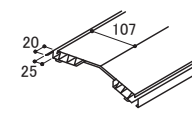
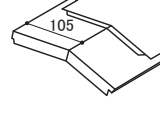
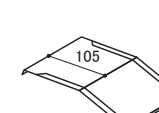
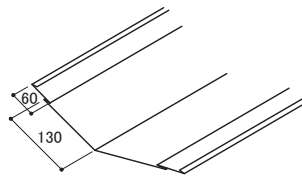
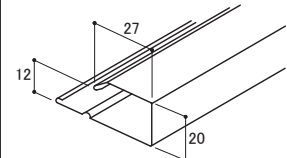
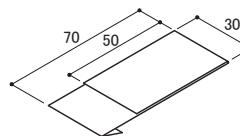
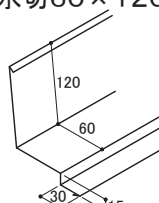
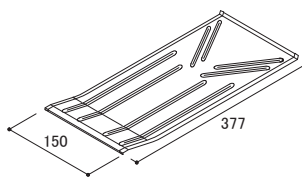
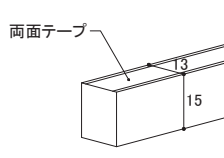
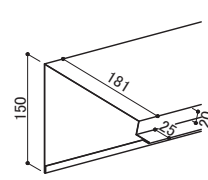
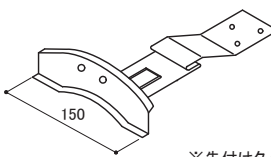
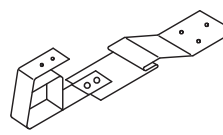
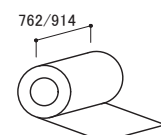
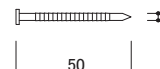
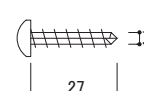


新築

耐水合板

木造

2) 主要部材一覧表 改訂のご案内

本ページ(P258)は、一部改訂のため、次ページ(P258-1)に更新しております。
最新の設計施工資料を閲覧される際は、次ページをご確認ください。

<p>■センター換気棟909</p>  <p>【品番:BKM2F0**】 材質:塗装高耐食GLめっき鋼板 厚み:0.35mm 長さ:909mm</p>	<p>■センター換気棟1818</p>  <p>【品番:BKM1F0**】 材質:塗装高耐食GLめっき鋼板 厚み:0.35mm 長さ:1,818mm</p>	<p>■換気棟エンドキャップ</p>  <p>【品番:BKM4F0**】 材質:塗装高耐食GLめっき鋼板 厚み:0.35mm</p>	<p>■換気棟ジョイント</p>  <p>【品番:BKM3F051】 材質:塗装高耐食GLめっき鋼板 厚み:0.35mm</p>
<p>■谷樋</p>  <p>【品番:BDT1F0**】 材質:塗装高耐食GLめっき鋼板 厚み:0.35mm 長さ:2,727mm</p>	<p>■見切縁12</p>  <p>【品番:BMK8F0**】 材質:塗装高耐食GLめっき鋼板 厚み:0.35mm 長さ:2,727mm</p>	<p>■谷樋用吊り子</p>  <p>【品番:BDT2F00A】 材質:塗装高耐食GLめっき鋼板 厚み:0.35mm</p>	<p>■壁水切60×120</p>  <p>【品番:BAM5F0**】 材質:塗装高耐食GLめっき鋼板 厚み:0.35mm 長さ:2,727mm</p>
<p>■共通捨て板</p>  <p>【品番:BYS2F00A】 材質:塗装高耐食GLめっき鋼板 厚み:0.35mm</p>	<p>■ケミカル面戸13×15</p>  <p>【品番:BCMCQ10B】 材質:EPDM 長さ:2,000mm</p>	<p>■片流れ用棟包み</p>  <p>【品番:BDMBF0**】 材質:塗装高耐食GLめっき鋼板 厚み:0.35mm 長さ:2,727mm</p>	<p>■雪止め(ウイング)</p>  <p>※先付けタイプ 【品番:BYE3Q0**】 材質:ステンレス 厚み:1.2mm</p>
<p>■雪止め(アングル)</p>  <p>※先付けタイプ 【品番:BYD4Q0JK】 足・材質:ステンレス 厚み:1.2mm</p>	<p>■共板(コイル)</p>  <p>【品番:ECL1F5**】 【品番:ECL1F7**】 材質:塗装高耐食GLめっき鋼板 厚み:0.35mm 幅762/914mm×長さ10m</p>	<p>■専用釘(本体留付用)</p>  <p>ステンレススクリュー釘 【品番:JK500E】 材質:ステンレス サイズ:φ2.3mm×50mm</p>	<p>■専用ビス(本体留付用)</p> <p>※垂木に固定できない場合に使用</p>  <p>ステンレスビス 【品番:JK1710】 材質:ステンレス サイズ:φ4.1mm×27mm</p>
<p>■シーリング</p>  <p>ニチハシーリング 【品番:DSY1Q0**】 材質:変成シリコン系</p>	<p>■補修塗料</p>  <p>補修塗料 【品番:DPA4Q0**】</p>		

※各部材は、2024年2月時点のものです。最新の情報はNICHIIHA金属製外壁材・屋根材総合カタログでご確認ください。

センターサイディング
標準施工法

センターサイディング
基本納まり図

本体・付属部材
詳細図

付属部材加工図

センターサイディング
木造編

センターサイディング
鉄骨造金属胴縁編

センターサイディング
鉄骨造直張り編

センター化粧幕板
標準施工法

センタールーフ
標準施工法

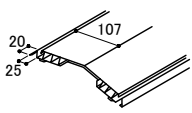
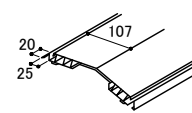
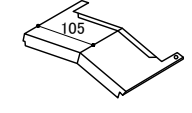
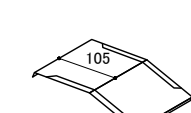
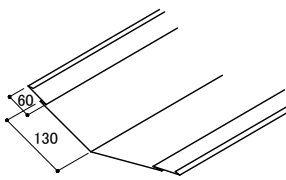
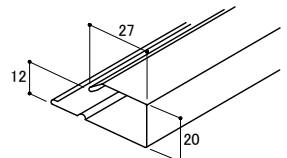
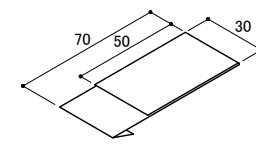
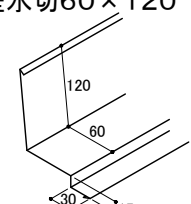
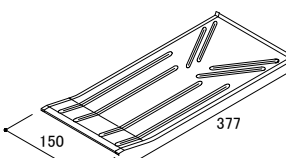
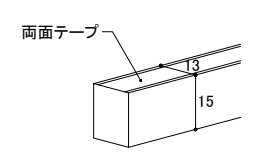
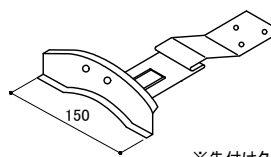
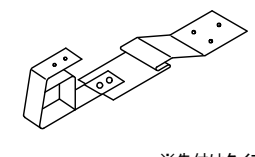
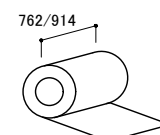
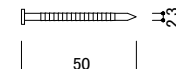
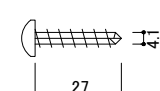


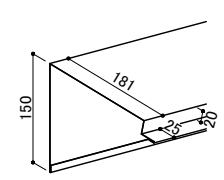
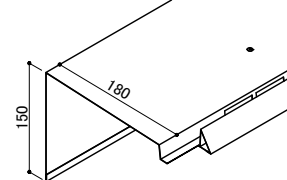
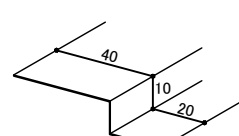
センタールーフ
納まり詳細図

参考資料

横暖ルーフ

工法	下地	構造
新築	耐水合板	木造

2) 主要部材一覧表

<p>■センター換気棟909</p>  <p>【品番: BKM2F0**】 材質: 塗装高耐食GLめっき鋼板 厚み: 0.35mm 長さ: 909mm</p>	<p>■センター換気棟1818</p>  <p>【品番: BKM1F0**】 材質: 塗装高耐食GLめっき鋼板 厚み: 0.35mm 長さ: 1,818mm</p>	<p>■換気棟エンドキャップ</p>  <p>【品番: BKM4F0**】 材質: 塗装高耐食GLめっき鋼板 厚み: 0.35mm</p>	<p>■換気棟ジョイント</p>  <p>【品番: BKM3F051】 材質: 塗装高耐食GLめっき鋼板 厚み: 0.35mm</p>
<p>■谷樋</p>  <p>【品番: BTD1F0**】 材質: 塗装高耐食GLめっき鋼板 厚み: 0.35mm 長さ: 2,727mm</p>	<p>■見切縁12</p>  <p>【品番: BMK8F0**】 材質: 塗装高耐食GLめっき鋼板 厚み: 0.35mm 長さ: 2,727mm</p>	<p>■谷樋用吊り子</p>  <p>【品番: BTD2F00A】 材質: 塗装高耐食GLめっき鋼板 厚み: 0.35mm</p>	<p>■壁水切60×120</p>  <p>【品番: BAM5F0**】 材質: 塗装高耐食GLめっき鋼板 厚み: 0.35mm 長さ: 2,727mm</p>
<p>■共通捨て板</p>  <p>【品番: BYS2F00A】 材質: 塗装高耐食GLめっき鋼板 厚み: 0.35mm</p>	<p>■ケミカル面戸13×15</p>  <p>【品番: BCMCQ10B】 材質: EPDM 長さ: 2,000mm</p>	<p>■雪止め(ウイング)</p>  <p>※先付けタイプ 【品番: BYE3Q0**】 材質: ステンレス 厚み: 1.2mm</p>	<p>■雪止め(アングル)</p>  <p>※先付けタイプ 【品番: BYD4Q0JK】 足・材質: ステンレス 厚み: 1.2mm</p>
<p>■共板(コイル)</p>  <p>【品番: ECL1F5**】 【品番: ECL1F7**】 材質: 塗装高耐食GLめっき鋼板 厚み: 0.35mm 幅762/914mm×長さ10m</p>	<p>■専用釘(本体留付用)</p>  <p>ステンレススクリー釘 【品番: JK500E】 材質: ステンレス サイズ: φ2.3mm×50mm</p>	<p>■専用ビス(本体留付用)</p> <p>※垂木に固定できない場合に使用</p>  <p>ステンレスビス 【品番: JK1710】 材質: ステンレス サイズ: φ4.1mm×27mm</p>	<p>■シーリング</p>  <p>ニチハシーリング 【品番: DSY1Q0K*】 材質: 変成シリコン系</p>
<p>■補修塗料</p>  <p>補修塗料 【品番: DPA2Q0**】</p>	<p>■片流れ用棟包み</p>  <p>【品番: BDMBF0**】 材質: 塗装高耐食GLめっき鋼板 厚み: 0.35mm 長さ: 2,727mm</p>	<p>■片流れ用換気棟</p>  <p>【品番: BKM5F0**】 材質: 塗装高耐食GLめっき鋼板 厚み: 0.35mm 働き長さ: 2,000mm</p>	<p>■押さえ板金 (片流れ用換気棟)</p>  <p>【品番: BKM7F051】 材質: 塗装高耐食GLめっき鋼板 厚み: 0.35mm 長さ: 2,727mm</p>

※各部材は、2024年4月時点のものです。最新の情報はNICHIIHA金属製外壁材・屋根材総合カタログでご確認ください。

センターサイディング
標準施工法

センターサイディング
基本納まり図

本体・付属部材
詳細図

付属部材加工図

センターサイディング
木造編

センターサイディング
鉄骨造金属胴縁編

センターサイディング
鉄骨造直張り編

センター化粧幕板
標準施工法

センタールーフ
標準施工法

センタールーフ
納まり詳細図

参考資料

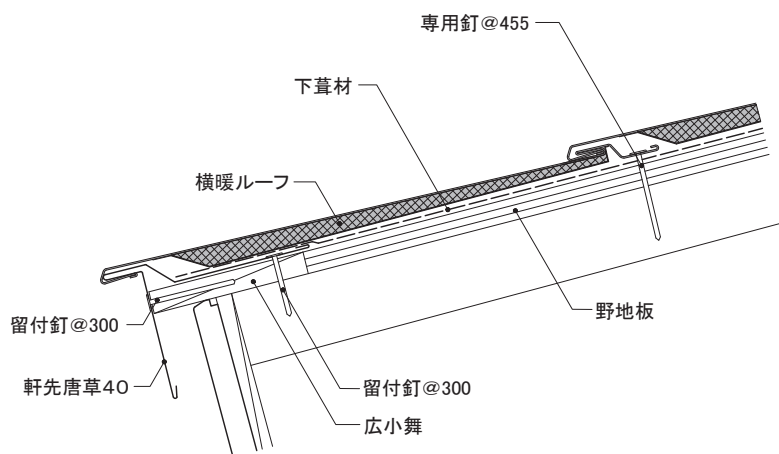
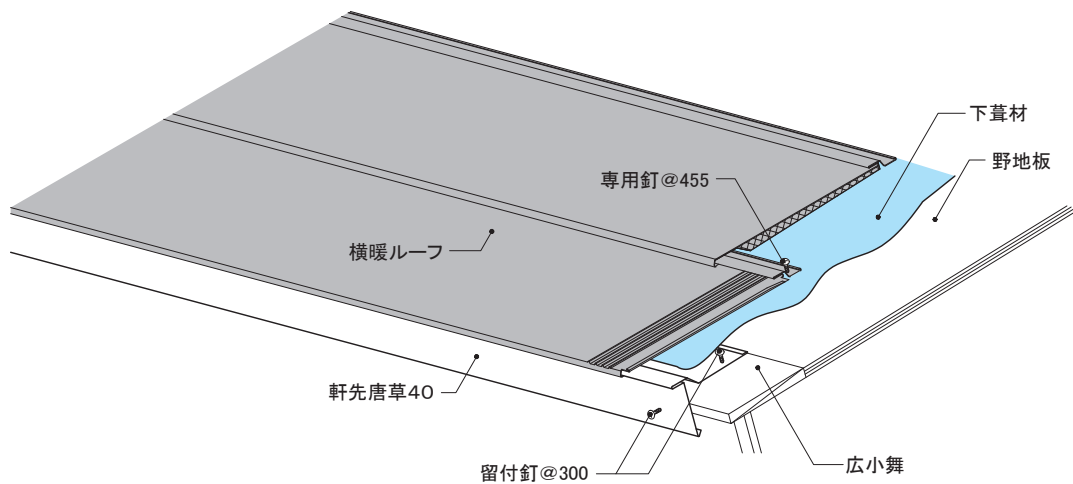
横暖ルーフ

工法	下地	構造
新築	耐水合板	木造

3) 軒先部

軒先唐草40

- 軒先唐草40は留付釘(ステンレススクリュー釘長さ32mm以上)を用いて、300mm以下の間隔で広小舞および野地板に留め付けます。
- 図のように下葺材を張り、横暖ルーフ本体の軒側実を軒先唐草40に差し込み、横暖ルーフ本体の棟側実には専用釘(ステンレススクリュー釘φ2.3mm×50mm)を用いて、455mm以下の間隔で垂木に留め付けます。ただし、垂木への固定が困難な場合は専用ビス(ステンレスビスφ4.1mm×27mm)を用いて300mm以下の間隔で野地板に留め付けます。



センターサイディング
標準施工法

センターサイディング
基本納まり図

本体・付属部材
詳細図

付属部材加工図

センターサイディング
木造編

センターサイディング
鉄骨造 金属胸縁編

センターサイディング
鉄骨造 直張り編

センター化粧幕板
標準施工法

センタールーフ
標準施工法

センタールーフ
納まり詳細図

参考資料

横暖ルーフ

工法
新築

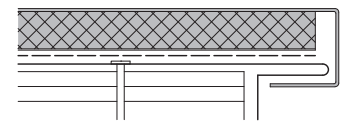
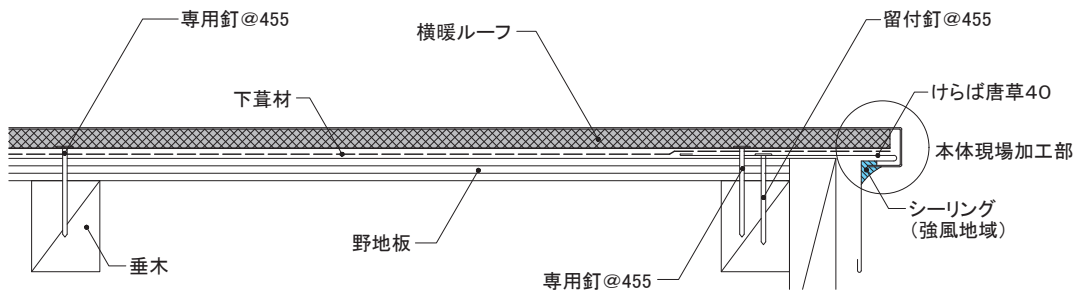
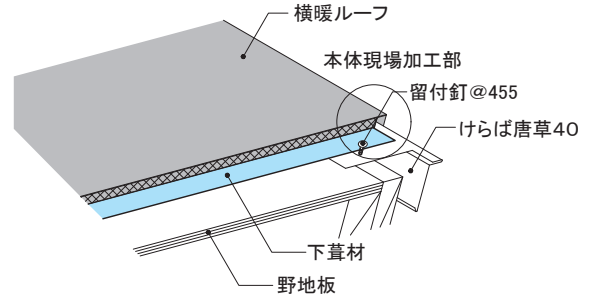
下地
耐水合板

構造
木造

4) けらば部

① けらば唐草40

- けらば唐草40は留付釘(ステンレススクリー釘 長さ32mm以上)を用いて、455mm以下の間隔で、図の位置に取り付けます。
- 下葦材を図のように張り、横暖ルーフ本体は専用釘(ステンレススクリー釘φ2.3mm×50mm)を用いて、455mm以下の間隔で垂木に施工します。
- 横暖ルーフ本体端部を図のように現場加工し、けらば唐草40へ納めます。強風地域では取り合い部にシーリングを施工します。

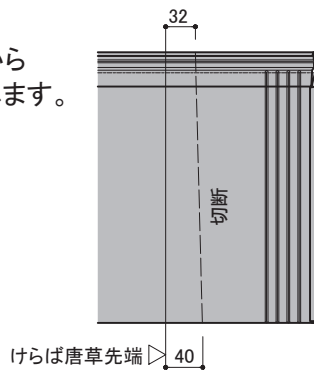


部分断面図

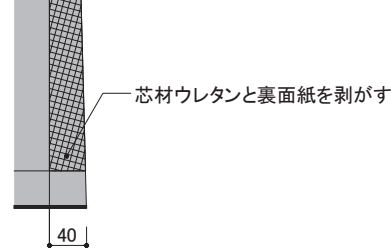
■ 施工ポイント・本現場加工図

- 横暖ルーフ本体のけらば部分は図のように加工します。

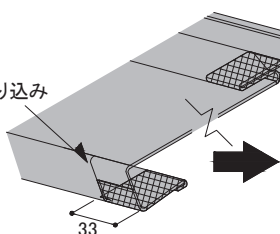
① けらば唐草先端から図の寸法で切断します。



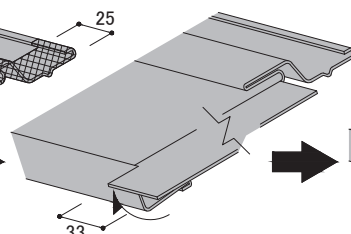
② 長辺端部から40mmの位置まで芯材のウレタンと裏面紙を剥がします。



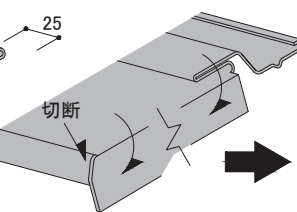
切り込み



③ 網掛け部分を切り落とします。



④ 切り込みを入れた部分を水平に起こします。



⑤ けらば唐草先端を巻き込むように折り曲げます。

センターサイディング
標準施工法

センターサイディング
基本納まり図

本体・付属部材
詳細図

付属部材加工図

センターサイディング
木造編

センターサイディング
鉄骨造 金属胴縁編

センターサイディング
鉄骨造 直張り編

センター化粧幕板
標準施工法

センタールーフ
標準施工法

センタールーフ
納まり詳細図

参考資料

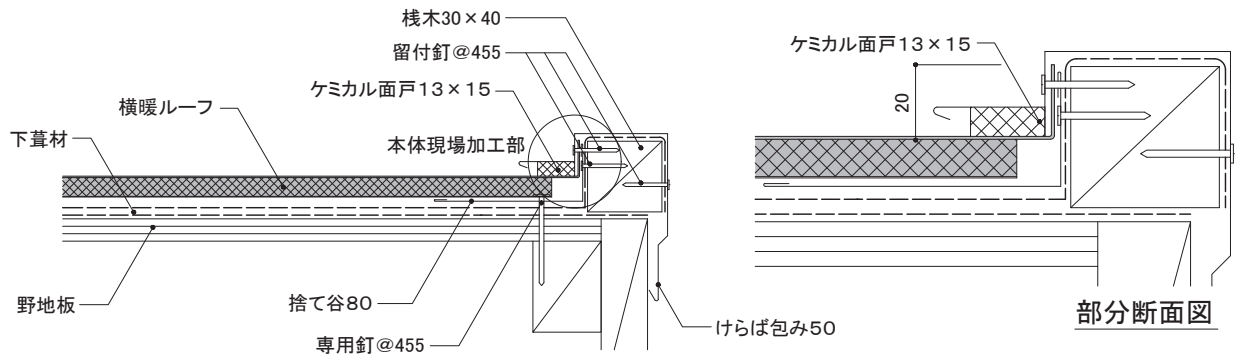
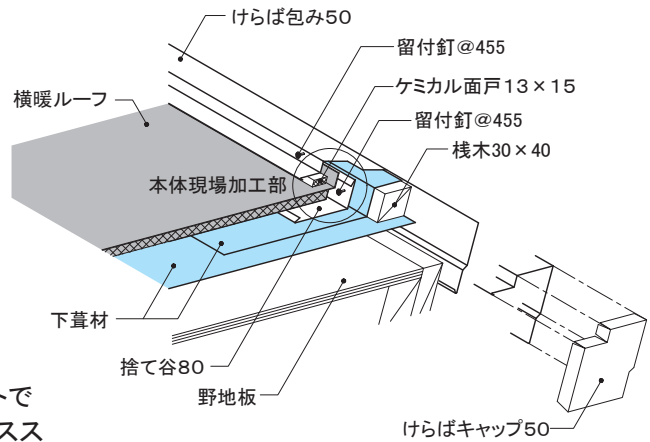
横暖ルーフ

工法	下地	構造
新築	耐水合板	木造

4) けらば部

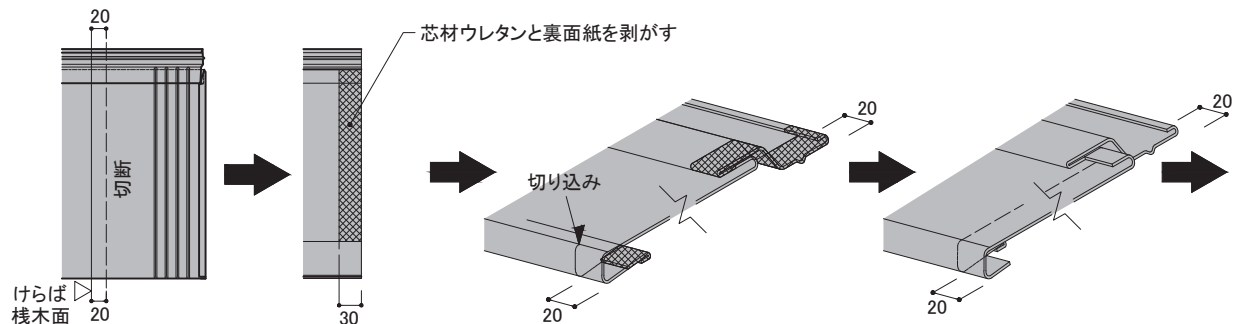
②けらば包み50

- 野地板の上に下葦材を張ります。
- けらば部に棧木30mm×40mmを取り付け、棧木を包むように下葦材を増し張りします。
- 捨て谷80は留付釘(ステンレススクリー釘長さ32mm以上)を用いて、455mm以下の間隔で棧木に留め付けます。
- 本体の図の位置にケミカル面戸13×15を貼り付け、けらば包み50をかぶせるように施工し、留付釘(ステンレススクリー釘長さ32mm以上)を用いて、455mm以下の間隔で棧木に留め付けます。
- 軒先端部の仕上げは、けらばキャップ50をリベットでけらば包み50に留め付けるか、留付釘(ステンレススクリー釘長さ32mm以上)で棧木に留め付けます。



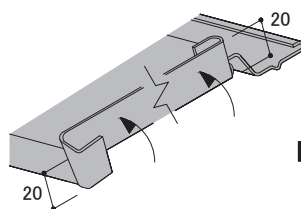
■施工ポイント・本現場加工図

- 横暖ルーフ本体のけらば部分は図のように加工します。

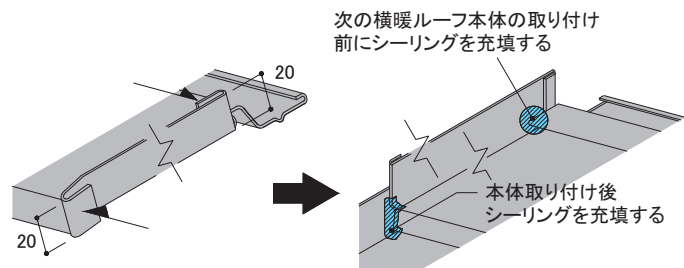


- ①けらば棧木面から図の寸法で切断します。

- ②網掛け部分を切り落とします。



- ③切り込みを入れた部分から垂直に起こします。



- ④Rの部分をつぶします。

- ⑤接合部から雨水の浸入を防ぐためシーリングを充填します。

センターサイディング
標準施工法

センターサイディング
基本納まり図

本体・付属部材
詳細図

付属部材加工図

センターサイディング
木造編

センターサイディング
鉄骨造 金属脚縁編

センターサイディング
鉄骨造 直張り編

センターサイディング
標準施工法

センターサイディング
標準施工法

センターサイディング
納まり詳細図

参考資料

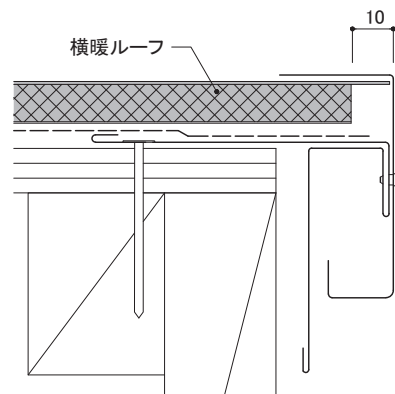
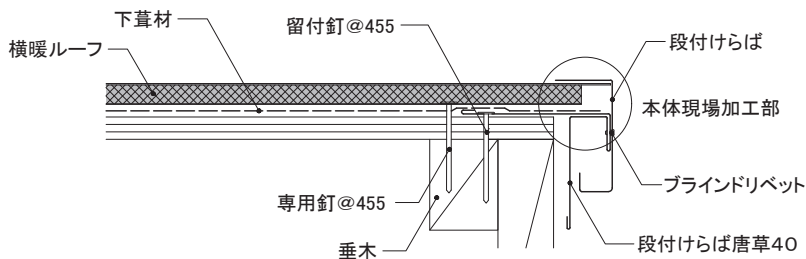
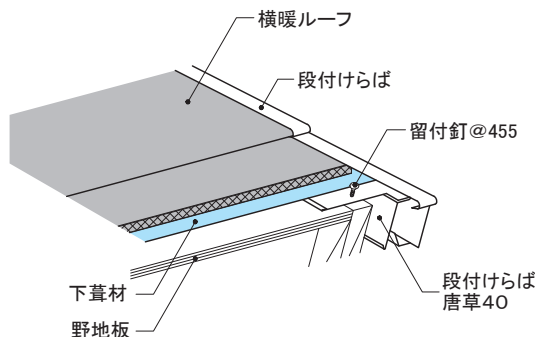
横暖ルーフ

工法	下地	構造
新築	耐水合板	木造

4) けらば部

③ 段付けらば唐草40+段付けらば

- 野地板の上に、段付けらば唐草40を留付釘（ステンレスクリュー釘長さ32mm以上）を用いて、455mm以下の間隔で留め付けます。
- 下葦材を張り、横暖ルーフ本体は専用釘（ステンレスクリュー釘φ2.3mm×50mm）を用いて、455mm以下の間隔で垂木に留め付けます。
- 段付けらばは、けらば小口にかぶせるように取り付けます。その際、軒先から段付けらば軒先を施工し、以降段付けらばを使用して施工します。
- 段付けらば軒先および段付けらばは、側面の穴からブラインドリベットで留め付けます。

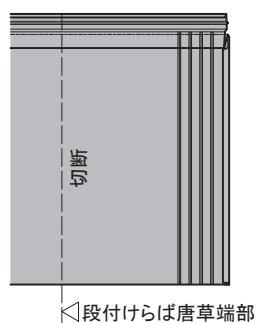


部分断面図

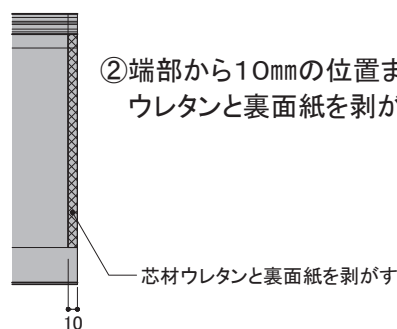
■ 施工ポイント・本現場加工図

- 横暖ルーフ本体のけらば部分は図のように加工します。

① 段付けらば唐草の端部となる位置を切断します。

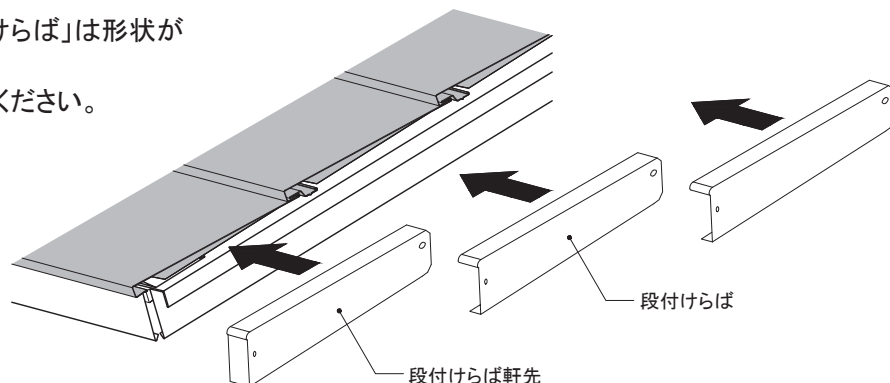


② 端部から10mmの位置まで芯材のウレタンと裏面紙を剥がします。



- 段付けらばは図のように軒先からかぶせるように取り付けます。軒先は必ず小口付きの「段付けらば軒先」を使用します。

※「段付けらば軒先」、「段付けらば」は形状が左右で逆になります。必ずご確認の上、施工してください。



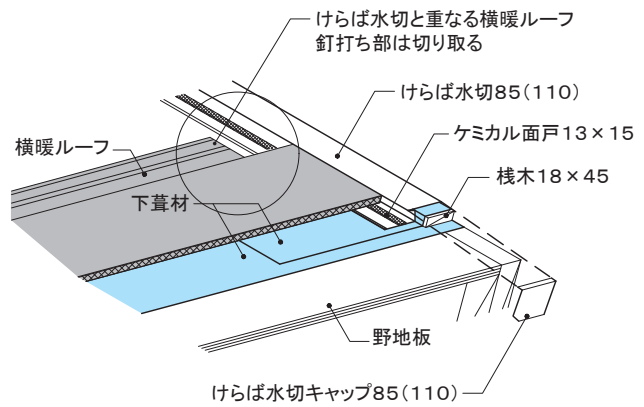
横暖ルーフ

工法	下地	構造
新築	耐水合板	木造

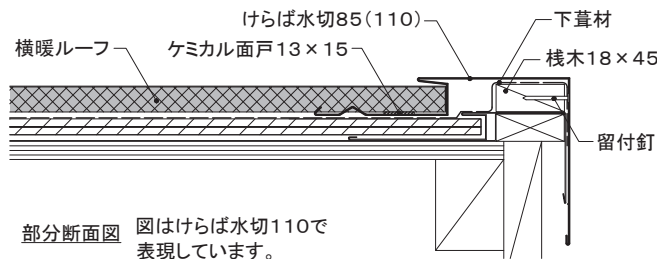
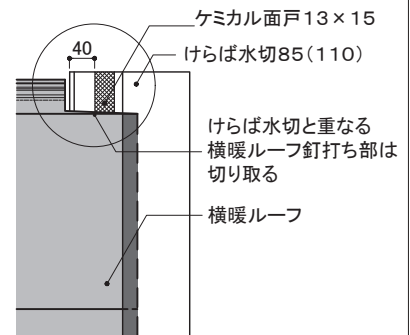
4) けらば部

④ けらば水切85(110)

- けらば部に棧木18×45を取り付け、棧木を包むように下葺材を増し張りします。
- けらば水切85(110)は留付釘(ステンレススクリュー釘長さ32mm以上)を用いて、455mm以下の間隔で棧木に留め付けます。
- けらば水切85(110)にケミカル面戸13×15を貼ります。(下図の○位置参照)
- 横暖ルーフは、けらば水切85(110)と重なる部分の釘打ち部を切り取ります。(図の○部参照)
- 横暖ルーフをけらば水切85(110)に差し込みます。
- 軒先端部は図のように加工して納めます。
- 軒先端部の仕上げは、けらば水切キャップ85(110)をリベットでけらば水切85(110)に留め付けるか、留付釘(ステンレススクリュー釘長さ32mm以上)で棧木に留め付けます。



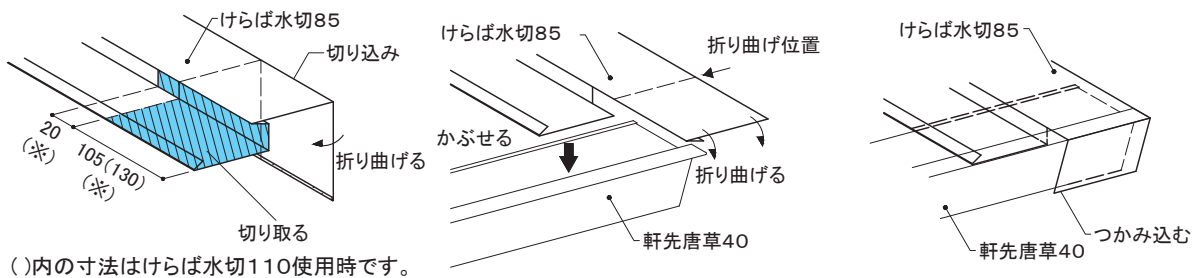
■ケミカル面戸13×15の貼り付け位置



部分断面図 図はけらば水切110で表現しています。

■施工ポイント・現場加工図[けらば水切キャップを使用しない場合]

- 軒先部は、軒先唐草40にけらば水切85(110)をかぶせます。



()内の寸法はけらば水切110使用時です。

- ① けらば水切85(110)は図のように切断します。
※切り取り寸法は目安です。
- ② けらば水切85(110)は軒先唐草40にかぶせ、図のように折り曲げます。横暖ルーフが軒先唐草40に差し込めるように、けらば水切85(110)と軒先唐草40の取り合い部の隙間を調整してください。

●その他の加工例



けらば水切85軒先部の加工例



けらば水切85と軒先唐草の取り合い



写真はイメージです。

センターサイディング
標準施工法

センターサイディング
基本納まり図

本体・付属部材
詳細図

付属部材加工図

木造編
センターサイディング

センターサイディング
鉄骨造 金属脚縁編

センターサイディング
鉄骨造 直張り編

センター化粧葺板
標準施工法

センタールーフ
標準施工法

センタールーフ
納まり詳細図

参考資料

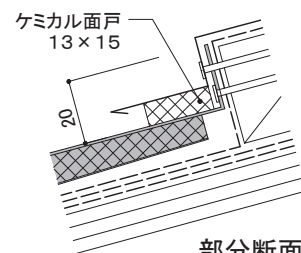
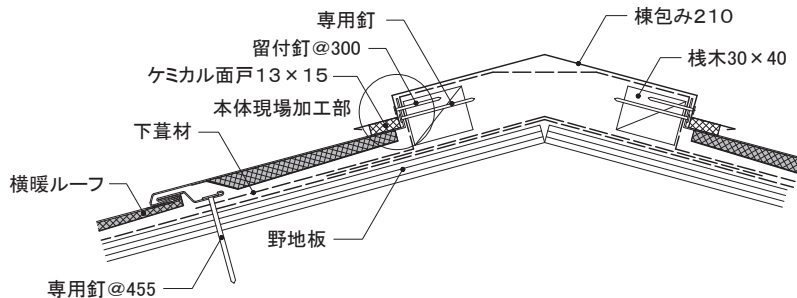
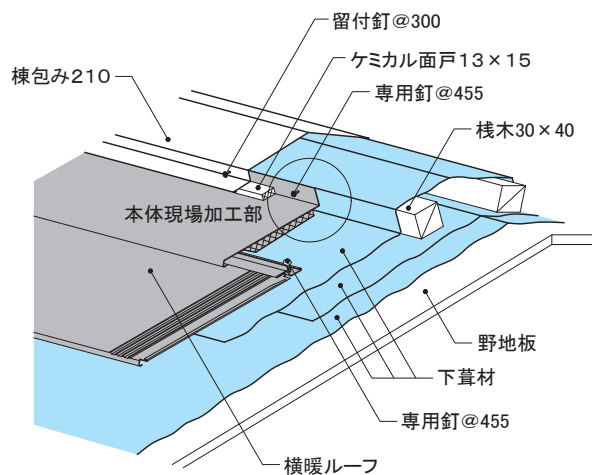
横暖ルーフ

工法	下地	構造
新築	耐水合板	木造

5) 大棟部

① 棟包み210

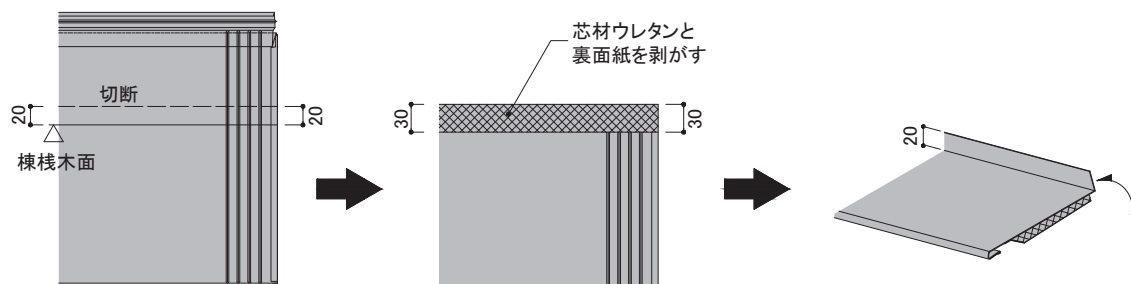
- 棟包み210の適用勾配と棧木位置はP226をご参照ください。
- 野地板の上に下葦材を張ります。
- 棟部に棧木30mm×40mmを外側2ヶ所取り付け、棧木を包むように下葦材を増し張りします。
※棟包み210に乗らないでください。
工具・部材も置かないでください。棟包み210が変形するおそれがあります。
- 棟部を図のように加工した横暖ルーフ本体を棧木に施工し、本体の図の位置にケミカル面戸13×15を貼り付け、棟包み210をかぶせます。棟包み210は、留付釘(ステンレスクリュー釘長さ32mm以上)を用いて、300mm以下の間隔で棧木に留め付けます。
- けらば部は棟包み210Lを用いて納めます。



部分断面図

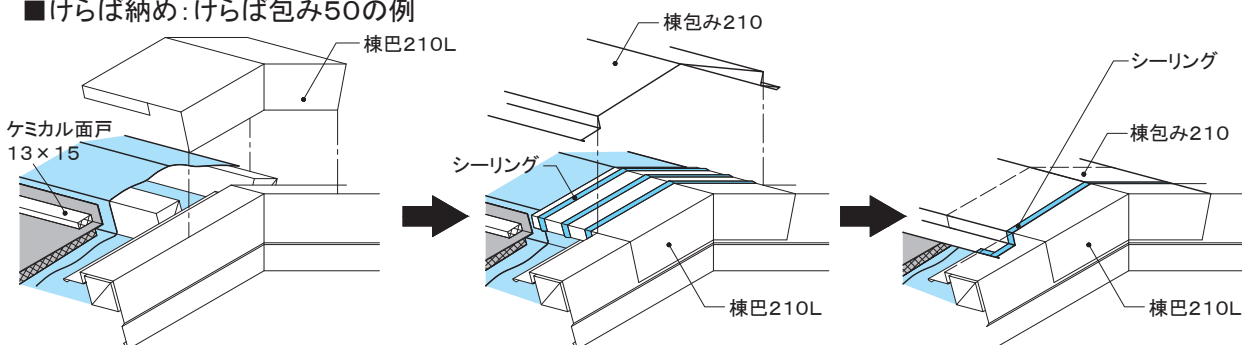
■施工ポイント・本体現場加工図

- 横暖ルーフ本体の大棟部分を図のように加工します。



- ①棟棧木面から図の寸法で切断します。
- ②端部から30mmの位置まで芯材のウレタンと裏面紙を剥がします。
- ③端部から20mmの位置を折り曲げて立ち上げます。

■けらば納め: けらば包み50の例



- ①棟包み210Lは屋根勾配に合わせてけらば包み50と棧木の上にかぶせます。
- ②重ね代部分にシーリングでビードを3本作り棟包み210をかぶせます。
- ③棟包み210、棟包み210L、けらば包み50が交わる部分に捨てシーリングを施工します。

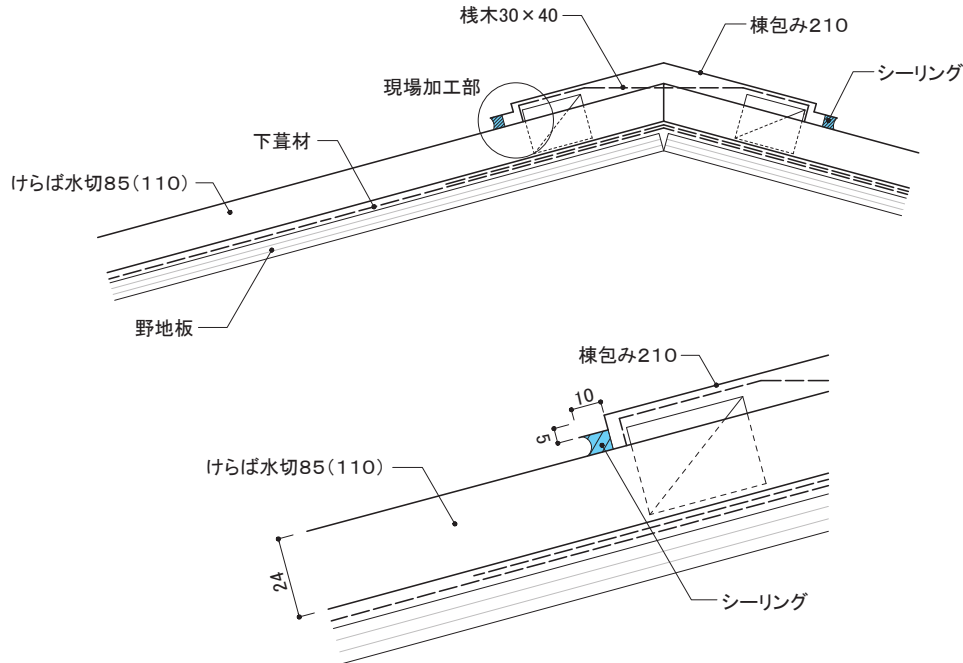
横暖ルーフ

工法	下地	構造
新築	耐水合板	木造

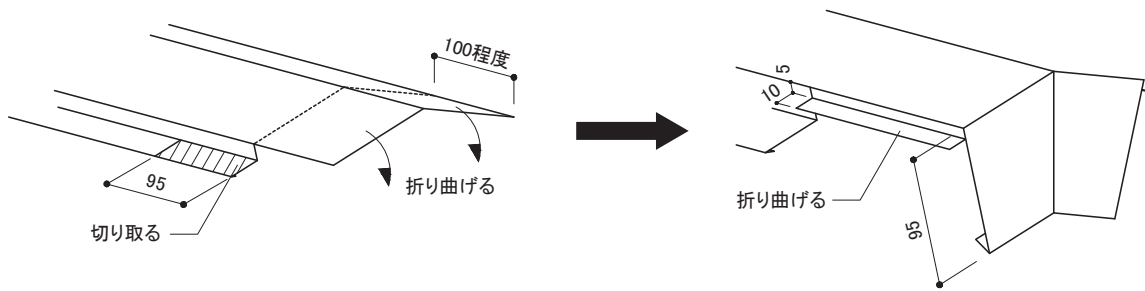
5) 大棟部

② 棟包み210+けらば水切85(110)

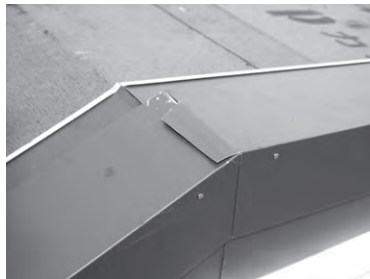
- けらば水切85(110)と棟包み210との取り合いは、棟包み210を加工します。
- 棟包み210の端部は図のように加工します。
- けらば水切85(110)の上に棟包み210をかぶせ、シーリングを施工します。



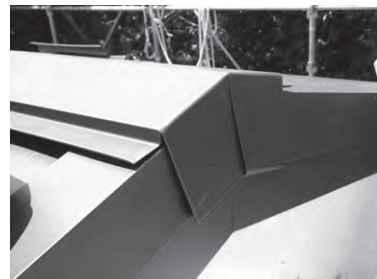
■ 施工ポイント・現場加工図 ＜棟包み210端部の加工＞



① 大棟部のけらば水切85(110)は図のように切断加工します。



② もう一方のけらば水切85(110)は、先行して施工したけらば水切85(110)にかぶせます。



③ 棟包み210を上図のように加工し、けらば水切85(110)にかぶせます。

写真はイメージです。

センターサイディング
標準施工法

センターサイディング
基本納まり図

本体・付属部材
詳細図

付属部材加工図

センターサイディング
木造編

センターサイディング
鉄骨造 金属胴縁編

センターサイディング
鉄骨造 直張り編

センター化粧幕板
標準施工法

センタールーフ
標準施工法

センタールーフ
納まり詳細図

参考資料

横暖ルーフ

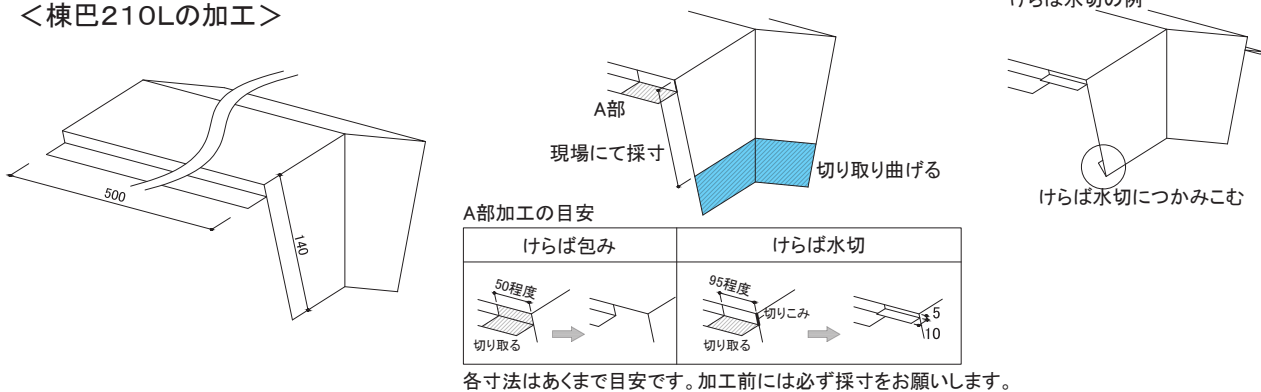
工法	下地	構造
新築	耐水合板	木造

5) 大棟部

③ 棟巴210L

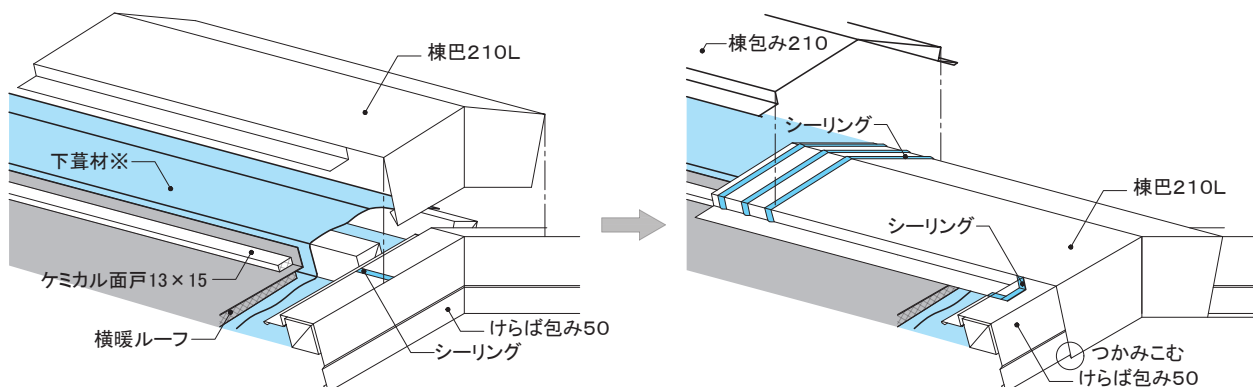
- 棟巴210Lはけらば部材に応じて切り取り折り曲げ加工します。
- けらば部材下端にあわせて、棟巴210端部をつかみこみます。
- 棟巴210Lとけらば部材が交わる部分はシーリングを施工します。

<棟巴210Lの加工>



各寸法はあくまで目安です。加工前には必ず採寸をお願いします。

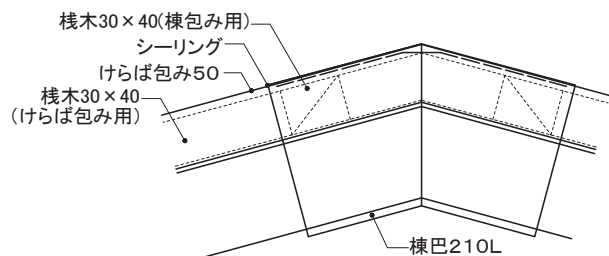
■ 施工手順: けらば包み50の例



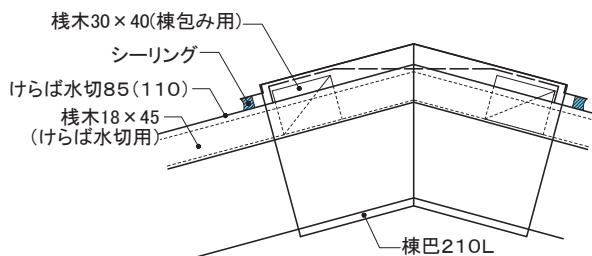
- ① 棟巴210Lは屋根勾配に合わせてけらば包み50と桧木の上にかぶせます。
※図はイメージです。実際は桧木を下葺材で覆ってください。
- ② 棟包み210、棟巴210L、けらば包み50が交わる部分に捨てシーリングを施工します。

■ 側面図: 各けらば部材

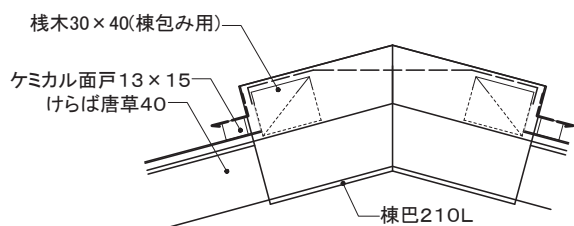
<けらば包み50>



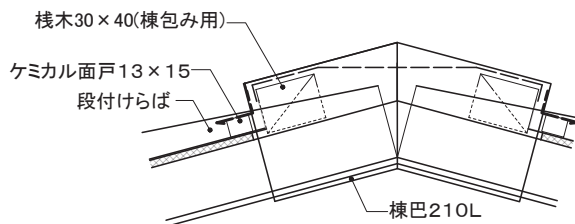
<けらば水切85(110)>



<けらば唐草40>



<段付けらば>



横暖ルーフ

工法	下地	構造
新築	耐水合板	木造

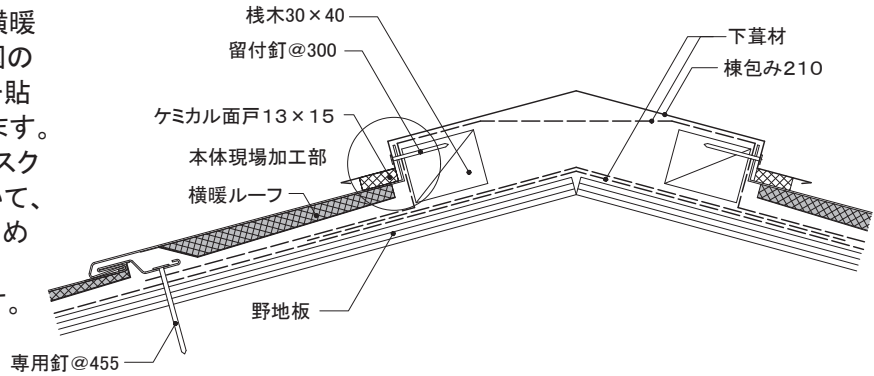
6) 隅棟部

① 棟包み210

- 野地板上に、下葺材を張ります。
- 椀木30×40を外側2ヶ所に取り付け、椀木を包むように下葺材を増し張りします。
- ※棟包み210に乗らないでください。工具・部材も置かないでください。棟包み210が変形するおそれがあります。

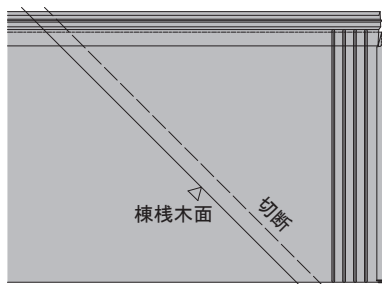
- 隅棟部は図のように加工した横暖ルーフ本体を施工し、本体の図の位置にケミカル面戸13×15を貼り付け、棟包み210をかぶせます。棟包みは、留付釘(ステンレスクリュー釘長さ32mm以上)を用いて、300mm以下の間隔で椀木に留め付けます。

- 剣先は下図のように施工します。

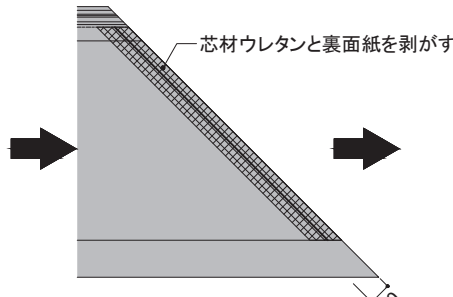


■ 施工ポイント・本現場加工図

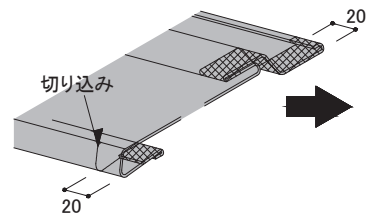
- 横暖ルーフ本体の隅棟部分を図のように加工します。



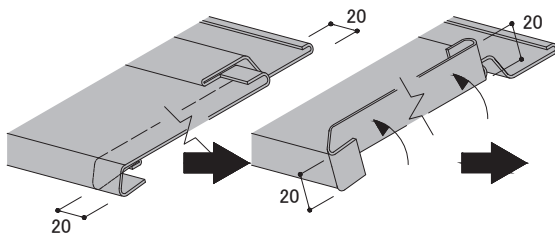
- ① 棟椀木面から図の寸法で切断します。



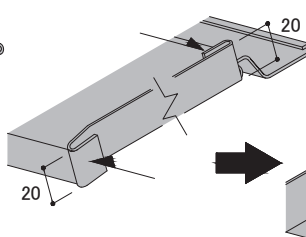
- ② 端部から30mmの位置まで芯材ウレタンと裏面紙を剥がします。



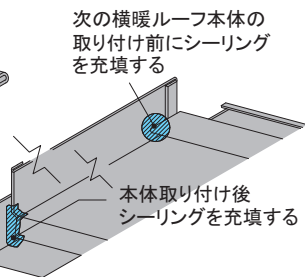
- ③ 網掛け部分を切り落とします。



- ④ 切り込みを入れた部分から垂直に起こします。



- ⑤ Rの部分をつぶします。

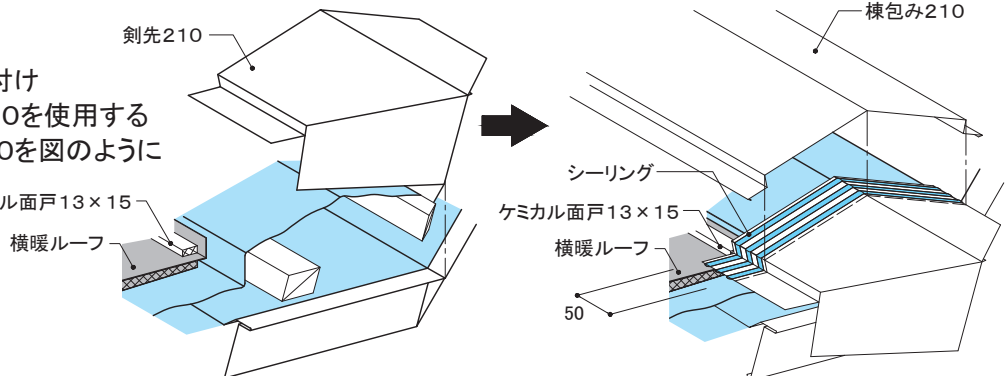


- ⑥ 接合部から雨水の浸入を防ぐためシーリングを充填します。

■ 剣先210の取り付け

- 隅棟に棟包み210を使用する場合は、剣先210を図のように施工します。

ケミカル面戸13×15
横暖ルーフ



センターサイディング
標準施工法

センターサイディング
基本納まり図

本体・付属部材
詳細図

付属部材加工図

センターサイディング
木造編

センターサイディング
鉄骨造 金属脚縁編

センターサイディング
鉄骨造 直張り編

センター化粧葺板
標準施工法

センタールーフ
標準施工法

センタールーフ
納まり詳細図

参考資料

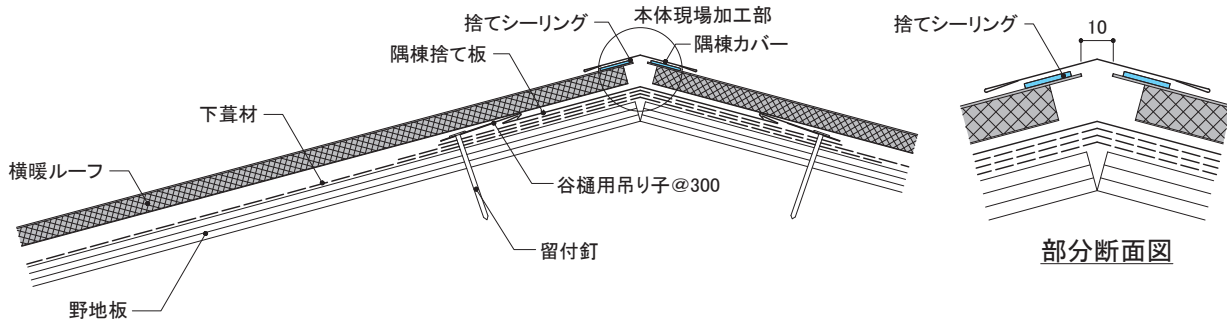
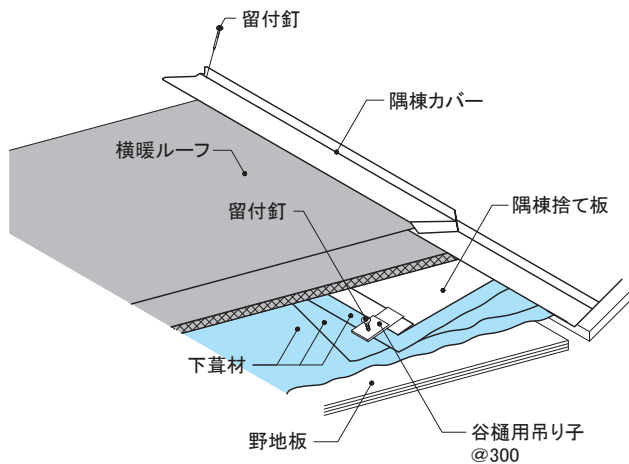
横暖ルーフ

工法	下地	構造
新築	耐水合板	木造

6) 隅棟部

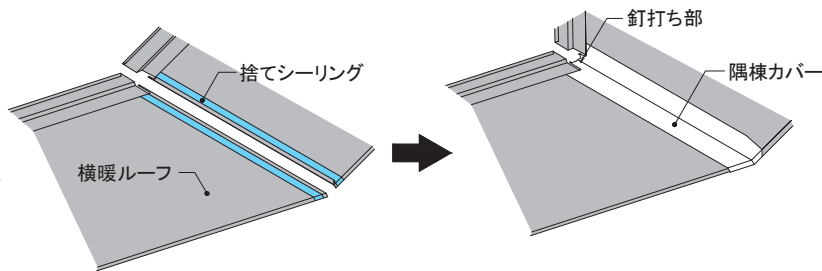
② 隅棟カバー (隅棟カバー急勾配用)

- 野地板の上に、下葦材を張ります。
- 隅棟部には、隅棟捨て板を谷樋用吊り子で取り付けます。吊り子は、留付釘(ステンレススクリュー釘長さ32mm以上)を用いて、300mm以下の間隔で留め付け、図のように加工した横暖ルーフ本体を施工します。本体施工の際は、隅棟捨て板を避けて施工します。
- 横暖ルーフ本体の切断部から約10mm程度の幅で捨てシーリングを施工します。
- 隅棟カバーは横暖ルーフ本体の接合部に差し込み、留付釘(ステンレススクリュー釘長さ32mm以上)で留め付けます。
- 屋根の勾配が2寸5分以上3寸5分未満は隅棟カバーを使用し、3寸5分以上5寸以下は隅棟カバー急勾配用を使用します。



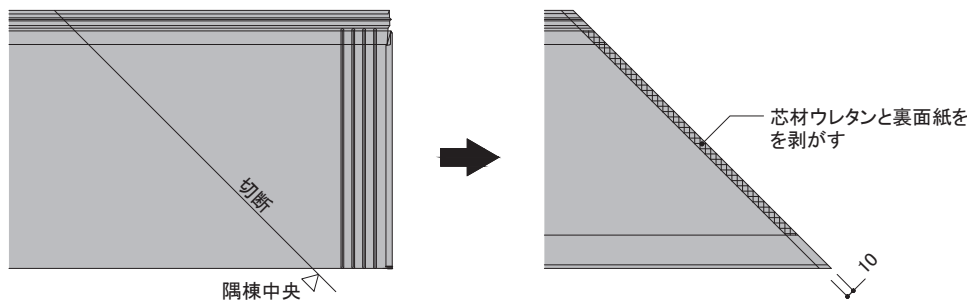
■隅棟カバーの取り付け

- ①本体切断部から10mm程度に捨てシーリングを施工します。
- ②隅棟カバーを取り付け、釘打ち部に留付釘(ステンレススクリュー釘長さ32mm以上)で固定します。



■施工ポイント・本現場加工図

- 横暖ルーフ本体の隅棟部分は図のように加工します。



①隅棟中央の位置で切断します。

②端部から10mmの位置まで芯材ウレタンと裏面紙を剥がします。

横暖ルーフ

工法	下地	構造
新築	耐水合板	木造

センターサイディング
標準施工法

センターサイディング
基本納まり図

本体・付属部材
詳細図

付属部材加工図

センターサイディング
木造編

センターサイディング
鉄骨造 金属胴縁編

センターサイディング
鉄骨造 直張り編

センター化粧石膏板
標準施工法

センタールーフ
標準施工法

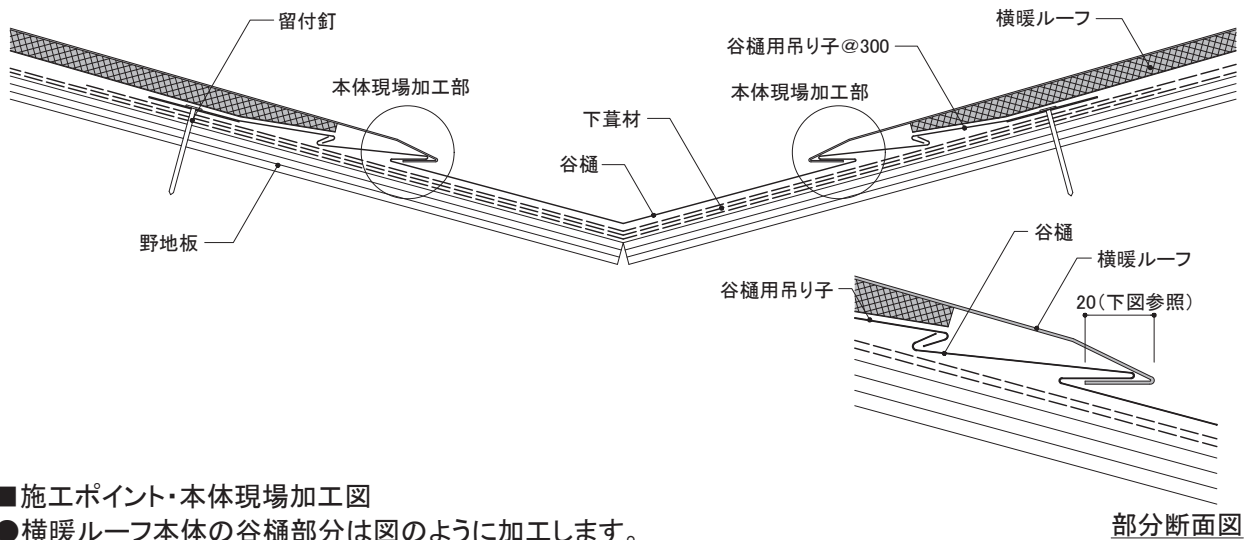
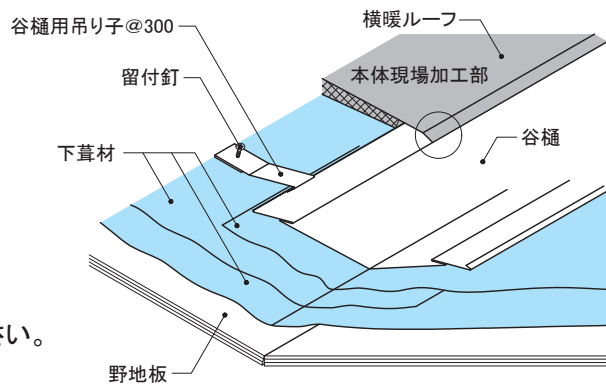
センタールーフ
納まり詳細図

参考資料

7) 谷部

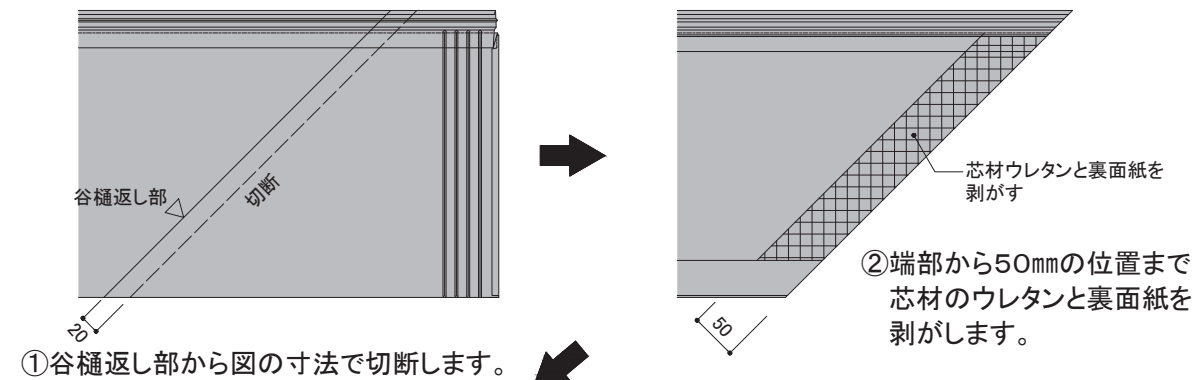
① 谷樋

- 野地板の上に、下葦材を張ります。
- 谷樋は谷樋用吊り子を使用し留め付けます。谷樋用吊り子は300mm以下の間隔で配置し、留付釘(ステンレスクリュー釘長さ32mm以上)を用いて留め付けます。本体施工の際は、谷樋を避けて施工します。
- 谷樋部分は図のように加工した横暖ルーフ本体を谷樋折り返し部分に引っ掛けるようにして施工します。
- 谷樋の接合部についてはP270をご確認ください。

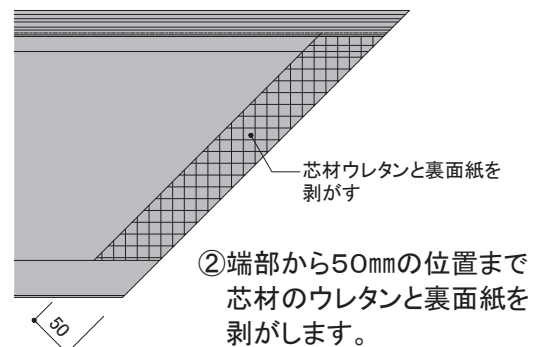


■施工ポイント・本現場加工図

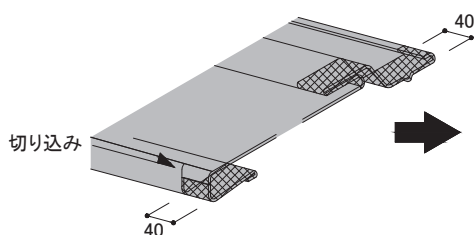
- 横暖ルーフ本体の谷樋部分は図のように加工します。



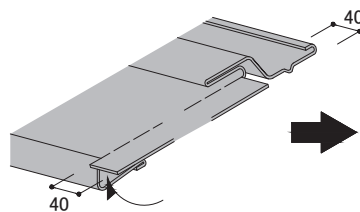
① 谷樋返し部から図の寸法で切断します。



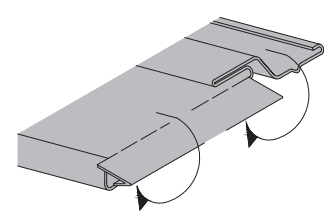
② 端部から50mmの位置まで芯材のウレタンと裏面紙を剥がします。



③ 網掛け部分を切り落とします。



④ 切り込みを入れた部分を水平に起こします。



⑤ 谷樋返し部を巻き込むように折り曲げます。

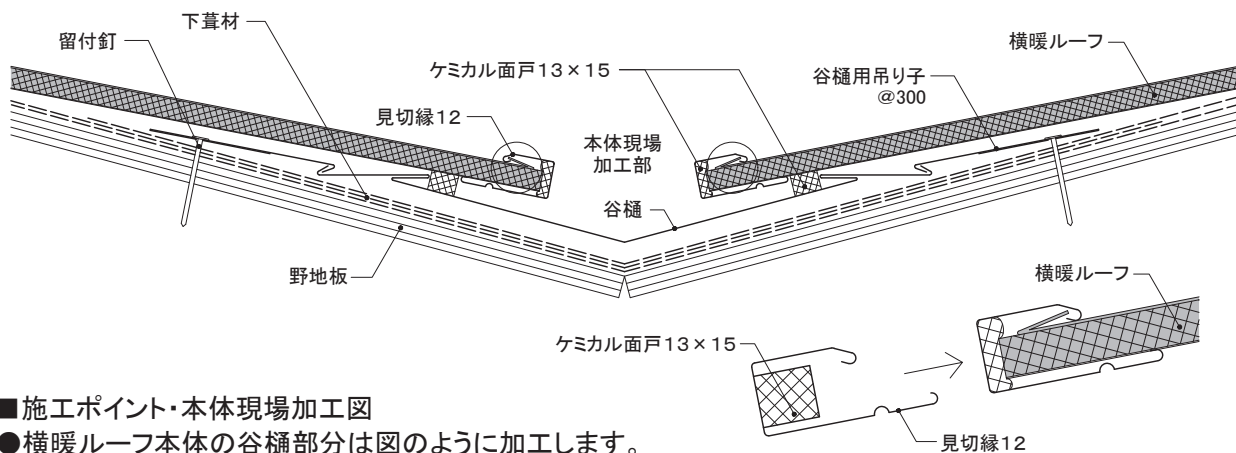
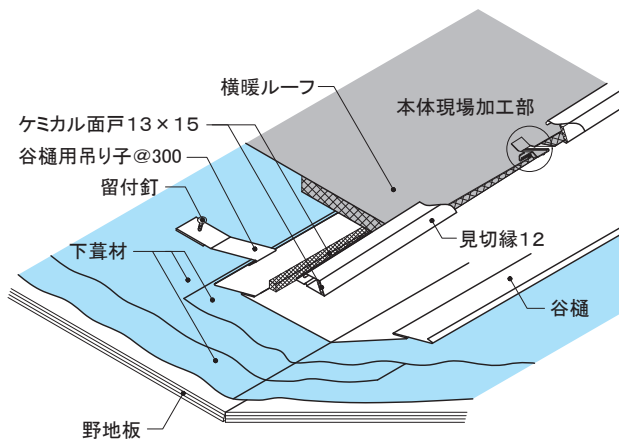
横暖ルーフ

工法	下地	構造
新築	耐水合板	木造

7) 谷部

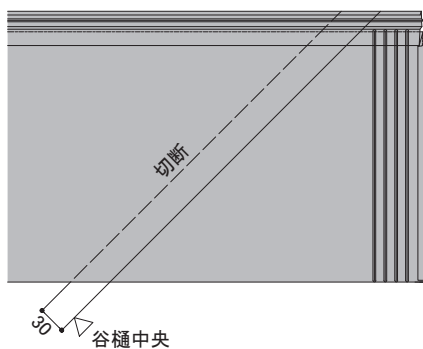
② 谷樋＋見切縁12

- 野地板の上に、下葦材を張ります。
 - 谷樋は谷樋用吊り子を使用し留め付けます。谷樋用吊り子は300mm以下の間隔で配置し、留付釘(ステンレススクリュー釘長さ32mm以上)を用いて留め付けます。
 - 谷樋部分の横暖ルーフは下図のように折り返し加工します。見切縁12と谷樋にケミカル面戸13×15を貼り付けます。横暖ルーフ本体の折り返し加工部と見切縁12のハゼとが引っ掛かるまで押し付けます。
 - 挿着後、見切縁12を引っ張り、外れないことを確認してください。
 - 本体施工の際は、谷樋を避けて施工します。
- ※積雪のある地域では使用できません。

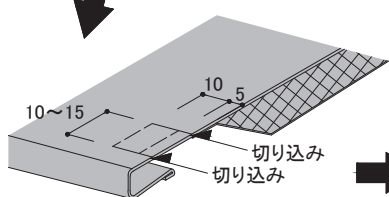


■施工ポイント・本体現場加工部

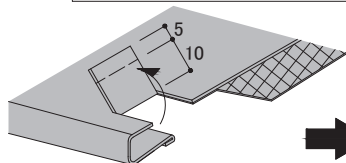
- 横暖ルーフ本体の谷樋部分は図のように加工します。



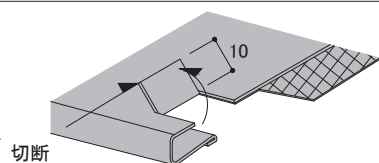
- ①横暖ルーフ本体を谷樋中央部から30mmの位置で切断します。



- ②図の位置2ヶ所に切り込みを入れます。



- ③切り込みを入れた部分を起こします。



- ④端部から5mmの位置を切断します。

■谷樋 接合部

- 重ね代にシーリングで3本のビードを作り、上部谷樋を差し込みます。
- 接合後小口にシーリングを施工します。



※谷樋は図の寸法のように流れの上下で小口の大きさが異なります。水上側に目印がありますので、接合時に注意して施工してください。

部分断面図

横暖ルーフ

工法
新築

下地
耐水合板

構造
木造

センターサイディング
標準施工法

センターサイディング
基本納まり図

本体・付属部材
詳細図

付属部材加工図

センターサイディング
木造編

センターサイディング
鉄骨造 金属胴縁編

センターサイディング
鉄骨造 直張り編

センター化粧石膏板
標準施工法

センタールーフ
標準施工法

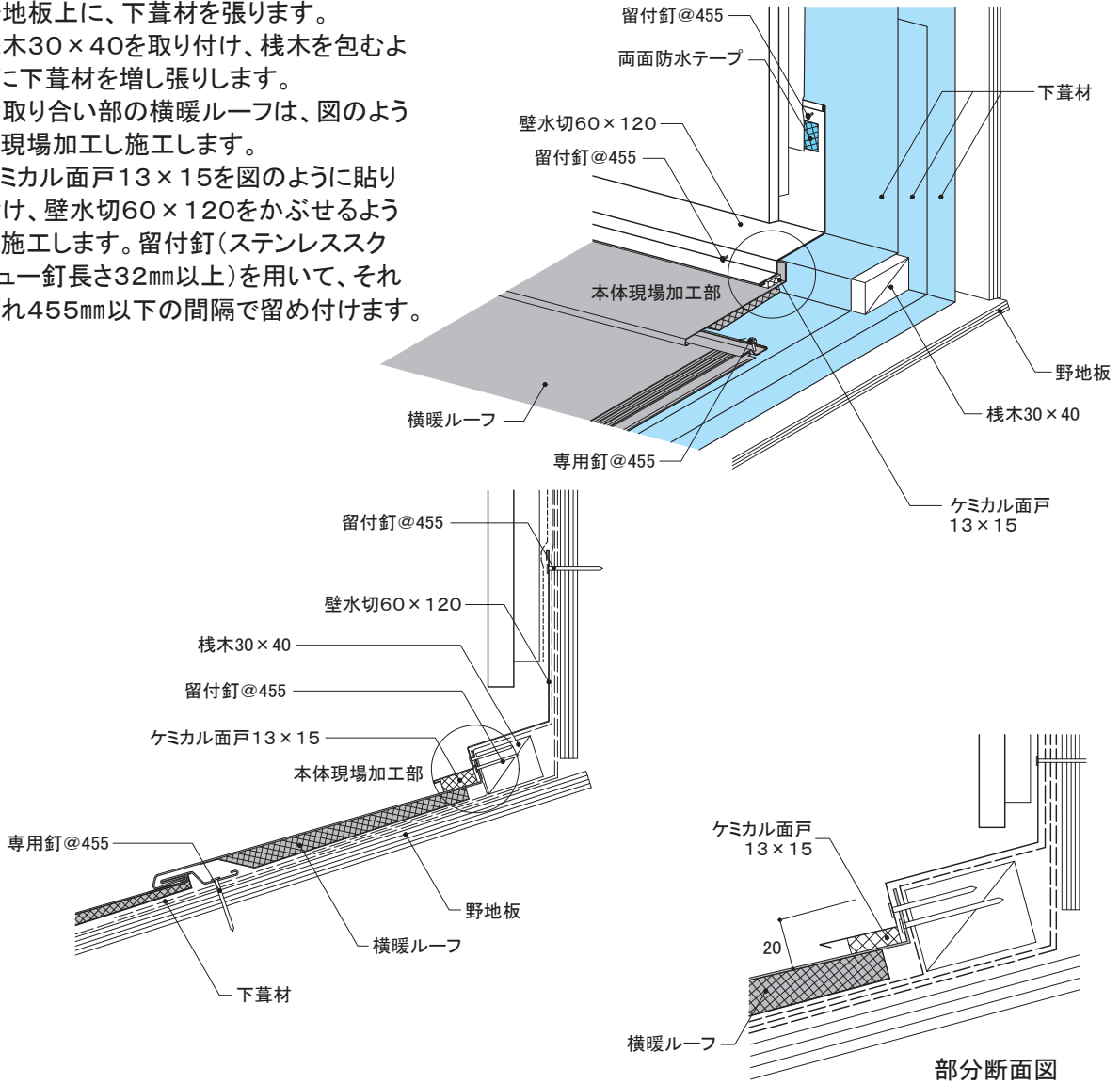
センタールーフ
納まり詳細図

参考資料

8) 下屋根部

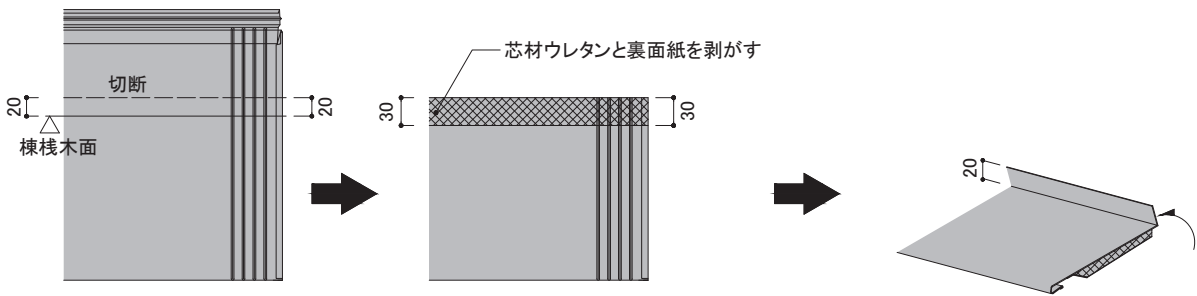
①棟側 壁水切60×120

- 野地板上に、下葺材を張ります。
- 桧木30×40を取り付け、桧木を包むように下葺材を増し張りします。
- 壁取り合い部の横暖ルーフは、図のように現場加工し施工します。
- ケミカル面戸13×15を図のように貼り付け、壁水切60×120をかぶせるように施工します。留付釘(ステンレスクリュー釘長さ32mm以上)を用いて、それぞれ455mm以下の間隔で留め付けます。



■施工ポイント・本体現場加工図

- 横暖ルーフ本体の壁付部分は図のように加工します。



①棟桧木面から
図の寸法で切断します。

②端部から30mmの位置まで芯材ウレタンと裏面紙を剥がします。

③端部から20mmの位置を
折り曲げて立ち上げます。

横暖ルーフ

工法

新築

下地

耐水合板

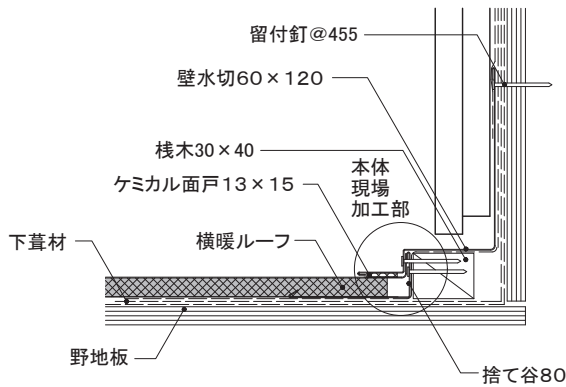
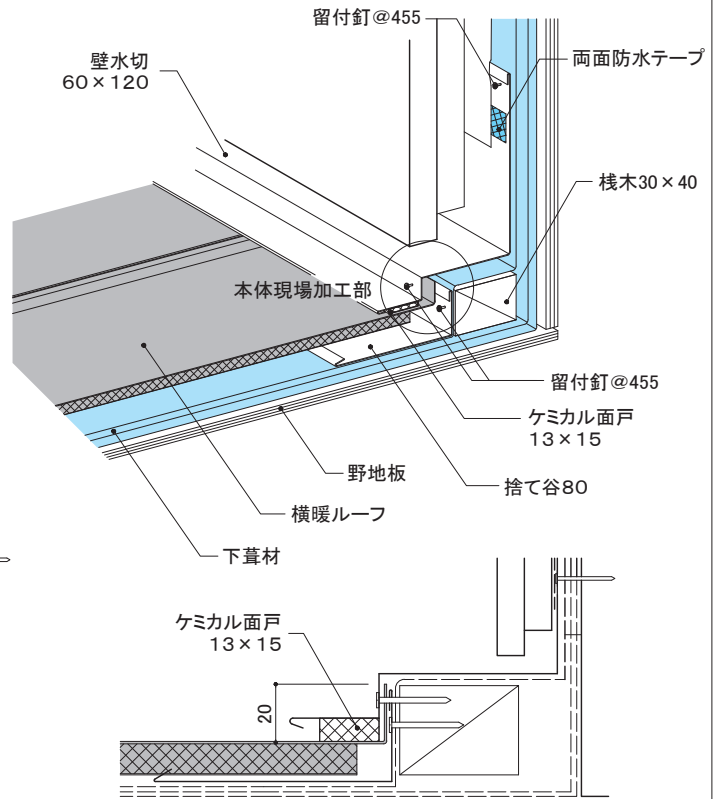
構造

木造

8) 下屋根部

②流れ側 壁水切60×120+捨て谷80

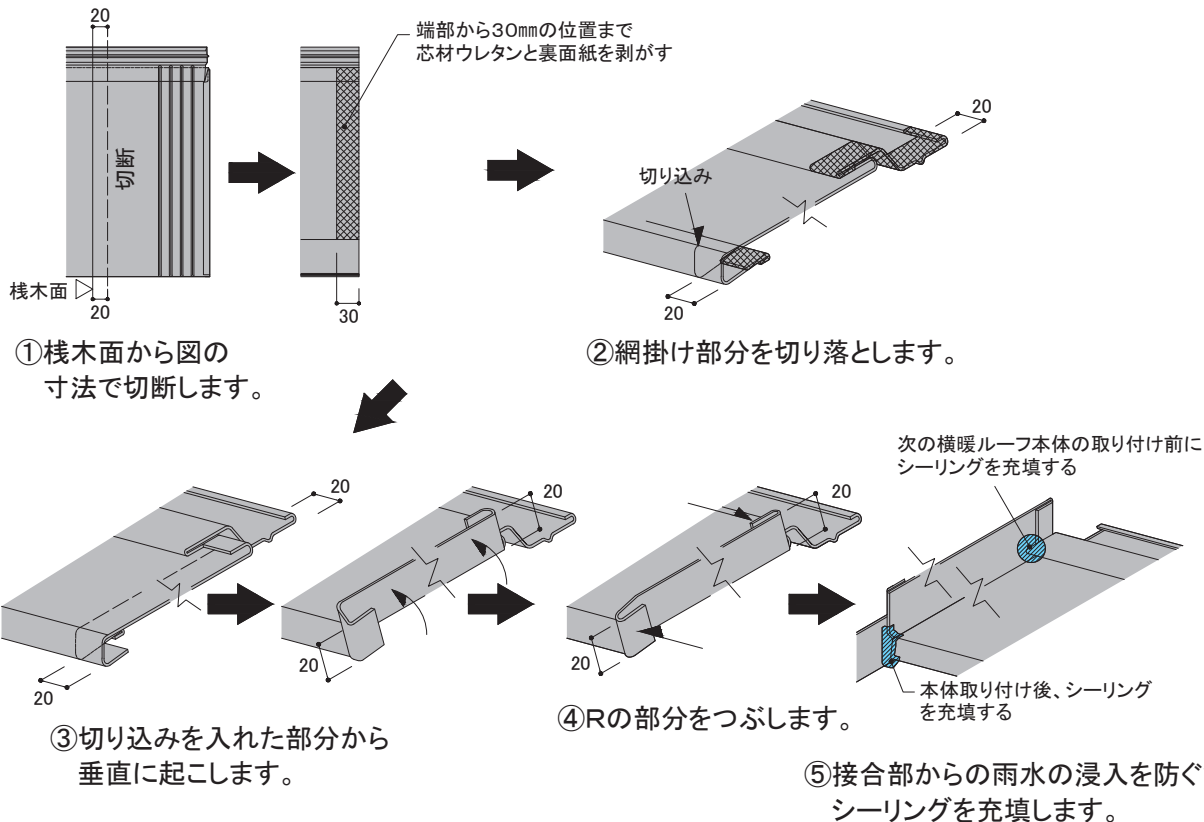
- 野地板上に、下葦材を張ります。
- 桟木30×40を取り付け、桟木を包むように下葦材を増し張りします。
- 捨て谷80は留付釘(ステンレスクリュー釘長さ32mm以上)を、455mm以下の間隔で桟木に留め付け、図のように加工した横暖ルーフ本体を施工します。
- ケミカル面戸13×15を横暖ルーフ本体に図のように貼り付け、壁水切60×120をかぶせるように施工します。図のように留付釘(ステンレスクリュー釘長さ32mm以上)を用いて、455mm以下の間隔で留め付けます。



部分断面図

■施工ポイント・本体现場加工図

- 横暖ルーフ本体の壁付部分は図のように加工します。



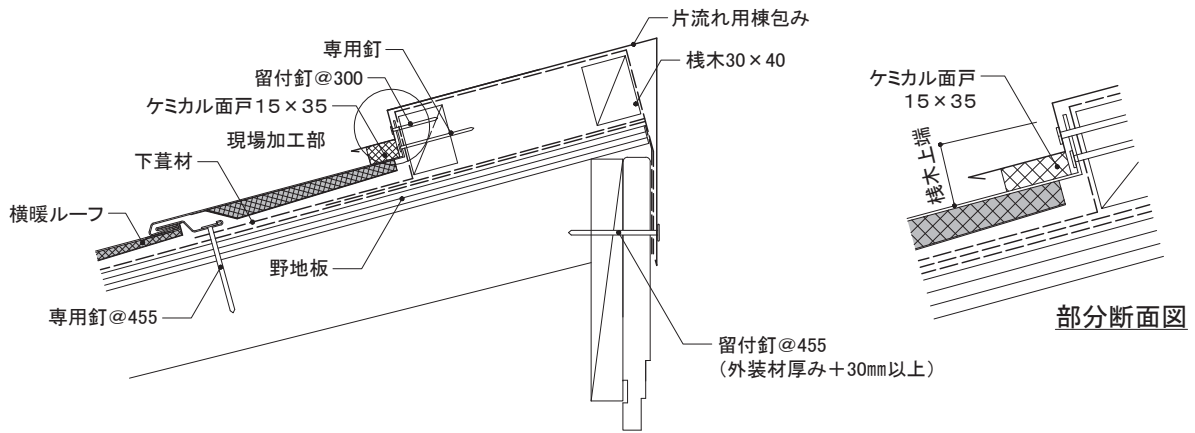
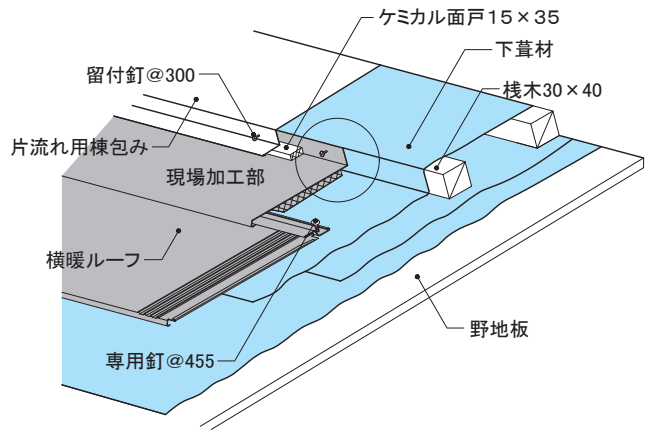
横暖ルーフ

工法	下地	構造
新築	耐水合板	木造

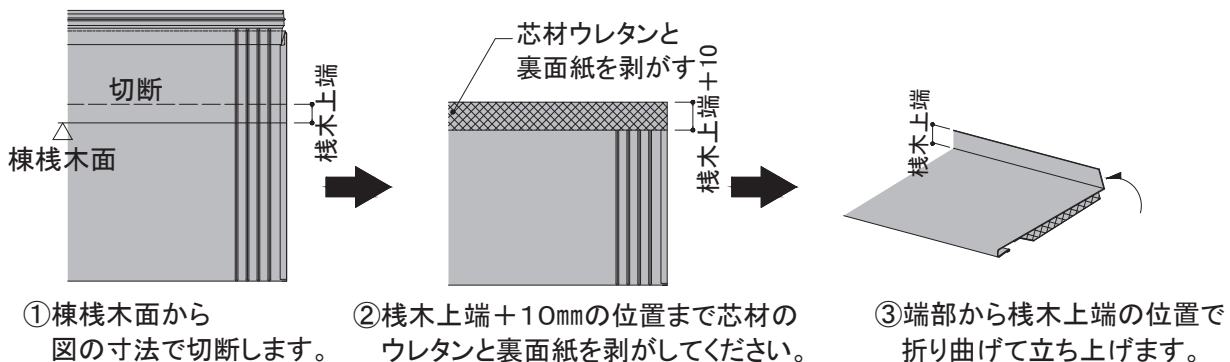
9) 片棟部

片流れ用棟包み

- 片流れ用棟包みの適用勾配と棧木位置はP231をご参照ください。
- 野地板の上に下葦材を張ってください。
- 棟部に棧木30mm×40mmを2ヶ所取り付け、棧木を包むように下葦材を増し張りします。※片流れ用棟包みに乗らないでください。工具・部材も置かないでください。片流れ用棟包みに変形するおそれがあります。
- 棟部を図のように加工した横暖ルーフ本体を棧木に施工し、本体の図の位置にケミカル面戸15×35を貼り付け、片流れ用棟包みをかぶせてください。片流れ用棟包みは、留付釘(ステンレススクリュー釘長さ32mm以上)を、300mm以下の間隔で棧木に留め付けてください。※横暖ルーフα用のケミカル面戸15×35を使用します。
- 外壁面側は化粧破風あるいはサイディングの上から、留付釘(ステンレススクリュー釘・外装材厚み+30mm以上)で455mm以下の間隔で必ず下地に留め付けます。
- けらば部は片流れ用棟包みを加工して納めます。



- 施工ポイント・現場加工図
- 横暖ルーフ本体の大棟部分は図のように加工してください。



センターサイディング
標準施工法

センターサイディング
基本納まり図

本体・付属部材
詳細図

付属部材加工図

センターサイディング
木造編

センターサイディング
鉄骨造 金属屋根編

センターサイディング
鉄骨造 直張り編

センター化粧幕板
標準施工法

センタールーフ
標準施工法

センタールーフ
納まり詳細図

参考資料

11 参考資料

11- 1	施工を始める前に
11- 2	工事記録のまとめ方
11- 3	「建築基準法」の防耐火性能に関わる規定
11- 4	「住宅の品質確保の促進等に関する法律」の概要
11- 5	「特定住宅瑕疵担保責任の履行の確保等に関する法律」の概要
11- 6	センターサイディングの補修方法

11 参考資料

11-1 施工を始める前に

1) 事前現場調査の重要性

外壁工事を手際よくスムーズに進め、不具合の発生を防ぐためには事前の現場調査は大変重要です。また、住宅品質確保法などによる迅速な紛争処理のための瑕疵責任の考え方として、前工事の欠陥を見過ごした場合は、後工事の請負業者に責任があるという判断を示された例があります。

① 事前調査の目的

- センターサイディングや資材のロスを低減させる。
- 作業員の作業能率を十分に引き出すように段取りする。
- 指定部材や必要な関連部材、関連作業を確認し作業手順を整える。
- 標準施工マニュアルで細部の納まりを確認する。
- 資材仮置き場や現場加工スペースを確保する。
- 躯体の状況と前工事の仕上がり状況を確認し、不備があれば指摘する。補修部分の修正が完了するまで工事の開始を調整する。

以上のように、事前調査は大変重要で責任を問われる事項もあります。また、工事の利益を左右する大切な要素を含んでいます。

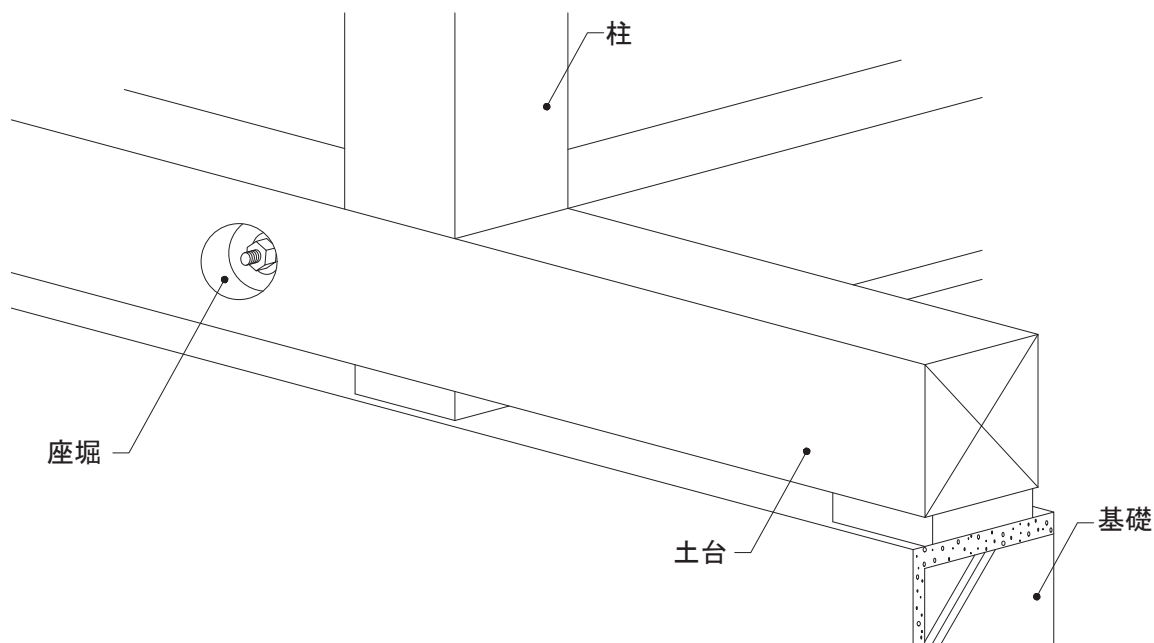
② 事前チェックリストなどの活用

「事前チェックリスト(例)」(P277)などの書類を活用することによって、比較的手際よく事前調査を行うことができますので、参考にしてください。

実際の工事現場は前工事の施工中であったり資材の出し入れがあつたりと、落ち着いてチェックしにくいのが一般的です。このようなチェックリストを用意しておくことで、確認忘れを防止し、必要な事前準備を確実に行うことができます。

2) 躯体の状況確認

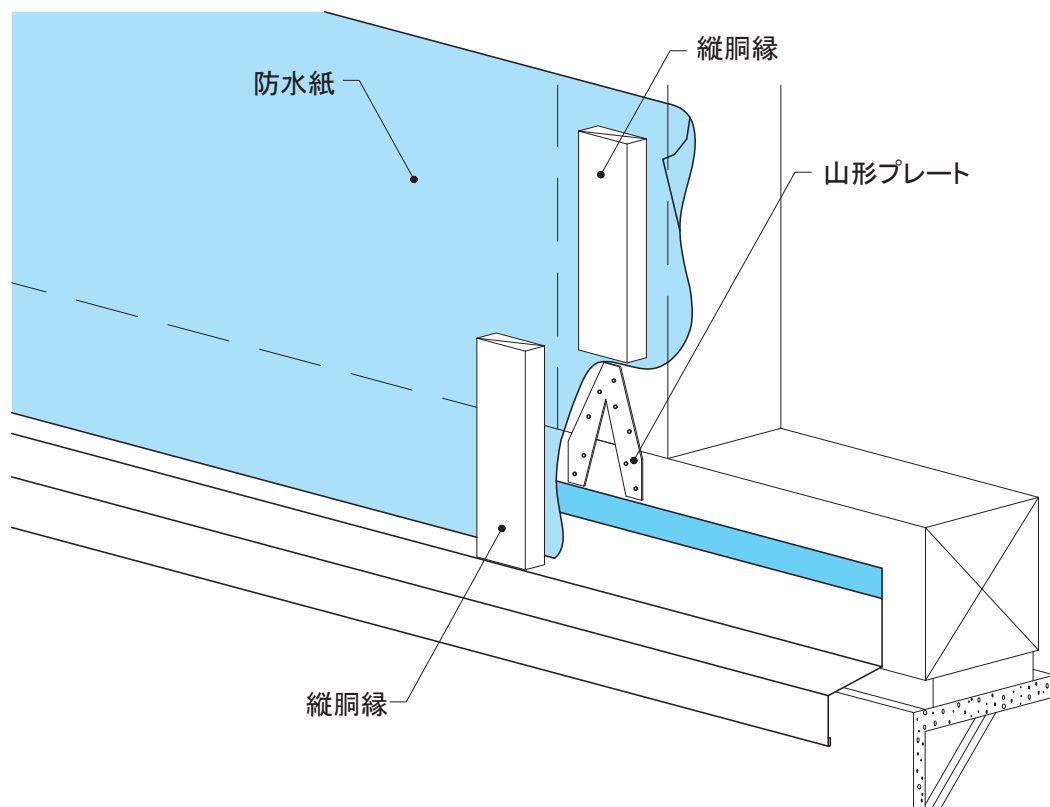
- 土台・柱・間柱・梁などは、不陸がないか確認してください。また、緊結金物類で特にボルトなどは躯体から飛び出していないか確認してください。



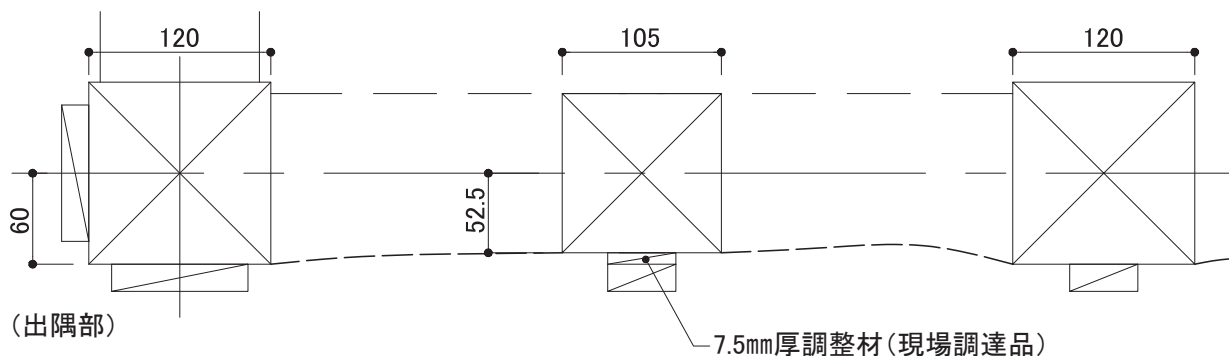
11 参考資料

11-1 施工を始める前に

- プレート類の緊結金物は厚みがあり、その上から胴縁を組むことができません。左右にずらして、必ず胴縁下地組みを行ってください。また、割り付けを事前に確認し、極力センターサイディング本体どうしの左右接合部がこないようにしてください。万一、センターサイディング本体どうしの左右接合部と山形プレートが干渉する場合は、スペーサーなどで調整してください。
※プレート類：山形プレート・筋かいプレート・CPT金物・帯鉄金物（枠組壁工法）など



- 図のように120mm角の柱と105mm角の柱、間柱が混在する芯あわせの場合は、105mm角柱に7.5mm厚程度の調整材（現場調達品）を入れて、胴縁下地組みの調整を行ってください。



- ※上図以外の内寸あわせの場合、出隅部で通気層の厚みが異なりますので、施工方法については最寄りの弊社営業所にお問い合わせください。

11 参考資料

11-1 施工を始める前に

3) センターサイディング 事前チェックリスト

事前チェックリスト(例)

No.

工事名		確認日	年 月 日/記入者
現場住所		元請会社	tel
躯体の構造	木造(軸組工法、枠組壁工法)・鉄骨造・その他	外壁施工店	tel
施工面積	延床面積 m ² 、外壁施工面積 m ²	工事責任者	/現場担当者
チェック項目	チェック内容		チェック欄
工事車輛駐車場確保	工事車輛をとめておくスペースはあるか		
指定材料の納品 (現場納入の確認)	防水紙	数量	
	胴縁材(45幅) 材種	数量	
	胴縁材(90幅) 材種	数量	
	センターサイディング(A柄)	数量	
	センターサイディング(B柄)	数量	
	先付け付属部材()	数量	
	先付け付属部材()	数量	
	後付け付属部材()	数量	
	後付け付属部材()	数量	
	ハットジョイナー	数量	
	シーリング	数量	
補修塗料	数量		
施工箇所の確認	横張りか縦張りか、部分張りの位置などを確認したか		
標準施工資料の確認	標準施工マニュアル類は現場に配備してあるか		
資材仮置き場の確認	資材の仮置き場が確保できるか		
現場加工場の確認	加工スペースが確保できるか		
躯体の状況	外壁下地となる場所に不陸はないか		
	外壁下地の一部に不陸があり胴縁組みで調整が必要か		
	外壁下地の一部に不陸があり補修が必要か		
	入隅部の胴縁を留め付ける追加下地(間柱など)はあるか		
	積雪の高さまでの補助胴縁の追加下地(間柱など)はあるか		
	サッシは外付け型または半外付け型を使用しているか		
防水紙の施工 (大工工事の場合も含む)	指定の防水紙を使用しているか		
	防水紙は横張りになっているか		
	土台水切・中間水切との取り合いは正しいか		
	左右の重なりは面材なしの場合: 柱・間柱間、面材ありの場合: 150mm以上か		
	上下の重なりは90mm以上か		
	入隅部は重ね張りになっているか		
	バルコニー笠木部分は重ね張りになっているか		
防水紙のやぶれやたるみはないか			
防水テープの確認 (大工工事の場合も含む)	開口部周囲には防水テープを貼っているか		
	バルコニー笠木入隅部に防水措置を取っているか		
	配管・換気口まわりに防水措置を取っているか		

※この例のような事前チェックリストを用意して、現場確認の際にご活用ください。

センターサイディング
標準施工法

センターサイディング
基本納まり図

本体・付属部材
詳細図

付属部材加工図

センターサイディング
木造編

センターサイディング
鉄骨造 金属胴縁編

センターサイディング
鉄骨造 直張り編

センターサイディング
標準施工法
化粧板

センターサイディング
標準施工法

センターサイディング
納まり詳細図

参考資料

11 参考資料

11-2 工事記録のまとめ方

工事管理を実施する上で重要なポイントは、設計図書や元請会社様からの指示書および外壁材メーカーの標準施工に基づいた施工を行ったという証拠、すなわち工事記録(工事履歴)を作成することです。さらに、その記録は第三者が客観的に理解できるように記録されている必要があります。したがって、工事記録を作成する際に、重要なポイントは写真撮影をしておくことが効果的です。住宅が完成した時点で、性能評価書関連の書類とともに各工事の工事記録が揃うことによって性能の裏付けとなる施工面の品質が明確になり、引き渡し後のメンテナンスや中古住宅取引の際にも重要な資料となります。

1) 工事写真

写真には工事名、撮影部位、撮影日、撮影者などを明記したサインボードを入れ、必要に応じてメジャーなどで寸法がわかるように工夫する必要があります。

写真撮影で重要なポイントは施工精度の確認とメンテナンス時の納まりのチェックです。撮影箇所は元請会社様のご指示に従うほか、以下の例を参考にして必要箇所を撮影してください。同じ様な納まりが数ヶ所ある場合には代表例を撮影し、他は同じ納まりであることを明記して、記録書に元請会社様のご確認印をいただくことが大切です。

サインボード(例)

〇〇邸外壁工事	
撮影箇所	
撮影日	/
撮影者	
備考	

工事写真として撮影するポイント(例)

- 使用材料、役物、付属部品など
 - 施工前の施工箇所の状態
 - 防水紙張りとは防水テープ貼りに関する部分
開口部まわり／水切役物との取り合い部／出隅／入隅／配管・換気口周囲／バルコニー
笠木取り合い部・床防水との取り合い部など
 - 胴縁下地組みに関する部分
胴縁の厚み・幅寸法／接合部・開口部の倍幅部分／通気のための開口部まわり・軒天部
・下屋根部・オーバーハング部の横胴縁／入隅の追加下地／積雪地の補強胴縁など
 - センターサイディングの釘打ち部分とその施工中
 - シーリング目地の充填前
 - シーリングの充填作業状況、ヘラ押さえ作業状況
- など

2) 工事記録のまとめ方

工事記録は工事写真の他に「外壁工事記録 兼 保証書発行申請書」などを活用し、まとめることが大切です。この工事記録書に各チェックリストおよび工事記録写真類を添付してください。工事記録書には作成者の捺印のほか、元請会社様が工事の完了を確認したことの証明書を兼ねていますので、必ず確認印をいただくことが非常に大切です。

3) 工事記録書の保管・提出

工事記録書は元請会社様に提出するほか、外壁工事店様でも整理して保管してください。

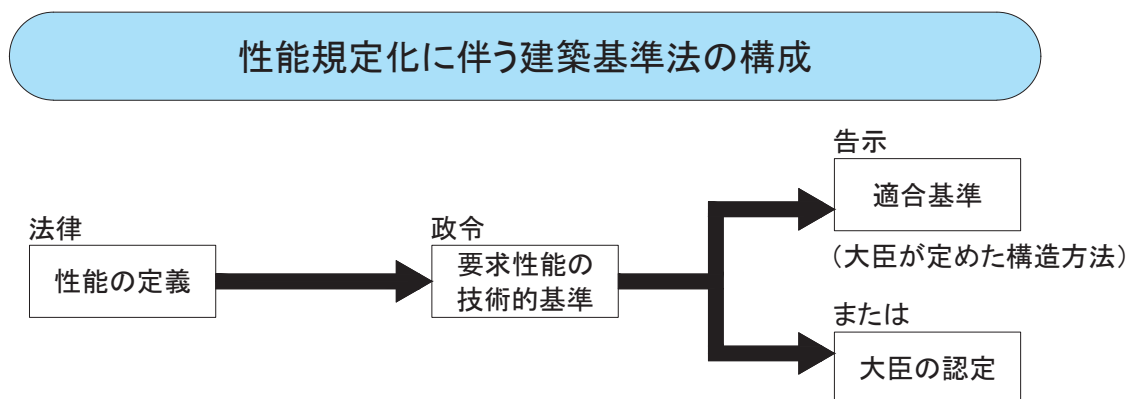
11 参考資料

11-3 「建築基準法」の防耐火性能に関わる規定

1) 建築基準法の目的

建築基準法では、建築物の敷地、構造、設備および用途に関する最低の基準を定めて、国民の生命、健康および財産の保護を図り、もって公共の福祉の増進に資することを目的としています。

2) 建築基準法の構成



建築基準法は大別すると、「仕様規定」と「性能規定」の2つに分けることができます。

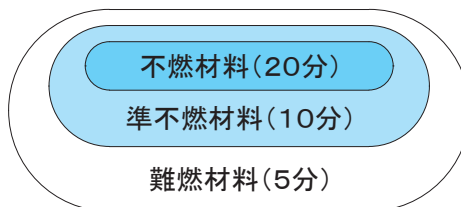
3) 防耐火に関する基準

■ 耐火構造区分

構造の種類	部分	火災の種類	時間	要件
耐火構造	耐力壁、柱、床、はり、屋根、階段	通常	1時間～3時間(30分)	非損傷性
	壁、床	通常	1時間(30分)	遮熱性
	外壁、屋根	屋内の通常	1時間(30分)	遮炎性
準耐火構造	耐力壁、柱、床、はり、屋根、階段	通常	45分(30分)	非損傷性
	壁、床、軒裏	通常	45分(30分)	遮熱性
	外壁、屋根	屋内の通常	45分(30分)	遮炎性
準耐火構造	耐力壁、柱、床、はり	通常	1時間	非損傷性
	壁、床、軒裏(延焼部分)	通常	1時間	遮熱性
	外壁	屋内の通常	1時間	遮炎性
防火構造	外壁(耐力壁)	周囲の通常	30分	非損傷性
	外壁、軒裏	周囲の通常	30分	遮熱性
準防火構造	外壁(耐力壁)	周囲の通常	20分	非損傷性
	外壁	周囲の通常	20分	遮熱性
屋根の構造	屋根	屋内の通常	20分	遮炎性
床(天井)の構造	床、直下の天井	屋内の通常	30分	非損傷性 遮熱性
ひさし等の構造	ひさし等	通常	20分	遮炎性

非損傷性：構造耐力上支障のある損傷を生じないこと
 遮熱性：加熱面以外の面の温度が当該面に接する可燃物の延焼のおそれのある温度以上に上昇しないこと
 遮炎性：屋外に火炎を出すおそれのある損傷を生じないこと

■ 防火材料区分



※()内数値は不燃性能テストに耐える時間を示しています。材料区分は包含的な関係にあります。例えば、「準不燃材料で…」と表記された場合、上位の不燃材料は使用が可能であることを示しています。

11 参考資料(関連法規)

11-3 「建築基準法」の防耐火性能に関わる規定

4) 建築用途と防耐火基準(▼)

●防耐火基準は、建築物の用途・地域・階数・面積などにより、基準が異なります。

用途	地域	階数	面積					
			S ≤ 100	100 < S ≤ 500	500 < S ≤ 1000	1000 < S ≤ 1500	1500 < S ≤ 3000	3000 < S
共同住宅	防火地域 (法61条)	3階建以上						
		1・2階建	— 外壁・軒裏: 45分準耐火構造※1 屋根: 30分準耐火構造※4					
	準防火地域 (法61条)	4階建以上						
		3階建	外壁・軒裏: 1時間準耐火構造 屋根: 30分準耐火構造※4 *各種条件をみたさないものは耐火構造となります			外壁: 耐火構造 屋根: 30分耐火構造		
		1・2階建	外壁・軒裏: 防火構造 屋根: 不燃同等※3			外壁・軒裏: 45分準耐火構造 (2階の用途が300㎡以上)※1 屋根: 30分準耐火構造※4		
	法22条 区域	4階建以上						
		3階建	外壁・軒裏: 1時間準耐火構造 屋根: 30分準耐火構造※4 *各種条件をみたさないものは耐火構造となります			外壁: 耐火構造 屋根: 30分 耐火構造		
		1・2階建	外壁: 準防火構造※5 屋根: 不燃同等※3		外壁・軒裏: 45分準耐火構造 (2階の用途が300㎡以上)※1 屋根: 30分準耐火構造※4		外壁: 防火構造 屋根: 不燃同等※3	
	住宅	防火地域 (法61条)	3階建以上					
			1・2階建	— 外壁・軒裏: 45分準耐火構造※1 屋根: 30分準耐火構造※4				
準防火地域 (法61条)		4階建以上						
		3階建	(準防3階建て仕様) 外壁・軒裏: 防火構造※2 屋根: 防火被覆		外壁・軒裏: 45分準耐火構造※1 屋根: 30分準耐火構造※4		外壁: 耐火構造 屋根: 30分耐火構造	
		1・2階建	外壁・軒裏: 防火構造 屋根: 不燃同等※3		外壁・軒裏: 45分準耐火構造※1 屋根: 30分準耐火構造※4			
法22条 区域		4階建以上	外壁: 耐火構造 屋根: 30分耐火構造					
		3階建	外壁: 準防火構造※5、※6 屋根: 不燃同等※3		外壁・軒裏: 防火構造※6 屋根: 不燃同等※3			
		1・2階建	外壁: 準防火構造※5 屋根: 不燃同等※3		外壁・軒裏: 防火構造※6 屋根: 不燃同等※3			

※1 準耐火建築物のイ準耐・ロ準耐に適合する構造とすることもできます。
 ※2 「※2の防火構造」以外の1時間準耐火構造、45分準耐火構造、防火構造、準防火性能とあるのは、建築の延焼のおそれのある部分に限る要求性能です。
 ※3 「通常の火災を想定した火の粉による建築物の火災を防止するために屋根に必要な性能」もしくは「不燃材料で造るまたはふく」を示します。
 ※4 屋根を不燃材料でふき、室内側または直下の天井を防火被覆したものなどです。(建築基準法告示第1359号第五:P269参照)
 ※5 準防火構造の認定は取得していませんが、上位の性能である防火構造で対応可能です。
 ※6 高さ>16m、かつ階高>3階を超えるものは特殊な場合を除き、大規模建築物の制限を受け、外壁は耐火性能を有するものとなります。

● 軒裏に防火構造が求められる場合には、軒裏30分準耐火構造で対応します。

● 最新の法令をご確認のうえ、実際の要求性能については建築主事や確認審査機関にご確認ください。

11 参考資料

11-3 「建築基準法」の防耐火性能に関わる規定

5) 特殊建築物の防火基準(法27条、別表1、令115条の3~116条)

特殊建築物は、その用途、および建築延べ面積により求められる防耐火性能が異なります。

用途	主要構造部に必要とされる性能およびその外壁の開口部での防火設備で、大臣が定めた構造方法または認定を受けたものを設けなければならない。		耐火建築物としなければならない	耐火建築物または準耐火建築物としなければならない
	用途に供する階	用途に供する部分の床面積の合計	用途に使用する部分の床面積の合計(階)	用途に使用する部分の床面積の合計(数量)
(1) 劇場・映画館・演芸場	3階以上の階(※1)	客席部分 $\geq 200\text{m}^2$ 以上(※1) (屋外観覧席 $\geq 1,000\text{m}^2$ 以上(※1))	—	—
	主階が1階にないもの(※1)			
観覧席・公会堂・集会場	3階以上の階(※1)			
(2) 病院・診療所(患者の収容施設のあるもの)・ホテル・旅館・下宿・共同住宅・寄宿舎・児童福祉施設等(幼保連携型認定こども園を含む)	3階以上の階(※1)	2階部分 $\geq 300\text{m}^2$ 以上(※2) ただし、病院・診療所にあつては、2階に患者の収容施設のある場合	—	—
(3) 学校・体育館・博物館・美術館・図書館・ポーリング場・スキー場・スケート場・水泳場・スポーツ練習場	3階以上の階(※1)	用途に供する部分 $\geq 2,000\text{m}^2$ (※2)	—	—
(4) 百貨店・マーケット・展示場・キャバレー・カフェ・ナイトクラブ・バー・ダンスホール・遊技場・公衆浴場・待合・料理店・飲食店または物品販売業を営む店舗(>10 m^2)	3階以上の階(※1)	2階部分 $\geq 500\text{m}^2$ 以上(※2)	—	—
		用途に供する部分 $\geq 3,000\text{m}^2$ (※1)		
(5) 倉庫	—	—	3階以上の部分 $\geq 200\text{m}^2$ 以上	用途に供する部分 $\geq 1,500\text{m}^2$ 以上
(6) 自動車車庫・自動車修理工場・映画スタジオまたはテレビスタジオ	—	—	3階以上の階	用途に供する部分 $\geq 150\text{m}^2$ 以上 (ただし、主要構造部を不燃構造とした準耐火建築物とする)
(7) 令116条の表の数量以上の危険物の貯蔵場または処理場	—	—	—	全部

※1 建築基準法施行令110条2号の基準に適合するものとして、主要構造部等の構造方法が耐火構造(耐火建築物等)のものほか、地階を除く階数が3で、3階を共同住宅または学校等の用途に供するものであって、一定の要件に該当する場合に限って、1時間準耐火基準の準耐火構造による準耐火建築物とすることができます。(H27国交省告示253号、255号)

※2 建築基準法施行令110条1号の基準に適合するものとして、主要構造部等の構造方法が準耐火構造(耐火建築物または準耐火建築物)等のものを定めています。(H27国交省告示255号)

●3階を下宿・共同住宅・寄宿舎の用途に供する場合、①から⑤までの基準に適合する準耐火建築物とすることができます。

①主要構造部が1時間準耐火構造であること。

②原則として、各住戸などに避難上有効なバルコニーなどが設けられていること。

③3階の各住戸などの外壁面に道又は道に通ずる幅員4メートル以上の通路などに面する開口部が設けられていること。

④原則として、建築物の周囲に幅員3メートル以上の通路が設けられていること。

⑤3階の外壁の開口部など一定の開口部に、法令で定める防火設備が設けられていること。

センターサイディング
標準施工法

センターサイディング
基本納まり図

本体・付属部材
詳細図

付属部材加工図

センターサイディング
木造編

センターサイディング
鉄骨造 金属胴縁編

センターサイディング
鉄骨造 直張り編

センター化粧石膏板
標準施工法

センタールーフ
標準施工法

センタールーフ
納まり詳細図

参考資料

11 参考資料

11-3 「建築基準法」の防耐火性能に関わる規定

6) 準防火地域内木造3階建て建築物の設計基準(令136条の2)(準防戸建3階仕様)

■外壁の開口部の構造及び面積

- 隣地境界線などからの距離が、1m以内の部分にある外壁の開口部は、防火設備を設ける必要があります。ただし、開口面積が0.2㎡以内の換気口は防火設備を設ける必要はありません。
- 隣地境界線などまたは道路中心線からの距離が、5m以下の部分にある外壁の開口部は、それぞれの距離に応じて、開口部の面積の制限を受けます。

■外壁の構造

- 外壁の構造は、準耐火構造とするか、屋外側を防火構造とし、屋内側に下記の防火被覆を設ける必要があります。

■主要構造部

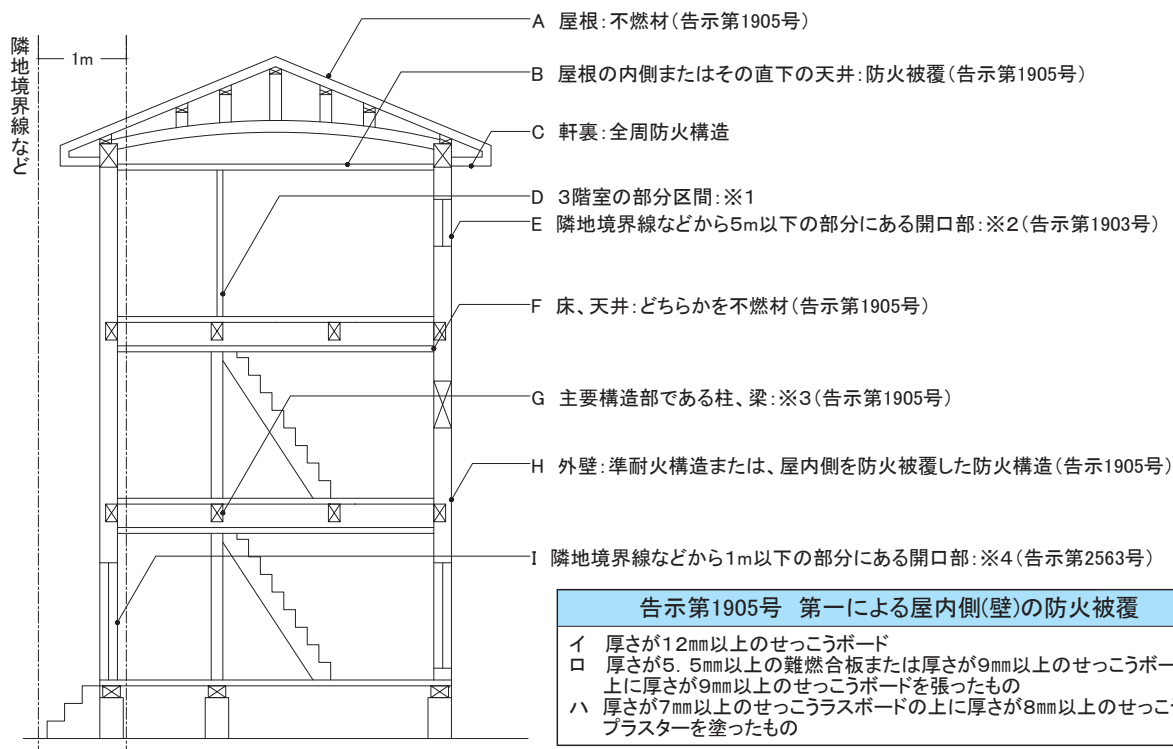
- 柱および梁の構造は、通常の火災において、建物全体が容易に倒壊するおそれのないよう、その方法および寸法の制限を受けます。

■床またはその直下の天井の構造

- 通常の火災時において、下の階から上階へ容易に延焼しないよう、防火上の措置について、最下階の床を除き定められています。

■屋根またはその直下の天井の構造

- 外壁と同様、室内側から通常の火災において、容易に炎および火熱が外部に噴出しないよう、防火上の措置について定められています。



※1 間仕切壁または戸(ふすま・障子その他これらに類するものを除く)で区画されています。

(通常のフラッシュ戸、間柱の入った壁であれば問題ありません)

※2 距離に応じて面積を制限する。延焼のおそれのある部分は防火設備とする必要があります。

※3 小径を12cm以上とするか、または防火上有効に被覆する必要があります。

※4 常時閉鎖式などの防火設備とする必要があります。

11 参考資料

11-3 「建築基準法」の防耐火性能に関わる規定

8) 建築物の内装制限(法35条の2、建令128条の3の2~129、平成12年建設省告示1439号)
建築物は、その用途、構造、および規模により内装制限の規定があります。

■内装制限一覧

用途・構造・規模区分	当該用途に供する部分の床面積の合計			内装制限		建築基準法施行令
	耐火建築物の場合	準耐火建築物の場合	その他建築物の場合	居室等	地上に通ずる主たる廊下・階段・通路	
A 劇場・映画館・演芸場・観覧場・公会堂・集会場	(客席) 400㎡以上	(客席) 100㎡以上			準不燃材料	129・① 128の4・①
B 病院・診療所(患者の収容施設のあるもの)・ホテル・旅館・下宿・共同住宅・寄宿舎・児童福祉施設等(幼保連携型認定こども園を含む)	(3階以上の合計) 300㎡以上	(2階部分)300㎡以上 (病院・診療所は、2階に患者の収容施設がある場合に限る)	200㎡以上	難燃材料 (3階以上の階に居室を有する建築物の当該用途に供する居室の天井については、準不燃材料とする)	同上	同上
C 百貨店・マーケット・展示場・キャバレー・カフェ・ナイトクラブ・バー・ダンスホール・遊技場・公衆浴場・待合・料理店・飲食店または物品販売業を営む店舗(10㎡以内を除く)	(3階以上の合計) 1,000㎡以上	(2階部分) 500㎡以上	200㎡以上		同上	同上
D 地階または地下工作物内の居室等で、A・B・Cの用途に供するもの		全 部		準不燃材料	同上	129・③ 128の4・①・三
E 自動車庫庫・自動車修理場		全 部		同上	同上	129・② 128の4・①・二
F 無窓の居室 (建基令128の3の2参照)		50㎡以上 (ただし、天井の高さが6mを超えるものを除く)		同上	同上	129・⑤ 128の3の2
G 大規模建築物 (階数および規模によるもの)	・階数が3以上で500㎡を超えるもの ・階数が2で1,000㎡を超えるもの ・階数が1で3,000㎡を超えるもの ただし、次のものを除く ①. 学校等(建基令126の2・①・二参照) ②. 100㎡以内ごとに防火区画され特殊建築物の用途に供しない居室で、耐火建築物又は主要構造部を準耐火構造とした準耐火建築物の高さが31m以下の部分にあるもの ③. ②欄の用途に供するもので高さが31m以下の部分			難燃材料	同上	128の4・②③ 129・④
H 火気使用室	住 宅: 階数が2以上の住宅で、最上階以外の階にある火気使用室 住宅以外: 火気使用室は全部 (ただし、主要構造部を耐火構造としたものを除く)			準不燃材料	—	129・⑥ 128の4・④
I 階数が11以上のもの	100㎡以内に防火区画された部分			※1		112・⑤
	200㎡以内に防火区画(防火設備の区画を除く)された部分			準不燃材料(下地とも)※		112・⑥
	500㎡以内に防火区画(防火設備の区画を除く)された部分			不燃材料(下地とも)※		112・⑦
J 地下街	100㎡以内に防火区画された部分			※2		128の3・①・三 128の3・⑤
	200㎡以内に防火区画(防火設備の区画を除く)された部分			準不燃材料(下地とも)※	(地下道)不燃材料(下地とも)	
	500㎡以内に防火区画(防火設備の区画を除く)された部分			不燃材料(下地とも)※		
K 避難・特別避難階段室 エレベーター乗降ロビー	全 部			不燃材料(下地とも)		123 129の13・③

※1 I欄の規定では、100㎡以内に防火区画された部分については、使用材料の制限は記されていないが、建築物の階数および規模によるG欄の規定が適用される。

※2 J欄の規定では、100㎡以内に防火区画された部分については、使用材料の制限は記されていないが、A・B・C欄の用途に供する部分については、D欄の規定が適用される。

注1) 内装制限の適用を受ける建築物の部分は、居室および居室から地上に通ずる主たる廊下、階段その他の通路の壁および天井(天井がない場合は屋根)の室内に面する部分である。ただし、A・B・C・G・I・J欄の※については、規定に該当する居室の壁の床面からの高さが1.2m以下の部分には適用されない。(建基令129・①、112・⑥)

2) Bのうち耐火建築物または主要構造部を準耐火構造とした準耐火建築物にあっては、100㎡(共同住宅の住戸にあっては200㎡)以内ごとに防火区画された部分を除く。

3) Bのうち1時間準耐火構造の準耐火建築物の下宿、共同住宅または寄宿舎の用途に供する部分は、耐火建築物の部分とみなす。

4) 内装制限の規定で、2以上の規定に該当する建築物の部分には、最も厳しい規定が適用される。

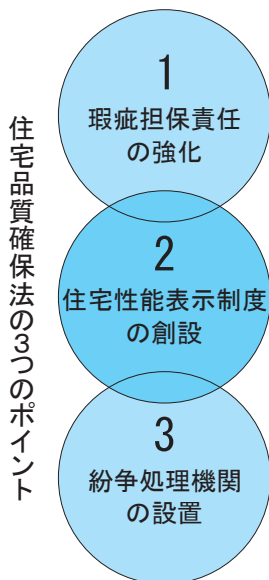
5) スプリンクラー設備、水噴霧消火設備、泡消火設備その他これらに類するもので、自動式のものおよび建基令126の3の規定に適合する排煙設備を設けた建築物の部分については、内装制限の規定は適用されない。(建基令129・⑦)

6) I・J欄の規定について、スプリンクラー設備、水噴霧消火設備、泡消火設備その他これらに類するものを設けた部分については、防火区画の床面積は2倍まで緩和される。(建基令112・①)

11 参考資料

11-4 「住宅の品質確保の促進等に関する法律」の概要

1) 住宅の品質確保の促進等に関する法律(住宅品質確保法)の骨子



1 瑕疵担保責任の強化

請負者(住宅会社や売り主)は、引き渡した新築住宅に瑕疵があった場合、10年間はそれに対して責任を負い、補修や賠償金の支払いに応じなければなりません。

■瑕疵担保責任の対象となる部分

構造耐力上主要な部分

①住宅の基礎、基礎杭 ②壁 ③柱 ④小屋組
⑤土台 ⑥筋かいなどの斜材 ⑦床版 ⑧屋根版
⑨梁・桁などの横架材

雨水の浸入を防ぐ部分

①屋根の仕上げ・下地など
②外壁の仕上げ・下地など

2 住宅性能表示制度の創設

住宅の性能を表示するための共通のルール(日本住宅性能表示基準・評価方法基準)を設け、第三者機関である「登録住宅性能評価機関」がその基準に基づいて性能を検査・評価します。ただし、これは検査した際の性能を評価したものであり、性能を10年間保証するというものではありません。また、性能評価を受ける・受けないは契約当事者の任意です。

性能表示される 10分野34項目

①構造の安定 ②火災時の安全 ③劣化の軽減
④維持管理への配慮 ⑤温熱環境・エネルギー消費量
⑥空気環境 ⑦光・視環境 ⑧音環境
⑨高齢者などへの配慮 ⑩防犯

3 紛争処理機関の設置

住宅性能評価書が交付された住宅に万トラブルが発生した場合、その紛争に関する処理を斡旋・調停・仲裁する「指定住宅紛争処理機関」が設置されました。今までは多大な費用と長い期間を要していた紛争が、容易に迅速にそして安価に処理できる道が開かれました。

2) 日本住宅性能表示基準のニチハ対応品

■火災時の安全について

戸建てまたは共同住宅(延焼のおそれのある部分:開口部以外)

部位	等級	耐火時間	ニチハ対応商品	下地構成	防・耐火認定番号
外壁	4	60分	COOL、モエンエクセラード21、モエンエクセラード18、モエンエクセラード16(Fu-ge PREMIUM、グラスベック60 PREMIUM、Fu-ge、グラスベック60、オペリア60、無塗装品)	木造下地・不燃下地	1時間準耐火構造 QF060BE-9225
	3	45分	COOL、モエンエクセラード、モエンS、モエンM、モエンW	木造下地・不燃下地	45分準耐火構造 QF045BE-9226
			センターサイディング(45分準耐火構造対応品)		各認定番号による
2	20分以上	COOL、モエンエクセラード、モエンS、モエンM、モエンW	木造下地・不燃下地	防火構造 PC030BE-9201(木造下地) PC030BE-9202(不燃下地)	
		センターサイディング		各認定番号による	
軒裏	4	60分	軒天18	木造下地	1時間準耐火構造 軒裏 QF060RS-9121
	3	45分	軒天14	木造下地	45分準耐火構造 軒裏 QF045RS-9122、0053
	2	20分以上	軒天12	木造下地	30分準耐火構造 軒裏 QF030RS-0154、0155、0156、0157

■劣化の軽減について

構造躯体などに使用する材料の交換など大規模な改善工事を必要とするまで期間を伸長するための必要な対策

劣化対策等級(構造躯体)	ニチハ 外壁通気構法 関連商品・部材
3 通常想定される気象条件および維持管理下で概ね75~90年	通気できる構造となっている外壁 ・モエン透湿防水シートI、モエン透湿防水シートIII、モエン遮熱シートII ・下地用木胸縁(現場調達品または住宅会社様支給品) ・通気土台水切 通気見切縁 ・オーバーハング部材 ・センターサイディング ・換気棟セット ・L型通気材
2 通常想定される気象条件および維持管理下で概ね50~60年	

※等級3と等級2の違いについては、住宅品質確保法の条文をご確認ください。

11 参考資料

11-4 「住宅の品質確保の促進等に関する法律」の概要

■住宅性能表示制度における評価項目

凡例 ●:必須評価事項、○:選択評価事項、※:共同住宅および長屋のみ適用

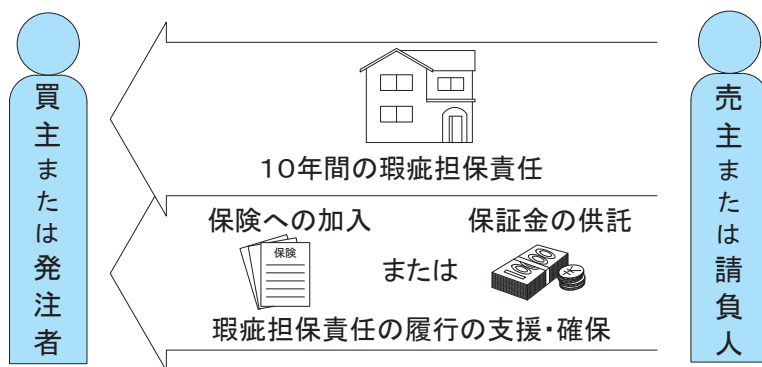
性能表示項目	新築住宅	
	一戸建て	共同住宅など
構造の安定に関すること	1-1 耐震等級(構造躯体の倒壊など防止)	● ●
	1-2 耐震等級(構造躯体の損傷防止)	○ ○
	1-3 その他(地震に対する構造躯体の倒壊など防止および損傷防止)	● ●
	1-4 耐風等級(構造躯体の倒壊など防止および損傷防止)	○ ○
	1-5 耐積雪等級(構造躯体の倒壊など防止および損傷防止)	○ ○
	1-6 地盤または杭の許容支持力などおよびその設定方法	● ●
	1-7 基礎の構造方法および形式など	● ●
火災時の安全に関すること	2-1 感知警報装置設置等級(自住戸火災時)	○ ○
	2-2 感知警報装置設置等級(他住戸など火災時)	- ○
	2-3 避難安全対策(他住戸など火災時・共用廊下)	- ○
	2-4 脱出対策(火災時)	○ ○
	2-5 耐火等級(延焼のおそれのある部分(開口部))	○ ○
	2-6 耐火等級(延焼のおそれのある部分(開口部以外))	○ ○
	2-7 耐火等級(界壁および界床)	- ○
劣化の軽減に関すること	3-1 劣化対策等級(構造躯体など)	● ●
維持管理・更新への配慮に関する事	4-1 維持管理対策等級(専用配管)	● ●
	4-2 維持管理対策等級(共用配管)	- ●
	4-3 更新対策(共用排水管)	- ●
	4-4 更新対策(住戸専用部)	- ○※
温熱環境・エネルギー消費量に関すること	5-1 断熱等性能等級	● ●
	5-2 一次エネルギー消費量等級	● ●
空気環境に関すること	6-1 ホルムアルデヒド対策(内装および天井裏)	○ ○
	6-2 換気対策(居室の換気対策)	○ ○
	6-2 換気対策(局所の換気対策)	○ ○
光・視環境に関すること	6-3 室内空気中の化学物質の濃度など	○ ○
	7-1 単純開口率	○ ○
音環境に関すること	7-2 方位別開口比	○ ○
	8-1 重量床衝撃音対策	- ○
	8-2 軽量床衝撃音対策	- ○
	8-3 透過損失等級(界壁)	- ○
高齢者などへの配慮に関すること	8-4 透過損失等級(外壁開口部)	○ ○
	9-1 高齢者など配慮対策等級(専用部分)	○ ○
	9-2 高齢者など配慮対策等級(共用部分)	- ○
防犯に関すること	10-1 開口部の侵入防止対策	○ ○

(令和4年10月1日 施行)

11 参考資料

11-5 「特定住宅瑕疵担保責任の履行の確保等に関する法律」の概要

- 1) 特定住宅瑕疵担保責任の履行の確保等に関する法律(住宅瑕疵担保履行法)とは
 新築住宅については既に2000(平成12)年4月施行の「住宅品質確保法」(住宅の品質確保の促進等に関する法律)に基づき、売主および請負人に対し、10年間の瑕疵担保責任を負うことが義務付けられています。ところが、2005(平成17)年11月に構造計算書偽造問題が発覚すると、こうした法制度だけでは消費者保護として不十分であり、売主や請負人の財務状況によっては義務化された責任が果たされない場合もあることが明らかになりました。そこで、国土交通省では対応策を講ずるべく検討を開始し、建築確認・検査の精度、建築士制度の見直しとともに、住宅の売主などの瑕疵担保責任履行のための措置の充実・強化についても審議され、法整備が行われました。
- 2006(平成18)年以降、構造計算書偽造問題などに係わる法改正が多数施行されていますが、なかでも義務付けられている売主や請負人の瑕疵担保責任をいかに実現するかが大きな課題でした。実際に瑕疵担保責任として補修などを行うためには、売主や請負人にそのための資力が必要です。そこで、住宅品質確保法で定められた10年間の瑕疵担保責任の履行を実現するために裏付けとなる資力確保を義務化する法律として「特定住宅瑕疵担保責任の履行の確保等に関する法律(住宅瑕疵担保履行法)」が制定されています。



2 売主などが瑕疵担保責任を履行します

万が一、売主または請負人が倒産などにより瑕疵の補修などができなくなった場合でも、保証金の還付または保険金により、必要な費用が支払われます。

1 資力確保が義務付けに！

2009(平成21)年10月から、新築住宅の売主または請負人には、保証金の供託または保険への加入が義務付けられます。

2) 住宅瑕疵担保履行法の対象となる住宅

2009(平成21)年10月1日以降に引き渡される新築住宅は、戸建、マンション、賃貸まで、すべてが対象となります。

同法の対象となるのは、建築物のうち「住宅」だけです。「住宅」とは、住宅品質確保法でいう、「人の居住の用に供する家屋または家屋の部分」をさします。したがって、戸建住宅や分譲マンションはもちろん、賃貸住宅も対象となります。一方、事務所・倉庫・物置・車庫は「住宅」ではないため、対象となりません。



対象

<新築の定義>

- 住宅品質確保法第2条第2項に規定する「新築住宅」
- ・建設工事完了の日から起算して1年以内のもの
 - ・人の居住の用に供したことの無いもの

<住宅の定義>

- 住宅品質確保法第2条第1項に規定する「住宅」
- ・人の居住の用に供する家屋または家屋の部分(店舗併用住宅も含まれる)



対象外

- ・竣工後、1年を経過した住宅
- ・一旦、居住後に転売された住宅
- ・住宅ではない建物(倉庫・物置・車庫など)

11 参考資料

11-5 「特定住宅瑕疵担保責任の履行の確保等に関する法律」の概要

3) 瑕疵担保責任: 義務付けされる資力確保の範囲(部位)

住宅品質確保法で定める10年の瑕疵担保責任の範囲と同じ、「構造耐力上主要な部分」と「雨水の浸入を防止する部分」が対象です。

同法の「特定住宅瑕疵担保責任」とは、住宅品質確保法で定められた新築住宅に関する「瑕疵担保責任」を言います。これは、新築住宅の買主または発注者の保護のために、住宅のうち特に重要な部分について10年間の瑕疵担保責任を義務付けるものです。なお、特定瑕疵担保責任を契約により、買主または発注者に不利な内容に変更することはできません。

■ 構造耐力上主要な部分

住宅の基礎、基礎杭、壁、柱、小屋組、土台、斜材(筋かい、方づえ、火打材、その他これらに類するものをいう)、床版、屋根版または横架材(梁・桁、その他これらに類するものをいう)で、当該住宅の自重もしくは積載荷重、積雪、風圧、土圧もしくは水圧または地震、その他の振動もしくは衝撃を支えるものとする。

■ 雨水の浸入を防止する部分

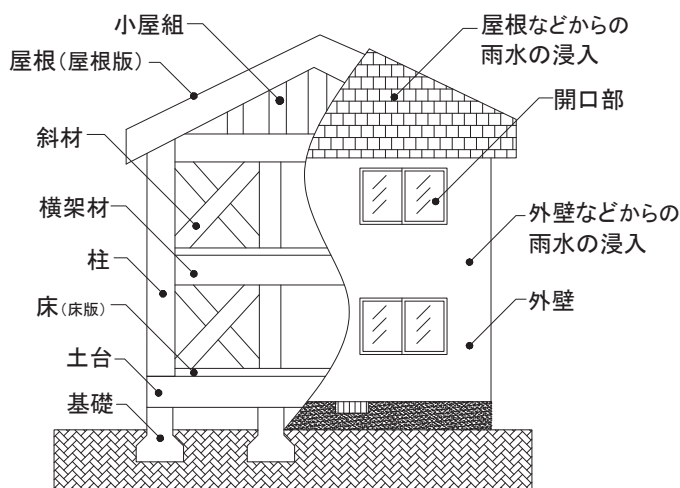
- ① 住宅の屋根もしくは外壁またはこれらの開口部に設ける戸、枠、その他の建具。
- ② 雨水を排除するための住宅に設ける排水管のうち、当該住宅の屋根もしくは外壁の内部または屋内にある部分。

■ 期間

新築住宅の引き渡しから10年間。

＜木造(在来軸組工法)の戸建住宅(例)＞

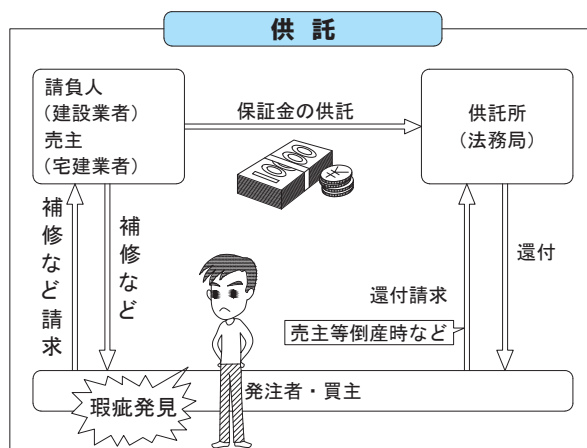
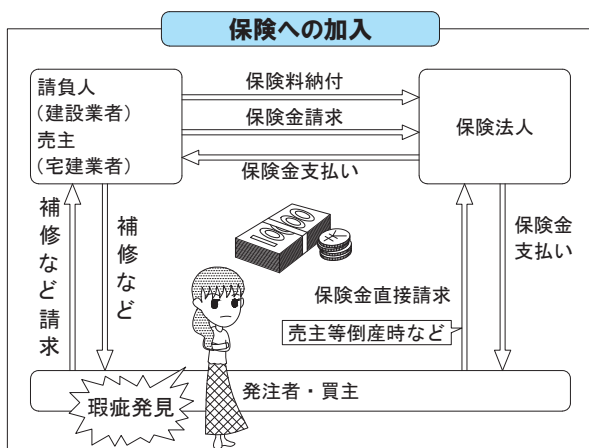
2階建ての場合の骨組み(小屋組・軸組・床組)などの構成



4) 資力確保の2つの方法 <供託> <保険>

資力確保の手段は、「供託」か「保険」のいずれかを選択します。

補修や損害賠償金の支払いが、確実に履行されるための資力確保には、2つの手段があります。1つは「供託」という手段で、供給した新築住宅の補修に要する費用などの支払いが履行できるように、過去の供給戸数に応じて算定された金額の現金などを供託所に預け置くものです。もう1つは「保険」で、同法に基づき国土交通大臣が指定する住宅瑕疵担保責任保険法人との間で、瑕疵が判明した場合に保険金を支払うことを約した保険契約を締結するものです。新築住宅の売主や請負人は、このいずれかの手段を使い、資力確保措置を講じなければなりません。



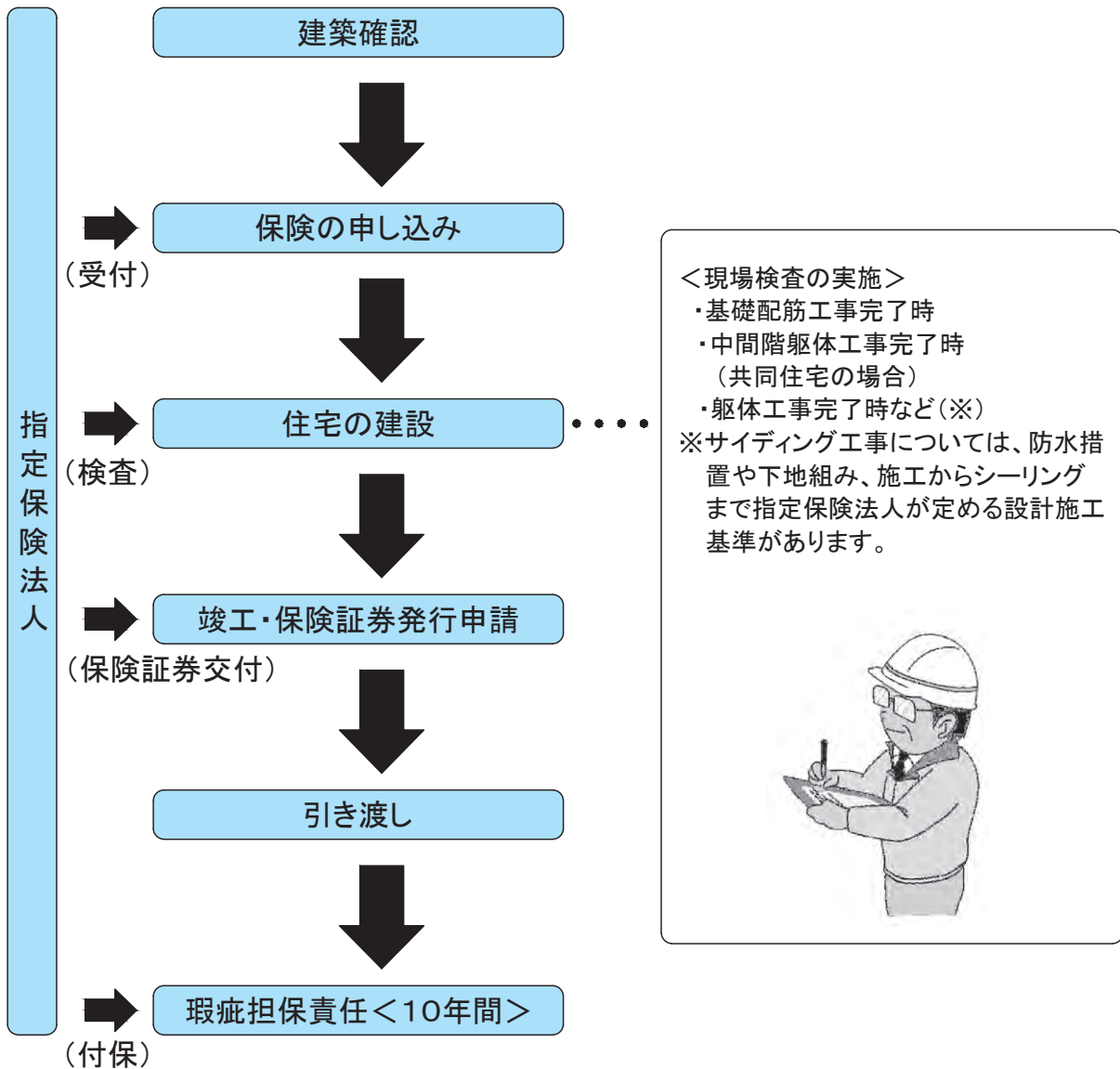
11 参考資料

11-5 「特定住宅瑕疵担保責任の履行の確保等に関する法律」の概要

5) 「保険」の仕組みと中間検査

「住宅瑕疵担保責任保険法人」が運営する保険制度の利用で、いざというときに保険金が支払われる仕組みです。適切な保険の運営のためにも、現場での検査は不可欠なため、保険制度の利用にあたり、個別の「現場検査(中間検査)」を行います。

同法では、新築住宅を供給する建設業者や宅建業者に対して保険や供託による資力確保を義務付けており、供託を行わない場合には、保険により資力を確保する必要があります。具体的には、国土交通大臣が指定した「住宅瑕疵担保責任保険法人(指定保険法人)」との間で、瑕疵担保責任の履行などに対して、保険金を支払うこととする保険契約を締結するものです。この保険制度では、適切な保険運営を行うため、事業者は保険に加入する際に、基礎工事や躯体工事などの施工段階で指定保険法人の検査を受ける必要があります。そのため、保険を利用する場合には、個々の住宅ごとに保険料などを支払い、着工前から手続きを始めなければなりません。



11 参考資料

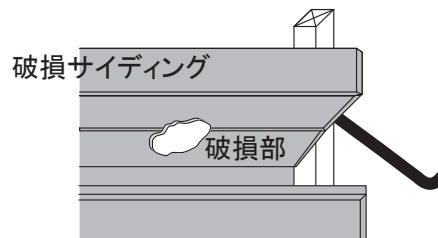
11-6 センターサイディングの補修方法

＜センターサイディングを部分的に張り替える場合＞

センターサイディングの表面がへこむ、穴があくなどした場合、下記方法で部分的に張り替えることが可能です。

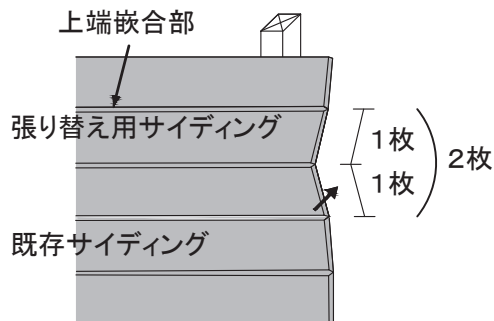
工程①

破損したセンターサイディングを金バサミ、ジグソーなどで切断し、センターサイディングの内側から外側へ中央部を「くの字」に曲げるようにして外します。



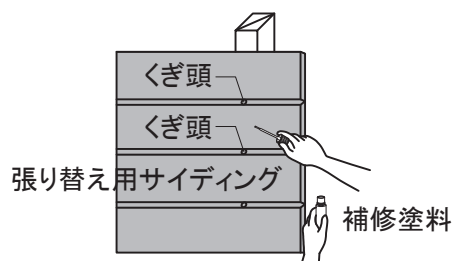
工程②

張り替える新しいセンターサイディングの上部嵌合部を嵌合させ、その部分を若干外に向けて「くの字」に張り出させながら、既存下部センターサイディングの上部嵌合部に落とし込んで嵌合させます。



工程③

張り替えたセンターサイディングの上部を表面から釘留めし、補修塗料で釘頭を補修します。



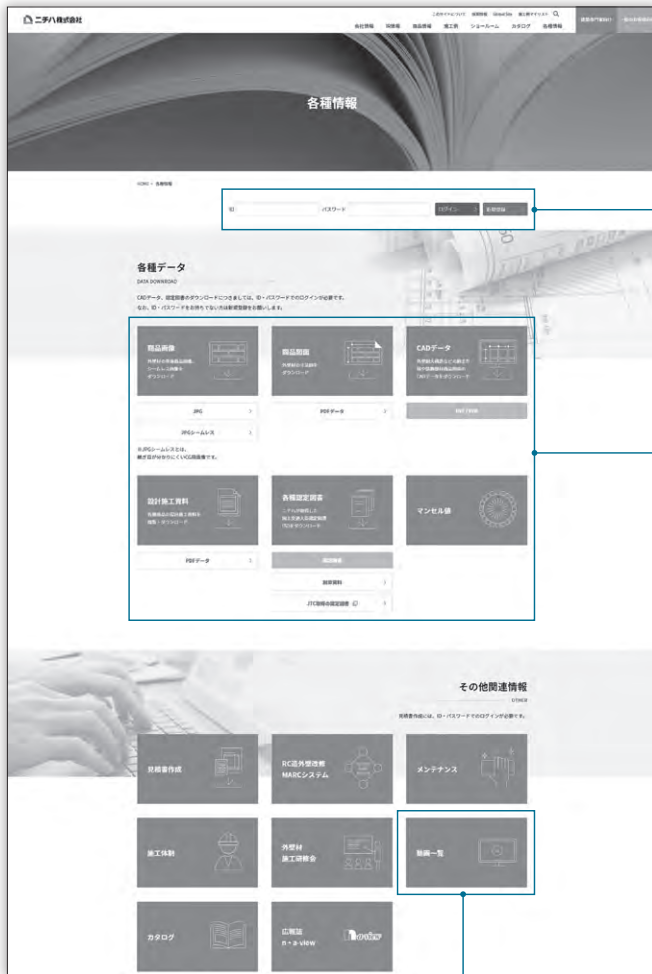
ホームページ のご案内

ニチハのホームページでは、最新の商品情報や施工例の紹介はもちろん
プレゼン、確認申請などに必要なCADデータ、認定図書、マンセル値などの各種情報提供を行っています。

※CADデータ、認定図書のダウンロードにつきましては、弊社発行のID・パスワードでのログインが必要です。
ID・パスワードをお持ちでない方は新規登録をお願いいたします。



←スマホ、タブレットからもご覧いただけます。



各種ダウンロード

商品画像、商品図面、CADデータ、設計施工資料、認定図書
のデータがダウンロードできます。

各種認定図書

「認定図書」ページで認定番号をクリックすると、確認申請に
必要な認定図書がダウンロードできます。



CADデータ

CAD図面のDXF/PDFデータを、閲覧・ダウンロードでき
ます。

品名	DXF	PDF
基本構成図	15090001	1533001
一部部	1706001	1509001
左右緑色部	1453001	1263001
出風部	1283001	1548001
入風部	1796001	1322001
出風部	1335001	1289001
入風部	1722001	1259001
上下緑色部	1539001	1249001
開口部	1573001	1319001
軒天部	1587001	1258001
オーバーハング部	1253001	1294001

動画を見る

ニチハ商品の標準施工法を、動画でご覧いた
できます。

スマホ、タブレットからも
ご覧いただけます。



設計施工資料PDFデータ

設計施工資料集PDFデータを、閲覧・ダウ
ンロードできます。

スマホ、タブレットからも
ご覧いただけます。



品名	ページ	枚数	発行年	ダウンロード	PDFダウンロード
認定品目一覧(2023年)	6-4	2238枚	2023年発行	ダウンロード	PDFダウンロード
モエ工標準施工法	3-6	1738枚	2023年発行	ダウンロード	PDFダウンロード
外装標準施工法	2-1-14	13,000枚	2023年発行	ダウンロード	PDFダウンロード
標準仕様集(2023年)	2-1-15	12,200枚	2023年発行	ダウンロード	PDFダウンロード
標準仕様集(2022年)	1-1-15	11,000枚	2022年発行	ダウンロード	PDFダウンロード
アクリル	2-2-123	1,070枚	2023年発行	ダウンロード	PDFダウンロード
防水	2-2-144	4,100枚	2023年発行	ダウンロード	PDFダウンロード
標準仕様集	1-1-15	12,348枚	2023年発行	ダウンロード	PDFダウンロード

ショールームのご案内

建物の外装に関する商品を豊富に展示しているニチハのショールーム。
 実際に見たり、手にふれたりしながら、デザインや色調、質感などをご確認いただけます。
 また、具体的なコーディネート例も展示しておりますので、
 イメージづくりにお役立てください。

開館時間 ●AM10:00～PM5:00
 休館日 ●毎週水曜日(広島ショールームを除く)
 5月GW・夏期休暇・年末年始

詳細につきましては、最寄りの各ショールームまでお問い合わせください。
 (特に、営業日、営業時間につきましては、必ずご確認ください。)



札幌ショールーム

札幌市東区北42条東15丁目
 1番1号(栄町ビル1F)
 TEL.011-753-7775
 FAX.011-753-6660



駐車場は当ビル裏(北側)の
 専用駐車場をご利用ください

仙台ショールーム

仙台市太白区越路28番8号
 TEL.022-395-6778
 FAX.022-265-8588



駐車場は敷地内の
 専用駐車場をご利用ください

東京ショールーム

東京都中央区日本橋一丁目
 15番1号(パーカービル1F)
 TEL.03-3548-0191
 FAX.03-3548-0202



【東京メトロ 銀座線・東西線 都営 浅草線】
 日本橋駅 D2出口よりすぐ

本社(名古屋)ショールーム

名古屋市中区錦二丁目
 18番19号
 (三井住友銀行名古屋ビル1F)
 TEL.052-220-5113
 FAX.052-220-5160



駐車場について詳しくは
 ニチハホームページにてご確認ください

大阪ショールーム

大阪市西区南堀江一丁目
 4番19号
 (なんばスミソウビル1F)
 TEL.06-6532-2265
 FAX.06-6532-2275



駐車場は新南堀江パーキングを
 ご利用ください

広島ショールーム

広島市南区京橋町1番23号
 (大樹生命広島駅前ビル1F)
 TEL.082-568-7608
 FAX.082-568-7609



駐車場は並び3軒隣のエルパークを
 ご利用ください

福岡ショールーム

福岡市博多区博多駅前
 四丁目2番1号
 (NEWNO・ザイマックス博多駅前1F)
 TEL.092-436-8099
 FAX.092-436-8087



八百治駅4駐車場をご利用ください

鹿児島ショールーム

鹿児島市与次郎二丁目
 4番35号
 (KSC鴨池ビル1F)
 TEL.099-813-4118
 FAX.099-813-4128



海つり公園

お客さま相談室のご案内

商品のお問い合わせ、ご相談は最寄りの弊社営業所または下記お客さま相談室にお問い合わせください。

TEL 052-220-5125 FAX 052-220-5157

受付時間 月～金 AM9:00～PM5:00(土・日曜日・祝日・5月GW・夏期休暇・年末年始を除く。)

カタログ、サンプルのご依頼は最寄りの弊社営業所にお問い合わせください。カタログはニチハホームページからもご依頼いただけます。

ニチハホームページ <https://www.nichiha.co.jp>

営業所一覧

■北日本営業部	〒982-0842	仙台市太白区越路28番8号	TEL(022)395-6776	FAX(022)713-7015
札幌営業所	〒007-0842	札幌市東区北42条東15丁目1番1号(栄町ビル)	TEL(011)753-7171	FAX(011)753-7333
青森営業所	〒030-0802	青森市本町一丁目2番20号(青森柳町ビル)	TEL(017)722-0080	FAX(017)722-0700
盛岡営業所	〒020-0021	盛岡市中央通一丁目11番17号(第二大通ビル)	TEL(019)654-5981	FAX(019)622-2369
秋田オフィス	〒010-0951	秋田市山王六丁目9番25号(山王SEビル)	TEL(018)864-6330	FAX(018)864-6323
仙台営業所	〒982-0842	仙台市太白区越路28番8号	TEL(022)395-6776	FAX(022)722-8688
郡山営業所	〒963-8017	郡山市長者三丁目4番1号(武田ビル)	TEL(024)938-2611	FAX(024)938-2360
■北関東営業部	〒370-0841	高崎市栄町4番11号(原地所第2ビル)	TEL(027)327-6669	FAX(027)327-6607
新潟営業所	〒950-0916	新潟市中央区米山三丁目1番63号(マルヤマビル)	TEL(025)245-6528	FAX(025)243-5649
高崎営業所	〒370-0841	高崎市栄町4番11号(原地所第2ビル)	TEL(027)327-6669	FAX(027)327-6607
宇都宮営業所	〒321-0953	宇都宮市東宿郷三丁目1番12号(吉田エレクトロニクスオフィスビル)	TEL(028)633-5222	FAX(028)633-1785
水戸営業所	〒310-0805	水戸市中央二丁目6番29号(AIG水戸ビル)	TEL(029)231-3145	FAX(029)231-0180
長野営業所	〒380-0823	長野市南千歳二丁目12番地1(長野セントラルビル)	TEL(026)225-6171	FAX(026)225-6174
■首都圏営業部	〒103-0023	東京都中央区日本橋本町一丁目6番5号(ツカモトビル)	TEL(03)5205-3913	FAX(03)5205-3922
大宮営業所	〒331-0812	さいたま市北区宮原町三丁目306番地1(第二坂本ビル)	TEL(048)652-2601	FAX(048)665-4388
※東京営業所	〒103-0023	東京都中央区日本橋本町一丁目6番5号(ツカモトビル)	TEL(03)5205-3913	FAX(03)5205-3922
※東京特販課	〒103-0023	東京都中央区日本橋本町一丁目6番5号(ツカモトビル)	TEL(03)5205-3915	FAX(03)5205-3919
特販第二部営業第一課	〒103-0023	東京都中央区日本橋本町一丁目6番5号(ツカモトビル)	TEL(03)5205-3914	FAX(03)5205-3918
特販第三部営業第一課	〒103-0023	東京都中央区日本橋本町一丁目6番5号(ツカモトビル)	TEL(03)5205-3916	FAX(03)5205-3918
西東京営業所	〒190-0023	東京都立川市柴崎町三丁目5番15号(OSビル)	TEL(042)525-7711	FAX(042)522-9077
千葉営業所	〒260-0021	千葉市中央区新宿二丁目5番19号(秋葉学園別館)	TEL(043)301-8533	FAX(043)301-8566
神奈川営業所	〒222-0033	横浜市港北区新横浜三丁目17番地2(友泉新横浜ビル)	TEL(045)475-1470	FAX(045)475-1475
相模原オフィス	〒252-0231	相模原市中央区相模原四丁目3番14号(相模原第一生命ビルディング)	TEL(042)730-5558	FAX(042)730-5559
■中部営業部	〒457-0823	名古屋市南区元塩町五丁目15番地の1	TEL(052)619-0591	FAX(052)619-0597
※名古屋営業所	〒457-0823	名古屋市南区元塩町五丁目15番地の1	TEL(052)619-0590	FAX(052)619-0597
※名古屋特販課	〒457-0823	名古屋市南区元塩町五丁目15番地の1	TEL(052)619-0595	FAX(052)619-0700
特販第三部営業第二課(名古屋)	〒457-0823	名古屋市南区元塩町五丁目15番地の1	TEL(052)619-0591	FAX(052)619-6512
静岡営業所	〒422-8061	静岡市駿河区森下町1番35号(静岡MYタワー)	TEL(054)283-3505	FAX(054)283-1990
金沢営業所	〒920-8201	金沢市鞍月東一丁目65番地(フォレスト26)	TEL(076)239-3136	FAX(076)239-3257
岐阜営業所	〒500-8847	岐阜市金宝町一丁目15番地(グレイチ岐阜金宝町ビル)	TEL(058)264-1797	FAX(058)264-2952
■関西営業部	〒550-0015	大阪市西区南堀江一丁目4番19号(なんばスミソウビル)	TEL(06)6532-2391	FAX(06)6532-4827
※大阪営業所	〒550-0015	大阪市西区南堀江一丁目4番19号(なんばスミソウビル)	TEL(06)6532-2391	FAX(06)6532-4827
※大阪特販課	〒550-0015	大阪市西区南堀江一丁目4番19号(なんばスミソウビル)	TEL(06)6532-3177	FAX(06)6532-6670
特販第二部営業第二課	〒550-0015	大阪市西区南堀江一丁目4番19号(なんばスミソウビル)	TEL(06)6532-3477	FAX(06)6532-4827
特販第三部営業第二課	〒550-0015	大阪市西区南堀江一丁目4番19号(なんばスミソウビル)	TEL(06)6532-3008	FAX(06)6532-4827
京都営業所	〒612-8419	京都市伏見区竹田北三ツ杭町11番地	TEL(075)634-3535	FAX(075)646-1880
姫路営業所	〒670-0964	姫路市豊沢町135番地(姫路大同生命ビル)	TEL(079)288-2891	FAX(079)288-2892
岡山営業所	〒700-0903	岡山市北区幸町8番29号(大樹生命岡山ビル)	TEL(086)232-1751	FAX(086)232-1757
広島営業所	〒732-0828	広島市南区京橋町1番23号(大樹生命広島駅前ビル)	TEL(082)568-7128	FAX(082)568-7129
松山営業所	〒790-0003	松山市三番町七丁目13番地13(ミツネビル)	TEL(089)935-8411	FAX(089)935-8501
高松オフィス	〒761-8075	高松市多肥下町1507番地14	TEL(087)813-7733	FAX(087)868-3066
■九州営業部	〒812-0011	福岡市博多区博多駅前四丁目2番1号(NEWNO・ザイマックス博多駅前)	TEL(092)472-1121	FAX(092)472-1126
福岡営業所	〒812-0011	福岡市博多区博多駅前四丁目2番1号(NEWNO・ザイマックス博多駅前)	TEL(092)472-1121	FAX(092)472-1126
特販第三部営業第二課(福岡)	〒812-0011	福岡市博多区博多駅前四丁目2番1号(NEWNO・ザイマックス博多駅前)	TEL(092)472-1121	FAX(092)472-1126
長崎オフィス	〒850-0028	長崎市勝山町37番地(長崎勝山37ビル)	TEL(095)820-3411	FAX(095)820-3622
北九州営業所	〒802-0081	北九州市小倉北区紺屋町9-1(明治安田生命小倉ビル)	TEL(093)521-1561	FAX(093)513-2811
熊本営業所	〒862-0976	熊本市中央区九品寺二丁目1番24号(ベストアメニティ熊本九品寺ビル)	TEL(096)371-2911	FAX(096)371-3210
鹿児島営業所	〒890-0062	鹿児島市与次郎二丁目4番35号(KSC鴨池ビル)	TEL(099)813-4117	FAX(099)813-4128
宮崎オフィス	〒880-0806	宮崎市広島二丁目5番16号(興亜宮崎ビル)	TEL(0985)35-7773	FAX(0985)28-2866
※■本社	〒460-8610	名古屋市中区錦二丁目18番19号(三井住友銀行名古屋ビル)	TEL(052)220-5114	FAX(052)220-3412
■お客さま相談室	受付時間	月～金 AM9:00～PM5:00 (土・日曜日・祝日・5月GW・夏期休暇・年末年始を除く。)	TEL(052)220-5125	FAX(052)220-5157

※ISO9001：2015（業系系建材の製造）認証部署

工事店または特約販売店

施工は専門施工が必要ですので、工事店・特約販売店様にご相談ください。